

あま市  
人権に関する市民意識調査  
— 報告書 —

平成 28 年 3 月

あ ま 市



# 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的 .....	1
2 調査対象 .....	1
3 調査期間 .....	1
4 調査方法 .....	1
5 回収状況 .....	1
6 調査結果の表示方法 .....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>2</b>
(1) あなたご自身のことについて .....	2
<b>【人権に関する市民意識調査票】</b> .....	<b>5</b>
(1) 人権意識について .....	5
(2) 女性の人権について .....	37
(3) 子どもの人権について .....	44
(4) 高齢者の人権について .....	51
(5) 障がいのある人の人権について .....	57
(6) 外国人の人権について .....	63
(7) エイズ患者・HIV（エイズウイルス）感染者、ハンセン病患者（元患者）の人権について .....	67
(8) インターネットによる人権侵害について .....	81
(9) 性的マイノリティ（少数者）の人々の人権について .....	89
(10) 家柄・血筋について .....	94
(11) 同和問題・部落差別について .....	105
(12) 人権尊重の取り組み及び啓発活動への参加、認知について .....	156
<b>【男女共同参画に関する市民意識調査票】</b> .....	<b>178</b>
(1) 男女の人権尊重について .....	178
(2) 家庭生活について .....	190
(3) 地域活動について .....	206
(4) 職業生活について .....	227
(5) 子育て・子どもの教育について .....	244
(6) 配偶者等からの暴力について .....	260
(7) セクシュアル・ハラスメントについて .....	276
(8) 社会参画について .....	292



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

平成 24 年度から 10 年間を計画期間とする「あま市人権尊重のまちづくり行動計画」や「あま市男女共同参画プラン」に基づき、人権尊重のまちづくりや男女共同参画社会の実現に取り組んでいます。このたび、この計画の中間年を来年迎えるにあたって、今までの施策の効果に対する検証など、今後より一層充実した取り組みを行っていく上での参考として、調査を実施するものです。

## 2 調査対象

あま市在住の 20 歳以上を無作為抽出

## 3 調査期間

平成 28 年 1 月 13 日（水）から平成 28 年 1 月 29 日（金）


## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000 通	1,285 通	42.8%

## 6 調査結果の表示方法

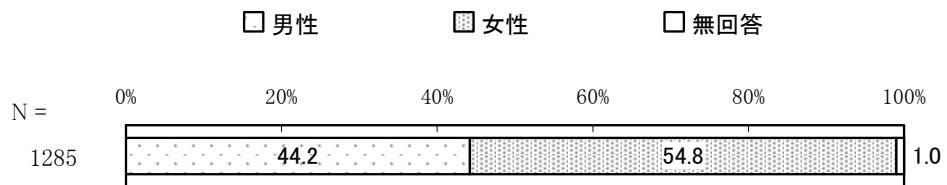
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

## II 調査結果

### (1) あなたご自身のことについて

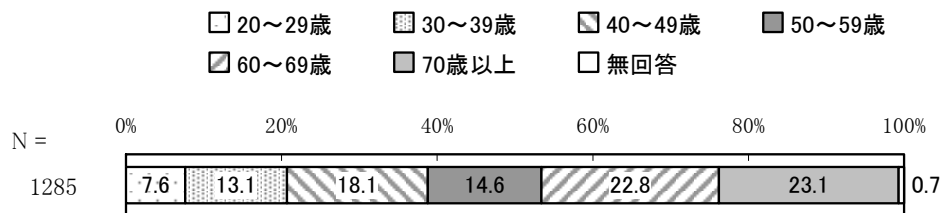
問1. あなたの性別をお答えください。(〇印1つ)

「男性」の割合が44.2%、「女性」の割合が54.8%となっています。



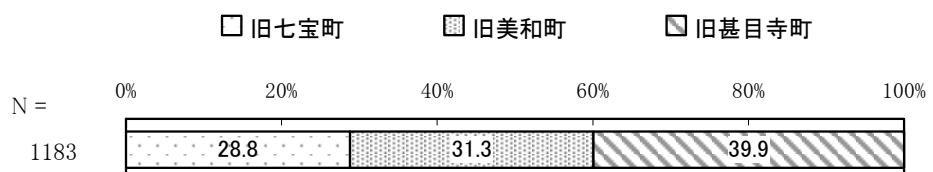
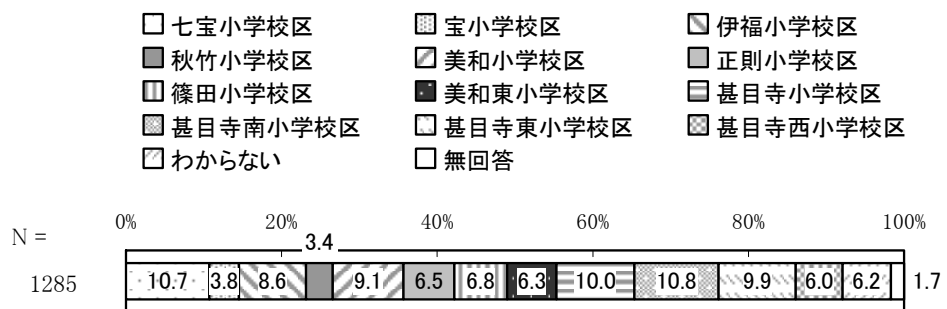
問2. あなたの年齢をお答えください。(平成27年9月1日現在)(〇印1つ)

「70歳以上」の割合が23.1%と最も高く、次いで「60～69歳」の割合が22.8%、「40～49歳」の割合が18.1%となっています。



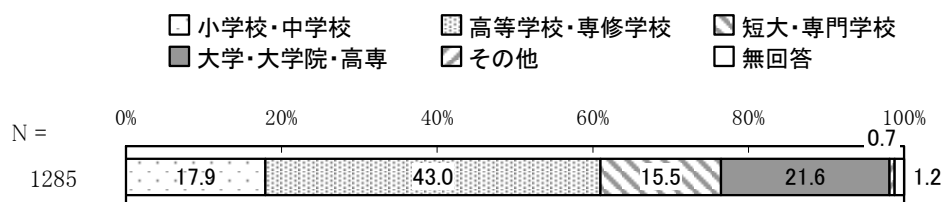
問3. あなたが現在お住まいの小学校区はどちらですか。(〇印1つ)

「甚目寺南小学校区」の割合が10.8%と最も高く、次いで「七宝小学校区」の割合が10.7%、「甚目寺小学校区」の割合が10.0%となっています。



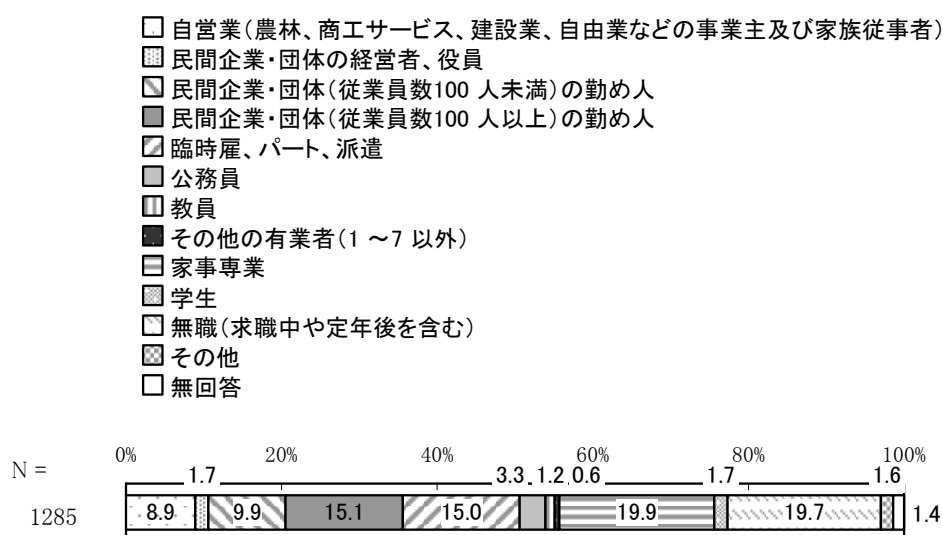
問4. あなたが最後に卒業された学校についてお答えください。また、在学中の方は在学している学校をお答えください。(〇印1つ)

「高等学校・専修学校」の割合が43.0%と最も高く、次いで「大学・大学院・高専」の割合が21.6%、「小学校・中学校」の割合が17.9%となっています。



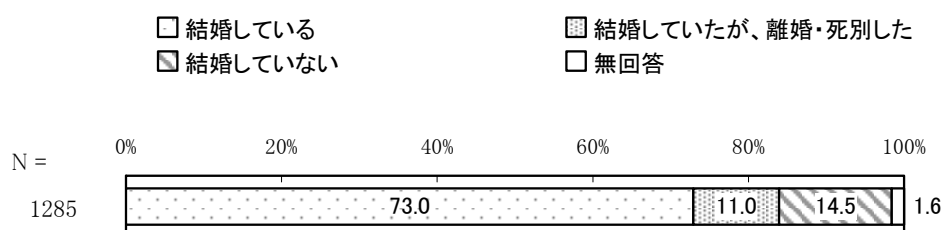
問5. あなたのご職業をお答えください。(〇印1つ)

「家事専業」の割合が19.9%と最も高く、次いで「無職(求職中や定年後を含む)」の割合が19.7%、「民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人」の割合が15.1%となっています。



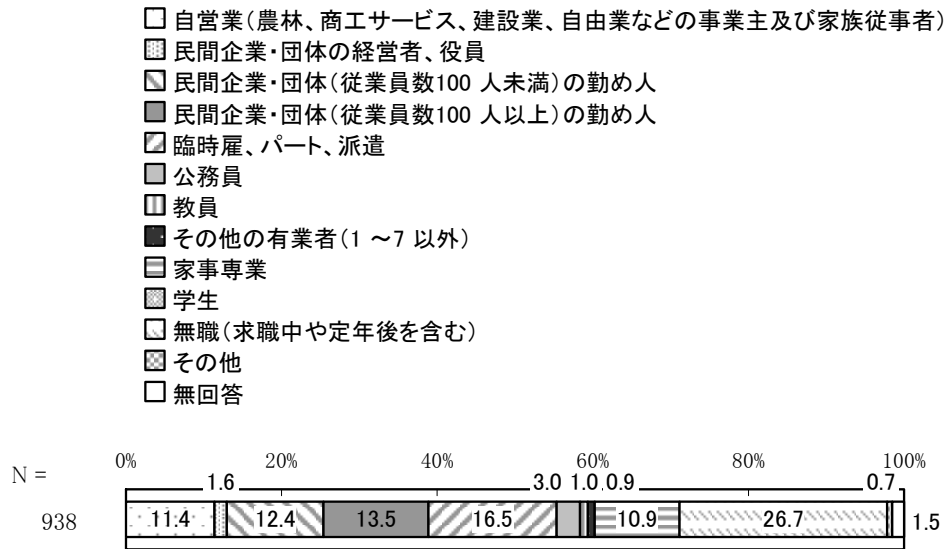
問6. あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(〇印1つ)

「結婚している」の割合が73.0%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が14.5%、「結婚していたが、離婚・死別した」の割合が11.0%となっています。



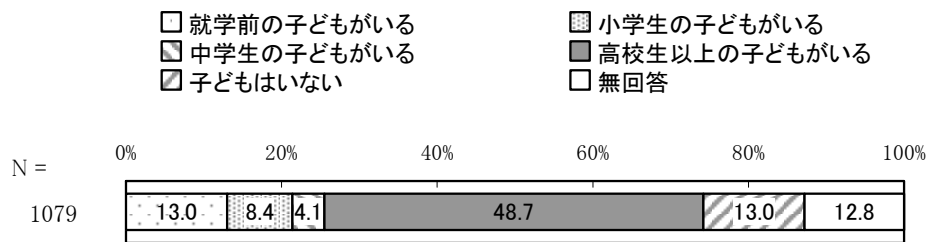
問7. (問6で「1. 結婚している」と回答した方に)  
配偶者の方のご職業をお答えください。(〇印1つ)

「無職（求職中や定年後を含む）」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「臨時雇、パート、派遣」の割合が 16.5%、「民間企業・団体（従業員数 100 人以上）の勤め人」の割合が 13.5%となっています。



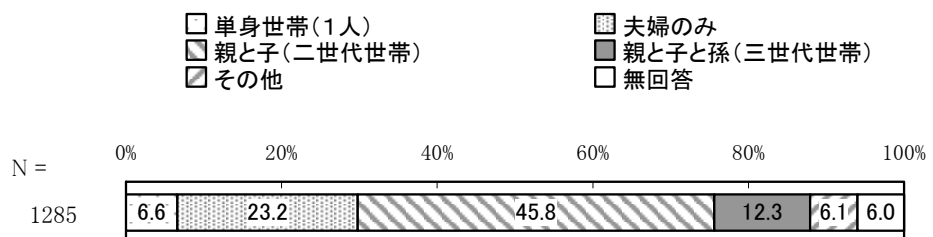
問8. あなたにはお子さん(同居していないお子さんを含む)がいますか。一番下(末子)のお子さんの学齢時でお答えください。(〇印1つ)

「高校生以上の子どもがいる」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「就学前の子どもがいる」、  
「子どもはいない」の割合がともに 13.0%となっています。



問9. あなたと同居しているご家族の構成についてお答えください。(〇印1つ)

「親と子(二世帯世帯)」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が 23.2%、  
「親と子と孫(三世帯世帯)」の割合が 12.3%となっています。





## 【人権に関する市民意識調査票】

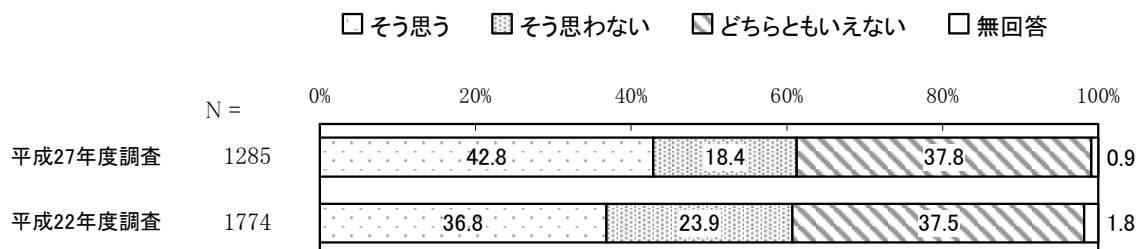
### （１）人権意識について

日本国憲法では、すべての国民は法の下に平等であり、生命、自由及び幸福追求に対する権利について保障しています。このような基本的人権に関する次の設問について、あなたの考えや感じていることをお答えください。

#### 問 10. 今の日本は、基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。（○印1つ）

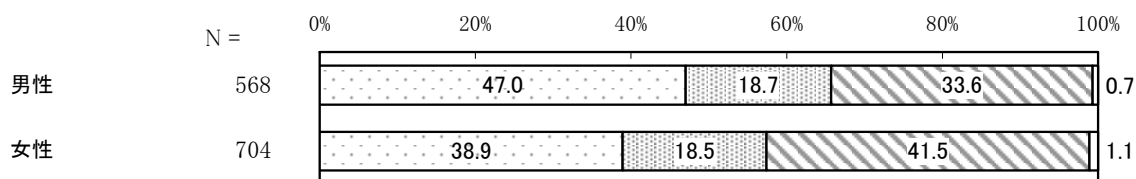
「そう思う」の割合が 42.8% と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 37.8%、「そう思わない」の割合が 18.4% となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「そう思わない」の割合が 5.5 ポイント減少しています。



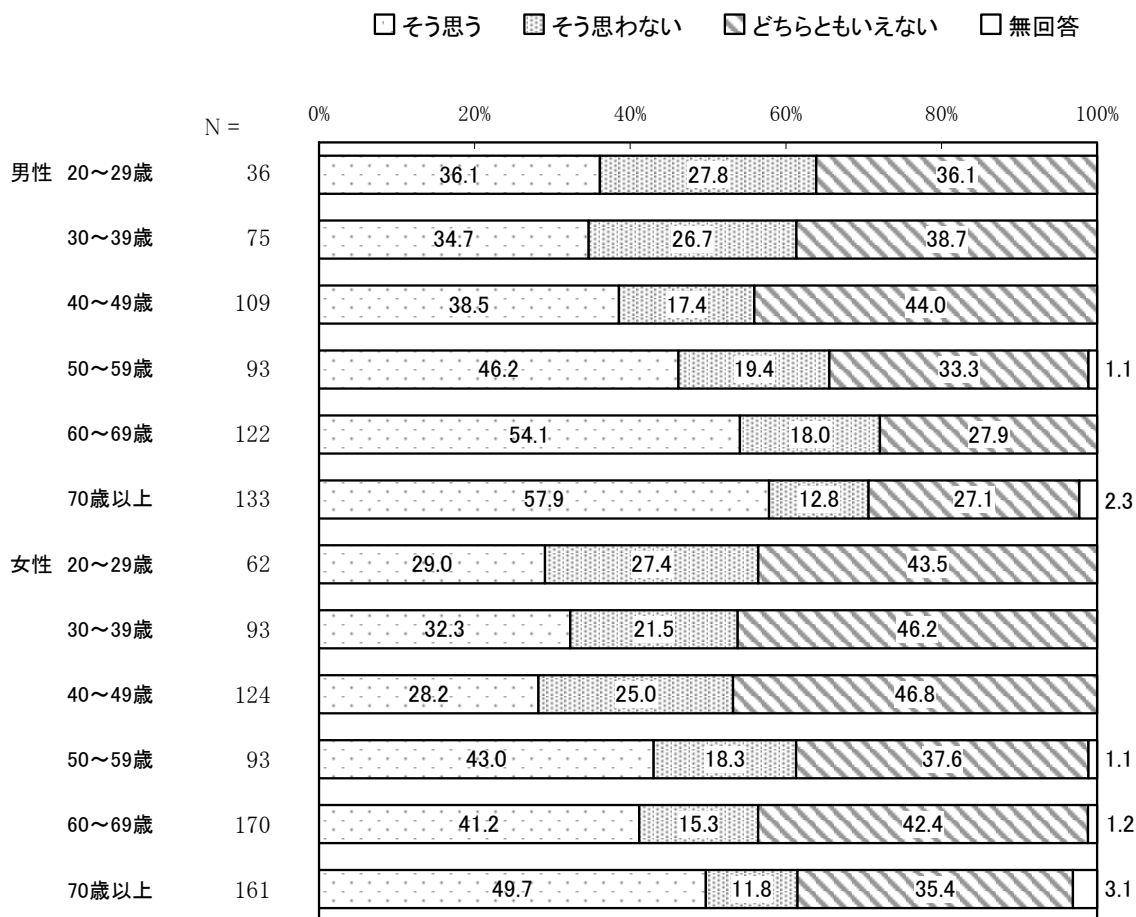
### 【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「そう思う」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



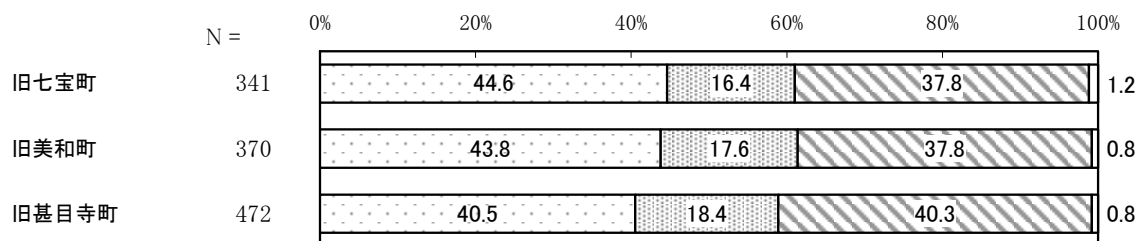
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性で年齢が高くなるにつれ、「そう思う」の割合が高くなる傾向にあります。



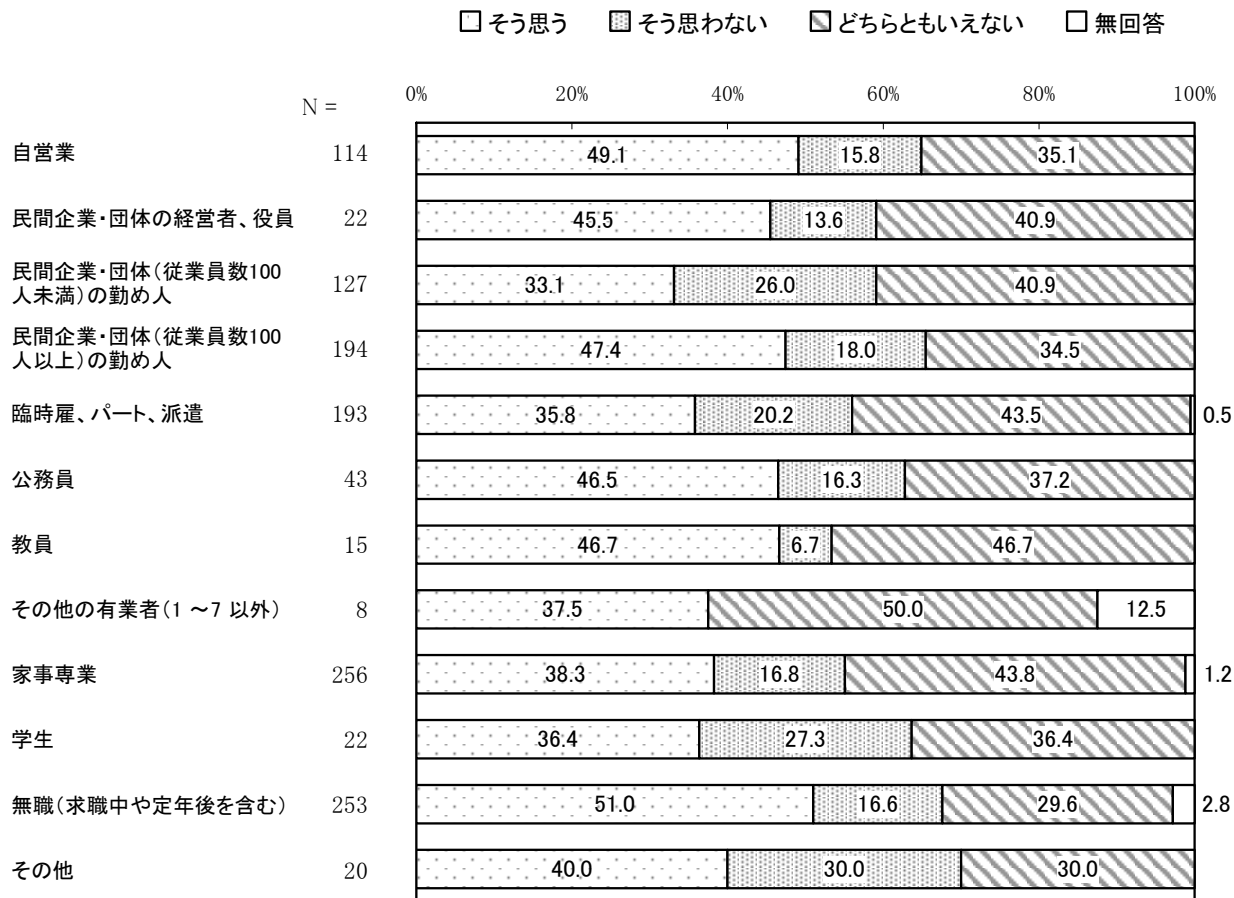
### 【居住地区別】

居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



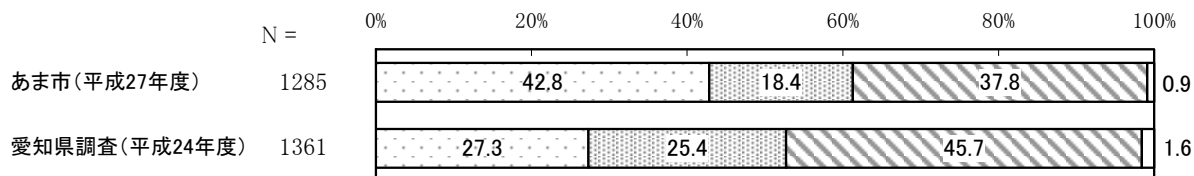
### 【職業別】

職業別でみると、無職（求職中や定年後を含む）で「そう思う」の割合が高くなっています。



### 【愛知県調査との比較】

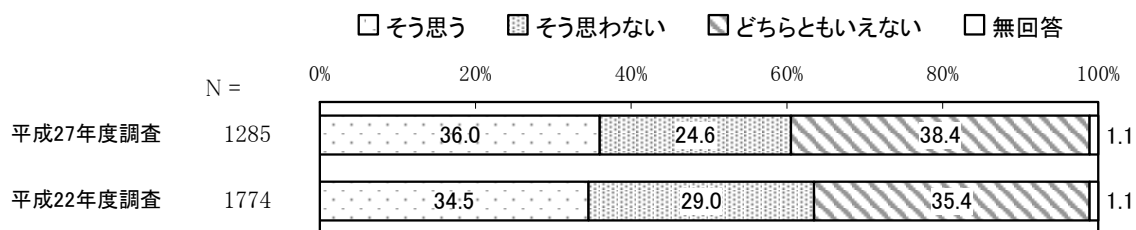
愛知県調査と比較すると、「そう思う」の割合が15.5ポイント高くなっています。



問 11. 国民（市民）一人ひとりの人権意識は、10 年前に比べて高くなっていると思いますか。（○印1つ）

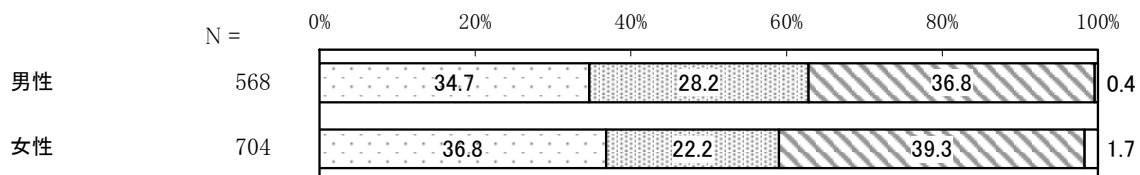
「どちらともいえない」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「そう思う」の割合が 36.0%、「そう思わない」の割合が 24.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



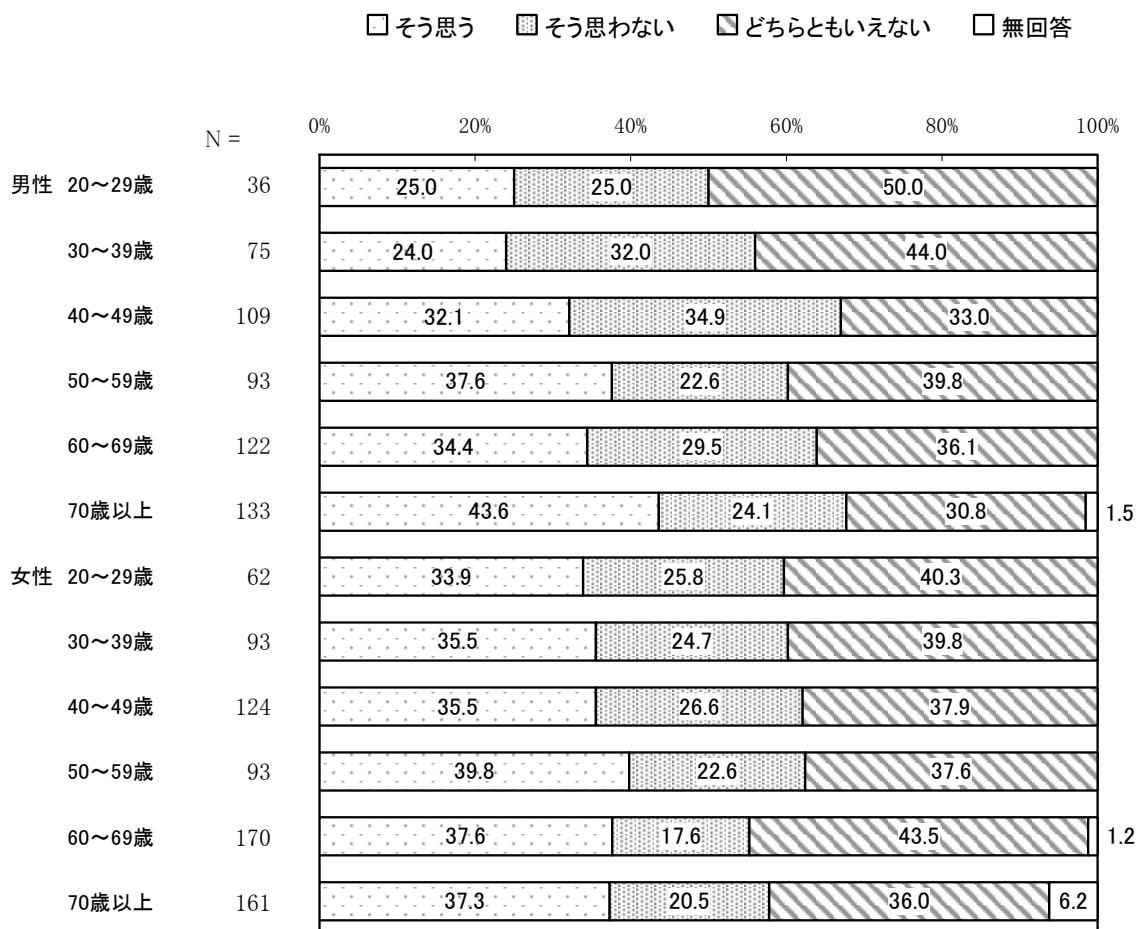
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「そう思わない」の割合が高くなっています。



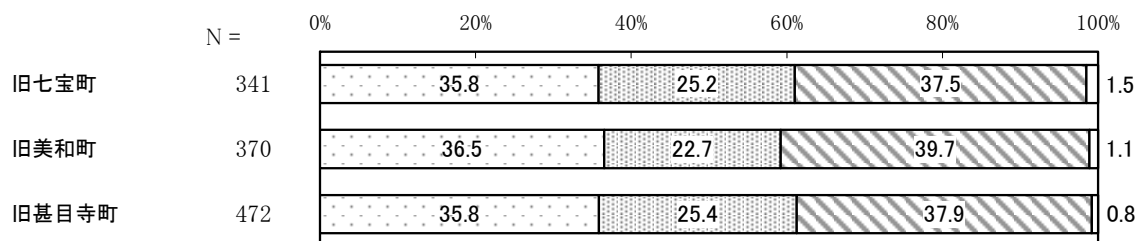
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～39歳で「そう思う」の割合が低くなっています。男性の40～49歳で「そう思わない」の割合が高くなっています。



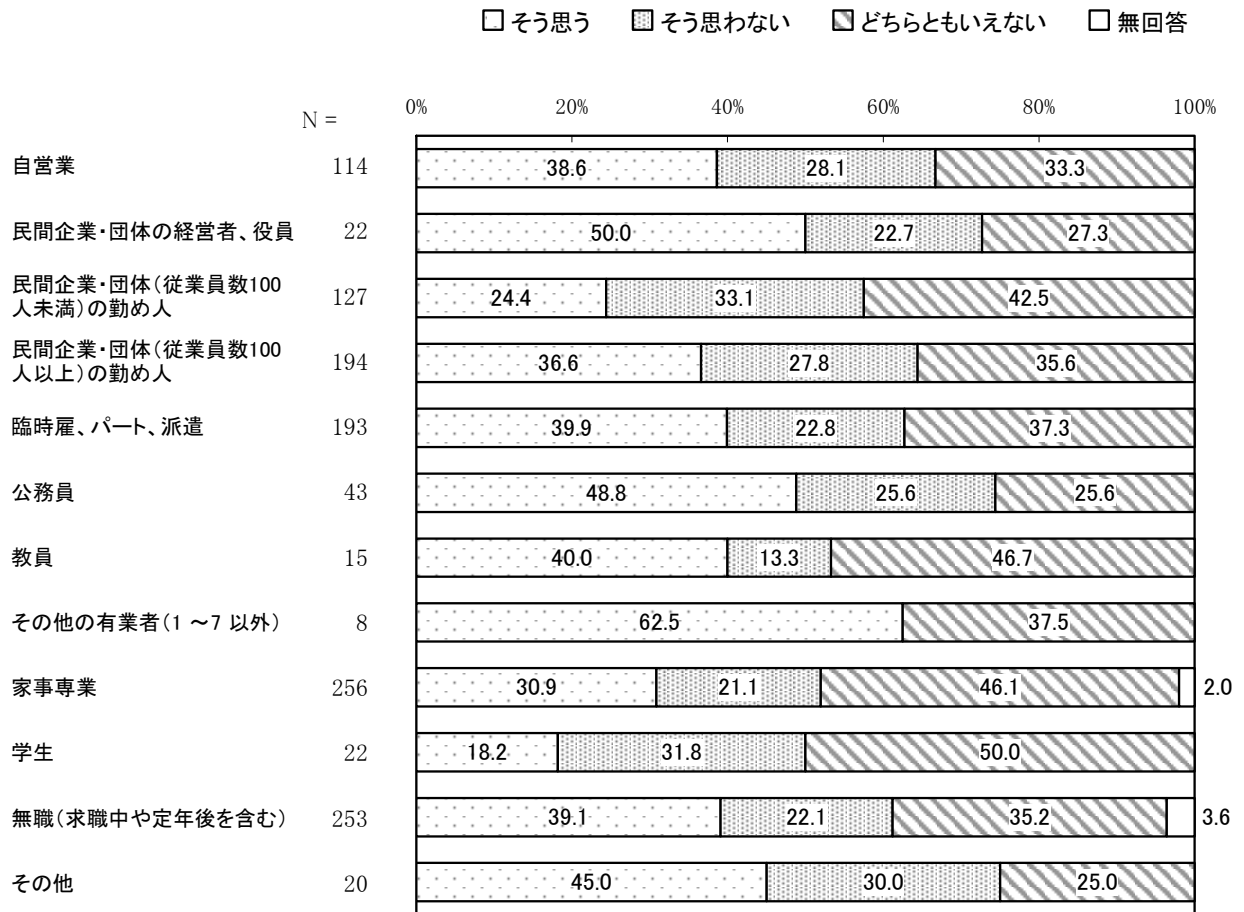
### 【居住地区別】

居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



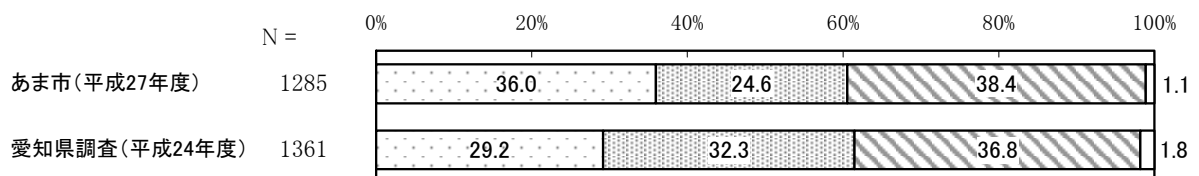
## 【職業別】

職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員で「そう思う」の割合が高くなっています。また、民間企業・団体（従業員数100人未満）の勤め人、教員、家事専業、学生で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



## 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「そう思う」の割合が6.8ポイント高くなっています。一方、「そう思わない」の割合が7.7ポイント低くなっています。

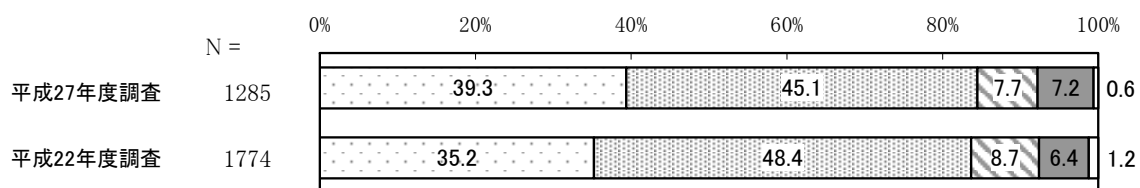


問 12. 一人ひとりの人権は、何よりも尊重されるべきだと思いますか。(○印1つ)

「尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が 45.1%と最も高く、次いで「そう思う」の割合が 39.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- そう思う
- 尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない
- 人権という名のもとに権利の濫用が見られるので、制限すべきだ
- わからない
- 無回答



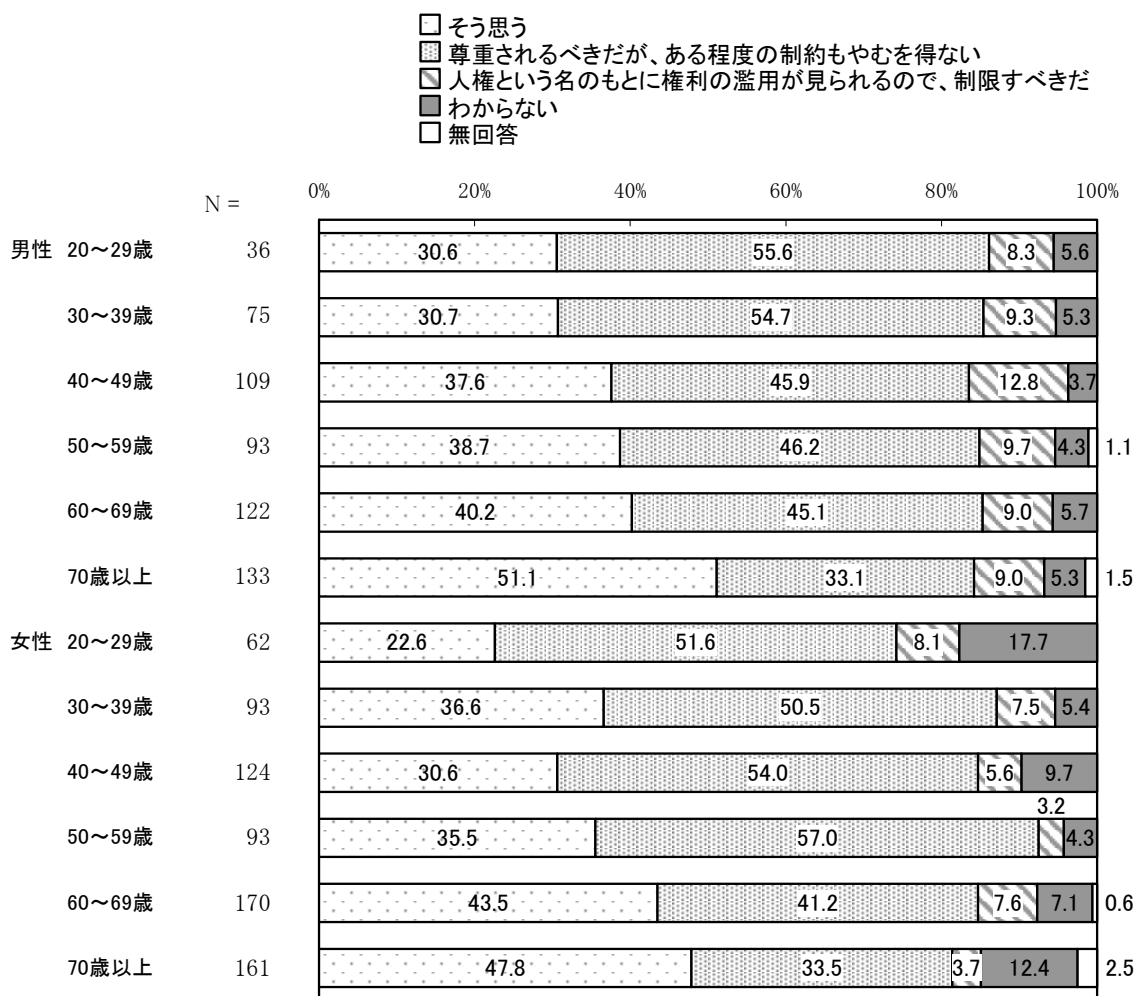
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女ともに70歳以上で「そう思う」の割合が高くなっています。また、女性の20～29歳で「わからない」の割合が高くなっています。



### 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

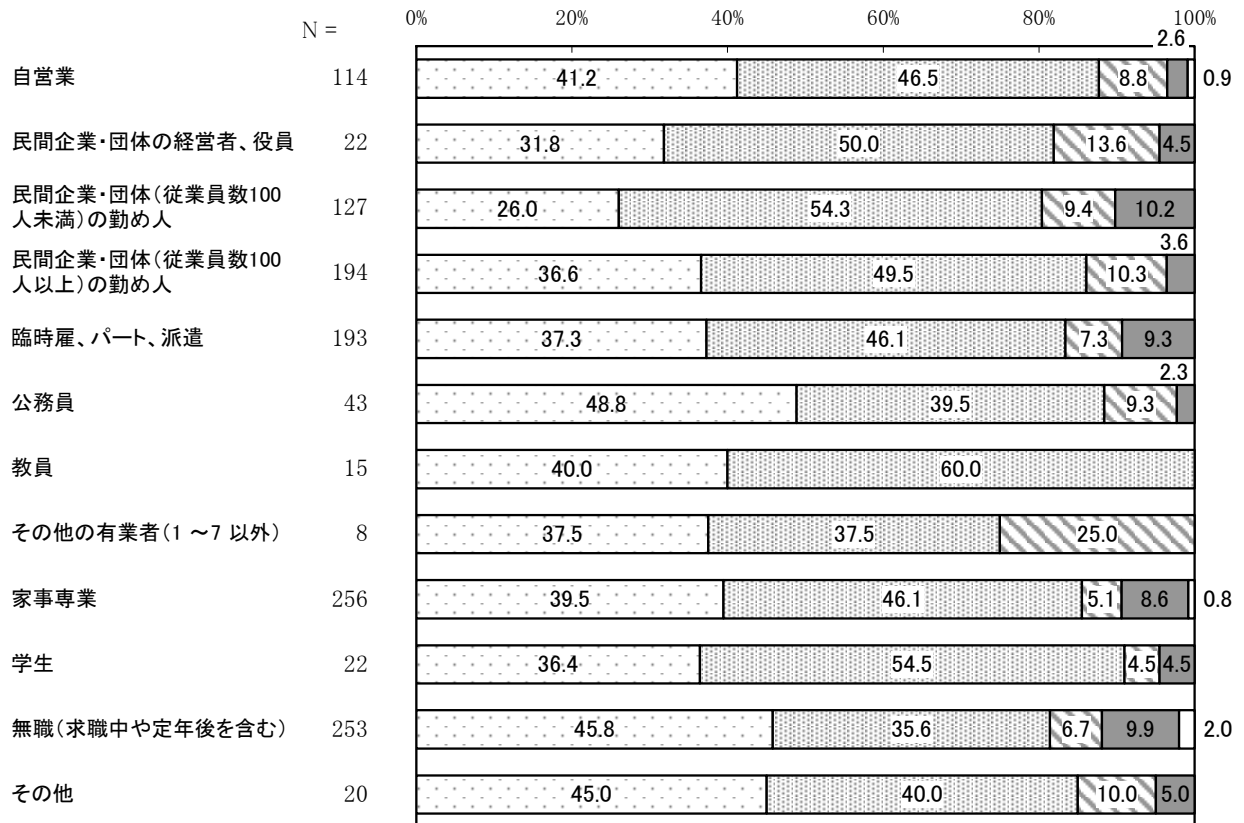




【職業別】

職業別でみると、教員で「尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が高くなっています。

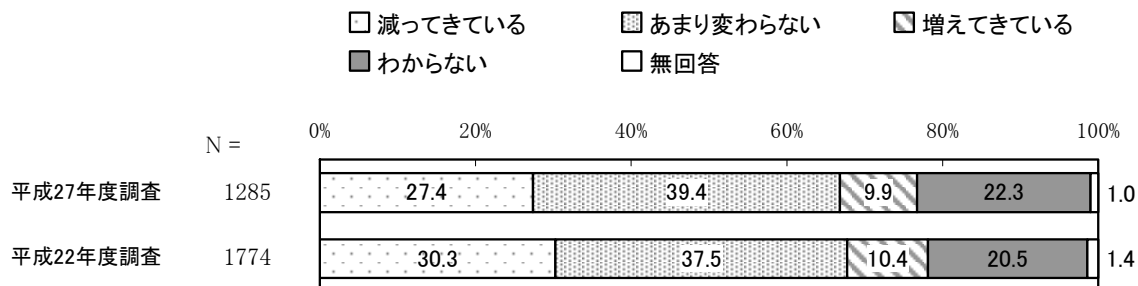
- そう思う
- ▨ 尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない
- ▩ 人権という名のもとに権利の濫用が見られるので、制限すべきだ
- わからない
- 無回答



問 13. 日本社会における人権侵害や差別は、10年前に比べて減ってきていると思いますか。(○印1つ)

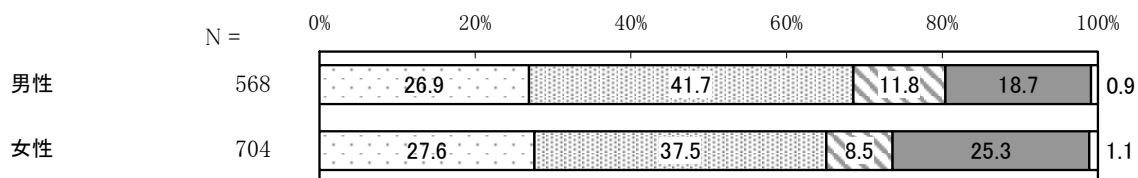
「あまり変わらない」の割合が39.4%と最も高く、次いで「減ってきている」の割合が27.4%、「わからない」の割合が22.3%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



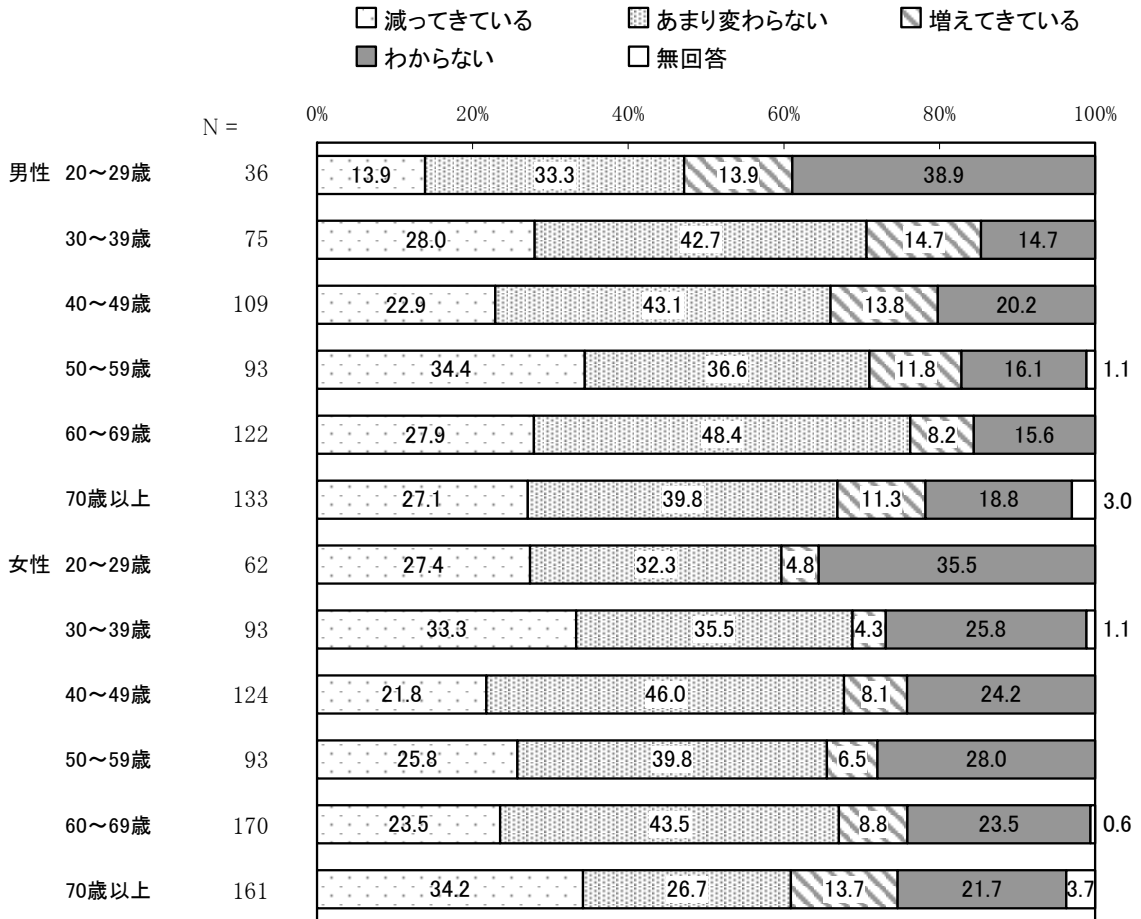
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



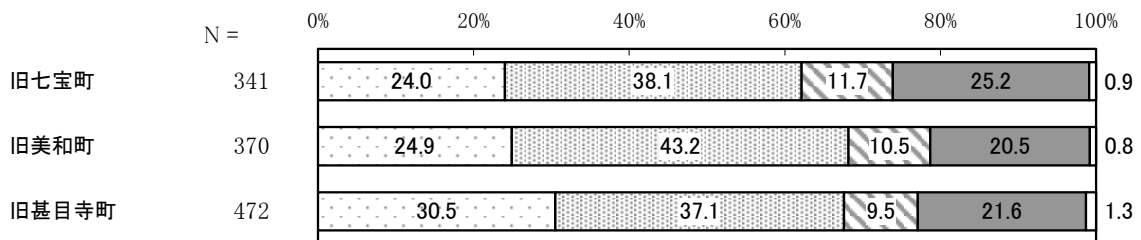
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の50～59歳、女性の30～39歳、70歳以上で「減ってきている」の割合が高くなっています。また、男女ともに20～29歳で「わからない」の割合が高くなっています。



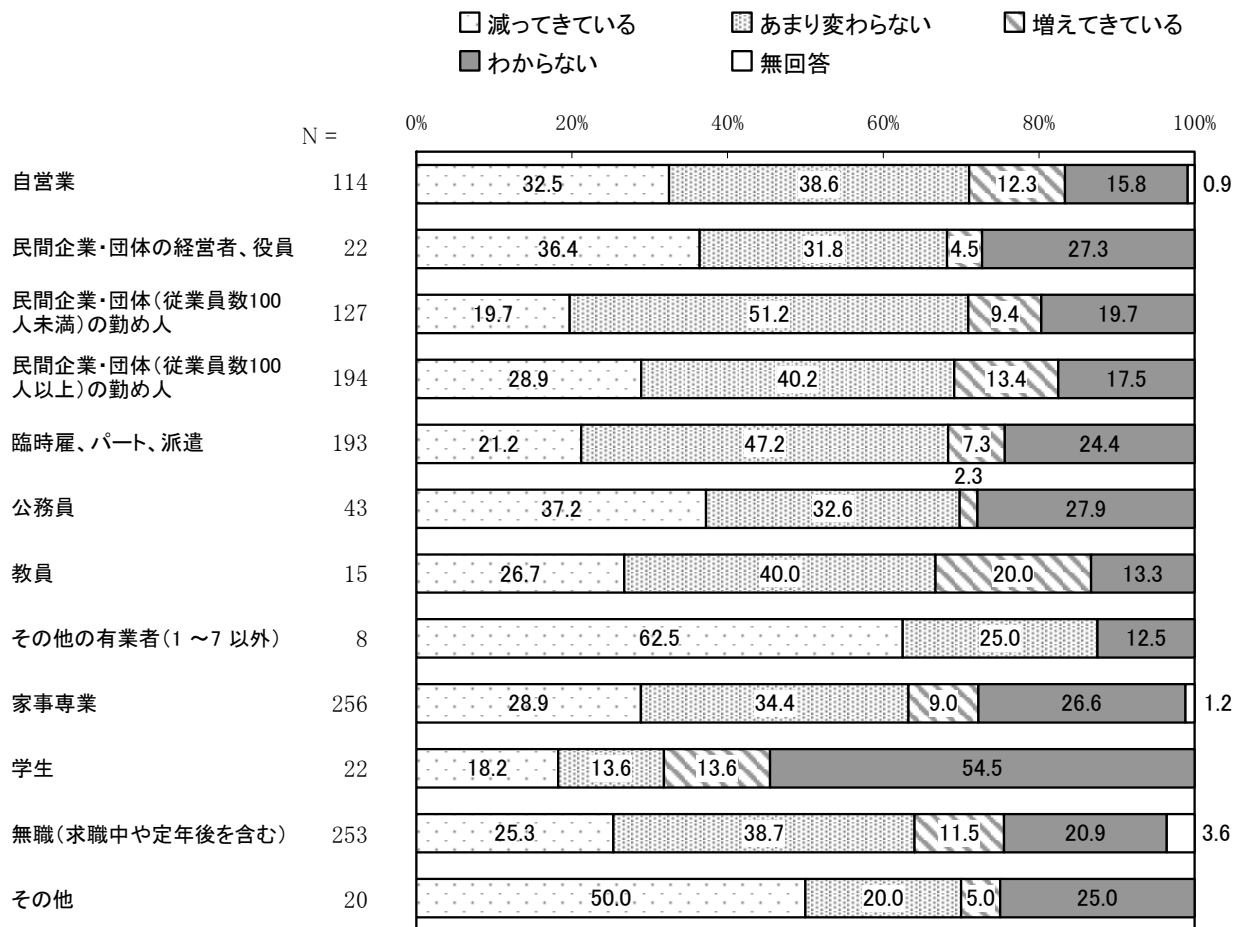
【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧美和町で「あまり変わらない」の割合が、旧甚目寺町で「減ってきている」の割合が高くなっています。



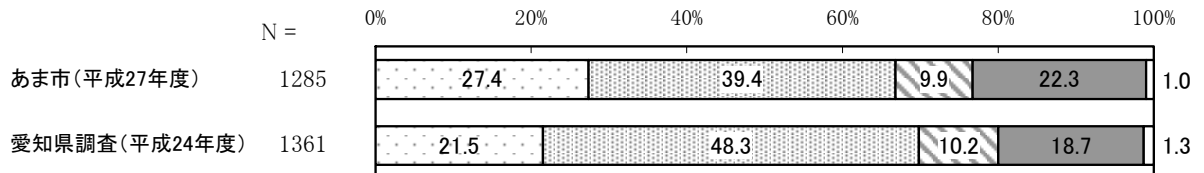
## 【職業別】

職業別でみると、民間企業・団体（従業員数100人未満）の勤め人、臨時雇、パート、派遣で「あまり変わらない」の割合が高くなっています。



## 【愛知県調査との比較】

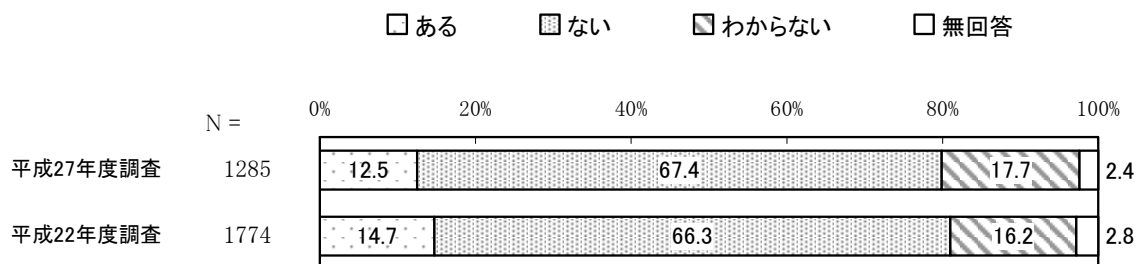
愛知県調査と比較すると、「減ってきている」の割合が5.9ポイント高くなっています。一方、「あまり変わらない」の割合が8.9ポイント低くなっています。



問 14. あなたは、この 10 年程の間に、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(○印 1 つ)

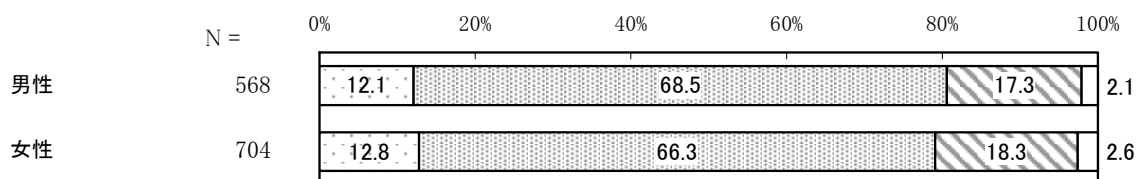
「ない」の割合が 67.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 17.7%、「ある」の割合が 12.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



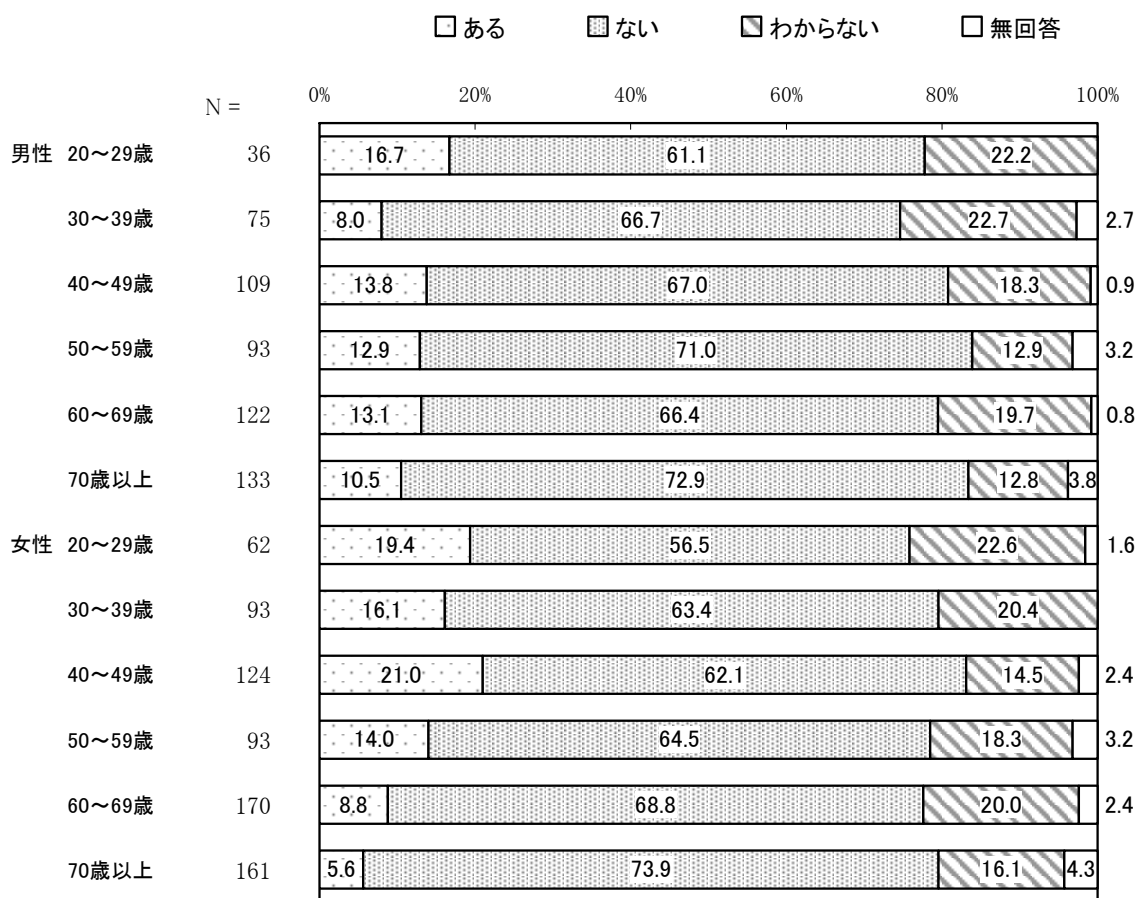
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



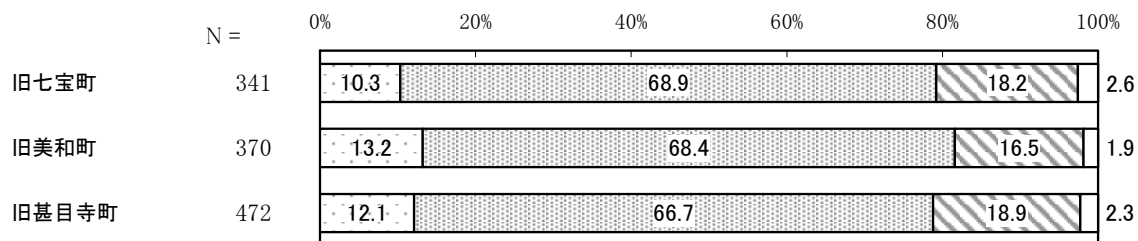
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、女性の20～29歳、40～49歳で「ある」の割合が高くなっています。



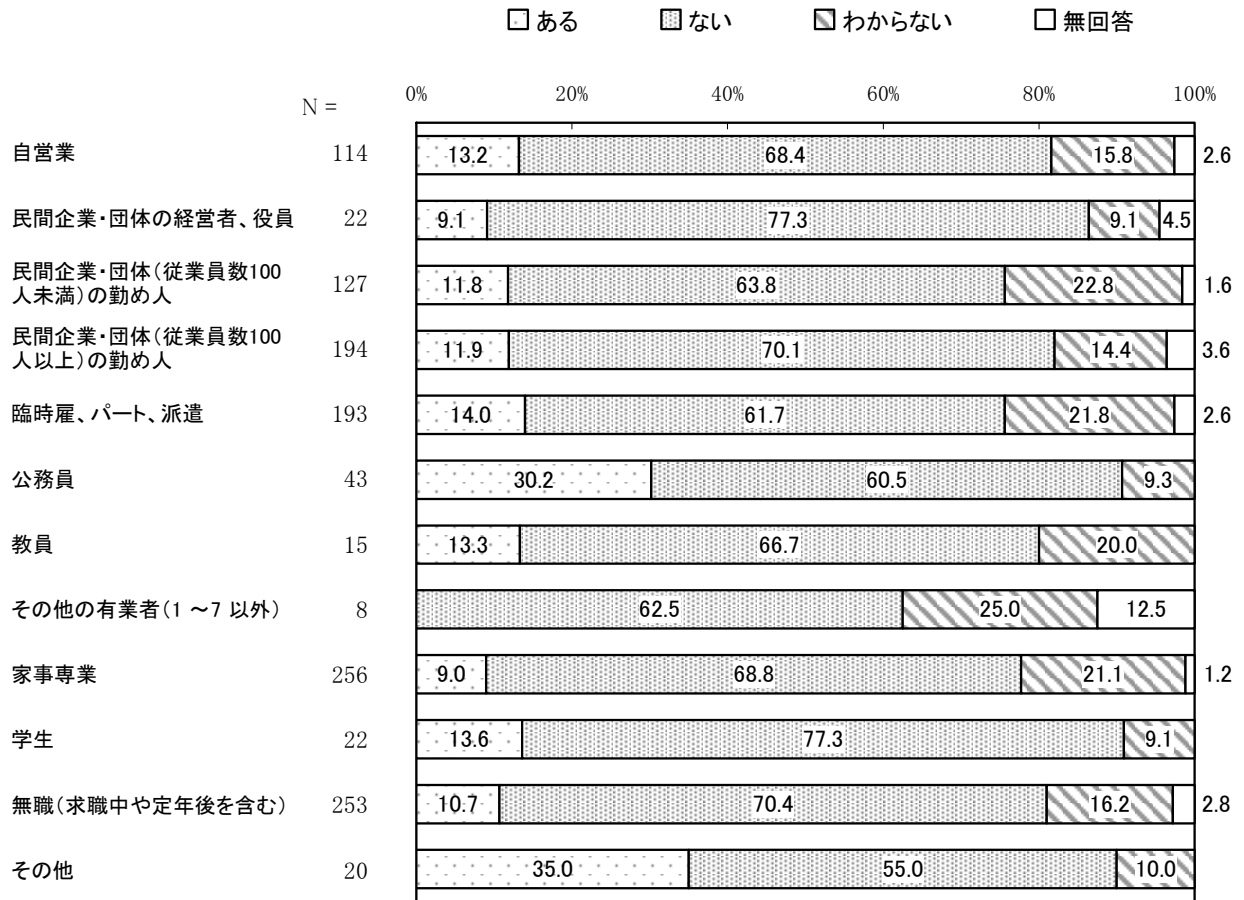
### 【居住地区別】

居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



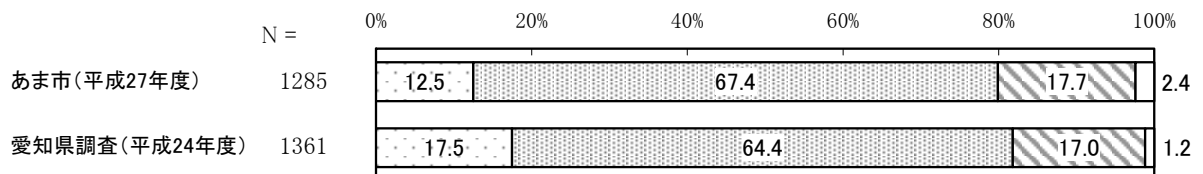
**【職業別】**

職業別でみると、公務員、その他で「ある」の割合が高くなっています。



**【愛知県調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、「ある」の割合が5.0ポイント低くなっています。



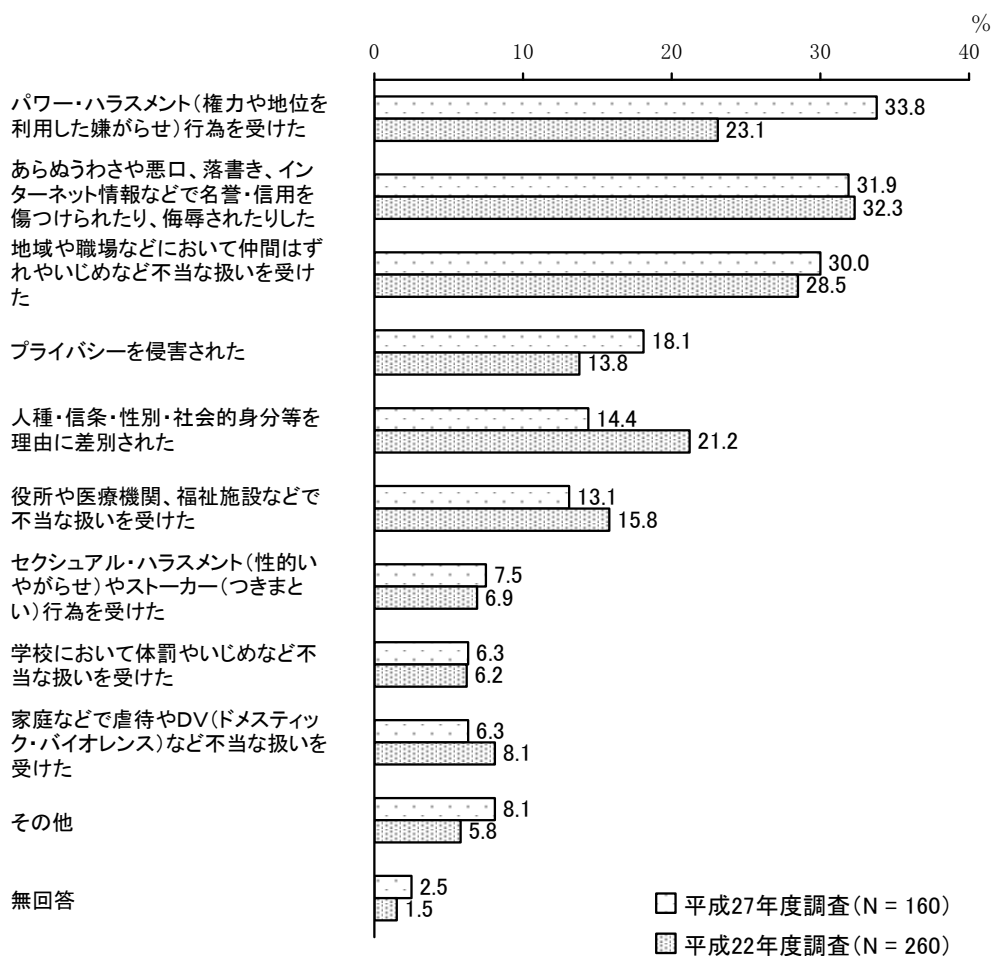
問 15. (問 14 で「1. ある」と回答した方に)

自分の人権を侵害されたと思ったのは、どのような場合でしたか。(○印いくつでも)

「パワー・ハラスメント(権力や地位を利用した嫌がらせ)行為を受けた」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「あらぬうわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした」の割合が 31.9%、「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」の割合が 30.0%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「パワー・ハラスメント(権力や地位を利用した嫌がらせ)行為を受けた」の割合が 10.7 ポイント増加し、「人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された」の割合が 6.8 ポイント減少しています。

※DV(ドメスティック・バイオレンス)／配偶者や恋人など親しい関係にある人から受ける暴力





【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「あらぬうわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした」「プライバシーを侵害された」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」「パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	あらぬうわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした	人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された	地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた	学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた	家庭などで虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）など不当な扱いを受けた	役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やストーカー（つきまとい）行為を受けた	パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた	その他	無回答
男性	69	26.1	14.5	33.3	7.2	4.3	13.0	14.5	5.8	37.7	7.2	4.3
女性	90	36.7	14.4	27.8	4.4	7.8	13.3	20.0	8.9	31.1	8.9	1.1

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の 30～39 歳で「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やストーカー（つきまとい）行為を受けた」の割合が高くなっています。男性の 40～49 歳で「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」の割合が高くなっています。女性の 20～29 歳で「人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された」の割合が高くなっています。女性の 30～39 歳で「家庭などで虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）など不当な扱いを受けた」の割合が高くなっています。女性の 50～59 歳で「プライバシーを侵害された」の割合が高くなっています。また、男性の 40～49 歳、女性の 60～69 歳で「役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	あらゆるわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした	人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された	地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた	学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた	家庭などで虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）など不当な扱いを受けた	役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やストーカー（つきまとい）行為を受けた	パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた	その他	無回答
男性 20～29 歳	6	50.0	16.7	33.3	16.7	—	—	—	—	33.3	—	—
30～39 歳	6	33.3	16.7	33.3	16.7	—	16.7	33.3	33.3	66.7	—	—
40～49 歳	15	26.7	6.7	46.7	20.0	13.3	26.7	20.0	13.3	53.3	6.7	—
50～59 歳	12	16.7	8.3	33.3	—	—	—	16.7	—	50.0	16.7	—
60～69 歳	16	25.0	25.0	31.3	—	—	12.5	12.5	—	18.8	6.3	6.3
70 歳以上	14	21.4	14.3	21.4	—	7.1	14.3	7.1	—	21.4	7.1	14.3
女性 20～29 歳	12	33.3	41.7	41.7	16.7	—	16.7	8.3	16.7	41.7	8.3	—
30～39 歳	15	13.3	6.7	13.3	6.7	20.0	6.7	20.0	6.7	46.7	13.3	—
40～49 歳	26	38.5	19.2	42.3	3.8	3.8	15.4	7.7	11.5	38.5	3.8	—
50～59 歳	13	38.5	—	23.1	—	7.7	—	38.5	7.7	30.8	7.7	—
60～69 歳	15	46.7	6.7	20.0	—	13.3	26.7	20.0	6.7	6.7	20.0	6.7
70 歳以上	9	55.6	11.1	11.1	—	—	11.1	44.4	—	11.1	—	—

## 【居住地区別】

居住地区別でみると、旧七宝町で「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」「家庭などで虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）など不当な扱いを受けた」の割合が、旧美和町で「あらぬうわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした」「学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた」「パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた」の割合が、旧甚目寺町で「役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	あらぬうわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした	人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された	地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた	学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた	家庭などで虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）など不当な扱いを受けた	役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やストーカー（つきまとい）行為を受けた	パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた	その他	無回答
旧七宝町	35	28.6	17.1	37.1	2.9	14.3	8.6	17.1	5.7	34.3	11.4	—
旧美和町	49	40.8	10.2	30.6	10.2	2.0	8.2	10.2	10.2	42.9	10.2	2.0
旧甚目寺町	57	31.6	14.0	26.3	1.8	5.3	14.0	21.1	5.3	26.3	3.5	3.5

【職業別】

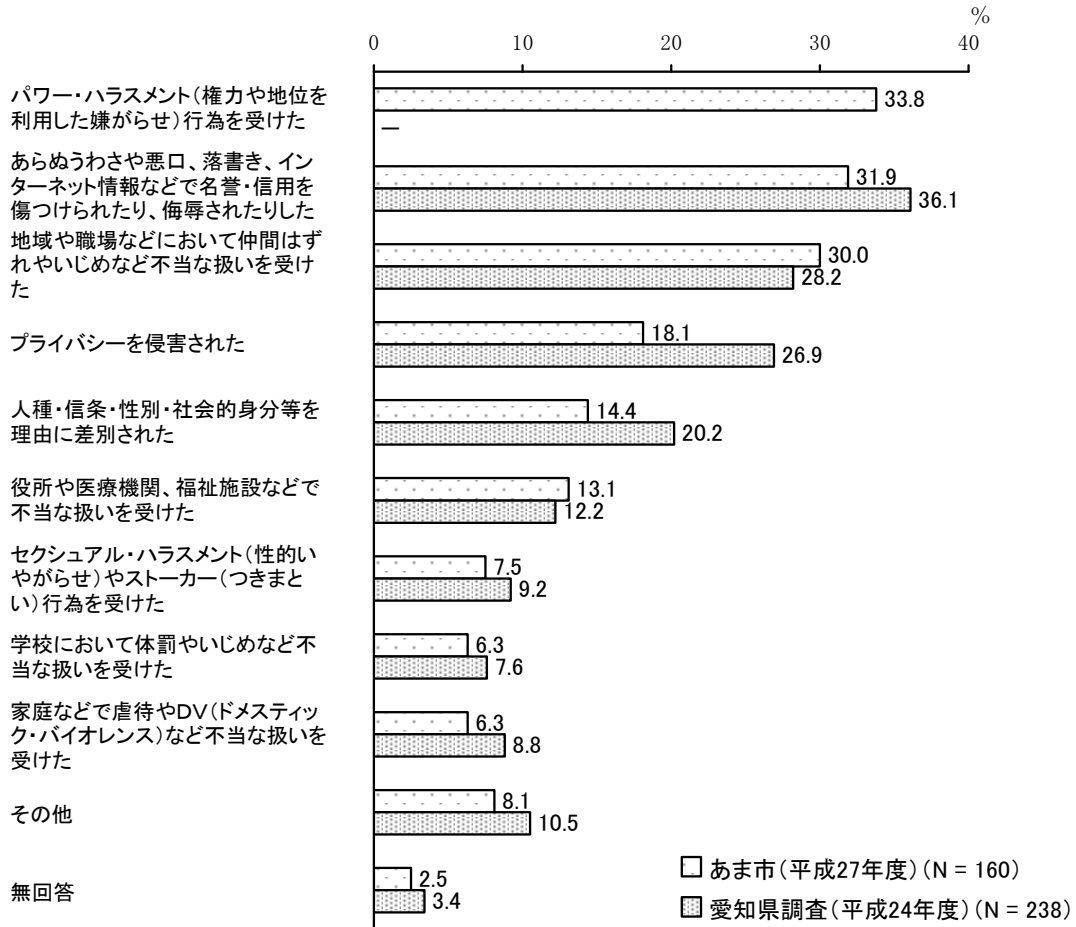
職業別でみると、民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人で「人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された」「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」の割合が高くなっています。臨時雇、パート、派遣で「役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた」の割合が高くなっています。また、民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人、民間企業・団体（従業員数 100 人以上）の勤め人で「パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	あらゆるわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした	人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された	地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた	学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた	家庭などで虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）など不当な扱いを受けた	役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やストーカー（つきまとい）行為を受けた	パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた	その他	無回答
自営業	15	53.3	13.3	20.0	—	—	6.7	20.0	6.7	20.0	6.7	—
民間企業・団体の経営者、役員	2	100.0	—	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—	—
民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人	15	13.3	26.7	53.3	6.7	—	13.3	6.7	—	60.0	—	—
民間企業・団体（従業員数 100 人以上）の勤め人	23	21.7	13.0	30.4	4.3	4.3	4.3	8.7	13.0	65.2	8.7	—
臨時雇、パート、派遣	27	29.6	18.5	37.0	—	3.7	22.2	22.2	3.7	29.6	18.5	—
公務員	13	15.4	7.7	15.4	—	15.4	7.7	23.1	7.7	30.8	15.4	—
教員	2	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	50.0	—	—
その他の有業者（1～7 以外）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
家事専業	23	39.1	8.7	30.4	8.7	13.0	13.0	21.7	4.3	21.7	8.7	—
学生	3	66.7	—	—	33.3	—	33.3	—	—	—	—	—
無職（求職中や定年後を含む）	27	25.9	18.5	22.2	3.7	3.7	11.1	18.5	—	18.5	3.7	11.1
その他	7	57.1	—	28.6	42.9	—	28.6	57.1	42.9	14.3	—	—

## 【愛知県調査との比較】

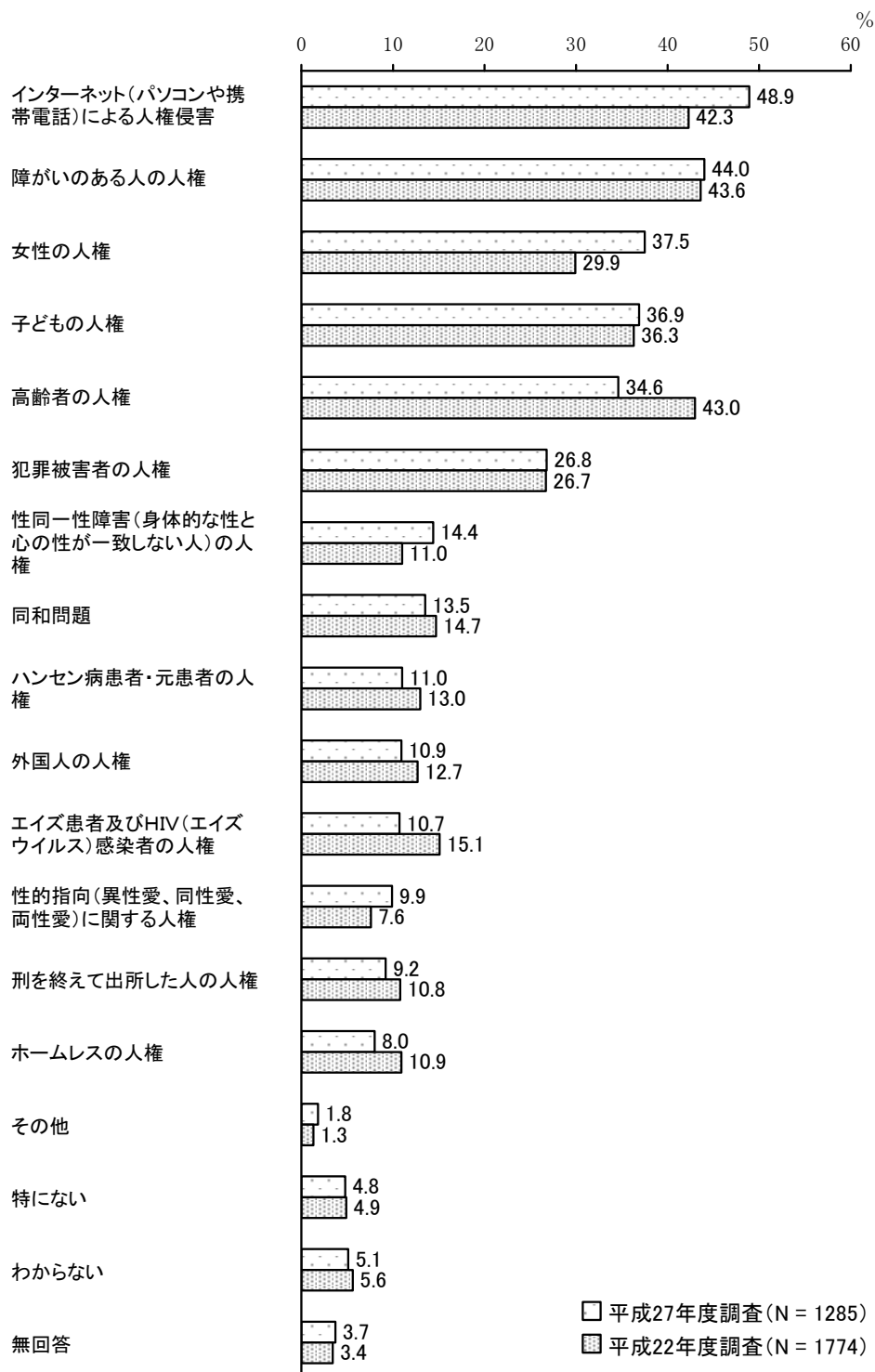
愛知県調査と比較すると、「プライバシーを侵害された」の割合が8.8ポイント、「人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された」の割合が5.8ポイント低くなっています。



問 16. 日本の社会における人権にかかわる問題として、重要な問題は、どれだと思いますか。(〇印いくつでも)

「インターネット（パソコンや携帯電話）による人権侵害」の割合が 48.9%と最も高く、次いで「障がいのある人の人権」の割合が 44.0%、「女性の人権」の割合が 37.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「インターネット（パソコンや携帯電話）による人権侵害」の割合が 6.6 ポイント増加しています。一方、「高齢者の人権」の割合が 8.4 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「女性の人権」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権	子どもの人権	高齢者の人権	障がいのある人の人権	同和問題	外国人の人権	エイズ患者及びHIV(エイズウイルス)感染者の人権	ハンセン病患者・元患者の人権	刑を終えて出所した人の人権	犯罪被害者の人権	インターネット(パソコンや携帯電話)による人権侵害	ホームレスの人権	性が一致しない人(身体的な性と心の性同一性障害)の人権	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)に関する人権	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	32.4	35.4	33.1	45.6	15.1	12.5	10.4	10.6	10.6	28.0	48.6	9.9	11.8	7.9	2.8	4.6	4.6	3.7
女性	704	41.9	38.4	35.8	42.9	12.2	9.7	11.1	11.5	8.1	26.0	49.4	6.4	16.8	11.6	1.0	4.8	5.5	3.6

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の50～59歳で「同和問題」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60歳以上で「高齢者の人権」の割合が高くなっています。また、女性の50～59歳で「エイズ患者及びHIV(エイズウイルス)感染者の人権」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権	子どもの人権	高齢者の人権	障がいのある人の人権	同和問題	外国人の人権	エイズ患者及びHIV(エイズウイルス)感染者の人権	ハンセン病患者・元患者の人権	刑を終えて出所した人の人権	犯罪被害者の人権	インターネット(パソコンや携帯電話)による人権侵害	ホームレスの人権	性が一致しない人(身体的な性と心の性同一性障害)の人権	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)に関する人権	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	38.9	44.4	38.9	52.8	13.9	19.4	16.7	16.7	16.7	27.8	66.7	16.7	25.0	30.6	5.6	—	2.8	2.8
30～39歳	75	38.7	42.7	24.0	46.7	12.0	17.3	13.3	14.7	12.0	30.7	49.3	12.0	20.0	17.3	—	1.3	5.3	—
40～49歳	109	32.1	33.0	24.8	45.9	11.9	11.9	10.1	11.0	8.3	25.7	59.6	9.2	14.7	7.3	4.6	7.3	0.9	2.8
50～59歳	93	30.1	38.7	31.2	47.3	22.6	14.0	10.8	9.7	6.5	31.2	54.8	8.6	10.8	2.2	2.2	2.2	6.5	2.2
60～69歳	122	30.3	32.0	34.4	46.7	17.2	10.7	8.2	9.8	13.1	32.8	46.7	8.2	6.6	5.7	2.5	6.6	4.1	2.5
70歳以上	133	30.8	31.6	43.6	40.6	12.8	9.0	9.0	7.5	10.5	21.8	31.6	9.8	6.8	3.0	3.0	5.3	6.8	9.0
女性 20～29歳	62	46.8	37.1	22.6	45.2	4.8	16.1	9.7	8.1	6.5	25.8	50.0	4.8	32.3	24.2	1.6	—	9.7	—
30～39歳	93	49.5	39.8	19.4	44.1	8.6	9.7	11.8	7.5	2.2	26.9	66.7	5.4	28.0	19.4	—	1.1	2.2	2.2
40～49歳	124	47.6	46.8	29.8	42.7	13.7	10.5	12.9	12.1	8.9	29.8	73.4	4.0	20.2	15.3	1.6	1.6	2.4	0.8
50～59歳	93	37.6	36.6	34.4	47.3	15.1	11.8	17.2	16.1	8.6	34.4	62.4	8.6	20.4	11.8	3.2	2.2	5.4	2.2
60～69歳	170	46.5	41.2	45.9	52.4	15.9	8.8	11.2	13.5	10.6	28.8	44.7	10.0	10.0	7.1	—	5.3	5.9	2.4
70歳以上	161	29.2	29.2	44.7	29.2	10.6	6.2	6.2	9.9	8.7	14.3	18.6	4.3	6.8	4.3	0.6	12.4	8.1	9.9

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	女性の人権	子どもの人権	高齢者の人権	障がいのある人の人権	同和問題	外国人の人権	感染者の人権	エイズ患者及びHIV(エイズウイルス)	ハンセン病患者・元患者の人権	刑を終えて出所した人の人権	犯罪被害者の人権	インターネット(パソコンや携帯電話)による人権侵害	ホームレスの人権	性同一性障害(身体的な性と心の性が一致しない人)の人権	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)に関する人権	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	40.2	36.7	34.9	44.0	11.1	11.1	8.2	8.2	7.9	24.0	51.3	7.0	12.9	8.8	0.6	4.7	5.6	2.3	
旧美和町	370	34.1	37.6	38.6	44.3	12.7	11.4	11.9	12.7	10.5	27.6	47.8	8.9	13.2	9.5	2.2	6.5	3.5	4.1	
旧甚目寺町	472	38.6	37.7	30.7	44.9	16.7	9.7	11.9	12.5	9.5	28.2	48.7	8.3	15.5	10.6	2.1	3.2	5.9	4.0	



【職業別】

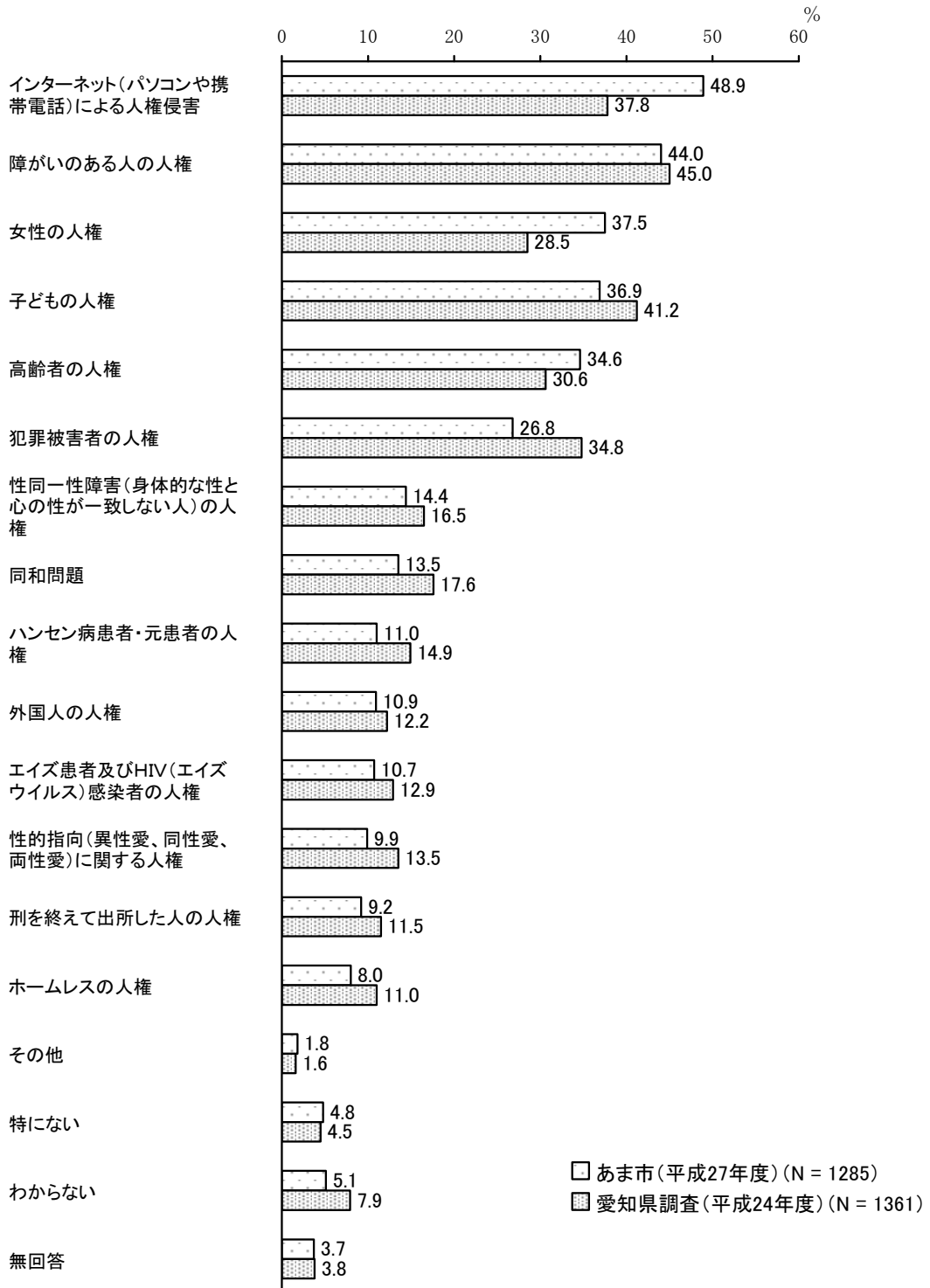
職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員、学生で「女性の人権」の割合が高くなっています。また、教員で「同和問題」「外国人の人権」「インターネット（パソコンや携帯電話）による人権侵害」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権	子どもの人権	高齢者の人権	障がいのある人の人権	同和問題	外国人の人権	感染者の人権	エイズ患者及びHIV(エイズウイルス)	ハンセン病患者・元患者の人権	刑を終えて出所した人の人権	犯罪被害者の人権	インターネット(パソコンや携帯電話)による人権侵害	ホームレスの人権	性同一性障害(身体的な性と心の性が一致しない人)の人権	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)に関する人権	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	32.5	27.2	28.1	37.7	14.9	9.6	7.0	8.8	10.5	25.4	48.2	7.9	10.5	8.8	3.5	6.1	3.5	7.0	
民間企業・団体の経営者、役員	22	59.1	45.5	27.3	40.9	4.5	9.1	18.2	18.2	—	36.4	50.0	4.5	27.3	18.2	—	4.5	—	4.5	
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	36.2	36.2	31.5	51.2	16.5	11.8	15.7	14.2	8.7	29.9	60.6	9.4	22.0	10.2	0.8	4.7	3.1	1.6	
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	39.2	36.1	28.9	46.4	17.5	15.5	12.4	12.4	9.3	29.4	58.2	8.2	12.9	9.3	3.1	3.1	4.1	0.5	
臨時雇、パート、派遣	193	44.0	37.8	34.2	44.0	8.8	8.3	9.8	9.8	5.2	25.9	58.0	4.1	14.0	8.3	1.0	3.1	5.2	1.0	
公務員	43	27.9	51.2	20.9	41.9	25.6	11.6	11.6	7.0	4.7	23.3	60.5	—	20.9	20.9	2.3	2.3	2.3	2.3	
教員	15	40.0	46.7	26.7	53.3	40.0	26.7	20.0	20.0	13.3	53.3	80.0	26.7	20.0	26.7	6.7	—	—	—	
その他の有業者(1～7以外)	8	37.5	37.5	50.0	62.5	37.5	12.5	—	25.0	25.0	50.0	50.0	12.5	25.0	—	—	—	—	—	
家事専業	256	35.5	40.6	40.6	40.6	9.8	9.0	10.5	10.2	8.2	23.0	40.2	5.9	17.2	10.5	0.8	6.3	7.8	3.1	
学生	22	50.0	31.8	36.4	54.5	4.5	22.7	9.1	4.5	9.1	22.7	68.2	18.2	27.3	36.4	—	—	—	—	
無職(求職中や定年後を含む)	253	36.0	34.8	39.9	44.3	13.8	9.9	8.7	11.1	13.4	25.3	34.8	11.5	8.3	5.9	2.0	5.5	7.1	7.5	
その他	20	30.0	35.0	40.0	55.0	10.0	15.0	15.0	15.0	15.0	40.0	30.0	20.0	10.0	15.0	5.0	15.0	—	5.0	

### 【愛知県調査との比較】

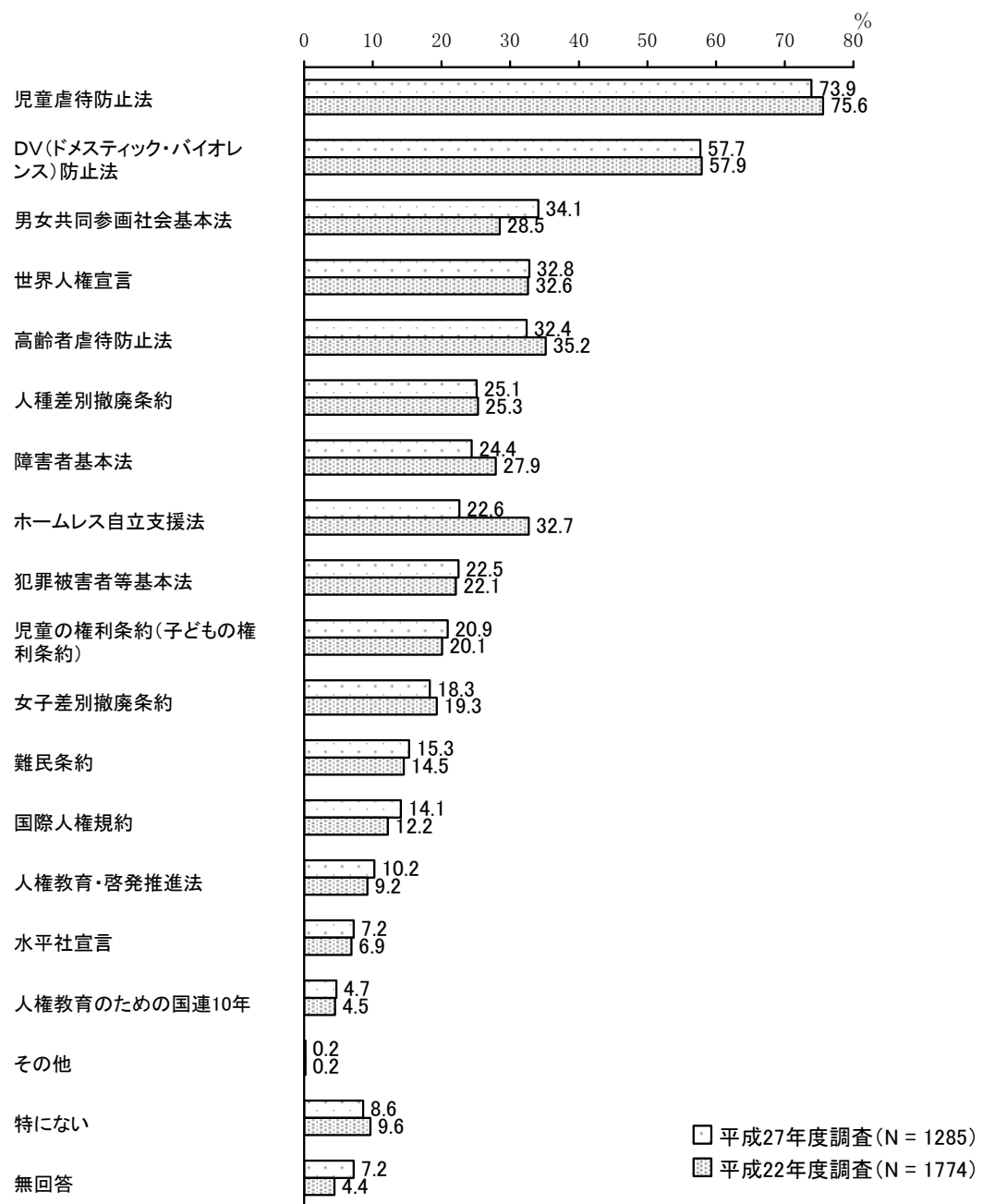
愛知県調査と比較すると、「インターネット（パソコンや携帯電話）による人権侵害」の割合が 11.1 ポイント、「女性の人権」の割合が 9.0 ポイント高くなっています。一方、「犯罪被害者の人権」の割合が 8.0 ポイント低くなっています。



問 17. 人権にかかわる宣言や条約、法律など、あなたが見聞きしたことのあるものはどれですか。(〇印いくつでも)

「児童虐待防止法」の割合が73.9%と最も高く、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」の割合が57.7%、「男女共同参画社会基本法」の割合が34.1%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「男女共同参画社会基本法」の割合が5.6ポイント増加しています。一方、「ホームレス自立支援法」の割合が10.1ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	児童虐待防止法	DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法	ホームレス自立支援法	犯罪被害者等基本法	高齢者虐待防止法	人権教育のための国連10年	人権教育・啓発推進法	水乎社宣言	国際人権規約	障害者基本法	男女共同参画社会基本法	児童の権利条約(子どもの権利条約)	難民条約	女子差別撤廃条約	人種差別撤廃条約	世界人権宣言	その他	特になし	無回答
男性	568	71.5	56.9	21.0	22.5	31.3	5.5	10.6	7.9	15.3	26.4	36.6	18.5	16.5	16.7	25.9	32.7	0.2	8.8	7.0
女性	704	76.1	58.9	24.0	22.6	33.2	4.3	10.1	6.8	13.1	23.2	32.4	23.2	14.6	19.7	24.9	33.4	0.1	8.5	7.2

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女ともに20～29歳で「国際人権規約」「男女共同参画社会基本法」「水平社宣言」の割合が、男性の70歳以上で「高齢者虐待防止法」の割合が、女性の30～49歳で「児童虐待防止法」の割合が高くなっています。また、女性の20～29歳で「児童の権利条約（子どもの権利条約）」「女子差別撤廃条約」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～39歳で「世界人権宣言」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	児童虐待防止法	DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法	ホームレス自立支援法	犯罪被害者等基本法	高齢者虐待防止法	人権教育のための国連10年	人権教育・啓発推進法	水平社宣言	国際人権規約	障害者基本法	男女共同参画社会基本法	児童の権利条約（子どもの権利条約）	難民条約	女子差別撤廃条約	人種差別撤廃条約	世界人権宣言	その他	特にない	無回答
男性 20～29歳	36	72.2	69.4	13.9	27.8	27.8	11.1	16.7	16.7	38.9	27.8	66.7	27.8	11.1	30.6	36.1	50.0	—	5.6	2.8
30～39歳	75	70.7	56.0	25.3	25.3	21.3	5.3	9.3	5.3	21.3	32.0	36.0	25.3	21.3	28.0	36.0	37.3	—	12.0	1.3
40～49歳	109	67.9	57.8	20.2	20.2	15.6	3.7	7.3	4.6	10.1	24.8	25.7	15.6	13.8	11.9	17.4	34.9	—	11.0	10.1
50～59歳	93	79.6	69.9	18.3	21.5	28.0	4.3	15.1	12.9	14.0	26.9	45.2	19.4	16.1	16.1	26.9	36.6	—	5.4	3.2
60～69歳	122	75.4	63.1	24.6	27.9	39.3	6.6	13.9	12.3	15.6	22.1	41.8	22.1	20.5	14.8	25.4	31.1	—	10.7	4.1
70歳以上	133	65.4	38.3	19.5	17.3	45.9	5.3	6.0	2.3	10.5	27.8	27.1	10.5	14.3	12.8	24.1	22.6	0.8	6.8	14.3
女性 20～29歳	62	75.8	56.5	17.7	12.9	25.8	4.8	16.1	16.1	33.9	37.1	69.4	50.0	12.9	45.2	41.9	59.7	—	6.5	—
30～39歳	93	83.9	73.1	24.7	30.1	22.6	4.3	7.5	5.4	23.7	18.3	34.4	33.3	23.7	30.1	34.4	53.8	—	6.5	—
40～49歳	124	84.7	68.5	21.0	25.8	30.6	4.8	14.5	4.8	11.3	21.8	32.3	21.8	16.1	21.0	27.4	37.1	—	6.5	4.8
50～59歳	93	81.7	68.8	21.5	23.7	31.2	5.4	11.8	11.8	11.8	18.3	40.9	26.9	16.1	18.3	29.0	43.0	—	5.4	7.5
60～69歳	170	73.5	60.6	30.0	25.9	38.8	3.5	9.4	8.2	7.6	22.9	25.9	20.0	14.1	14.1	18.8	24.1	0.6	9.4	10.6
70歳以上	161	64.6	36.6	23.0	14.9	39.1	3.7	5.6	1.2	6.8	24.8	19.3	9.3	8.7	9.9	14.9	13.0	—	13.0	12.4

【居住地区別】

居住地区別でみると、旧七宝町で「世界人権宣言」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	児童虐待防止法	DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法	ホームレス自立支援法	犯罪被害者等基本法	高齢者虐待防止法	人権教育のための国連10年	人権教育・啓発推進法	水平社宣言	国際人権規約	障害者基本法	男女共同参画社会基本法	児童の権利条約(子どもの権利条約)	難民条約	女子差別撤廃条約	人種差別撤廃条約	世界人権宣言	その他	特になし	無回答
旧七宝町	341	75.1	58.1	19.9	23.2	34.3	4.1	9.4	5.3	12.9	23.5	34.3	20.5	13.5	19.4	26.1	28.2	0.3	8.2	5.6
旧美和町	370	74.3	59.2	21.6	23.2	34.3	6.5	8.4	8.1	13.8	23.8	38.1	19.7	15.9	17.8	27.0	35.1	—	8.1	8.1
旧甚目寺町	472	73.5	57.2	25.0	21.4	31.4	4.2	12.9	8.9	14.2	25.8	32.8	22.7	16.5	18.4	23.9	33.7	0.2	8.5	7.2

【職業別】

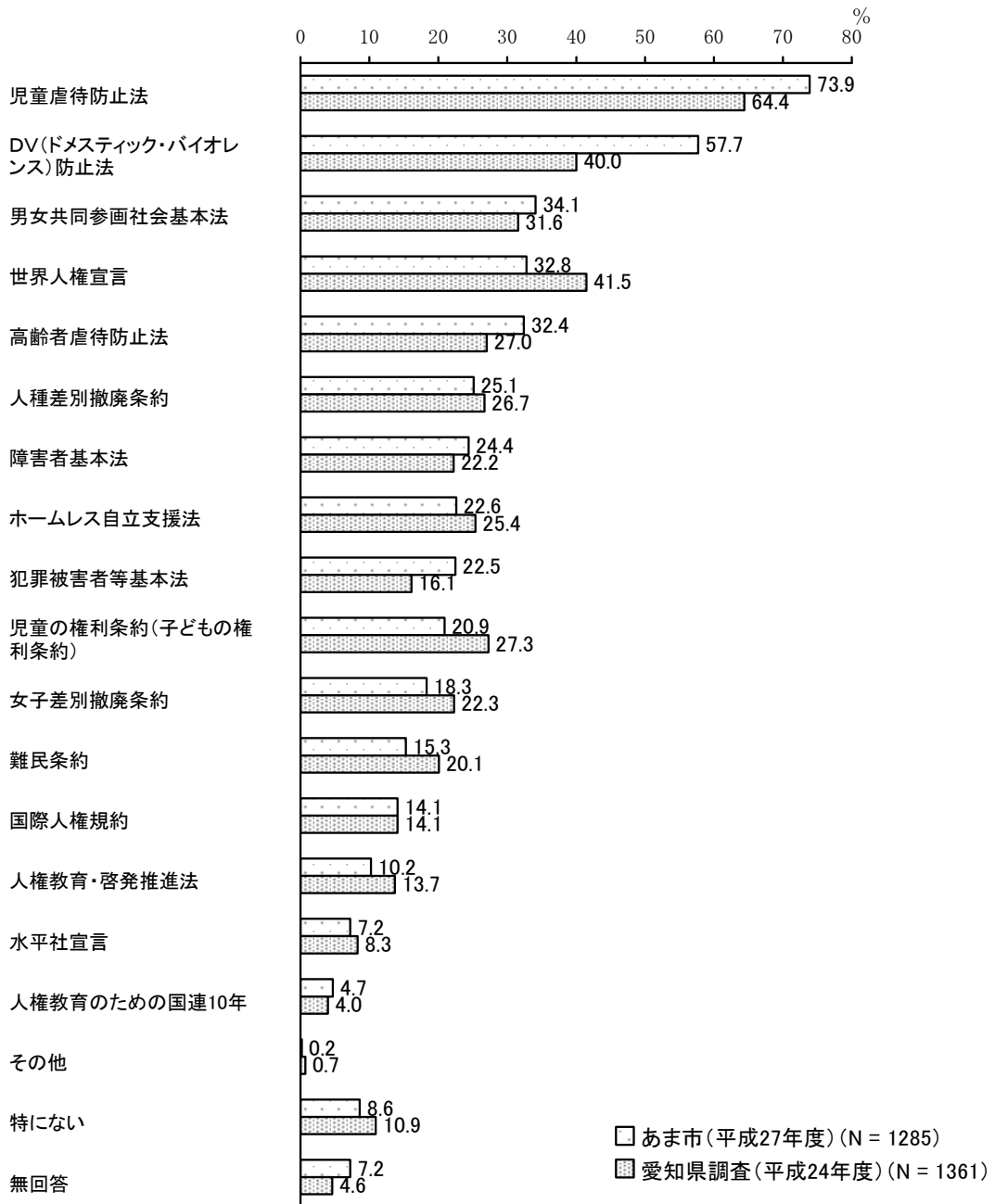
職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員で「ホームレス自立支援法」「犯罪被害者等  
 基本法」の割合が高くなっています。公務員で「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」  
 「男女共同参画社会基本法」の割合が高くなっています。教員で「人権教育のための国連10年」  
 「人権教育・啓発推進法」「水平社宣言」「国際人権規約」「男女共同参画社会基本法」「児童の権  
 利条約（子どもの権利条約）」「女子差別撤廃条約」「世界人権宣言」の割合が高くなっています。  
 また、学生で「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」の割合が高くなっています。教  
 員、学生で「障害者基本法」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	児童虐待防止法	DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法	ホームレス自立支援法	犯罪被害者等基本法	高齢者虐待防止法	人権教育のための国連10年	人権教育・啓発推進法	水平社宣言	国際人権規約	障害者基本法	男女共同参画社会基本法	児童の権利条約(子どもの権利条約)	難民条約	女子差別撤廃条約	人種差別撤廃条約	世界人権宣言	その他	特にな い	無回 答
自営業	114	63.2	56.1	23.7	19.3	28.1	5.3	12.3	9.6	7.9	19.3	28.9	14.9	17.5	14.9	24.6	28.1	0.9	11.4	7.0
民間企業・団体の経営者、役員	22	81.8	72.7	40.9	50.0	40.9	4.5	18.2	9.1	22.7	27.3	45.5	27.3	18.2	22.7	36.4	50.0	—	13.6	4.5
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	78.7	62.2	15.7	22.0	24.4	5.5	7.9	4.7	14.2	21.3	31.5	16.5	15.0	18.9	26.8	38.6	—	7.1	7.1
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	72.7	58.8	20.1	21.1	20.6	4.6	9.3	5.7	17.5	21.6	38.1	22.7	15.5	19.6	25.8	39.2	—	9.3	5.2
臨時雇、パート、派遣	193	81.3	65.3	23.3	25.4	34.2	3.1	11.4	5.2	8.8	20.7	33.7	25.4	18.7	20.2	28.5	32.6	0.5	5.7	4.1
公務員	43	86.0	81.4	30.2	32.6	37.2	9.3	23.3	27.9	25.6	39.5	79.1	46.5	23.3	25.6	37.2	67.4	—	4.7	—
教員	15	86.7	66.7	33.3	26.7	40.0	33.3	46.7	53.3	53.3	40.0	86.7	86.7	13.3	46.7	40.0	80.0	—	—	—
その他の有業者(1~7以外)	8	75.0	62.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0	25.0	—	37.5	50.0	12.5	12.5	37.5	12.5	25.0	—	—	—
家事専業	256	73.4	55.5	27.3	22.7	32.8	3.1	7.4	4.3	14.1	21.5	26.6	18.0	11.7	14.8	21.5	28.9	—	11.3	8.6
学生	22	72.7	77.3	13.6	22.7	36.4	9.1	13.6	22.7	36.4	40.9	86.4	36.4	13.6	40.9	31.8	59.1	—	—	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	69.2	45.8	19.8	19.4	41.9	4.3	8.7	5.5	12.3	30.4	28.1	14.2	15.0	14.2	21.7	20.2	—	9.5	11.1
その他	20	80.0	55.0	25.0	25.0	60.0	5.0	—	5.0	10.0	40.0	25.0	30.0	20.0	35.0	30.0	40.0	—	—	10.0

### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「児童虐待防止法」の割合が9.5ポイント、「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」の割合が17.7ポイント、「犯罪被害者等基本法」の割合が6.4ポイント高くなっています。一方、「世界人権宣言」の割合が8.7ポイント、「児童の権利条約（子どもの権利条約）」の割合が6.4ポイント低くなっています。



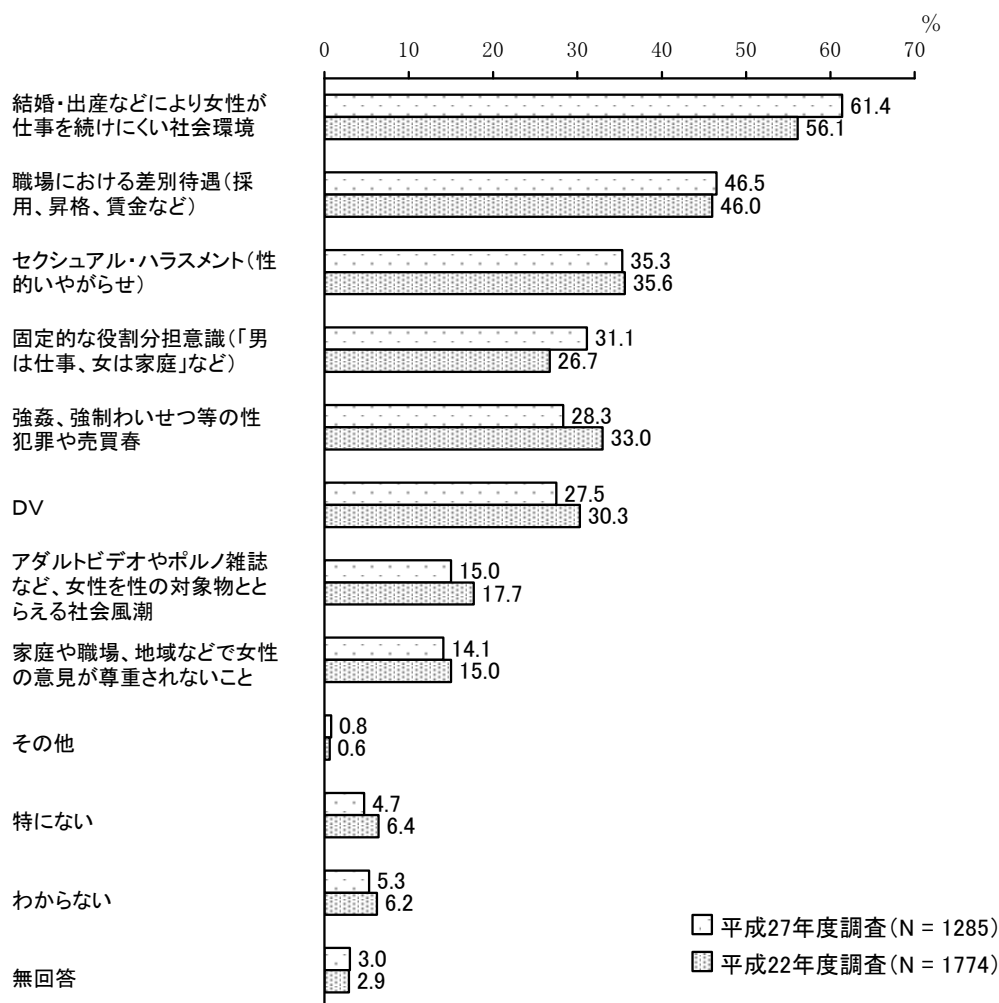


## (2) 女性の人権について

問 18. 女性に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」の割合が61.4%と最も高く、次いで「職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）」の割合が46.5%、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が35.3%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」の割合が5.3ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」「家庭や職場、地域などで女性の意見が尊重されないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）	職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境	DV	家庭や職場、地域などで女性の意見が尊重されないこと	アダルトビデオやポルノ雑誌など、女性を性の対象物ととらえる社会風潮	強姦、強制わいせつ等の性犯罪や売買春	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	29.0	46.0	40.3	56.7	28.9	10.9	12.3	26.1	1.1	3.7	4.6	3.7
女性	704	33.0	47.2	31.3	65.1	26.6	16.8	17.2	30.7	0.6	5.4	5.8	2.6

## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の40～49歳で「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高くなっています。女性の20～39歳で「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」の割合が高くなっています。女性の30～49歳で「職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）」の割合が高くなっています。また、女性の40～49歳で「家庭や職場、地域などで女性の意見が尊重されないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	固定的な役割分担意識 (「男は仕事、 女は家庭」など)	職場における差別待遇 (採用、昇格、 賃金など)	セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)	結婚・出産などにより女性が仕事を 続けにくい社会環境	D V	家庭や職場、地域などで女性の意見が 尊重されないこと	アダルトビデオやポルノ雑誌など、女 性を性の対象物ととらえる社会風潮	強姦、強制わいせつ等の性犯罪や売買 春	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
男性 20～29歳	36	25.0	44.4	44.4	55.6	22.2	—	5.6	27.8	—	—	8.3	2.8
30～39歳	75	25.3	42.7	37.3	61.3	25.3	12.0	8.0	21.3	2.7	4.0	4.0	—
40～49歳	109	24.8	42.2	49.5	55.0	32.1	5.5	6.4	24.8	0.9	4.6	1.8	2.8
50～59歳	93	32.3	40.9	44.1	49.5	31.2	7.5	7.5	29.0	—	2.2	3.2	1.1
60～69歳	122	29.5	49.2	38.5	59.0	30.3	13.1	17.2	32.0	1.6	5.7	4.1	2.5
70歳以上	133	33.1	51.9	32.3	58.6	27.1	18.0	20.3	21.8	0.8	3.0	7.5	9.8
女性 20～29歳	62	30.6	46.8	41.9	77.4	29.0	17.7	12.9	33.9	1.6	3.2	3.2	—
30～39歳	93	36.6	55.9	28.0	79.6	29.0	14.0	10.8	33.3	2.2	3.2	2.2	—
40～49歳	124	37.9	55.6	35.5	68.5	33.9	24.2	12.9	38.7	0.8	2.4	2.4	—
50～59歳	93	31.2	43.0	36.6	64.5	24.7	15.1	22.6	36.6	—	5.4	4.3	2.2
60～69歳	170	36.5	48.8	30.0	68.2	28.2	15.3	24.7	31.8	—	4.1	5.3	2.4
70歳以上	161	25.5	36.6	23.6	46.0	18.0	14.9	14.9	17.4	—	11.2	13.0	7.5

【居住地区別】

居住地区別でみると、旧甚目寺町で「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）	職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境	DV	家庭や職場、地域などで女性の意見が尊重されないこと	性を性の対象物ととらえる社会風潮	アダルトビデオやポルノ雑誌など、女性を性的対象物ととらえる社会風潮	強姦、強制わいせつ等の性犯罪や売買春	その他	特にない	わからない	無回答
旧七宝町	341	31.4	43.7	33.7	60.7	24.3	16.4	15.2	30.2	0.9	5.0	5.6	2.9	
旧美和町	370	32.2	50.0	31.4	61.9	28.6	14.3	15.4	27.0	0.5	5.1	5.4	3.2	
旧甚目寺町	472	32.6	46.4	39.6	62.1	28.4	13.3	14.8	27.8	1.1	3.6	5.1	2.3	

【職業別】

職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員で「固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が高くなっています。また、教員で「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）	職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境	DV	家庭や職場、地域などで女性の意見が尊重されないこと	アダルトビデオやポルノ雑誌など、女性を性的対象物ととらえる社会風潮	強姦、強制わいせつ等の性犯罪や売買春	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	26.3	43.9	30.7	61.4	25.4	14.0	14.9	21.1	—	7.9	3.5	3.5
民間企業・団体の経営者、役員	22	50.0	50.0	40.9	59.1	31.8	9.1	9.1	27.3	—	4.5	—	9.1
民間企業・団体（従業員数100人未満）の勤め人	127	28.3	52.0	42.5	63.0	22.0	10.2	9.4	33.1	1.6	3.9	3.9	0.8
民間企業・団体（従業員数100人以上）の勤め人	194	24.2	44.8	38.1	60.8	30.4	8.2	5.2	27.8	1.0	1.0	3.1	—
臨時雇、パート、派遣	193	38.3	49.7	32.1	64.2	30.1	18.1	15.0	31.1	1.0	4.7	5.2	2.1
公務員	43	37.2	44.2	32.6	58.1	41.9	4.7	20.9	37.2	4.7	4.7	2.3	—
教員	15	40.0	46.7	46.7	80.0	40.0	20.0	26.7	33.3	—	—	—	—
その他の有業者（1～7以外）	8	37.5	62.5	37.5	75.0	12.5	12.5	12.5	50.0	—	—	—	—
家事専業	256	30.1	41.4	28.9	66.0	23.0	13.7	18.4	27.0	0.4	5.9	5.9	3.1
学生	22	36.4	54.5	63.6	59.1	36.4	18.2	22.7	31.8	—	—	4.5	—
無職（求職中や定年後を含む）	253	32.4	49.0	37.9	55.3	29.2	18.6	20.2	26.5	0.4	4.0	9.5	6.7
その他	20	30.0	30.0	30.0	55.0	20.0	20.0	15.0	40.0	—	20.0	10.0	5.0

## 【人権尊重意識別】

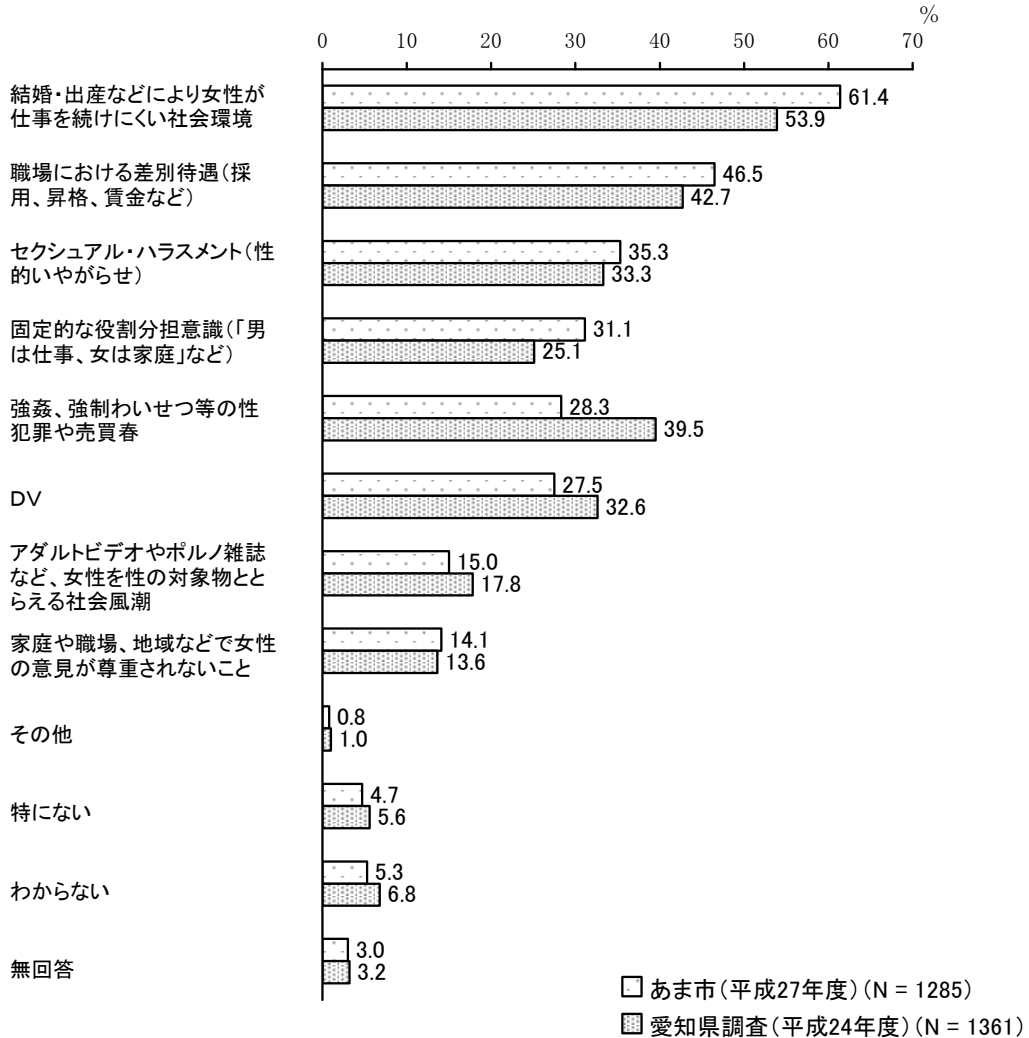
人権尊重意識別でみると、そう思うで「DV」の割合が高くなっています。また、人権という名のもとに権利の濫用が見られるので、制限すべきだで「職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「アダルトビデオやポルノ雑誌など、女性を性の対象物ととらえる社会風潮」「強姦、強制わいせつ等の性犯罪や売買春」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	固定的な役割分担意識 (「男は仕事、女は家庭」など)	職場における差別待遇 (採用、昇格、賃金など)	セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)	結婚・出産などにより女性 が仕事を続けにくい社会環境	D V	家庭や職場、地域などで 女性の意見が尊重されないこと	アダルトビデオやポルノ 雑誌など、女性を性の対象物 ととらえる社会風潮	強姦、強制わいせつ等の性 犯罪や売買春	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
そう思う	505	33.9	48.3	39.6	60.8	32.3	15.8	16.0	27.5	0.8	4.2	5.7	3.0
尊重されるべきだが、ある 程度の制約もやむを得ない	580	31.2	47.1	31.2	64.0	24.3	12.2	13.6	29.0	0.9	4.3	3.6	2.8
人権という名のもとに権利 の濫用が見られるので、制限 すべきだ	99	28.3	54.5	43.4	67.7	31.3	20.2	24.2	43.4	1.0	3.0	2.0	2.0
わからない	93	19.4	28.0	30.1	44.1	18.3	10.8	8.6	14.0	—	10.8	17.2	4.3

## 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」の割合が7.5ポイント、「固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が6.0ポイント高くなっています。一方、「強姦、強制わいせつ等の性犯罪や売買春」の割合が11.2ポイント、「DV」の割合が5.1ポイント低くなっています。

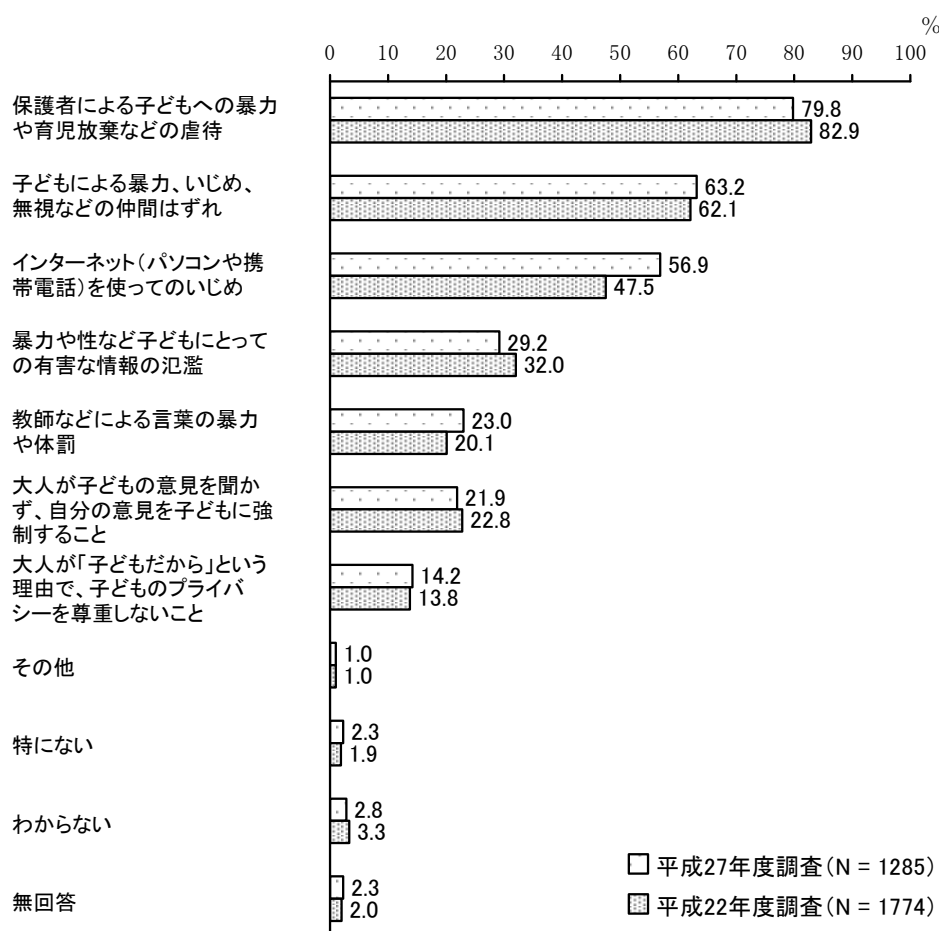


### (3) 子どもの人権について

問 19. 子どもに関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待」の割合が 79.8%と最も高く、次いで「子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ」の割合が 63.2%、「インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ」の割合が 56.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ」の割合が 9.4 ポイント増加しています。





【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「インターネット（パソコンや携帯電話）を使つてのいじめ」「教師などによる言葉の暴力や体罰」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	児童放棄などの虐待	保護者による子どもへの暴力や育	大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること	重くないこと	大人が「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと	子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ	インターネット（パソコンや携帯電話）を使つてのいじめ	教師などによる言葉の暴力や体罰	暴力や性など子どもにとっての有害な情報の氾濫	その他	特にな	わからない	無回答
男性	568	79.2	21.5	15.1	61.8	51.2	19.2	26.8	1.4	1.6	2.3	2.5		
女性	704	80.3	22.4	13.4	64.9	61.8	26.4	31.4	0.7	2.8	3.1	2.1		

## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男女ともに 20～29 歳で「大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること」の割合が高くなっています。男性の 60～69 歳、女性の 40～59 歳で「子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ」の割合が高くなっています。女性の 30～39 歳、60～69 歳で「教師などによる言葉の暴力や体罰」の割合が高くなっています。女性の 30～49 歳で「インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ」の割合が高くなっています。女性の 60～69 歳で「暴力や性など子どもにとっての有害な情報の氾濫」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待	大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること	大人が「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと	子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ	インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ	教師などによる言葉の暴力や体罰	暴力や性など子どもにとっての有害な情報の氾濫	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29 歳	36	72.2	36.1	22.2	58.3	61.1	25.0	22.2	—	—	5.6	2.8
30～39 歳	75	76.0	17.3	12.0	64.0	45.3	8.0	13.3	1.3	—	2.7	—
40～49 歳	109	77.1	18.3	9.2	62.4	66.1	15.6	22.9	1.8	2.8	—	1.8
50～59 歳	93	83.9	20.4	14.0	59.1	55.9	16.1	32.3	2.2	2.2	—	—
60～69 歳	122	82.8	21.3	18.0	72.1	46.7	24.6	27.0	0.8	1.6	4.1	2.5
70 歳以上	133	78.2	23.3	18.0	53.4	40.6	24.1	34.6	1.5	1.5	3.0	6.0
女性 20～29 歳	62	87.1	30.6	17.7	51.6	59.7	32.3	27.4	—	1.6	4.8	—
30～39 歳	93	82.8	18.3	9.7	60.2	82.8	17.2	28.0	—	1.1	2.2	—
40～49 歳	124	87.1	17.7	13.7	79.0	83.1	25.0	37.9	1.6	—	2.4	—
50～59 歳	93	87.1	15.1	9.7	80.6	74.2	24.7	28.0	1.1	1.1	—	1.1
60～69 歳	170	82.9	25.9	16.5	70.0	57.6	34.1	40.0	1.2	2.9	2.9	1.2
70 歳以上	161	64.0	25.5	12.4	47.8	31.1	23.6	22.4	—	7.5	5.6	7.5

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数（件）	保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待	大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること	大人が「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと	子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ	インターネット（パソコンや携帯電話）を使つてのいじめ	教師などによる言葉の暴力や体罰	暴力や性など子どもにとっての有害な情報の氾濫	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	81.5	22.3	15.0	63.0	57.2	21.7	28.7	1.5	2.9	1.5	2.1
旧美和町	370	78.6	22.2	13.8	60.0	57.3	26.2	27.6	0.3	2.7	2.7	2.7
旧甚目寺町	472	78.8	21.6	15.3	66.3	57.8	22.2	30.1	1.1	1.5	3.4	1.3

【職業別】

職業別でみると、教員で「子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ」「インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ」の割合が高くなっています。また、学生で「教師などによる言葉の暴力や体罰」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待	大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること	大人が「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと	仲間はずれ	子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ	インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ	教師などによる言葉の暴力や体罰	暴力や性など子どもにとっての有害な情報の氾濫	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	76.3	27.2	20.2	56.1	53.5	18.4	28.1	0.9	3.5	1.8	1.8	
民間企業・団体の経営者、役員	22	81.8	13.6	13.6	68.2	63.6	22.7	36.4	—	—	9.1	4.5	
民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人	127	84.3	26.0	17.3	66.9	63.8	18.1	25.2	1.6	0.8	1.6	1.6	
民間企業・団体（従業員数 100 人以上）の勤め人	194	83.0	14.4	10.8	63.9	57.2	14.4	24.2	1.0	1.5	0.5	—	
臨時雇、パート、派遣	193	85.0	18.1	11.9	71.5	67.4	29.0	31.6	1.6	—	5.2	1.0	
公務員	43	79.1	25.6	16.3	67.4	65.1	23.3	32.6	—	2.3	—	—	
教員	15	80.0	20.0	20.0	93.3	93.3	6.7	33.3	—	—	—	—	
その他の有業者（1 ～7 以外）	8	87.5	25.0	12.5	37.5	50.0	—	25.0	—	12.5	—	—	
家事専業	256	75.4	18.8	10.2	64.1	57.8	26.2	33.6	0.8	4.3	2.7	2.7	
学生	22	86.4	31.8	13.6	63.6	63.6	40.9	27.3	—	—	—	—	
無職（求職中や定年後を含む）	253	78.3	28.5	16.2	58.1	44.3	28.1	28.5	1.2	1.6	4.0	4.7	
その他	20	70.0	25.0	35.0	40.0	40.0	20.0	35.0	—	10.0	5.0	5.0	

## 【末子学齢別】

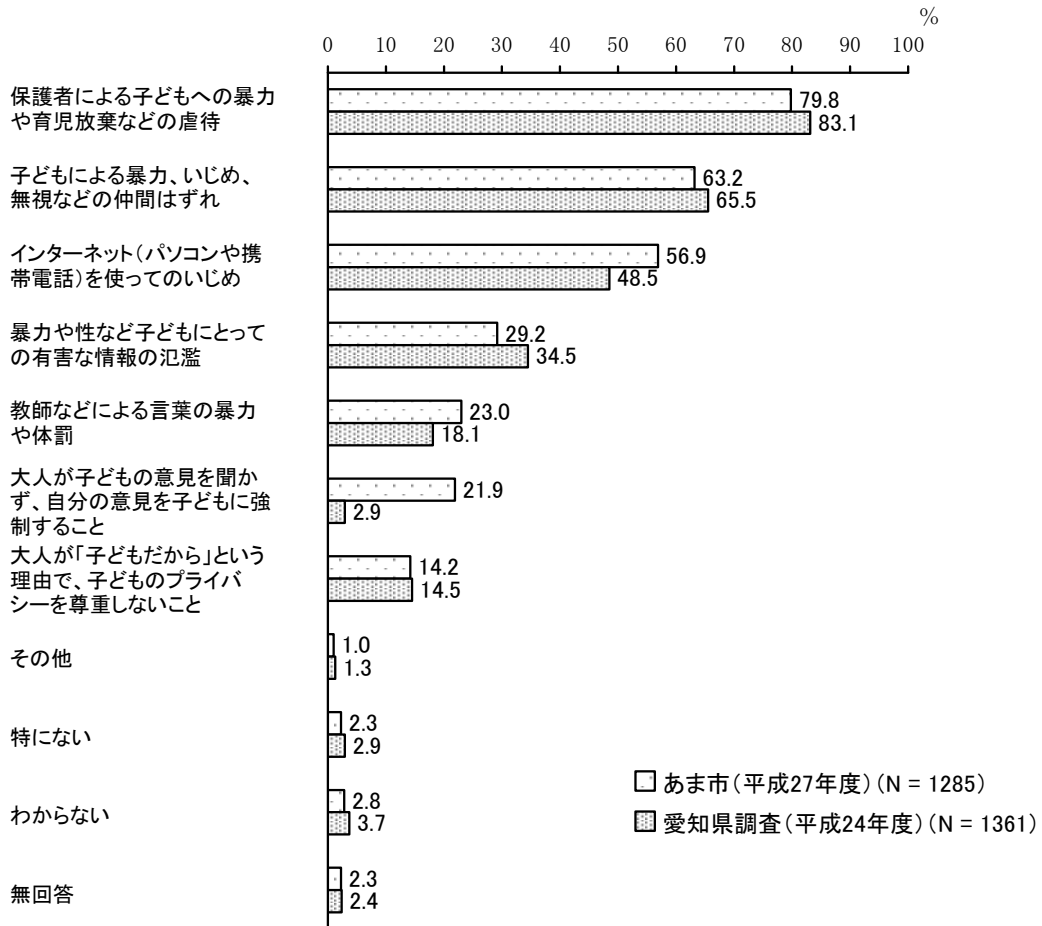
末子学齢別で見ると、就学前の子どもがいる、小学生の子どもがいるで「インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ」の割合が高くなっています。また、高校生以上の子どもがいるで「保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待」「教師などによる言葉の暴力や体罰」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待	大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること	大人が「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと	仲間はずれ	子どもによる暴力、いじめ、無視などの	インターネット（パソコンや携帯電話）を使ってのいじめ	教師などによる言葉の暴力や体罰	暴力や性など子どもにとっての有害な情報 の氾濫	その他	特になし	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	79.3	19.3	11.4	67.1	70.7	18.6	30.0	1.4	0.7	1.4	0.7	
小学生の子どもがいる	91	78.0	15.4	9.9	64.8	73.6	16.5	31.9	2.2	1.1	2.2	—	
中学生の子どもがいる	44	77.3	18.2	11.4	68.2	63.6	15.9	29.5	—	2.3	—	—	
高校生以上の子どもがいる	526	84.4	23.0	15.2	68.8	57.0	27.4	33.8	1.0	1.5	2.3	1.3	
子どもはいない	140	72.9	20.7	13.6	60.7	52.1	22.1	27.1	0.7	4.3	4.3	3.6	

## 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること」の割合が19.0ポイント高くなっています。一方、「暴力や性など子どもにとっての有害な情報の氾濫」の割合が5.3ポイント低くなっています。

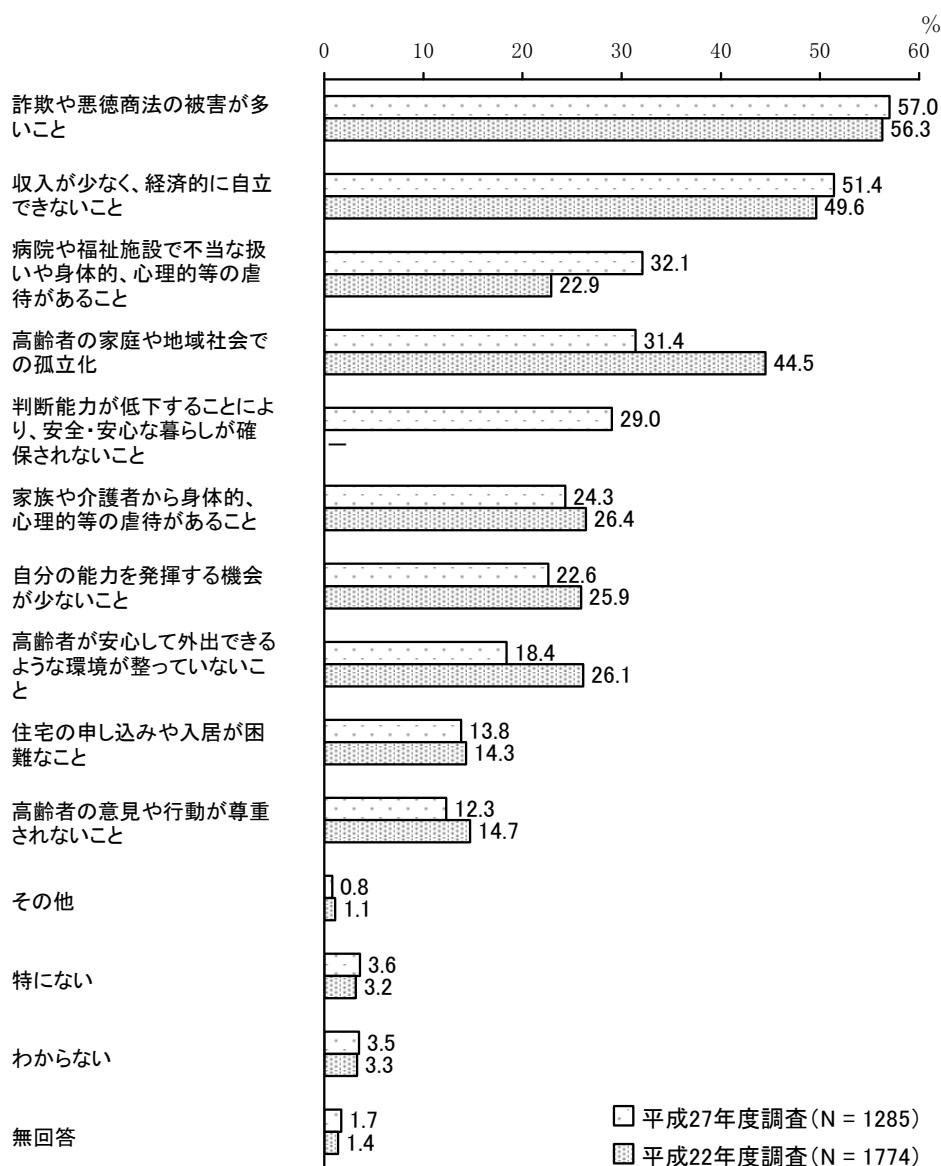


#### (4) 高齢者の人権について

問 20. 高齢者に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「詐欺や悪徳商法の被害が多いこと」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「収入が少なく、経済的に自立できないこと」の割合が 51.4%、「病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること」の割合が 32.1%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること」の割合が 9.2 ポイント増加しています。一方、「高齢者の家庭や地域社会での孤立化」割合が 13.1 ポイント、「高齢者が安心して外出できるような環境が整っていないこと」割合が 7.7 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数（件）	収入が少なく、経済的に自立できないこと	自分の能力を發揮する機会が少ないこと	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	家族や介護者から身体的、心理的等の虐待があること	病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること	詐欺や悪徳商法の被害が多いこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	高齢者が安心して外出できるような環境が整っていないこと	高齢者の家庭や地域社会での孤立化	判断能力が低下することにより、安全・安心な暮らしが確保されないこと	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	51.8	22.4	12.1	23.1	30.3	55.3	12.5	16.7	31.3	29.2	0.7	3.9	3.3	1.9
女性	704	51.4	22.9	12.6	25.7	33.9	58.5	14.8	20.0	31.8	29.1	0.9	3.4	3.4	1.4



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、女性の50～59歳で「病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「自分の能力を発揮する機会が少ないこと」の割合が高くなっています。また、女性の20～29歳、40～49歳で「高齢者の家庭や地域社会での孤立化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	収入が少なく、経済的に自立できないこと	自分の能力を発揮する機会が少ないこと	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	家族や介護者から身体的、心理的等の虐待があること	病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること	詐欺や悪徳商法の被害が多いこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	高齢者が安心して外出できるような環境が整っていないこと	高齢者の家庭や地域社会での孤立化	判断能力が低下することにより、安全・安心な暮らしが確保されないこと	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	47.2	25.0	16.7	33.3	41.7	44.4	13.9	27.8	33.3	27.8	2.8	2.8	2.8	2.8
30～39歳	75	37.3	25.3	8.0	20.0	32.0	58.7	20.0	14.7	29.3	32.0	—	2.7	2.7	—
40～49歳	109	56.9	21.1	6.4	16.5	26.6	48.6	8.3	9.2	33.0	23.9	1.8	6.4	2.8	1.8
50～59歳	93	52.7	19.4	10.8	25.8	32.3	59.1	19.4	17.2	33.3	33.3	—	2.2	3.2	1.1
60～69歳	122	56.6	24.6	15.6	25.4	32.8	52.5	12.3	16.4	32.8	30.3	—	2.5	3.3	3.3
70歳以上	133	51.9	21.1	15.8	23.3	25.6	61.7	6.8	21.1	27.8	28.6	0.8	5.3	4.5	2.3
女性 20～29歳	62	41.9	19.4	8.1	35.5	37.1	53.2	19.4	16.1	45.2	33.9	—	—	6.5	—
30～39歳	93	48.4	26.9	4.3	28.0	36.6	59.1	15.1	15.1	35.5	25.8	—	4.3	2.2	—
40～49歳	124	50.8	33.1	10.5	23.4	39.5	62.1	21.0	13.7	41.9	28.2	2.4	0.8	6.5	0.8
50～59歳	93	58.1	23.7	8.6	32.3	43.0	50.5	15.1	20.4	34.4	35.5	2.2	1.1	1.1	1.1
60～69歳	170	54.1	19.4	19.4	25.3	34.7	63.5	12.9	24.1	32.4	30.6	0.6	2.9	1.8	2.9
70歳以上	161	50.3	16.8	16.1	18.6	20.5	56.5	9.9	24.8	14.9	24.8	—	8.1	3.7	1.9

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	収入が少なく、経済的に自立できないこと	自分の能力を發揮する機会が少ないこと	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	家族や介護者から身体的、心理的等の虐待があること	病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること	詐欺や悪徳商法の被害が多いこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	高齢者が安心して外出できるような環境が整っていないこと	高齢者の家庭や地域社会での孤立化	判断能力が低下することにより、安全・安心な暮らしが確保されないこと	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	52.5	19.6	11.1	22.0	32.3	57.5	12.3	17.3	29.6	31.4	0.3	3.8	3.2	1.5
旧美和町	370	49.2	23.0	12.4	24.6	33.8	58.9	11.6	20.0	32.4	27.8	1.4	4.1	3.8	2.4
旧甚目寺町	472	52.5	22.5	13.6	27.3	29.9	56.4	15.0	19.3	32.2	28.6	0.8	2.5	2.8	0.8

【職業別】

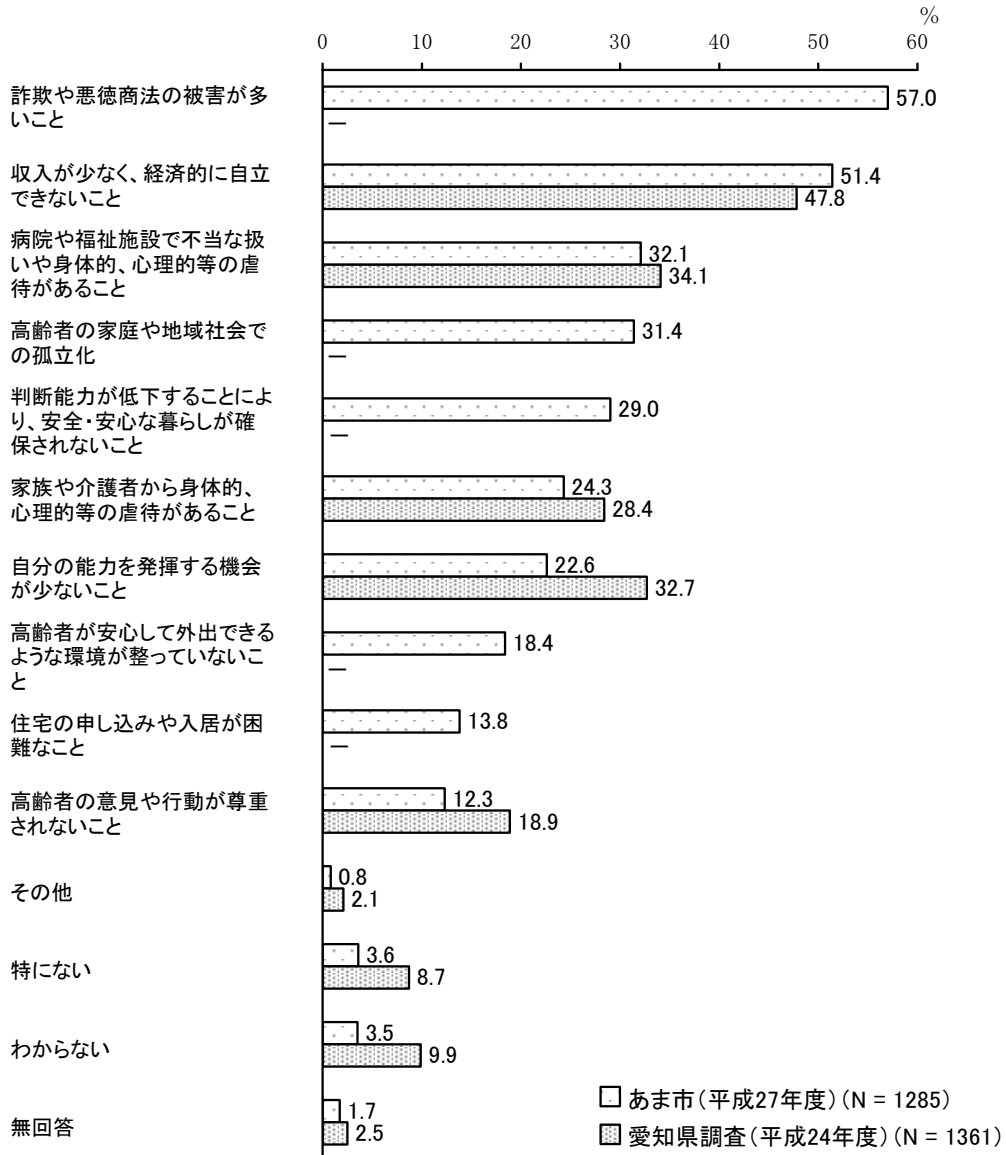
職業別でみると、教員で「病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること」「高齢者が安心して外出できるような環境が整っていないこと」「判断能力が低下することにより、安全・安心な暮らしが確保されないこと」の割合が高くなっています。また、学生で「家族や介護者から身体的、心理的等の虐待があること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	収入が少なく、経済的に自立できないこと	自分の能力を發揮する機会が少ないこと	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	家族や介護者から身体的、心理的等の虐待があること	病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的等の虐待があること	詐欺や悪徳商法の被害が多いこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	高齢者が安心して外出できるような環境が整っていないこと	高齢者の家庭や地域社会での孤立化	判断能力が低下することにより、安全・安心な暮らしが確保されないこと	その他	特にない	わからない	無回答
自営業	114	52.6	25.4	15.8	19.3	25.4	53.5	13.2	17.5	22.8	28.9	—	4.4	3.5	1.8
民間企業・団体の経営者、役員	22	50.0	27.3	4.5	22.7	31.8	63.6	22.7	18.2	27.3	31.8	—	13.6	—	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	48.8	30.7	12.6	25.2	36.2	56.7	18.1	11.0	38.6	28.3	—	3.9	3.9	1.6
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	47.9	23.2	5.7	23.7	34.5	53.6	14.4	11.9	35.1	33.5	1.0	3.1	2.1	—
臨時雇、パート、派遣	193	56.5	27.5	11.4	23.8	33.7	58.0	19.2	18.7	34.7	32.1	1.0	1.6	3.1	1.6
公務員	43	44.2	16.3	9.3	30.2	34.9	51.2	7.0	14.0	34.9	23.3	4.7	2.3	2.3	—
教員	15	66.7	20.0	6.7	26.7	60.0	66.7	20.0	40.0	46.7	66.7	—	—	—	—
その他の有業者(1～7以外)	8	75.0	37.5	12.5	12.5	12.5	50.0	—	12.5	37.5	12.5	—	—	—	12.5
家事専業	256	48.8	16.4	12.9	26.2	32.4	59.8	9.8	18.8	26.6	24.2	1.6	3.9	4.7	2.0
学生	22	54.5	27.3	18.2	45.5	31.8	50.0	18.2	31.8	45.5	31.8	—	—	—	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	53.0	19.4	16.2	23.7	27.3	60.1	11.1	25.3	29.2	28.5	—	4.3	4.3	2.8
その他	20	60.0	35.0	15.0	25.0	50.0	50.0	15.0	20.0	40.0	30.0	—	5.0	—	5.0

### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「自分の能力を發揮する機会が少ないこと」の割合が10.1ポイント、「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」の割合が6.6ポイント低くなっています。

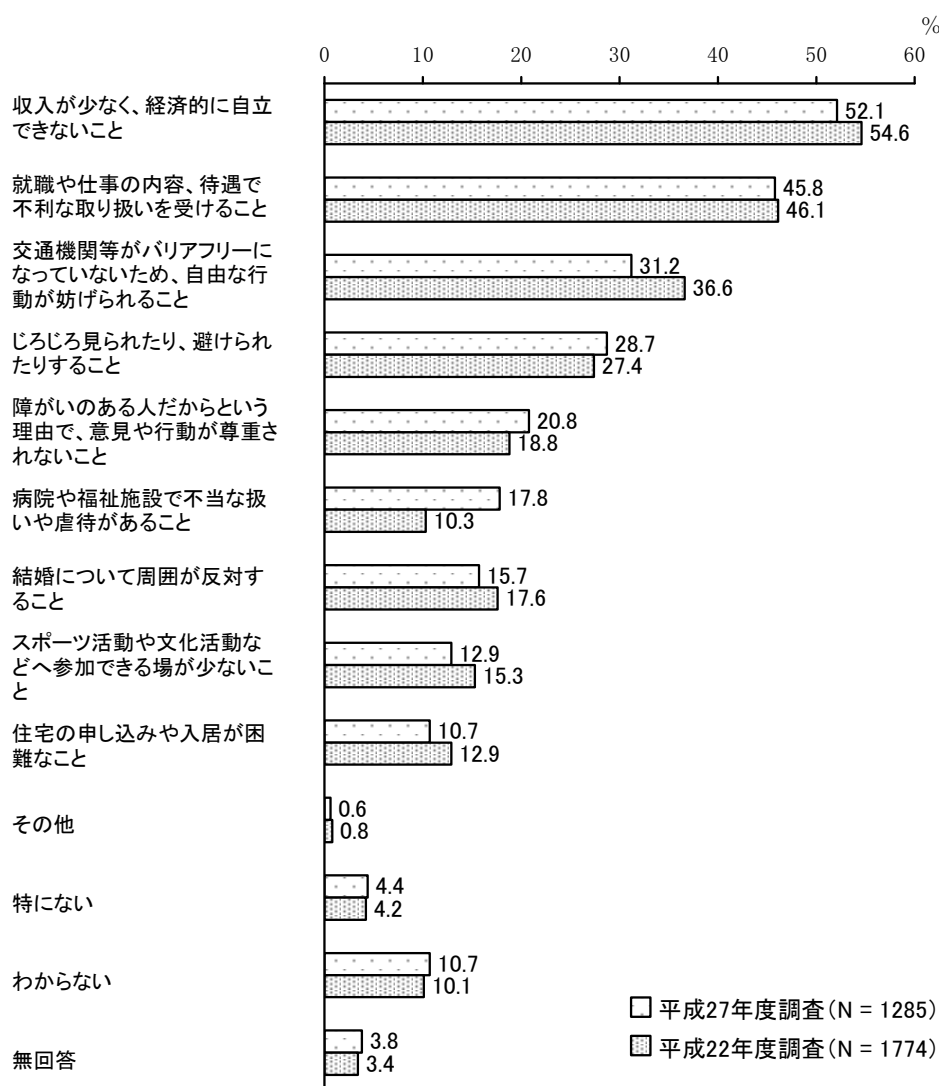


## (5) 障がいのある人の人権について

問 21. 障がいのある人に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「収入が少なく、経済的に自立できないこと」の割合が52.1%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること」の割合が45.8%、「交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること」の割合が31.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「病院や福祉施設で不当な扱いや虐待があること」の割合が7.5ポイント増加しています。一方、「交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること」の割合が5.4ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「収入が少なく、経済的に自立できないこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	結婚について周囲が反対すること	収入が少なく、経済的に自立できないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること	障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと	交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること	病院や福祉施設で不当な扱いや虐待があること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	スポーツ活動や文化活動などへ参加できる場が少ないこと	その他	特にない	わからない	無回答
男性	568	17.1	55.8	45.8	19.7	29.8	15.7	9.9	27.5	15.5	0.7	4.6	7.9	4.0
女性	704	14.5	49.9	46.4	21.9	32.7	19.9	11.4	30.1	10.9	0.6	4.0	12.4	3.6

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「結婚について周囲が反対すること」「障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっています。また、女性の50～59歳で「交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	結婚について周囲が反対すること	収入が少なく、経済的に自立できないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること	障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと	障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと	交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること	病院や福祉施設で不当な扱いや虐待があること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	スポーツ活動や文化活動などへ参加できる場が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	30.6	52.8	55.6	41.7	27.8	22.2	11.1	38.9	19.4	—	2.8	2.8	2.8	
30～39歳	75	10.7	50.7	37.3	20.0	26.7	17.3	6.7	33.3	13.3	—	6.7	5.3	—	
40～49歳	109	18.3	51.4	45.9	13.8	30.3	13.8	5.5	25.7	9.2	1.8	3.7	9.2	3.7	
50～59歳	93	22.6	60.2	48.4	18.3	33.3	16.1	15.1	30.1	15.1	—	2.2	9.7	2.2	
60～69歳	122	13.1	60.7	50.0	18.0	28.7	14.8	12.3	27.9	17.2	0.8	5.7	8.2	4.9	
70歳以上	133	15.8	55.6	42.1	21.1	30.1	15.0	9.0	20.3	19.5	0.8	5.3	8.3	7.5	
女性 20～29歳	62	19.4	43.5	46.8	29.0	32.3	29.0	6.5	50.0	19.4	—	1.6	12.9	—	
30～39歳	93	11.8	51.6	47.3	22.6	35.5	20.4	9.7	34.4	7.5	—	3.2	7.5	—	
40～49歳	124	12.9	53.2	52.4	25.8	33.9	25.0	9.7	30.6	12.9	0.8	0.8	11.3	3.2	
50～59歳	93	17.2	57.0	51.6	17.2	41.9	15.1	8.6	34.4	5.4	1.1	1.1	9.7	1.1	
60～69歳	170	12.9	47.6	52.9	27.1	31.8	19.4	14.1	26.5	11.2	0.6	2.9	12.4	6.5	
70歳以上	161	15.5	47.2	31.7	13.0	26.1	15.5	14.3	21.1	11.2	0.6	10.6	16.8	5.6	

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	結婚について周囲が反対すること	収入が少なく、経済的に自立できないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること	障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと	交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること	病院や福祉施設で不当な扱いや虐待があること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	スポーツ活動や文化活動などへ参加できる場が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	14.7	55.1	44.6	19.9	32.0	18.2	9.4	28.7	12.3	0.9	5.9	9.1	3.2
旧美和町	370	14.1	52.2	47.8	19.5	28.6	18.4	10.3	28.9	14.6	1.1	3.2	10.0	4.9
旧甚目寺町	472	18.0	50.6	46.8	21.4	33.3	16.9	10.6	29.7	12.1	0.2	3.6	11.2	2.5



【職業別】

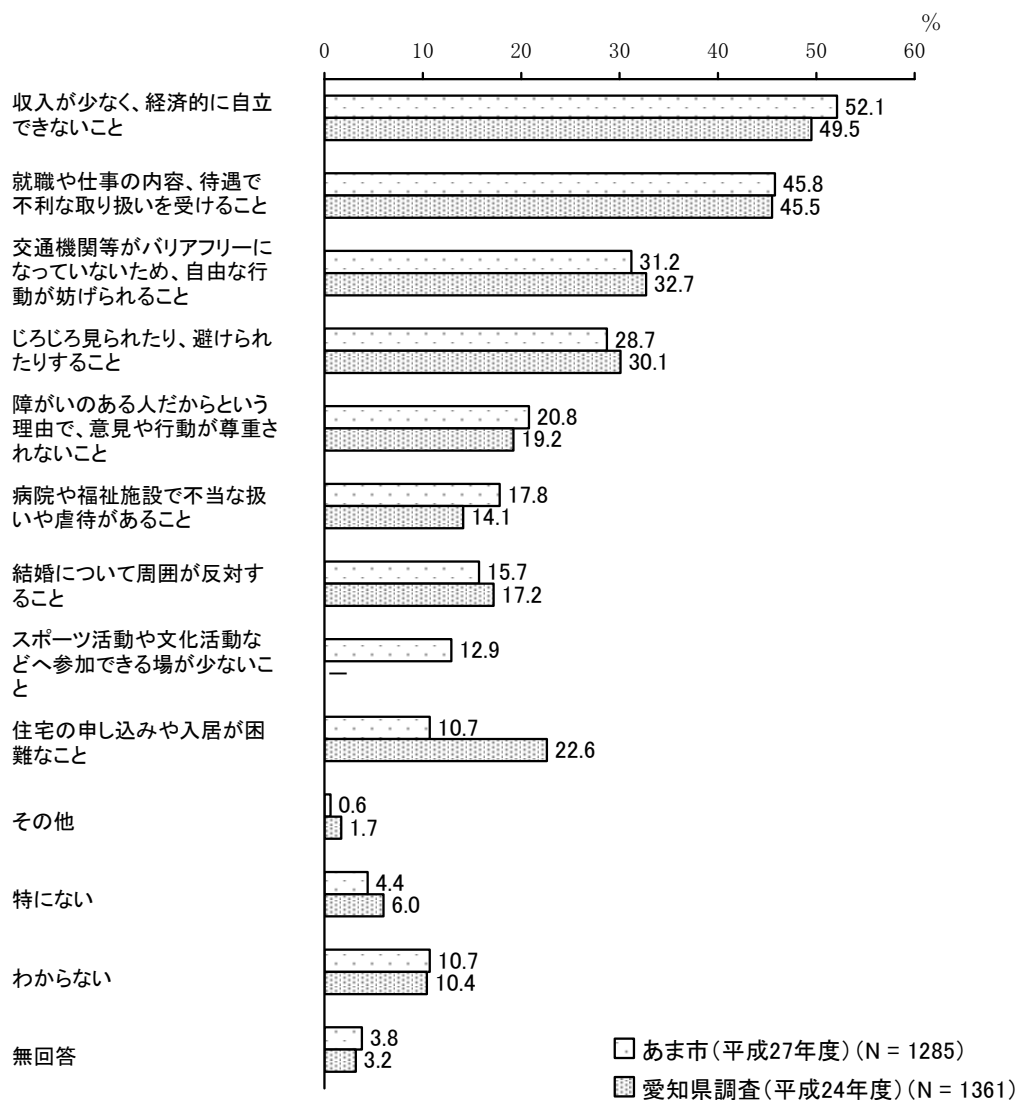
職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員、教員で「病院や福祉施設で不当な扱いや虐待があること」の割合が高くなっています。教員で「結婚について周囲が反対すること」「収入が少なく、経済的に自立できないこと」「交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること」の割合が高くなっています。また、学生で「就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること」「障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	結婚について周囲が反対すること	収入が少なく、経済的に自立できないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること	障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと	交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること	病院や福祉施設で不当な扱いや虐待があること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	スポーツ活動や文化活動などへ参加できる場が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	16.7	57.9	43.9	20.2	21.9	16.7	8.8	23.7	14.9	0.9	3.5	8.8	2.6
民間企業・団体の経営者、役員	22	18.2	54.5	50.0	27.3	54.5	27.3	9.1	31.8	4.5	—	—	13.6	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	17.3	57.5	48.8	22.8	33.1	15.7	11.0	35.4	14.2	0.8	4.7	8.7	2.4
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	16.5	54.1	42.3	17.5	33.5	14.9	7.2	32.5	11.9	1.0	4.1	8.8	—
臨時雇、パート、派遣	193	13.0	49.7	51.3	21.8	32.6	16.6	10.9	32.6	10.4	0.5	1.6	11.9	4.7
公務員	43	16.3	51.2	48.8	20.9	25.6	16.3	9.3	34.9	9.3	—	9.3	4.7	—
教員	15	33.3	66.7	53.3	26.7	73.3	33.3	20.0	40.0	13.3	6.7	—	—	—
その他の有業者(1～7以外)	8	25.0	50.0	37.5	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	—	—	—	12.5
家事専業	256	14.1	47.3	44.9	19.5	31.3	21.9	14.5	26.2	12.5	—	3.5	14.8	4.7
学生	22	22.7	54.5	68.2	40.9	40.9	18.2	9.1	50.0	22.7	—	4.5	—	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	15.4	54.2	43.1	21.7	28.9	17.4	10.7	22.1	15.4	0.8	6.7	10.7	5.5
その他	20	15.0	40.0	45.0	10.0	35.0	20.0	5.0	30.0	10.0	—	10.0	5.0	10.0

## 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「住宅の申し込みや入居が困難なこと」の割合が11.9ポイント低くなっています。

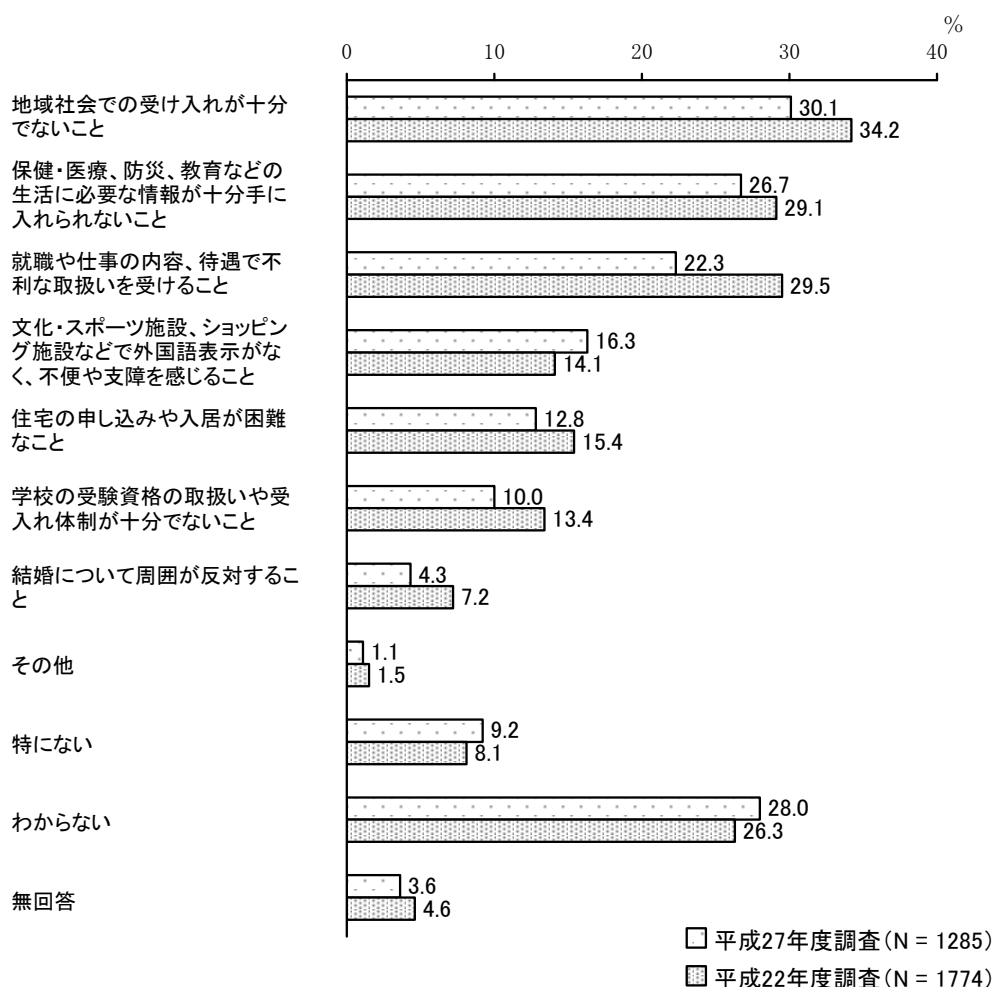


## (6) 外国人の人権について

問 22. 日本に居住している外国人に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「地域社会での受け入れが十分でないこと」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 28.0%、「保健・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分手に入れないこと」の割合が 26.7%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」の割合が 7.2 ポイント減少しています。



## 【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「地域社会での受け入れが十分でないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	地域社会での受け入れが十分でないこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	保健・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分手に入れないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること	学校の受験資格の取扱いや受入れ体制が十分でないこと	文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、不便や支障を感じる事	結婚について周囲が反対すること	その他	特にない	わからない	無回答
男性	568	33.5	14.4	27.3	22.4	10.6	19.0	5.6	1.8	10.6	22.4	3.3
女性	704	27.3	11.6	26.3	22.6	9.4	14.3	3.0	0.6	8.1	32.2	3.7

## 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～29歳で「文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、不便や支障を感じる事」の割合が高くなっています。女性の60歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	地域社会での受け入れが十分でないこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	保健・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分手に入れないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること	学校の受験資格の取扱いや受入れ体制が十分でないこと	文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、不便や支障を感じる事	結婚について周囲が反対すること	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	19.4	16.7	27.8	22.2	16.7	27.8	2.8	2.8	16.7	13.9	2.8
30～39歳	75	38.7	18.7	28.0	22.7	10.7	14.7	8.0	1.3	12.0	13.3	—
40～49歳	109	31.2	14.7	19.3	15.6	3.7	15.6	0.9	3.7	17.4	22.0	2.8
50～59歳	93	38.7	18.3	31.2	24.7	14.0	18.3	7.5	1.1	6.5	23.7	1.1
60～69歳	122	32.0	13.1	28.7	24.6	13.1	22.1	6.6	1.6	8.2	23.8	4.9
70歳以上	133	33.8	9.8	29.3	24.1	9.8	19.5	6.8	0.8	7.5	27.8	6.0
女性 20～29歳	62	35.5	17.7	35.5	27.4	6.5	25.8	3.2	—	8.1	22.6	—
30～39歳	93	22.6	11.8	25.8	25.8	11.8	19.4	2.2	—	8.6	22.6	—
40～49歳	124	30.6	16.9	33.1	25.0	10.5	12.1	2.4	1.6	5.6	26.6	2.4
50～59歳	93	25.8	10.8	35.5	30.1	12.9	16.1	5.4	—	6.5	30.1	2.2
60～69歳	170	26.5	10.6	24.1	18.8	7.1	14.1	3.5	1.2	6.5	38.8	5.9
70歳以上	161	26.1	6.8	14.9	16.8	8.7	8.1	1.9	—	12.4	39.8	6.8

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	地域社会での受け入れが十分でないこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	保健・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分手に入れないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること	学校の受験資格の取扱いや受入れ体制が十分でないこと	文化・スポーツ施設、シヨッピング施設などで外国語表示がなく、不便や支障を感じる事	結婚について周囲が反対すること	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	31.1	12.9	26.1	22.9	10.0	16.4	5.0	1.2	9.1	26.1	2.6
旧美和町	370	34.9	12.2	26.5	24.9	10.5	15.4	3.5	1.9	7.8	27.8	4.1
旧甚目寺町	472	26.3	12.7	28.6	20.1	10.2	16.9	4.4	0.6	8.1	30.1	3.2

【職業別】

職業別でみると、公務員で「地域社会での受け入れが十分でないこと」の割合が高くなっています。教員で「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」の割合が高くなっています。学生で「文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、不便や支障を感じること」の割合が高くなっています。また、民間企業・団体の経営者、役員、教員、学生で「保健・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分手に入れないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

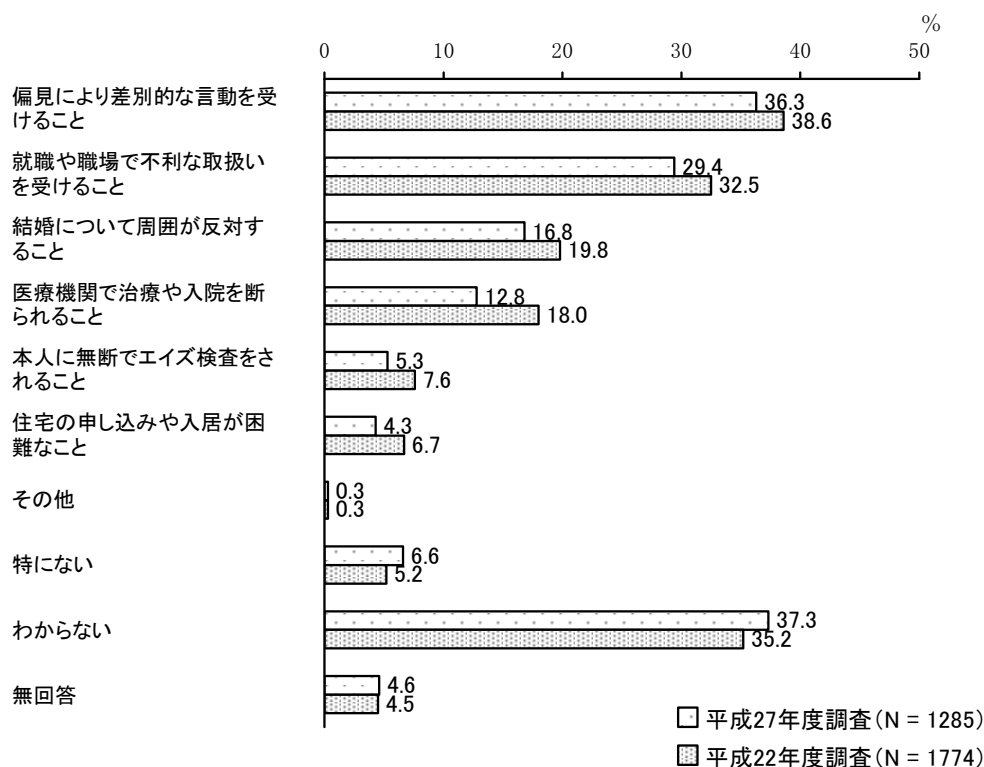
区分	有効回答数(件)	地域社会での受け入れが十分でないこと	住宅の申し込みや入居が困難なこと	保健・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分手に入れないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること	学校の受験資格の取扱いや受入れ体制が十分でないこと	文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、不便や支障を感じること	結婚について周囲が反対すること	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	22.8	8.8	18.4	19.3	8.8	19.3	5.3	0.9	13.2	28.1	4.4
民間企業・団体の経営者、役員	22	36.4	22.7	45.5	18.2	9.1	18.2	4.5	—	4.5	27.3	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	32.3	13.4	26.8	22.8	10.2	20.5	3.1	1.6	13.4	20.5	1.6
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	35.1	17.5	32.0	19.6	10.8	18.6	4.1	2.6	9.8	20.6	0.5
臨時雇、パート、派遣	193	28.0	15.5	28.0	24.9	7.8	11.4	4.1	0.5	7.8	26.9	4.1
公務員	43	51.2	11.6	39.5	30.2	11.6	16.3	2.3	—	7.0	14.0	—
教員	15	40.0	20.0	46.7	40.0	20.0	26.7	—	6.7	—	13.3	—
その他の有業者(1～7以外)	8	37.5	—	50.0	37.5	—	—	—	—	12.5	—	12.5
家事専業	256	23.8	10.5	21.9	20.7	9.8	13.3	3.5	1.2	6.3	38.3	4.7
学生	22	22.7	22.7	50.0	22.7	18.2	31.8	—	—	9.1	13.6	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	33.2	10.3	24.1	24.9	10.3	17.0	5.9	—	9.5	32.0	4.3
その他	20	30.0	5.0	15.0	10.0	20.0	20.0	10.0	5.0	15.0	35.0	5.0

## (7) エイズ患者・HIV（エイズウイルス）感染者、ハンセン病患者（元患者）の人権について

問 23. エイズ患者・HIV感染者に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。（〇印いくつでも）

「わからない」の割合が37.3%と最も高く、次いで「偏見により差別的な言動を受けること」の割合が36.3%、「就職や職場で不利な取扱いを受けること」の割合が29.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「医療機関で治療や入院を断られること」の割合が5.2ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	本人に無断でエイズ検査をされること	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	結婚について周囲が反対すること	その他	特にない	わからない	無回答
男性	568	30.5	12.5	6.0	36.4	4.6	18.5	0.5	9.2	34.0	4.2
女性	704	28.6	13.2	4.8	36.5	3.7	15.5	0.1	4.7	39.6	4.8

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女ともに 20～29 歳で「偏見により差別的な言動を受けること」の割合が高くなっています。また、男性の 20～29 歳で「医療機関で治療や入院を断られること」の割合が高くなっています。男性の 70 歳以上、女性の 60 歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	本人に無断でエイズ検査をされること	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	結婚について周囲が反対すること	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29 歳	36	33.3	27.8	13.9	52.8	5.6	13.9	—	8.3	19.4	2.8
30～39 歳	75	29.3	12.0	6.7	37.3	5.3	24.0	1.3	10.7	30.7	—
40～49 歳	109	25.7	10.1	1.8	36.7	—	13.8	1.8	9.2	32.1	2.8
50～59 歳	93	32.3	19.4	7.5	41.9	5.4	19.4	—	6.5	30.1	3.2
60～69 歳	122	36.1	11.5	9.0	41.8	7.4	21.3	—	6.6	36.1	4.9
70 歳以上	133	27.8	6.8	3.0	22.6	4.5	17.3	—	12.8	42.1	8.3
女性 20～29 歳	62	27.4	11.3	3.2	59.7	3.2	22.6	—	1.6	29.0	—
30～39 歳	93	28.0	14.0	3.2	41.9	2.2	11.8	—	5.4	38.7	—
40～49 歳	124	32.3	16.9	4.8	47.6	2.4	12.1	—	4.0	34.7	3.2
50～59 歳	93	37.6	17.2	7.5	45.2	2.2	14.0	1.1	3.2	31.2	2.2
60～69 歳	170	30.0	13.5	5.3	30.0	7.6	18.8	—	4.1	43.5	6.5
70 歳以上	161	19.9	8.1	4.3	18.0	2.5	14.9	—	7.5	48.4	10.6



【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	本人に無断でエイズ検査をされること	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	結婚について周囲が反対すること	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	32.3	13.2	4.7	37.5	3.8	16.7	0.6	7.3	33.7	4.1
旧美和町	370	28.1	11.4	4.1	35.1	3.8	15.9	0.3	4.1	40.3	5.1
旧甚目寺町	472	30.3	14.6	6.8	37.5	5.1	18.6	0.2	7.4	36.7	3.8

【職業別】

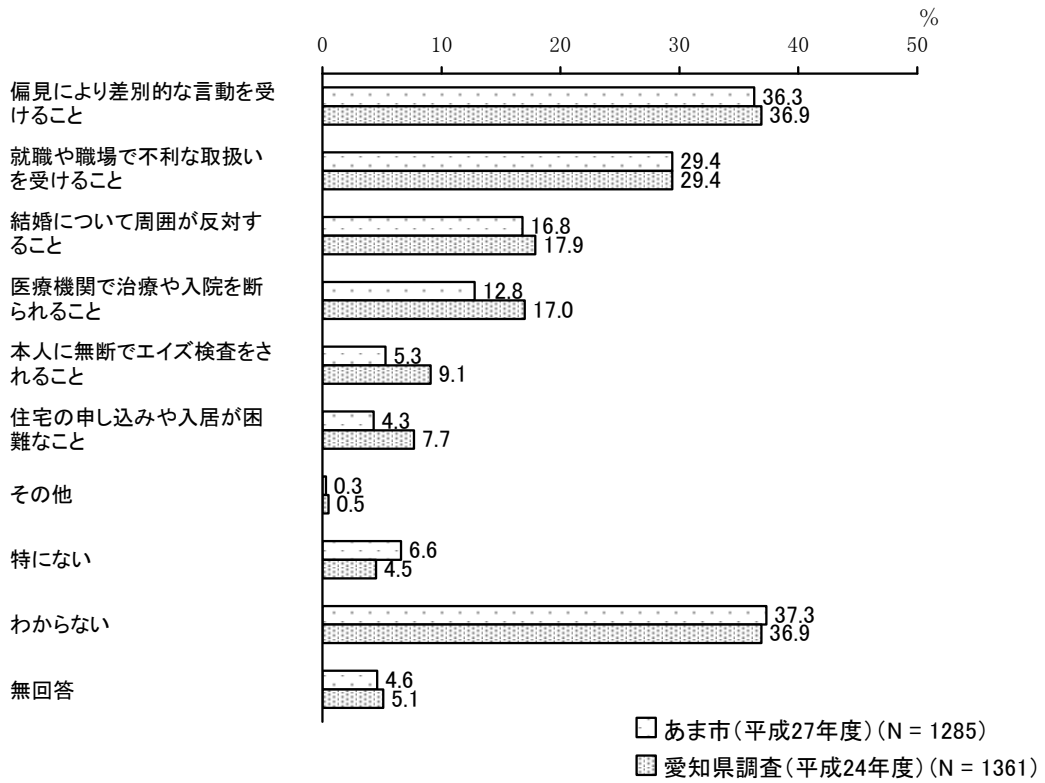
職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員、民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人、学生で「医療機関で治療や入院を断られること」の割合が高くなっています。公務員で「偏見により差別的な言動を受けること」の割合が高くなっています。また、学生で「本人に無断でエイズ検査をされること」「偏見により差別的な言動を受けること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	本人に無断でエイズ検査をされること	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	結婚について周囲が反対すること	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	28.1	15.8	9.6	30.7	5.3	16.7	—	7.9	39.5	5.3
民間企業・団体の経営者、役員	22	36.4	22.7	—	18.2	—	18.2	—	9.1	40.9	—
民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人	127	31.5	21.3	6.3	44.1	3.9	19.7	0.8	9.4	33.1	1.6
民間企業・団体（従業員数 100 人以上）の勤め人	194	31.4	13.4	3.6	40.7	2.1	20.6	1.0	7.2	28.9	0.5
臨時雇、パート、派遣	193	33.7	11.9	4.1	42.0	5.2	13.5	0.5	4.1	35.8	5.2
公務員	43	30.2	16.3	2.3	58.1	2.3	18.6	—	7.0	16.3	2.3
教員	15	40.0	13.3	6.7	46.7	—	26.7	—	6.7	33.3	—
その他の有業者（1～7 以外）	8	25.0	—	—	25.0	12.5	—	—	12.5	25.0	12.5
家事専業	256	24.2	11.3	4.3	32.4	3.9	17.2	—	5.5	44.1	5.9
学生	22	36.4	22.7	18.2	63.6	4.5	27.3	—	4.5	18.2	—
無職（求職中や定年後を含む）	253	28.1	7.5	5.9	28.5	5.9	13.8	—	6.7	44.3	6.3
その他	20	30.0	10.0	10.0	25.0	5.0	15.0	—	10.0	40.0	5.0

## 【愛知県調査との比較】

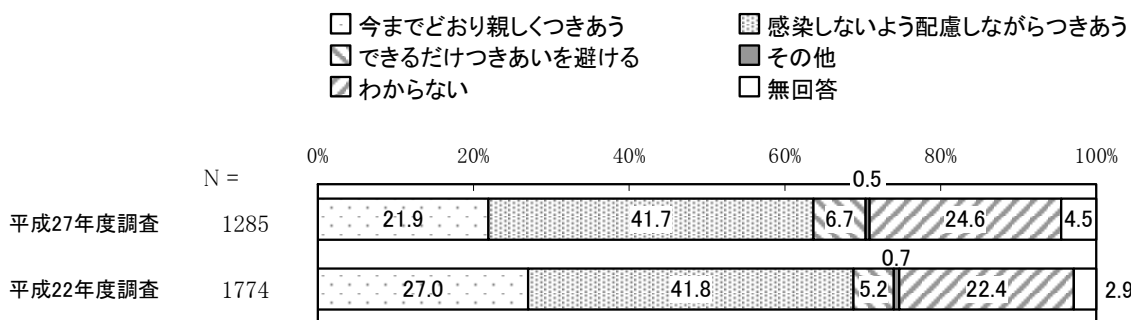
愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



**問 24. 仮に、あなたが職場や地域などで日ごろ親しくつきあっている人がHIV感染者であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(○印1つ)**

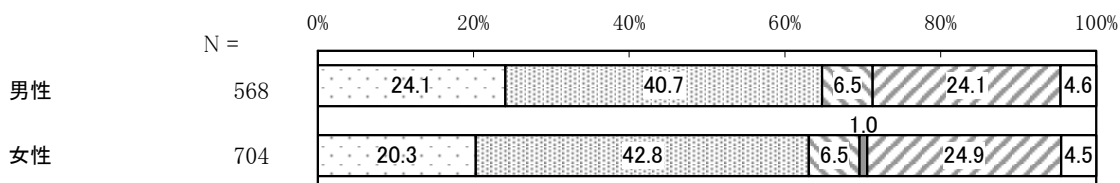
「感染しないよう配慮しながらつきあう」の割合が41.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が24.6%、「今までどおり親しくつきあう」の割合が21.9%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「今までどおり親しくつきあう」の割合が5.1ポイント減少しています。



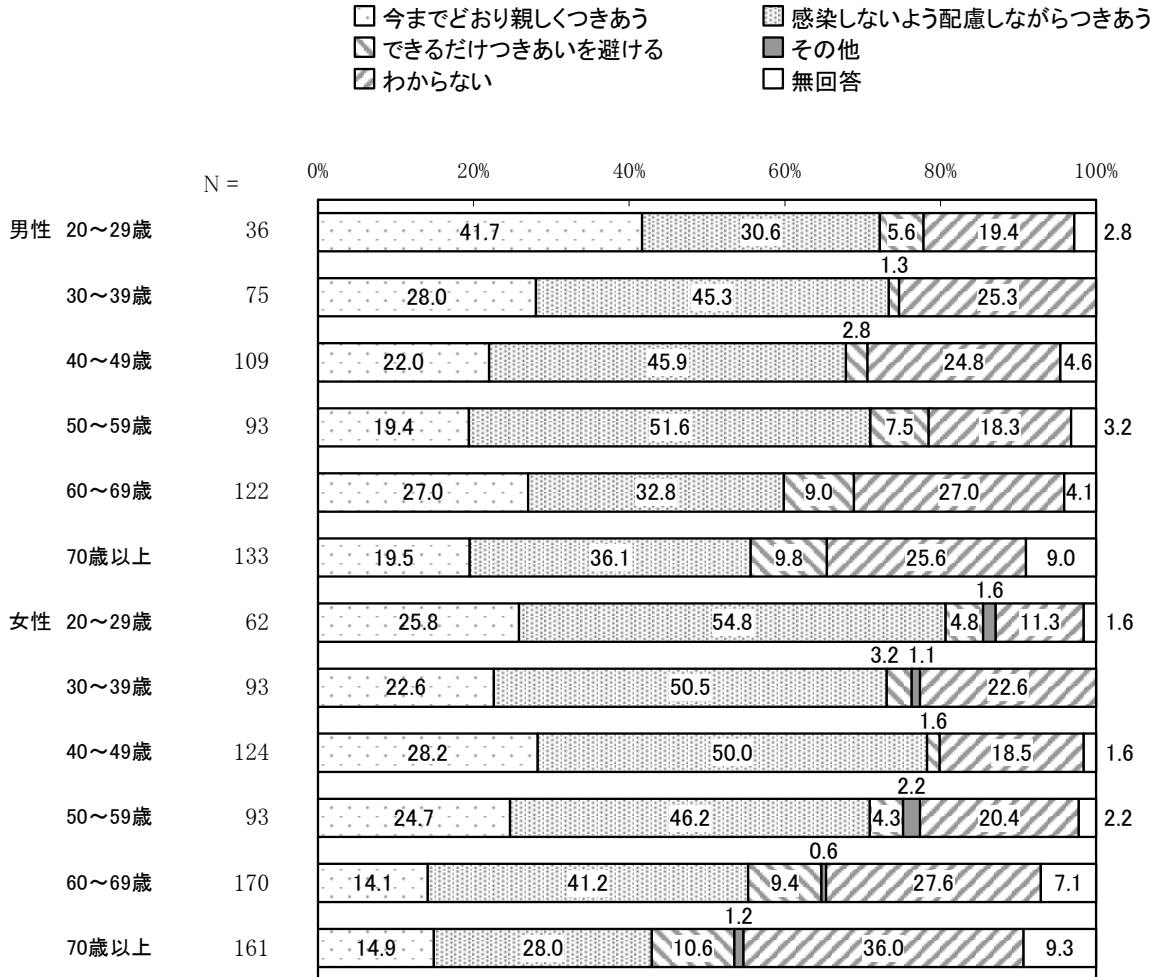
**【性別】**

性別でみると、大きな差異はみられません。



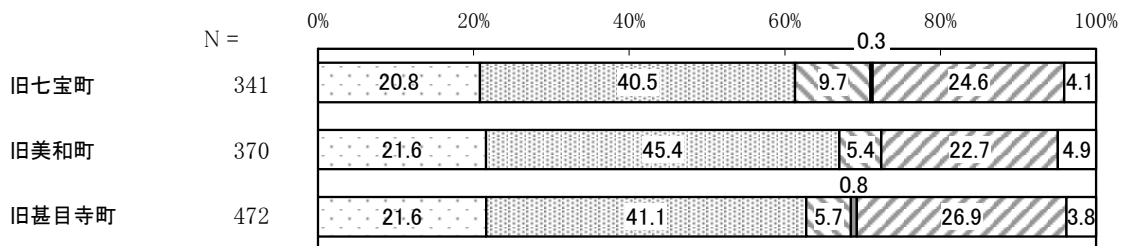
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳で「今までどおり親しくつきあう」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「感染しないよう配慮しながらつきあう」の割合が高くなっています。



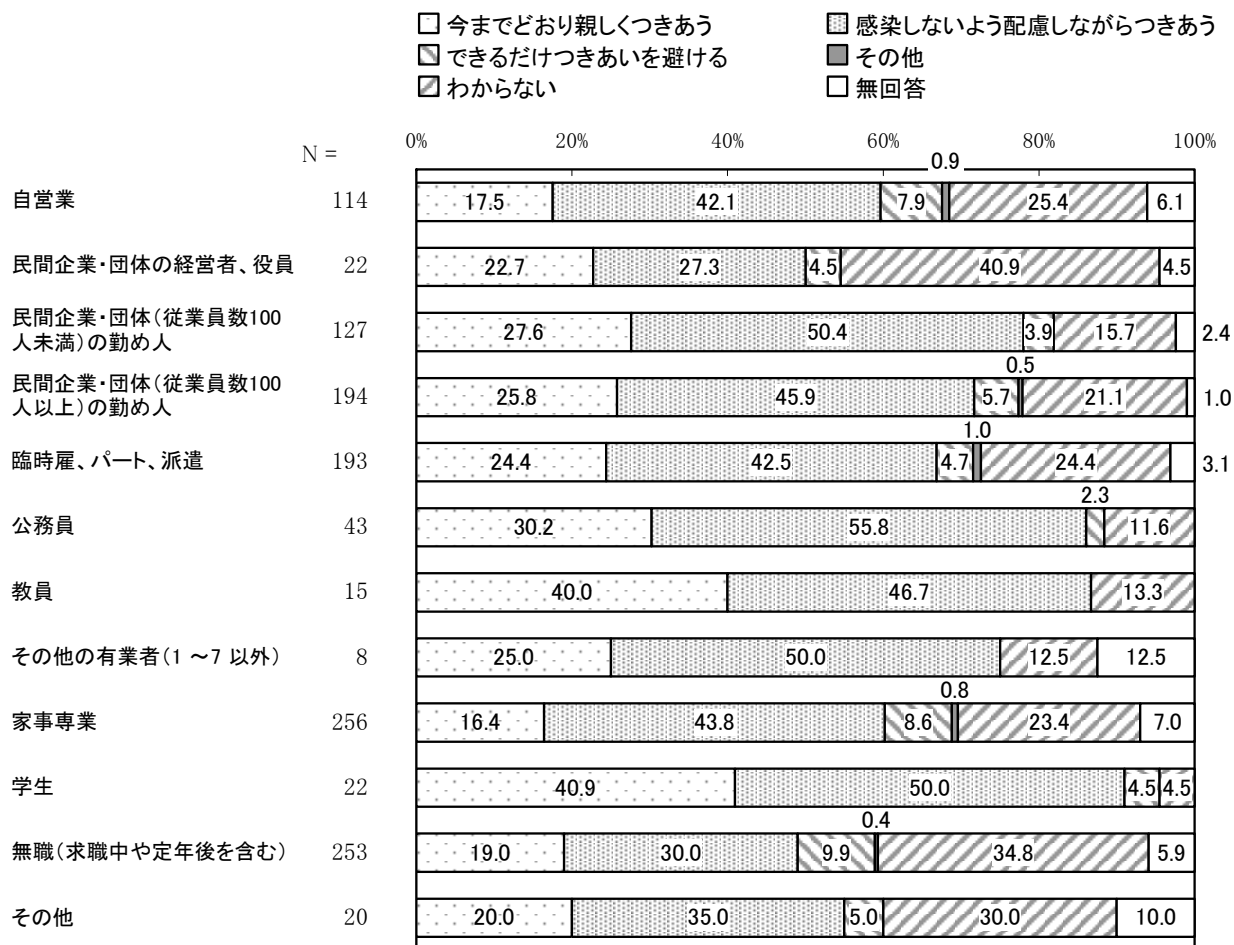
【居住地区別】

居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



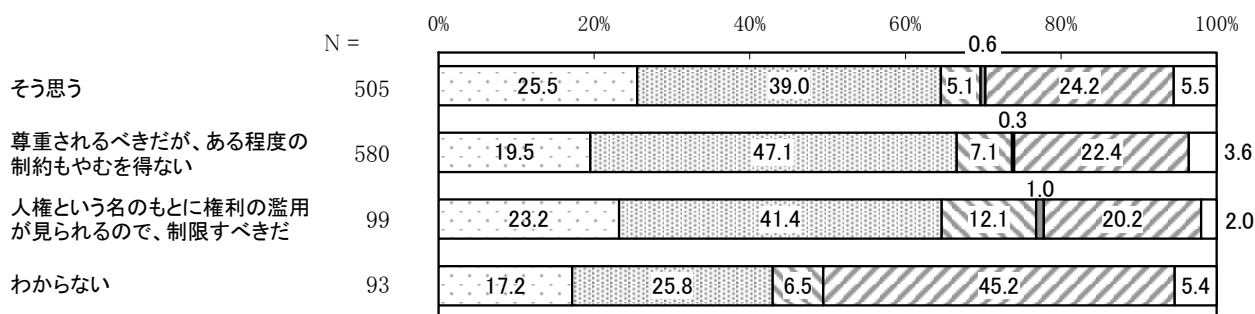
## 【職業別】

職業別でみると、公務員で「感染しないよう配慮しながらつきあう」の割合が高くなっています。また、教員、学生で「今までどおり親しくつきあう」の割合が高くなっています。



## 【人権尊重意識別】

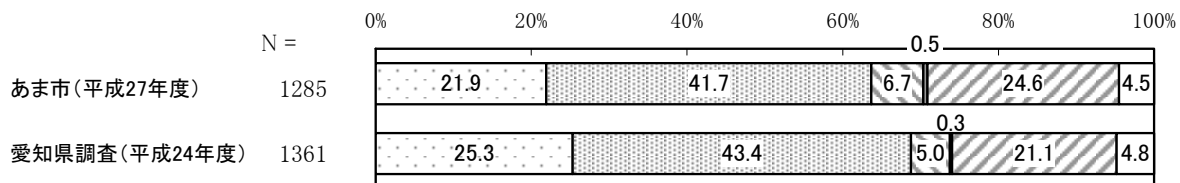
人権尊重意識別でみると、尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ないで「感染しないよう配慮しながらつきあう」の割合が高くなっています。また、人権という名のもとに権利の濫用が見られるので、制限すべきだで「できるだけつきあいを避ける」の割合が高くなっています。人権尊重についてよくわからない人で「わからない」の割合が高くなっています。



【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

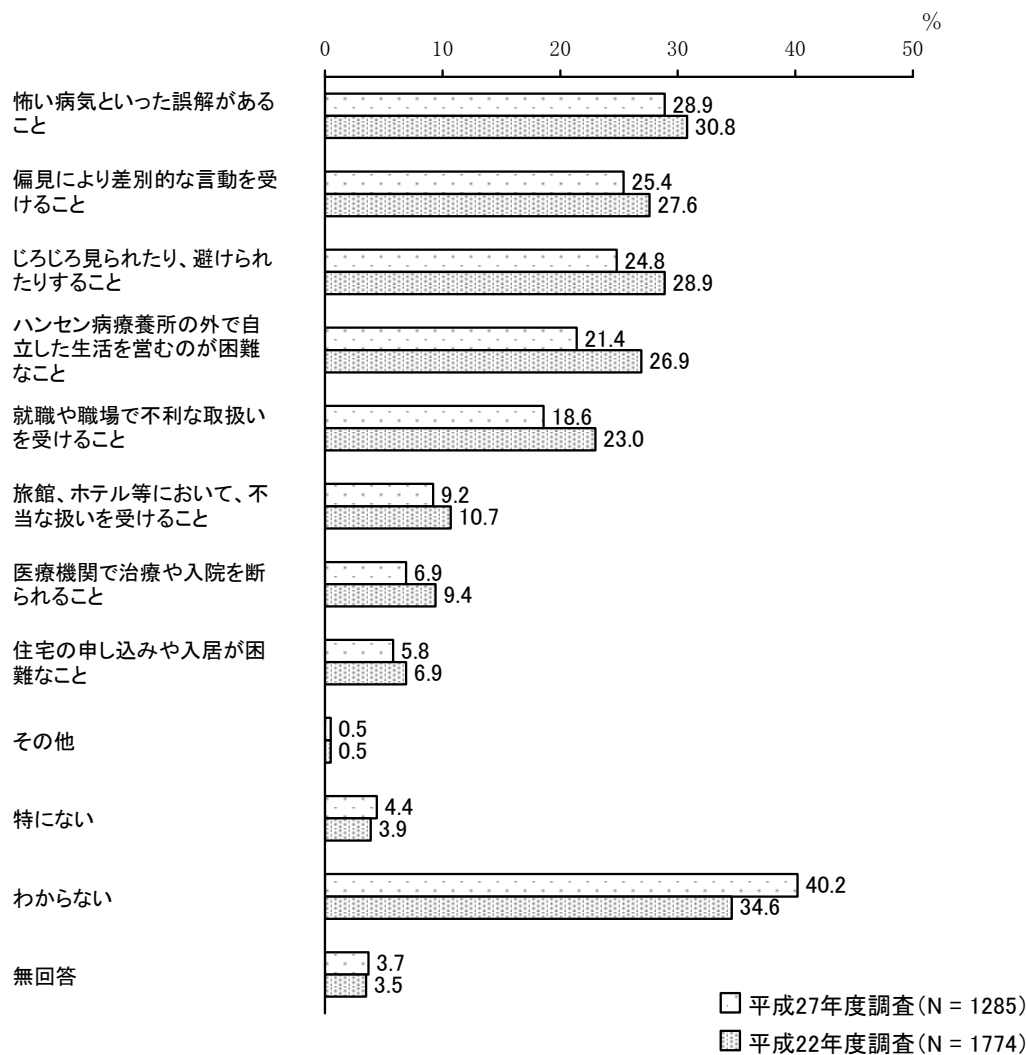
- 今までどおり親しくつきあう  
 できるだけつきあいを避ける  
 わからない
- 感染しないよう配慮しながらつきあう  
 その他  
 無回答



問 25. ハンセン病患者に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「わからない」の割合が40.2%と最も高く、次いで「怖い病気といった誤解があること」の割合が28.9%、「偏見により差別的な言動を受けること」の割合が25.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「わからない」の割合が5.6ポイント増加しています。一方、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が5.5ポイント減少しています。





【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	じろじろ見られたり、避けられたりすること	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること	怖い病気といった誤解があること	その他	特にない	わからない	無回答
男性	568	26.9	20.8	6.7	21.0	26.4	6.9	10.9	27.5	0.2	6.3	36.1	4.0
女性	704	23.3	16.8	7.2	22.0	24.6	4.8	7.8	30.3	0.7	2.7	43.5	3.4

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「就職や職場で不利な取扱いを受けること」「旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること」の割合が高くなっています。また、女性の50～59歳で「怖い病気といった誤解があること」の割合が高くなっています。女性の30～39歳で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	じろじろ見られたり、避けられたりすること	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること	怖い病気といった誤解があること	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	30.6	41.7	11.1	19.4	33.3	8.3	22.2	25.0	—	5.6	30.6	2.8
30～39歳	75	26.7	13.3	6.7	18.7	24.0	8.0	8.0	22.7	1.3	6.7	42.7	—
40～49歳	109	23.9	17.4	4.6	14.7	28.4	3.7	3.7	15.6	—	5.5	47.7	1.8
50～59歳	93	33.3	20.4	6.5	26.9	25.8	6.5	16.1	37.6	—	4.3	30.1	2.2
60～69歳	122	32.0	25.4	8.2	26.2	30.3	7.4	13.9	35.2	—	5.7	30.3	3.3
70歳以上	133	19.5	18.0	6.0	18.8	21.1	8.3	9.0	26.3	—	9.0	33.8	10.5
女性 20～29歳	62	22.6	21.0	8.1	11.3	22.6	4.8	6.5	32.3	3.2	1.6	43.5	—
30～39歳	93	24.7	16.1	7.5	22.6	23.7	1.1	6.5	18.3	—	1.1	57.0	—
40～49歳	124	24.2	17.7	7.3	25.0	26.6	4.0	8.1	25.8	—	1.6	47.6	0.8
50～59歳	93	32.3	19.4	9.7	29.0	31.2	8.6	11.8	40.9	—	1.1	37.6	1.1
60～69歳	170	24.1	18.2	8.2	21.8	30.0	6.5	8.8	31.8	0.6	1.8	41.2	4.7
70歳以上	161	16.1	11.8	4.3	19.9	14.9	3.7	5.6	32.3	1.2	6.8	37.9	8.7

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	じろじろ見られたり、避けられたりすること	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること	怖い病気といった誤解があること	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	27.6	18.5	5.0	21.4	25.8	5.3	8.2	27.6	—	5.9	38.1	3.2
旧美和町	370	21.1	17.8	6.2	24.3	23.5	6.8	8.9	29.2	1.6	3.2	41.4	4.1
旧甚目寺町	472	25.2	20.3	8.9	20.8	26.5	5.7	9.7	30.5	—	4.0	40.0	3.2

## 【職業別】

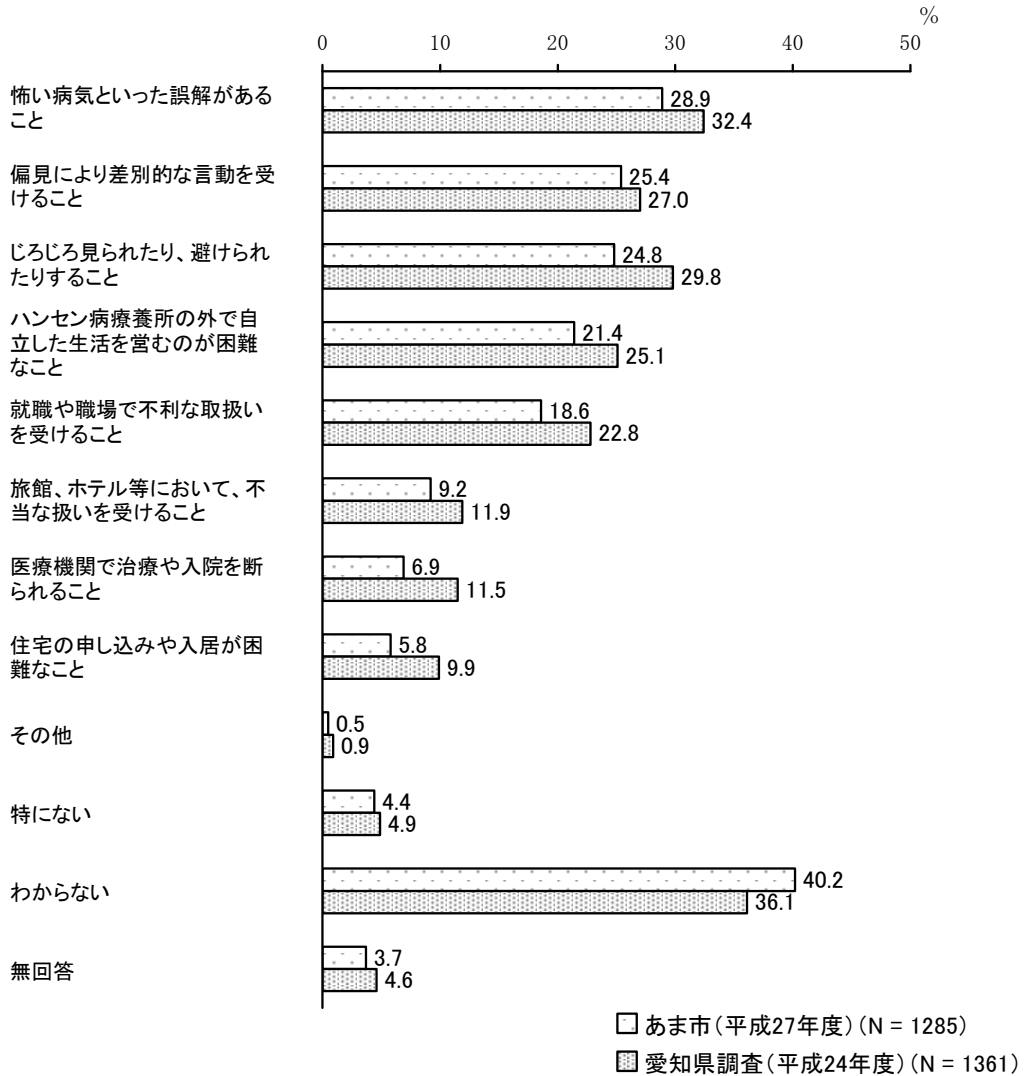
職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員、公務員で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっています。教員で「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が高くなっています。また、民間企業・団体の経営者、役員で「怖い病気といった誤解があること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	じろじろ見られたり、避けられたりすること	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	偏見により差別的な言動を受けること	住宅の申し込みや入居が困難なこと	旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること	怖い病気といった誤解があること	その他	特にない	わからない	無回答
自営業	114	18.4	19.3	5.3	21.1	22.8	5.3	7.9	25.4	—	10.5	34.2	6.1
民間企業・団体の経営者、役員	22	50.0	22.7	4.5	27.3	27.3	9.1	4.5	45.5	—	—	40.9	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	27.6	16.5	7.1	26.0	27.6	7.9	8.7	26.8	0.8	6.3	37.8	0.8
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	29.4	20.6	4.6	22.2	25.3	2.6	7.2	24.7	0.5	4.1	39.2	1.0
臨時雇、パート、派遣	193	23.8	20.2	8.3	19.7	24.4	5.2	7.8	29.0	—	1.0	48.2	3.1
公務員	43	46.5	11.6	9.3	23.3	37.2	4.7	14.0	37.2	—	4.7	25.6	—
教員	15	20.0	20.0	6.7	53.3	40.0	—	13.3	40.0	—	6.7	26.7	6.7
その他の有業者(1～7以外)	8	25.0	25.0	—	—	25.0	—	25.0	25.0	—	12.5	12.5	—
家事専業	256	21.5	16.0	7.0	20.7	22.3	4.7	8.6	27.3	0.4	2.0	47.7	4.3
学生	22	22.7	31.8	9.1	13.6	31.8	4.5	18.2	13.6	—	4.5	40.9	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	22.1	19.4	8.7	21.3	27.7	9.9	11.1	35.2	0.4	4.7	35.2	5.9
その他	20	25.0	10.0	5.0	10.0	15.0	5.0	10.0	30.0	5.0	15.0	40.0	—

### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が 5.0 ポイント低くなっています。

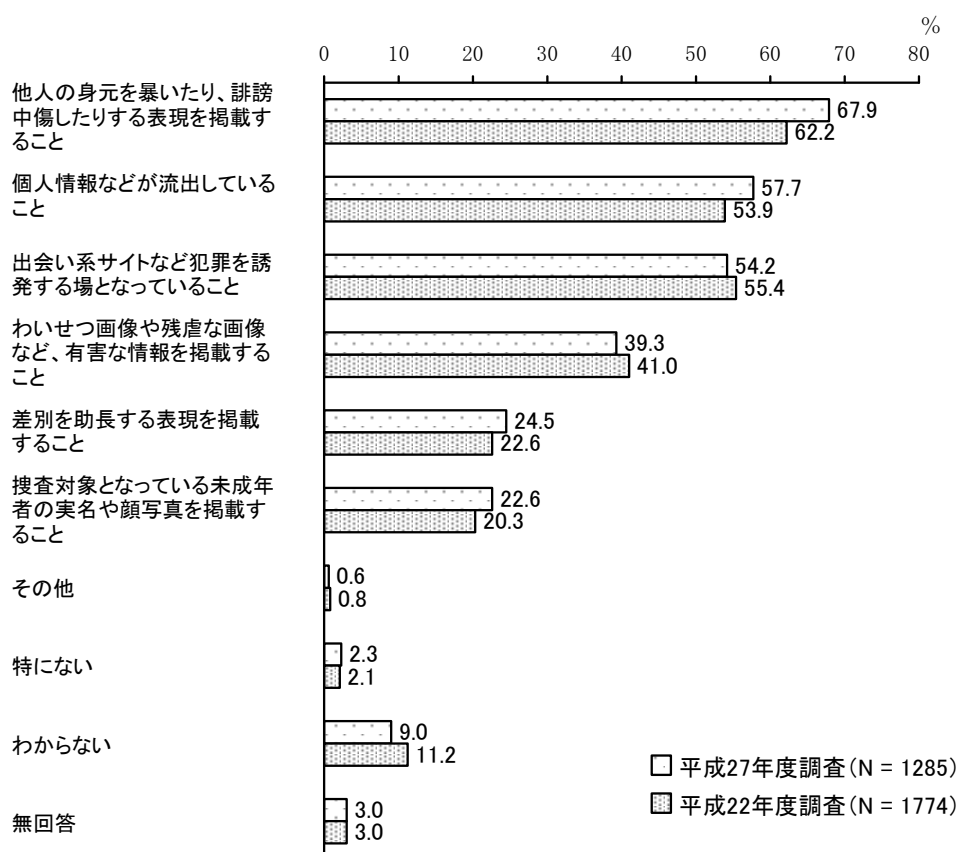


## (8) インターネットによる人権侵害について

問 26. インターネットによる人権侵害の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印いくつでも)

「他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること」の割合が67.9%と最も高く、次いで「個人情報などが流出していること」の割合が57.7%、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が54.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること」の割合が5.7ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること	差別を助長する表現を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	捜査対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること	個人情報などが流出していること	その他	特にない	わからない	無回答
男性	568	68.3	27.1	51.6	22.4	33.8	56.7	0.7	3.3	7.0	3.0
女性	704	67.8	22.4	56.3	23.0	43.8	58.8	0.6	1.4	10.7	2.8

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、50～59歳、女性の20～29歳で「差別を助長する表現を掲載すること」の割合が高くなっています。女性の40～59歳で「わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること」「個人情報などが流出していること」、女性の50～69歳で「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること	差別を助長する表現を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	捜査対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること	個人情報などが流出していること	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	83.3	36.1	47.2	27.8	27.8	52.8	—	5.6	—	2.8
30～39歳	75	80.0	30.7	30.7	21.3	22.7	65.3	2.7	1.3	6.7	—
40～49歳	109	75.2	26.6	49.5	22.9	32.1	67.0	0.9	3.7	0.9	0.9
50～59歳	93	78.5	38.7	54.8	19.4	34.4	61.3	—	2.2	5.4	2.2
60～69歳	122	67.2	27.9	60.7	26.2	43.4	57.4	—	2.5	6.6	1.6
70歳以上	133	45.9	14.3	55.6	19.5	33.8	40.6	0.8	5.3	15.8	8.3
女性 20～29歳	62	79.0	35.5	40.3	24.2	33.9	67.7	3.2	1.6	4.8	—
30～39歳	93	76.3	26.9	55.9	21.5	48.4	65.6	—	—	3.2	—
40～49歳	124	84.7	28.2	55.6	22.6	50.0	71.8	—	—	3.2	—
50～59歳	93	79.6	22.6	65.6	28.0	53.8	73.1	2.2	2.2	2.2	1.1
60～69歳	170	65.9	21.2	67.1	31.2	47.1	57.6	—	1.8	11.2	3.5
70歳以上	161	40.4	11.8	46.0	12.4	31.1	34.2	—	2.5	27.3	8.1

【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧七宝町で「差別を助長する表現を掲載すること」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること	差別を助長する表現を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	捜査対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること	個人情報などが流出していること	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	65.7	17.9	56.3	20.8	38.4	56.6	0.3	2.9	9.7	2.6
旧美和町	370	67.3	24.6	52.2	21.1	39.2	55.9	0.8	2.4	8.4	3.5
旧甚目寺町	472	69.3	28.8	55.3	25.8	40.3	60.2	0.8	1.3	8.9	2.1

【職業別】

職業別でみると、公務員、教員、学生で「差別を助長する表現を掲載すること」の割合が高くなっています。また、教員で「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」「捜査対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること」「わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること」「個人情報などが流出していること」の割合が高くなっています。

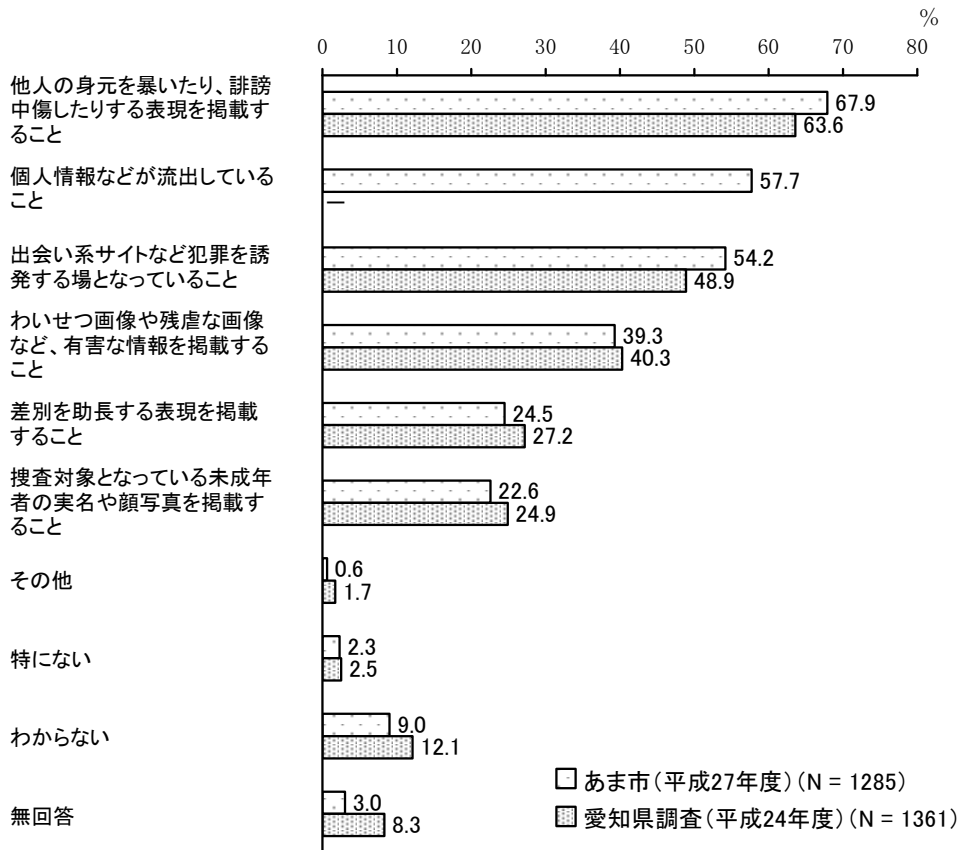
単位：％

区分	有効回答数(件)	他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること	差別を助長する表現を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	捜査対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること	個人情報などが流出していること	その他	特にない	わからない	無回答
自営業	114	66.7	30.7	54.4	25.4	37.7	57.9	—	1.8	7.9	4.4
民間企業・団体の経営者、役員	22	81.8	36.4	59.1	27.3	50.0	77.3	—	4.5	4.5	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	73.2	28.3	53.5	22.8	38.6	63.8	1.6	3.1	5.5	0.8
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	79.4	28.4	47.9	19.6	30.9	65.5	1.0	1.5	3.1	0.5
臨時雇、パート、派遣	193	76.2	26.4	53.9	29.0	45.6	63.7	0.5	1.0	7.3	2.1
公務員	43	88.4	41.9	46.5	27.9	37.2	62.8	—	4.7	2.3	—
教員	15	93.3	40.0	66.7	46.7	60.0	86.7	—	—	—	—
その他の有業者(1～7以外)	8	75.0	12.5	50.0	12.5	25.0	62.5	—	12.5	—	—
家事専業	256	61.3	14.1	59.8	17.2	41.4	52.3	—	2.0	12.9	3.5
学生	22	81.8	45.5	54.5	27.3	40.9	59.1	—	—	—	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	51.8	20.2	55.7	22.5	39.9	45.8	0.8	2.8	16.6	5.1
その他	20	60.0	20.0	45.0	20.0	40.0	60.0	—	15.0	10.0	—



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が5.3ポイント高くなっています。

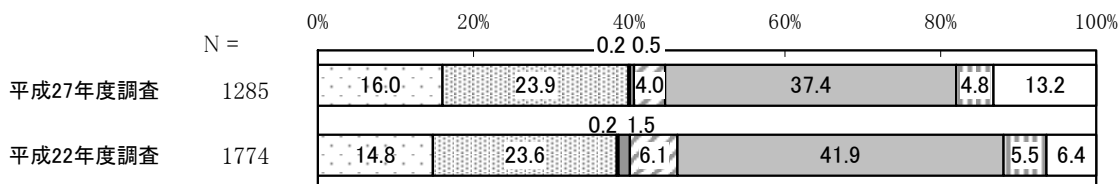


**問 27. インターネット上で人権侵害と思われるようなページを発見した場合、あなたはどのようにしますか。(〇印1つ)**

「いけないと思うが対処の仕方が分からない」の割合が37.4%と最も高く、次いで「そのようなページは無視する」の割合が23.9%、「自分とかかわりがなければ、特に何もしない」の割合が16.0%となっています。

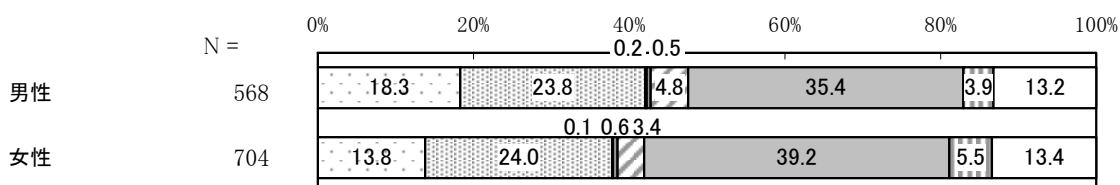
平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- 自分とかかわりがなければ、特に何もしない
- そのようなページは無視する
- 自分も同じような内容で書き込みをする
- 反対意見を書き込む
- プロバイダ又は関係機関に知らせる
- いけないと思うが対処の仕方が分からない
- その他
- 無回答



**【性別】**

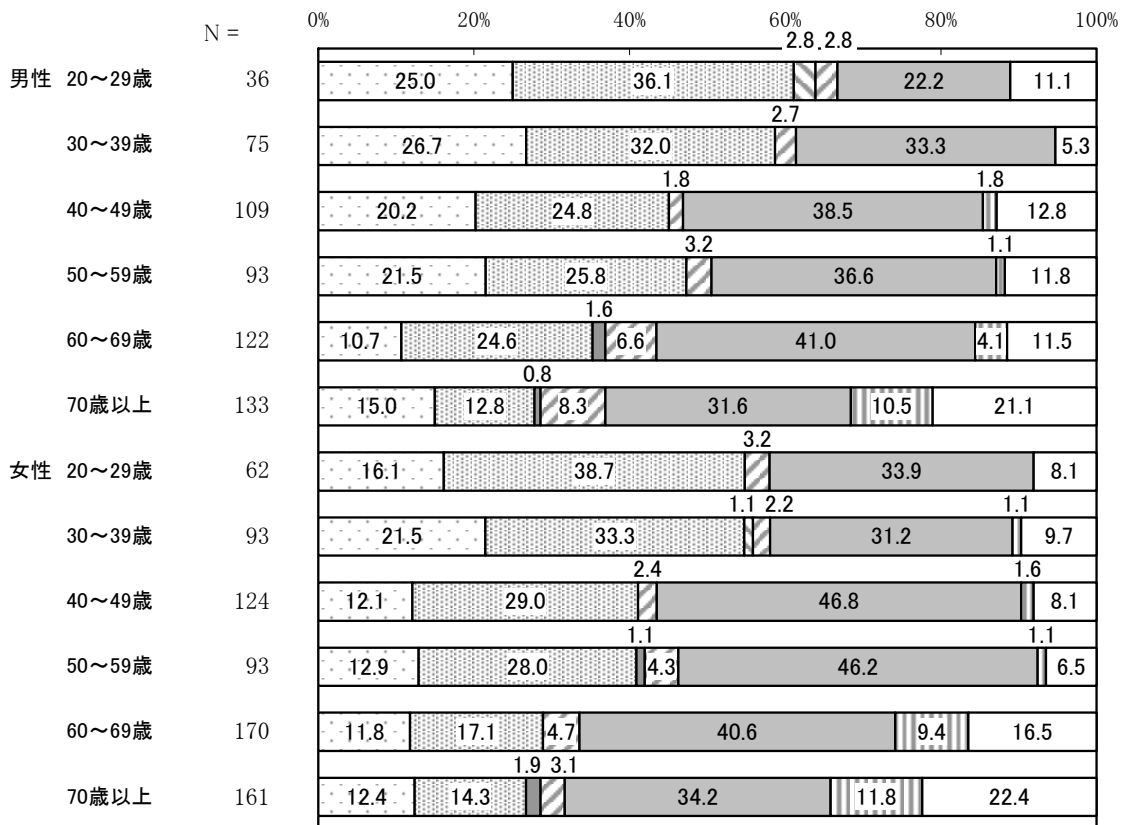
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

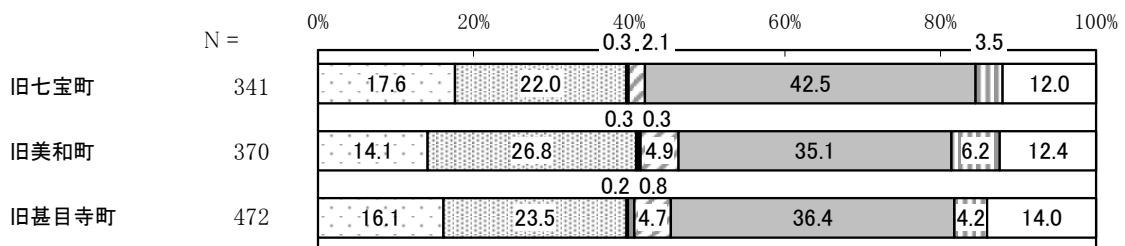
性・年齢別で見ると、女性の 40～59 歳で「いけないと思うが対処の仕方が分からない」の割合が高くなっています。

- 自分とかかわりがなければ、特に何もしない
- ▨ そのようなページは無視する
- ▩ 自分も同じような内容で書き込みをする
- 反対意見を書き込む
- ▤ プロバイダ又は関係機関に知らせる
- ▦ いけないと思うが対処の仕方が分からない
- ▧ その他
- 無回答



【居住地区別】

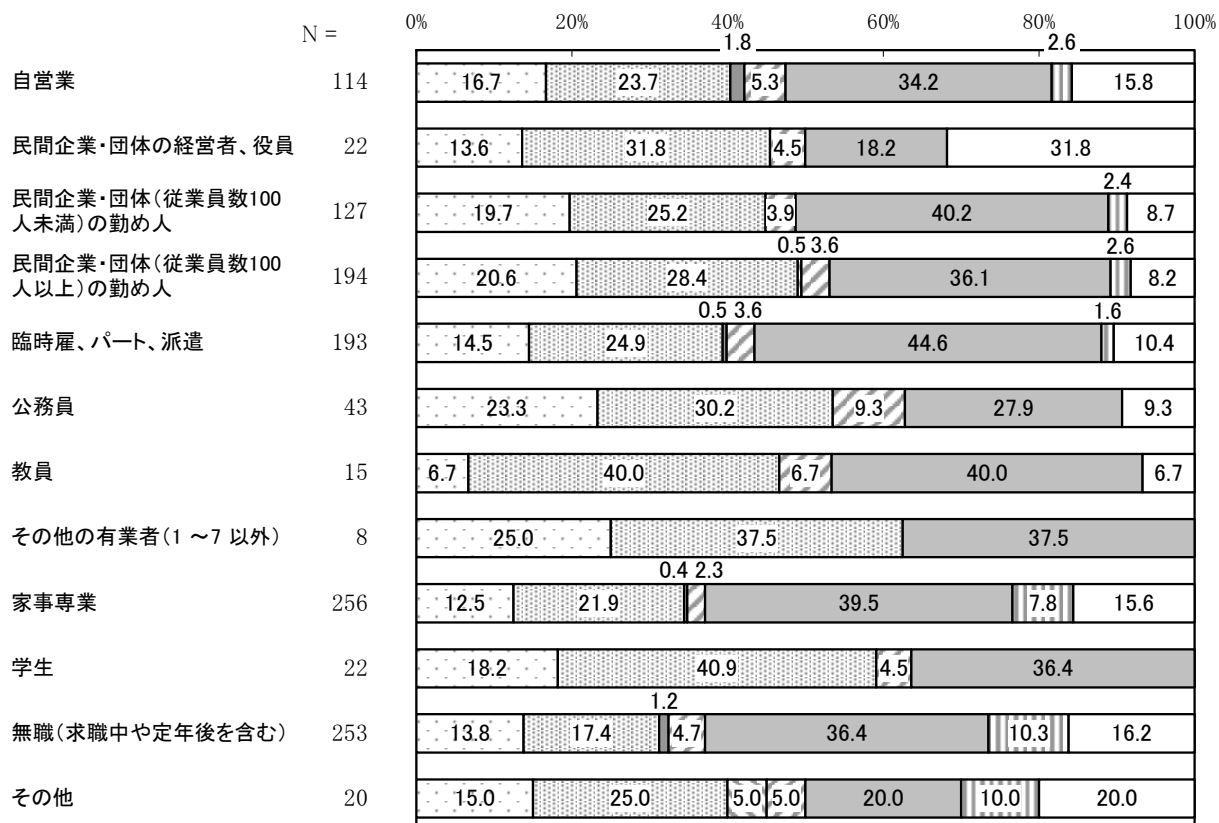
居住地区別で見ると、旧七宝町で「いけないと思うが対処の仕方が分からない」の割合が高くなっています。



## 【職業別】

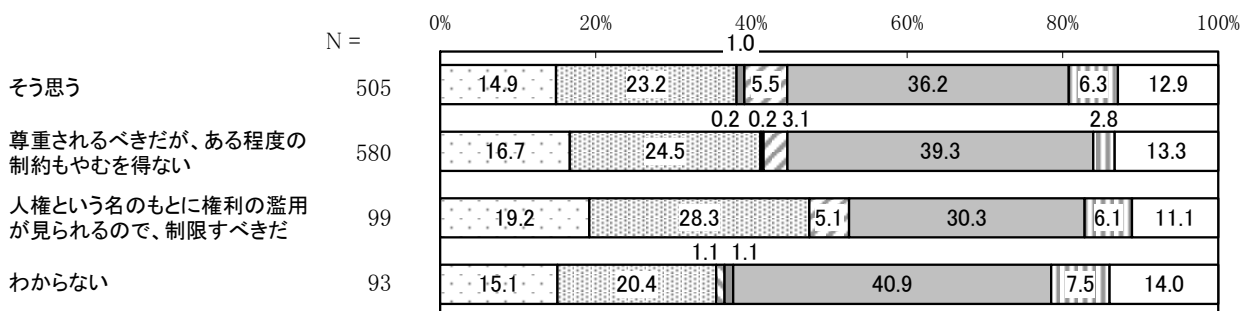
職業別でみると、教員、学生で「そのようなページは無視する」の割合が高くなっています。

- 自分とかかわりがなければ、特に何もしない
- ▨ そのようなページは無視する
- ▩ 自分も同じような内容で書き込みをする
- 反対意見を書き込む
- ▧ プロバイダ又は関係機関に知らせる
- ▦ いけないと思うが対処の仕方が分からない
- ▩ その他
- 無回答



## 【人権尊重意識別】

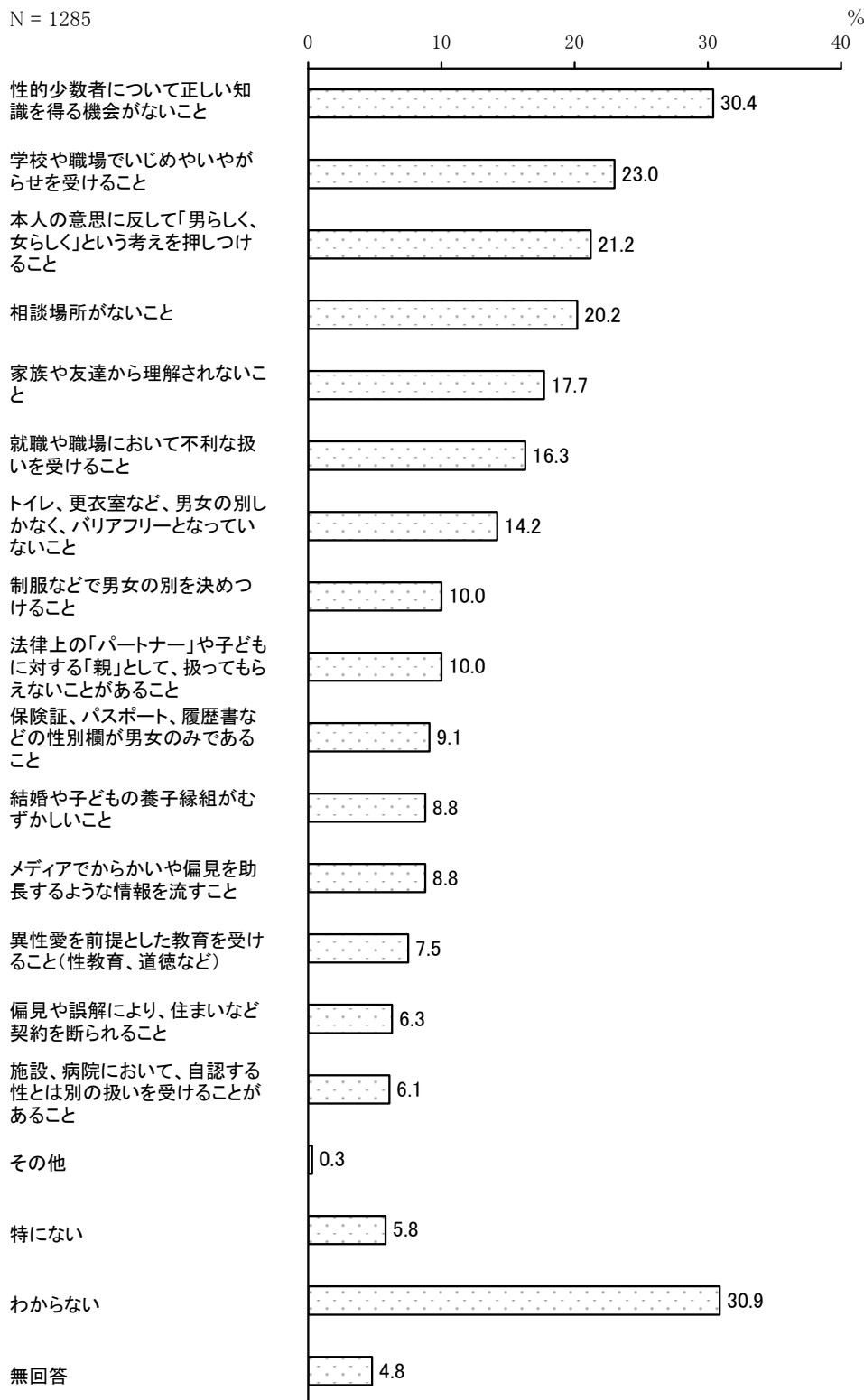
人権尊重意識別でみると、大きな差異はみられません。



## (9) 性的マイノリティ（少数者）の人々の人権について

問 28. 性的マイノリティの人々に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。（〇印いくつでも）

「わからない」の割合が 30.9%と最も高く、次いで「性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと」の割合が 30.4%、「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」の割合が 23.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「相談場所がないこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	制服などで男女の別を決めつけること	リアフリーとなっていないこと	トイレ、更衣室など、男女の別が少なく、バリアフリーとなっていないこと	異性愛を前提とした教育を受けること(性教育、道徳など)	性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと	相談場所がないこと	学校や職場でいじめやいやがらせを受けること	就職や職場において不利な扱いを受けること	家族や友達から理解されないこと	法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること	男女のみであること	保険証、パスポート、履歴書などの性別欄が男女のみであること	偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること	結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと	施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること	メディアでからかいや偏見を助長するような情報を流すこと	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	19.2	10.7	13.2	7.6	28.7	16.9	21.7	15.0	15.7	9.3	7.9	7.0	6.7	5.8	9.9	0.4	6.5	29.9	5.6		
女性	704	23.2	9.5	14.8	7.5	32.2	23.0	23.9	17.5	19.6	10.7	10.1	5.8	10.5	6.4	8.0	0.3	5.3	31.3	4.1		

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の30～39歳で「制服などで男女の別を決めつけること」の割合が高くなっています。また、男性の30～39歳、女性の20～39歳で「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳で「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」の割合が高くなっています。女性の30～39歳で「トイレ、更衣室など、男女の別しかなく、バリアフリーとなっていないこと」の割合が高くなっています。女性の30～49歳で「性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと」の割合が高くなっています。女性の40～59歳で「相談場所がないこと」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、50～59歳で「家族や友達から理解されないこと」の割合が高くなっています。女性の60歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	制服などで男女の別を決めつけること	トイレ、更衣室など、男女の別しかなく、バリアフリーとなっていないこと	異性愛を前提とした教育を受けること(性教育、道徳など)	性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと	相談場所がないこと	学校や職場でいじめやいやがらせを受けること	就職や職場において不利な扱いを受けること	家族や友達から理解されないこと	法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること	保険証、パスポート、履歴書などの性別欄が男女のみであること	偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること	結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと	施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること	情報流すこと	メディアでからかいや偏見を助長するようなこと	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	16.7	22.2	19.4	13.9	30.6	22.2	33.3	25.0	13.9	11.1	11.1	16.7	13.9	8.3	8.3	—	5.6	30.6	2.8
30～39歳	75	32.0	16.0	14.7	9.3	36.0	14.7	24.0	17.3	16.0	20.0	8.0	9.3	6.7	6.7	16.0	—	6.7	17.3	—
40～49歳	109	16.5	11.9	16.5	6.4	29.4	22.0	22.9	13.8	17.4	5.5	4.6	1.8	3.7	2.8	6.4	0.9	6.4	28.4	2.8
50～59歳	93	20.4	10.8	8.6	5.4	32.3	25.8	23.7	21.5	18.3	11.8	10.8	12.9	9.7	8.6	11.8	—	3.2	31.2	4.3
60～69歳	122	20.5	8.2	12.3	9.8	30.3	18.0	22.1	13.9	20.5	10.7	9.0	5.7	9.0	7.4	13.1	0.8	6.6	30.3	4.1
70歳以上	133	12.8	6.0	12.0	5.3	19.5	5.3	14.3	8.3	8.3	3.0	6.8	4.5	3.0	3.8	5.3	—	9.0	36.8	14.3
女性 20～29歳	62	35.5	12.9	16.1	14.5	35.5	25.8	37.1	25.8	30.6	24.2	12.9	6.5	19.4	4.8	17.7	1.6	3.2	17.7	—
30～39歳	93	33.3	23.7	25.8	14.0	40.9	25.8	32.3	19.4	20.4	23.7	14.0	6.5	14.0	6.5	9.7	—	5.4	19.4	1.1
40～49歳	124	28.2	15.3	16.1	9.7	41.1	35.5	33.1	21.8	22.6	13.7	10.5	9.7	15.3	8.9	9.7	—	3.2	22.6	—
50～59歳	93	23.7	8.6	16.1	4.3	35.5	31.2	24.7	22.6	25.8	10.8	9.7	7.5	8.6	9.7	9.7	—	2.2	25.8	1.1
60～69歳	170	18.8	4.1	10.0	5.3	30.0	17.6	20.6	16.5	17.6	5.9	10.6	4.7	10.6	6.5	7.1	0.6	5.3	42.4	5.3
70歳以上	161	13.0	1.9	11.2	3.7	19.3	11.8	9.9	8.1	10.6	0.6	6.2	2.5	2.5	3.1	1.9	—	9.3	41.6	11.2

【居住地区別】

居住地区別でみると、旧美和町で「性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	制服などで男女の別を決めつけること	トイレ、更衣室など、男女の別がなくなり、リアフリーとなっていないこと	育、道徳など）異性愛を前提とした教育を受けること（性教育、道徳など）	性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと	相談場所がないこと	学校や職場でいじめやいやがらせを受けること	就職や職場において不利な扱いを受けること	家族や友達から理解されないこと	法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること	保険証、パスポート、履歴書などの性別欄が男女のみであること	偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること	結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと	施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること	メディアでからかいや偏見を助長するような情報を流すこと	その他	特になし	わからない	無回答
旧七宝町	341	21.4	9.4	15.5	5.9	32.6	21.7	24.0	17.0	18.2	8.8	8.2	7.3	8.5	6.2	10.6	0.3	6.5	28.2	4.4
旧美和町	370	20.5	9.7	13.5	6.5	27.0	18.4	20.5	15.4	17.3	9.5	9.2	4.6	7.8	5.1	8.1	0.8	5.7	32.7	5.4
旧基目寺町	472	22.5	11.0	15.0	8.7	32.2	21.8	24.2	17.4	18.2	10.8	9.5	5.9	9.5	7.0	8.1	—	5.3	30.1	3.8



【職業別】

職業別でみると、教員で「トイレ、更衣室など、男女の別しがなく、バリアフリーとなっていないこと」「性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと」「相談場所がないこと」「法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること」の割合が高くなっています。また、学生で「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」「就職や職場において不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。

単位：%

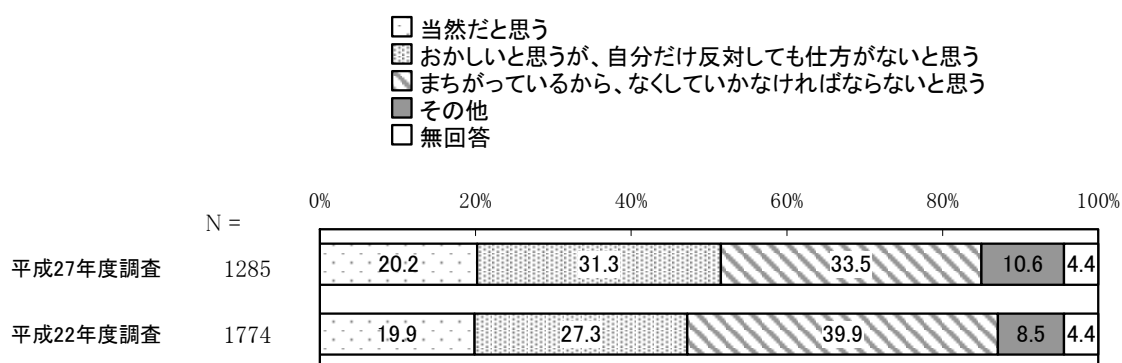
区分	有効回答数(件)	本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	制服などで男女の別を決めつけること	トイレ、更衣室など、男女の別しがなく、バリアフリーとなっていないこと	育、道徳など) 異性愛を前提とした教育を受けること(性教育)	性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと	相談場所がないこと	学校や職場でいじめやいやがらせを受けること	就職や職場において不利な扱いを受けること	家族や友達から理解されないこと	法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること	保険証、パスポート、履歴書などの性別欄が男女のみであること	偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること	結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと	施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること	情報を流すこと	メディアでからかいや偏見を助長するようなこと	特になし	わからない	無回答
自営業	114	16.7	6.1	7.9	4.4	26.3	13.2	14.9	10.5	17.5	6.1	7.9	8.8	4.4	2.6	7.0	1.8	7.9	28.9	9.6
民間企業・団体の経営者、役員	22	18.2	9.1	27.3	13.6	40.9	27.3	27.3	22.7	18.2	13.6	18.2	-	9.1	13.6	18.2	-	9.1	31.8	-
民間企業(従業員数100未満)の勤め人	127	17.3	12.6	8.7	6.3	30.7	24.4	26.8	20.5	13.4	12.6	7.9	7.1	7.1	6.3	10.2	-	6.3	29.1	1.6
民間企業(従業員数100以上)の勤め人	194	25.8	14.4	14.4	10.3	34.5	23.7	24.7	16.5	19.6	11.3	9.3	6.2	8.8	5.7	8.2	0.5	4.1	25.3	1.0
臨時雇、パート、派遣	193	22.8	11.9	15.5	7.8	34.2	24.9	26.4	18.1	23.3	10.9	9.3	4.7	14.0	8.8	9.8	-	3.6	28.0	4.1
公務員	43	30.2	11.6	11.6	14.0	39.5	30.2	39.5	27.9	20.9	25.6	11.6	7.0	20.9	7.0	16.3	-	7.0	14.0	-
教員	15	26.7	6.7	40.0	6.7	66.7	60.0	46.7	20.0	26.7	33.3	13.3	13.3	20.0	20.0	6.7	-	-	6.7	-
その他の有業者(1~7以外)	8	12.5	25.0	25.0	12.5	50.0	25.0	37.5	-	25.0	25.0	-	-	-	12.5	-	-	12.5	12.5	-
家事専業	256	21.9	7.4	14.8	6.3	28.1	19.5	19.5	15.2	18.0	8.6	10.9	6.6	7.8	5.1	6.3	-	5.5	36.7	3.9
学生	22	22.7	18.2	18.2	4.5	36.4	18.2	45.5	45.5	22.7	13.6	4.5	18.2	18.2	4.5	13.6	-	4.5	18.2	-
無職(求職中や定年後を含む)	253	19.8	7.9	15.0	7.9	24.1	12.3	19.0	12.6	13.8	5.9	7.5	5.5	5.9	5.5	9.1	-	6.7	39.5	8.7
その他	20	20.0	5.0	20.0	-	30.0	20.0	10.0	10.0	15.0	5.0	10.0	5.0	10.0	5.0	5.0	-	15.0	25.0	5.0

## (10) 家柄・血筋について

問 29. 結婚相手を決める時、家柄とか血筋を問題にする風習について、あなたはどのよう  
に思いますか。(〇印1つ)

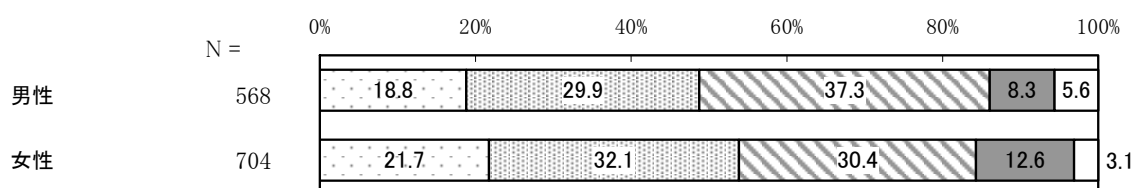
「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が 33.5%と最も高く、  
次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が 31.3%、「当然だ  
と思う」の割合が 20.2%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」  
の割合が 6.4 ポイント減少しています。



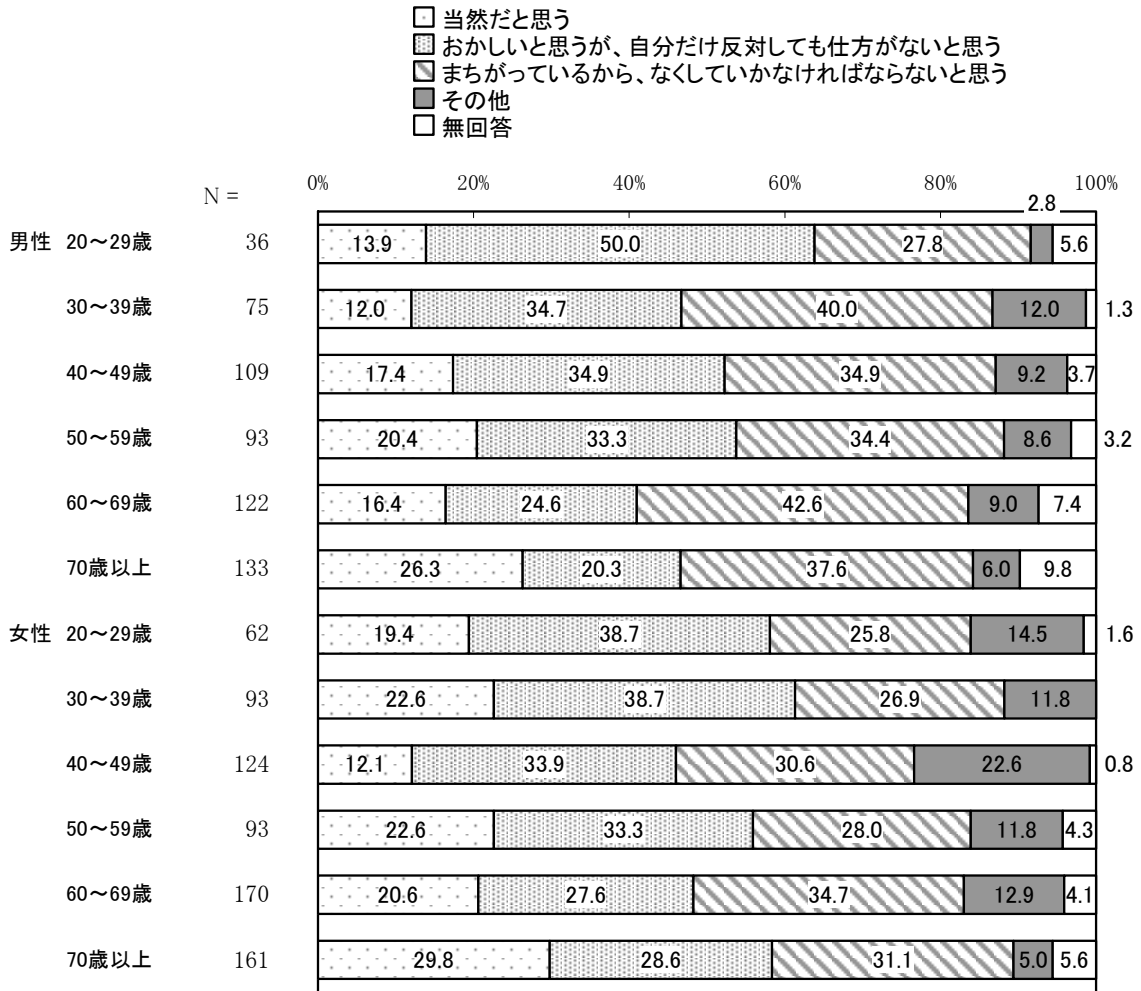
### 【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「まちがっているから、なくしていかなければならないと思  
う」の割合が高くなっています。



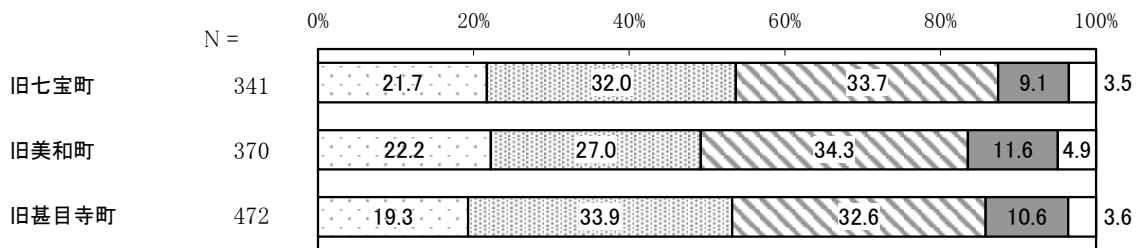
**【性・年齢別】**

性・年齢別で見ると、男性の 20～29 歳で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。男性の 60～69 歳で「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。女性の 70 歳以上で「当然だと思う」の割合が高くなっています。



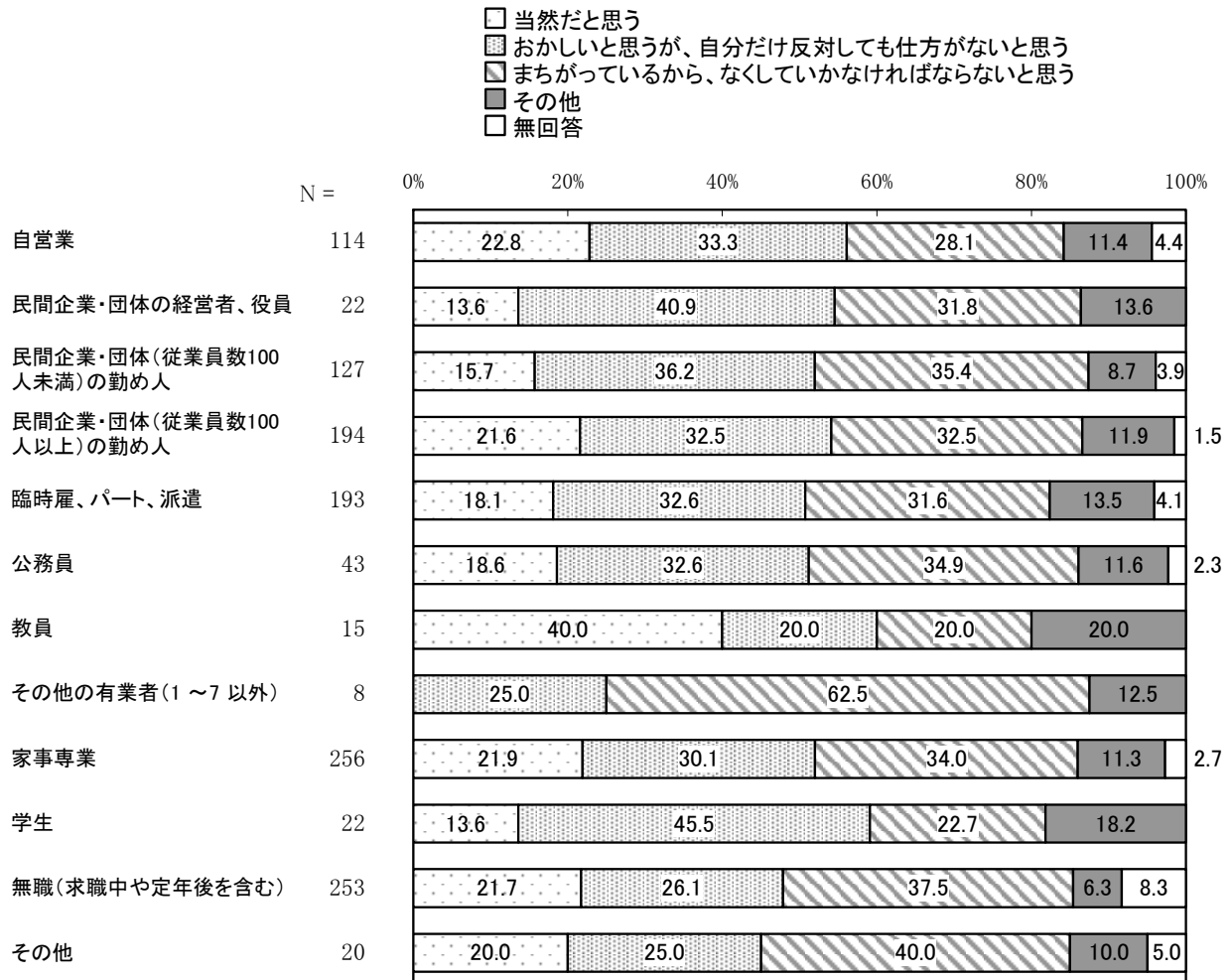
**【居住地区別】**

居住地区別で見ると、旧美和町で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が低くなっています。



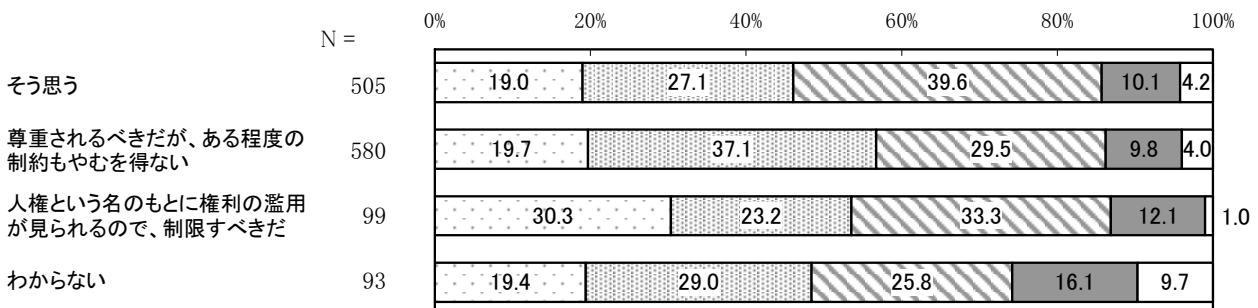
## 【職業別】

職業別でみると、教員で「当然だと思う」の割合が高くなっています。また、学生で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。



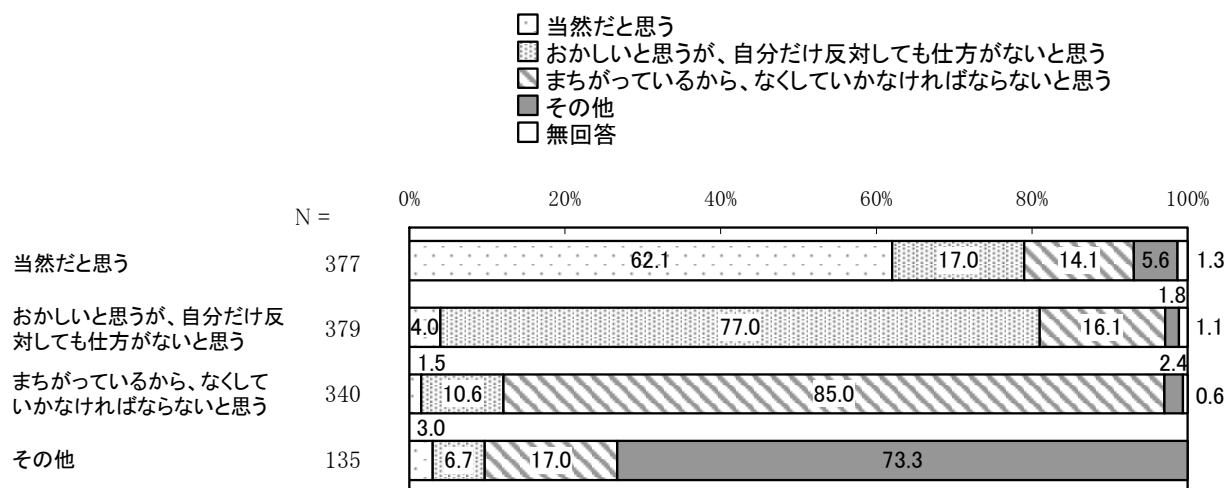
## 【人権尊重意識別】

人権尊重意識別でみると、そう思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。また、尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ないで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。



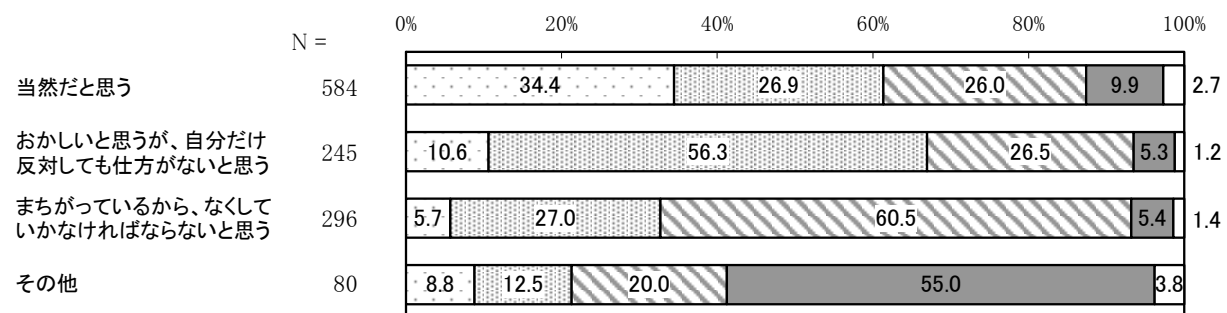
### 【家柄・血筋意識別】

家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「当然だと思う」の割合が高くなっています。おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思うで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



### 【企業身元調査意識別】

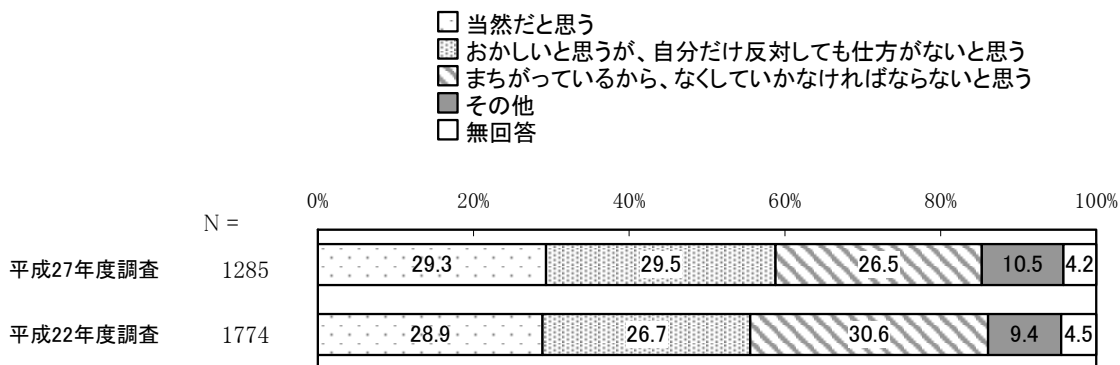
企業身元調査意識別でみると、当然だと思うで「当然だと思う」の割合が高くなっています。おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思うで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



問 30. 結婚にあたり家柄や家族状況を調べること（聞き合わせ）について、あなたはどのように思いますか。（○印1つ）

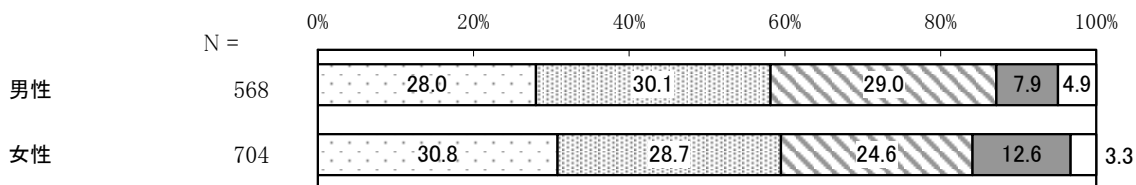
「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が 29.5%と最も高く、次いで「当然だと思う」の割合が 29.3%、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が 26.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



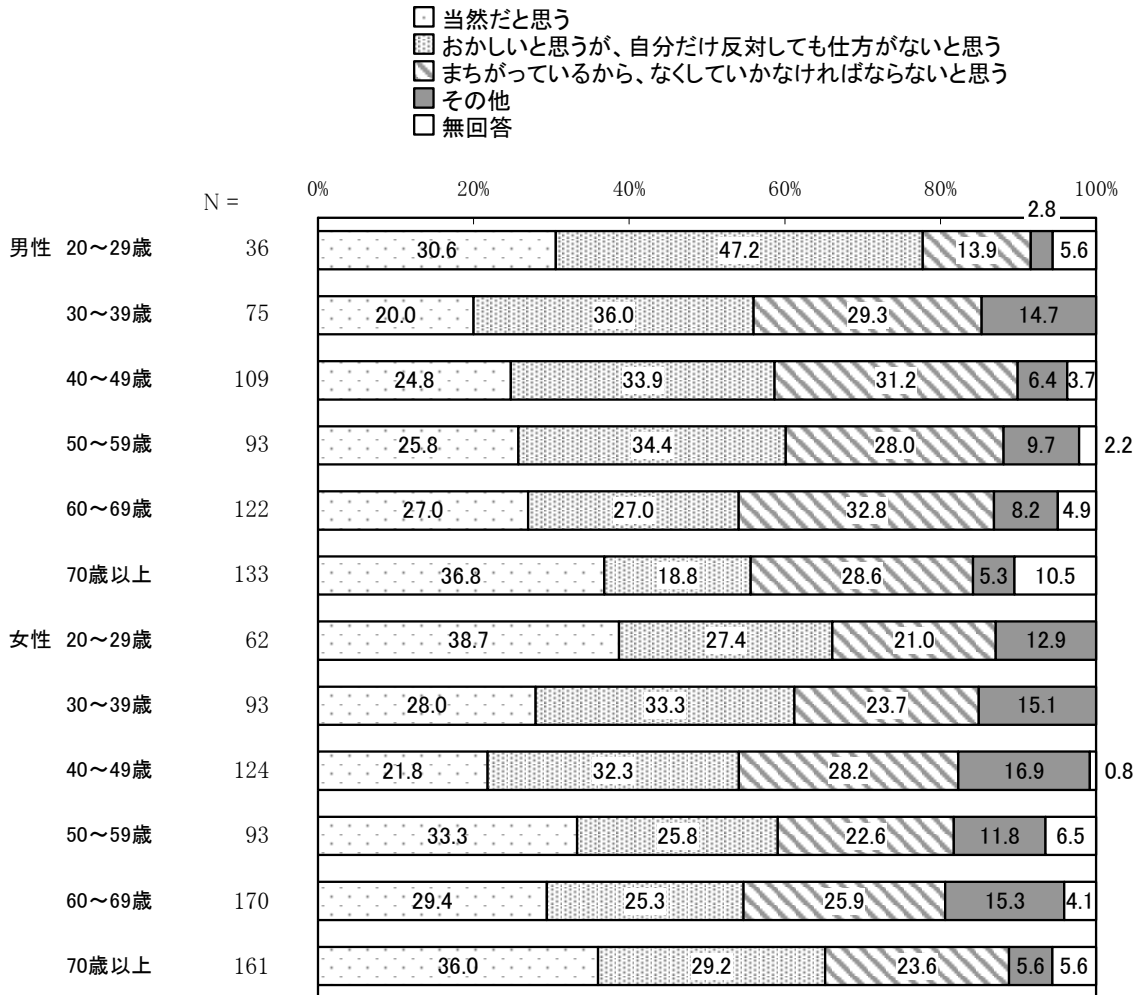
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



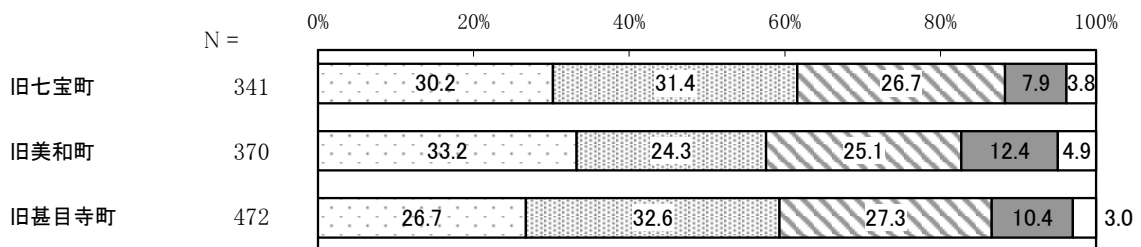
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の 20～29 歳で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。



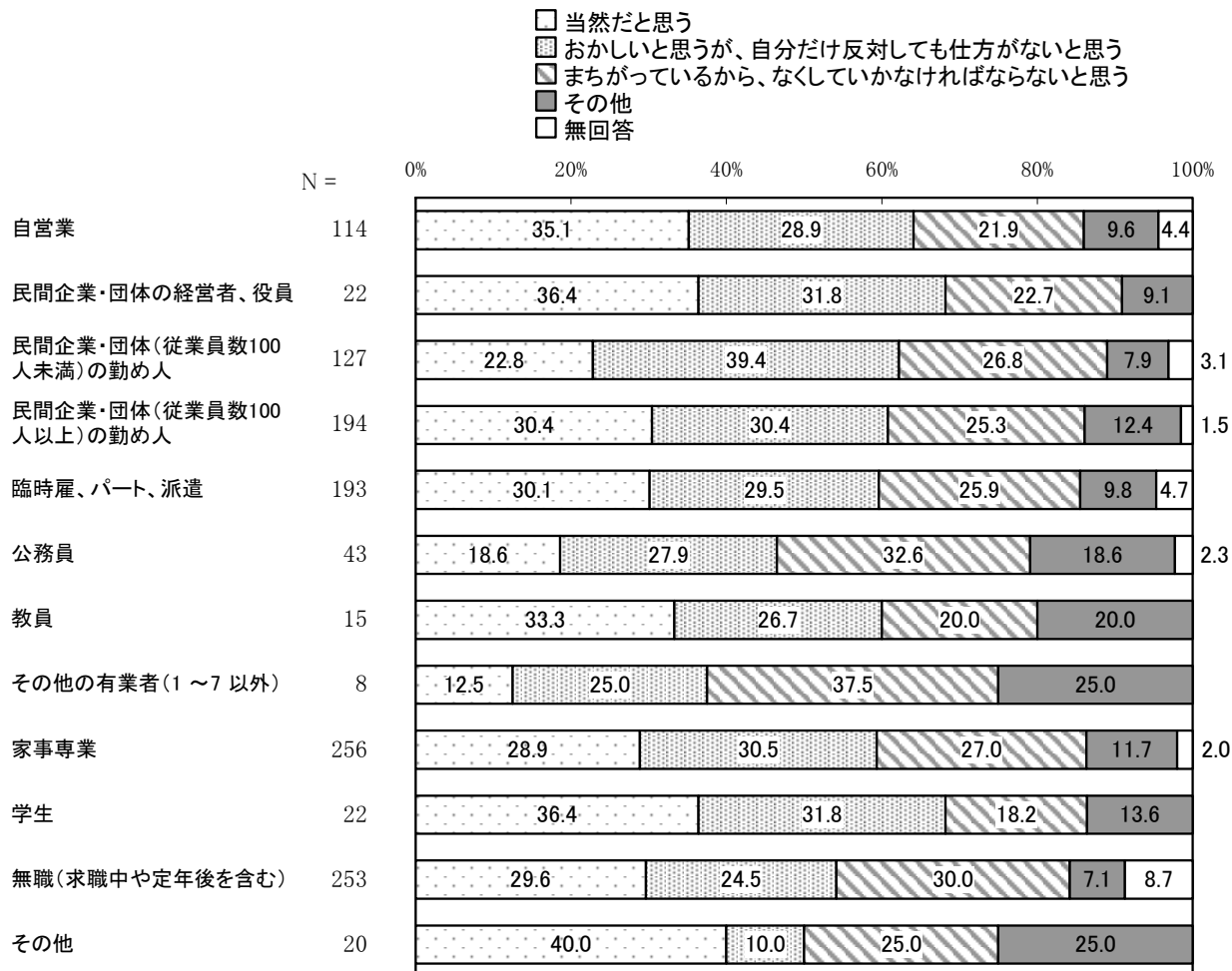
【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧美和町で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が低くなっています。



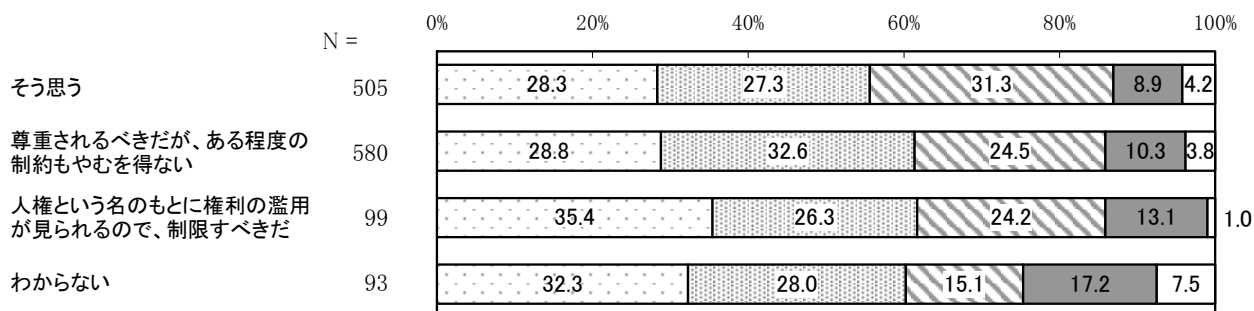
## 【職業別】

職業別でみると、民間企業・団体（従業員数100人未満）の勤め人で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。また、公務員、無職（求職中や定年後を含む）で「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



## 【人権尊重意識別】

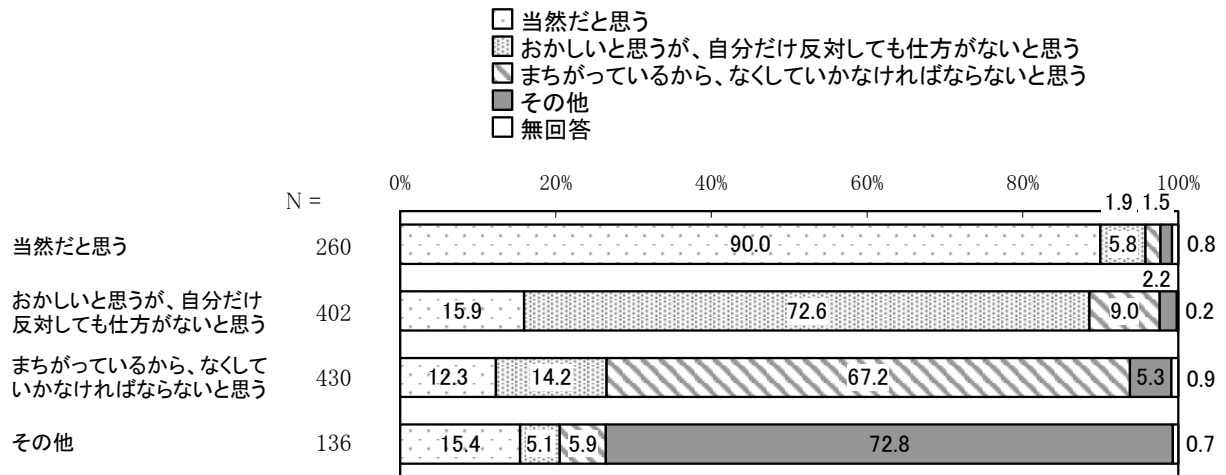
人権尊重意識別でみると、そう思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。また、人権という名のもとに権利の濫用が見られるので、制限すべきだで「当然だと思う」の割合が高くなっています。





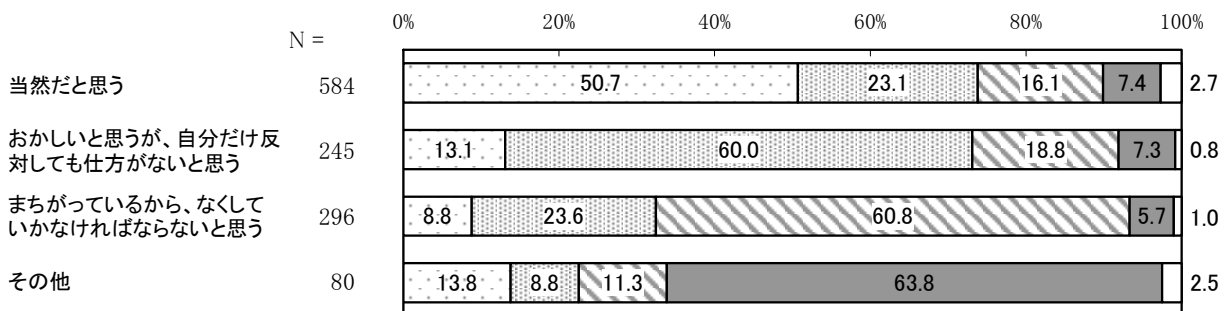
### 【家柄・血筋意識別】

家柄・血筋意識別でみると、当然だと思いで「当然だと思う」の割合が高くなっています。おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思うで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



### 【企業身元調査意識別】

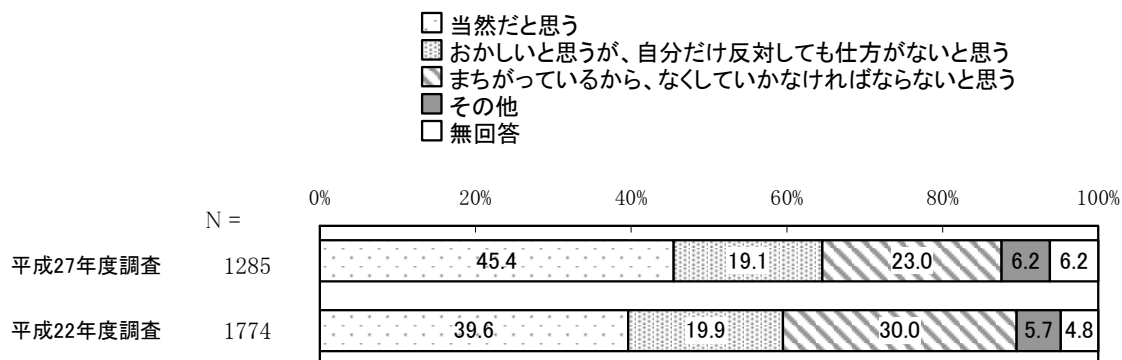
企業身元調査意識別でみると、当然だと思いで「当然だと思う」の割合が高くなっています。おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思うで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



**問 31. 企業が採用選考のときに身元調査をすることについて、あなたはどのように思いますか。(〇印1つ)**

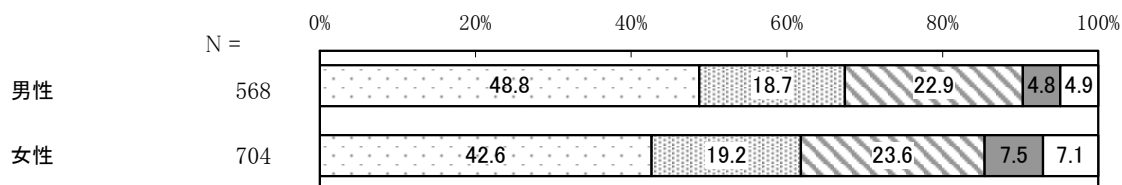
「当然だと思う」の割合が45.4%と最も高く、次いで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が23.0%、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が19.1%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「当然だと思う」の割合が5.8ポイント増加しています。



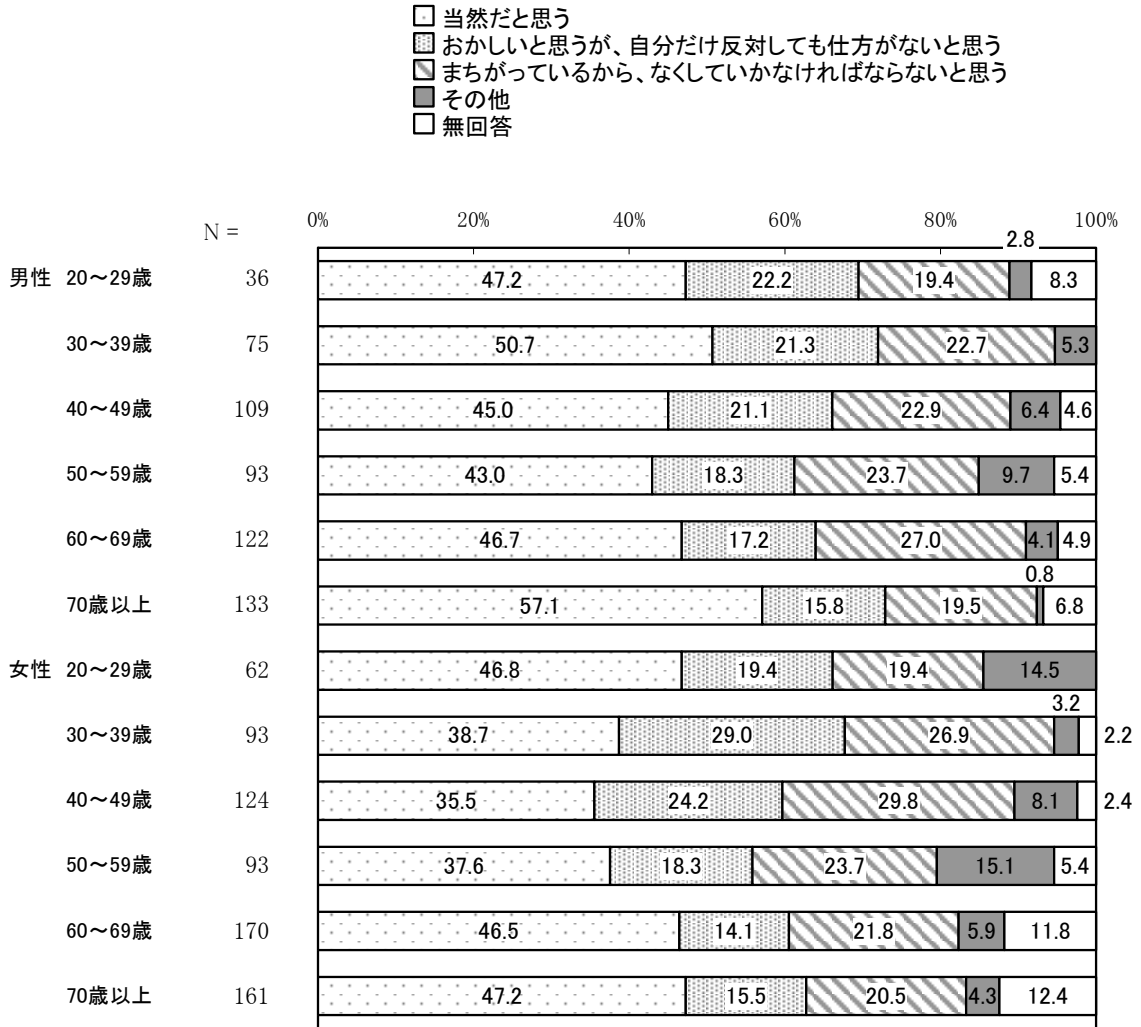
**【性別】**

性別で見ると、女性に比べ男性で「当然だと思う」の割合が高くなっています。



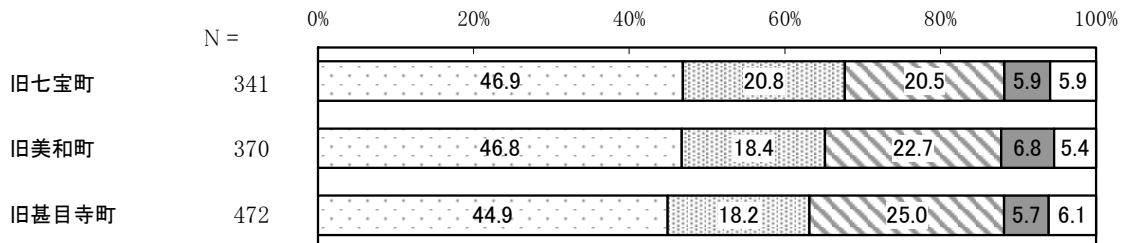
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の70歳以上で「当然だと思う」の割合が高くなっています。また、女性の30～39歳で「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。



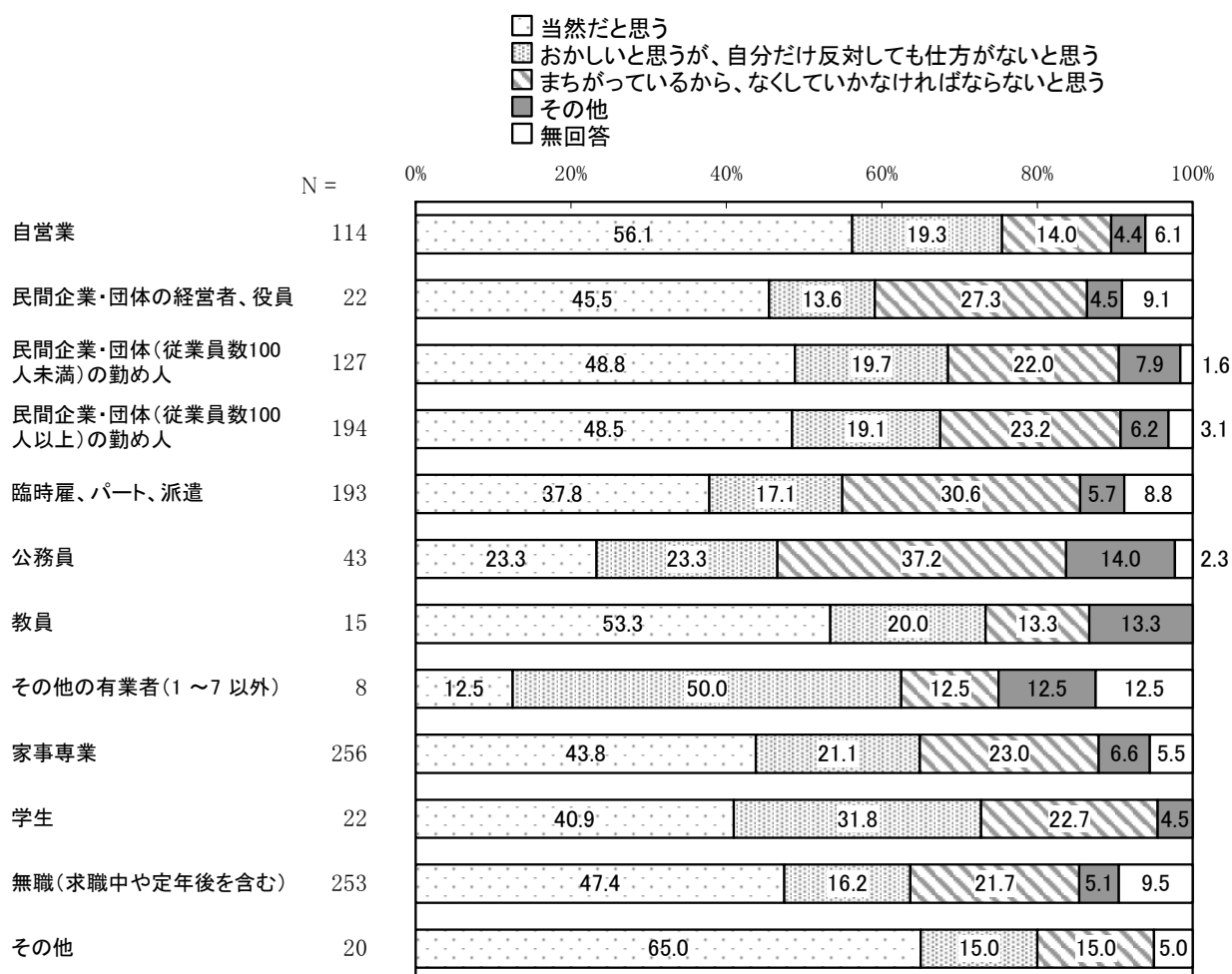
【居住地区別】

居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



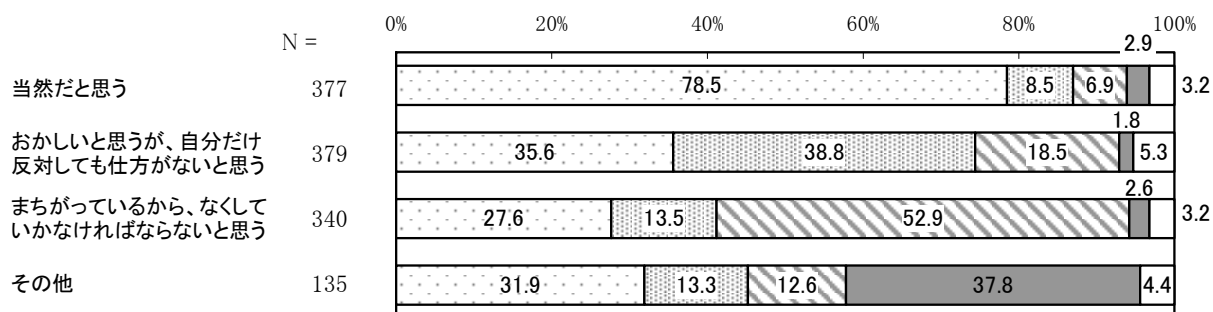
## 【職業別】

職業別でみると、公務員で「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



## 【家柄・血筋意識別】

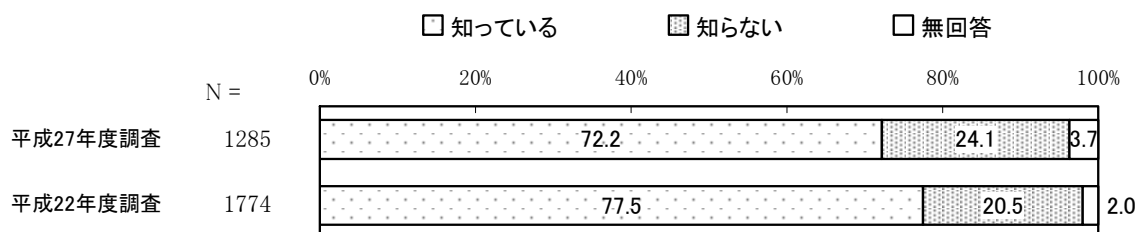
家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「当然だと思う」の割合が高くなっています。おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思うで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が高くなっています。



## (11) 同和問題・部落差別について

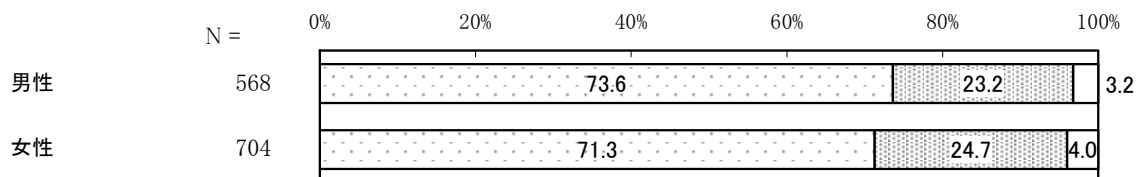
問 32. あなたは、日本の社会に「同和地区」、「被差別部落」などと呼ばれ、差別を受けてきた地区があること、あるいは「同和问题」、「部落問題」、「部落差別」といわれる問題があることを知っていますか。(○印1つ)

「知っている」の割合が72.2%、「知らない」の割合が24.1%となっています。  
平成22年度調査と比較すると、「知っている」の割合が5.3ポイント減少しています。



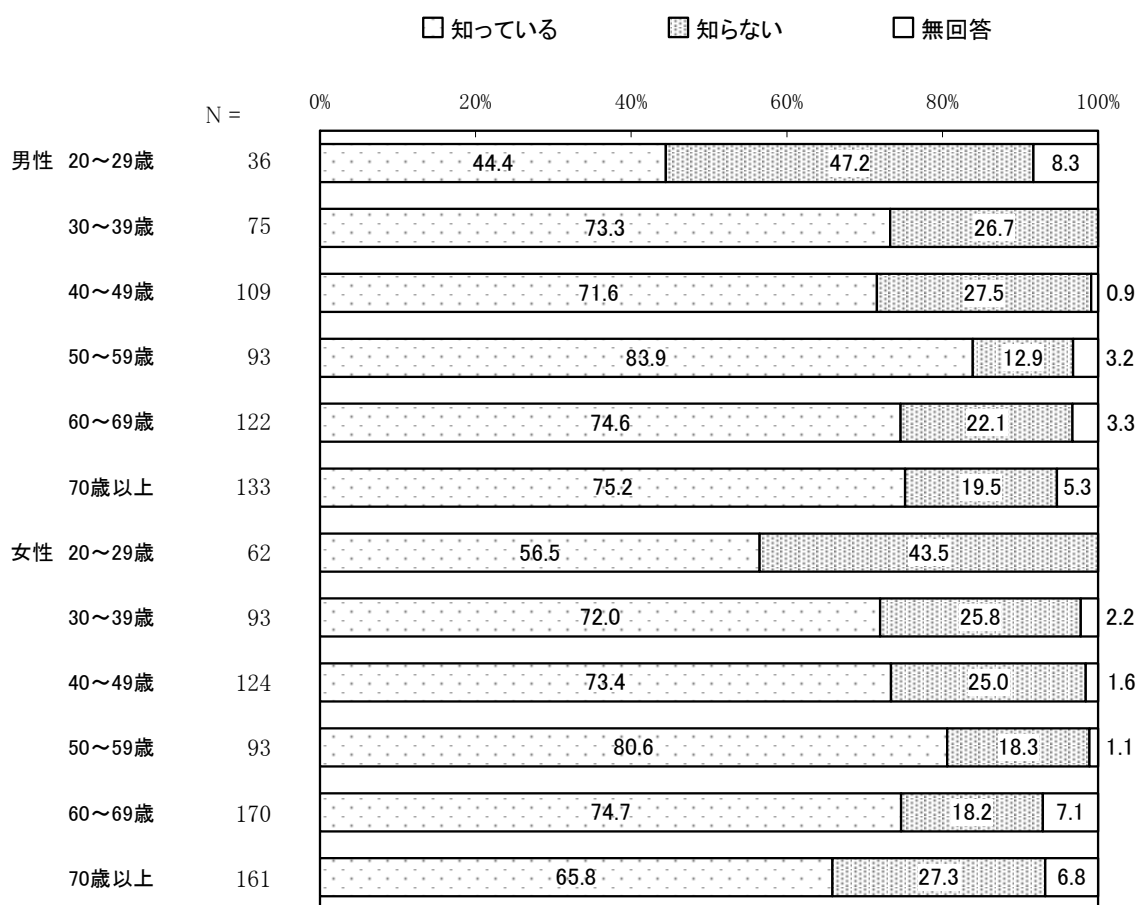
### 【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



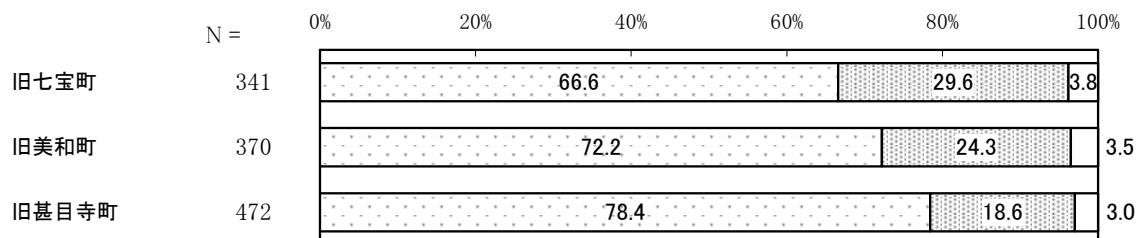
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の 50～59 歳で「知っている」の割合が高くなっています。また、男女ともに 20～29 歳で「知らない」の割合が高くなっています。



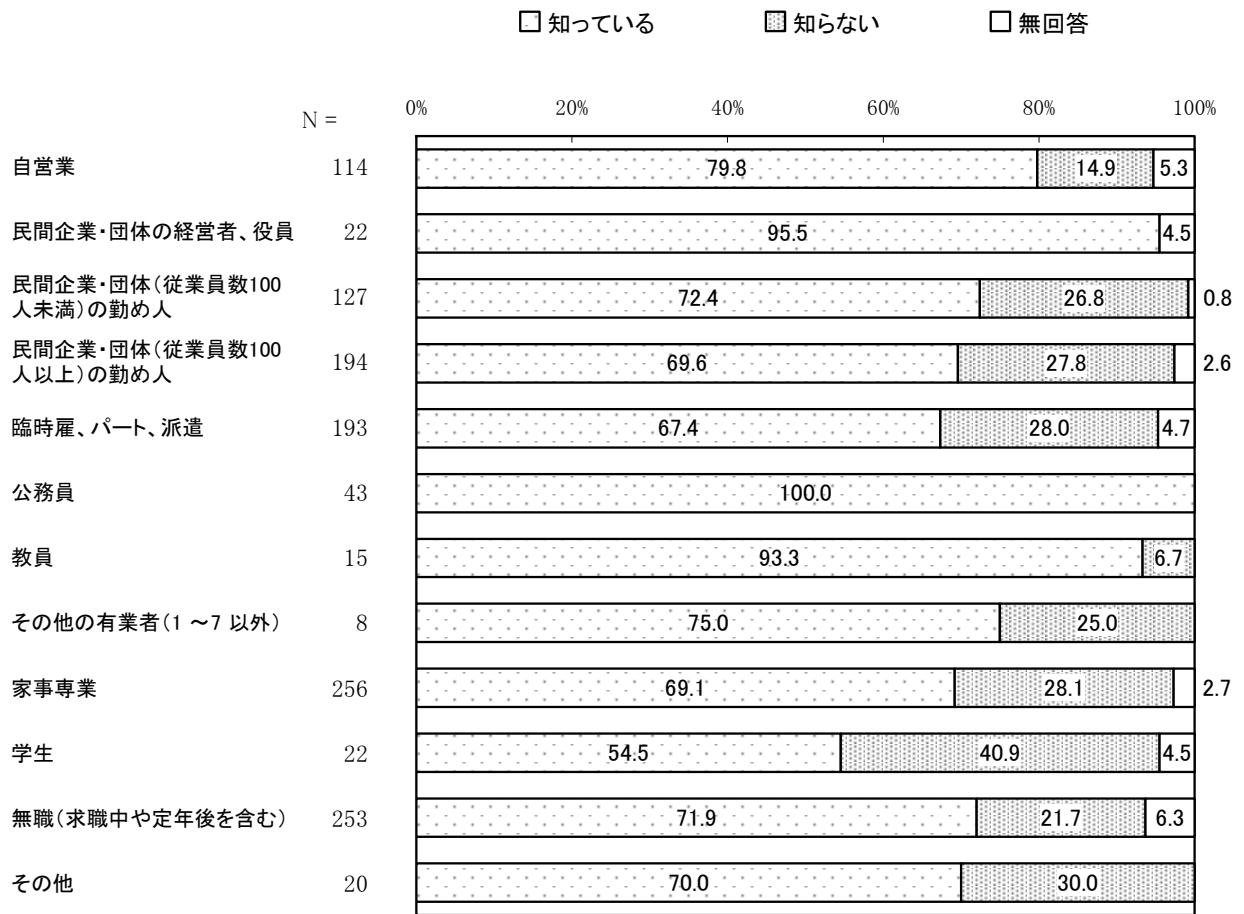
### 【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧七宝町で「知らない」の割合が高くなっています。一方、旧甚目寺町では「知っている」の割合が高くなっています。



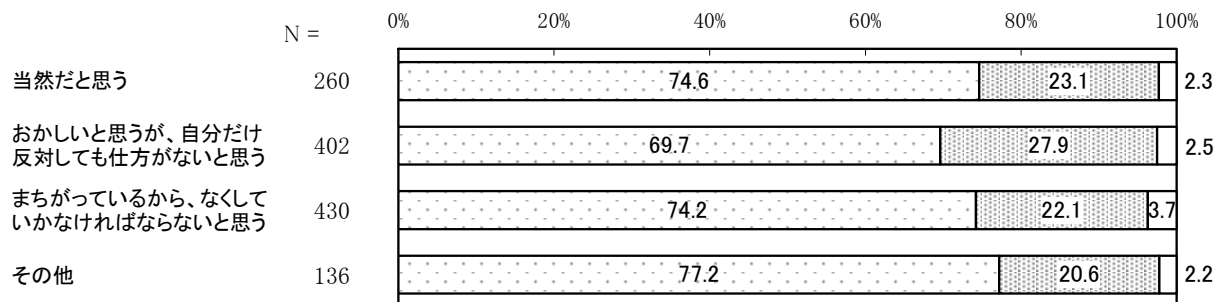
## 【職業別】

職業別でみると、民間企業・団体の経営者、役員、公務員で「知っている」の割合が高くなっています。一方、学生で「知らない」の割合が高くなっています。



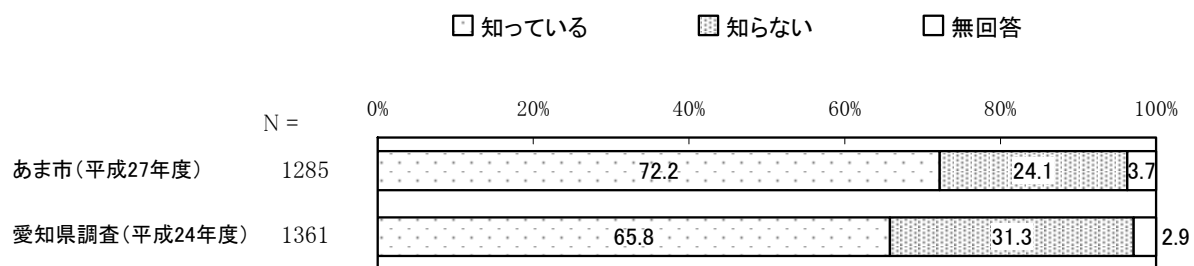
## 【家柄・血筋意識別】

家柄・血筋意識別でみると、大きな差異はみられません。



### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「知っている」の割合が6.4ポイント高くなっています。



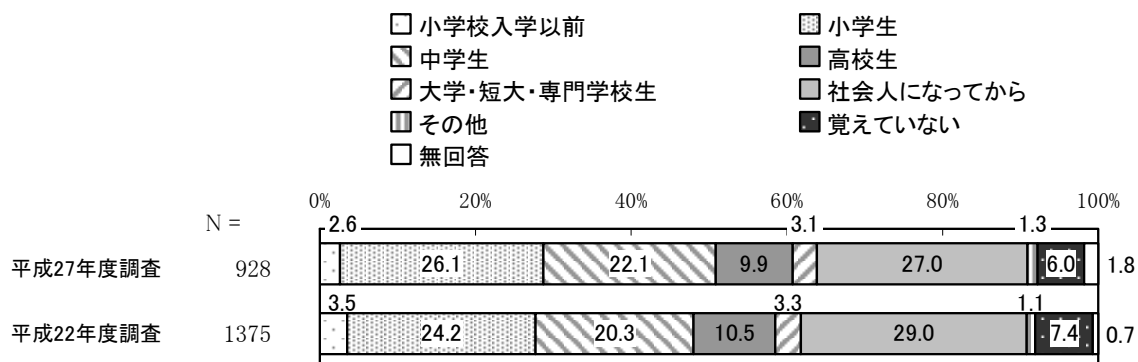


問 33. (問 32 で「1. 知っている」と回答した方に)

あなたが、同和地区や同和问题について、はじめて知ったのはいつ頃ですか。  
(○印1つ)

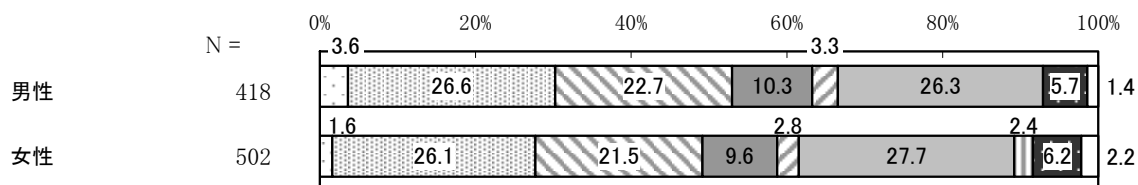
「社会人になってから」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「小学生」の割合が 26.1%、「中学生」の割合が 22.1%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



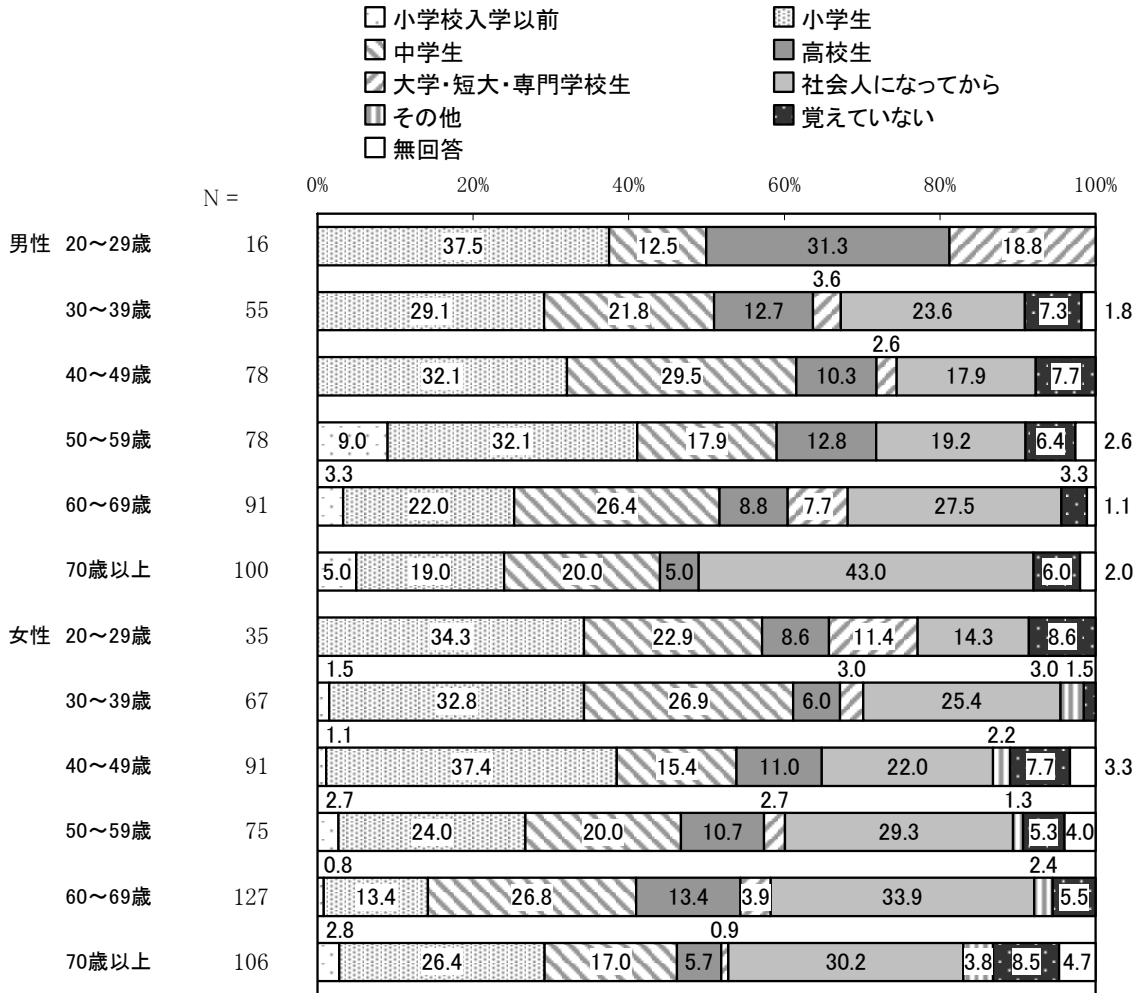
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



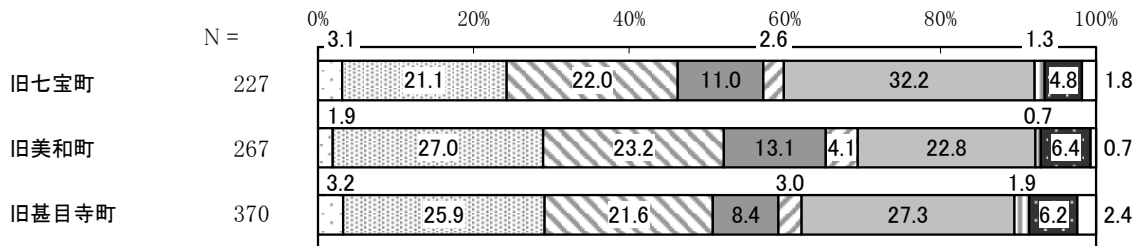
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳で「小学生」「高校生」「大学・短大・専門学校生」の割合が高くなっています。男性の50～59歳で「小学校入学前」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「社会人になってから、」の割合が高くなっています。また、女性の40～49歳で「小学生」の割合が高くなっています。



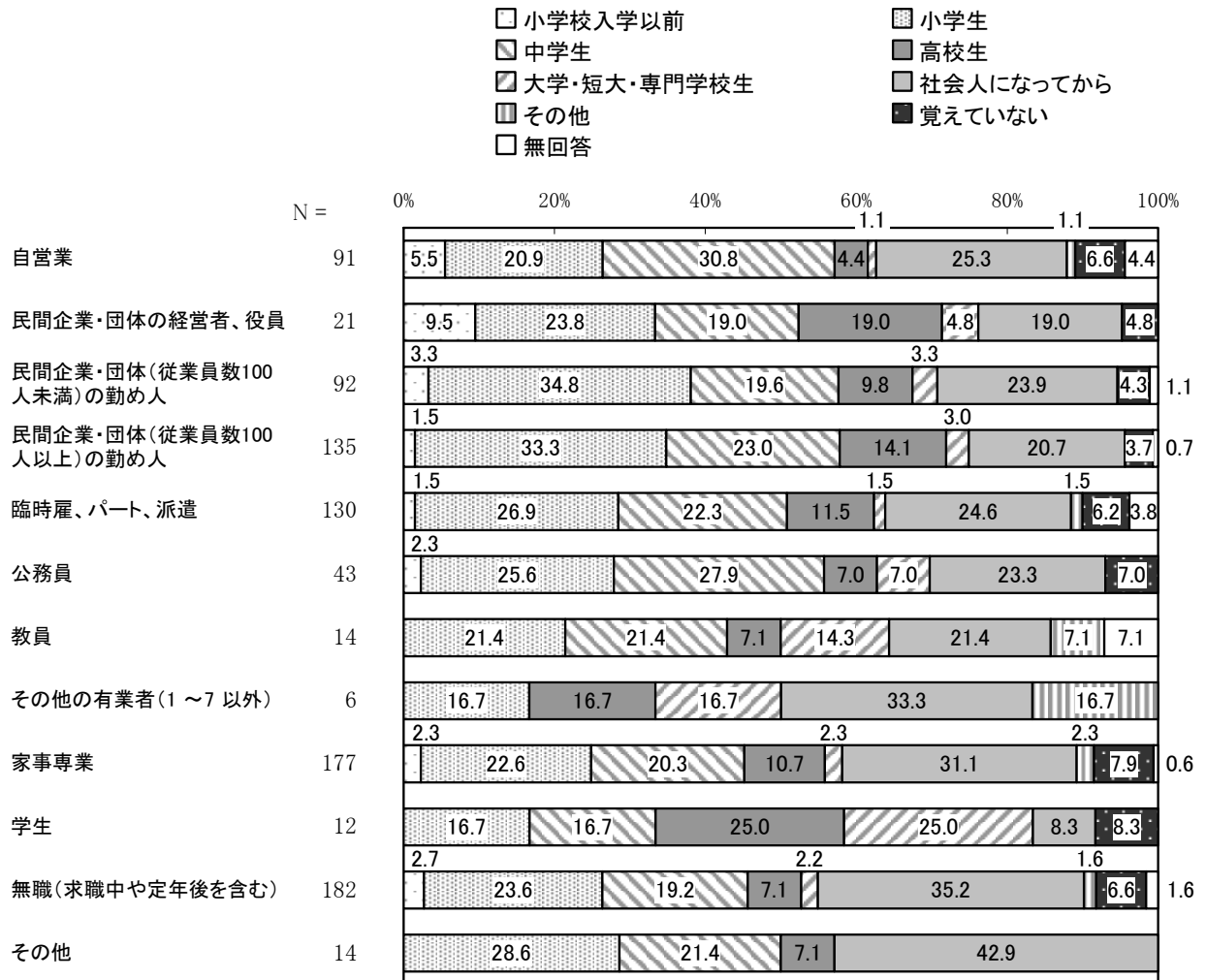
【居住地区別】

居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



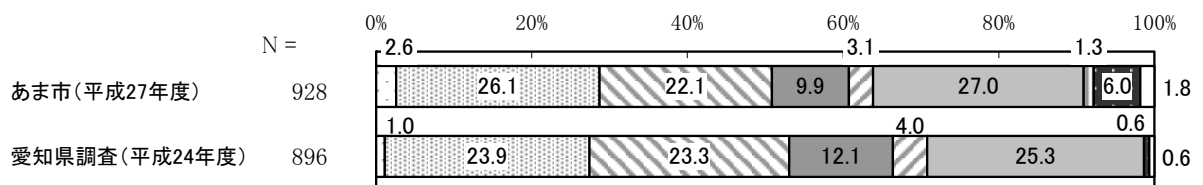
【職業別】

職業別でみると、学生で「高校生」「大学・短大・専門学校生」の割合が高くなっています。また、家事専業、無職（求職中や定年後を含む）で「社会人になってから」の割合が高くなっています。



【愛知県調査との比較】

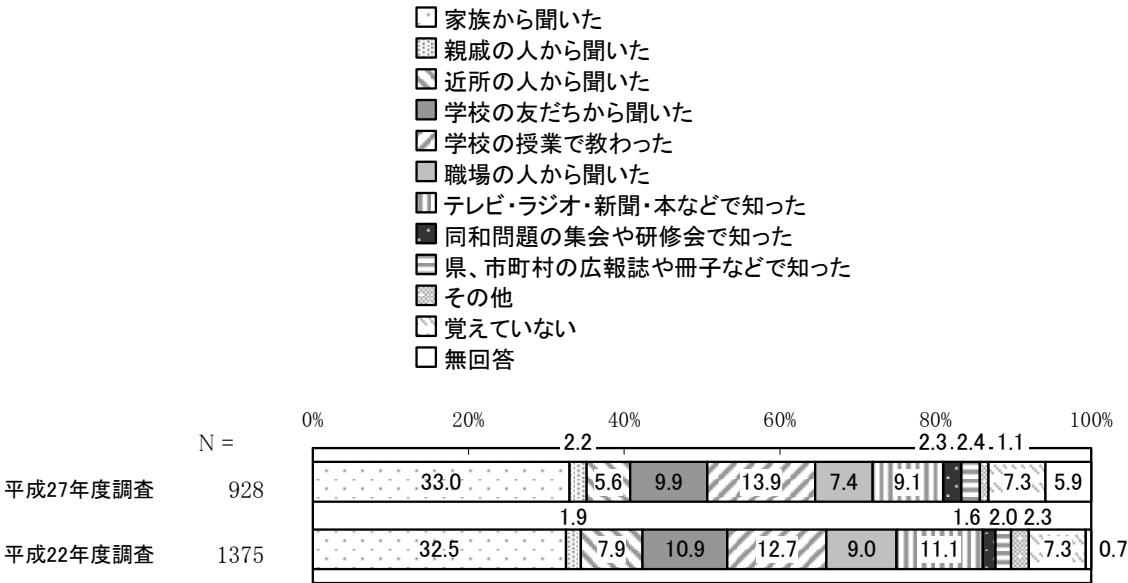
愛知県調査と比較すると、「覚えていない」の割合が5.4ポイント高くなっています。



問 34. (問 32 で「1. 知っている」と回答した方に)  
 あなたが、同和地区や同和問題について、はじめて知ったきっかけは何ですか。  
 (○印1つ)

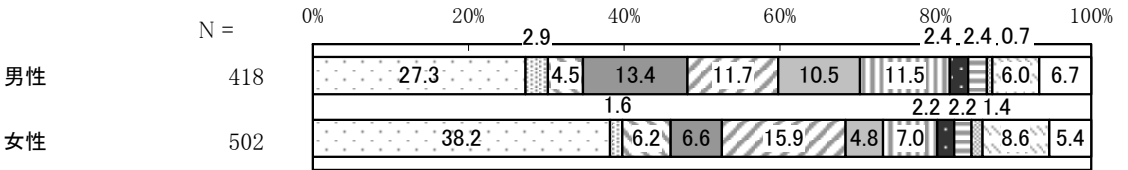
「家族から聞いた」の割合が 33.0%と最も高く、次いで「学校の授業で教わった」の割合が 13.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

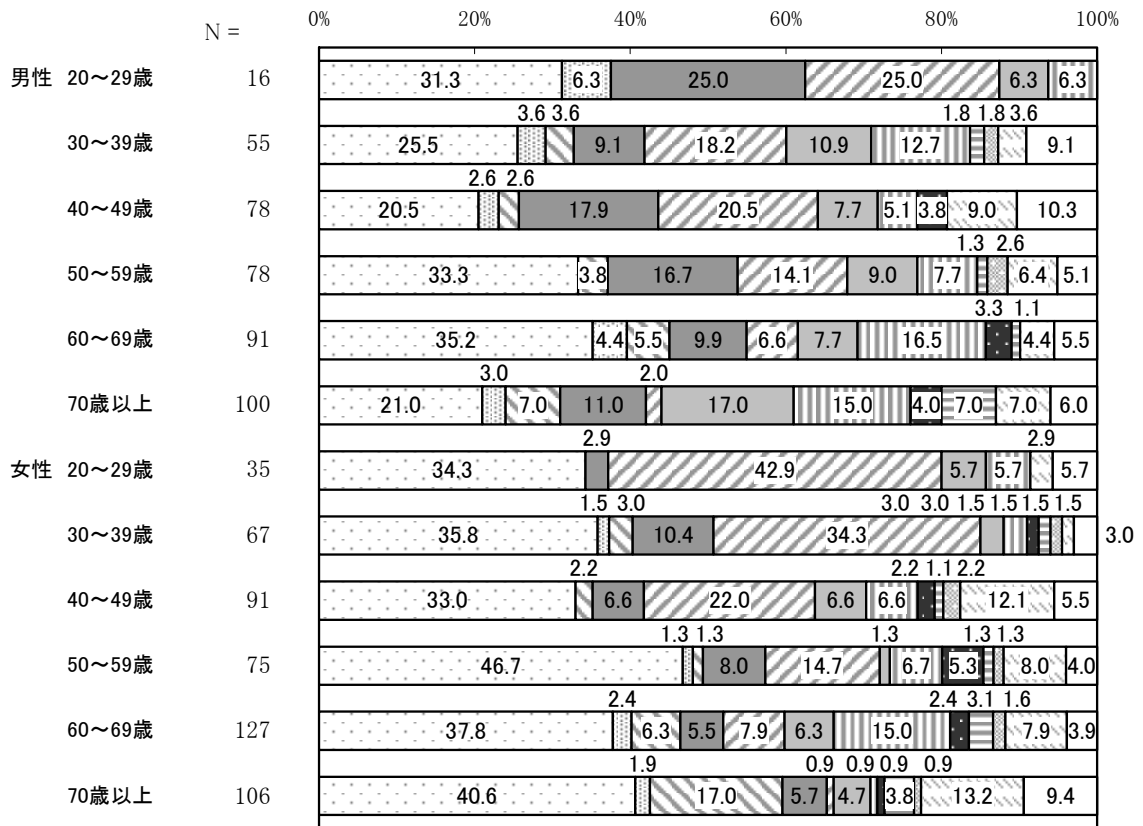
性別で見ると、女性に比べ男性で「学校の友だちから聞いた」「職場の人から聞いた」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家族から聞いた」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

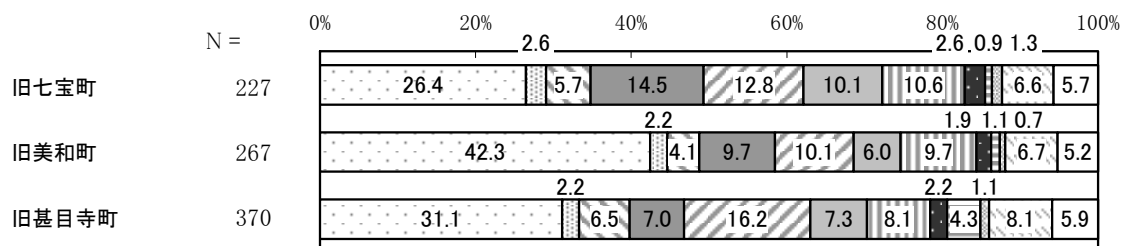
性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、40～59歳で「学校の友だちから聞いた」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「職場の人から聞いた」の割合が高くなっています。女性の20～39歳で「学校の授業で教わった」の割合が高くなっています。また、女性の50～59歳で「家族から聞いた」の割合が高くなっています。女性の70歳以上で「近所の人から聞いた」の割合が高くなっています。

- 家族から聞いた
- ▨ 親戚の人から聞いた
- ▩ 近所の人から聞いた
- 学校の友だちから聞いた
- ▧ 学校の授業で教わった
- ▦ 職場の人から聞いた
- ▤ テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
- ▥ 同和問題の集会や研修会で知った
- ▣ 県、市町村の広報誌や冊子などで知った
- ▢ その他
- 覚えていない
- 無回答



【居住地区別】

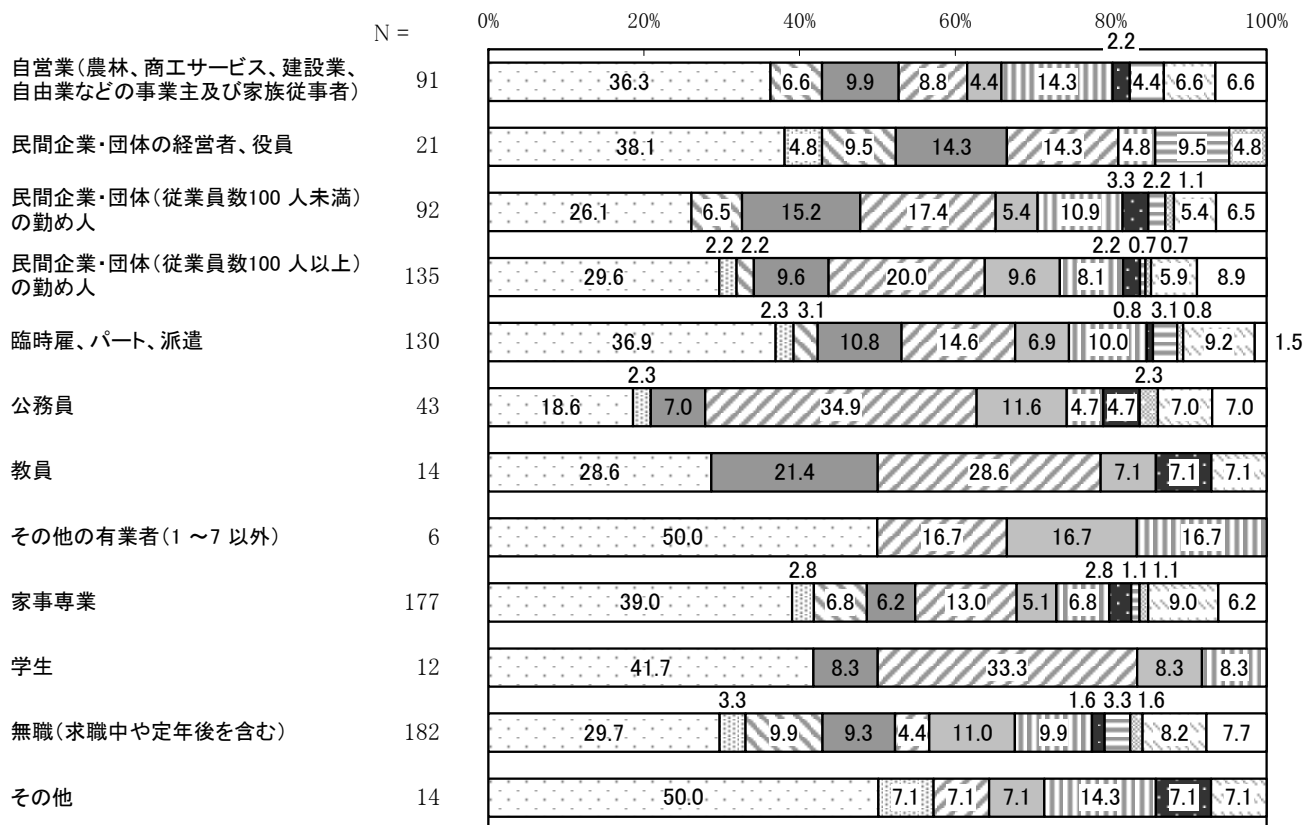
居住地区別で見ると、旧美和町で「家族から聞いた」の割合が高くなっています。



## 【職業別】

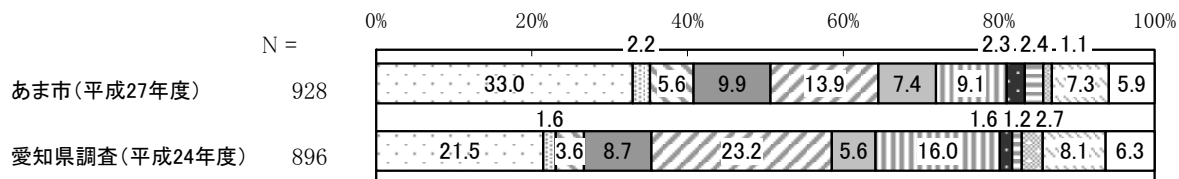
職業別でみると、公務員、学生で「学校の授業で教わった」の割合が高くなっています。

- 家族から聞いた
- ▨ 親戚の人から聞いた
- ▧ 近所の人から聞いた
- 学校の友だちから聞いた
- ▩ 学校の授業で教わった
- 職場の人から聞いた
- ▬ テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
- 同和問題の集会や研修会で知った
- ▨ 県、市町村の広報誌や冊子などで知った
- ▩ その他
- ▨ 覚えていない
- 無回答



## 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、「家族から聞いた」の割合が11.5ポイント高くなっています。一方、「学校の授業で教わった」の割合が9.3ポイント、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」の割合が6.9ポイント低くなっています。

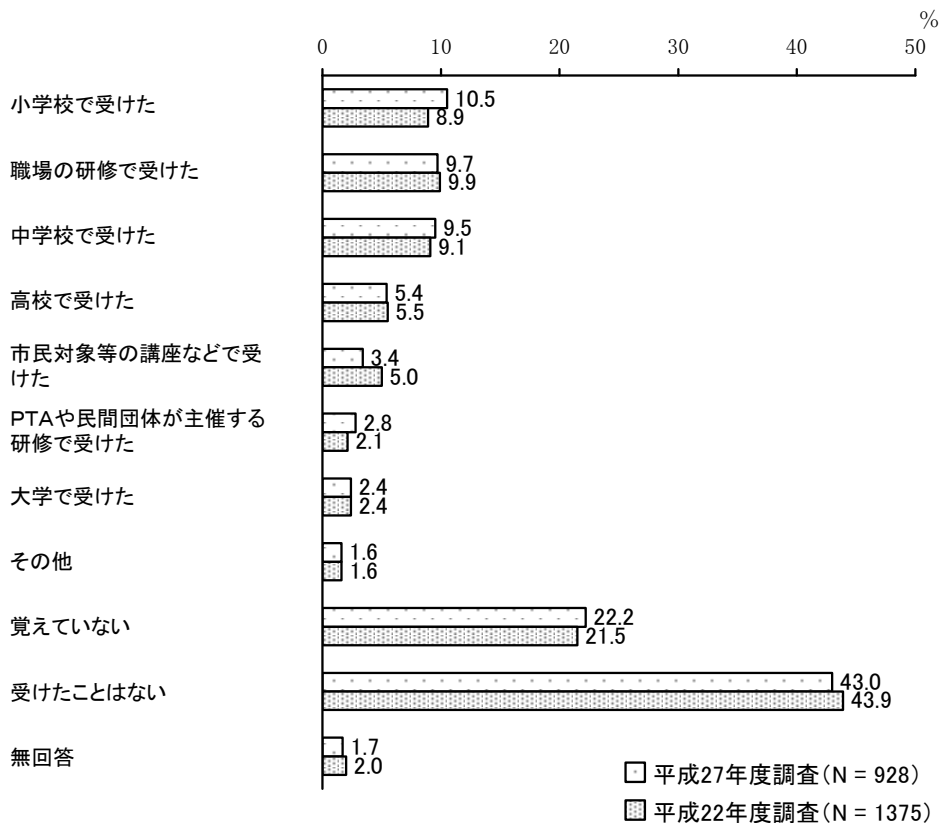


問 35. (問 32 で「1. 知っている」と回答した方に)

あなたは、学校、職場及び地域で同和問題についての教育を受けたり、学習したことがありますか。(○印いくつでも)

「受けたことはない」の割合が 43.0%と最も高く、次いで「覚えていない」の割合が 22.2%、「小学校で受けた」の割合が 10.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「職場の研修で受けた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学で受けた	職場の研修で受けた	PTAや民間団体が主催する研修で受けた	市民対象等の講座などで受けた	その他	覚えていない	受けたことはない	無回答
男性	418	11.0	9.6	5.5	2.2	13.6	1.9	3.8	2.2	22.5	40.4	1.0
女性	502	10.2	9.6	5.2	2.6	6.6	3.6	3.2	1.2	22.1	45.0	2.0

### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の40～49歳、女性の20～49歳で「小学校で受けた」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「中学校で受けた」の割合が高くなっています。男性の40～69歳で「職場の研修で受けた」の割合が高くなっています。一方、男性の70歳以上、女性の60歳以上で「受けたことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学で受けた	職場の研修で受けた	P T Aや民間団体が主催する研修で受けた	市民対象等の講座などで受けた	その他	覚えていない	受けたことはない	無回答
男性 20～29歳	16	12.5	6.3	—	6.3	6.3	—	—	—	31.3	37.5	—
30～39歳	55	12.7	16.4	9.1	5.5	9.1	—	1.8	1.8	25.5	34.5	1.8
40～49歳	78	25.6	12.8	7.7	2.6	16.7	1.3	1.3	1.3	26.9	23.1	1.3
50～59歳	78	11.5	15.4	7.7	1.3	20.5	1.3	2.6	—	23.1	34.6	—
60～69歳	91	5.5	2.2	3.3	2.2	17.6	3.3	4.4	5.5	16.5	47.3	1.1
70歳以上	100	3.0	6.0	3.0	—	6.0	3.0	8.0	2.0	21.0	56.0	1.0
女性 20～29歳	35	20.0	28.6	8.6	14.3	11.4	—	—	2.9	20.0	25.7	—
30～39歳	67	22.4	14.9	4.5	1.5	7.5	—	—	—	26.9	37.3	—
40～49歳	91	20.9	14.3	6.6	2.2	5.5	2.2	—	2.2	25.3	38.5	—
50～59歳	75	9.3	8.0	10.7	2.7	13.3	6.7	1.3	1.3	24.0	36.0	2.7
60～69歳	127	0.8	4.7	3.9	2.4	3.9	7.1	7.9	0.8	22.0	50.4	—
70歳以上	106	1.9	2.8	0.9	—	3.8	1.9	4.7	0.9	16.0	61.3	7.5

### 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学で受けた	職場の研修で受けた	P T Aや民間団体が主催する研修で受けた	市民対象等の講座などで受けた	その他	覚えていない	受けたことはない	無回答
旧七宝町	227	10.1	11.5	5.3	2.2	12.8	1.3	2.2	0.9	20.3	46.3	0.9
旧美和町	267	6.0	7.9	6.0	3.4	10.5	1.9	1.9	2.6	23.6	43.8	1.9
旧基目寺町	370	11.9	9.7	5.7	1.6	7.8	4.6	5.9	1.6	22.4	40.3	1.6



【職業別】

職業別でみると、公務員で「職場の研修で受けた」の割合が高くなっています。また、教員で「高校で受けた」「職場の研修で受けた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学で受けた	職場の研修で受けた	P T A や民間団体が主催する研修で受けた	市民対象等の講座などで受けた	その他	覚えていない	受けたことはない	無回答
自営業	91	6.6	9.9	7.7	2.2	6.6	4.4	8.8	2.2	22.0	38.5	5.5
民間企業・団体の経営者、役員	21	9.5	4.8	4.8	—	—	—	—	—	28.6	52.4	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	92	20.7	14.1	4.3	5.4	4.3	—	1.1	2.2	20.7	45.7	1.1
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	135	17.8	12.6	7.4	2.2	11.9	2.2	1.5	2.2	26.7	31.9	0.7
臨時雇、パート、派遣	130	10.8	12.3	4.6	0.8	8.5	3.8	2.3	1.5	23.8	42.3	0.8
公務員	43	14.0	20.9	14.0	7.0	55.8	2.3	—	—	18.6	7.0	—
教員	14	7.1	21.4	21.4	21.4	64.3	7.1	7.1	7.1	7.1	14.3	—
その他の有業者(1～7以外)	6	16.7	—	—	—	16.7	—	—	—	50.0	16.7	—
家事専業	177	9.0	6.2	3.4	1.1	2.8	4.5	4.0	1.1	19.8	48.6	2.8
学生	12	8.3	25.0	8.3	16.7	—	—	—	—	—	58.3	—
無職(求職中や定年後を含む)	182	2.2	2.7	2.7	0.5	7.1	2.2	5.5	1.6	22.0	57.1	0.5
その他	14	14.3	7.1	7.1	—	7.1	—	—	—	35.7	28.6	—

問 36. (問 32 で「1. 知っている」と回答した方に)

あなたは、次の①～⑥の分野について、今日でも同和問題、部落差別があると思いますか。(○印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

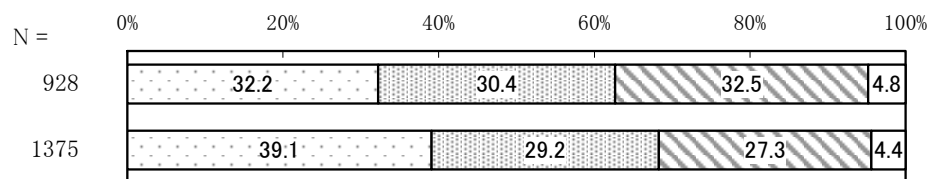
(1) 今回調査

②結婚で「差別はあると思う」の割合が60.7%と高くなっています。一方、④学校・保育所などの教育現場で「差別はないと思う」の割合が43.6%と高くなっています。

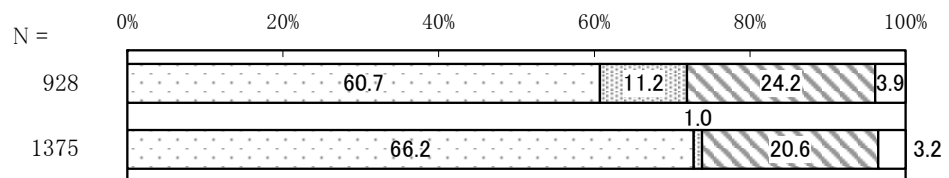
平成22年度調査と比較すると、②結婚で「差別はないと思う」の割合が10.2ポイント増加しています。一方、①恋愛で「差別はあると思う」の割合が6.9ポイント減少しています。

①恋愛

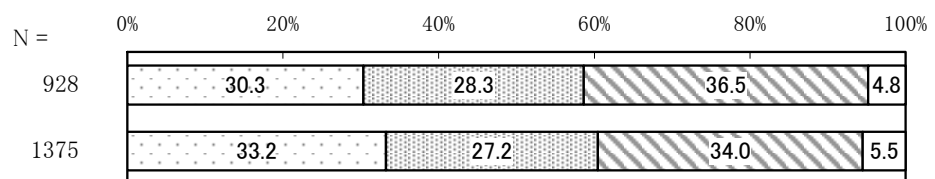
□ 差別はあると思う    ■ 差別はないと思う    ▨ わからない    □ 無回答



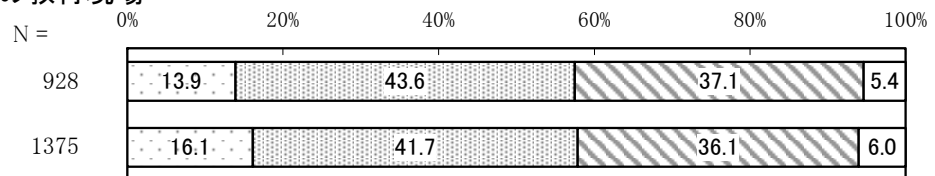
②結婚



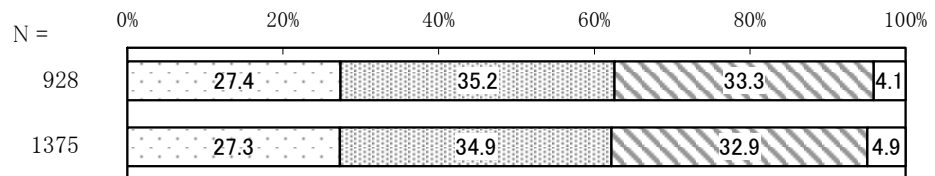
③就職



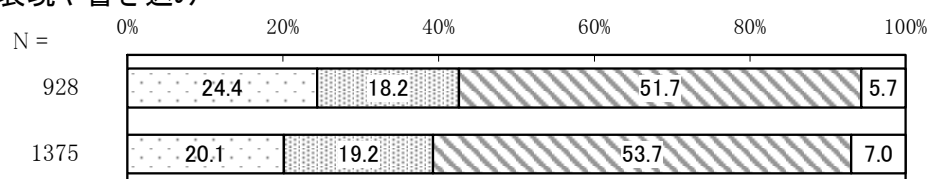
④学校・保育所などの教育現場



⑤日常の付き合い



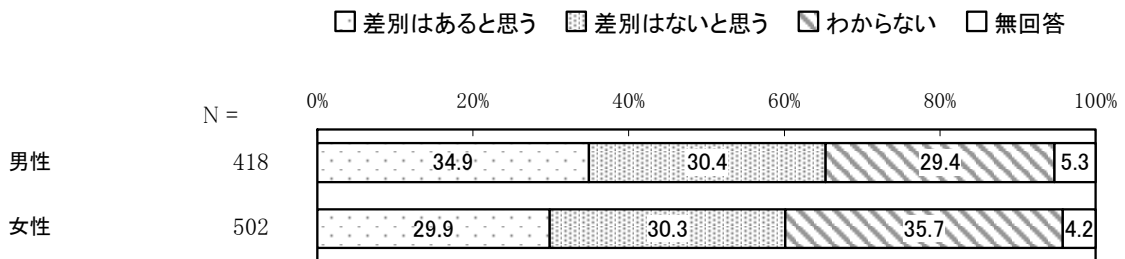
⑥インターネットの表現や書き込み



① 恋愛

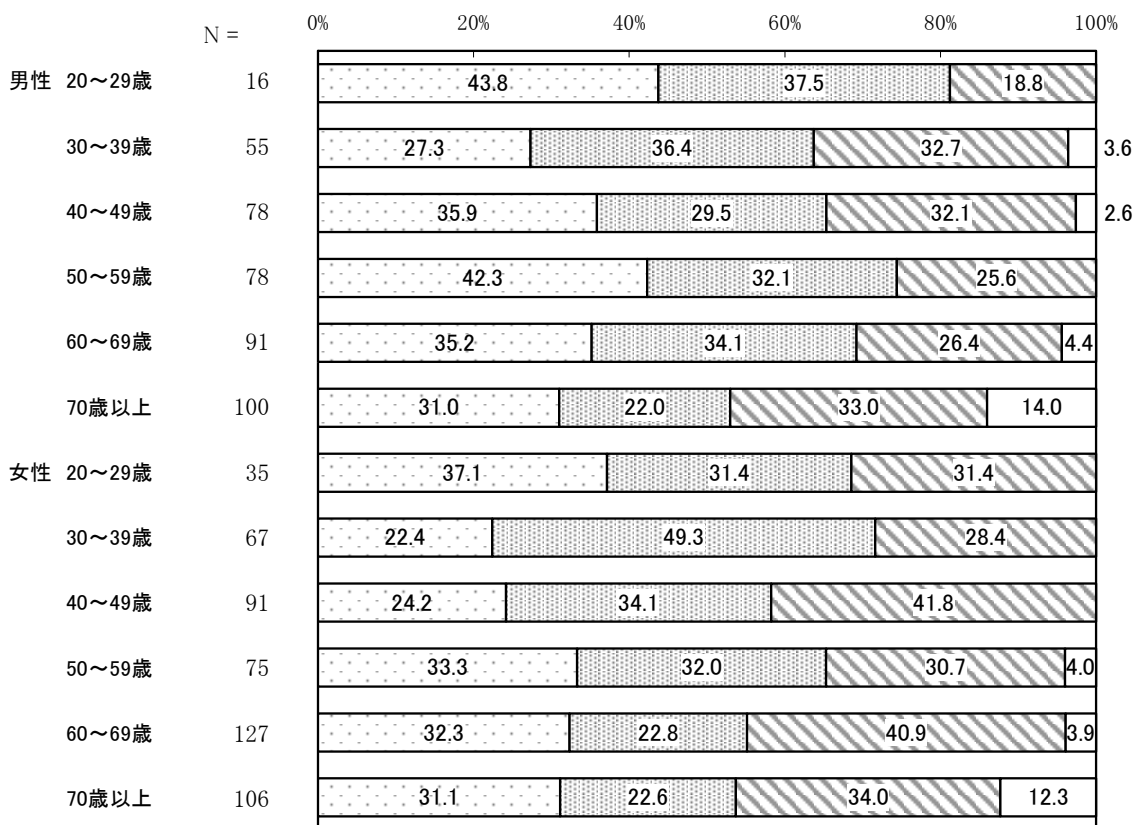
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



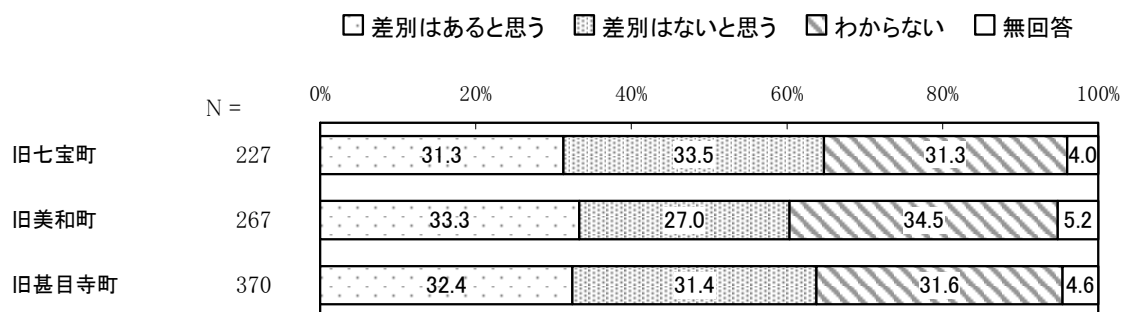
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～39歳で「差別はないと思う」の割合が高くなっています。



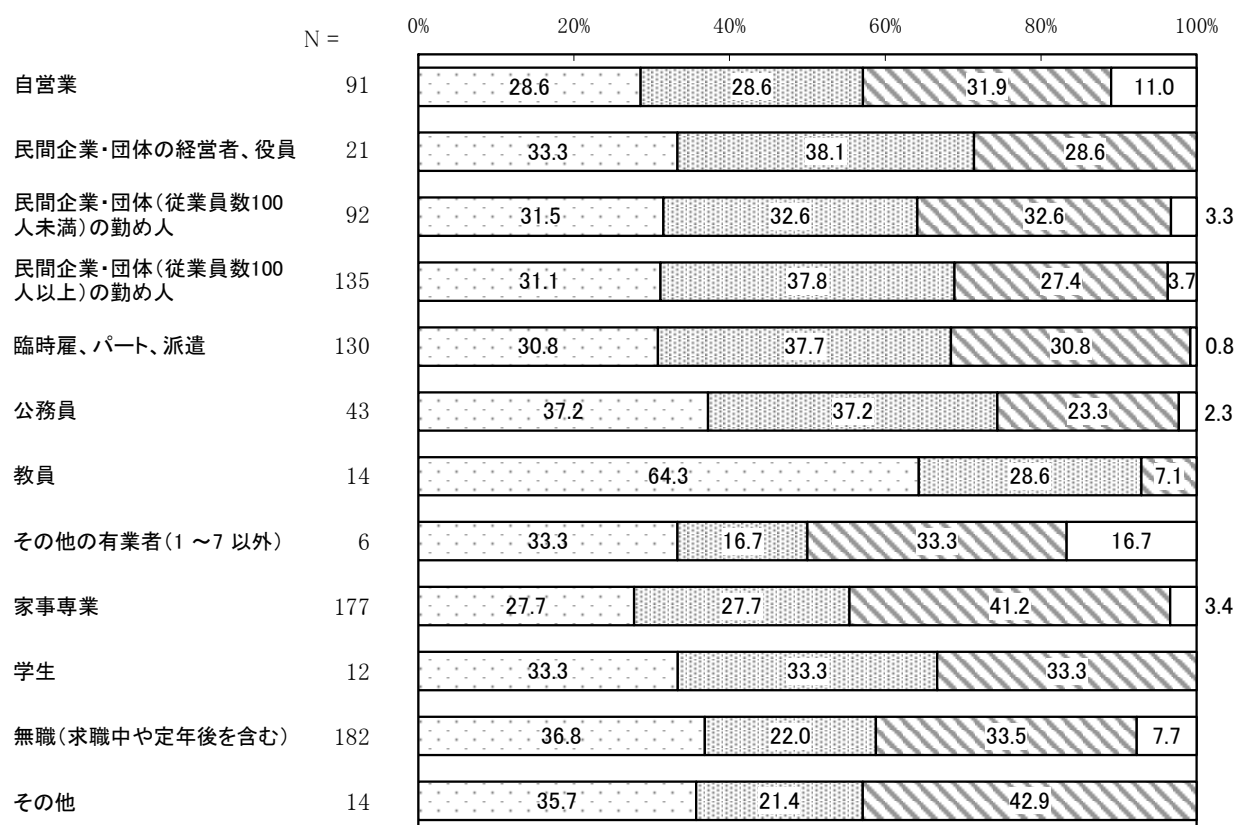
## 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。



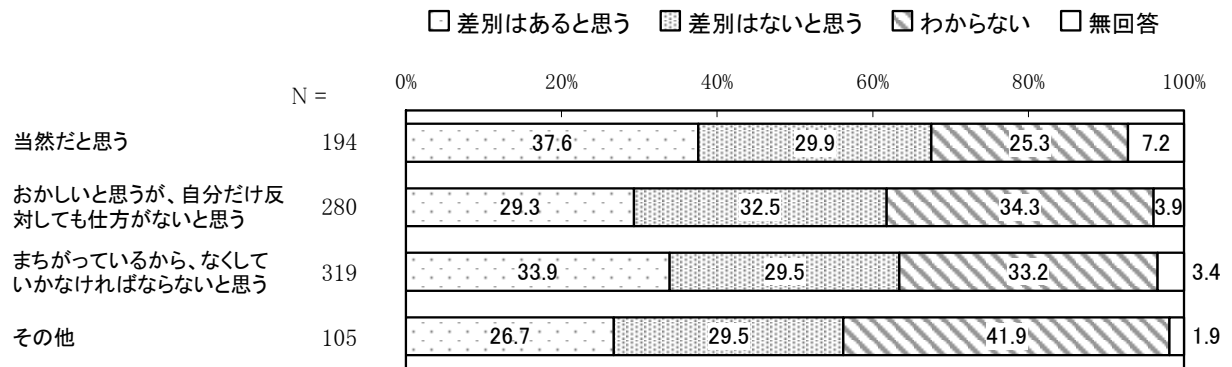
## 【職業別】

職業別でみると、教員で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。一方、家事専業で「わからない」の割合が高くなっています。



【家柄・血筋意識別】

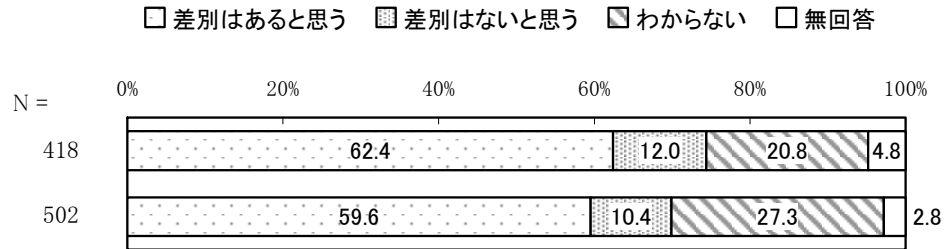
家柄・血筋意識別でみると、大きな差異はみられません。



## ② 結婚

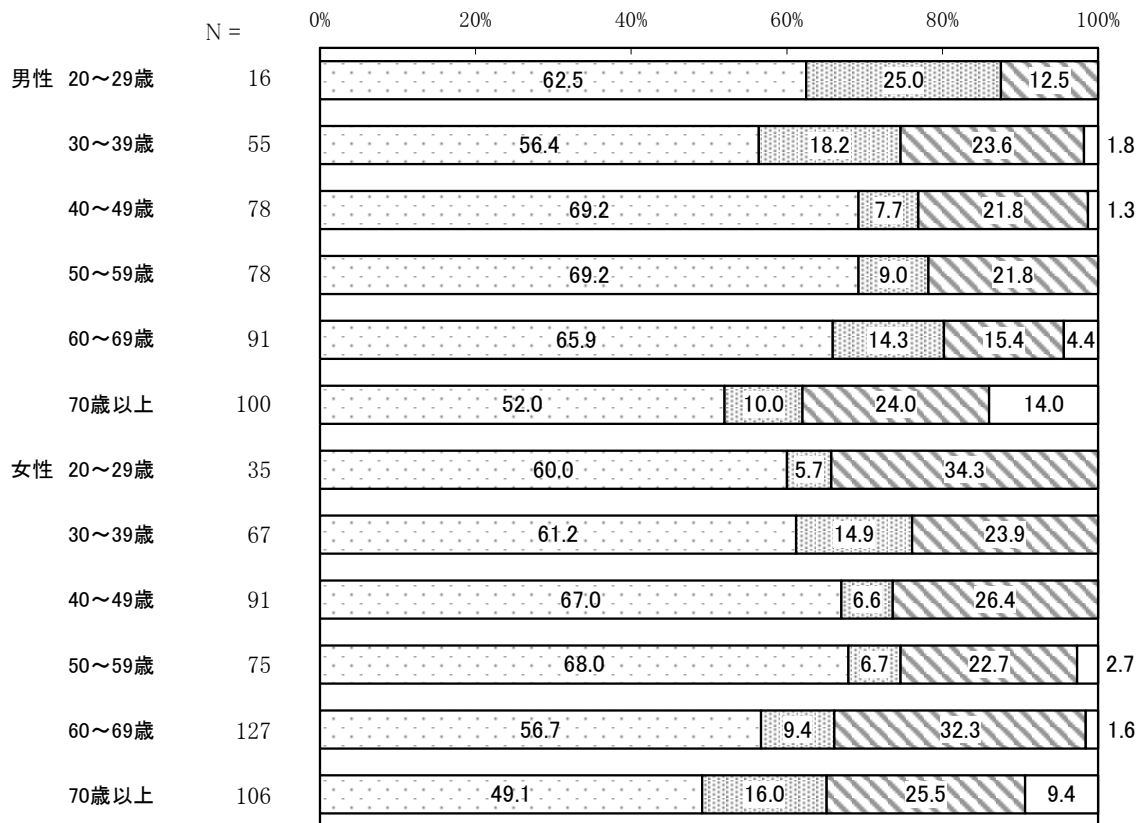
### 【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



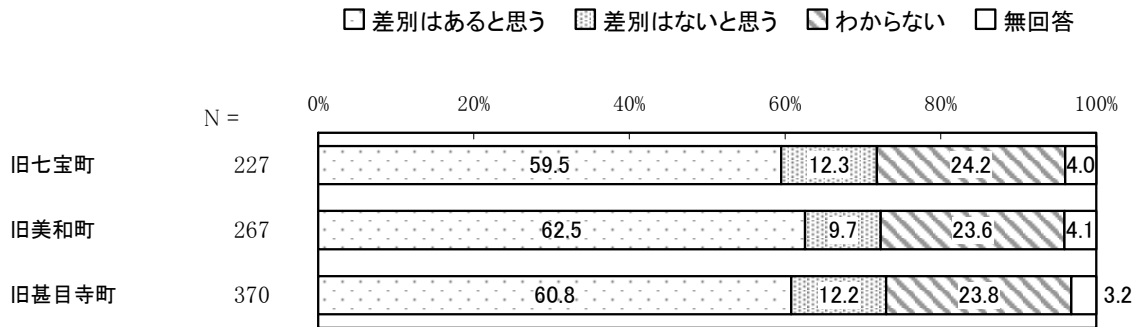
### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「差別はないと思う」の割合が高くなっています。



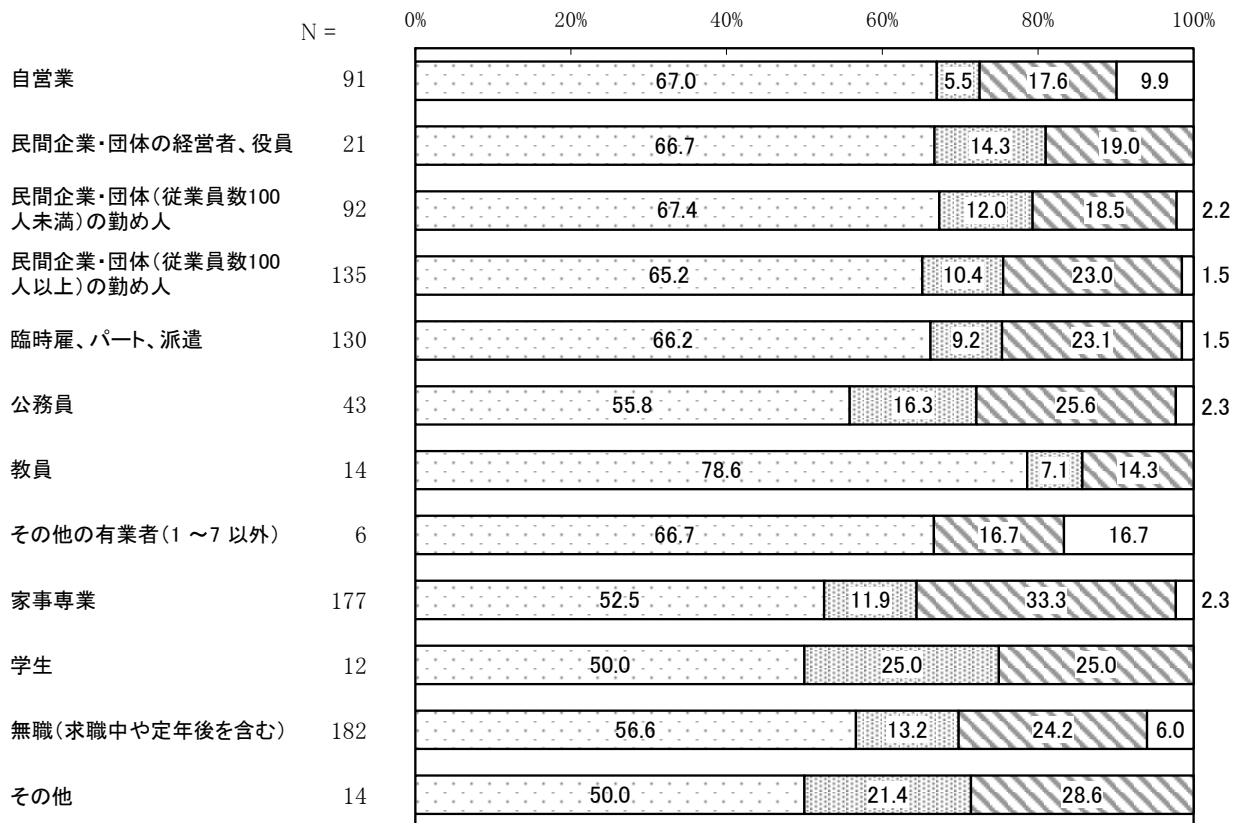
## 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。



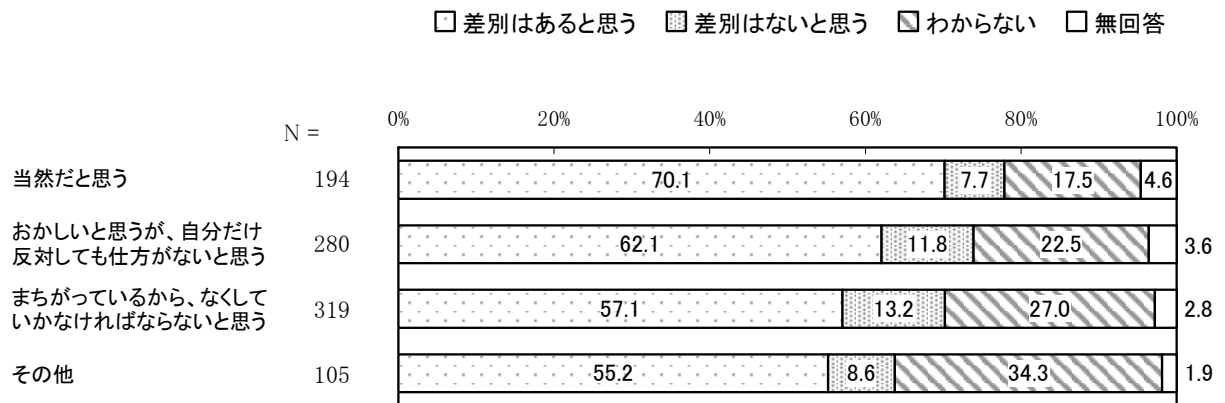
## 【職業別】

職業別でみると、大きな差異はみられません。



【家柄・血筋意識別】

家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「差別はあると思う」の割合が高くなっています。

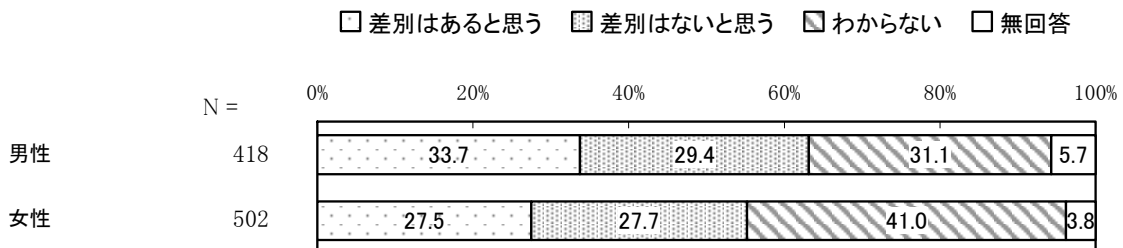




### ③ 就職

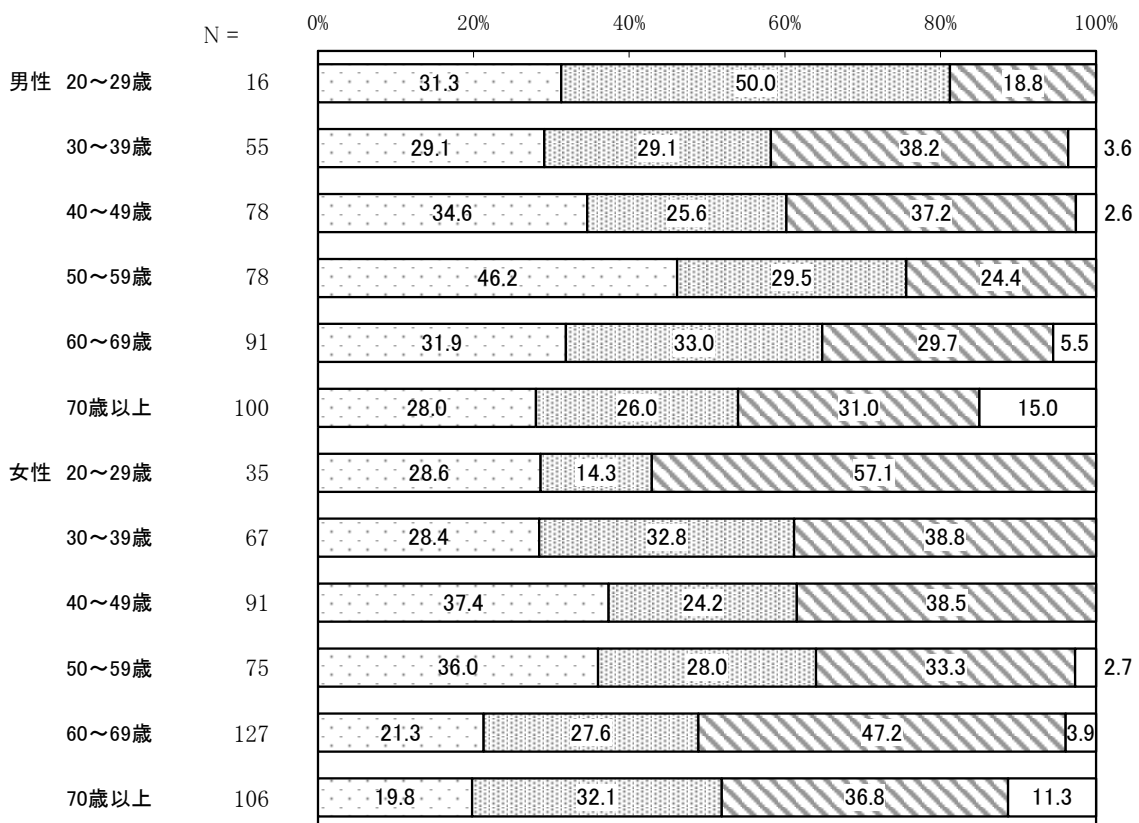
#### 【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



#### 【性・年齢別】

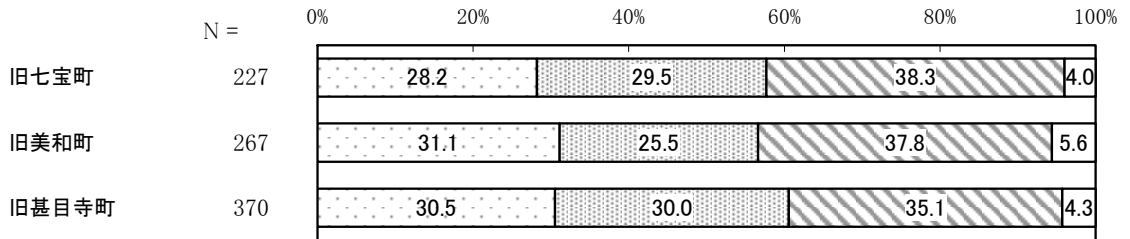
性・年齢別でみると、男性の 50～59 歳で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。男性の 20～29 歳で「差別はないと思う」の割合が高くなっています。また、女性の 20～29 歳で「わからない」の割合が高くなっています。



## 【居住地区別】

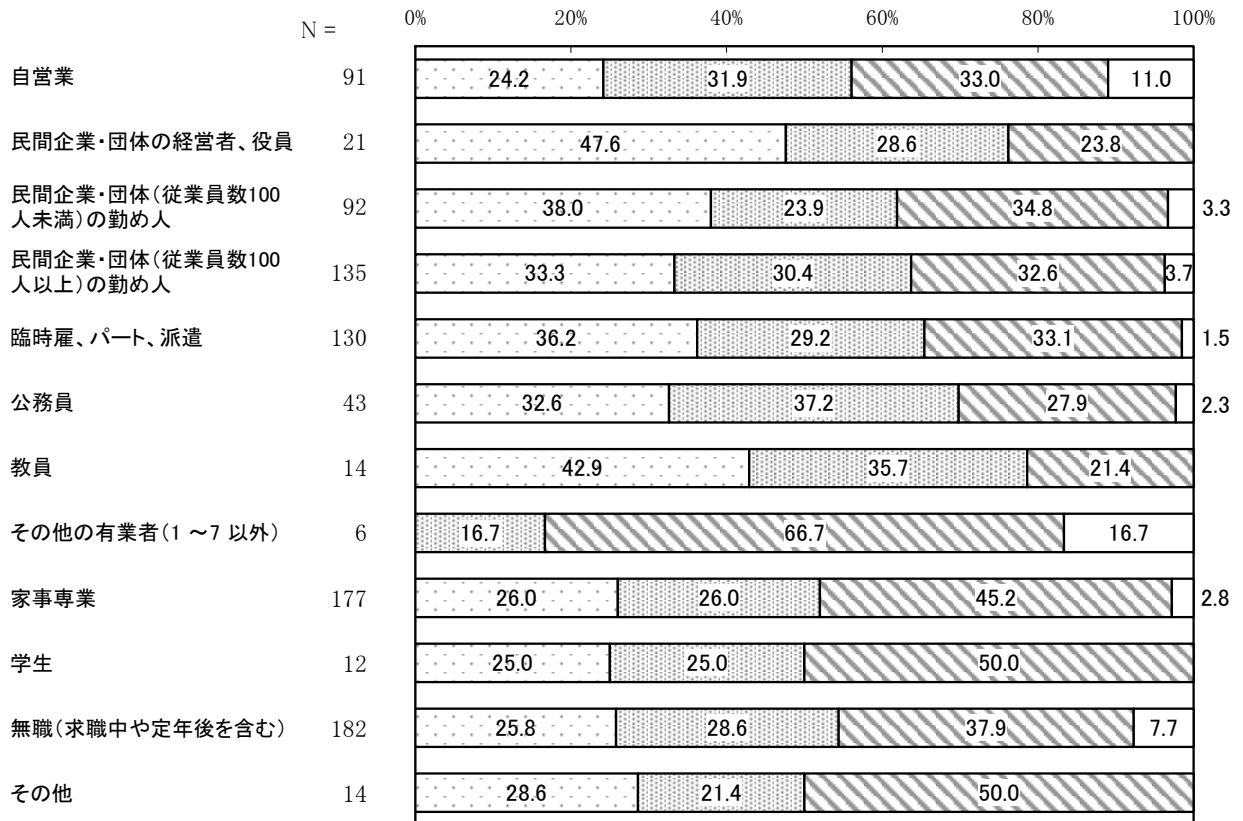
居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

□ 差別はあると思う   □ 差別はないと思う   □ わからない   □ 無回答



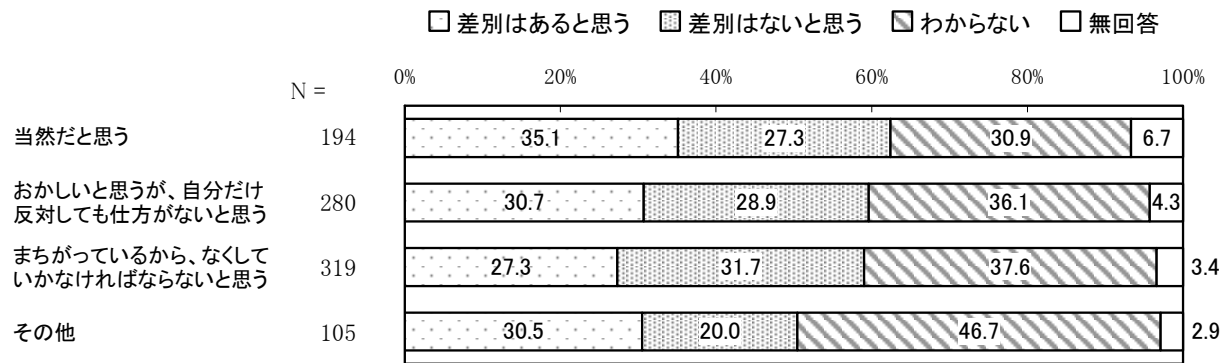
## 【職業別】

職業別でみると、家事専業、学生で「わからない」の割合が高くなっています。



【家柄・血筋意識別】

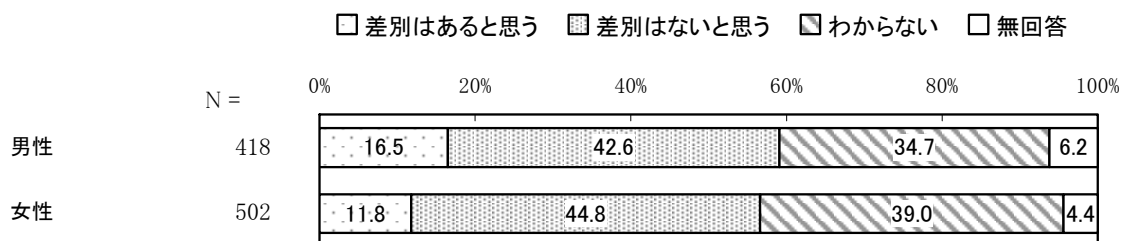
家柄・血筋意識別でみると、大きな差異はみられません。



#### ④ 学校・保育所などの教育現場

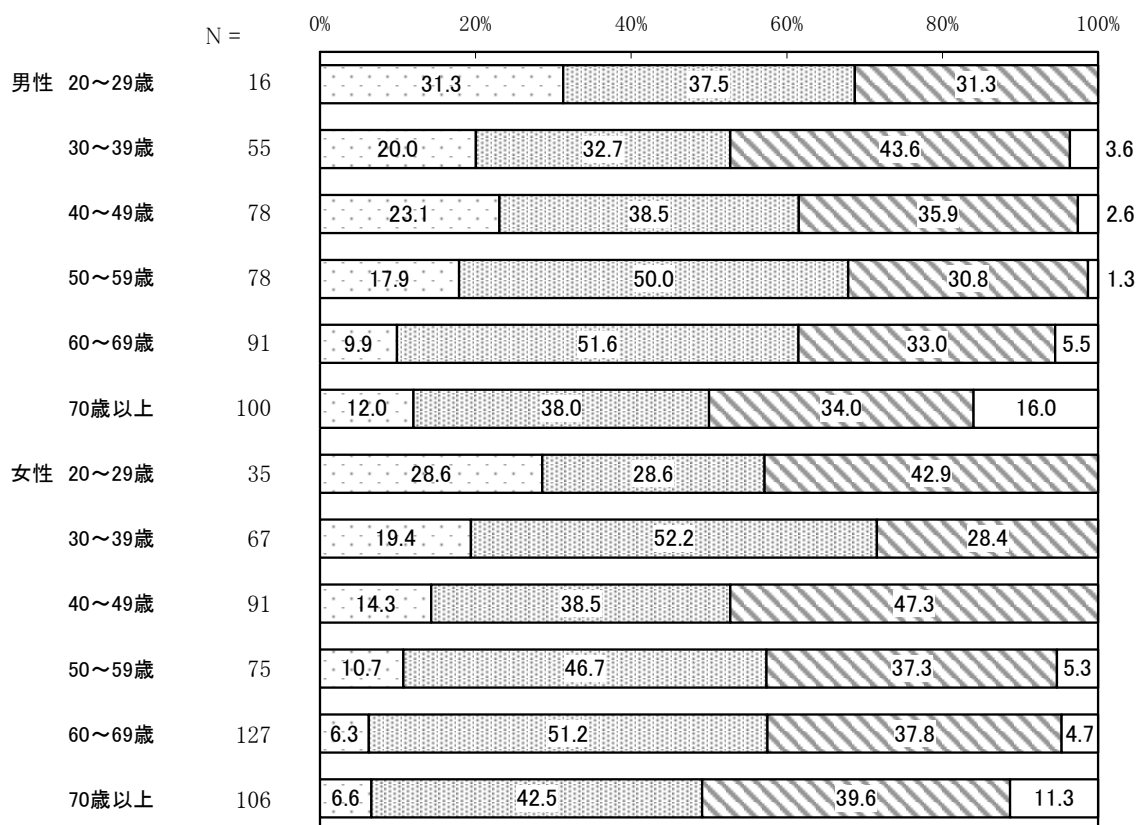
##### 【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



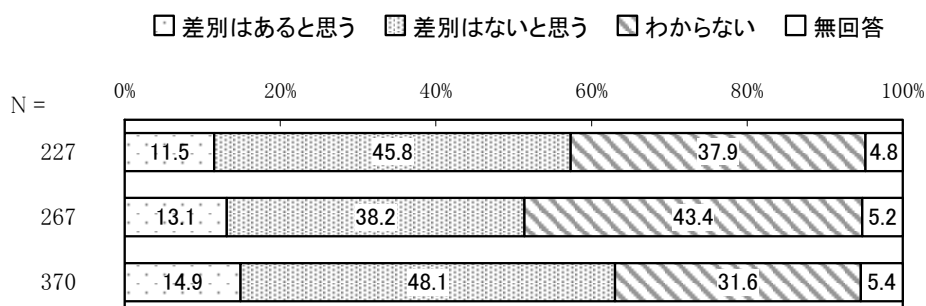
##### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女ともに 20～29 歳で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。



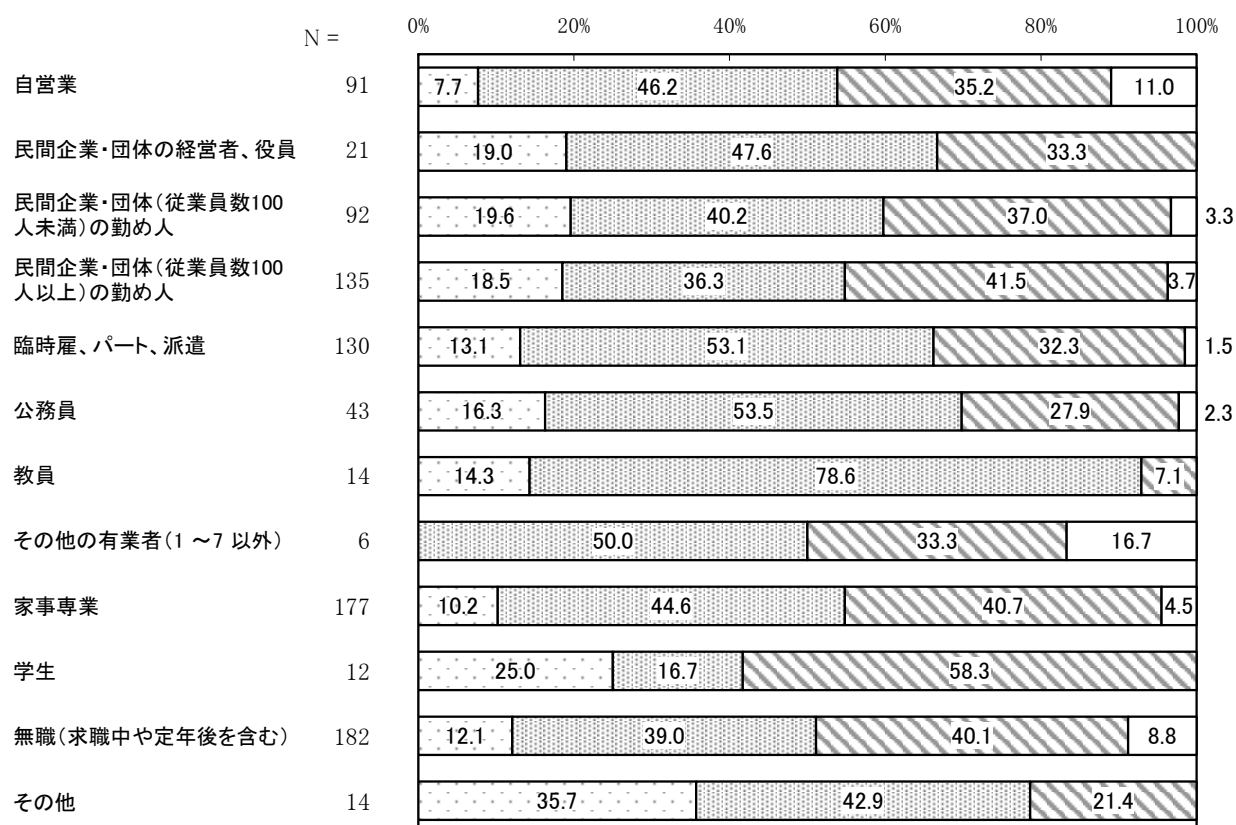
## 【居住地区別】

居住地区別でみると、旧美和町で「わからない」の割合が高くなっています。



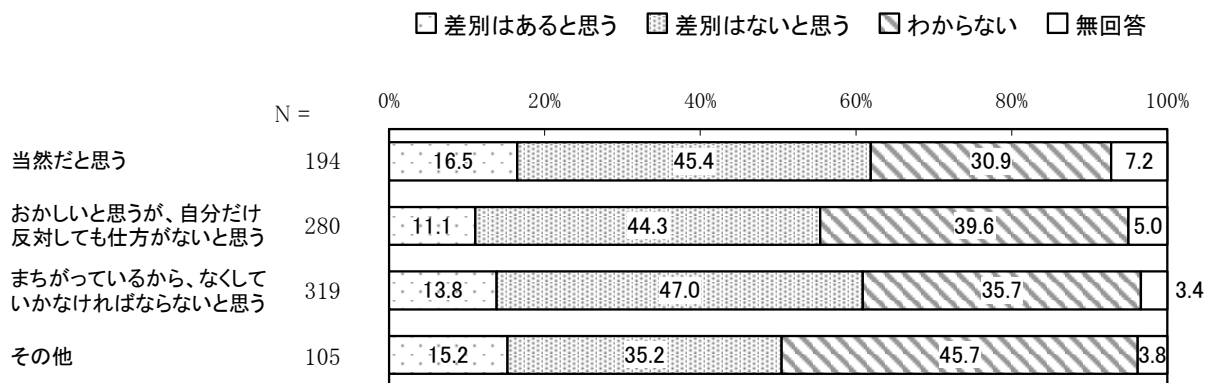
## 【職業別】

職業別でみると、学生で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。一方、教員で「差別はないと思う」の割合が高くなっています。



【家柄・血筋意識別】

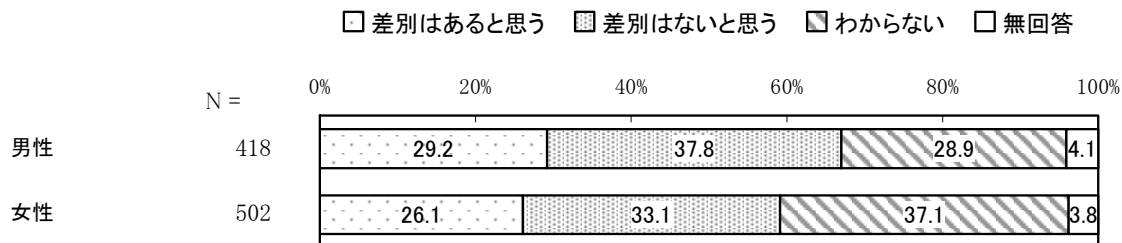
家柄・血筋意識別でみると、大きな差異はみられません。



## ⑤ 日常の付き合い

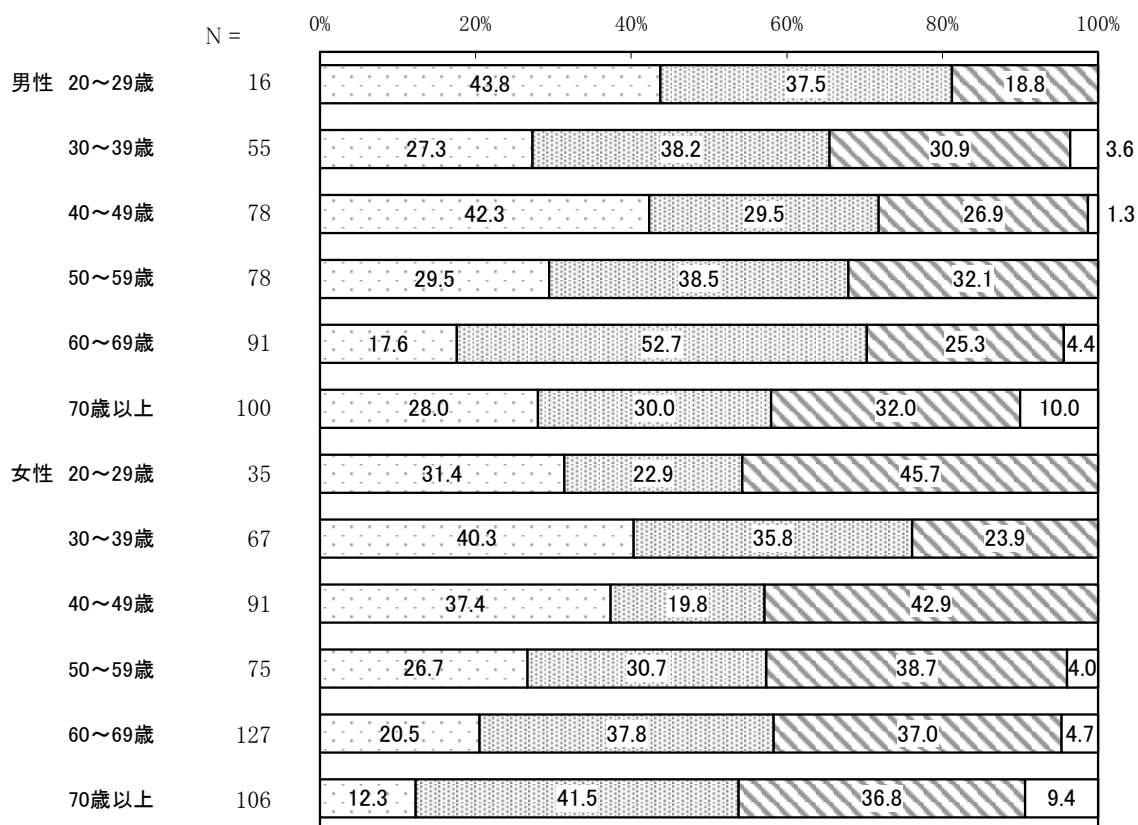
### 【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



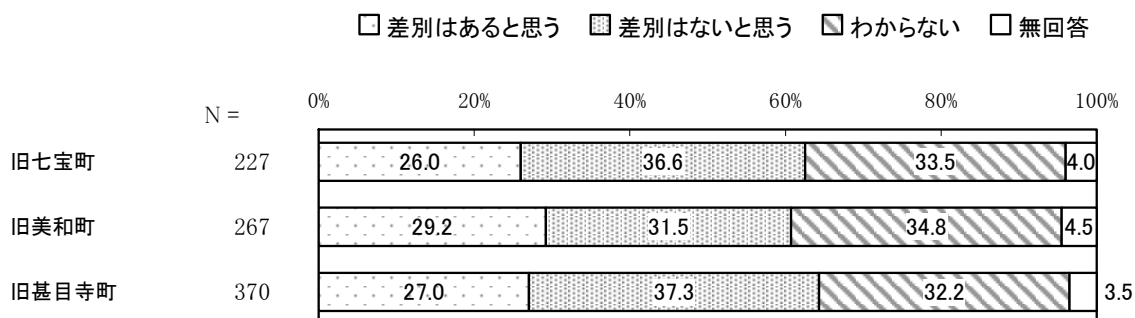
### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、40～49歳、女性の30～49歳で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。一方、男性の60～69歳で「差別はないと思う」の割合が高くなっています。



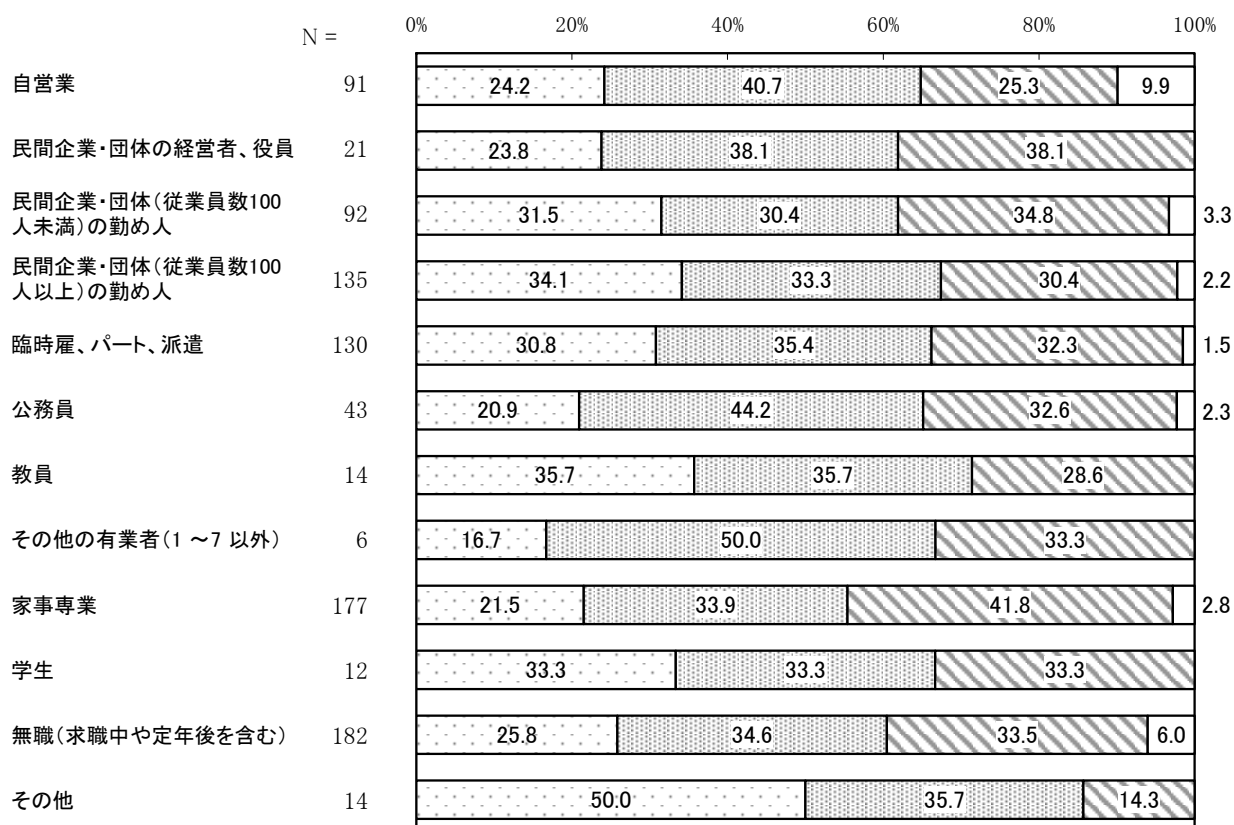
## 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。



## 【職業別】

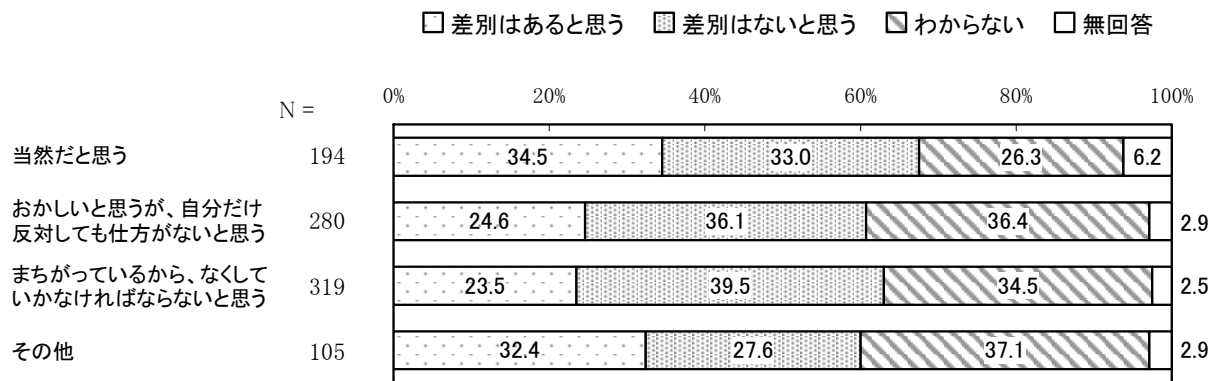
職業別でみると、家事専業で「わからない」の割合が高くなっています。





【家柄・血筋意識別】

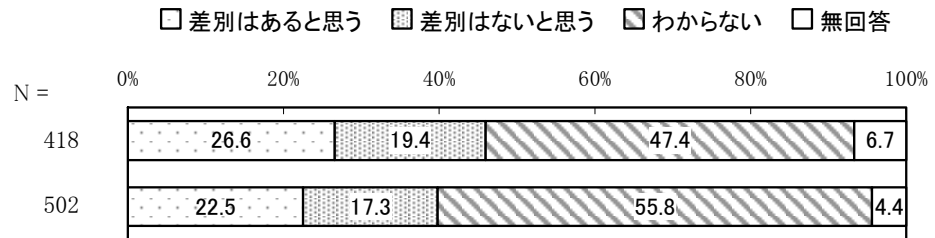
家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「差別はあると思う」の割合が高くなっています。



⑥ インターネットの表現や書き込み

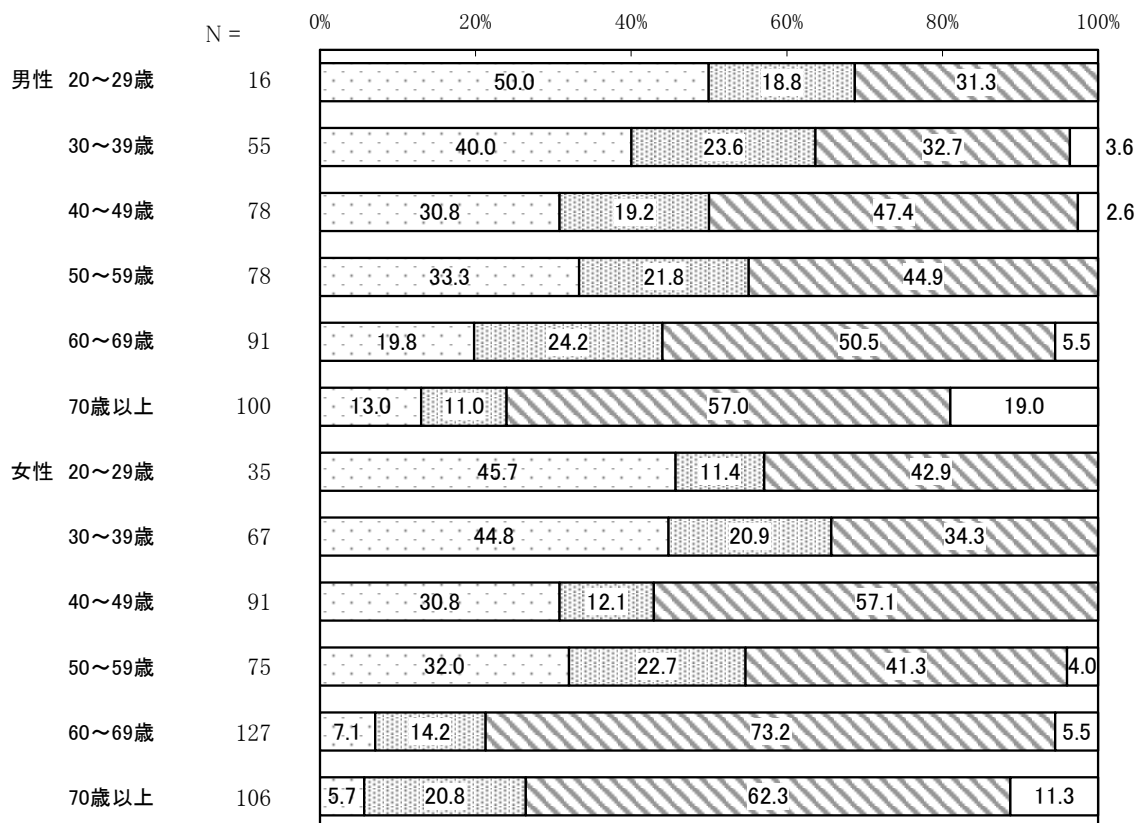
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



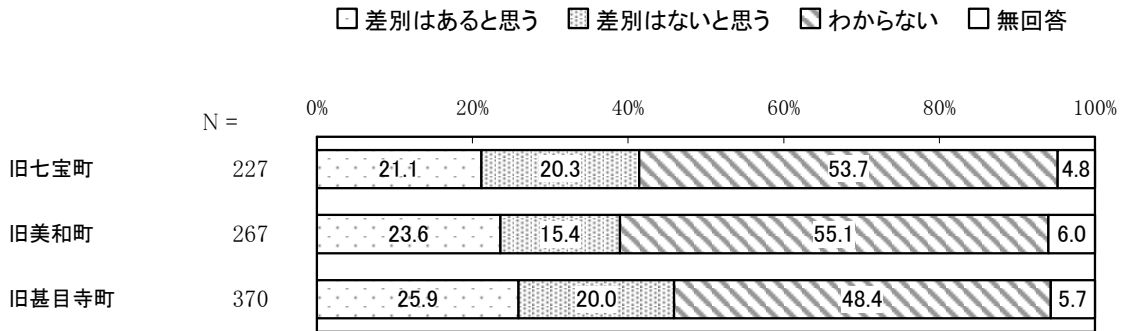
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女ともに 20～39 歳で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。女性の 60 歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。



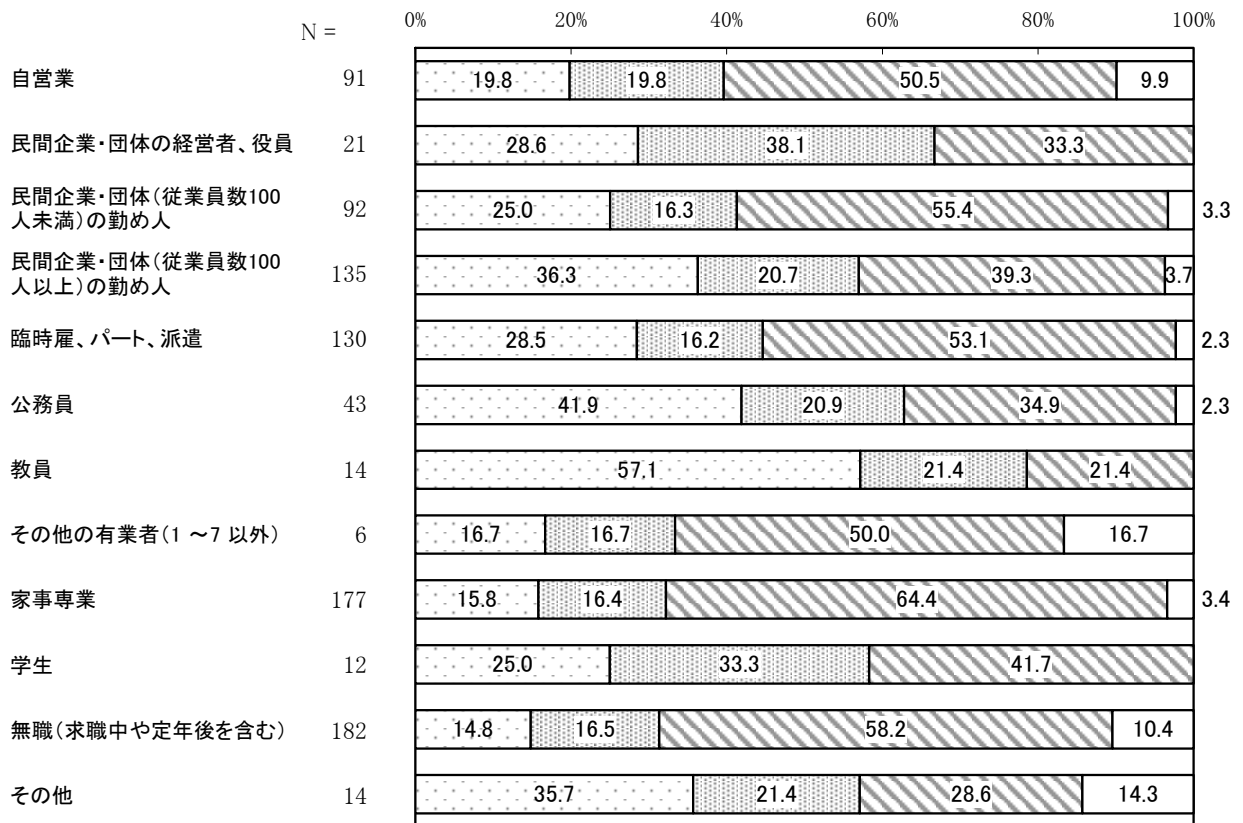
### 【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧甚目寺町で「わからない」の割合が低くなっています。



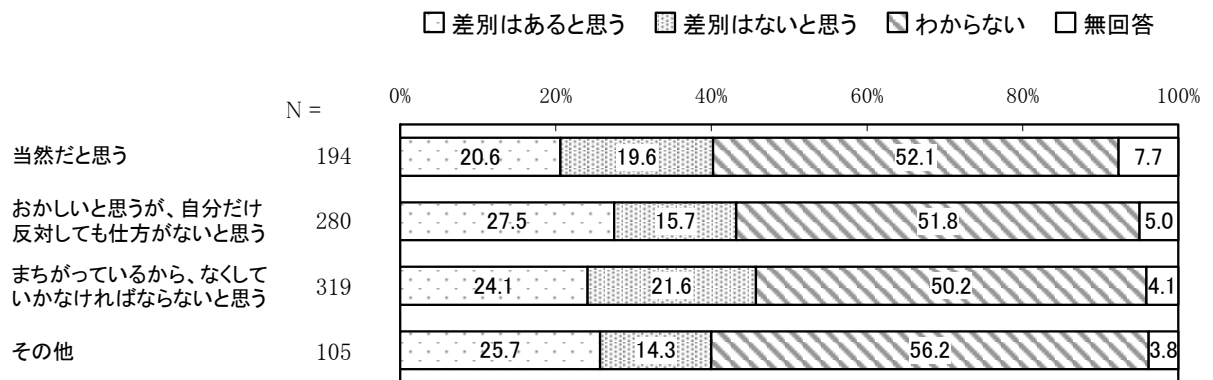
### 【職業別】

職業別で見ると、公務員、教員で「差別はあると思う」の割合が高くなっています。



【家柄・血筋意識別】

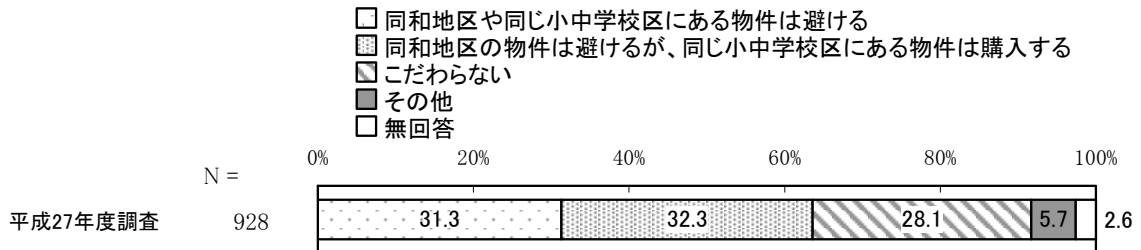
家柄・血筋意識別でみると、大きな差異はみられません。



問 37. (問 32 で「1. 知っている」と回答した方に)

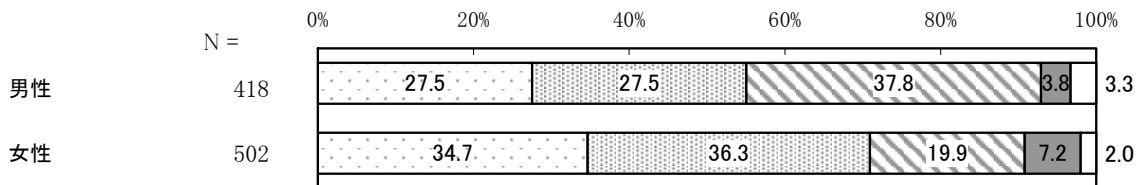
もしあなたが、新しく家を購入したい時、同和地区や同和地区が小中学校区内にある物件の場合、どのようにしたいと思いますか。(○印1つ)

「同和地区の物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は購入する」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避ける」の割合が 31.3%、「こだわらない」の割合が 28.1%となっています。



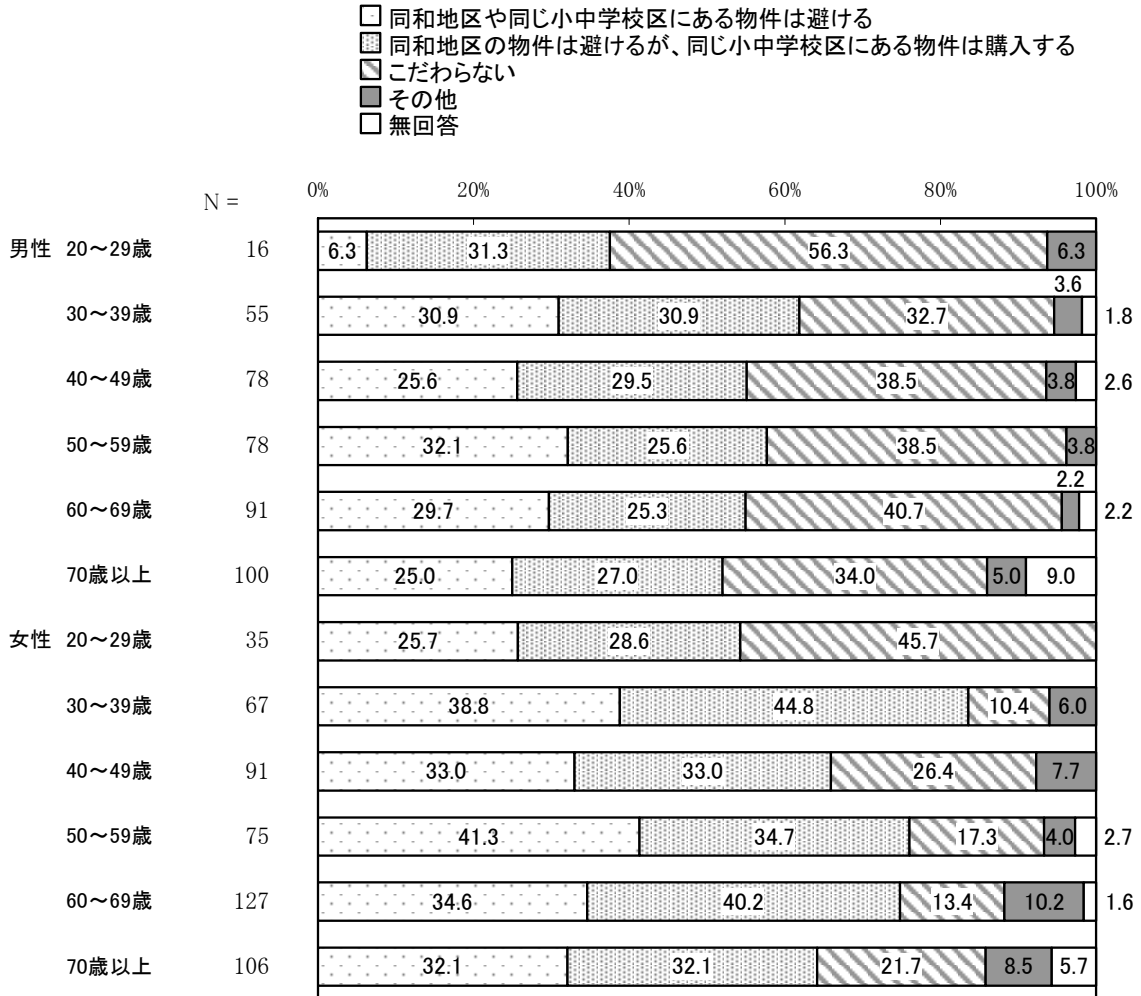
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避ける」「同和地区の物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は購入する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「こだわらない」の割合が高くなっています。



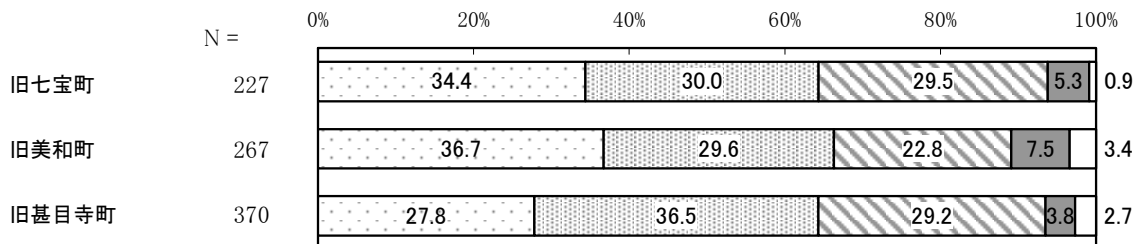
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の 30～39 歳で「同和地区の物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は購入する」の割合が高くなっています。男性の 20～29 歳で「こだわらない」の割合が高くなっています。



### 【居住地区別】

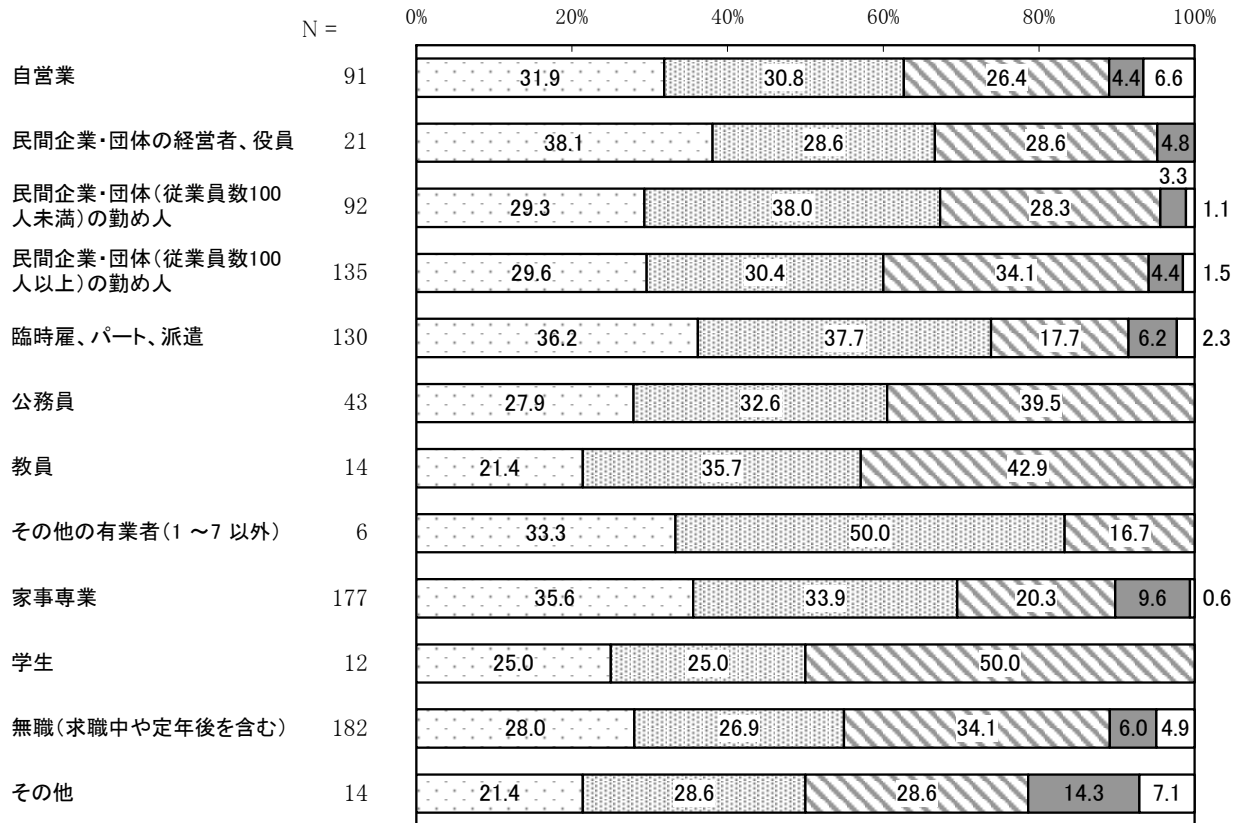
居住地区別で見ると、旧甚目寺町で「同和地区の物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は購入する」の割合が高くなっています。



【職業別】

職業別でみると、学生で「こだわらない」の割合が高くなっています。

- 同和地区や同じ小中学校区にある物件は避ける
- ▨ 同和地区の物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は購入する
- ▧ こだわらない
- その他
- 無回答



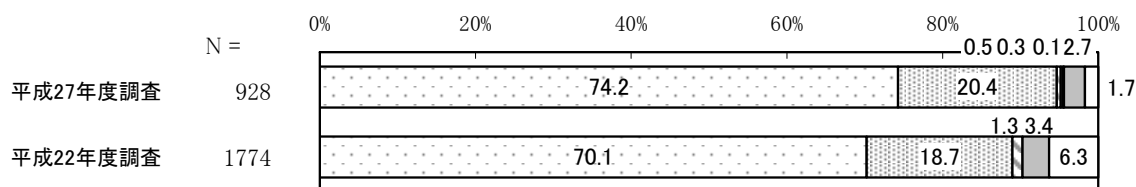
問 38. (問 32 で「1. 知っている」と回答した方に)

仮に、日ごろ親しくつきあっている隣近所の人が、何かのことで同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(○印1つ)

「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が 74.2%と最も高く、次いで「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が 20.4%となっています。

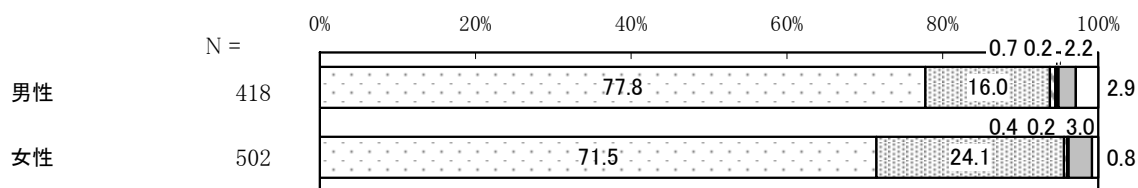
平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- これまでと同じように親しくつきあう
- 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく
- つきあいは、やめてしまう
- なんとかして、近所から出ていってもらうようにしむける
- 自分の方が住居をかわる
- その他
- 無回答



【性別】

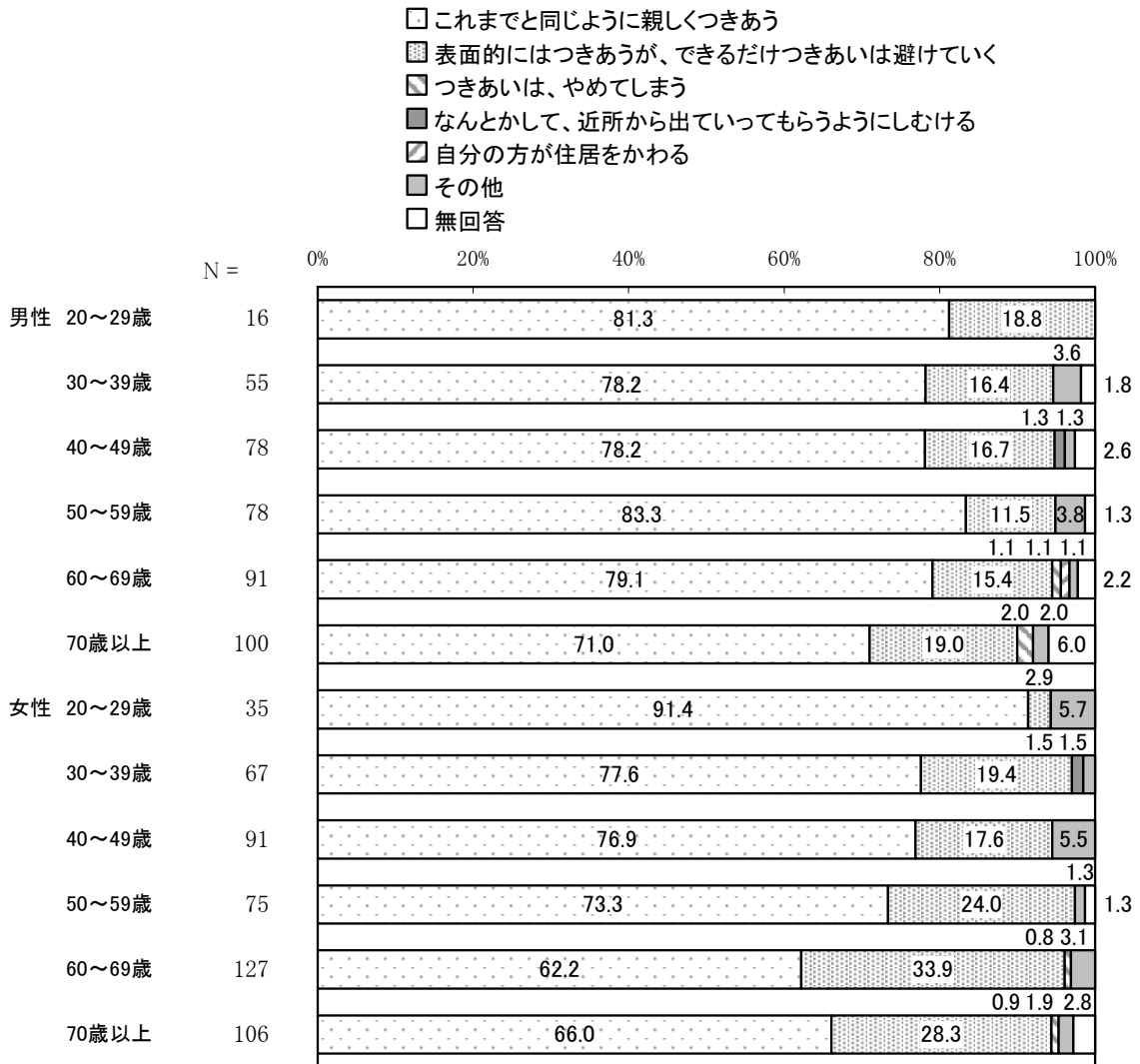
性別でみると、女性に比べ男性で「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が高くなっています。





【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の 20～29 歳で「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が高くなっています。また、女性の 60 歳以上で「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

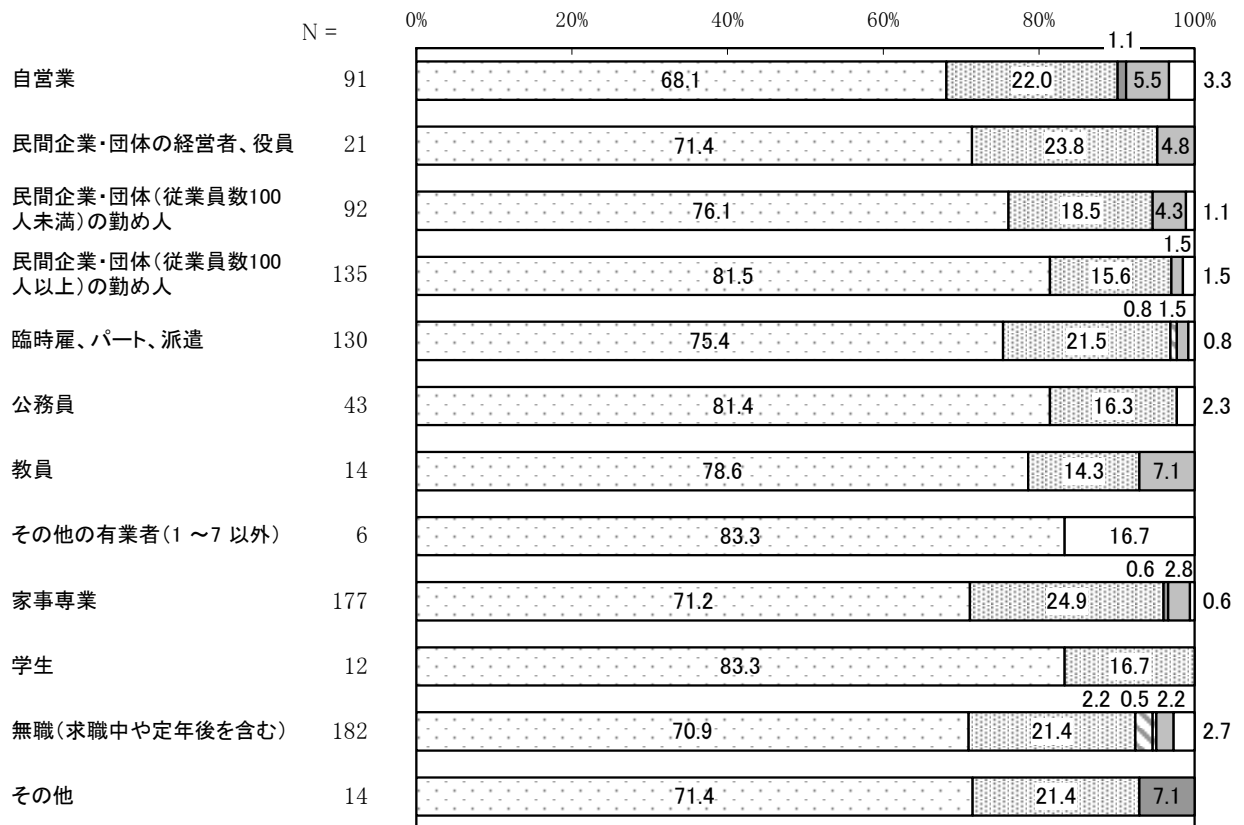
居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



【職業別】

職業別でみると、学生、民間企業・団体（従業員数 100 人以上）、公務員で「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が高くなっています。

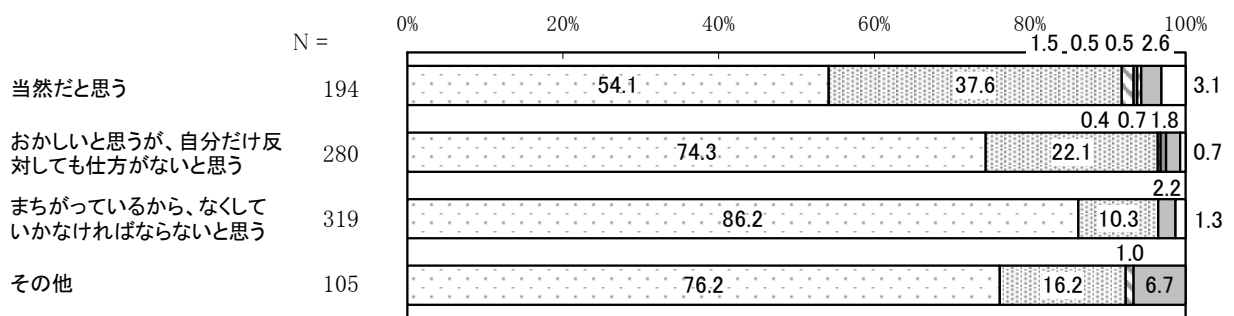
- これまでと同じように親しくつきあう
- 表面的にはつきあいが、できるだけつきあいは避けていく
- つきあいは、やめてしまう
- なんとかして、近所から出ていってもらうようにしむける
- 自分の方が住居をかわる
- その他
- 無回答



### 【家柄・血筋意識別】

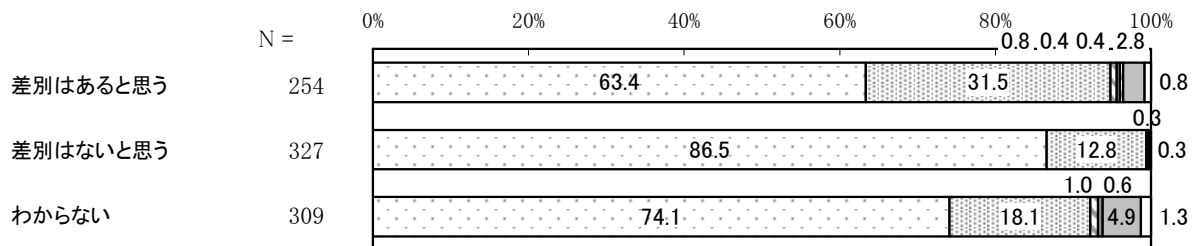
家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が高くなっています。

- これまでと同じように親しくつきあう
- 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく
- つきあいは、やめてしまう
- なんとかして、近所から出ていってもらうようにしむける
- 自分の方が住居をかわる
- その他
- 無回答



### 【日常の付き合い方差別意識別】

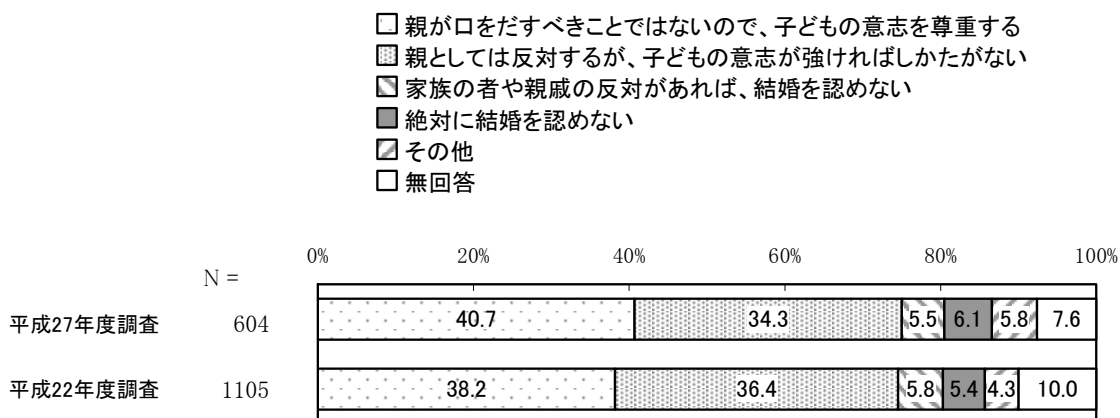
日常の付き合い方差別意識別でみると、差別はあると思うで「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が高くなっています。また、差別はないと思うで「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が高くなっています。



問 39. お子さんのいる方にお聞きします。お子さんのいない方は次の問 40 へお進みください。  
 あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。(○印1つ)

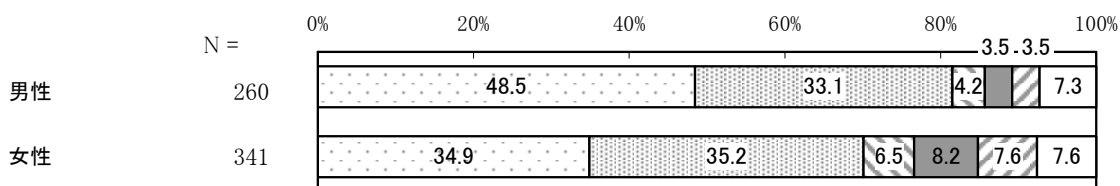
「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」の割合が 34.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

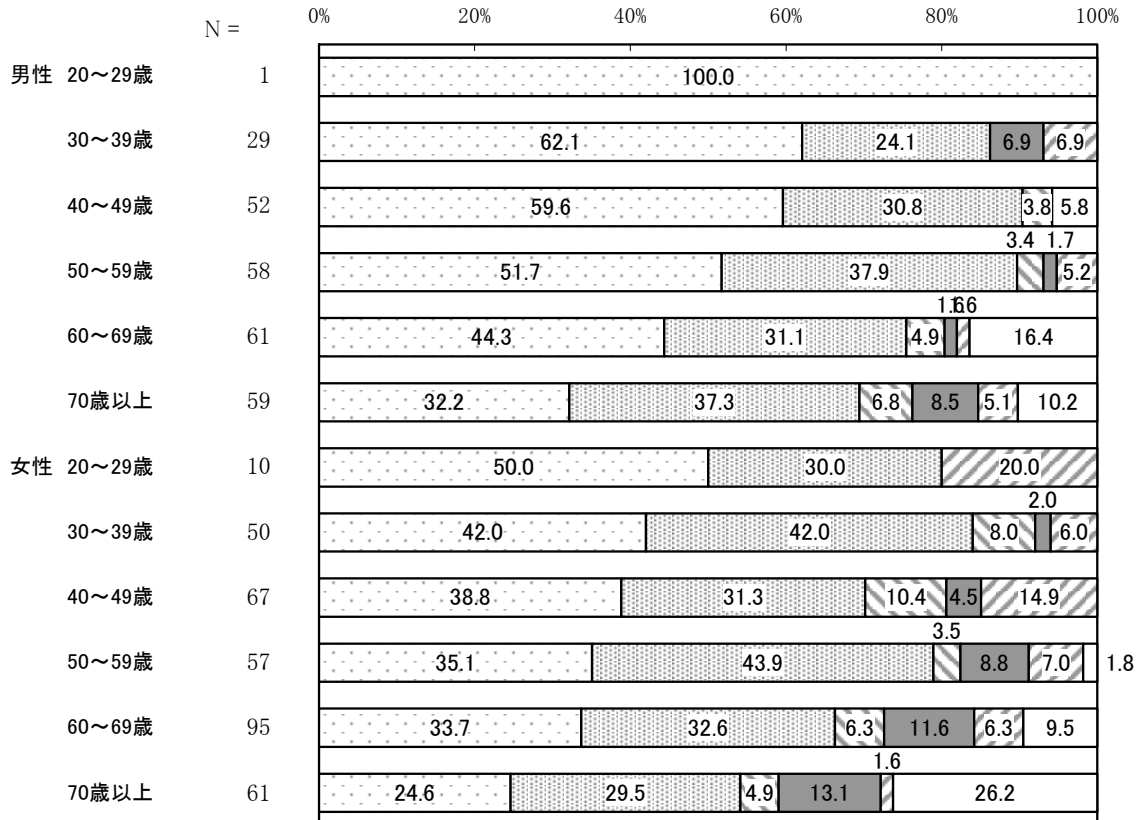
性別でみると、女性に比べ男性で「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

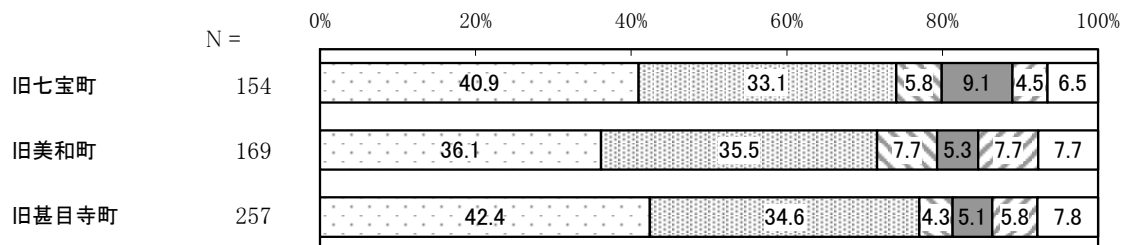
性・年齢別でみると、男女ともに年代が高くなるにつれ「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が低くなる傾向にあります。

- 親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する
- ▨ 親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない
- ▩ 家族の者や親戚の反対があれば、結婚を認めない
- 絶対に結婚を認めない
- ▧ その他
- 無回答



【居住地区別】

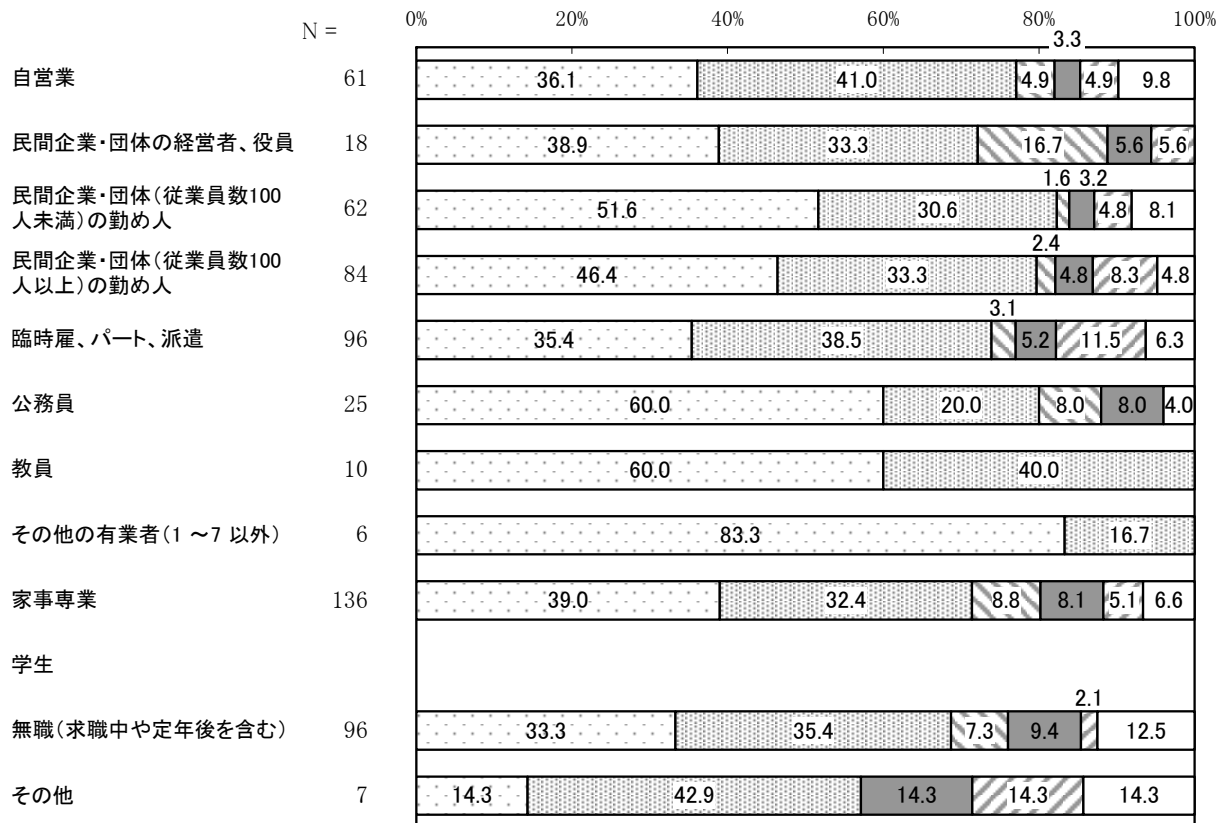
居住地区別でみると、大きな差異はみられません。



【職業別】

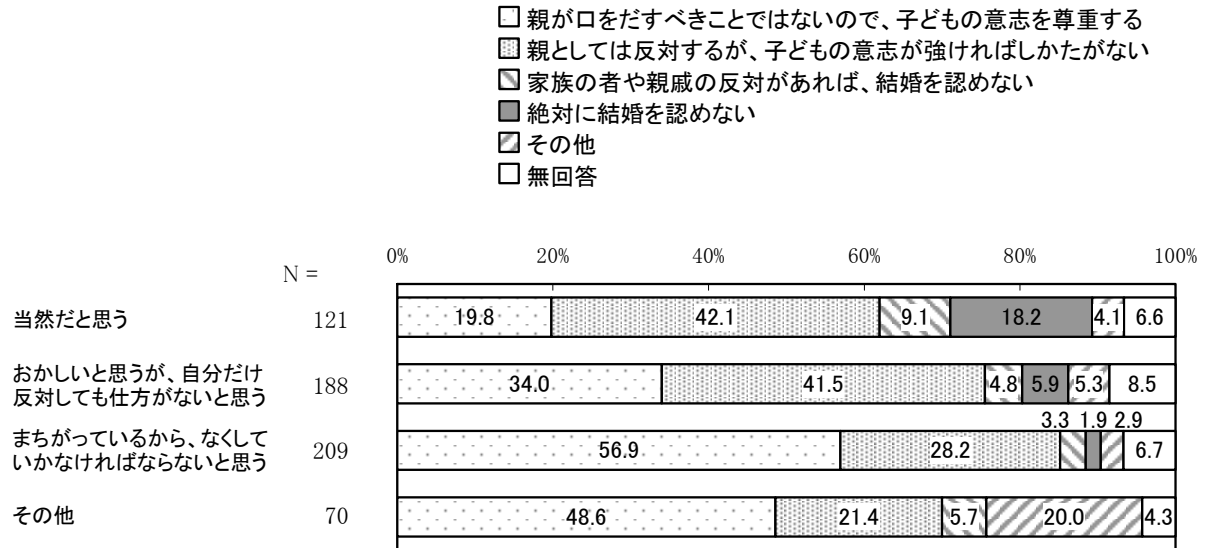
職業別でみると、公務員、教員で「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が高くなっています。また、民間企業・団体の経営者、役員で「家族の者や親戚の反対があれば、結婚を認めない」の割合が高くなっています。

- 親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する
- ▨ 親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない
- ▩ 家族の者や親戚の反対があれば、結婚を認めない
- 絶対に結婚を認めない
- ▧ その他
- 無回答



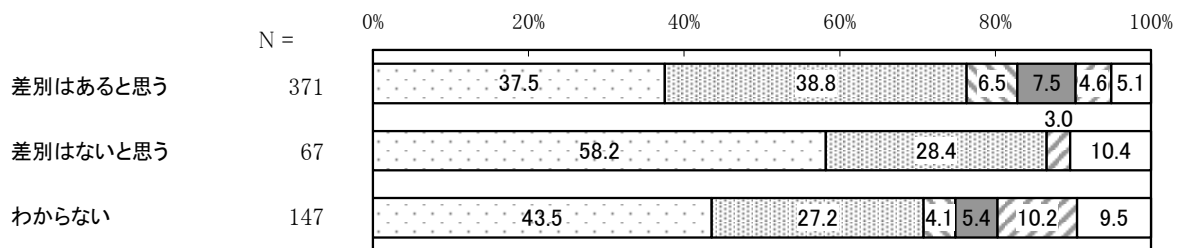
### 【家柄・血筋意識別】

家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「絶対に結婚を認めない」の割合が高くなっています。また、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が高くなっています。



### 【結婚時の差別意識別】

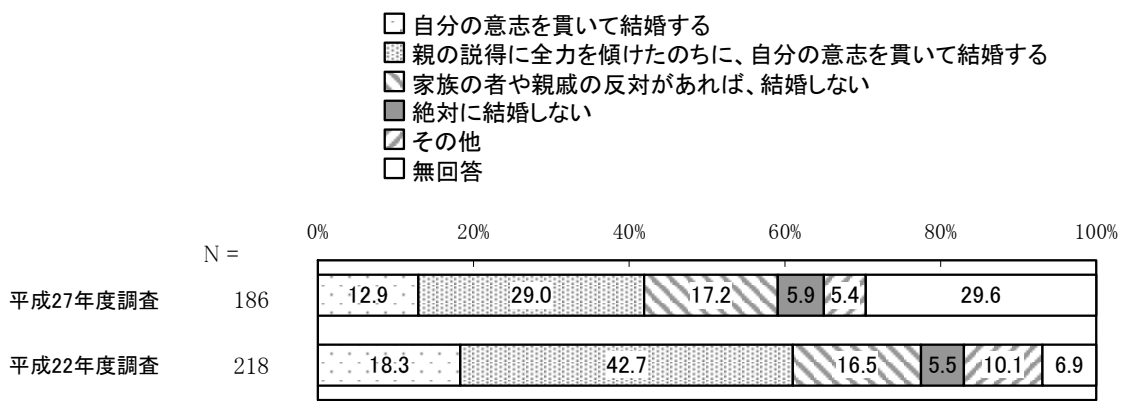
結婚時の差別意識別でみると、差別はあると思うで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」の割合が高くなっています。差別はないと思うで「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が高くなっています。



問 40. 結婚歴のない方にお聞きします。結婚している方は次の問 41 へお進みください。  
 あなたが同和地区の人と恋愛し、結婚しようとするとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。(○印1つ)

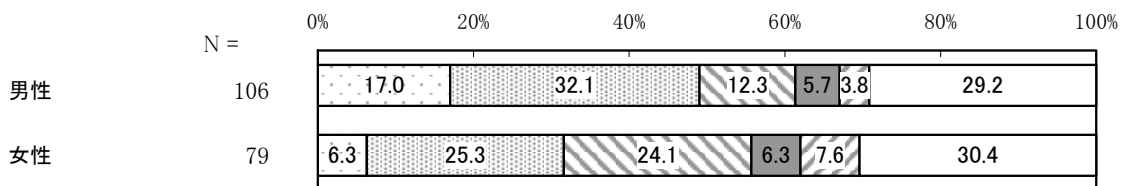
「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」の割合が 17.2%、「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が 12.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が 5.4 ポイント、「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が 13.7 ポイント減少しています。



【性別】

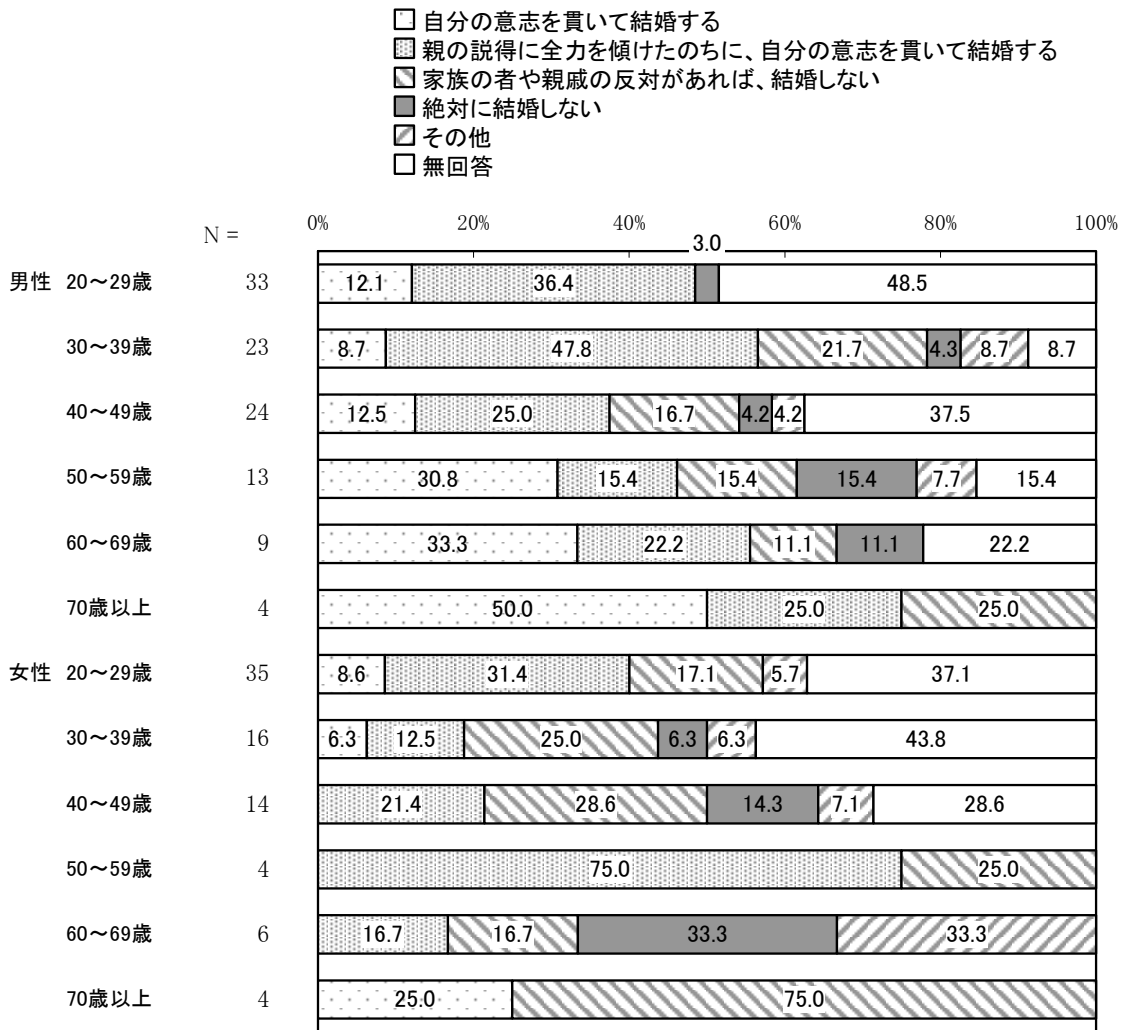
性別でみると、女性に比べ男性で「自分の意志を貫いて結婚する」「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」の割合が高くなっています。





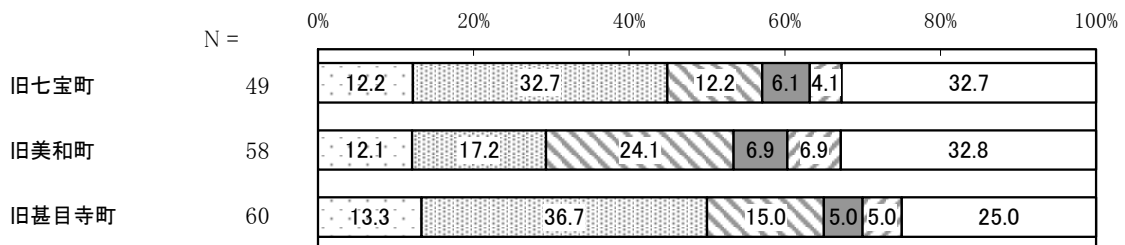
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の 30～39 歳で「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。



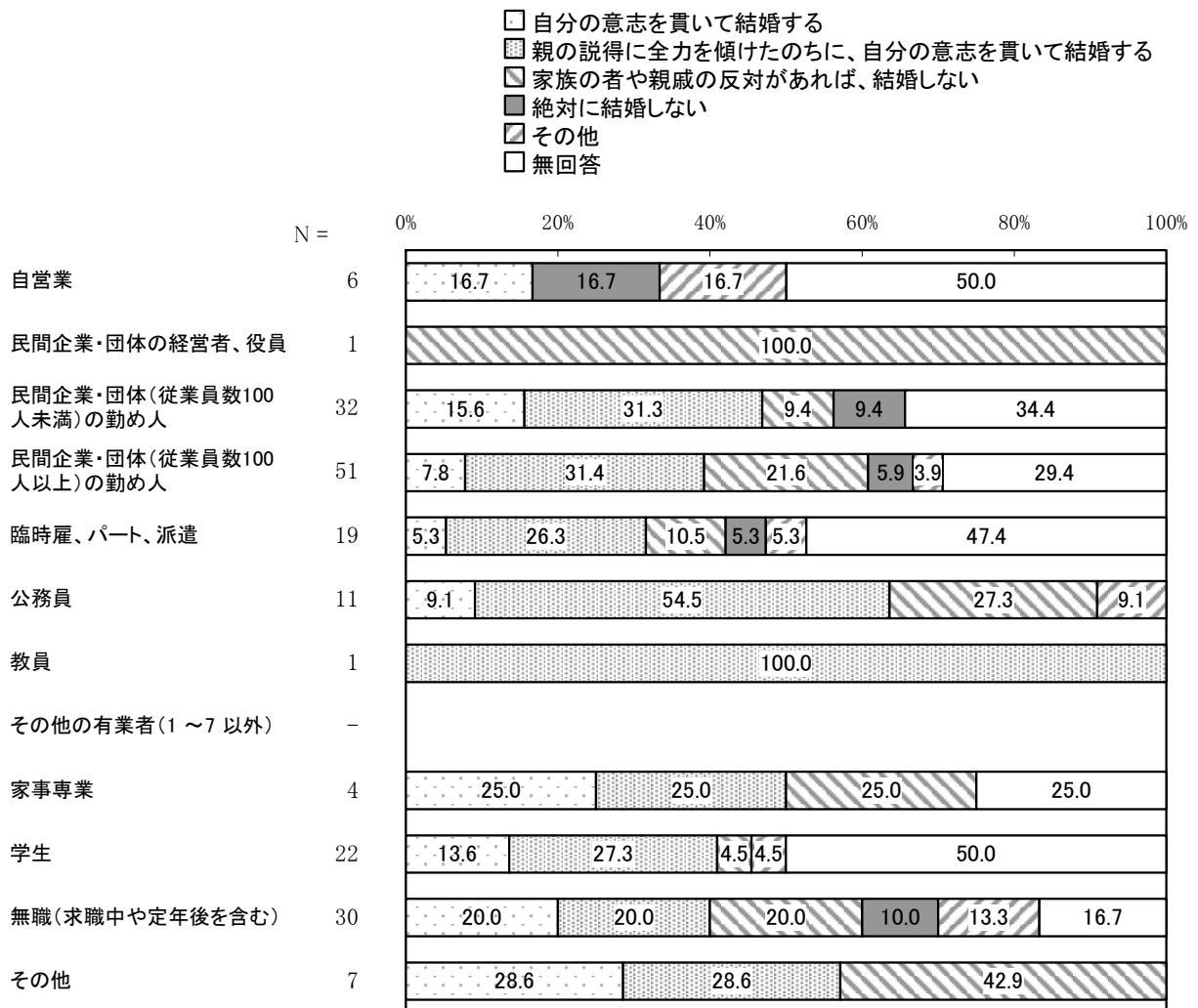
【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧美和町で「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」の割合が高くなっています。



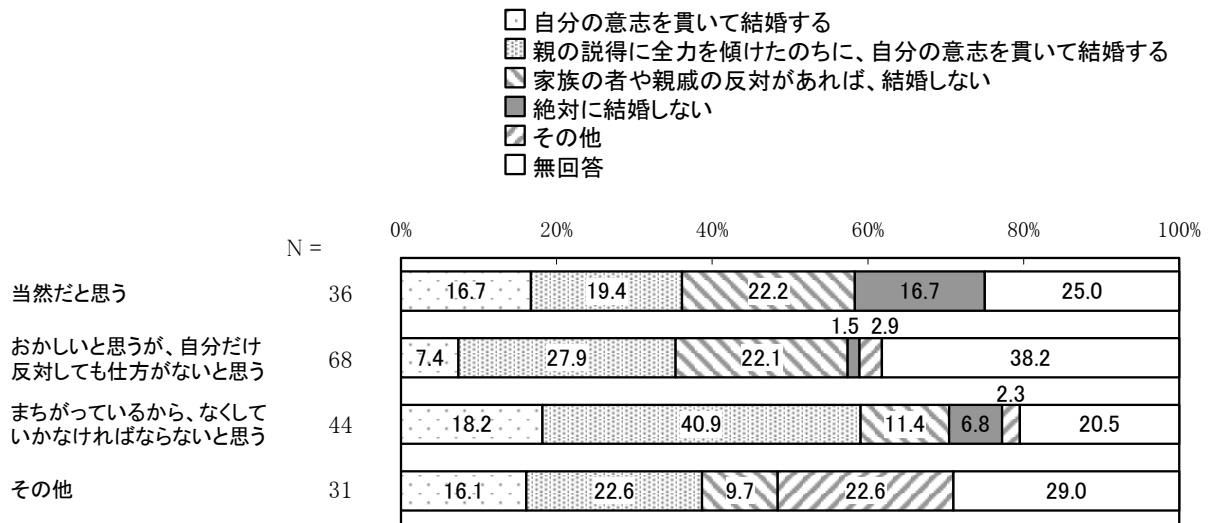
【職業別】

職業別でみると、公務員で「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」の割合が高くなっています。



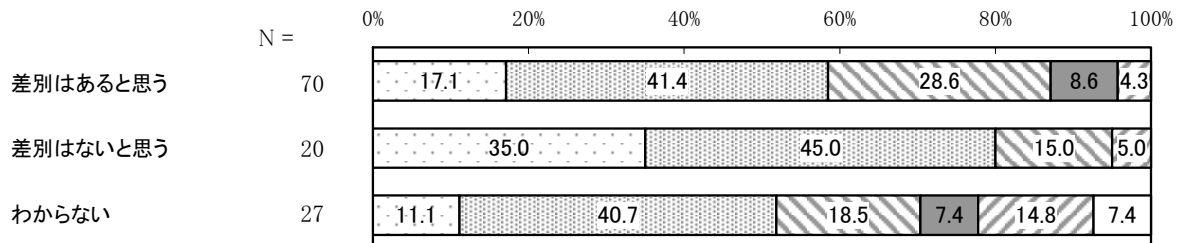
### 【家柄・血筋意識別】

家柄・血筋意識別でみると、当然だと思うで「絶対に結婚しない」の割合が高くなっています。



### 【結婚時の差別意識別】

結婚時の差別意識別でみると、差別はあると思うで「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」の割合が高くなっています。一方、差別はないと思うで「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。



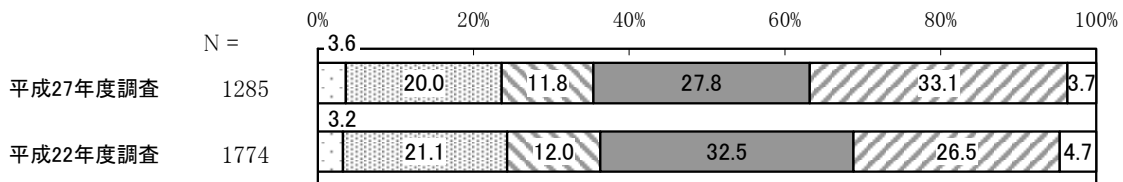
問 41. すべての方にお聞きします。

同和問題の解決に対するあなたの考えに最も近いのはどれですか。(○印1つ)

「わからない」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」の割合が 27.8%、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う」の割合が 20.0%となっています。

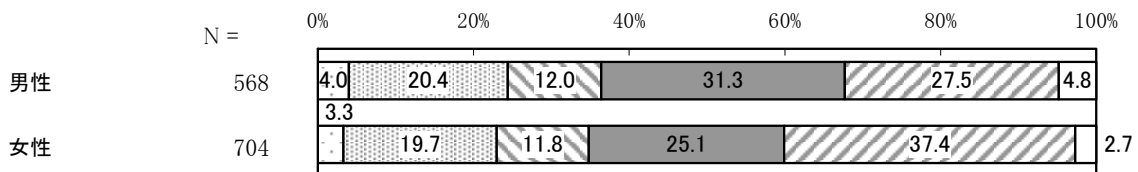
平成 22 年度調査と比較すると、「わからない」の割合が 6.6 ポイント増加しています。

- これは、同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係ない問題だと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- 自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
- 基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- わからない
- 無回答



【性別】

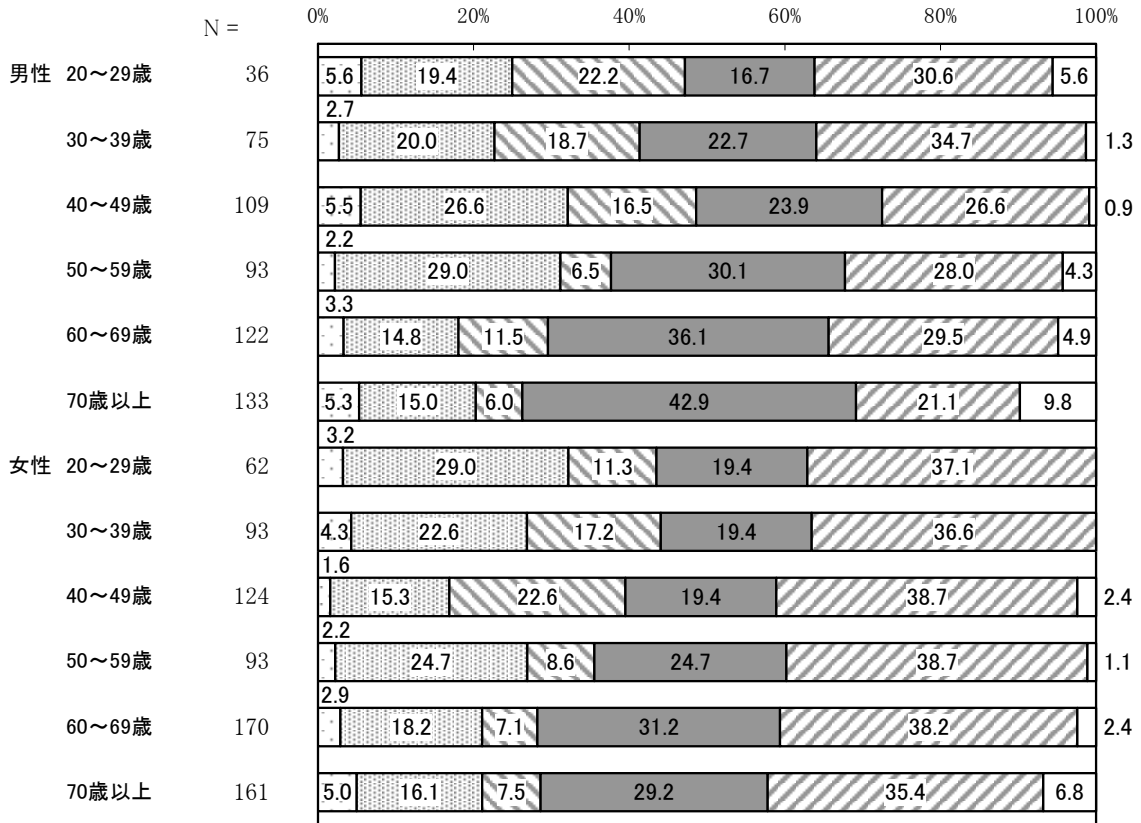
性別でみると、女性に比べ男性で「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

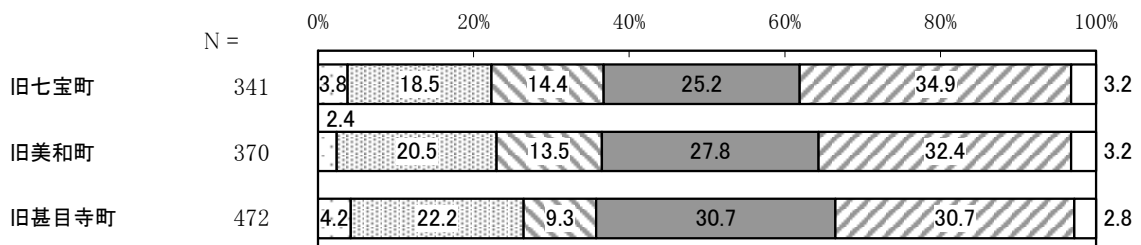
性・年齢別で見ると、男性の 70 歳以上で「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」の割合が高くなっています。

- これは、同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係ない問題だと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- 自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
- 基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- わからない
- 無回答



【居住地区別】

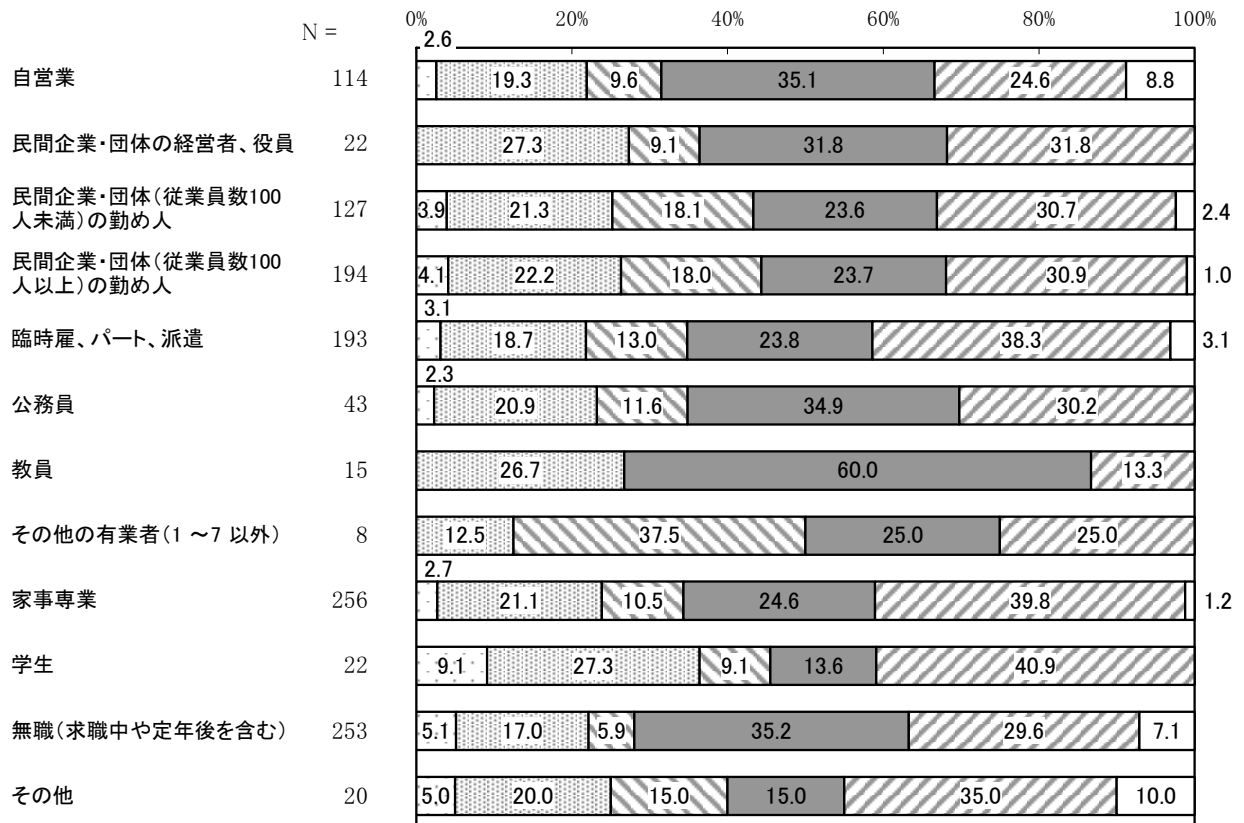
居住地区別で見ると、大きな差異はみられません。



【職業別】

職業別でみると、教員で「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」の割合が高くなっています。

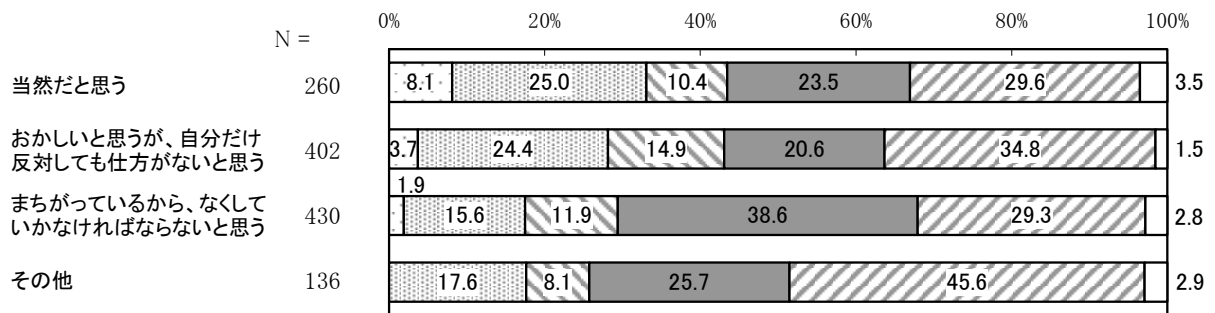
- これは、同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係ない問題だと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- 自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
- 基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- わからない
- 無回答



### 【家柄・血筋意識別】

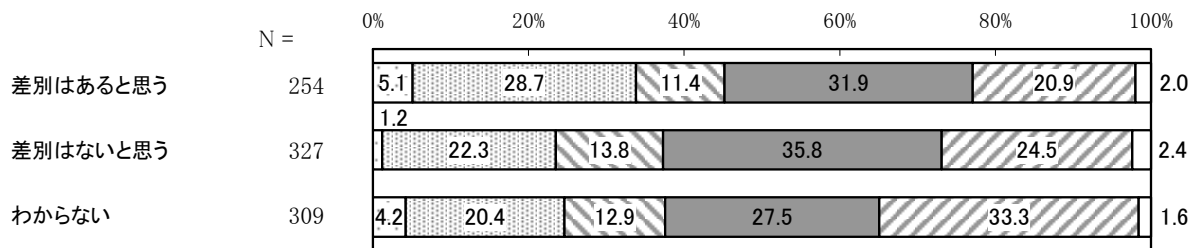
家柄・血筋意識別でみると、まちがっているから、なくしていかなければならないと思うで「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」の割合が高くなっています。

- これは、同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係ない問題だと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- 自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
- 基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- わからない
- 無回答



### 【日常の付き合い方差別意識別】

日常の付き合い方差別意識別でみると、差別はあると思うで「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う」の割合が高くなっています。

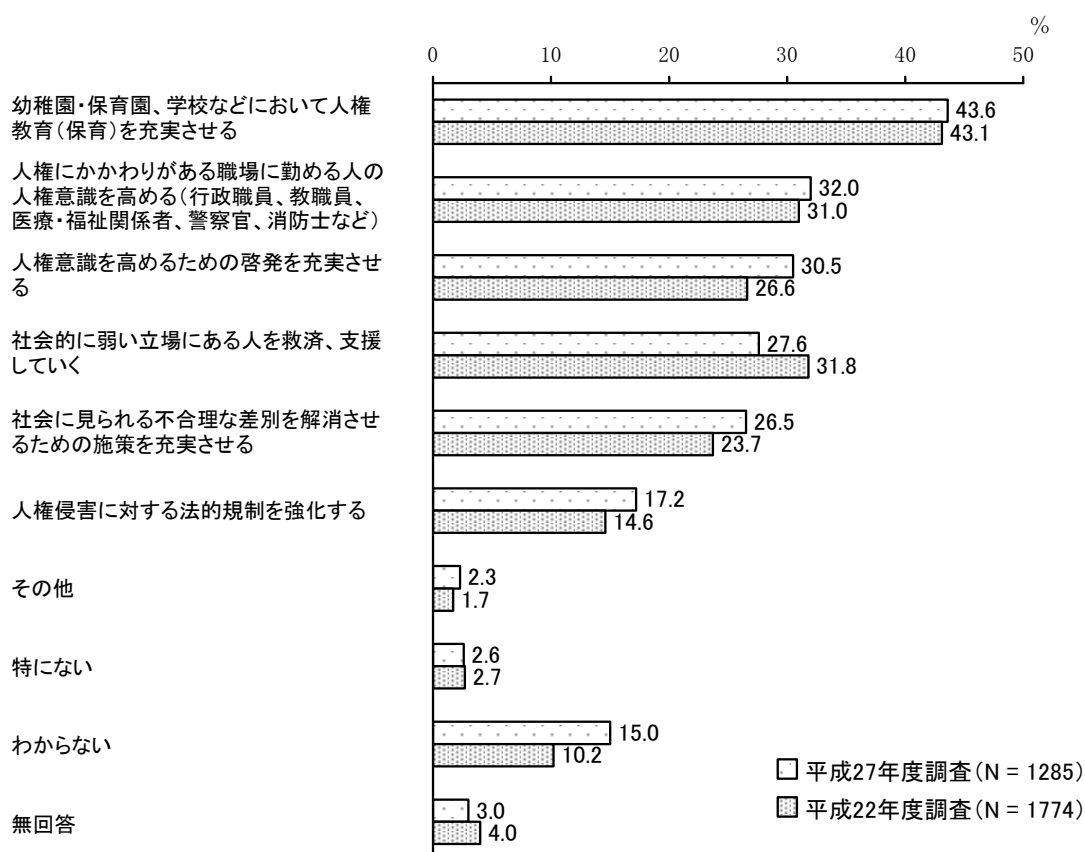


## (12) 人権尊重の取り組み及び啓発活動への参加、認知について

問 42. 人権が尊重される社会を実現するためには、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育(保育)を充実させる」の割合が43.6%と最も高く、次いで「人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める(行政職員、教職員、医療・福祉関係者、警察官、消防士など)」の割合が32.0%、「人権意識を高めるための啓発を充実させる」の割合が30.5%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。





【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「人権意識を高めるための啓発を充実させる」「人権侵害に対する法的規制を強化する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	人権意識を高めるための啓発を充実させる	幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育(保育)を充実させる	社会に見られる不合理な差別を解消させるための施策を充実させる	社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく	人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める(行政職員、教職員、医療・福祉関係者、警察官、消防士など)	人権侵害に対する法的規制を強化する	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	36.6	43.5	26.2	28.7	34.2	20.2	2.5	3.2	11.6	3.2
女性	704	26.0	43.8	26.7	27.0	30.8	14.8	2.3	2.0	17.6	2.8

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳で「社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく」「人権侵害に対する法的規制を強化する」の割合が高くなっています。男性の50歳以上で「人権意識を高めるための啓発を充実させる」の割合が高くなっています。また、女性の30～39歳で「幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育（保育）を充実させる」の割合が高くなっています。女性の60～69歳で「社会に見られる不合理な差別を解消させるための施策を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	人権意識を高めるための啓発を充実させる	幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育（保育）を充実させる	社会に見られる不合理な差別を解消させるための施策を充実させる	社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく	医療・福祉関係者、警察官、消防士など人権意識を高める（行政職員、教職員、人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める）	人権侵害に対する法的規制を強化する	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	27.8	55.6	22.2	41.7	33.3	30.6	—	—	11.1	2.8
30～39歳	75	28.0	49.3	12.0	24.0	25.3	16.0	2.7	1.3	16.0	1.3
40～49歳	109	32.1	45.9	28.4	25.7	31.2	22.0	5.5	4.6	11.9	—
50～59歳	93	40.9	48.4	31.2	26.9	37.6	21.5	3.2	1.1	10.8	1.1
60～69歳	122	39.3	41.0	30.3	29.5	37.7	18.9	1.6	4.1	10.7	2.5
70歳以上	133	42.1	33.8	26.3	30.8	36.1	18.8	0.8	4.5	10.5	9.0
女性 20～29歳	62	21.0	54.8	27.4	29.0	27.4	24.2	3.2	—	12.9	—
30～39歳	93	25.8	59.1	26.9	22.6	21.5	15.1	2.2	3.2	12.9	—
40～49歳	124	26.6	50.0	24.2	20.2	33.9	14.5	2.4	1.6	15.3	0.8
50～59歳	93	25.8	51.6	22.6	29.0	31.2	15.1	5.4	2.2	16.1	—
60～69歳	170	28.8	35.3	35.3	34.1	38.8	14.1	1.8	2.4	19.4	2.9
70歳以上	161	24.8	30.4	21.7	25.5	26.1	11.2	0.6	1.9	23.0	8.7

【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数（件）	人権意識を高めるための啓発を充実させる	幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育（保育）を充実させる	社会に見られる不合理な差別を解消させるための施策を充実させる	社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく	医療・福祉関係者、警察官、消防士など）	人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める（行政職員、教職員、	人権侵害に対する法的規制を強化する	その他	特にない	わからない	無回答
旧七宝町	341	29.3	43.1	28.2	31.4	32.6	18.2	1.5	2.1	14.4	2.9	
旧美和町	370	34.3	45.1	26.8	24.9	31.1	16.5	2.2	3.5	14.3	2.7	
旧甚目寺町	472	29.9	41.1	26.3	27.1	32.2	15.7	3.0	2.3	16.3	2.8	

【職業別】

職業別でみると、教員で「人権意識を高めるための啓発を充実させる」の割合が高くなっています。公務員、教員で「幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育（保育）を充実させる」の割合が高くなっています。民間企業・団体の経営者、役員、教員、学生で「社会に見られる不合理な差別を解消させるための施策を充実させる」の割合が高くなっています。また、教員、学生、その他で「社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく」の割合が高くなっています。

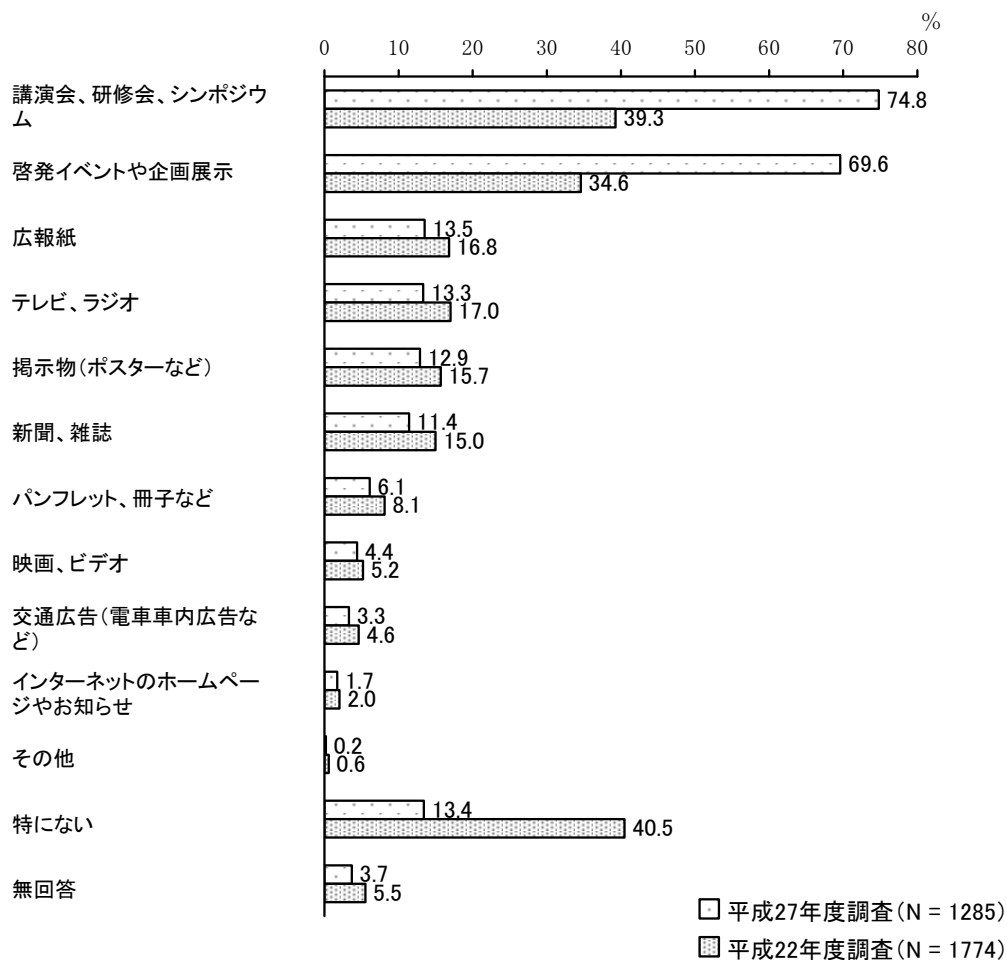
単位：%

区分	有効回答数（件）	人権意識を高めるための啓発を充実させる	幼稚園・保育園、学校などにおいて人権教育（保育）を充実させる	社会に見られる不合理な差別を解消させるための施策を充実させる	社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく	医療・福祉関係者、警察官、消防士など）人権意識を高める（行政職員、教職員、人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める）	人権侵害に対する法的規制を強化する	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	28.9	30.7	26.3	22.8	25.4	19.3	0.9	3.5	13.2	7.9
民間企業・団体の経営者、役員	22	31.8	31.8	40.9	22.7	40.9	13.6	4.5	—	13.6	—
民間企業・団体（従業員数 100 人未満）の勤め人	127	29.9	47.2	22.8	29.1	36.2	24.4	3.9	3.1	13.4	—
民間企業・団体（従業員数 100 人以上）の勤め人	194	35.1	50.0	25.3	24.7	28.4	16.0	3.6	2.6	11.9	—
臨時雇、パート、派遣	193	22.8	48.2	26.4	26.9	32.1	18.7	2.1	1.6	15.0	3.1
公務員	43	34.9	62.8	32.6	27.9	30.2	16.3	4.7	2.3	9.3	—
教員	15	53.3	80.0	46.7	40.0	40.0	20.0	—	—	—	—
その他の有業者（1～7 以外）	8	50.0	62.5	50.0	12.5	12.5	—	—	12.5	—	—
家事専業	256	27.7	40.6	23.4	28.9	33.2	13.3	2.3	2.3	20.3	3.1
学生	22	31.8	54.5	40.9	40.9	36.4	18.2	—	—	—	—
無職（求職中や定年後を含む）	253	35.6	36.4	28.1	29.2	34.4	17.4	0.8	3.2	17.0	5.1
その他	20	30.0	55.0	25.0	40.0	40.0	25.0	5.0	—	20.0	—

問 43. 人権問題について各自治体が発行している啓発活動のうち、あなたが実際に参加したり、見聞きしたりしたことがあるものはありますか。(〇印いくつでも)

「講演会、研修会、シンポジウム」の割合が74.8%と最も高く、次いで「啓発イベントや企画展示」の割合が69.6%、「広報紙」の割合が13.5%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「講演会、研修会、シンポジウム」の割合が35.5ポイント、「啓発イベントや企画展示」の割合が35.0ポイント増加しています。一方、「特にない」の割合が27.1ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、シンポジウム	啓発イベントや企画展示	広報紙	テレビ、ラジオ	パンフレット、冊子など	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	交通広告(電車車内広告など)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特にない	無回答
男性	568	73.2	68.0	14.6	13.6	7.4	3.5	12.1	14.6	3.3	2.8	0.4	14.8	3.2
女性	704	76.0	70.9	12.8	13.2	5.1	5.0	10.8	11.8	3.3	0.9	0.1	12.5	3.8

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の50～59歳で「広報紙」「パンフレット、冊子など」の割合が高くなっています。男性の50～59歳、女性の20～29歳で「掲示物（ポスターなど）」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「特にない」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「交通広告（電車車内広告など）」の割合が高くなっています。女性の30～39歳で「啓発イベントや企画展示」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	講演会、 研修会、 シンポジウム	啓発イベントや 企画展示	広報紙	テレビ、 ラジオ	パンフレット、 冊子など	映画、 ビデオ	新聞、 雑誌	掲示物 (ポスターなど)	交通広告 (電車車内広告など)	インターネットの ホームページやお知らせ	その他	特にない	無回答
男性 20～29歳	36	77.8	77.8	11.1	2.8	2.8	—	5.6	13.9	8.3	8.3	—	13.9	2.8
30～39歳	75	77.3	70.7	6.7	14.7	8.0	1.3	8.0	16.0	5.3	5.3	—	13.3	1.3
40～49歳	109	72.5	68.8	6.4	15.6	0.9	4.6	8.3	10.1	2.8	3.7	—	17.4	1.8
50～59歳	93	76.3	71.0	22.6	15.1	14.0	6.5	11.8	25.8	6.5	2.2	1.1	12.9	1.1
60～69歳	122	70.5	64.8	18.0	13.1	7.4	2.5	15.6	14.8	1.6	2.5	—	20.5	1.6
70歳以上	133	70.7	63.9	18.0	13.5	9.0	3.8	16.5	9.8	0.8	—	0.8	9.8	8.3
女性 20～29歳	62	83.9	74.2	8.1	16.1	9.7	9.7	11.3	22.6	12.9	3.2	—	11.3	—
30～39歳	93	79.6	79.6	9.7	9.7	3.2	2.2	6.5	17.2	2.2	—	1.1	8.6	1.1
40～49歳	124	77.4	72.6	9.7	8.9	6.5	2.4	9.7	19.4	2.4	0.8	—	17.7	0.8
50～59歳	93	75.3	66.7	18.3	14.0	7.5	8.6	9.7	15.1	4.3	2.2	—	15.1	1.1
60～69歳	170	72.9	67.6	15.9	15.9	4.7	7.6	12.4	7.1	2.4	0.6	—	11.8	4.7
70歳以上	161	73.3	68.9	12.4	14.3	2.5	1.9	13.0	1.9	1.2	—	—	10.6	9.9

【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧甚目寺町で「広報紙」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、シンポジウム	啓発イベントや企画展示	広報紙	テレビ、ラジオ	パンフレット、冊子など	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	交通広告(電車車内広告など)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特にない	無回答
旧七宝町	341	76.5	71.3	10.3	12.6	7.0	4.7	14.1	13.8	3.5	2.9	—	12.6	3.5
旧美和町	370	73.2	69.5	11.1	16.2	4.9	3.2	11.9	11.9	3.2	1.6	0.3	14.9	3.5
旧甚目寺町	472	76.9	69.7	19.3	11.7	7.0	5.1	9.5	13.3	2.8	1.3	0.2	11.7	3.0



【職業別】

職業別でみると、公務員、教員で「講演会、研修会、シンポジウム」「パンフレット、冊子など」「映画、ビデオ」の割合が高くなっています。また、教員、学生で「啓発イベントや企画展示」「広報紙」の割合が高くなっています。

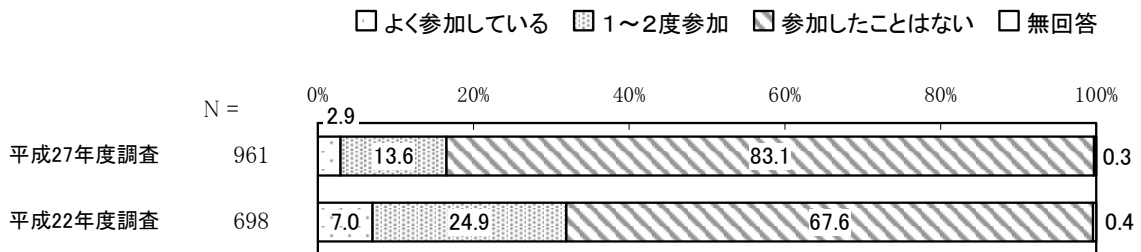
単位：%

区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、シンポジウム	啓発イベントや企画展示	広報紙	テレビ、ラジオ	パンフレット、冊子など	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	交通広告(電車車内広告など)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特にない	無回答
自営業	114	72.8	67.5	14.0	13.2	8.8	5.3	11.4	11.4	0.9	0.9	0.9	11.4	7.9
民間企業・団体の経営者、役員	22	68.2	63.6	9.1	13.6	4.5	4.5	13.6	22.7	—	—	—	13.6	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	76.4	72.4	6.3	12.6	3.9	1.6	7.9	11.0	1.6	3.1	0.8	17.3	0.8
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	78.9	74.7	11.9	12.4	3.1	5.2	10.3	16.0	5.7	1.5	—	11.3	0.5
臨時雇、パート、派遣	193	75.1	70.5	15.0	12.4	5.2	3.1	8.3	15.0	5.7	1.0	—	15.5	1.6
公務員	43	93.0	76.7	16.3	16.3	30.2	18.6	16.3	20.9	9.3	4.7	—	4.7	—
教員	15	93.3	86.7	40.0	6.7	20.0	20.0	13.3	40.0	13.3	—	—	6.7	—
その他の有業者(1~7以外)	8	75.0	50.0	12.5	—	12.5	—	12.5	25.0	—	12.5	—	25.0	—
家事専業	256	75.0	70.3	14.5	13.3	3.9	4.3	11.3	7.8	0.4	0.8	—	13.3	2.7
学生	22	86.4	86.4	—	18.2	4.5	4.5	18.2	22.7	13.6	9.1	—	9.1	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	66.4	60.9	16.6	16.2	7.1	2.8	15.0	11.5	2.8	2.0	0.4	15.4	8.3
その他	20	85.0	80.0	10.0	10.0	—	—	10.0	15.0	—	—	—	10.0	—

① 講演会、研修会、シンポジウム

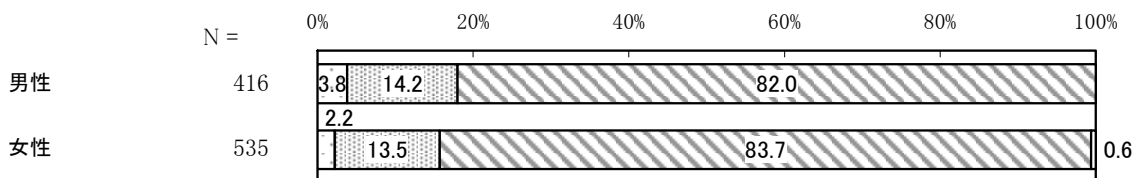
「参加したことはない」の割合が 83.1%と最も高く、次いで「1～2度参加」の割合が 13.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「参加したことはない」の割合が 15.5 ポイント増加しています。一方、「1～2度参加」の割合が 11.3 ポイント減少しています。



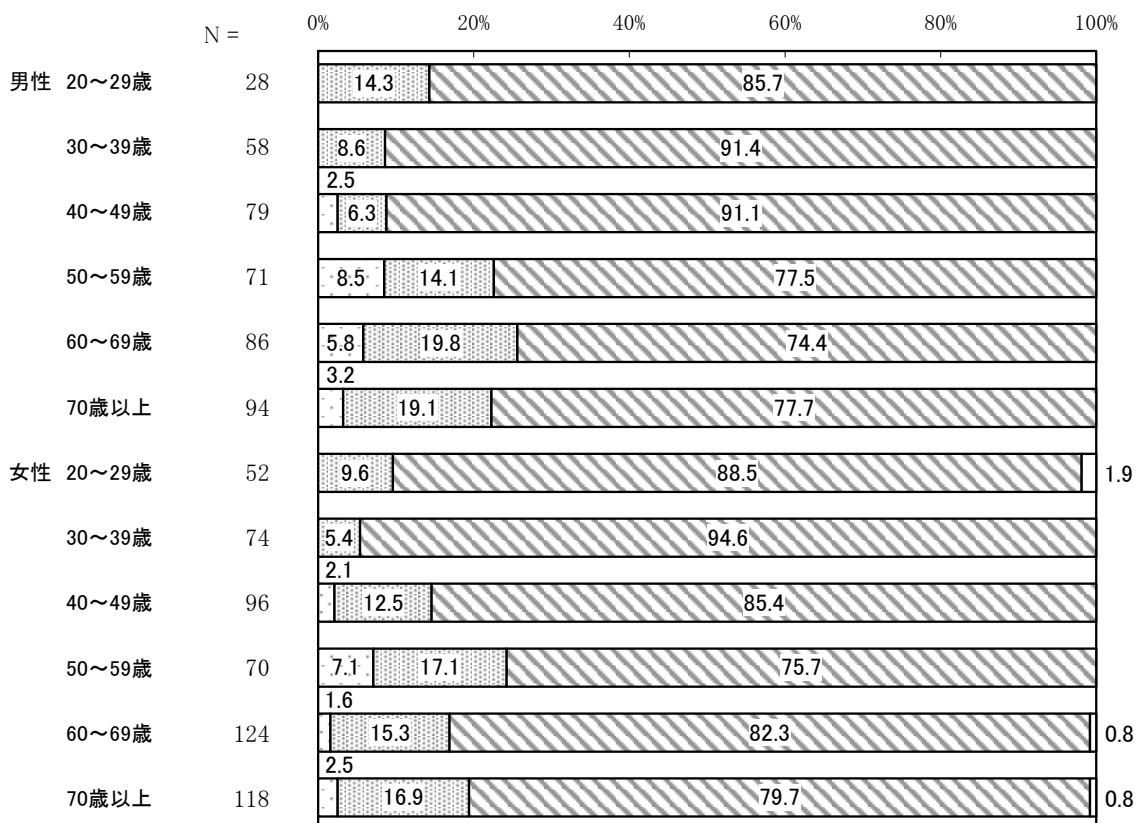
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



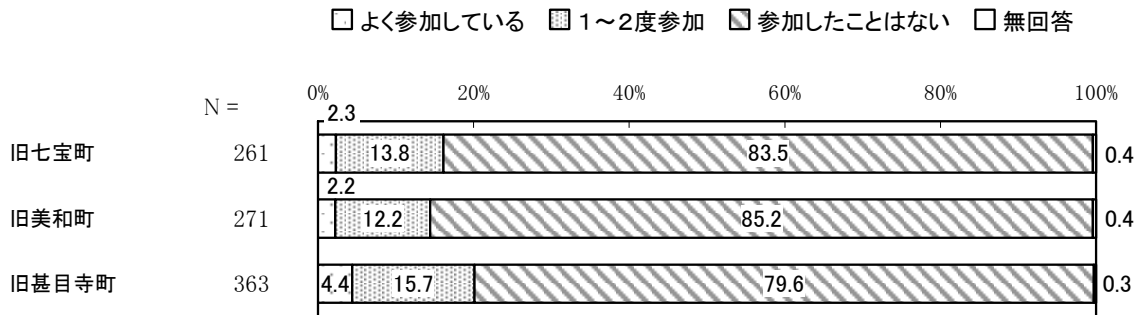
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の 60 歳以上で「1～2度参加」の割合が高くなっています。また、男性の 30 歳～49 歳、女性の 30～39 歳で「参加したことはない」の割合が高くなっています。



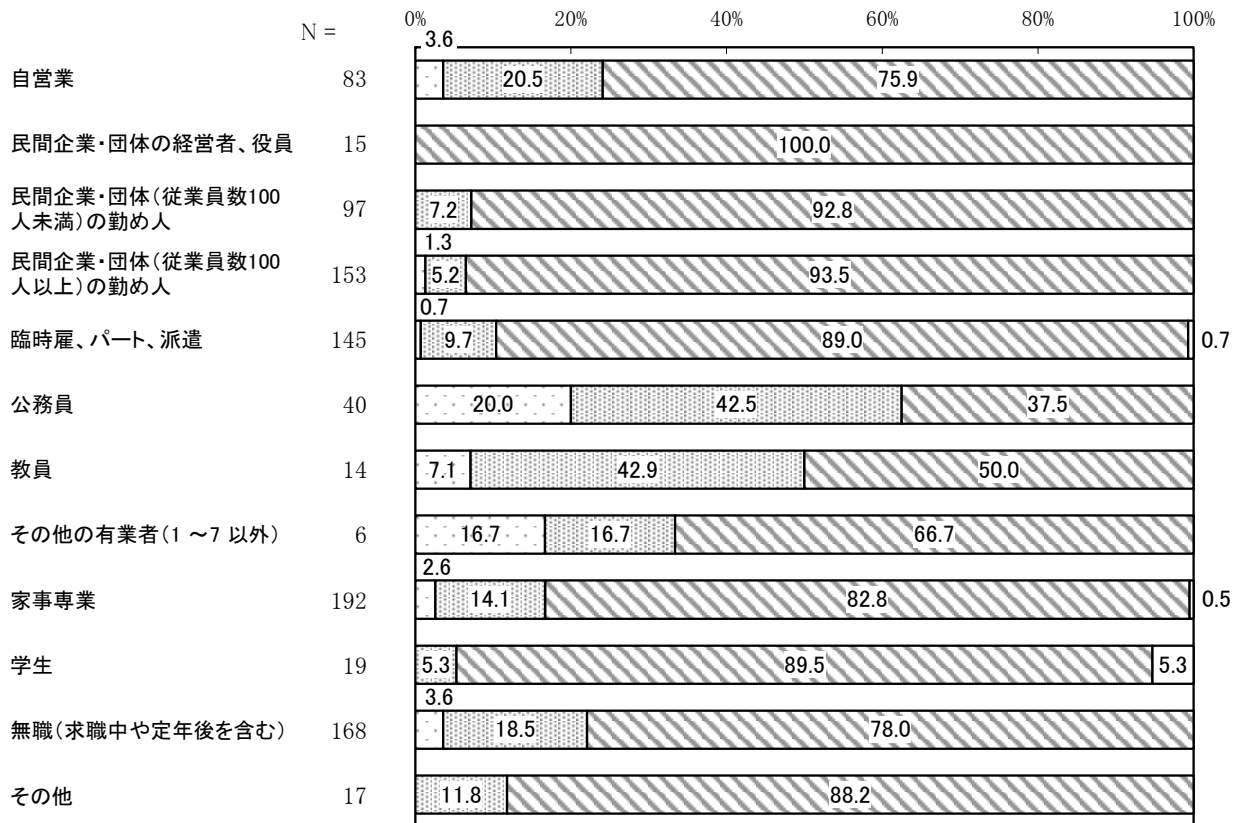
## 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。



## 【職業別】

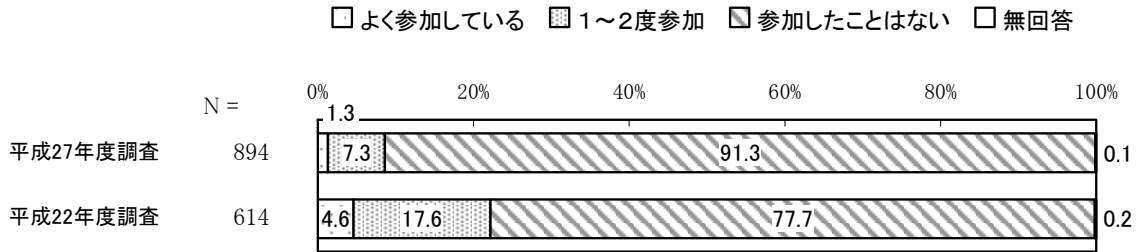
職業別でみると、公務員で「よく参加している」「1～2度参加」の割合が高くなっています。一方、民間企業・団体の経営者、役員で「参加したことはない」の割合が高くなっています。



② 啓発イベントや企画展示

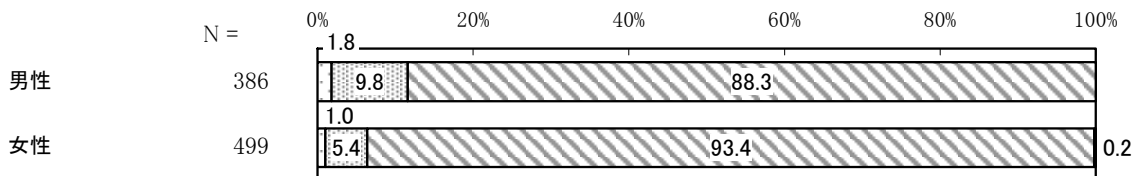
「参加したことはない」の割合が91.3%と最も高くなっています。

平成22年度調査と比較すると、「参加したことはない」の割合が13.6ポイント増加しています。一方、「1～2度参加」の割合が10.3ポイント減少しています。



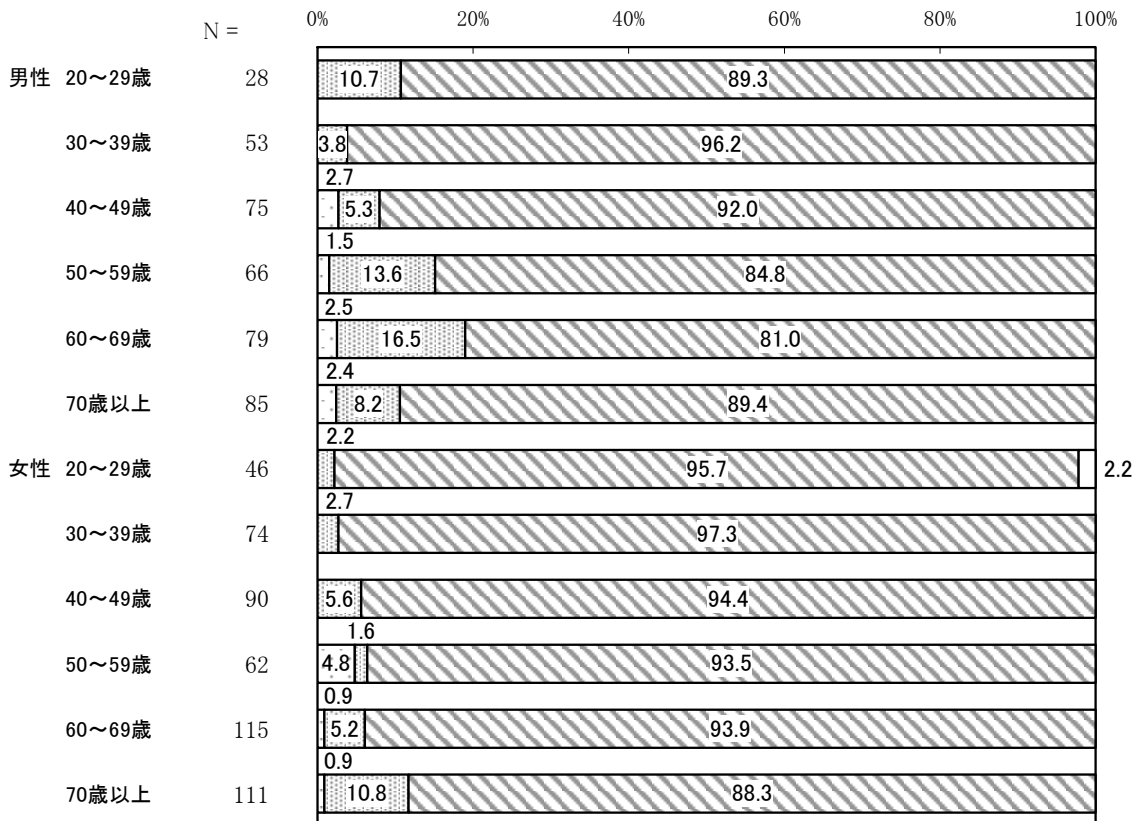
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「参加したことはない」の割合が高くなっています。



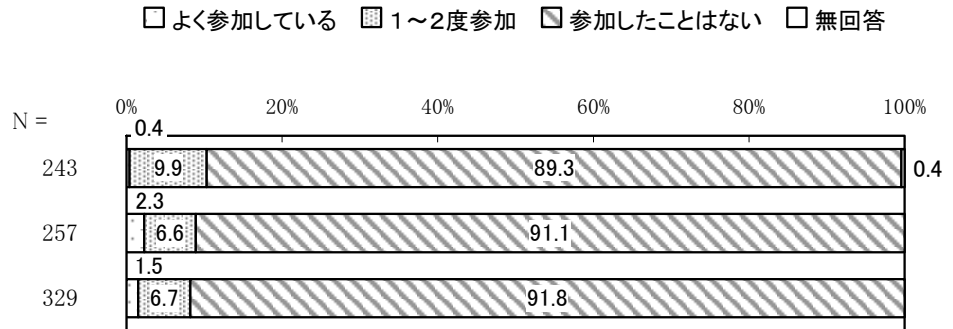
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の50～69歳で「1～2度参加」の割合が高くなっています。



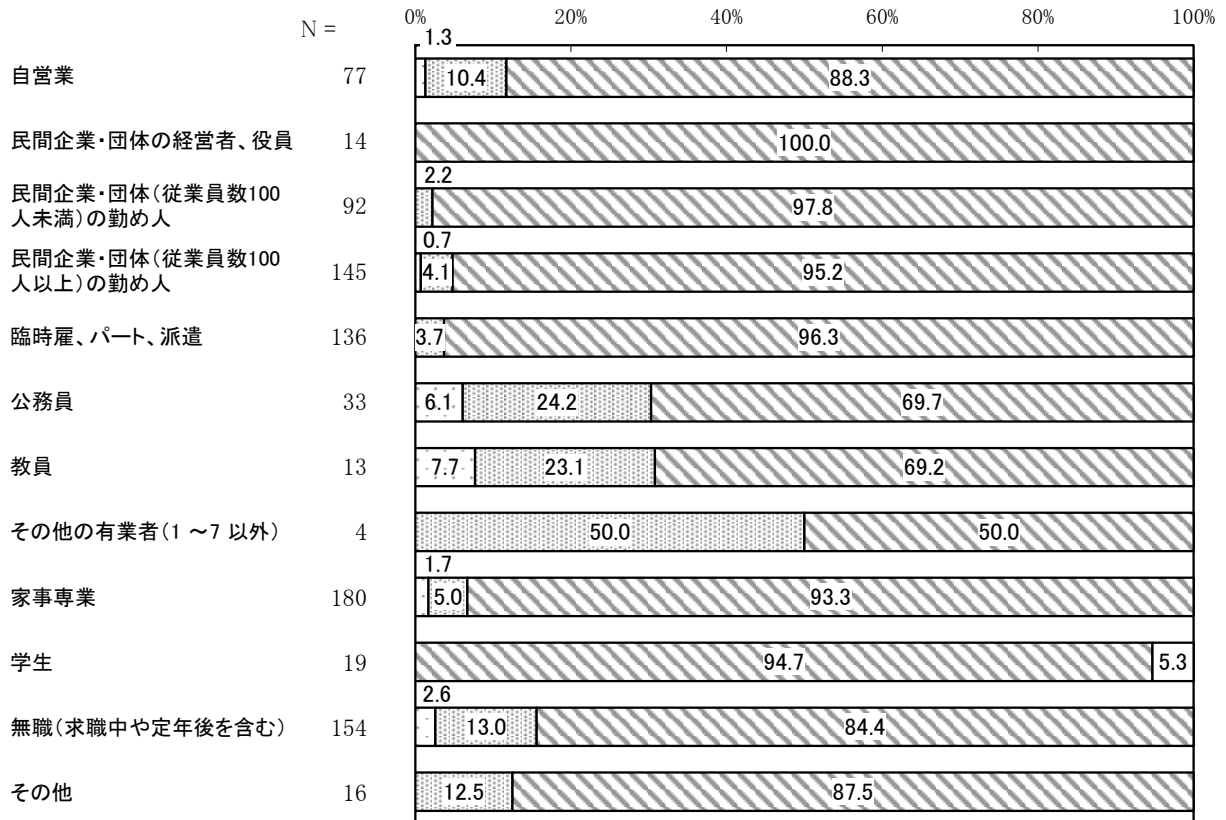
### 【居住地区別】

居住地区別でみると、大きな差異はみられません。



### 【職業別】

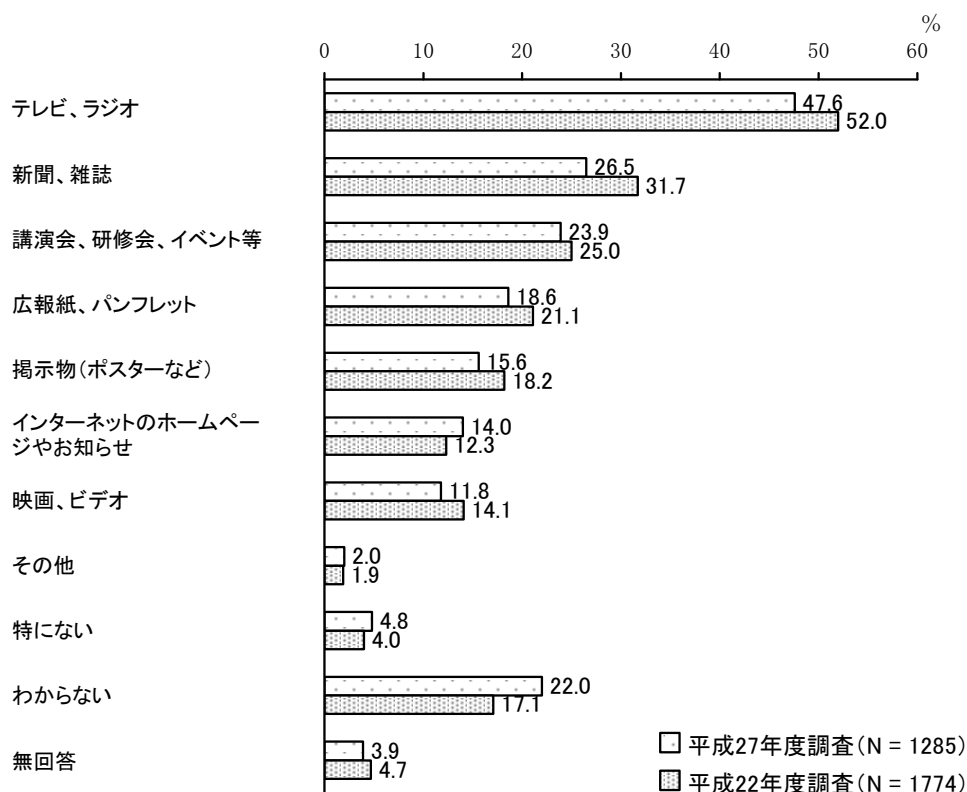
職業別でみると、公務員、教員で「1～2度参加」の割合が高くなっています。



問 44. 人権問題に関する啓発活動で、どのようなことが効果的だと思いますか。  
(○印いくつでも)

「テレビ、ラジオ」の割合が47.6%と最も高く、次いで「新聞、雑誌」の割合が26.5%、「講演会、研修会、イベント等」の割合が23.9%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「新聞、雑誌」の割合が5.2ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、イベント等	広報紙、パンフレット	テレビ、ラジオ	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特にない	わからない	無回答
男性	568	25.5	20.2	47.2	10.6	26.4	16.0	13.4	2.8	6.2	19.2	3.3
女性	704	22.6	17.5	48.3	12.8	26.8	15.5	14.3	1.4	3.8	24.0	4.3

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の70歳以上で「講演会、研修会、イベント等」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、イベント等	広報紙、パンフレット	テレビ、ラジオ	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	25.0	16.7	52.8	19.4	33.3	19.4	19.4	5.6	8.3	5.6	2.8
30～39歳	75	18.7	12.0	56.0	14.7	24.0	13.3	17.3	1.3	8.0	18.7	2.7
40～49歳	109	21.1	13.8	55.0	13.8	20.2	20.2	14.7	3.7	4.6	21.1	1.8
50～59歳	93	21.5	19.4	52.7	12.9	26.9	14.0	12.9	3.2	6.5	18.3	2.2
60～69歳	122	24.6	23.8	41.8	4.9	29.5	17.2	11.5	2.5	7.4	24.6	1.6
70歳以上	133	36.8	28.6	35.3	6.8	27.8	13.5	10.5	2.3	4.5	17.3	7.5
女性 20～29歳	62	25.8	3.2	51.6	14.5	19.4	22.6	25.8	3.2	4.8	21.0	3.2
30～39歳	93	15.1	16.1	57.0	16.1	22.6	16.1	29.0	2.2	5.4	17.2	1.1
40～49歳	124	21.8	17.7	62.9	20.2	31.5	15.3	21.0	—	1.6	20.2	1.6
50～59歳	93	22.6	19.4	58.1	20.4	32.3	18.3	11.8	3.2	3.2	18.3	—
60～69歳	170	28.8	20.6	40.6	7.6	30.6	16.5	7.1	1.8	4.7	26.5	4.7
70歳以上	161	19.9	19.3	33.5	5.6	21.7	9.9	5.6	—	3.1	32.9	10.6

【居住地区別】

居住地区別で見ると、旧七宝町で「テレビ、ラジオ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、イベント等	広報紙、パンフレット	テレビ、ラジオ	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特にない	わからない	無回答
旧七宝町	341	22.6	18.5	56.0	12.0	28.2	15.2	14.7	2.3	4.7	18.8	3.8
旧美和町	370	23.0	18.9	48.6	9.7	29.7	16.2	14.6	1.9	4.1	21.9	2.4
旧甚目寺町	472	26.3	20.6	41.9	12.7	22.9	16.7	12.9	2.3	5.1	23.1	4.0

【職業別】

職業別でみると、公務員、教員で「講演会、研修会、イベント等」「テレビ、ラジオ」の割合が高くなっています。また、教員で「映画、ビデオ」「掲示物（ポスターなど）」の割合が高くなっています。学生で「インターネットのホームページやお知らせ」の割合が高くなっています。

単位：%

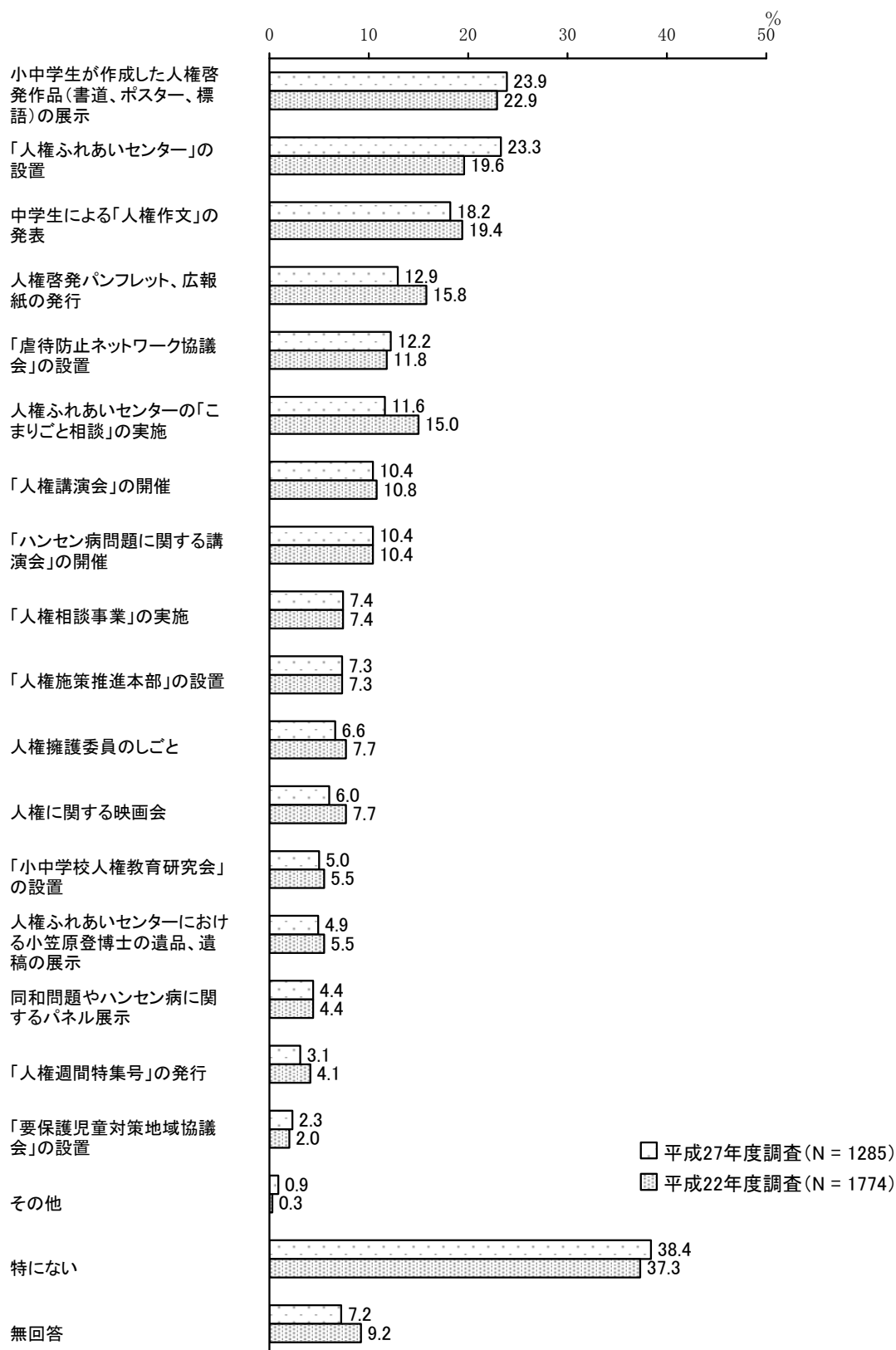
区分	有効回答数(件)	講演会、研修会、イベント等	広報紙、パンフレット	テレビ、ラジオ	映画、ビデオ	新聞、雑誌	掲示物(ポスターなど)	インターネットのホームページやお知らせ	その他	特になし	わからない	無回答
自営業	114	26.3	20.2	36.0	13.2	19.3	14.0	6.1	3.5	4.4	20.2	8.8
民間企業・団体の経営者、役員	22	13.6	18.2	50.0	—	36.4	22.7	22.7	—	9.1	27.3	—
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	15.7	18.1	59.8	11.0	26.0	17.3	18.1	1.6	7.1	17.3	—
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	21.6	14.9	57.2	11.9	21.6	17.5	18.6	2.6	4.1	19.1	1.5
臨時雇、パート、派遣	193	19.7	17.6	54.4	14.5	29.5	11.4	16.6	1.6	3.6	23.3	1.6
公務員	43	41.9	20.9	67.4	27.9	37.2	16.3	16.3	2.3	7.0	7.0	—
教員	15	46.7	26.7	73.3	40.0	40.0	40.0	33.3	—	6.7	—	—
その他の有業者(1～7以外)	8	50.0	25.0	62.5	—	12.5	12.5	25.0	—	—	12.5	—
家事専業	256	21.1	21.1	43.8	10.9	28.5	16.4	10.9	1.6	4.3	26.6	3.1
学生	22	36.4	13.6	50.0	22.7	40.9	27.3	40.9	4.5	—	9.1	—
無職(求職中や定年後を含む)	253	30.8	20.6	37.5	7.1	27.3	13.8	8.7	2.0	5.5	24.5	7.1
その他	20	20.0	—	15.0	5.0	20.0	15.0	10.0	—	5.0	45.0	5.0



問 45. 本市では、人権問題に関して以下のことを行っていますが、ご存じのものはありますか。(〇印いくつでも)

「特にない」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示」の割合が 23.9%、「人権ふれあいセンター」の設置」の割合が 23.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「人権ふれあいセンター」の設置」「中学生による「人権作文」の発表」「小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	「人権施策推進本部」の設置	「小中学校人権教育研究会」の設置	「人権ふれあいセンター」の設置	「虐待防止ネットワーク協議会」の設置	「要保護児童対策地域協議会」の設置	人権擁護委員のしごと	「人権相談事業」の実施	人権ふれあいセンターの「こまじごと相談」の実施	「人権講演会」の開催	「ハンセン病問題に関する講演会」の開催	人権に関する映画会	中学生による「人権作文」の発表	人権ふれあいセンターにおける小笠原登博士の遺品、遺稿の展示	同和問題やハンセン病に関するパネル展示	小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示	人権啓発パンフレット、広報紙の発行	「人権週間特集号」の発行	その他	特になし	無回答
男性	568	7.7	4.4	20.6	11.4	3.2	8.5	7.9	10.2	10.6	8.1	4.0	12.1	4.0	4.6	16.2	13.2	2.8	1.1	44.4	8.1
女性	704	7.0	5.5	25.7	13.1	1.7	5.1	7.0	12.8	10.4	12.5	7.7	23.2	5.7	4.4	30.3	12.9	3.3	0.6	33.8	6.5

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の70歳以上、女性の60歳以上で「人権ふれあいセンターの「こまりと相談」の実施」の割合が高くなっています。女性の20～59歳で「中学生による「人権作文」の発表」「小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示」の割合が高くなっています。また、男性の70歳以上で「人権施策推進本部」の設置」「人権擁護委員のしごと」「人権相談事業」の実施」の割合が高くなっています。女性の30～39歳で「人権ふれあいセンター」の設置」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の40～49歳で「人権啓発パンフレット、広報紙の発行」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「小中学校人権教育研究会」の設置」「人権ふれあいセンター」の設置」「人権講演会」の開催」「ハンセン病問題に関する講演会」の開催」「人権に関する映画会」の割合が高くなっています。男性の30～49歳で「特になし」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	「人権施策推進本部」の設置	「小中学校人権教育研究会」の設置	「人権ふれあいセンター」の設置	「虐待防止ネットワーク協議会」の設置	「要保護児童対策地域協議会」の設置	人権擁護委員のしごと	「人権相談事業」の実施	人権ふれあいセンターの「こまりと相談」の実施	「人権講演会」の開催	「ハンセン病問題に関する講演会」の開催	人権に関する映画会	中学生による「人権作文」の発表	人権ふれあいセンターにおける小笠原登博士の遺品、遺稿の展示	同和問題やハンセン病に関するパネル展示	小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示	人権啓発パンフレット、広報紙の発行	「人権週間特集号」の発行	その他	特になし	無回答
男性 20～29歳	36	2.8	5.6	16.7	8.3	—	—	5.6	—	2.8	5.6	—	19.4	2.8	2.8	16.7	5.6	2.8	—	41.7	8.3
30～39歳	75	2.7	1.3	12.0	9.3	1.3	4.0	1.3	2.7	2.7	8.0	—	5.3	—	1.3	12.0	4.0	—	1.3	61.3	5.3
40～49歳	109	2.8	2.8	20.2	10.1	0.9	3.7	2.8	5.5	6.4	4.6	2.8	14.7	1.8	1.8	20.2	11.0	1.8	—	50.5	6.4
50～59歳	93	8.6	8.6	24.7	11.8	6.5	10.8	7.5	9.7	15.1	11.8	6.5	15.1	9.7	8.6	21.5	16.1	6.5	3.2	47.3	3.2
60～69歳	122	9.0	2.5	19.7	14.8	4.9	10.7	8.2	10.7	14.8	6.6	4.9	12.3	2.5	2.5	16.4	13.1	4.1	—	41.8	9.0
70歳以上	133	14.3	6.0	24.8	11.3	3.0	13.5	16.5	21.1	13.5	10.5	6.0	9.8	6.0	8.3	11.3	20.3	1.5	1.5	30.8	13.5
女性 20～29歳	62	3.2	4.8	19.4	9.7	—	1.6	1.6	6.5	8.1	8.1	3.2	40.3	1.6	3.2	43.5	11.3	3.2	—	38.7	—
30～39歳	93	6.5	7.5	32.3	19.4	3.2	1.1	6.5	5.4	5.4	6.5	5.4	31.2	2.2	2.2	37.6	11.8	1.1	—	38.7	2.2
40～49歳	124	2.4	3.2	24.2	16.9	0.8	4.0	2.4	4.8	11.3	15.3	8.1	33.9	5.6	5.6	54.0	19.4	3.2	0.8	31.5	3.2
50～59歳	93	8.6	11.8	30.1	16.1	3.2	5.4	10.8	12.9	18.3	18.3	15.1	32.3	6.5	7.5	44.1	17.2	5.4	—	24.7	4.3
60～69歳	170	10.0	4.7	25.3	10.6	—	8.8	10.6	20.0	11.8	12.4	10.0	15.3	5.9	2.9	18.2	12.4	5.3	—	30.6	8.2
70歳以上	161	8.1	3.7	23.0	8.1	2.5	5.6	6.8	17.4	7.5	11.8	3.7	6.8	8.7	5.0	7.5	7.5	1.2	1.9	39.8	13.7

【居住地区別】

居住地区別でみると、旧甚目寺町で「人権ふれあいセンター」の設置」「人権講演会」の開催」「ハンセン病問題に関する講演会」の開催」「中学生による「人権作文」の発表」「人権ふれあいセンターにおける小笠原登博士の遺品、遺稿の展示」「同和問題やハンセン病に関するパネル展示」「小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示」「人権啓発パンフレット、広報紙の発行」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	「人権施策推進本部」の設置	「小中学校人権教育研究会」の設置	「人権ふれあいセンター」の設置	「虐待防止ネットワーク協議会」の設置	「要保護児童対策地域協議会」の設置	人権擁護委員のしごと	「人権相談事業」の実施	人権ふれあいセンターの「こまじごと相談」の実施	「人権講演会」の開催	「ハンセン病問題に関する講演会」の開催	人権に関する映画会	中学生による「人権作文」の発表	人権ふれあいセンターにおける小笠原登博士の遺品、遺稿の展示	同和問題やハンセン病に関するパネル展示	小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示	人権啓発パンフレット、広報紙の発行	「人権週間特集号」の発行	その他	特になし	無回答
旧七宝町	341	6.2	5.6	14.7	13.2	2.3	6.2	6.5	9.1	5.3	5.6	2.6	15.0	1.5	1.2	23.2	9.4	2.1	0.9	44.6	7.0
旧美和町	370	5.4	4.1	19.7	11.9	2.4	5.9	9.2	12.2	10.0	5.7	3.5	14.3	2.4	3.0	22.4	9.2	3.0	0.8	40.8	7.8
旧甚目寺町	472	10.4	5.9	34.1	12.7	2.3	8.7	7.6	13.3	15.9	19.5	11.4	26.3	10.2	8.7	29.0	20.1	4.2	0.4	29.2	5.3

【職業別】

職業別でみると、教員で「人権施策推進本部」の設置」「小中学校人権教育研究会」の設置」「要保護児童対策地域協議会」の設置」「小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示」の割合が高くなっています。また、公務員で「人権ふれあいセンター」の設置」「人権擁護委員のしごと」「人権相談事業」の実施」「人権講演会」の開催」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	「人権施策推進本部」の設置	「小中学校人権教育研究会」の設置	「人権ふれあいセンター」の設置	「虐待防止ネットワーク協議会」の設置	「要保護児童対策地域協議会」の設置	人権擁護委員のしごと	「人権相談事業」の実施	人権ふれあいセンターの「こまりごと相談」の実施	「人権講演会」の開催	「ハンセン病問題に関する講演会」の開催	人権に関する映画会	中学生による「人権作文」の発表	人権ふれあいセンターにおける小笠原登博士の遺品、遺稿の展示	同和問題やハンセン病に関するパネル展示	小中学生が作成した人権啓発作品（書道、ポスター、標語）の展示	人権啓発パンフレット、広報紙の発行	「人権週間特集号」の発行	その他	特になし	無回答
自営業	114	6.1	2.6	22.8	7.0	0.9	12.3	7.9	14.9	13.2	9.6	6.1	16.7	6.1	6.1	17.5	19.3	5.3	1.8	32.5	14.0
民間企業・団体の経営者、役員	22	4.5	4.5	27.3	9.1	9.1	9.1	13.6	4.5	4.5	9.1	4.5	13.6	-	4.5	13.6	9.1	-	-	54.5	4.5
民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人	127	3.9	4.7	18.1	11.8	0.8	1.6	3.1	5.5	5.5	3.1	2.4	15.7	3.1	1.6	16.5	7.9	0.8	0.8	50.4	4.7
民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人	194	5.2	1.5	17.0	9.8	-	2.6	2.6	5.2	5.2	6.2	1.5	11.9	1.0	3.1	23.2	8.8	1.0	0.5	49.0	5.2
臨時雇、パート、派遣	193	7.8	4.7	29.0	15.5	0.5	4.7	4.7	8.8	10.9	10.9	9.3	24.4	4.1	5.2	37.3	11.4	2.6	-	33.7	3.1
公務員	43	11.6	16.3	41.9	25.6	11.6	27.9	25.6	9.3	37.2	23.3	11.6	41.9	11.6	16.3	46.5	37.2	14.0	-	23.3	2.3
教員	15	26.7	26.7	13.3	26.7	26.7	-	13.3	-	26.7	20.0	13.3	46.7	-	-	53.3	40.0	-	-	33.3	-
その他の有業者(1~7以外)	8	-	-	50.0	12.5	-	-	-	12.5	12.5	12.5	-	37.5	-	-	50.0	-	-	-	25.0	12.5
家事専業	256	5.9	5.5	23.0	10.2	2.0	3.5	8.2	14.5	10.2	15.2	8.6	19.9	6.3	4.7	25.0	15.2	3.5	0.8	35.9	7.4
学生	22	-	9.1	13.6	13.6	-	-	9.1	4.5	-	13.6	4.5	40.9	-	4.5	40.9	-	9.1	-	36.4	-
無職(求職中や定年後を含む)	253	11.9	5.9	23.3	13.8	4.3	12.3	10.7	19.4	12.6	9.9	5.9	11.5	7.5	4.0	14.6	12.6	3.2	1.6	36.4	10.7
その他	20	5.0	-	40.0	15.0	-	5.0	5.0	15.0	-	15.0	-	20.0	5.0	5.0	15.0	-	-	-	30.0	-

# 【男女共同参画に関する市民意識調査票】

## (1) 男女の人権尊重について

問1. あなたは、次の①～⑥の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

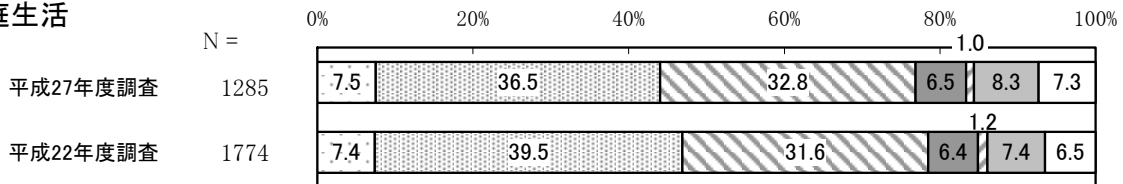
### (1) 平成27年度調査

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が、①家庭生活上で44.0%、②職場で63.5%、⑥しきたりや習慣で58.5%と高くなっています。

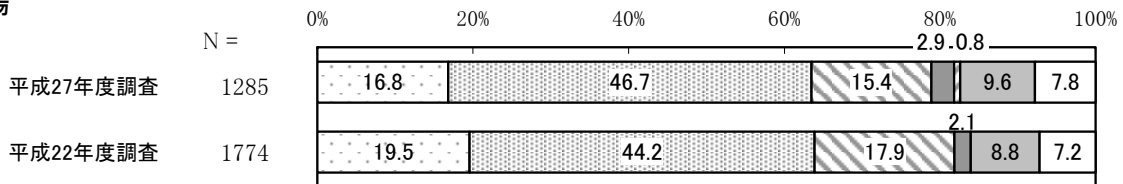
平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

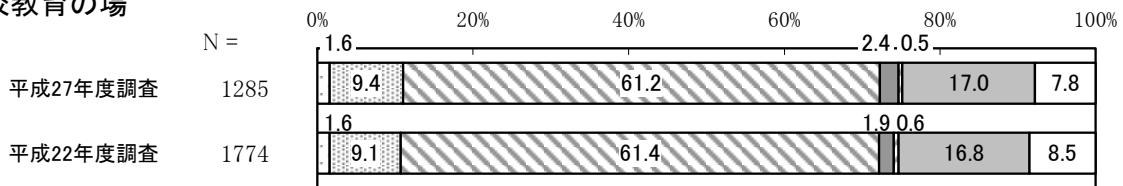
#### ①家庭生活



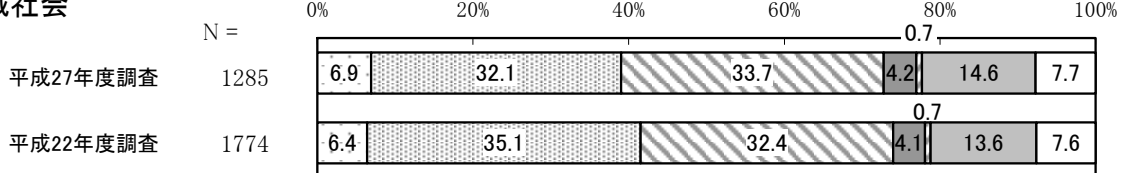
#### ②職場



#### ③学校教育の場

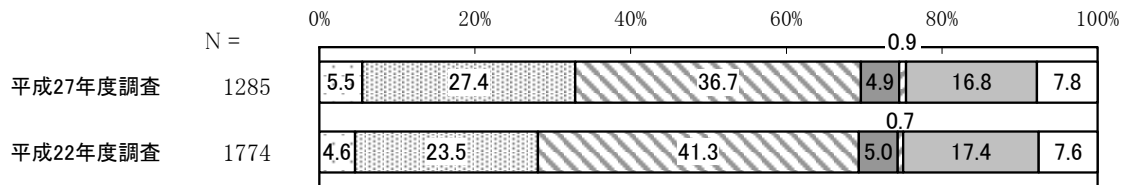


#### ④地域社会

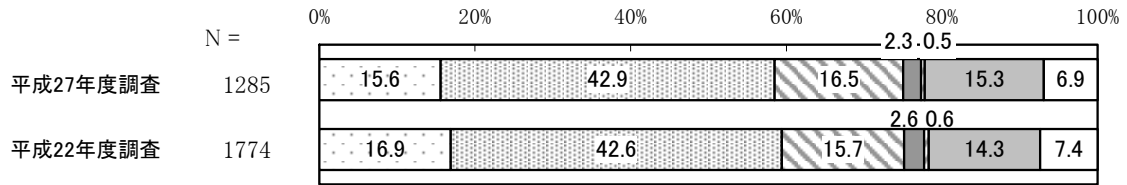


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

⑤ 法律や制度



⑥ しきたりや習慣



【参考／内閣府・愛知県との比較】

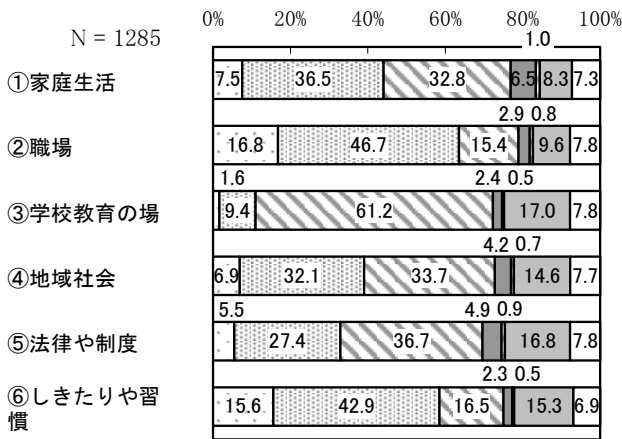
内閣府調査との比較でみると、すべての項目で「平等」の割合が低くなっています。また、⑤法律や制度で“男性優遇”の割合が低くなっています。

愛知県調査との比較でみると、④地域社会を除いたすべての項目で“男性優遇”の割合が低くなっています。

あま市

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

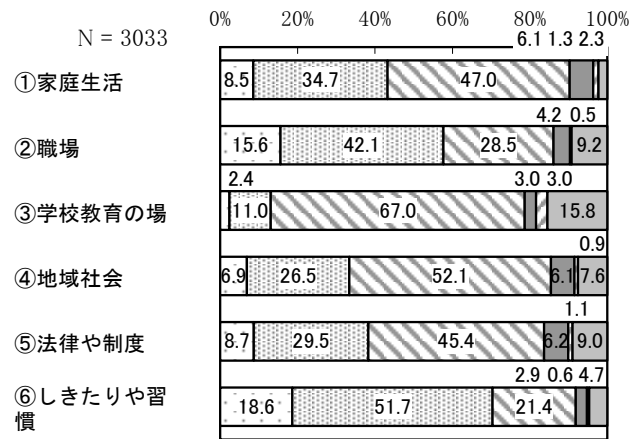
N = 1285



内閣府（平成 24 年度調査）

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

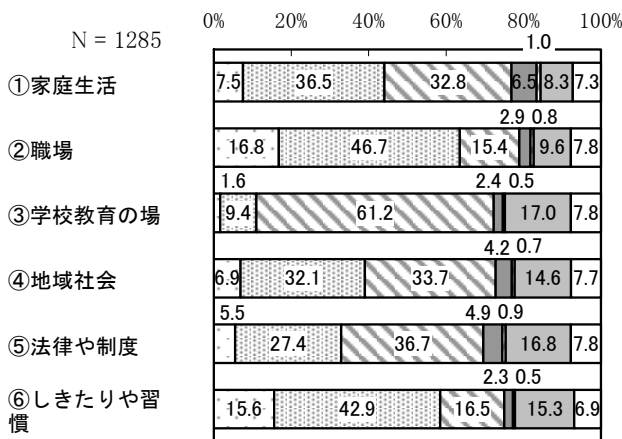
N = 3033



あま市

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

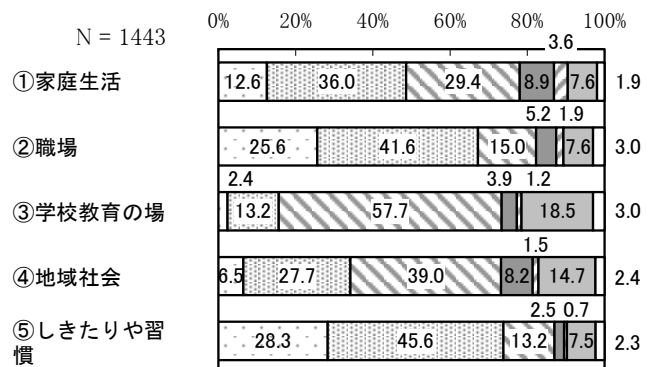
N = 1285



愛知県（平成 26 年度調査）

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない・無回答

N = 1443

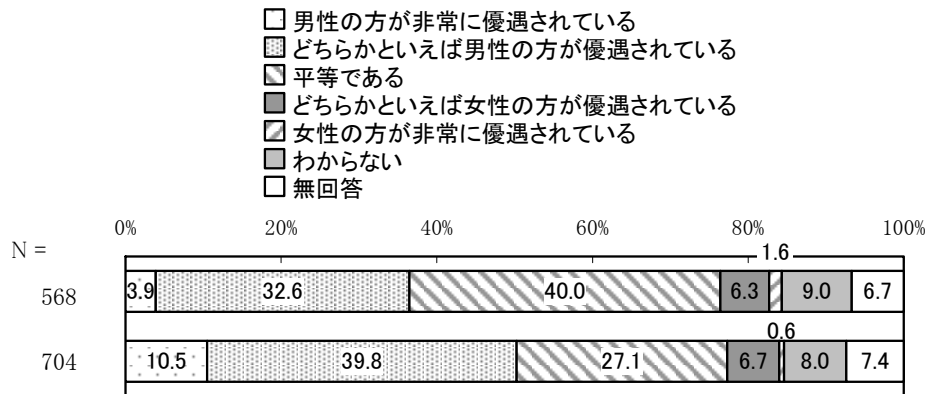




① 家庭生活

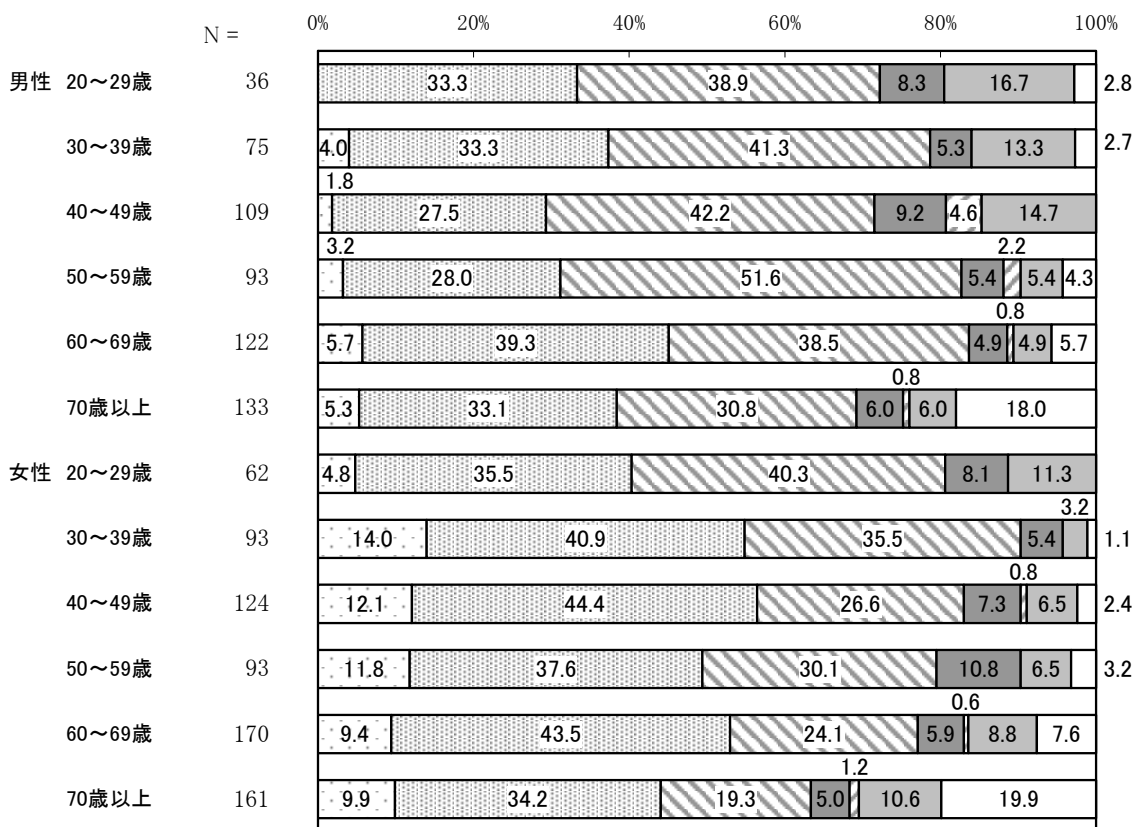
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の50～59歳で「平等」の割合が高くなっています。

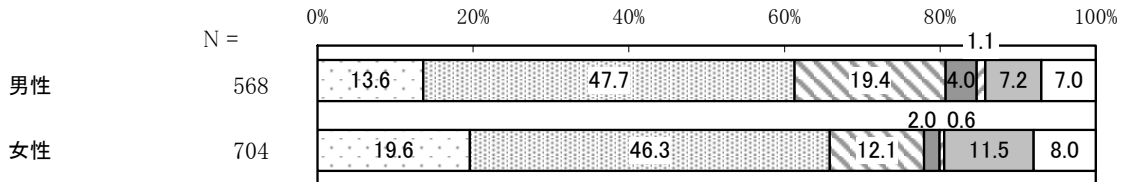


② 職場

【性別】

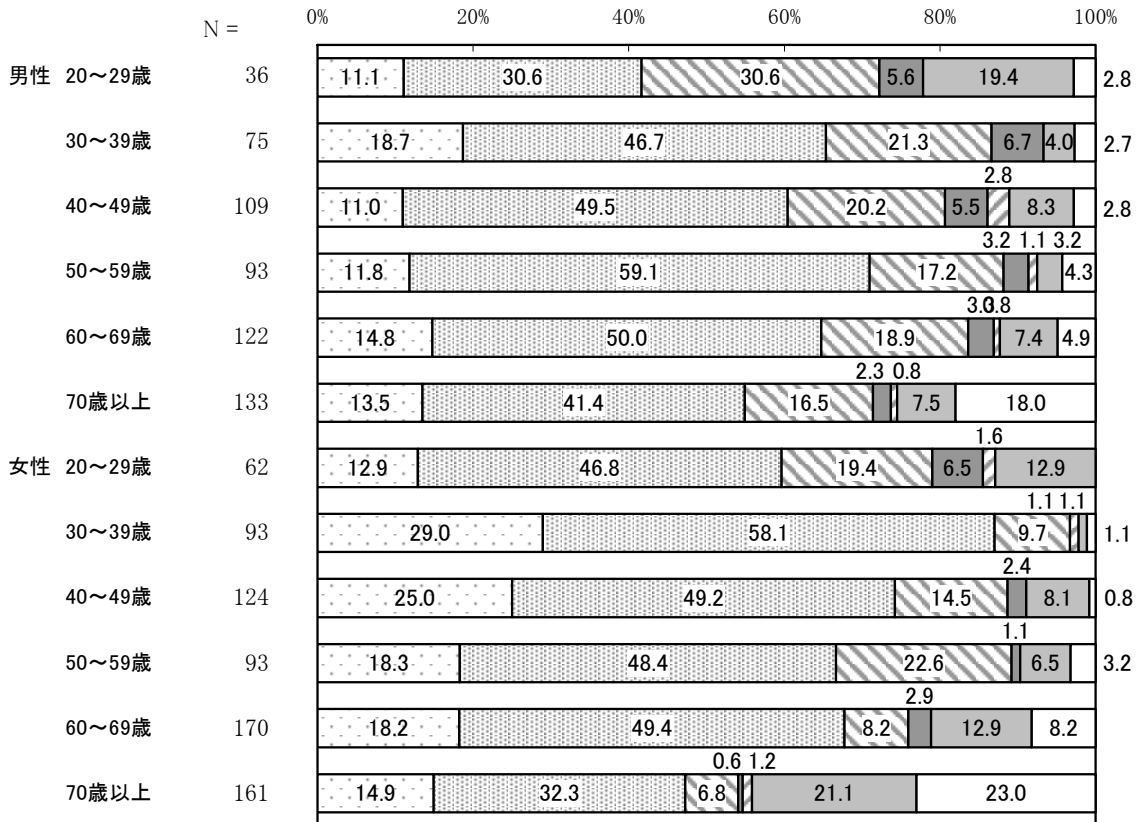
性別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性・年齢別】

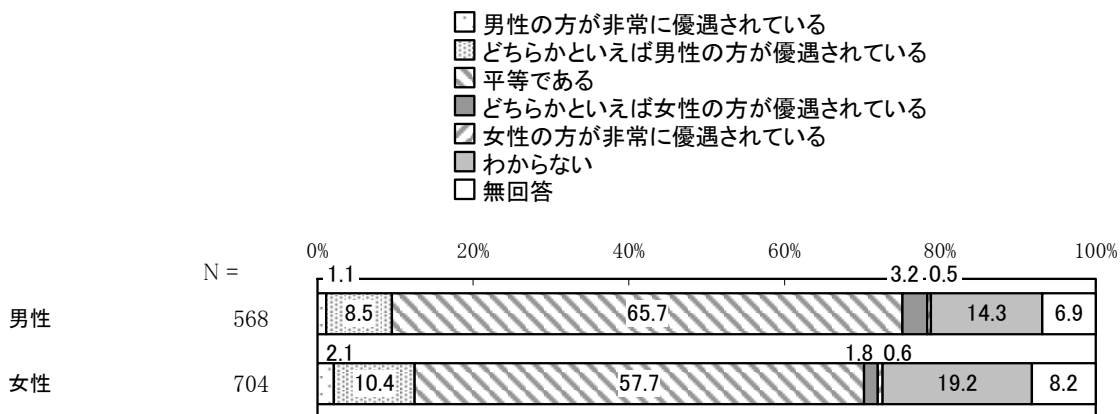
性・年齢別でみると、女性の30～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



### ③ 学校教育の場

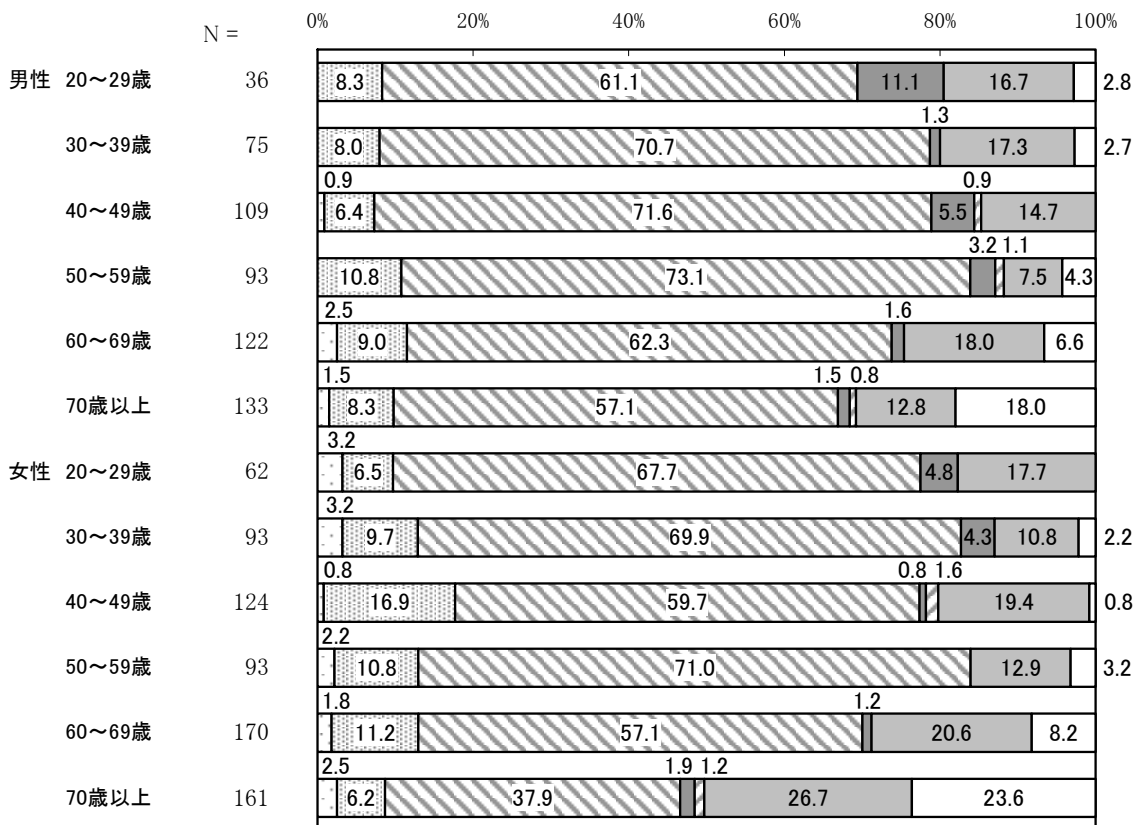
#### 【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



#### 【性・年齢別】

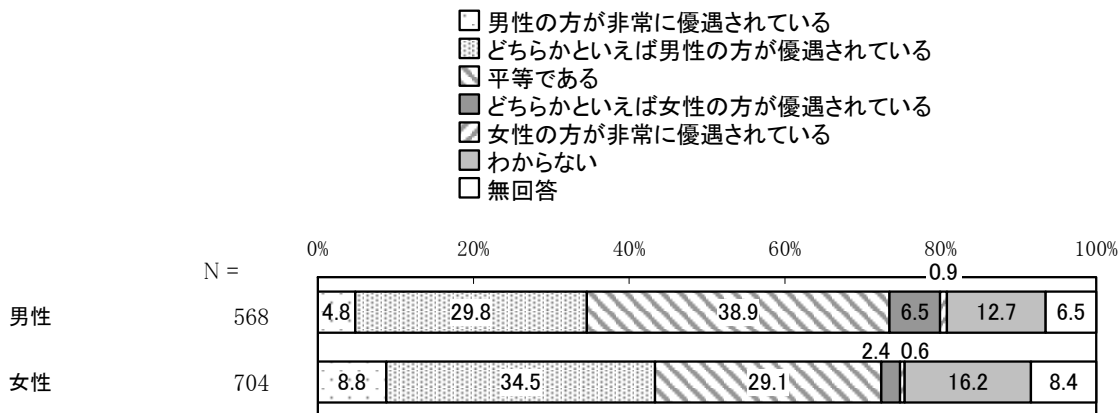
性・年齢別でみると、男女ともに50～59歳で「平等」の割合が高くなっています。



④ 地域社会

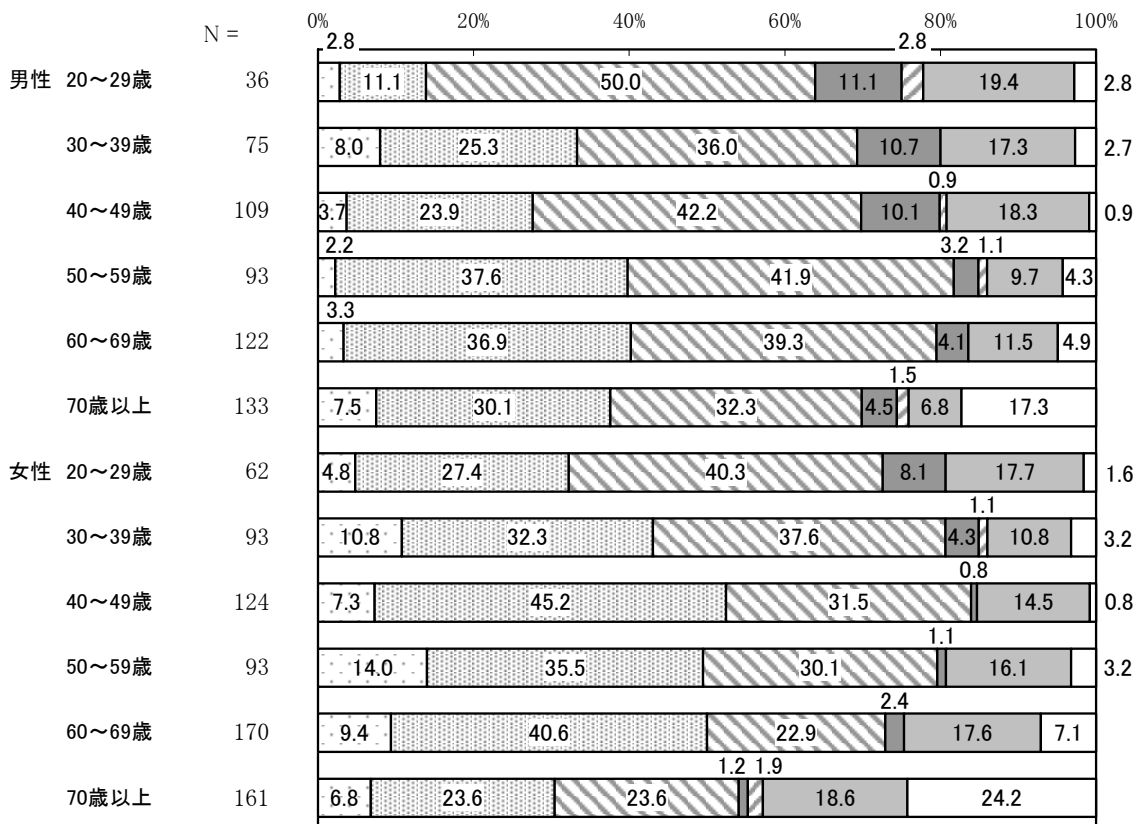
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

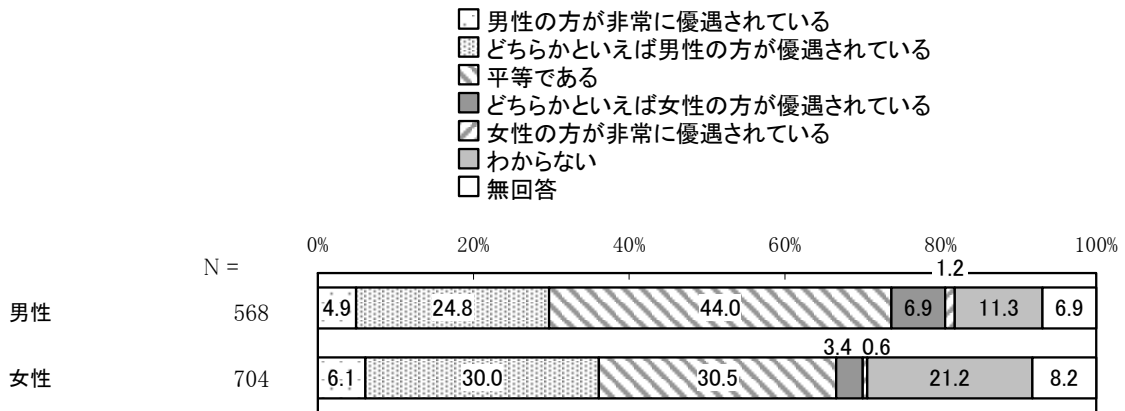
性・年齢別でみると、女性の40～69歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



⑤ 法律や制度

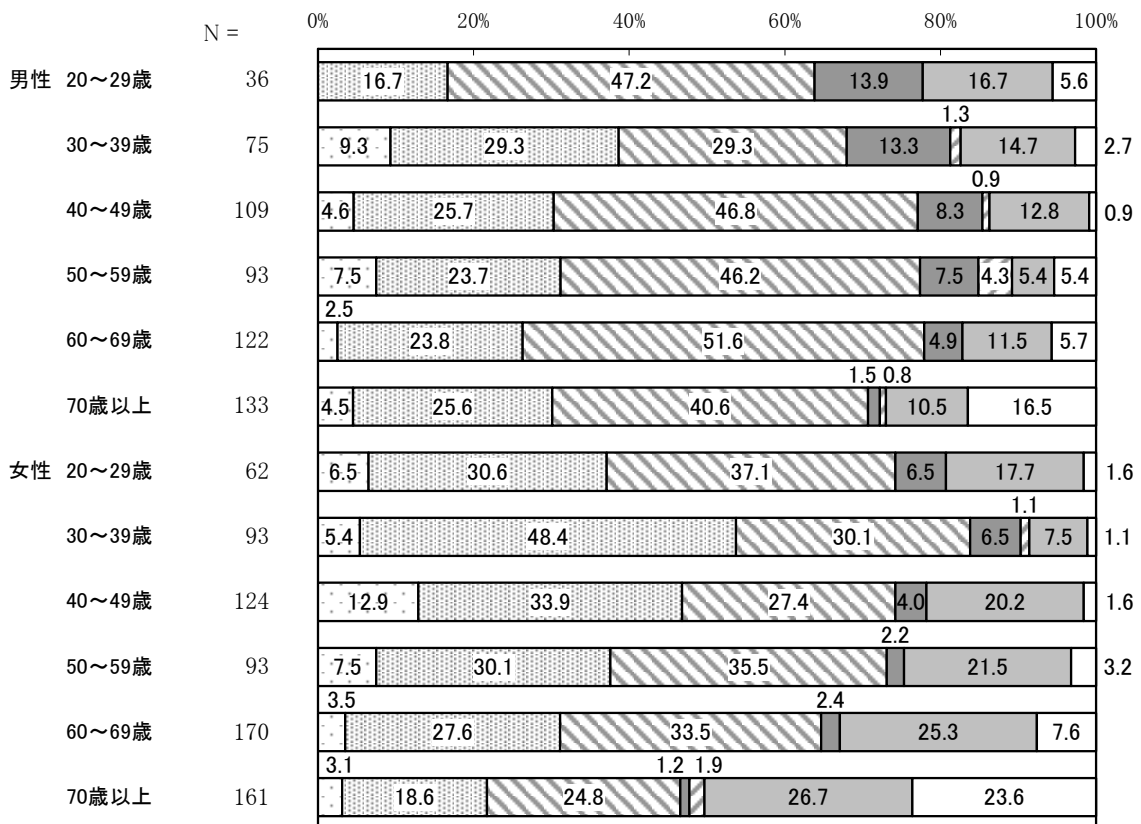
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

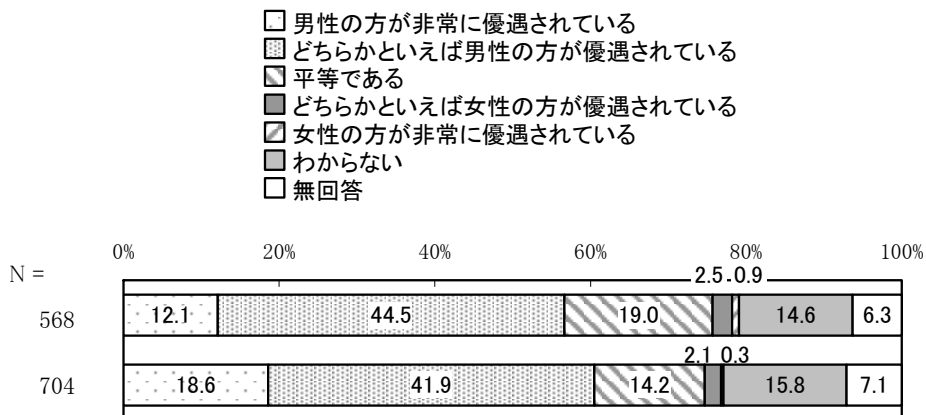
性・年齢別で見ると、女性の30～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～69歳で「平等」の割合が高くなっています。



⑥ しきたりや習慣

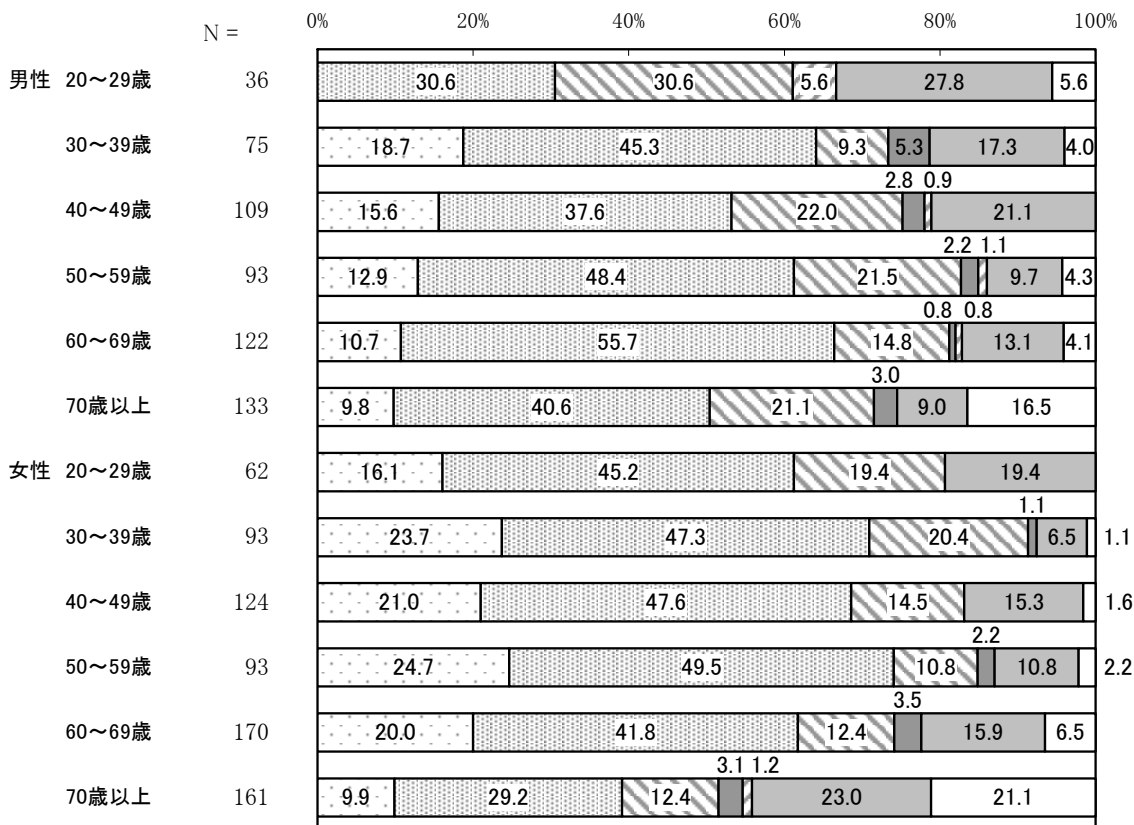
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



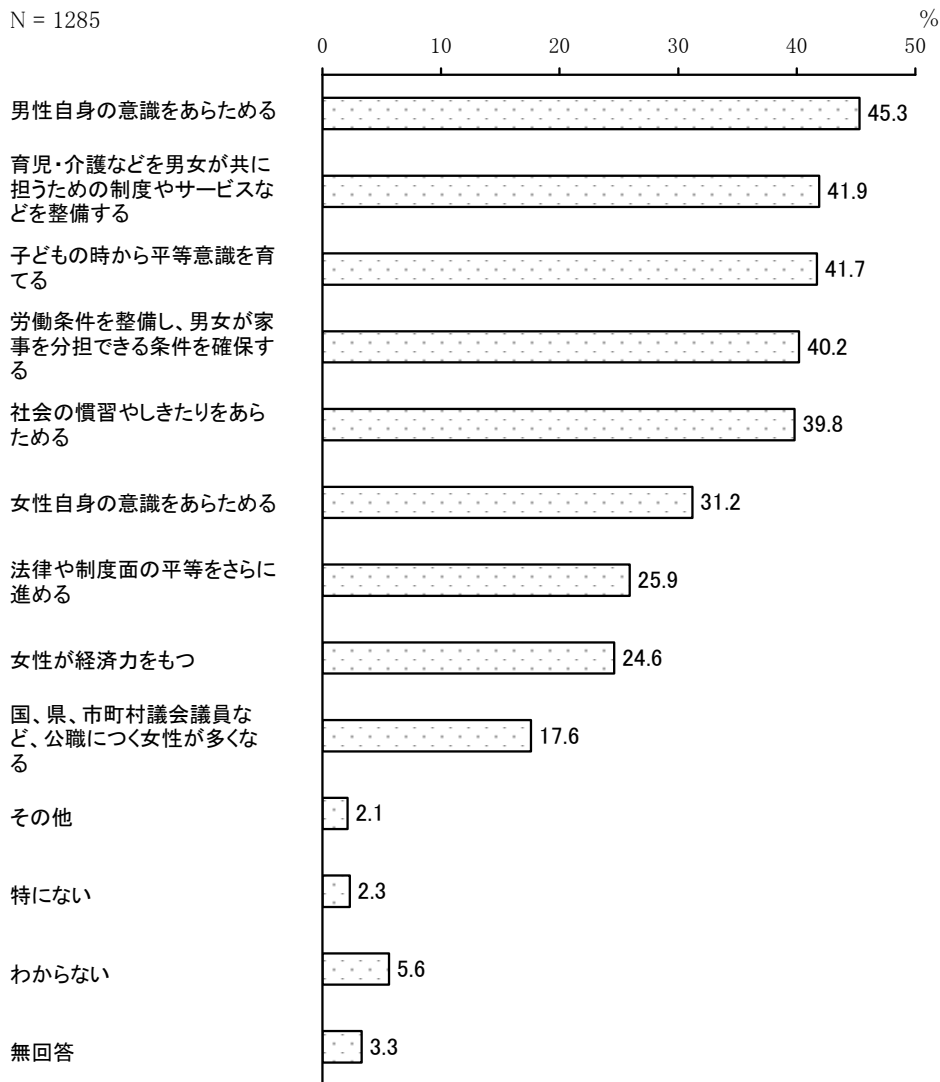
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～59歳で「男性優遇」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



問2. あなたは、男女が平等な立場で協力し合っていくためには、どんなことが大切だと思いますか。(〇印いくつでも)

「男性自身の意識をあらためる」の割合が45.3%と最も高く、次いで「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が41.9%、「子どもの時から平等意識を育てる」の割合が41.7%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「女性が経済力をもつ」「子どもの時から平等意識を育てる」「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」「国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性が経済力をもつ	女性が自身の意識をあらためる	男性自身の意識をあらためる	社会の慣習やしきたりをあらためる	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	20.2	29.4	45.2	39.1	26.2	37.9	35.0	33.8	14.3	3.0	2.5	6.2	3.0
女性	704	28.1	32.7	45.2	40.5	25.6	45.0	44.9	49.0	20.3	1.4	2.0	5.3	3.4



## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の40～49歳、60～69歳で「女性が経済力をもつ」の割合が高くなっています。女性の50～69歳で「女性自身の意識をあらためる」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の40～69歳で「男性自身の意識をあらためる」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、70歳以上、女性の60～69歳で「社会の慣習やしきたりをあらためる」の割合が高くなっています。また、男性の30～39歳、女性の40～49歳で「法律や制度面の平等をさらに進める」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「子どもの時から平等意識を育てる」「国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる」の割合が高くなっています。女性の20～69歳で「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」の割合が高くなっています。女性の20～49歳、60～69歳で「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が高くなっています。

単位：％

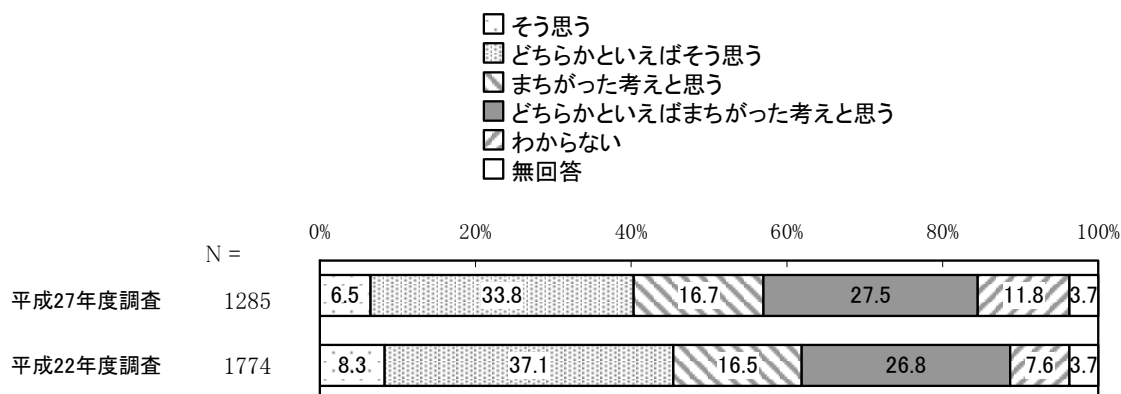
区分	有効回答数(件)	女性が経済力をもつ	女性自身の意識をあらためる	男性自身の意識をあらためる	社会の慣習やしきたりをあらためる	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	13.9	25.0	47.2	55.6	30.6	44.4	44.4	36.1	13.9	2.8	2.8	2.8	2.8
30～39歳	75	9.3	18.7	49.3	37.3	34.7	28.0	34.7	33.3	22.7	4.0	2.7	6.7	1.3
40～49歳	109	22.0	34.9	43.1	36.7	21.1	33.0	36.7	30.3	8.3	3.7	0.9	4.6	0.9
50～59歳	93	20.4	32.3	40.9	28.0	22.6	41.9	24.7	30.1	8.6	3.2	1.1	10.8	1.1
60～69歳	122	19.7	27.0	51.6	39.3	22.1	43.4	33.6	33.6	13.1	3.3	4.9	4.9	2.5
70歳以上	133	27.1	32.3	41.4	45.1	30.8	37.6	39.8	39.1	19.5	1.5	2.3	6.0	7.5
女性 20～29歳	62	14.5	32.3	41.9	40.3	25.8	45.2	53.2	53.2	16.1	4.8	3.2	6.5	—
30～39歳	93	28.0	24.7	45.2	41.9	21.5	45.2	51.6	52.7	21.5	2.2	2.2	3.2	—
40～49歳	124	31.5	30.6	50.0	41.9	39.5	49.2	46.0	54.0	25.0	1.6	1.6	4.0	—
50～59歳	93	28.0	41.9	50.5	32.3	18.3	46.2	49.5	44.1	15.1	—	—	4.3	2.2
60～69歳	170	30.0	41.2	55.9	47.6	28.2	45.9	45.3	54.1	21.2	1.2	0.6	3.5	4.7
70歳以上	161	29.2	24.8	28.6	35.4	18.6	39.8	34.2	38.5	19.3	0.6	4.3	9.3	8.7

## (2) 家庭生活について

問3. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。  
(○印1つ)

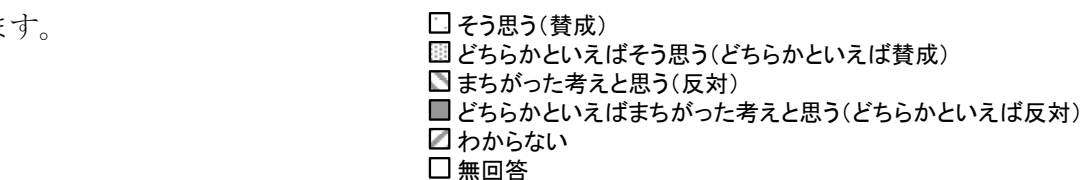
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が40.3%となっています。「まちがった考えと思う」と「どちらかといえばまちがった考えと思う」をあわせた“まちがった考え”の割合が44.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



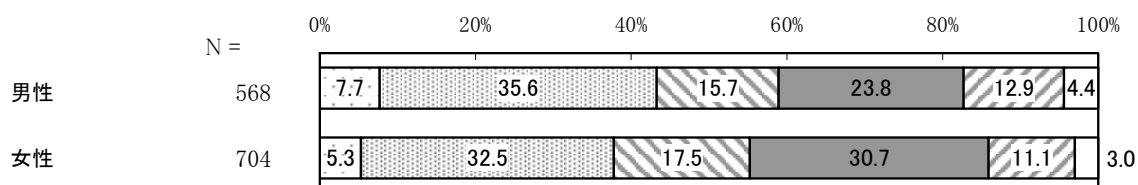
### 【参考／内閣府・愛知県との比較】

内閣府・愛知県調査と比較すると、内閣府、愛知県に比べ“そう思う”の割合が低くなっています。



### 【性別】

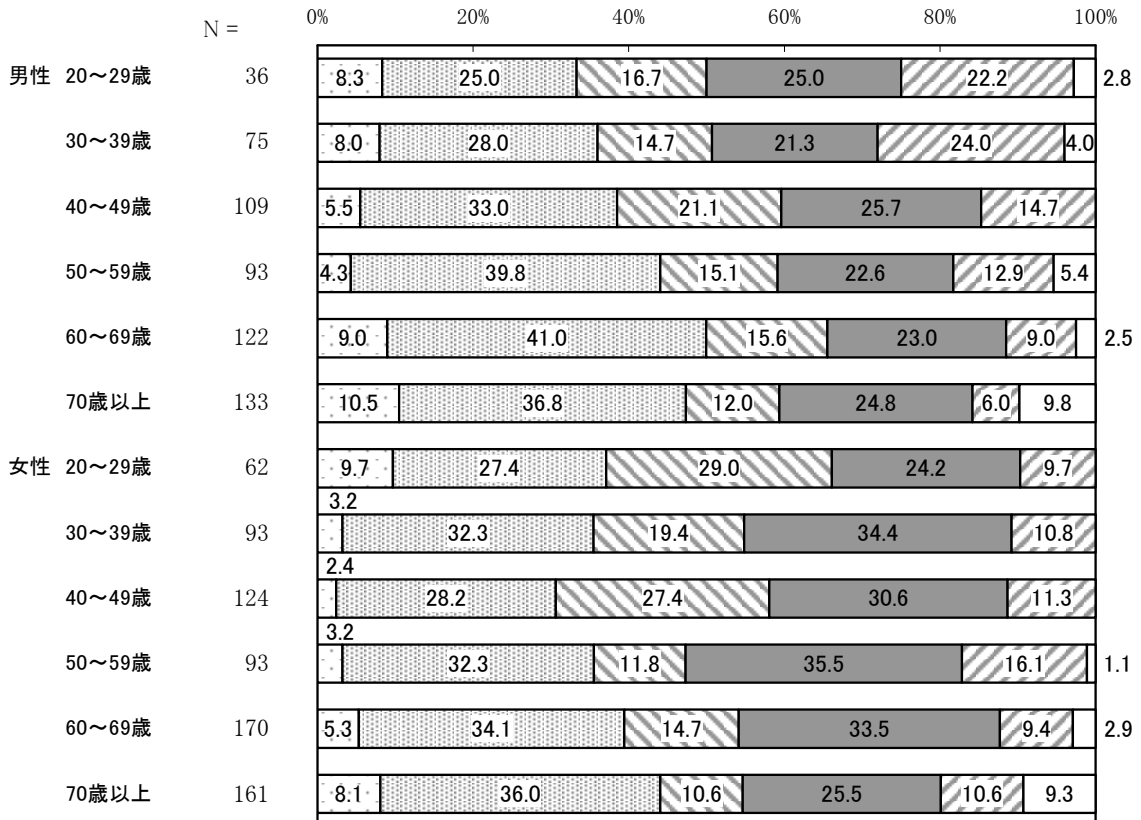
性別でみると、男性に比べ女性で“まちがった考え”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

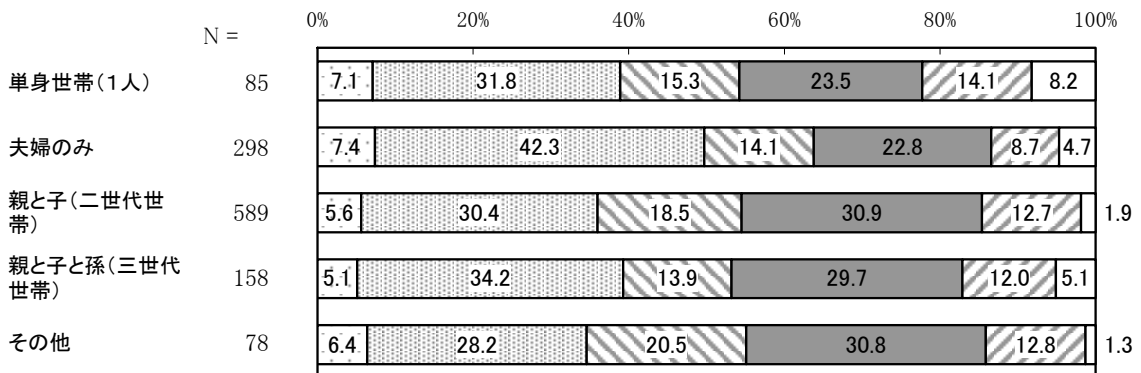
性・年齢別で見ると、男性の60～69歳で“そう思う”の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で“まちがった考え”の割合が高くなっています。

- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▨ まちがった考えと思う
- どちらかといえばまちがった考えと思う
- ▨ わからない
- 無回答



【家族構成別】

家族構成別で見ると、夫婦のみで“そう思う”の割合が高くなっています。



問4. 家庭における夫婦の役割分担について、どう思いますか。

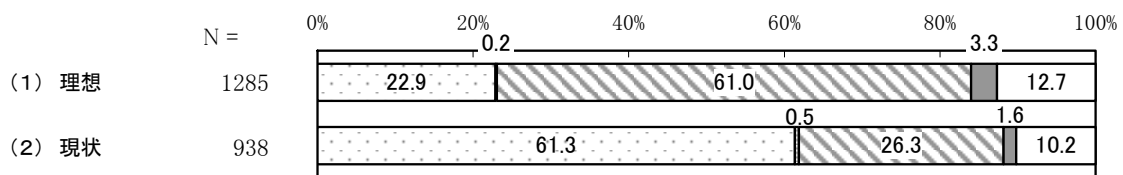
(1) 全ての方にお伺いします。①～⑥に示す場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。(理想欄から○印①～⑥の項目ごとに1ずつ)

理想と現実を比較すると、①家事全般（食事、洗濯、掃除等）、②日常の買い物、③家計の管理では、現状で「主に妻が行う」の割合が最も高くなっていますが、理想としては、「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。

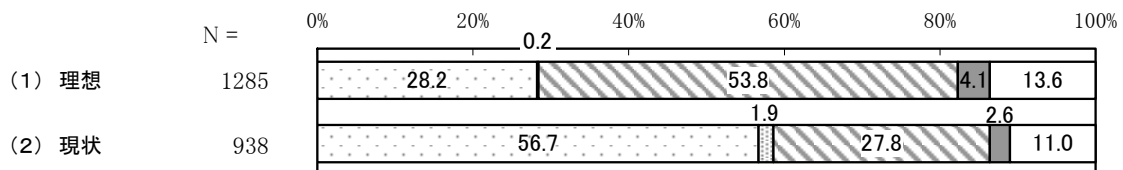
④子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）、⑤親等の介護、⑥地域活動では、現状で「共同して分担する」の割合が高くなっていますが、理想としては、「共同して分担するのがよい」の割合が現状より高くなっています。

- (1) 理想
- 主に妻が行うのがよい
  - 共同して分担するのがよい
  - 無回答
  - 主に夫が行うのがよい
  - その他
- (2) 現状
- 主に妻が行う
  - 主に夫が行う
  - 共同して分担する
  - その他
  - 無回答

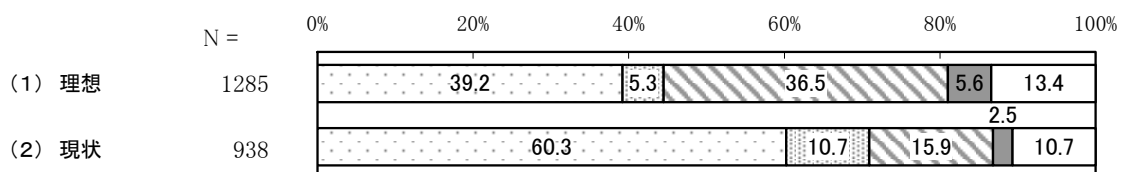
① 家事全般（食事、洗濯、掃除等）



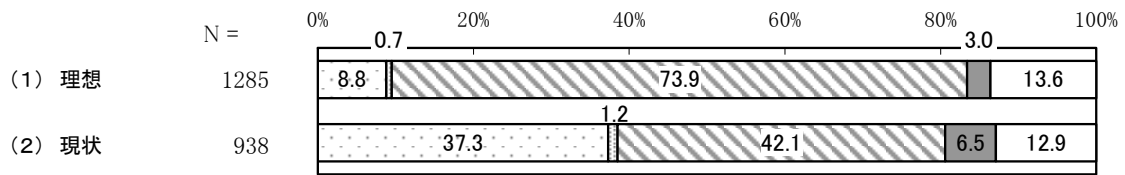
② 日常の買い物



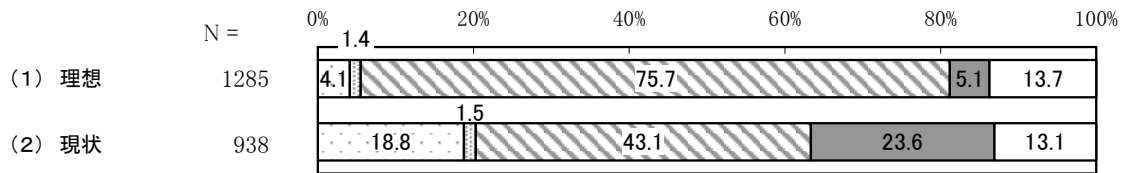
③ 家計の管理



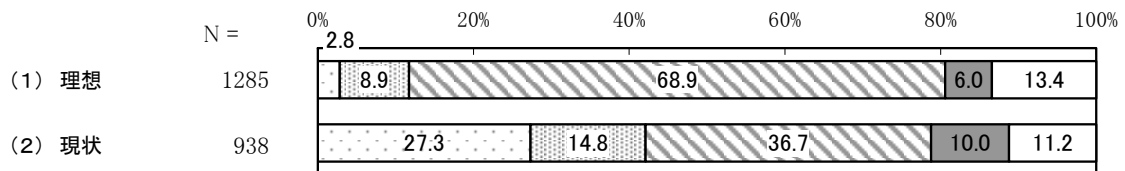
④ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）



⑤ 親等の介護



⑥ 地域活動への参加

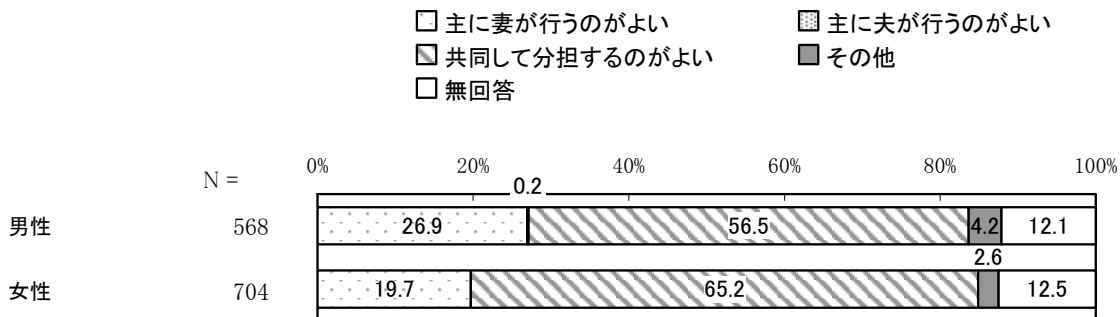


① 家事全般（食事、洗濯、掃除等）

（１）理想

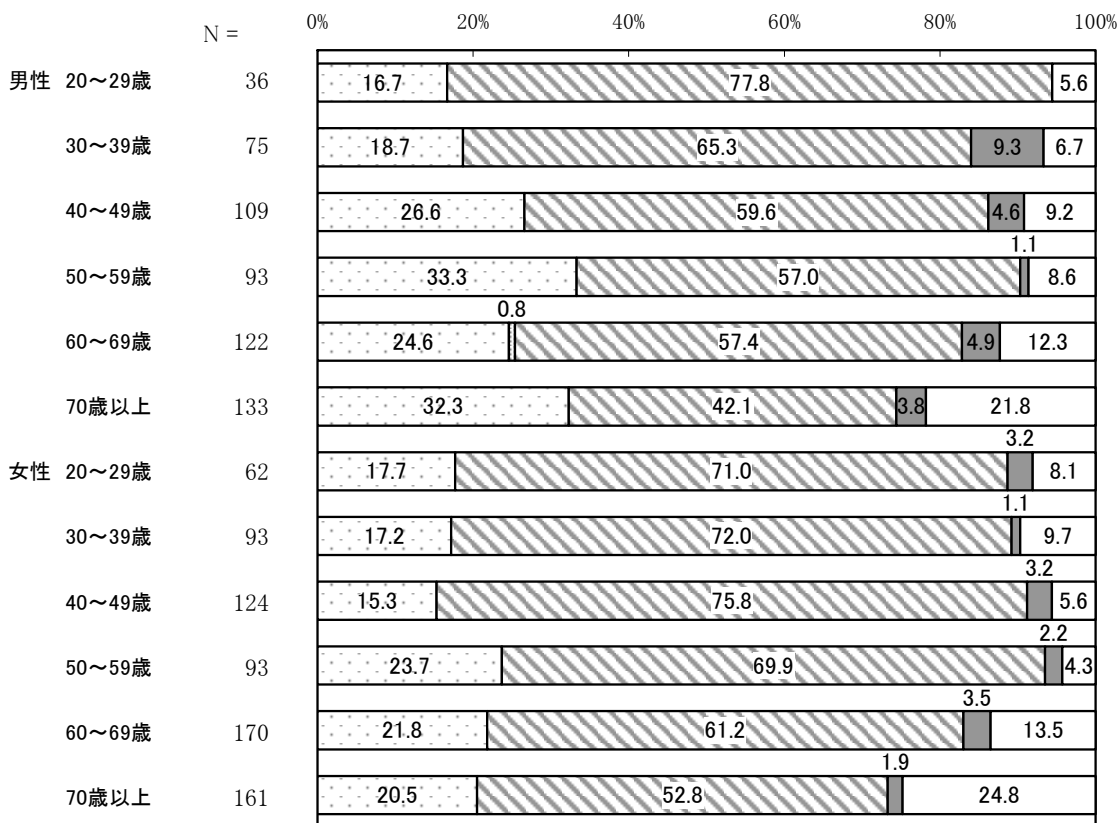
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

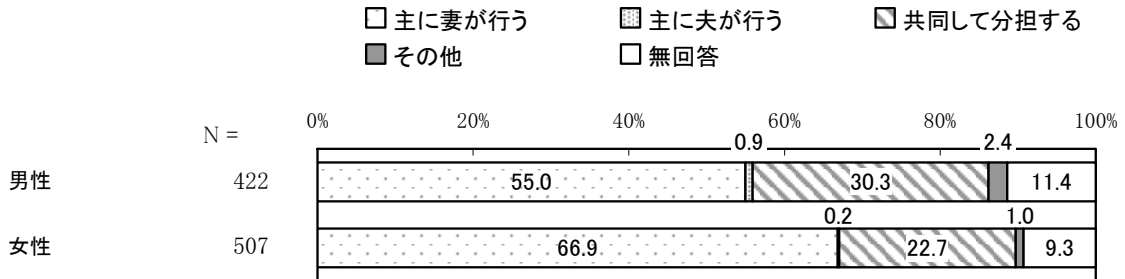
性・年齢別で見ると、男性の50～59歳、70歳以上で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

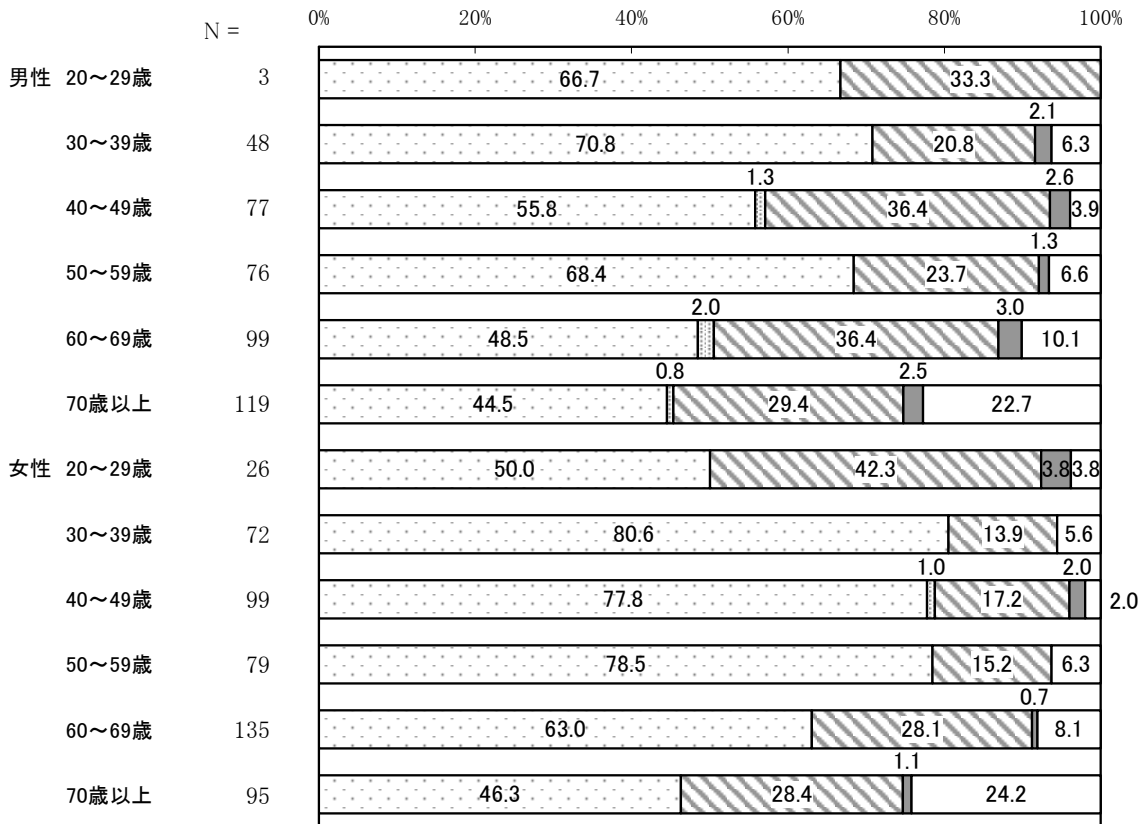
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～39歳、50～59歳、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～49歳、60～69歳、女性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

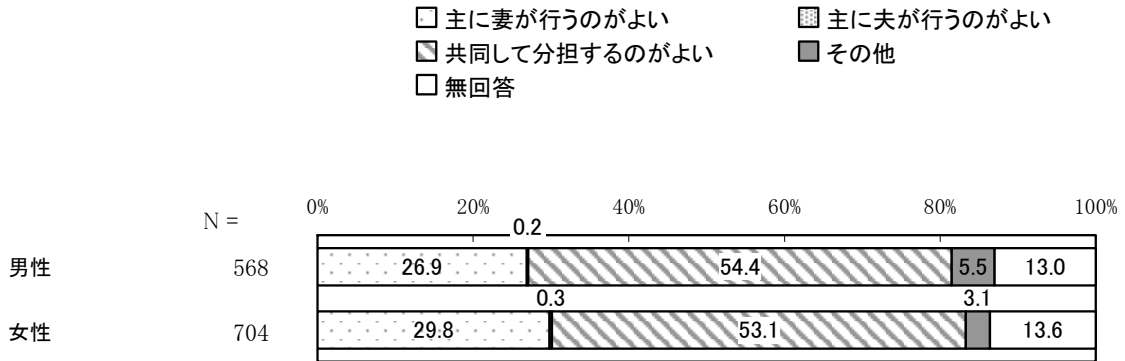


## ② 日常の買い物

### (1) 理想

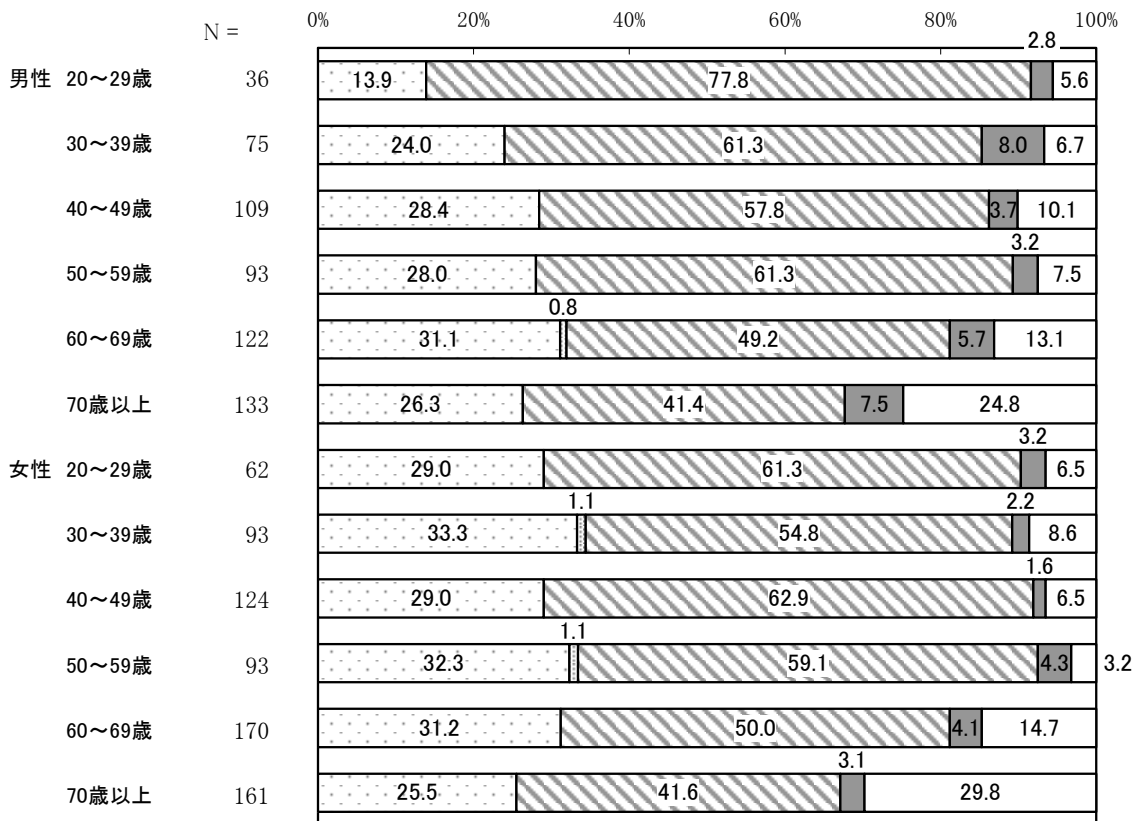
#### 【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



#### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～39歳、50～59歳で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、50～59歳、女性の20～29歳、40～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。

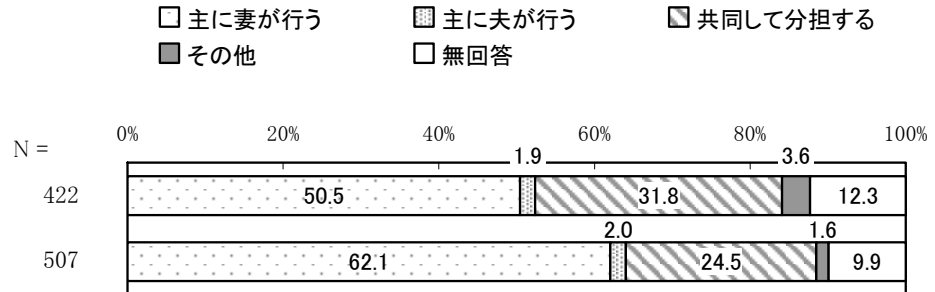




(2) 現状

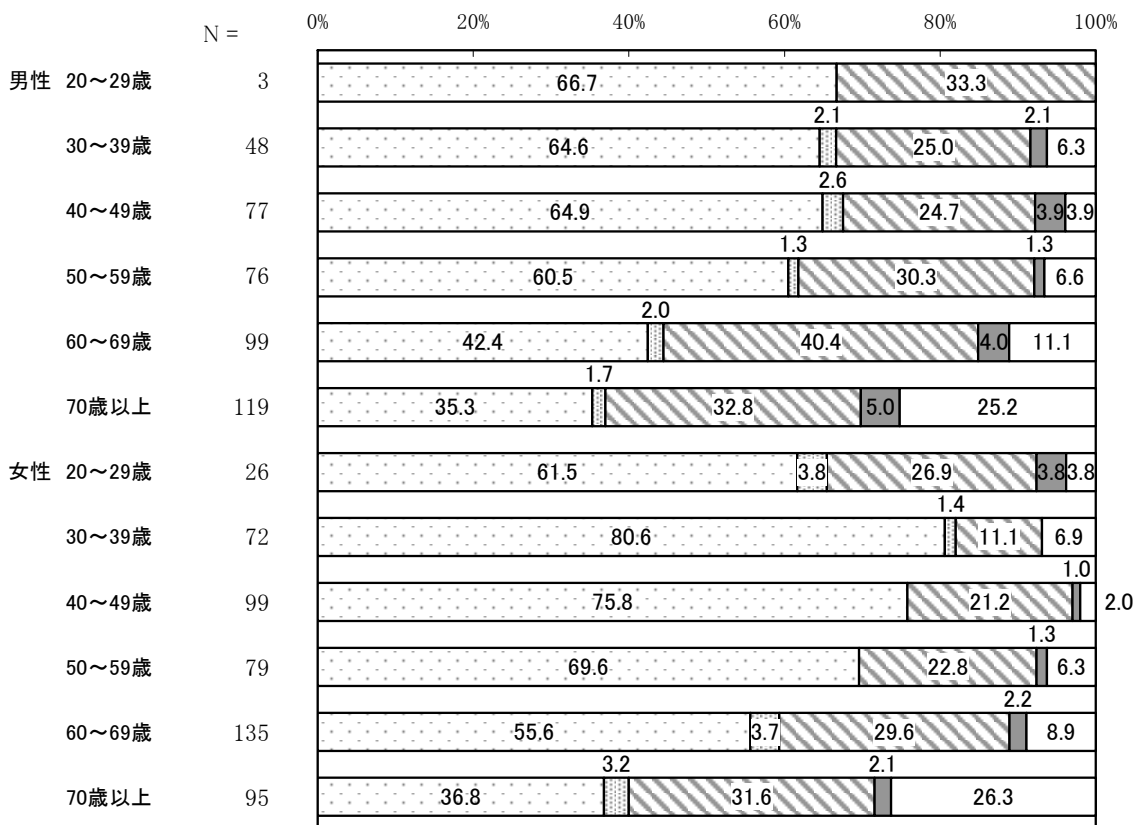
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～49歳、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、60歳以上で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

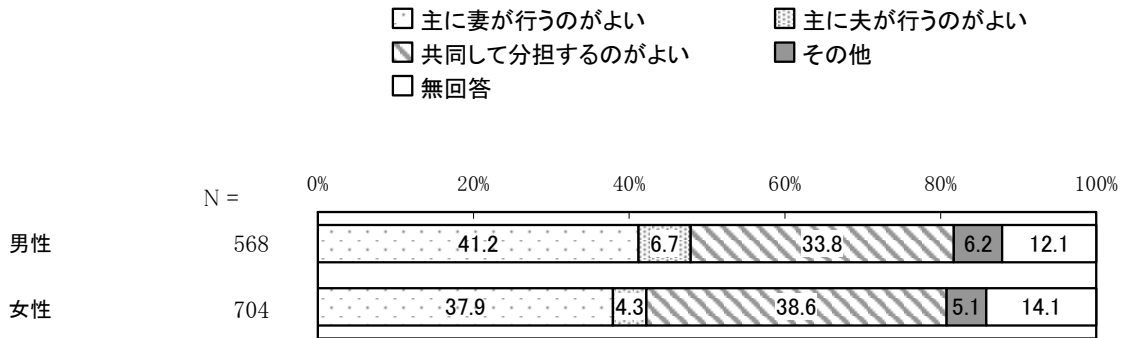


### ③ 家計の管理

#### (1) 理想

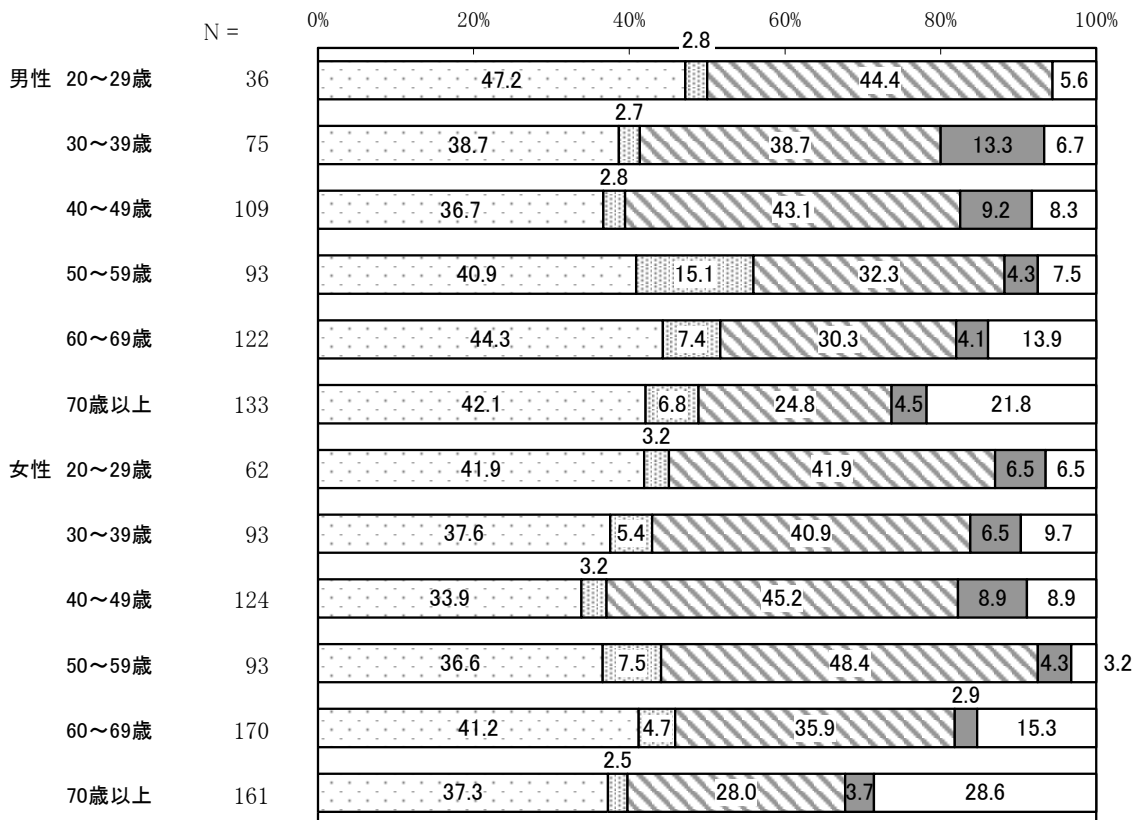
##### 【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



##### 【性・年齢別】

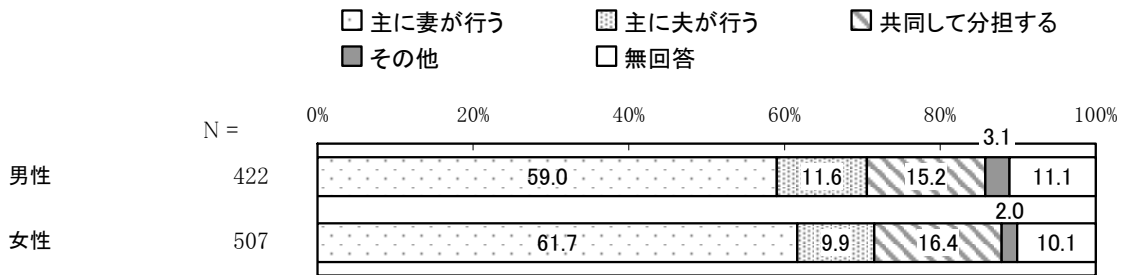
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、60～69歳で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の50～59歳で「主に夫が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～49歳、女性の20～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

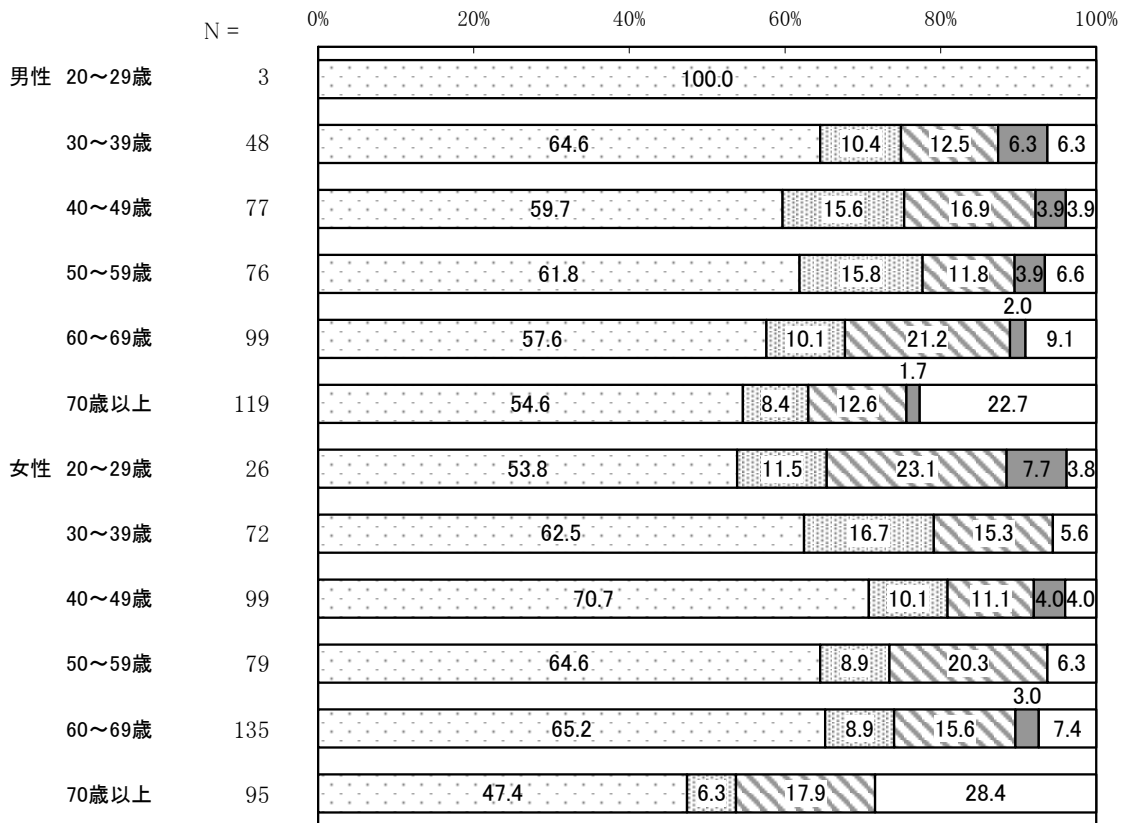
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の40～49歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の30～39歳で「主に夫が行う」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

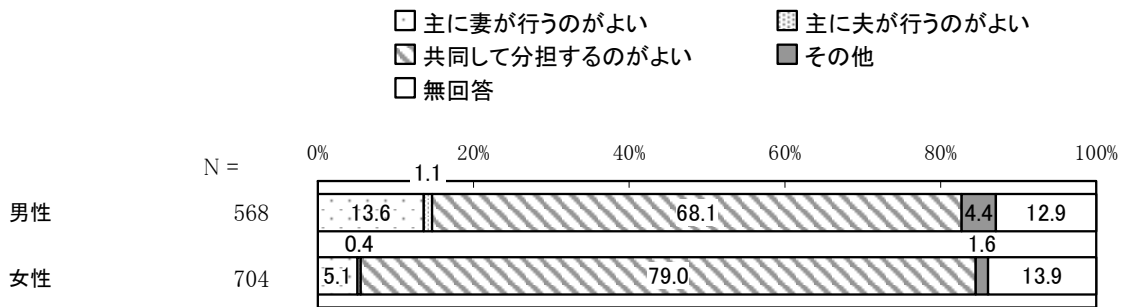


④ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

（１）理想

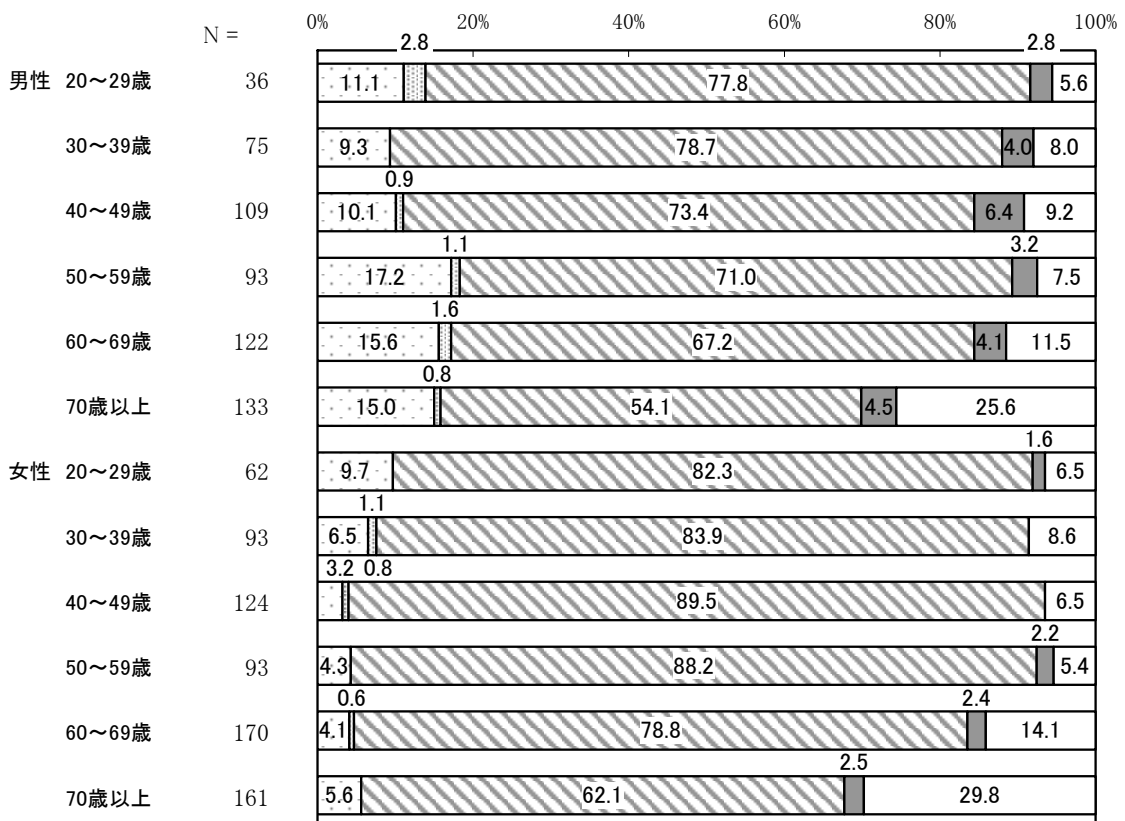
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

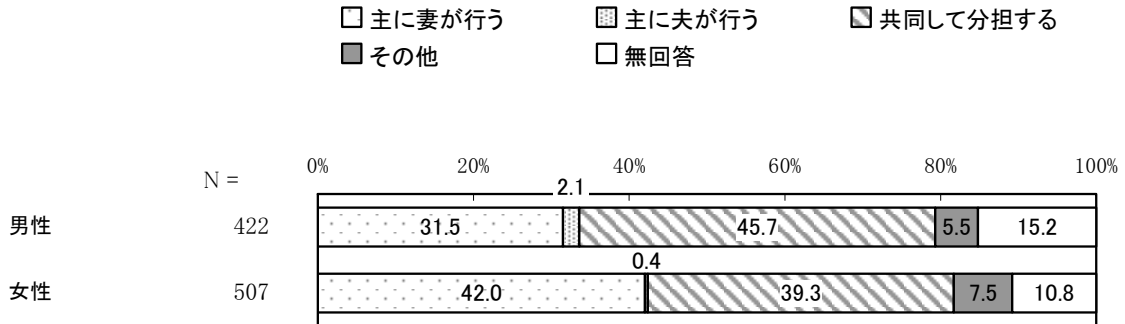
性・年齢別でみると、男性の 50 歳以上で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。女性の 20～59 歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

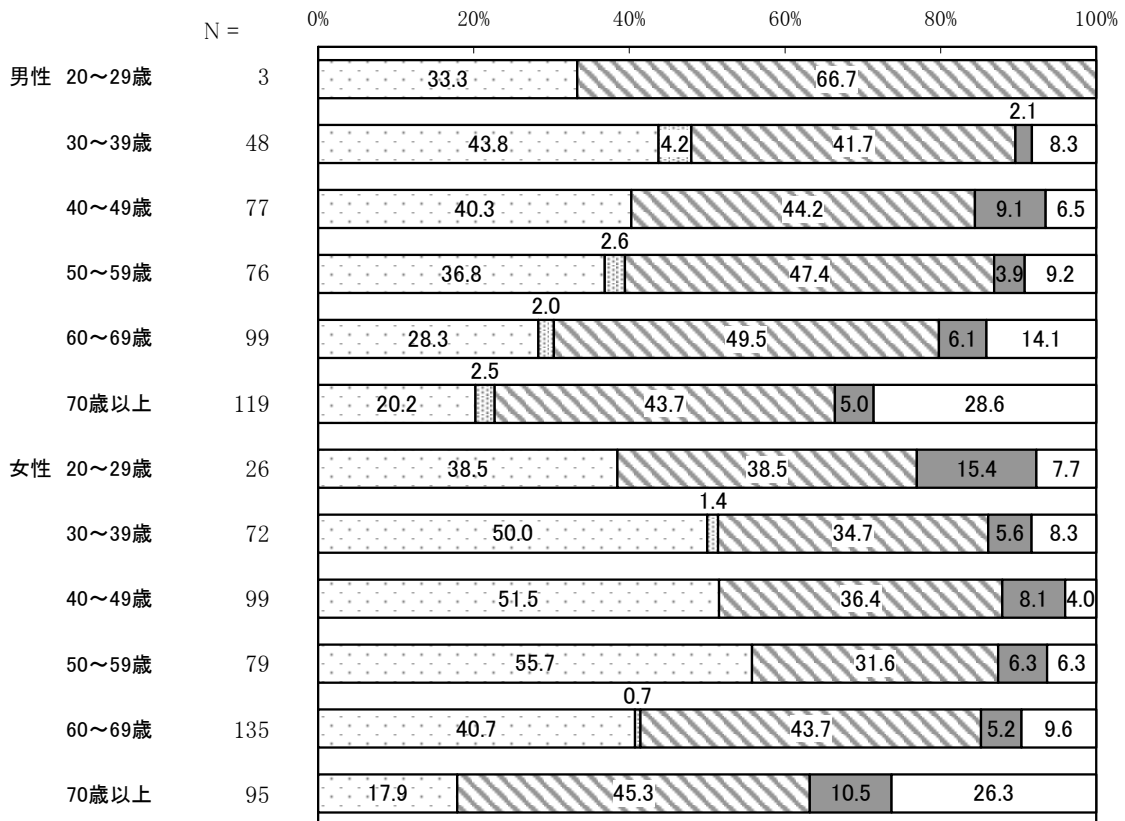
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の30～39歳、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の50～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

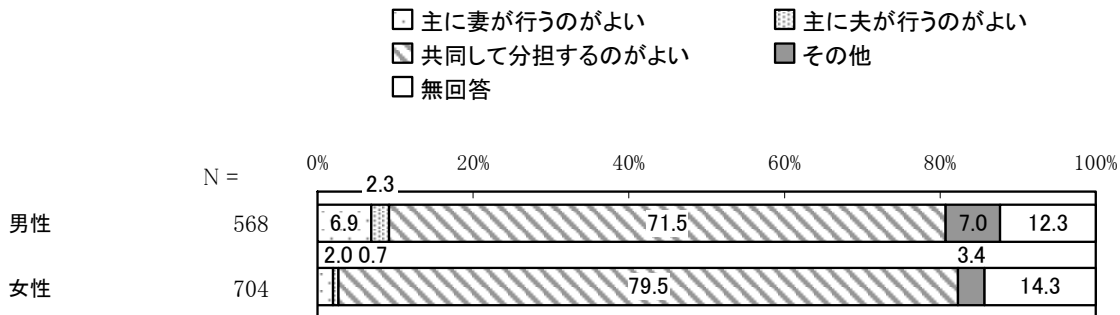


⑤ 親等の介護

(1) 理想

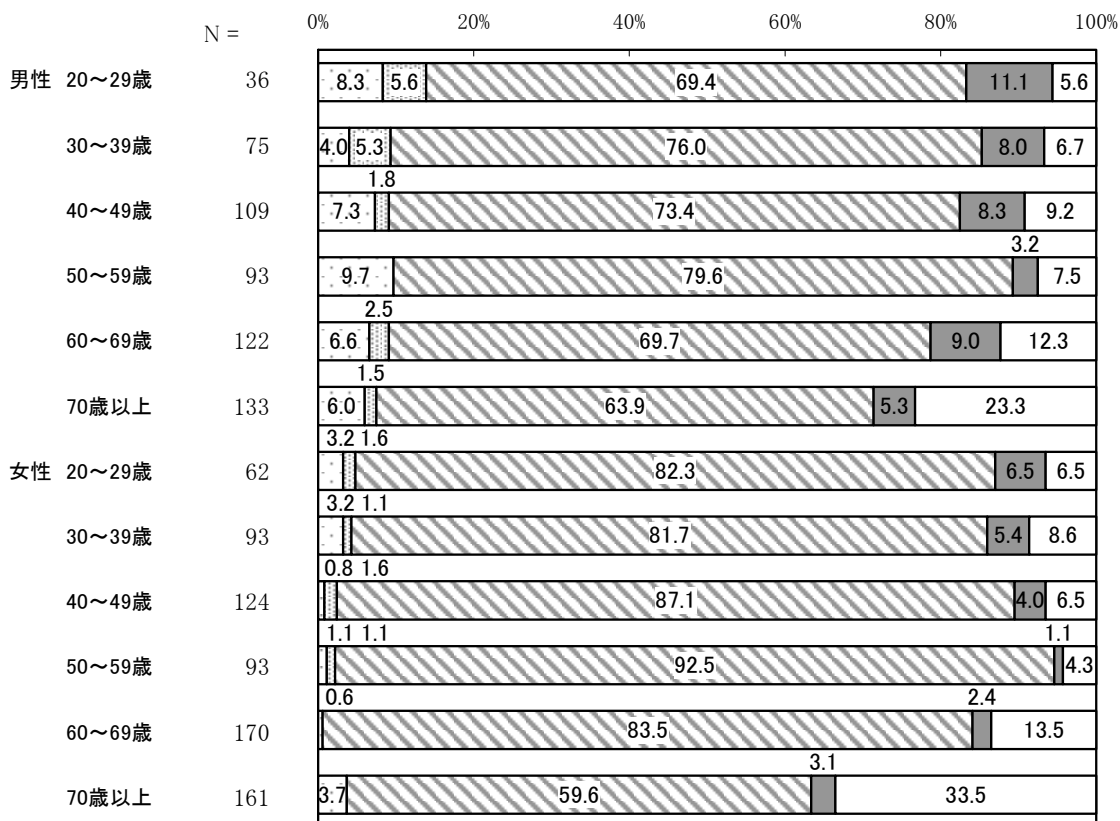
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

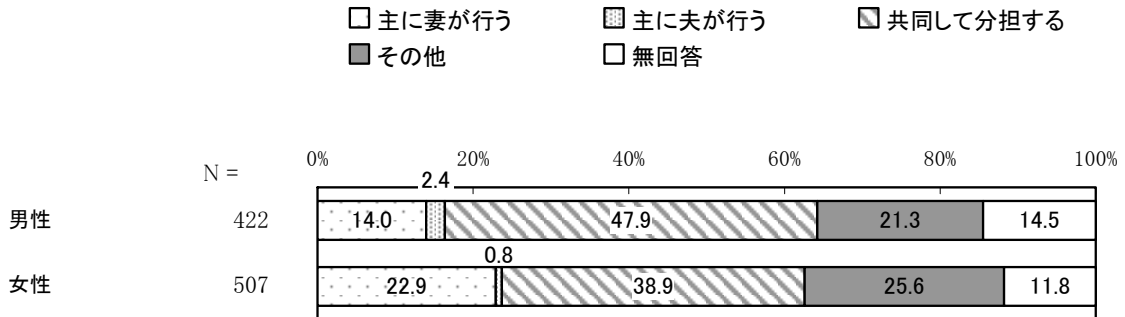
性・年齢別でみると、男性の50～59歳で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。女性の20～69歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

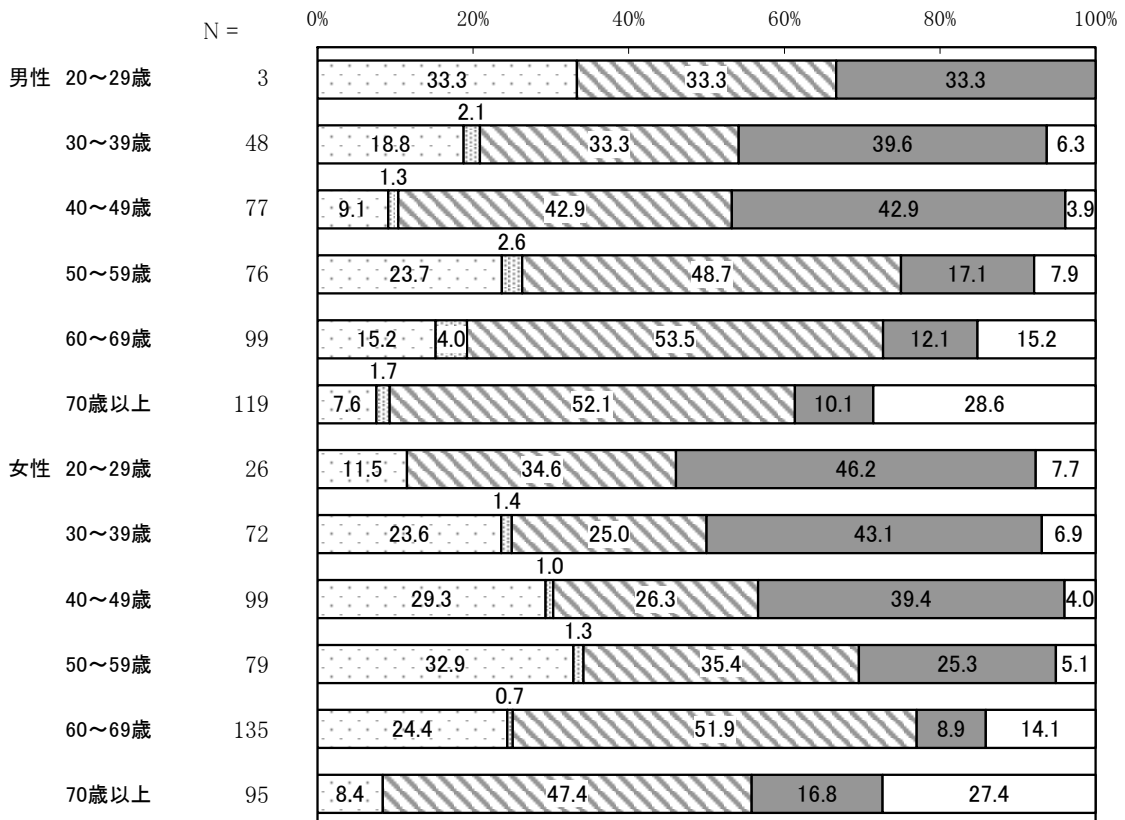
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の50歳以上、女性の60～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

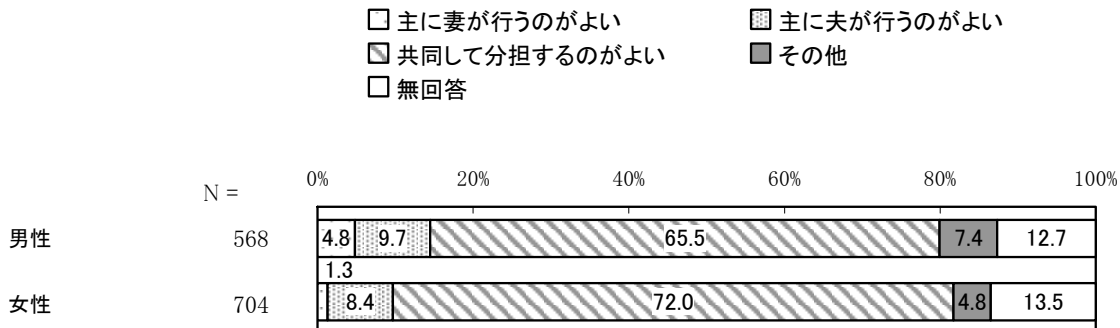


⑥ 地域活動への参加

(1) 理想

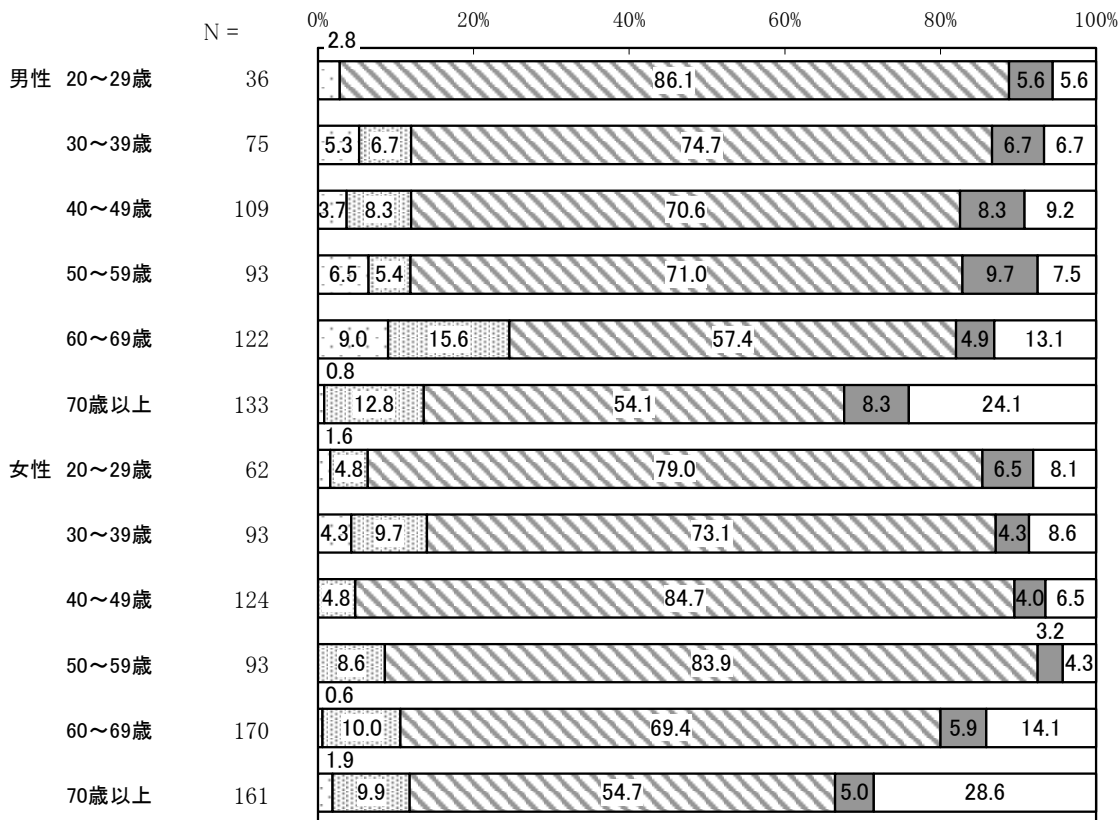
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の60～69歳で「主に妻が行うのがよい」「主に夫が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の40～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。

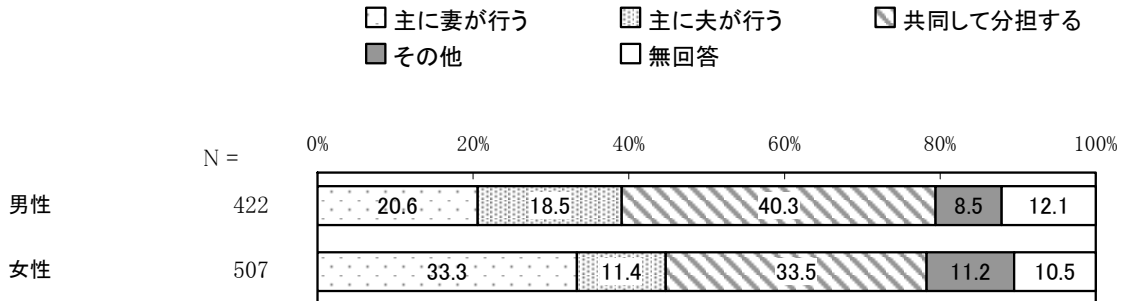




(2) 現状

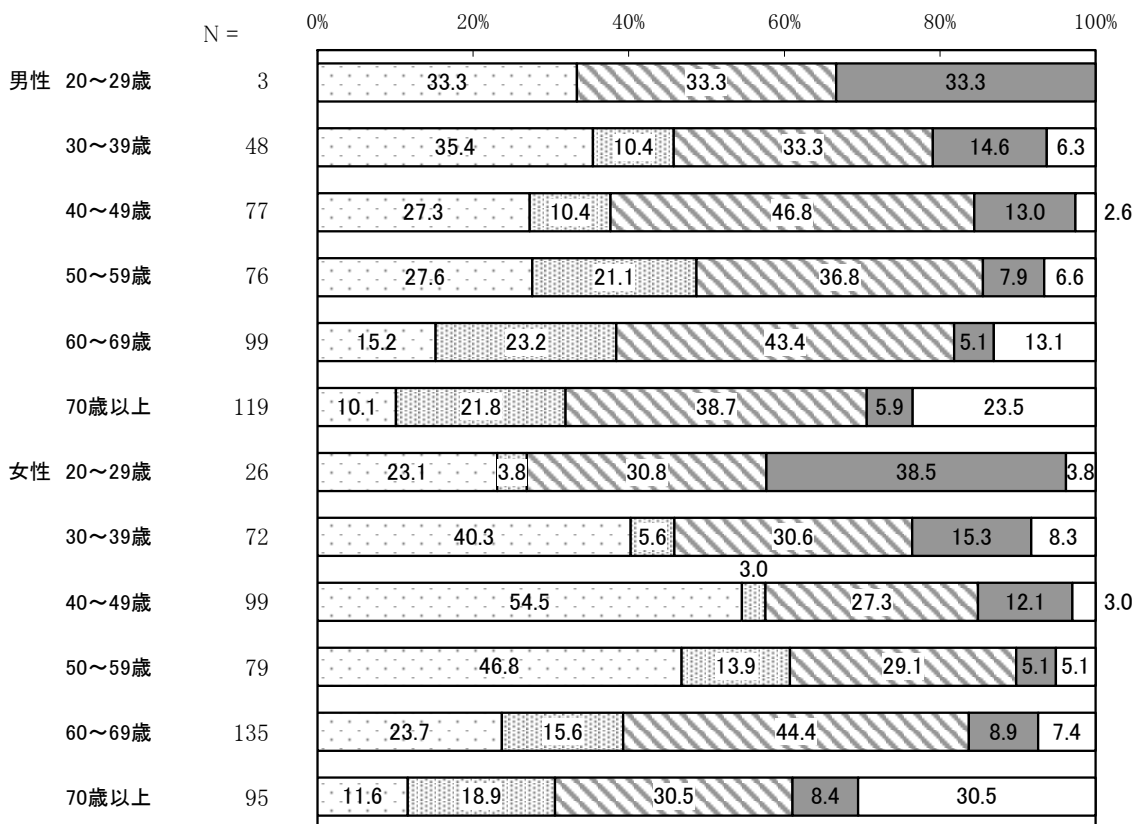
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「主に夫が行う」「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の50歳以上で「主に夫が行う」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳、女性の60～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

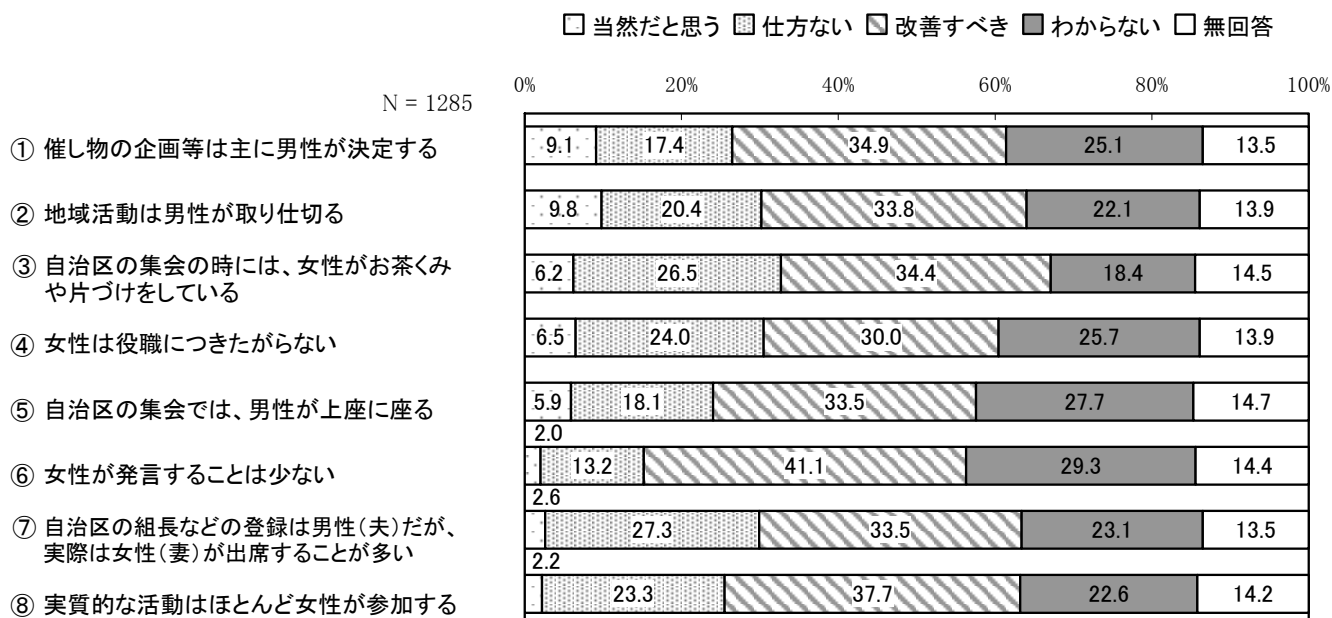


### (3) 地域活動について

問5. あなたが参加している地域活動における男女の役割分担についてどう感じていますか。(〇印①~⑧の項目ごとに1つずつ)

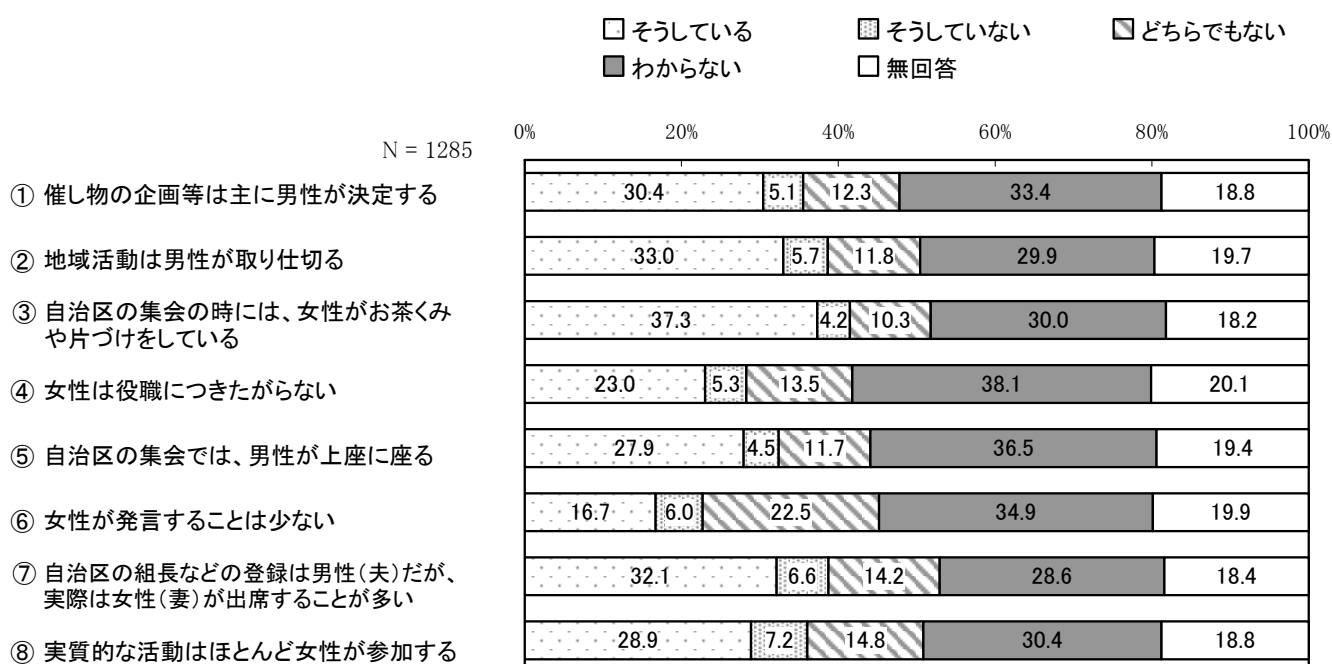
#### (1) 意識

すべての項目で「改善すべき」の割合が最も高くなっています。



#### (2) 現状

「そうしている」の割合が、②地域活動は男性が取り仕切るで33.0%、③自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしているで37.3%、⑦自治区の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多いで32.1%となっています。

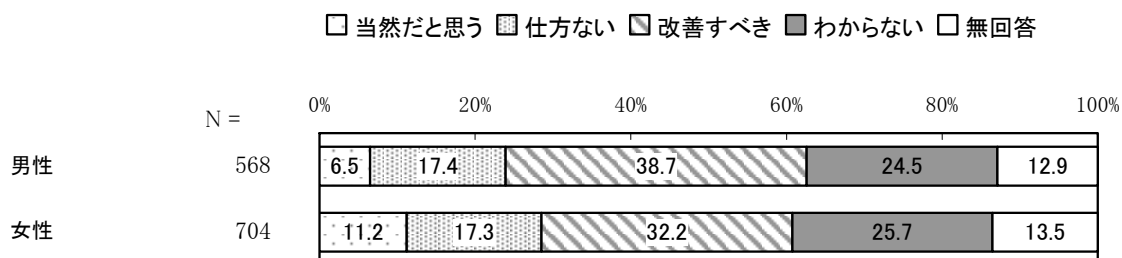


① 催し物の企画等は主に男性が決定する

(1) 意識

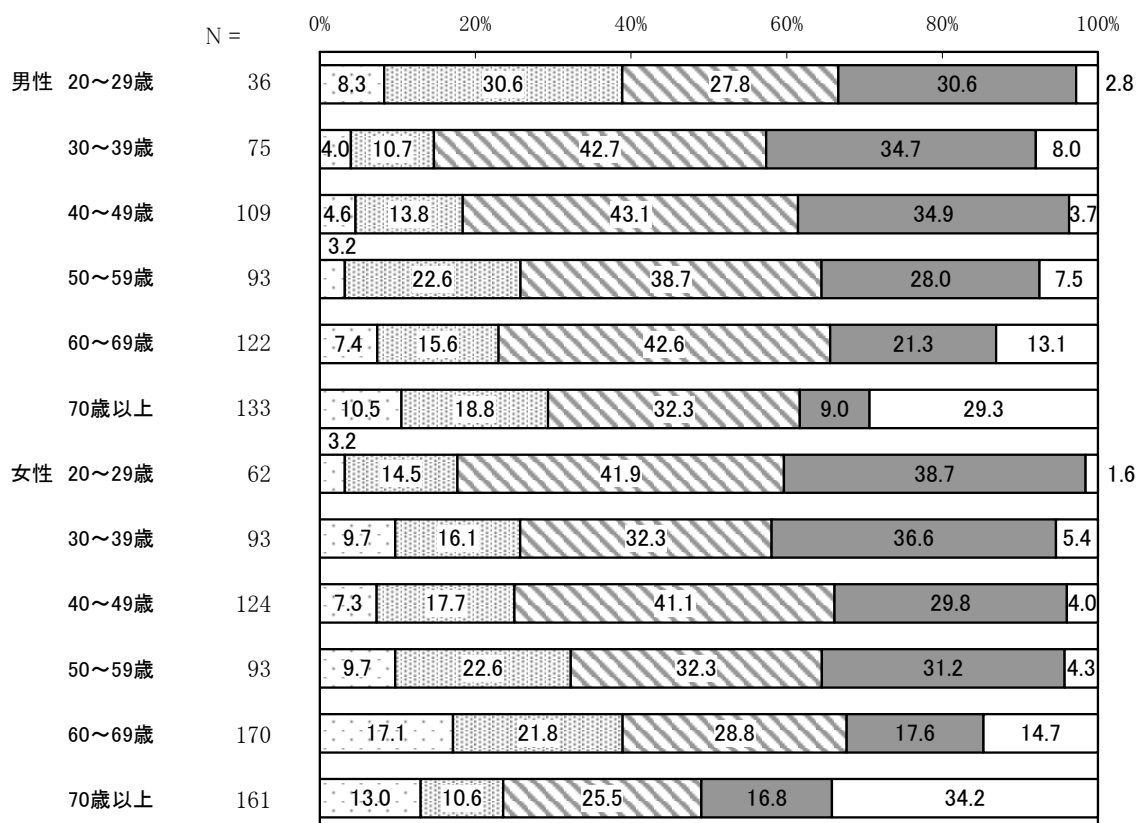
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

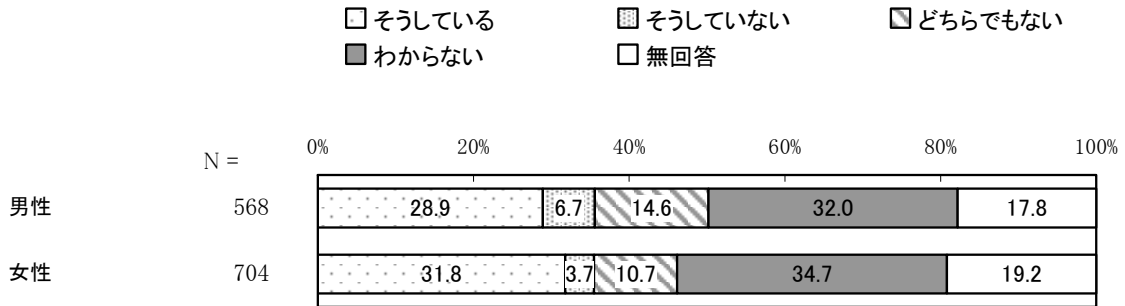
性・年齢別で見ると、女性の60～69歳で「当然だと思う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、50～59歳、女性の50～59歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、60～69歳、女性の20～29歳、40～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

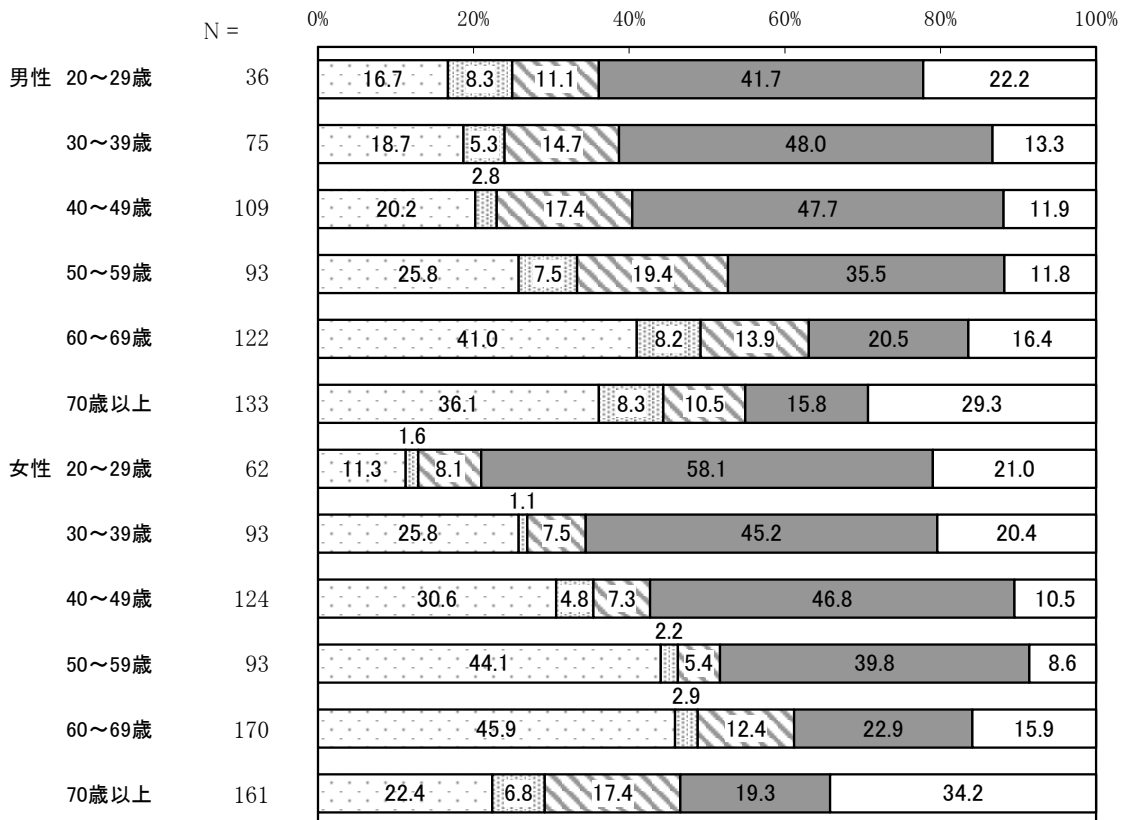
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の60歳以上、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の70歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

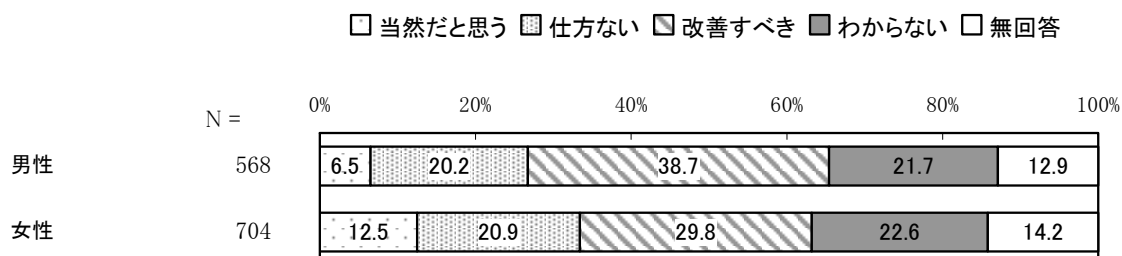


## ② 地域活動は男性が取り仕切る

### (1) 意識

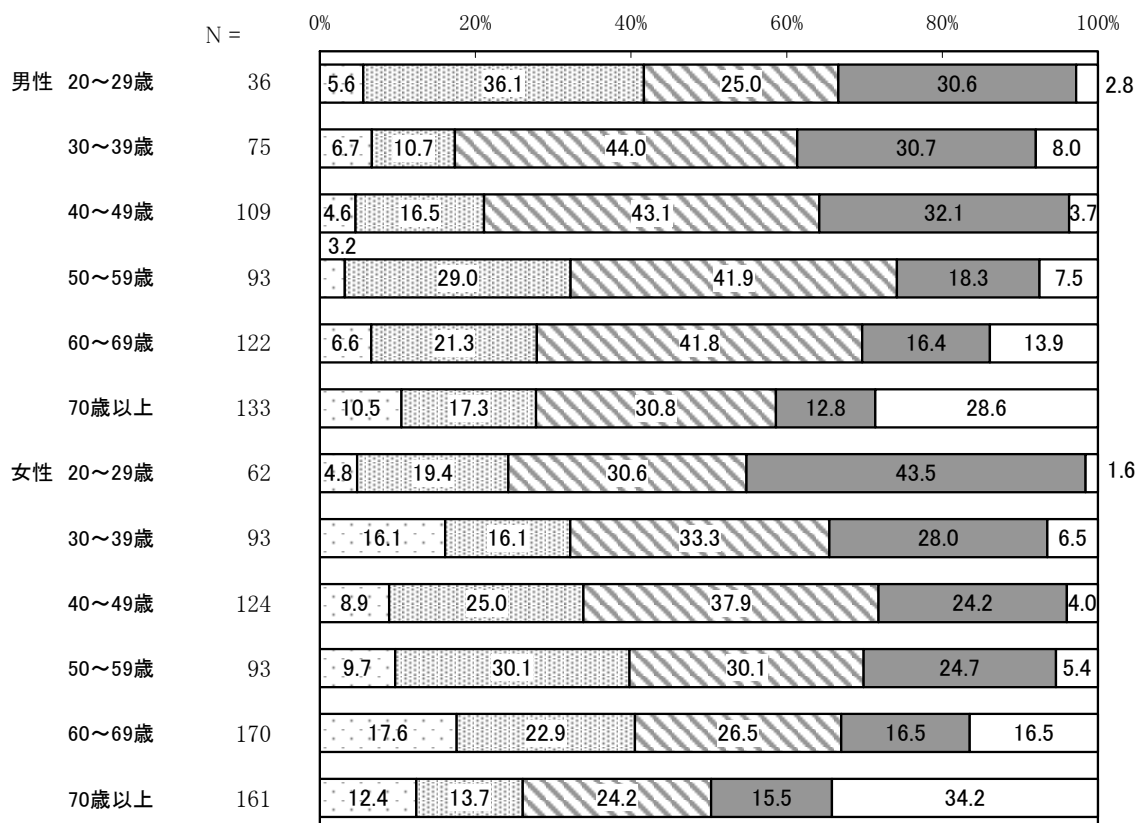
#### 【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「当然だと思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



#### 【性・年齢別】

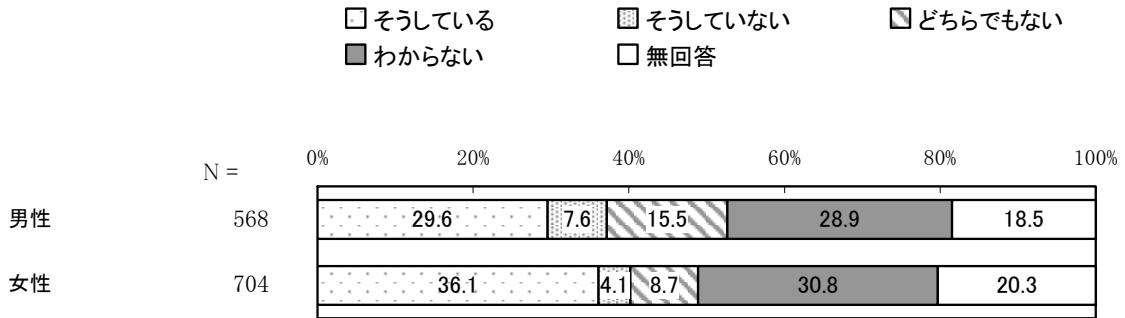
性・年齢別で見ると、女性の30～39歳、60～69歳で「当然だと思う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、50～59歳、女性の50～59歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の30～69歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

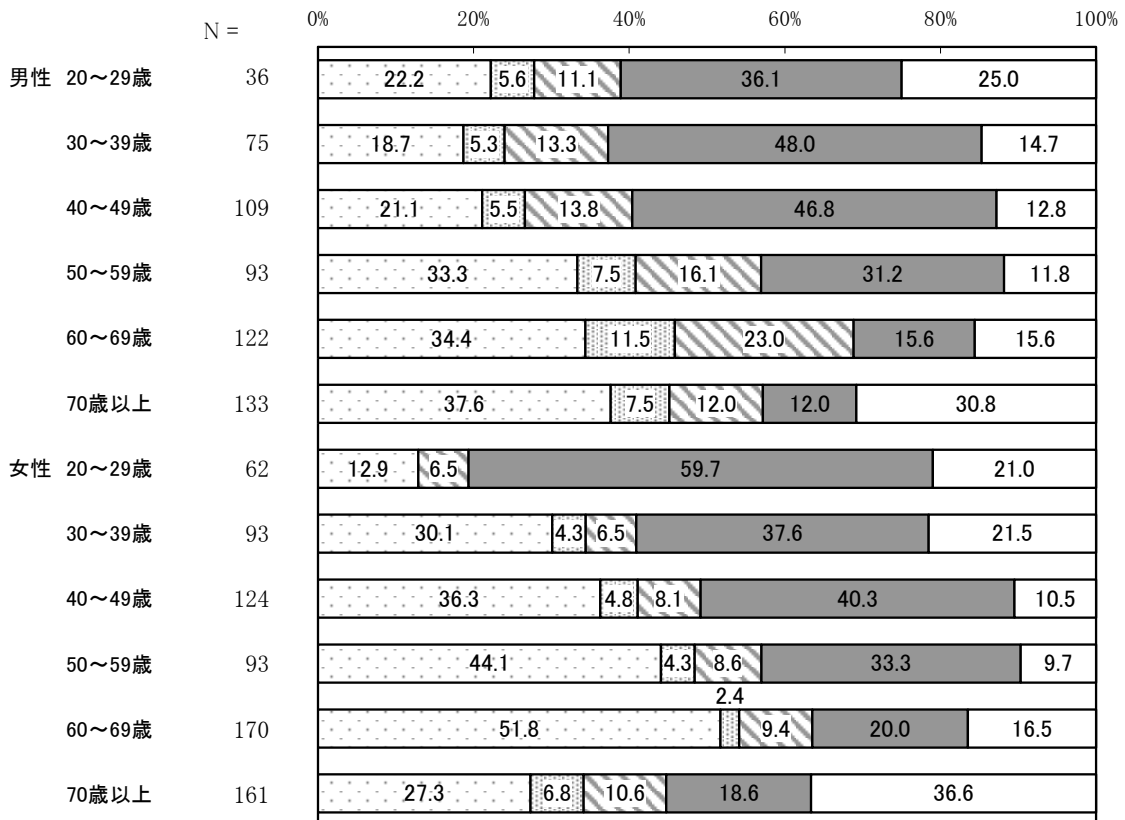
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の 50～69 歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の 60～69 歳で「そうしていない」「どちらでもない」の割合が高くなっています。

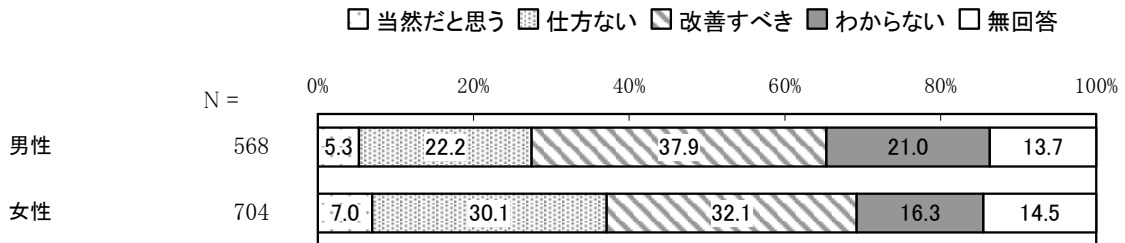


③ 自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている

(1) 意識

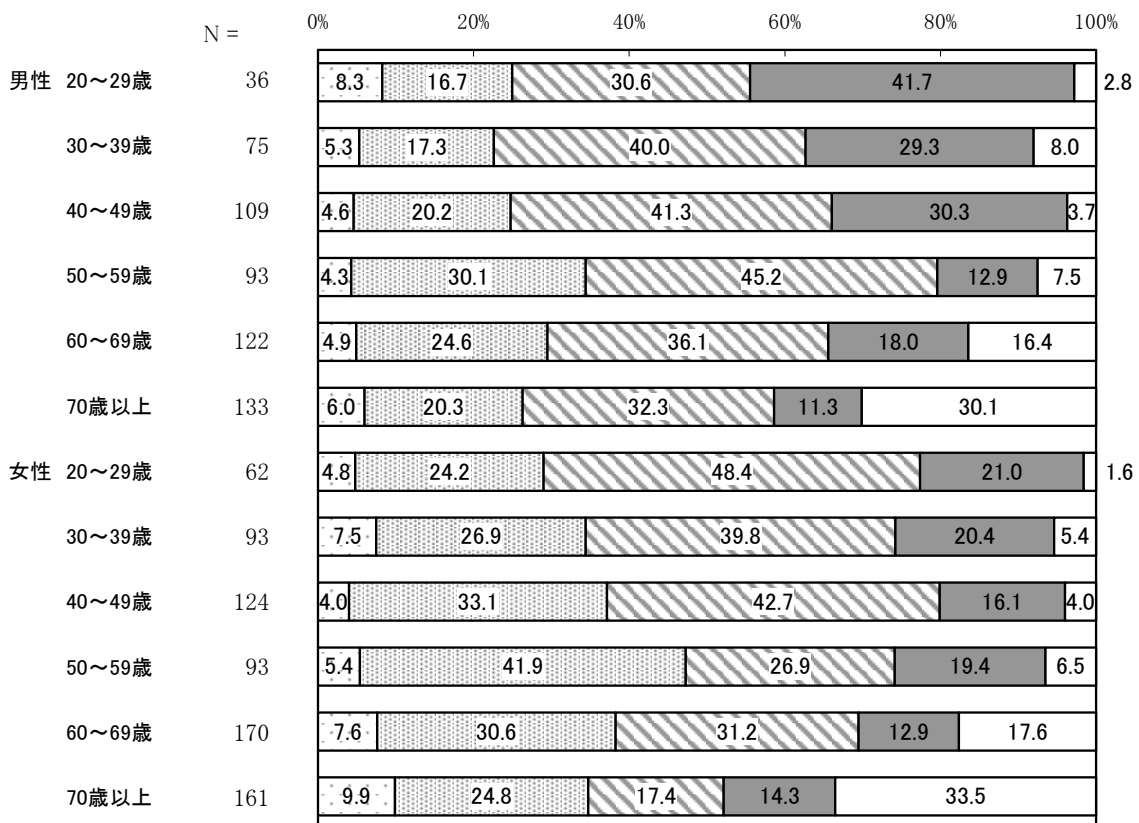
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「仕方ない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

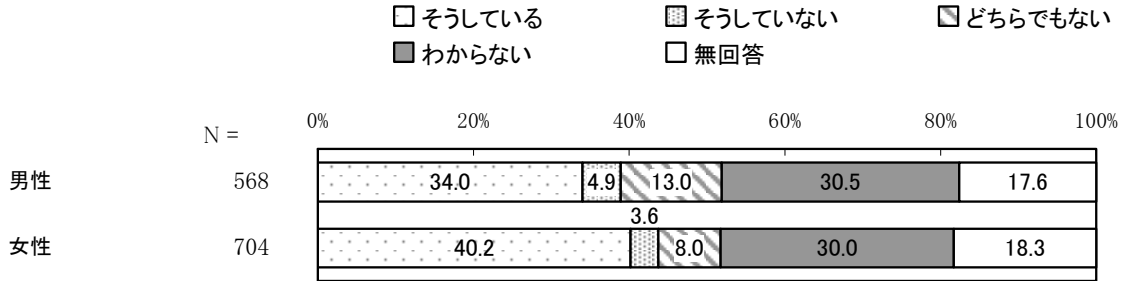
性・年齢別でみると、女性の40～59歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

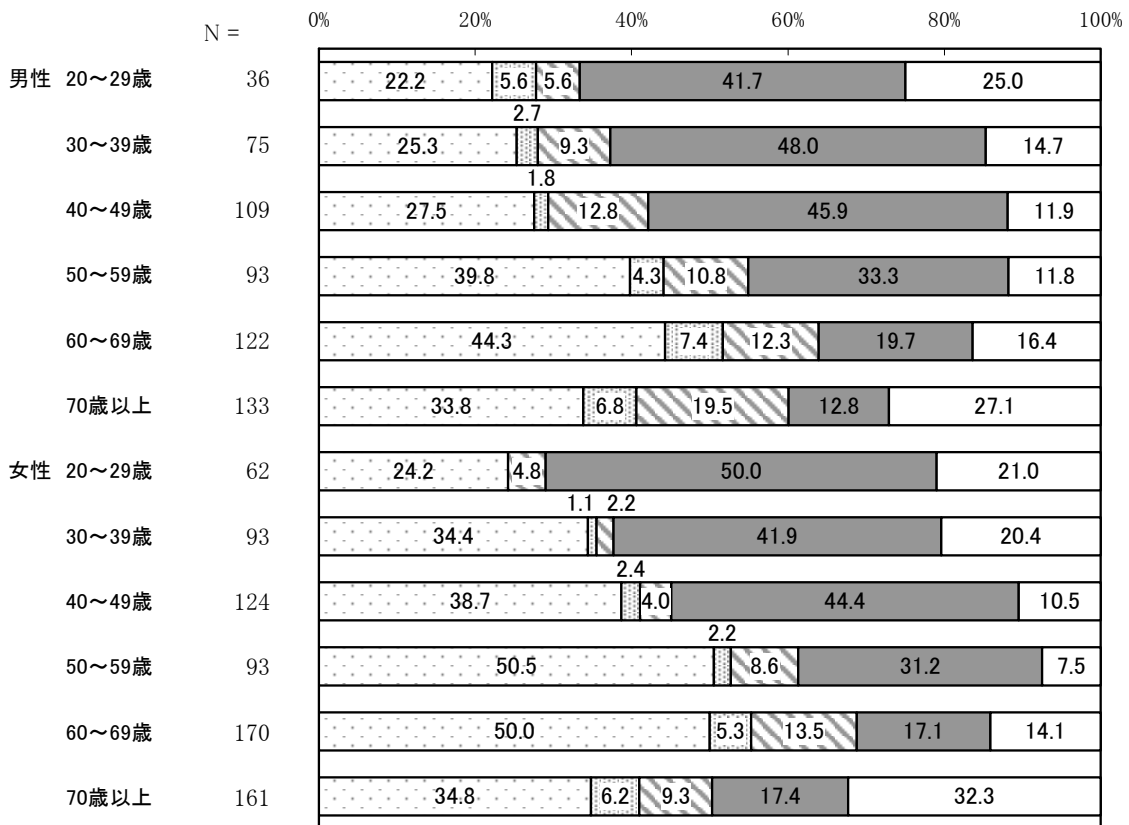
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の60～69歳、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



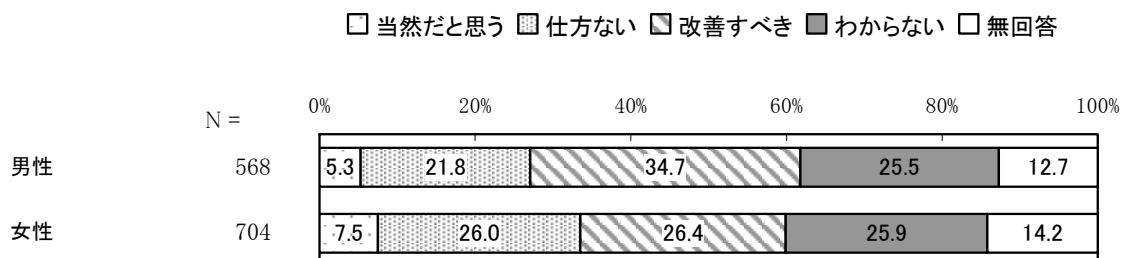


#### ④ 女性は役職につきたがらない

##### (1) 意識

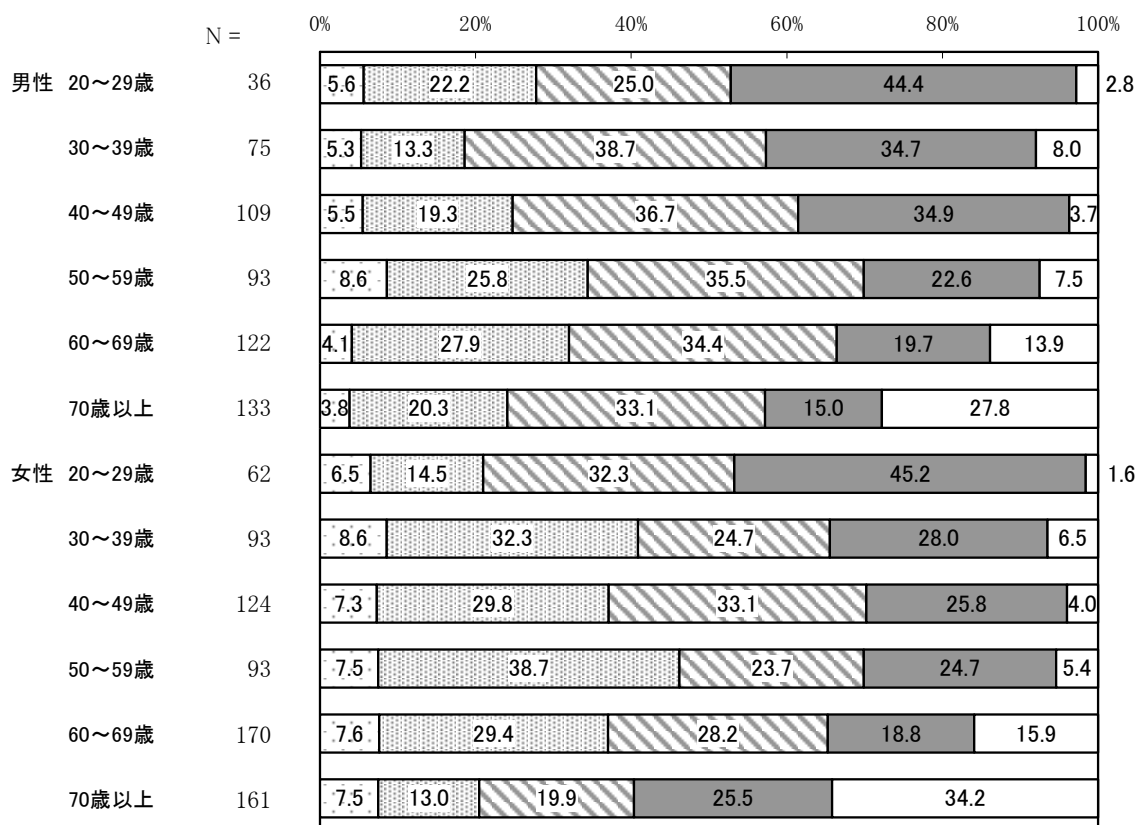
##### 【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



##### 【性・年齢別】

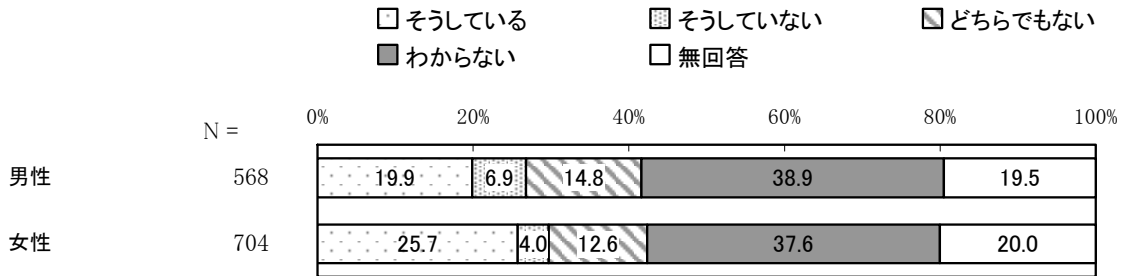
性・年齢別で見ると、女性の30～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の30～59歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

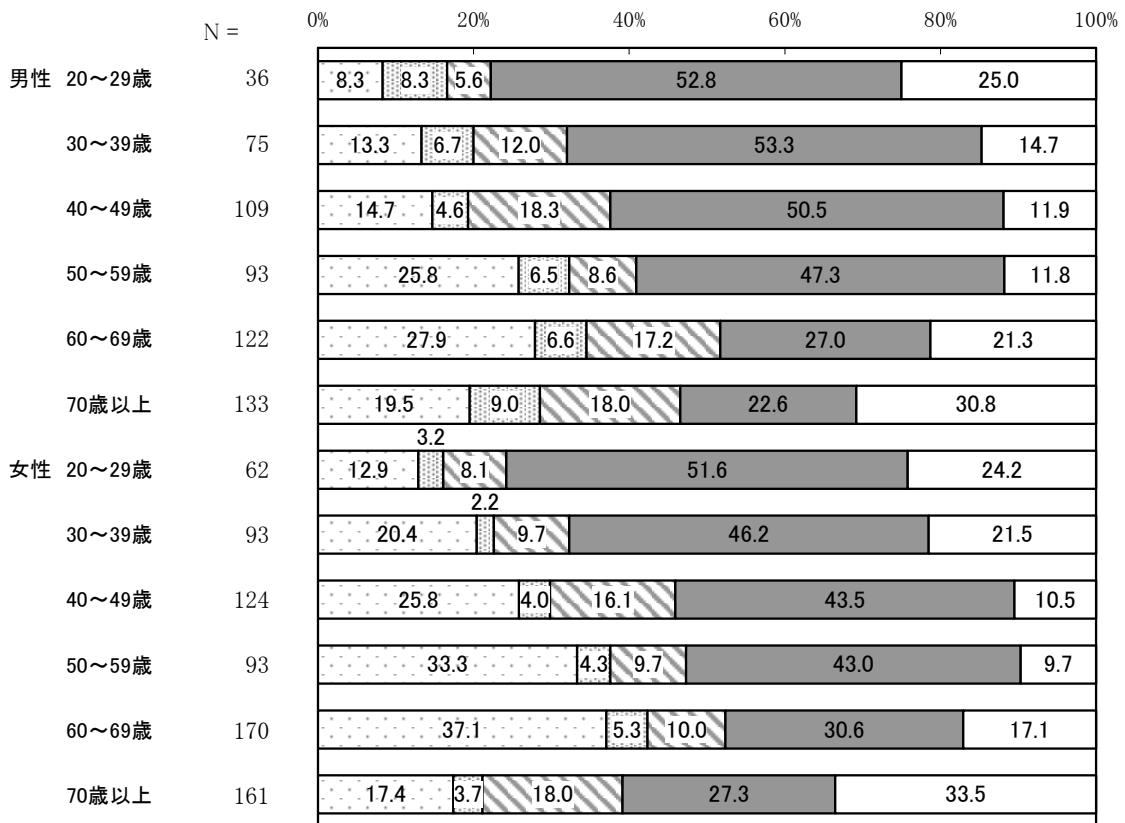
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。

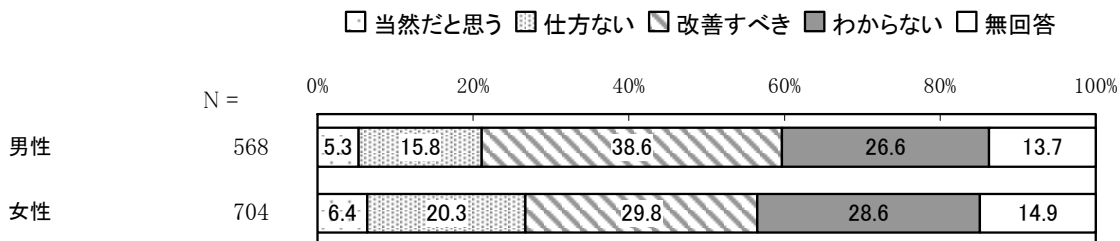


⑤ 自治区の集会では、男性が上座に座る

(1) 意識

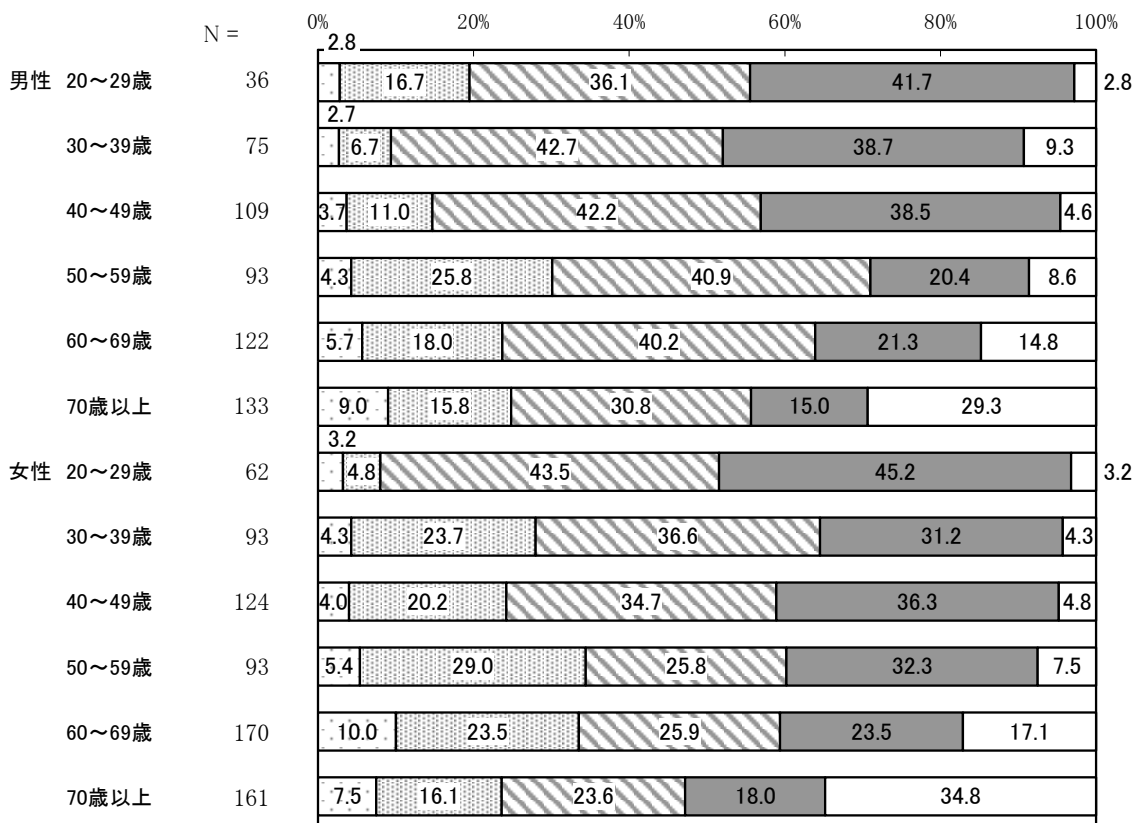
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

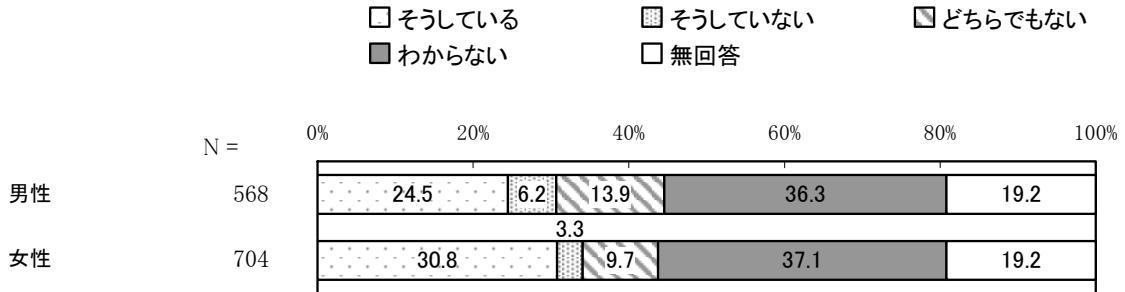
性・年齢別でみると、男性の50～59歳、女性の30～39歳、50～69歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の30～69歳、女性の20～29歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

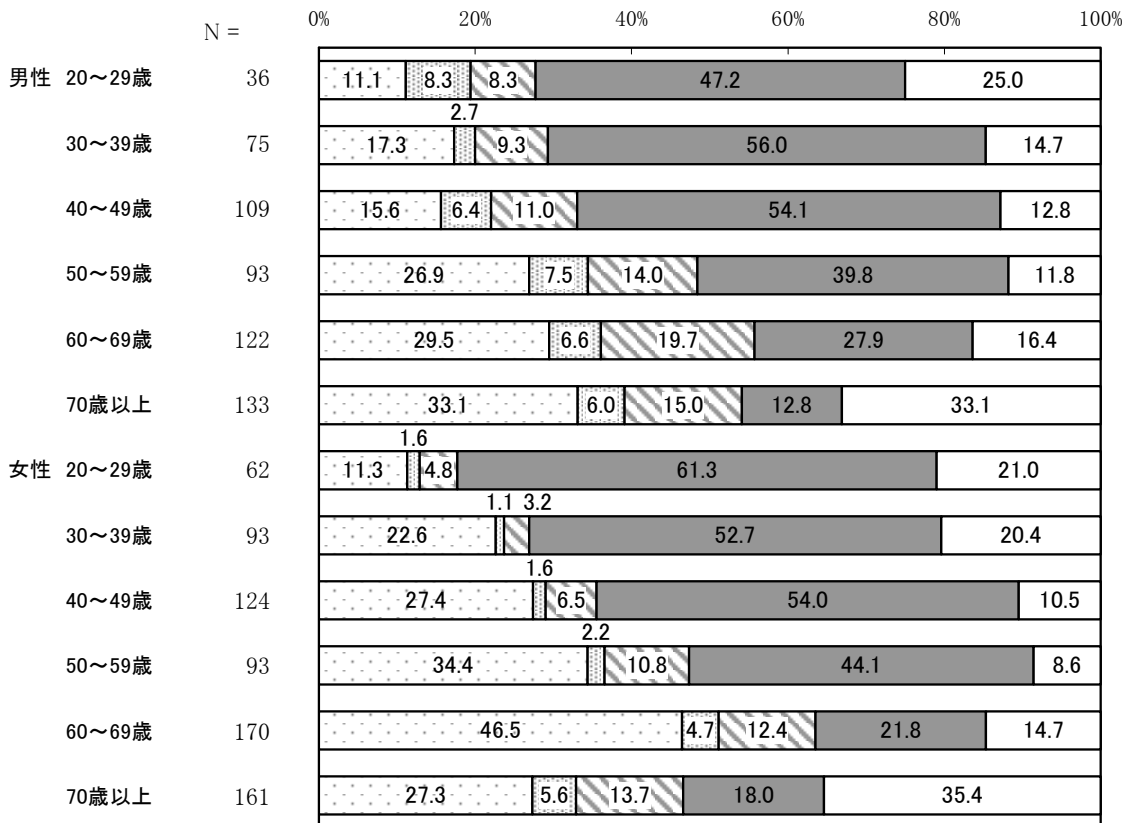
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の70歳以上、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

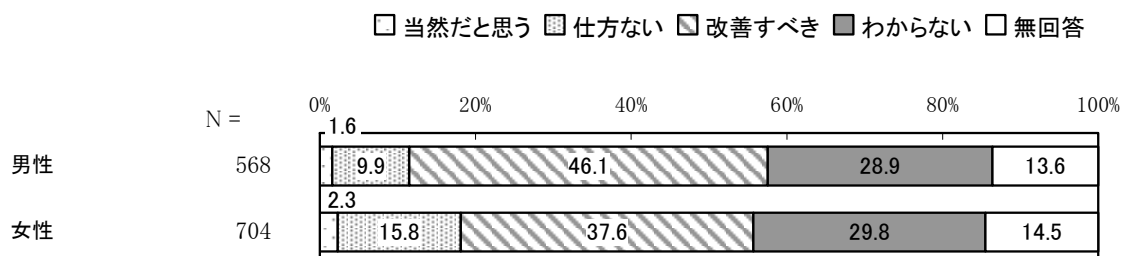


## ⑥ 女性が発言することは少ない

### (1) 意識

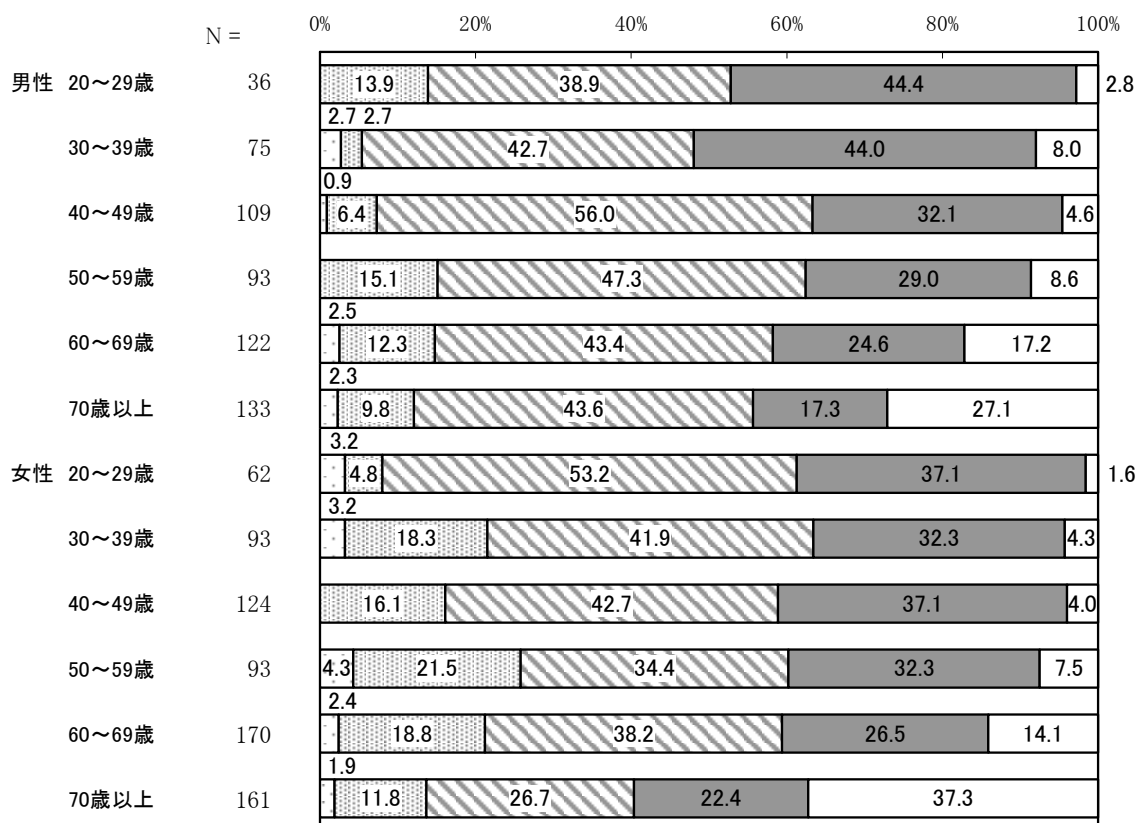
#### 【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「仕方ない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



#### 【性・年齢別】

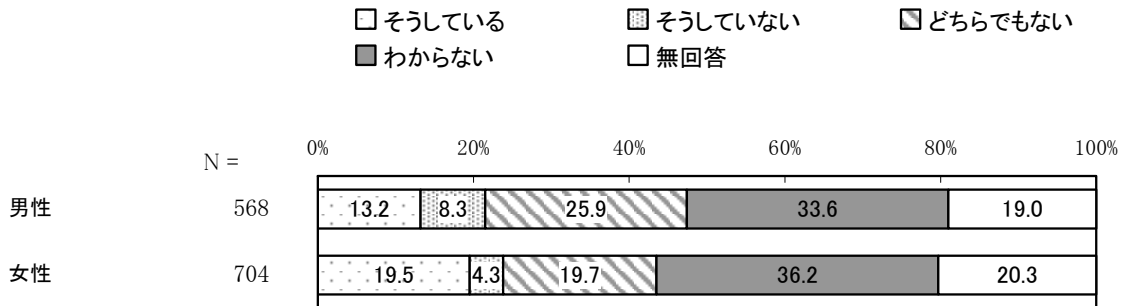
性・年齢別でみると、女性の30～39歳、50～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の20～29歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

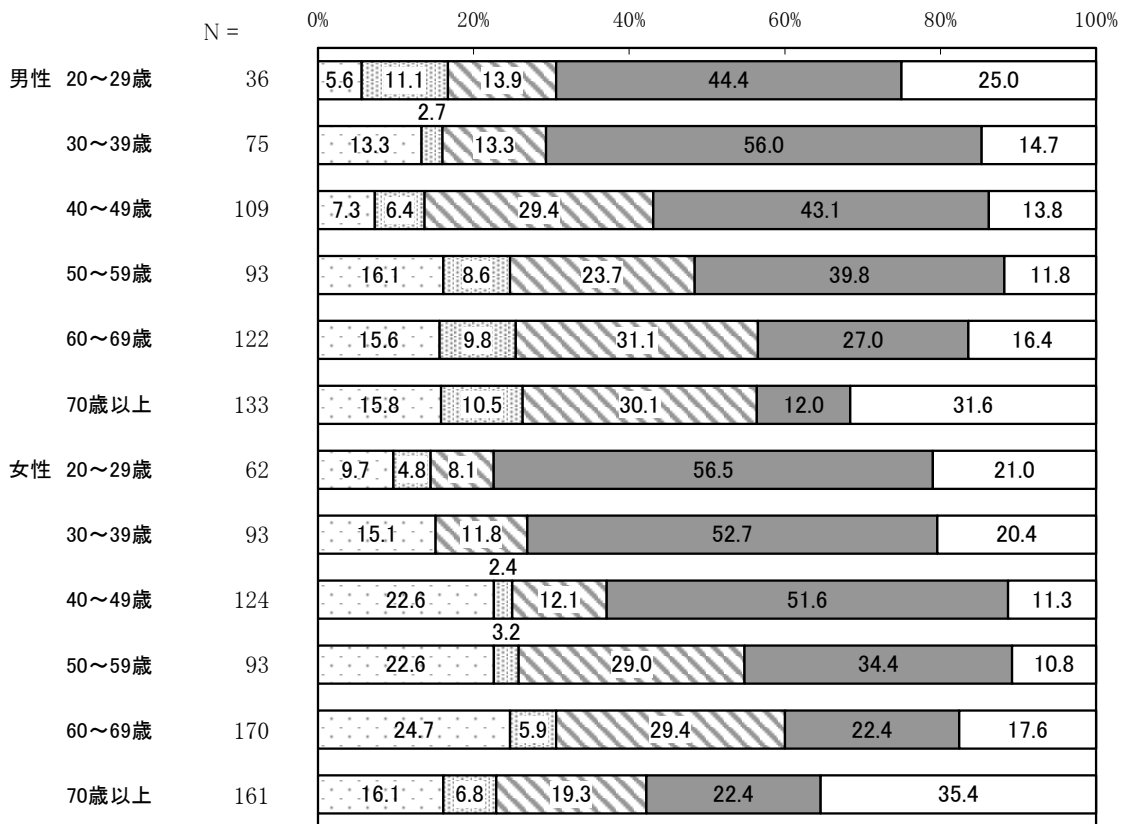
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「そうしていない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60歳以上、女性の50～69歳で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

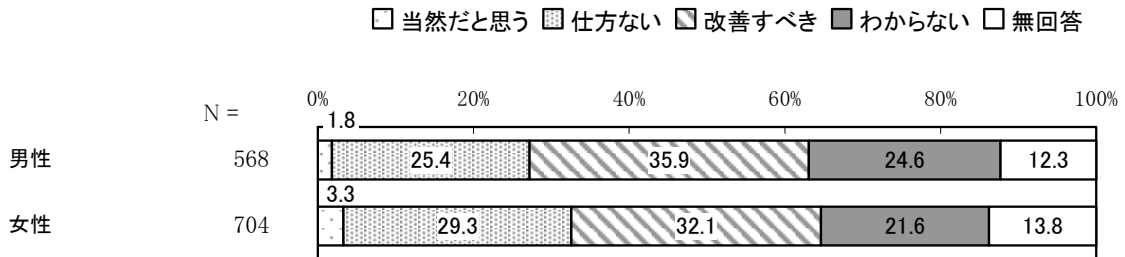


⑦ 自治区の組長などの登録は男性（夫）だが、実際は女性（妻）が出席することが多い

(1) 意識

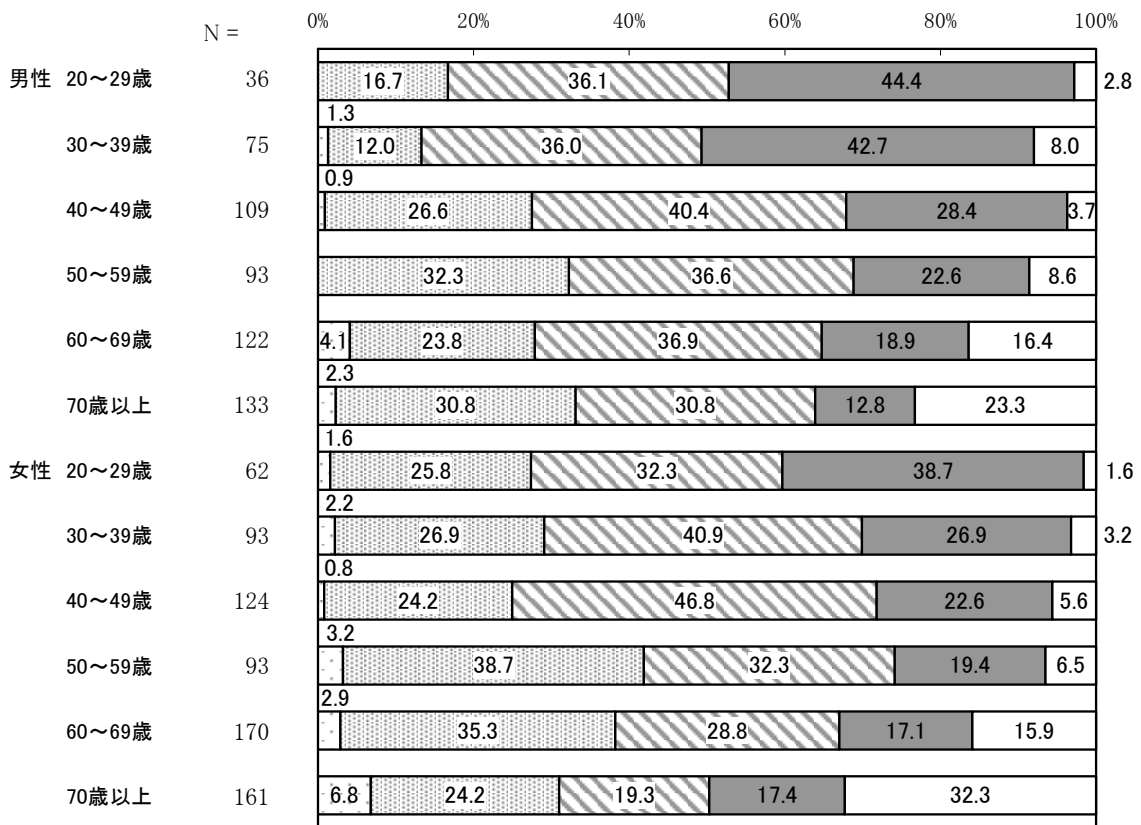
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

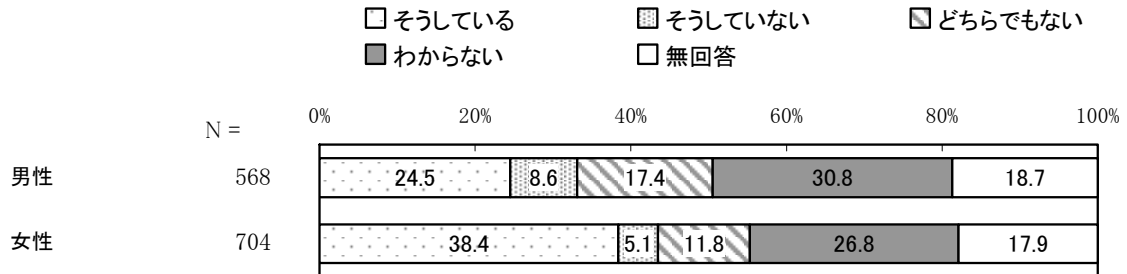
性・年齢別でみると、男性の50～59歳、女性の50～69歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の30～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

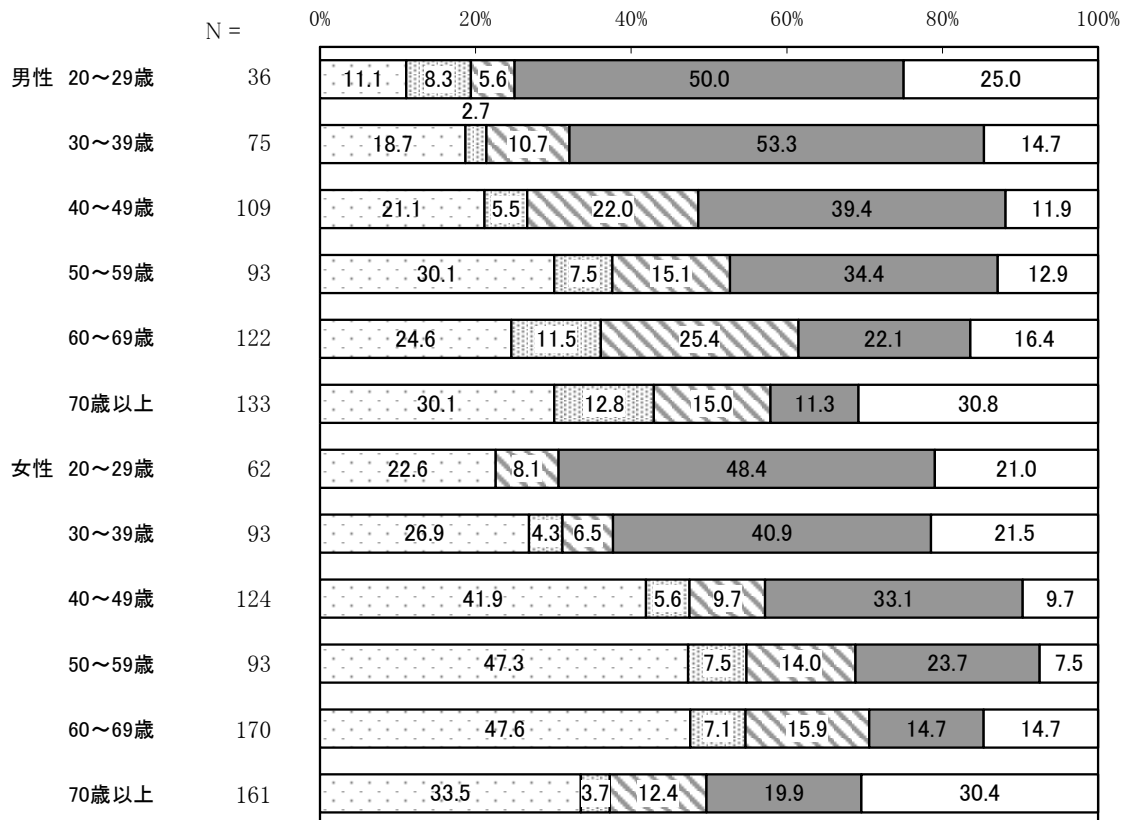
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。また、男性の40～49歳、60～69歳で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



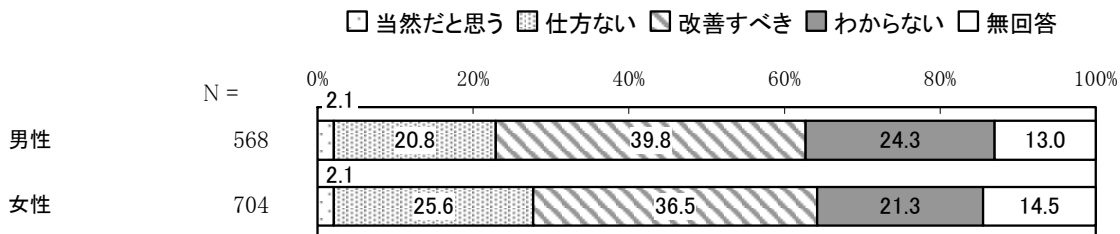


⑧ 実質的な活動はほとんど女性が参加する

(1) 意識

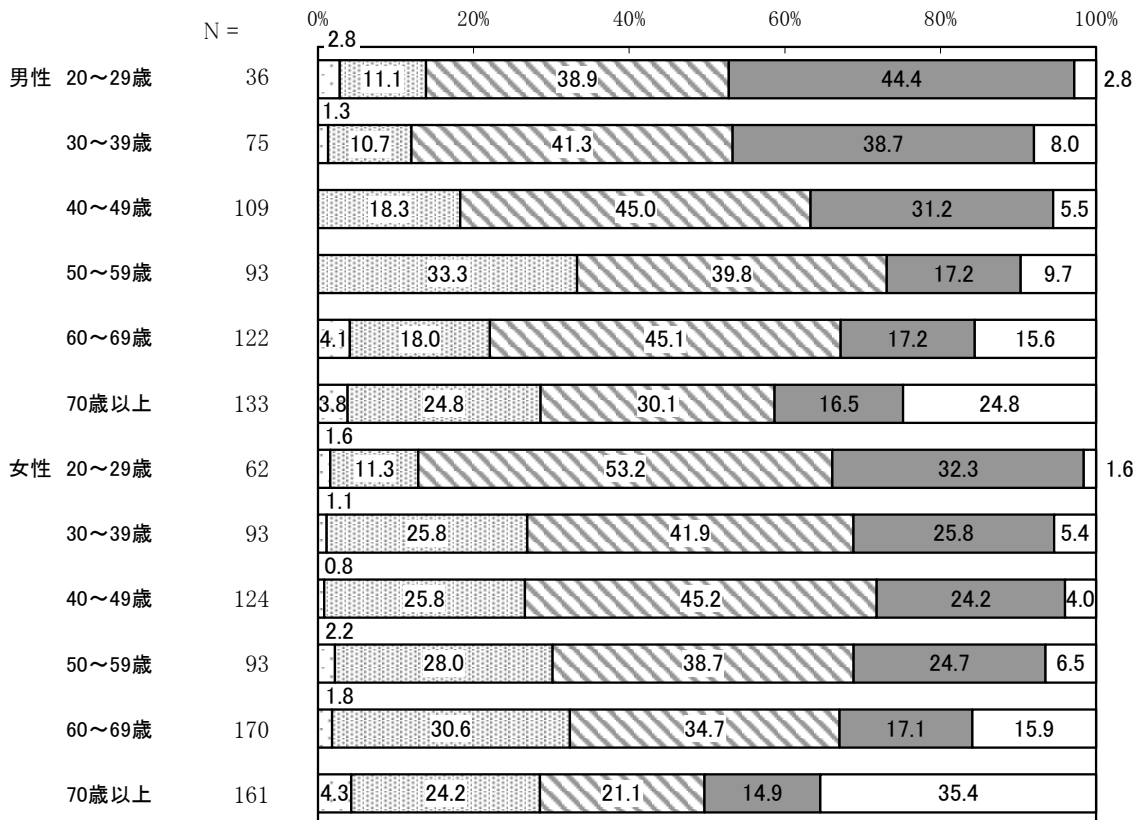
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

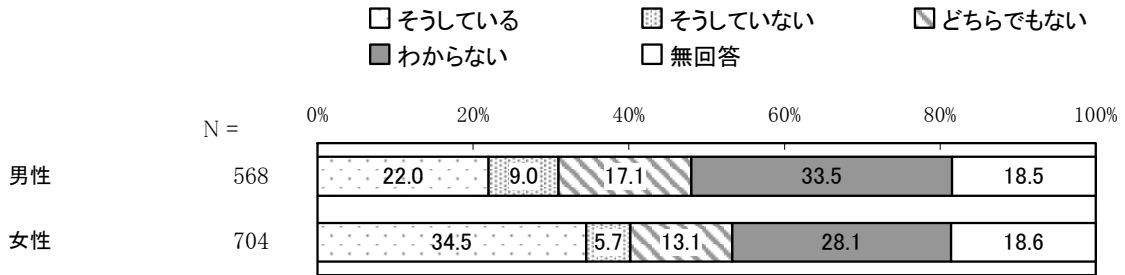
性・年齢別で見ると、男性の50～59歳、女性の60～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳、女性の20～29歳、40～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

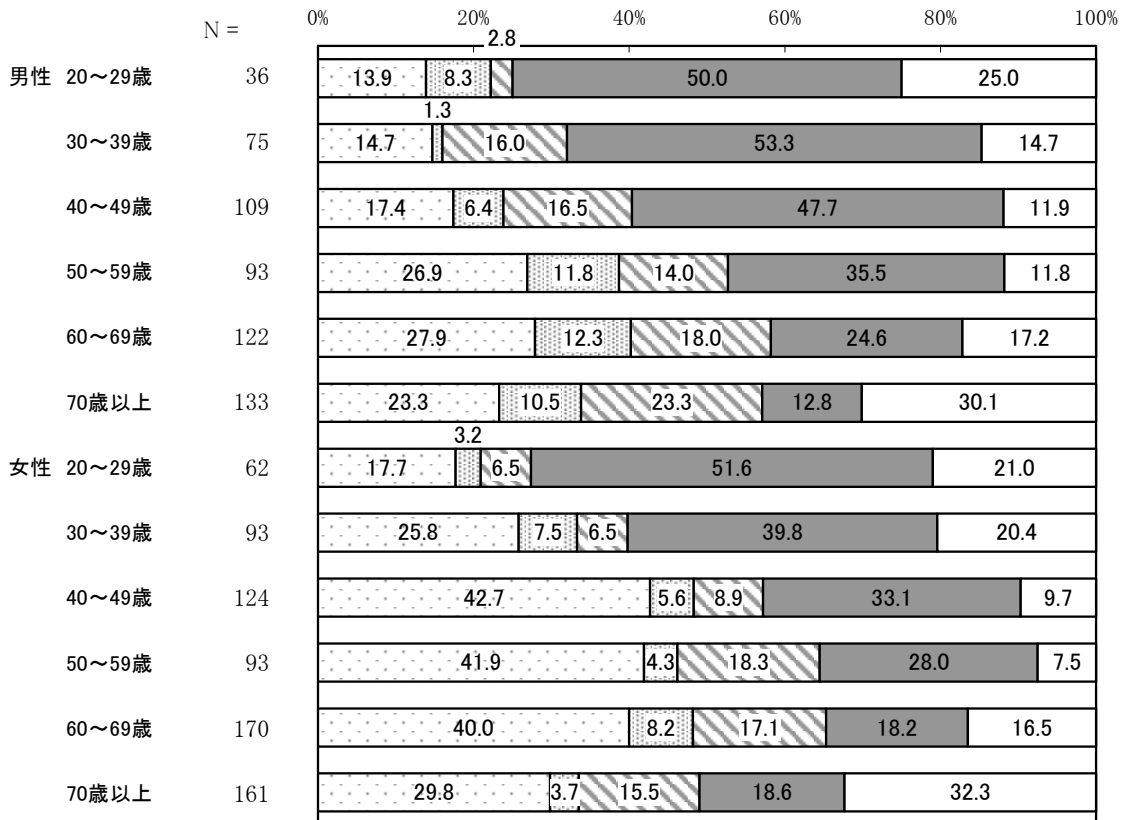
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



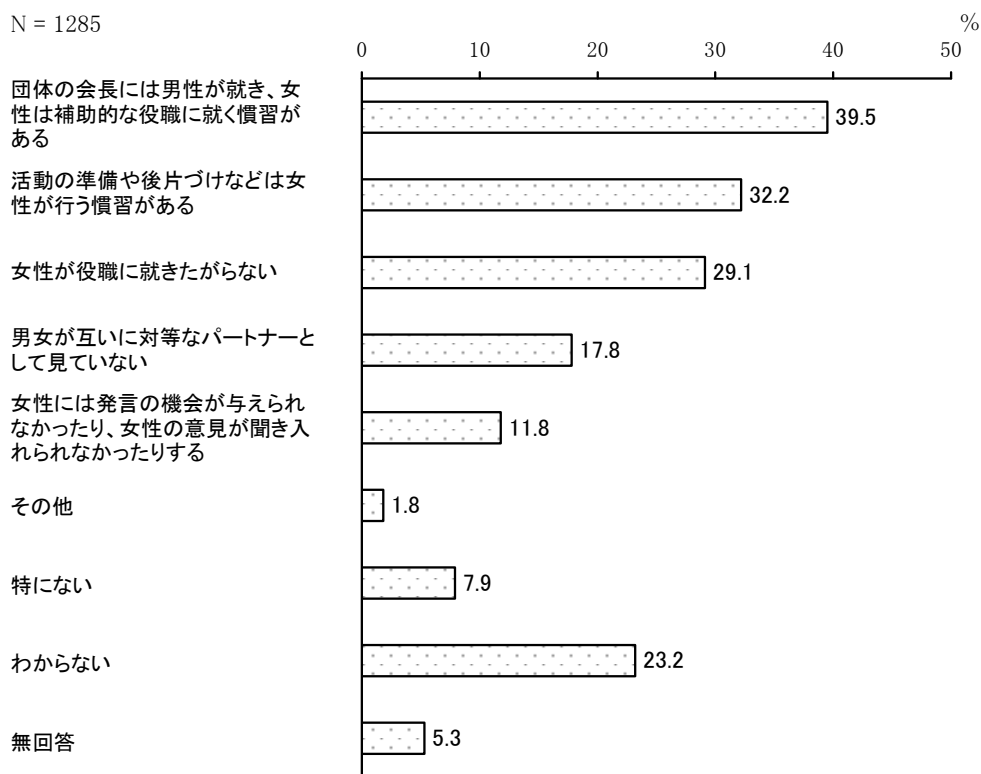
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「そうしていない」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



問6. あなたが、地域活動における男女の役割分担などに差があると考えられることは何ですか。(〇印いくつでも)

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある」の割合が39.5%と最も高く、次いで「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が32.2%、「女性が役職に就きたがらない」の割合が29.1%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が互いに対等なパートナーとして見ていない	女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の意見が聞き入れられなかったりする	女性が役職に就きたがらない	団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある	活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	18.7	11.3	29.6	39.4	26.9	1.4	8.5	23.1	4.8
女性	704	17.5	12.4	28.6	39.6	36.9	2.1	7.4	23.6	5.3

## 【性・年齢別】

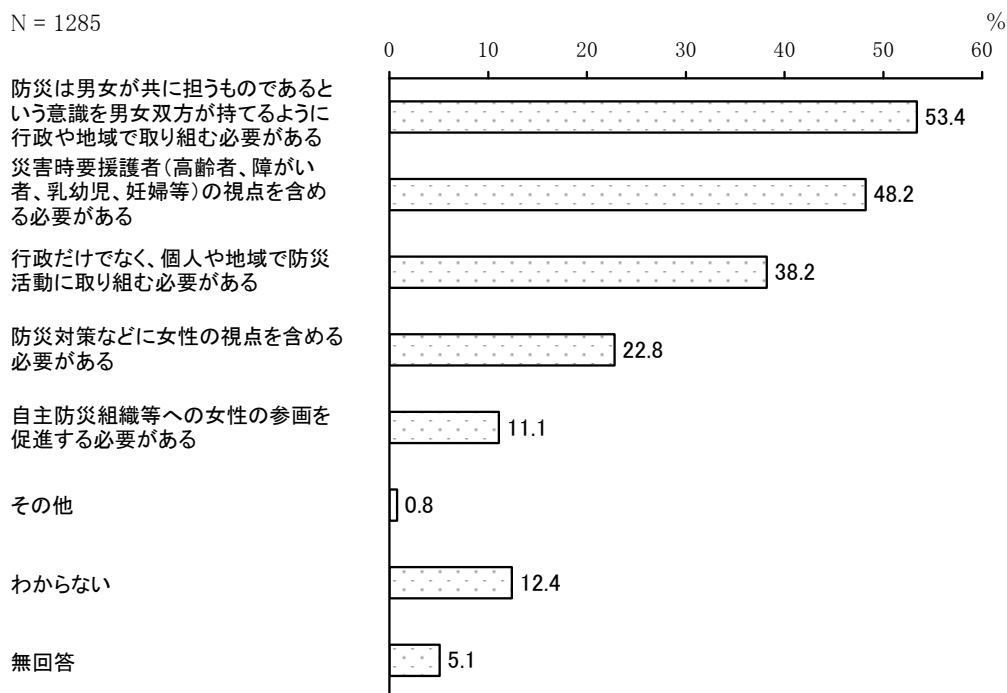
性・年齢別で見ると、男女ともに 20～29 歳で「男女が互いに対等なパートナーとして見ていない」「女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の意見が聞き入れられなかったりする」の割合が高くなっています。男女ともに 60～69 歳で「女性が役職に就きたがらない」の割合が高くなっています。男性の 50～59 歳、70 歳以上、女性の 50～69 歳で「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある」の割合が高くなっています。女性の 30～49 歳で「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女が互いに対等なパートナーとして見ていない	女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の意見が聞き入れられなかったりする	女性が役職に就きたがらない	団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある	活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～29 歳	36	25.0	25.0	16.7	30.6	25.0	—	2.8	36.1	—
30～39 歳	75	12.0	13.3	20.0	37.3	29.3	2.7	10.7	28.0	2.7
40～49 歳	109	15.6	6.4	23.9	24.8	20.2	3.7	10.1	36.7	1.8
50～59 歳	93	20.4	10.8	32.3	45.2	24.7	1.1	5.4	18.3	4.3
60～69 歳	122	19.7	9.8	41.8	39.3	25.4	—	9.0	19.7	6.6
70 歳以上	133	21.1	12.0	30.1	51.1	34.6	0.8	9.0	12.0	8.3
女性 20～29 歳	62	25.8	22.6	24.2	24.2	37.1	3.2	8.1	32.3	—
30～39 歳	93	21.5	15.1	21.5	39.8	46.2	4.3	4.3	22.6	4.3
40～49 歳	124	20.2	14.5	29.8	37.1	44.4	2.4	6.5	26.6	3.2
50～59 歳	93	18.3	10.8	19.4	45.2	30.1	1.1	8.6	23.7	3.2
60～69 歳	170	15.3	8.2	39.4	47.1	37.1	2.4	9.4	18.8	5.3
70 歳以上	161	11.8	10.6	27.3	36.0	29.8	0.6	6.8	23.6	10.6

問7. 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（○印3つまで）

「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が53.4%と最も高く、次いで「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」の割合が48.2%、「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が38.2%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある	その他	わからない	無回答
男性	568	55.6	25.7	45.8	16.2	36.4	1.1	11.1	5.1
女性	704	51.6	20.6	50.1	7.1	39.6	0.6	13.5	4.8

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の70歳以上、女性の60～69歳で「防災は男女が共に担うものである」という意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、50～69歳で「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、60～69歳で「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」の割合が高くなっています。男性の60歳以上で「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の50歳以上で「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が高くなっています。

単位：％

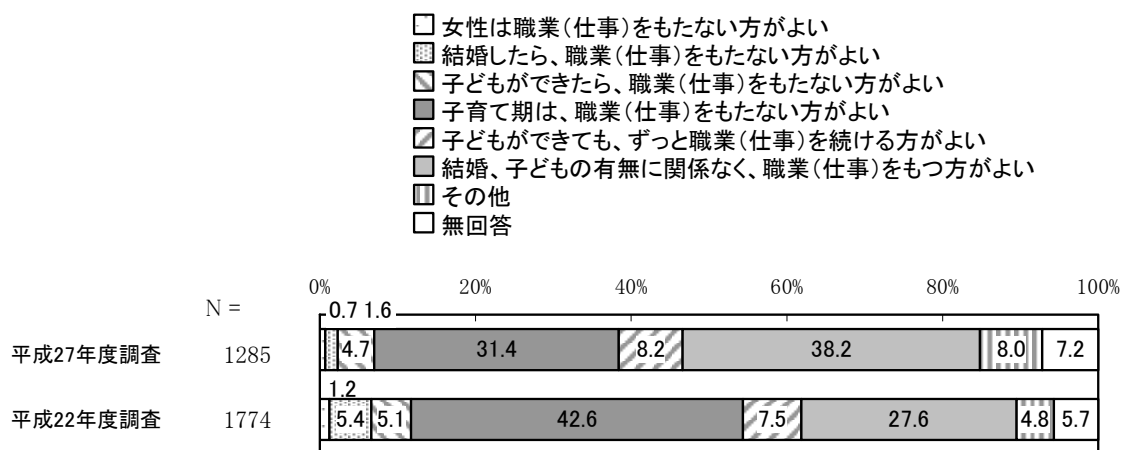
区分	有効回答数（件）	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	44.4	11.1	47.2	13.9	22.2	—	22.2	5.6
30～39歳	75	44.0	34.7	46.7	13.3	30.7	—	17.3	2.7
40～49歳	109	54.1	20.2	41.3	9.2	27.5	2.8	15.6	2.8
50～59歳	93	51.6	29.0	46.2	14.0	32.3	1.1	9.7	7.5
60～69歳	122	56.6	28.7	47.5	20.5	41.8	1.6	9.0	3.3
70歳以上	133	68.4	24.1	46.6	21.8	48.9	—	3.8	8.3
女性 20～29歳	62	51.6	14.5	53.2	3.2	35.5	—	17.7	—
30～39歳	93	43.0	26.9	46.2	4.3	29.0	2.2	16.1	3.2
40～49歳	124	41.1	21.0	50.0	3.2	33.1	—	18.5	3.2
50～59歳	93	46.2	20.4	51.6	3.2	43.0	—	14.0	2.2
60～69歳	170	62.4	21.8	53.5	10.6	45.9	1.2	8.2	4.7
70歳以上	161	55.9	18.0	47.2	11.2	43.5	—	11.8	10.6

## (4) 職業生活について

### 問8. 女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。（○印1つ）

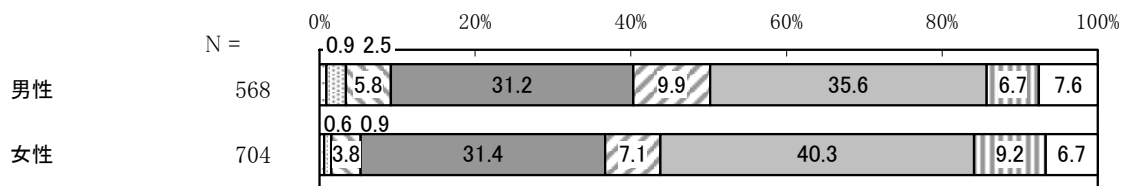
「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が38.2%と最も高く、次いで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が31.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が10.6ポイント増加しています。一方、「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が11.2ポイント減少しています。



### 【性別】

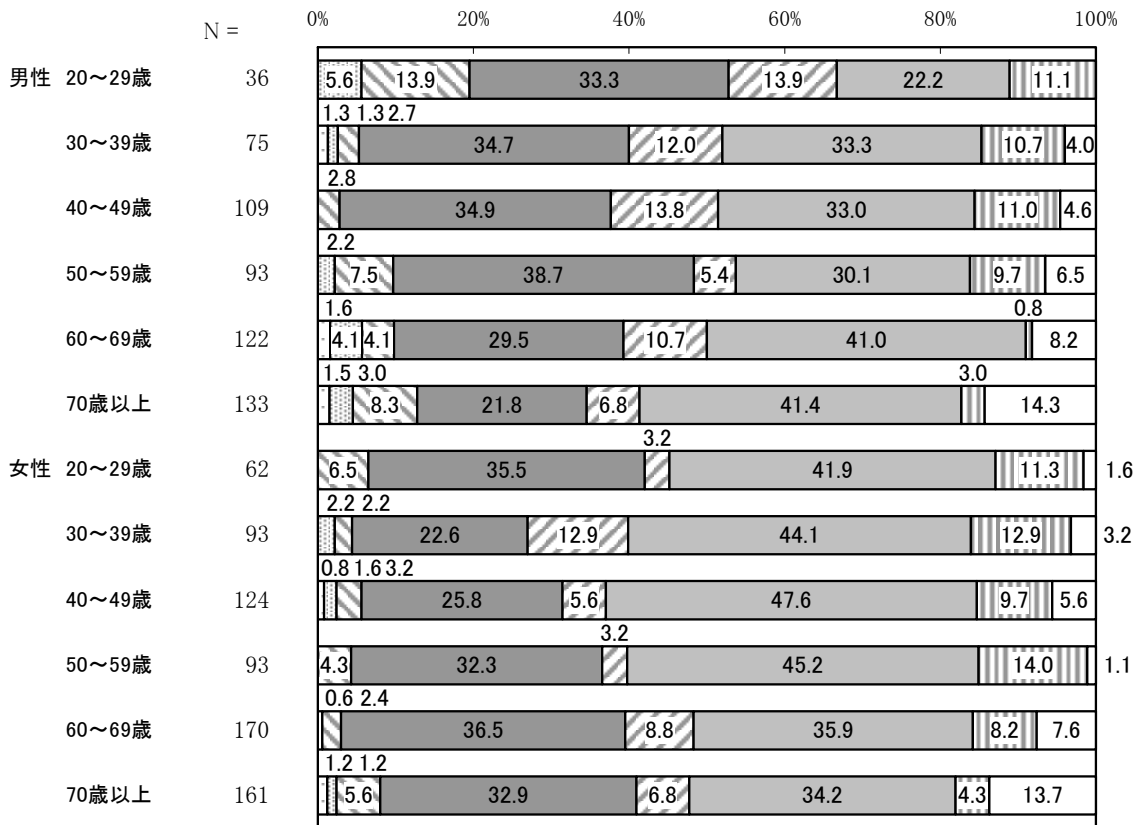
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳で「子どもができたら、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。男性の50～59歳、女性の60～69歳で「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」の割合が高くなっています。女性の30～59歳で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

- 女性は職業（仕事）をもたない方がよい
- ▨ 結婚したら、職業（仕事）をもたない方がよい
- ▩ 子どもができたら、職業（仕事）をもたない方がよい
- 子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい
- ▧ 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい
- ▦ 結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい
- ▤ その他
- 無回答

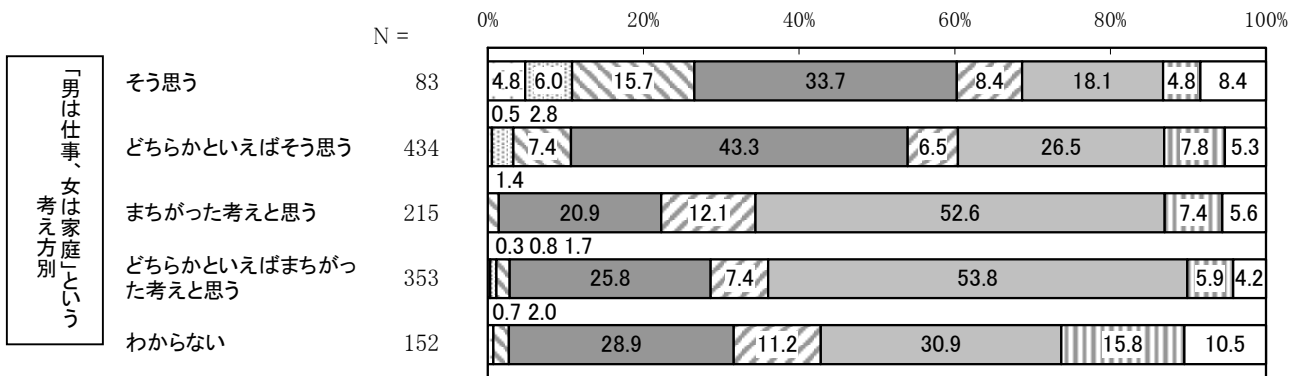




【性別役割分担意識別】

性別役割分担意識別でみると、そう思うで「子どもができれば、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。どちらかといえばそう思うで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。また、まちがった考えと思う、どちらかといえばまちがった考えと思うで「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

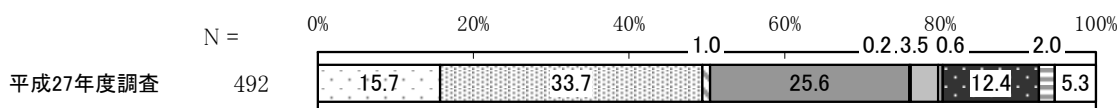
- 女性は無職業(仕事)をもたない方がよい
- ▨ 結婚したら、職業(仕事)をもたない方がよい
- ▩ 子どもができれば、職業(仕事)をもたない方がよい
- 子育て期は、職業(仕事)をもたない方がよい
- ▧ 子どもができて、ずっと職業(仕事)を続ける方がよい
- ▦ 結婚、子どもの有無に関係なく、職業(仕事)をもつ方がよい
- その他
- 無回答



問9. (問8で1~4仕事を持たない方がよいと回答した方に)  
**職業(仕事)をもたない方がよいと考える理由は何ですか。(○印1つ)**

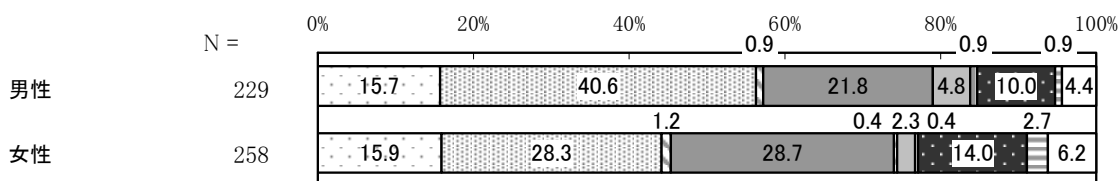
「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が33.7%と最も高く、次いで「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)」の割合が25.6%、「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」の割合が15.7%となっています。

- 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから
- 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- 仕事をするについて家族の理解が得られないと思うから
- 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)
- 経済的に働く必要性がない
- パートナーの勤務形態(夜勤・変則勤務)により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- 自分の親や周囲の人がそうしているから
- その他
- 特に考えたことはない
- 無回答



**【性別】**

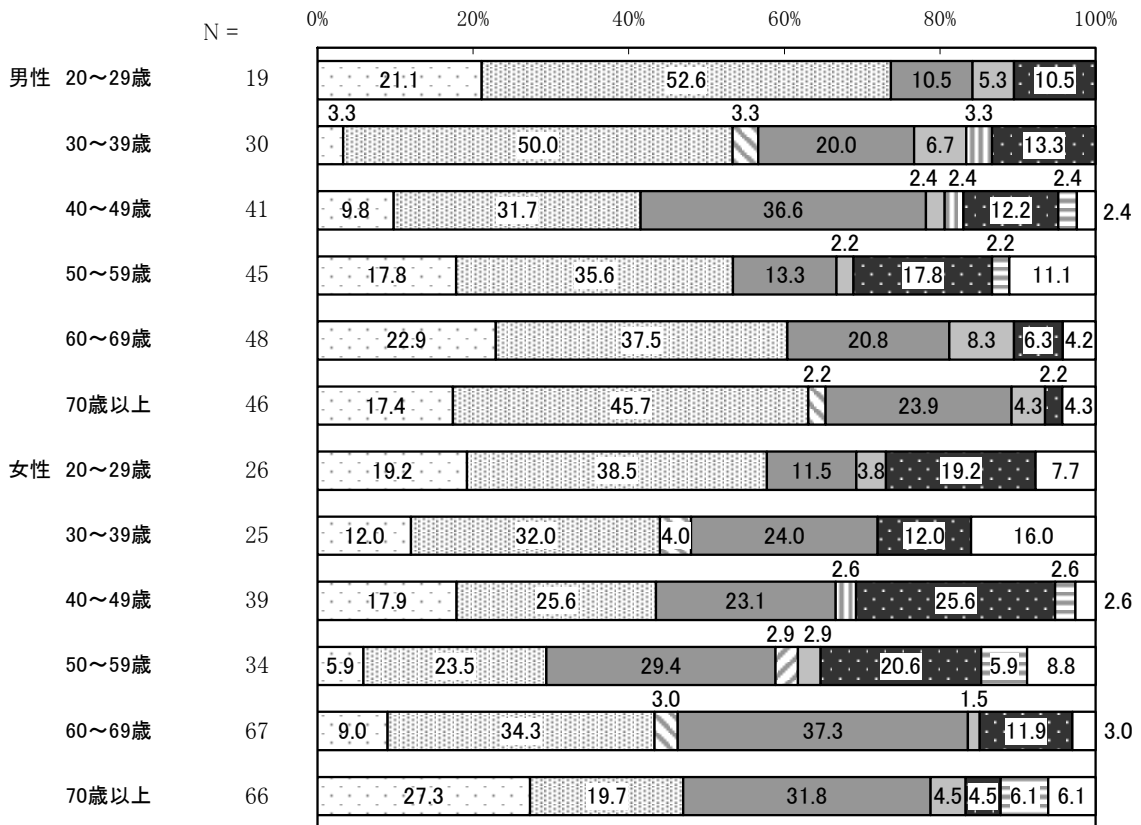
性別でみると、女性に比べ男性で「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、60～69歳、女性の70歳以上で「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、70歳以上で「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の60歳以上で「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など）」の割合が高くなっています。

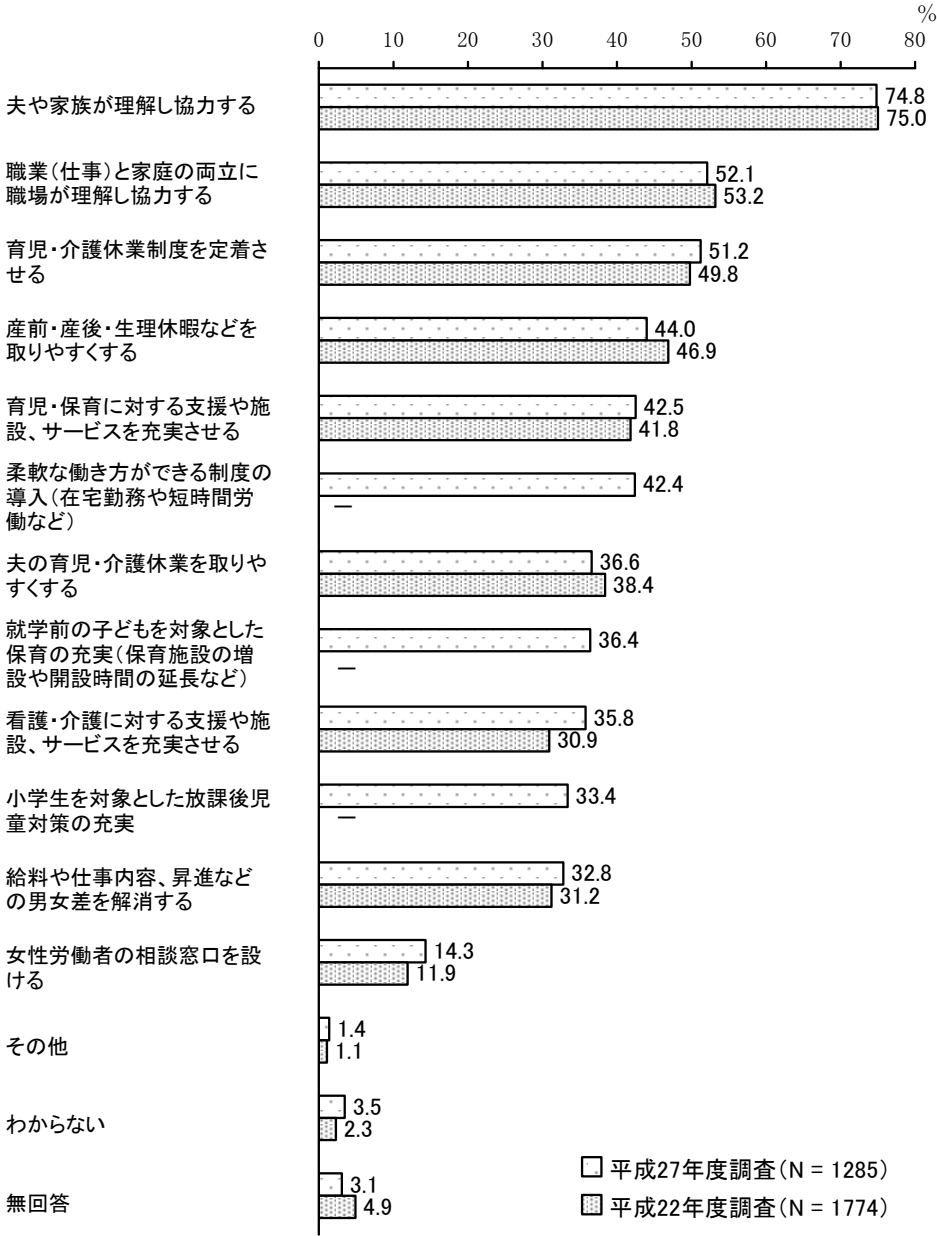
- 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから
- 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- 仕事をするということについて家族の理解が得られないと思うから
- 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など）
- 経済的に働く必要性がない
- パートナーの勤務形態（夜勤・変則勤務）により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- 自分の親や周囲の人がそうしているから
- その他
- 特に考えたことはない
- 無回答



問 10. 女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「夫や家族が理解し協力する」の割合が74.8%と最も高く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が52.1%、「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が51.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「夫や家族が理解し協力する」「育児・介護休業制度を定着させる」「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる」「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」「小学生を対象とした放課後児童対策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	夫の育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者の相談窓口を設ける	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした放課後児童対策の充実	その他	わからない	無回答
男性	568	69.7	47.4	32.7	46.1	40.7	35.0	42.6	30.6	13.0	35.9	31.0	26.4	1.2	4.8	3.3
女性	704	79.0	54.4	33.1	57.0	46.6	38.1	42.5	39.9	15.5	48.2	40.8	39.3	1.4	2.4	2.8

【性・年齢別】

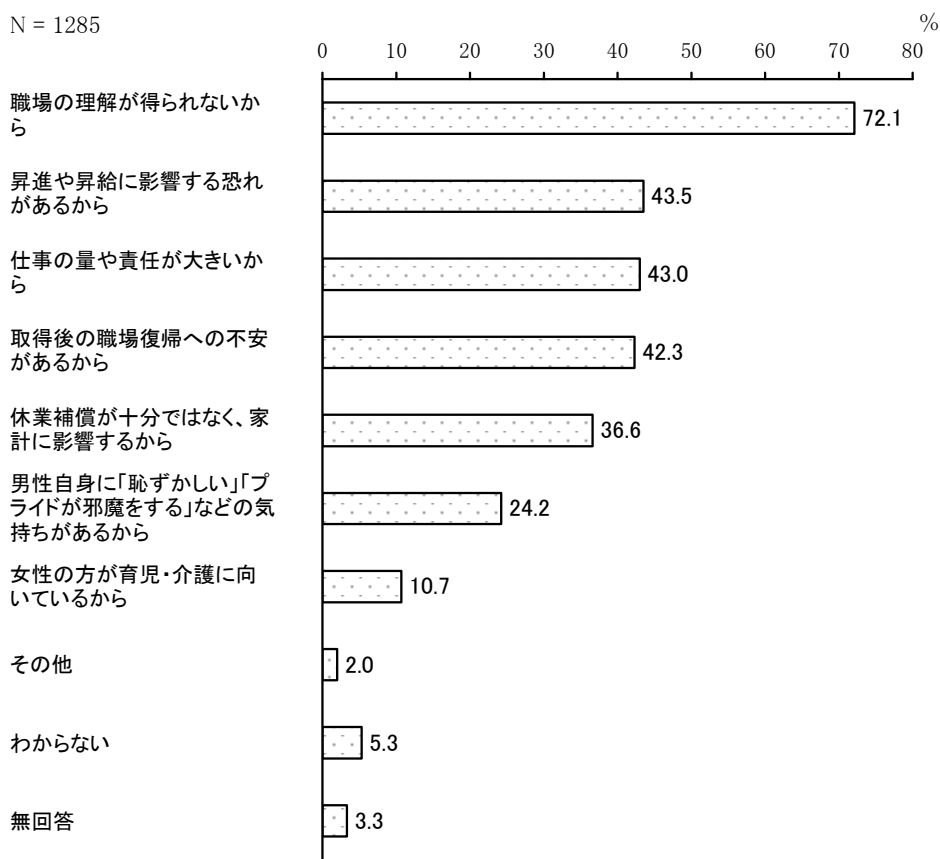
性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「夫や家族が理解し協力する」「看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳で「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が高くなっています。女性の30～49歳で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～39歳、50～59歳で「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、女性の20～49歳で「夫の育児・介護休業を取りやすくする」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～29歳、40～59歳で「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「女性労働者の相談窓口を設ける」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」の割合が高くなっています。女性の30～49歳、60～69歳で「小学生を対象とした放課後児童対策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	夫の育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者の相談窓口を設ける	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした放課後児童対策の充実	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	69.4	58.3	36.1	50.0	63.9	38.9	61.1	36.1	16.7	41.7	19.4	11.1	—	2.8	—
30～39歳	75	58.7	45.3	32.0	40.0	33.3	42.7	34.7	16.0	12.0	36.0	37.3	28.0	2.7	5.3	2.7
40～49歳	109	67.0	45.0	34.9	45.9	35.8	45.0	39.4	30.3	8.3	33.0	23.9	22.9	1.8	4.6	0.9
50～59歳	93	64.5	44.1	30.1	38.7	31.2	24.7	36.6	23.7	7.5	39.8	30.1	28.0	1.1	4.3	2.2
60～69歳	122	73.0	46.7	28.7	45.9	41.0	27.9	45.1	34.4	13.1	32.8	28.7	28.7	0.8	7.4	3.3
70歳以上	133	78.9	50.4	36.1	54.1	48.9	35.3	46.6	39.1	20.3	36.8	39.1	29.3	0.8	3.0	7.5
女性 20～29歳	62	67.7	64.5	37.1	67.7	62.9	51.6	54.8	37.1	17.7	64.5	48.4	32.3	1.6	3.2	—
30～39歳	93	76.3	59.1	46.2	65.6	51.6	50.5	44.1	33.3	14.0	59.1	52.7	59.1	3.2	2.2	—
40～49歳	124	79.8	61.3	46.0	66.9	48.4	45.2	48.4	41.1	18.5	60.5	51.6	40.3	2.4	1.6	0.8
50～59歳	93	84.9	54.8	25.8	55.9	51.6	35.5	48.4	48.4	15.1	48.4	45.2	37.6	1.1	1.1	2.2
60～69歳	170	84.7	53.5	28.8	55.9	44.1	35.3	42.9	42.9	14.1	44.7	37.6	42.9	—	1.8	2.9
70歳以上	161	74.5	42.9	23.0	42.2	35.4	24.8	28.6	36.0	14.9	29.2	23.6	26.7	1.2	4.3	7.5

問 11. 育児や介護で休みをとる男性が少ない現状にあります、その理由は何だと思えますか。(〇印いくつでも)

「職場の理解が得られないから」の割合が72.1%と最も高く、次いで「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が43.5%、「仕事の量や責任が大きいから」の割合が43.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「職場の理解が得られないから」「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性の方が育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
男性	568	68.3	41.2	41.4	44.9	33.8	9.5	19.5	1.6	5.3	3.0
女性	704	75.9	45.6	42.9	41.8	38.6	11.5	28.3	2.3	5.3	3.6

## 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の30～39歳、女性の20～69歳で「職場の理解が得られないから」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の50～69歳で「取得後の職場復帰への不安があるから」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳、女性の30～39歳、60～69歳で「仕事の量や責任が大きいから」の割合が高くなっています。女性の20～49歳、60～69歳で「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」の割合が高くなっています。女性の60～69歳で「女性の方が育児・介護に向いているから」の割合が高くなっています。女性の30～59歳で「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」の割合が高くなっています。

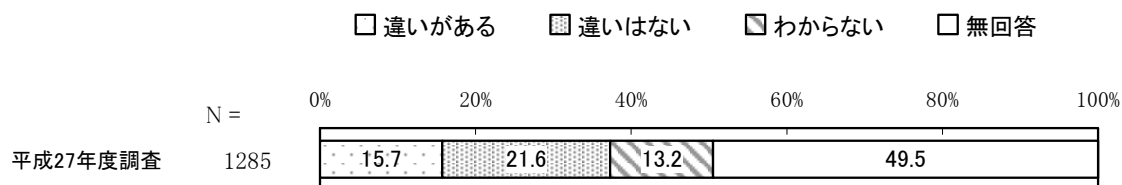
単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性の方が育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	69.4	47.2	50.0	47.2	27.8	2.8	22.2	—	—	—
30～39歳	75	80.0	37.3	30.7	38.7	37.3	8.0	22.7	5.3	4.0	2.7
40～49歳	109	72.5	38.5	42.2	52.3	38.5	11.0	10.1	0.9	4.6	—
50～59歳	93	62.4	33.3	36.6	44.1	29.0	8.6	17.2	2.2	5.4	1.1
60～69歳	122	67.2	43.4	42.6	49.2	32.8	9.0	23.8	0.8	6.6	4.9
70歳以上	133	63.2	47.4	46.6	38.3	33.8	12.0	22.6	0.8	6.8	6.0
女性 20～29歳	62	82.3	53.2	46.8	45.2	48.4	9.7	25.8	3.2	6.5	—
30～39歳	93	78.5	48.4	40.9	51.6	41.9	6.5	33.3	4.3	3.2	—
40～49歳	124	82.3	58.1	45.2	43.5	46.0	8.9	37.9	1.6	3.2	0.8
50～59歳	93	80.6	45.2	48.4	36.6	39.8	9.7	35.5	4.3	4.3	2.2
60～69歳	170	78.2	42.9	48.8	48.2	41.8	15.9	25.3	1.8	4.1	3.5
70歳以上	161	61.5	34.8	31.7	29.8	23.6	13.7	18.0	0.6	9.3	9.9



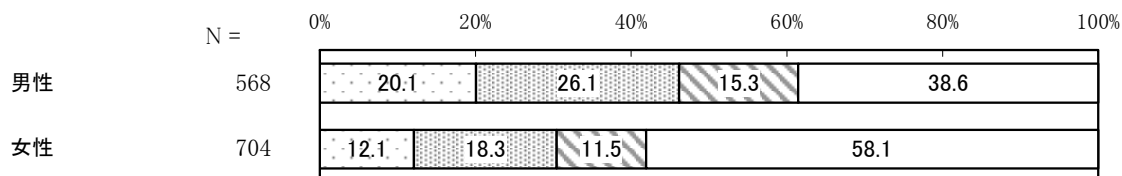
問 12. 現在働いている方にお聞きします。それ以外の方は問 14 にお進みください。  
 あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。

「違いはない」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「違いがある」の割合が 15.7%、「わからない」の割合が 13.2%となっています。



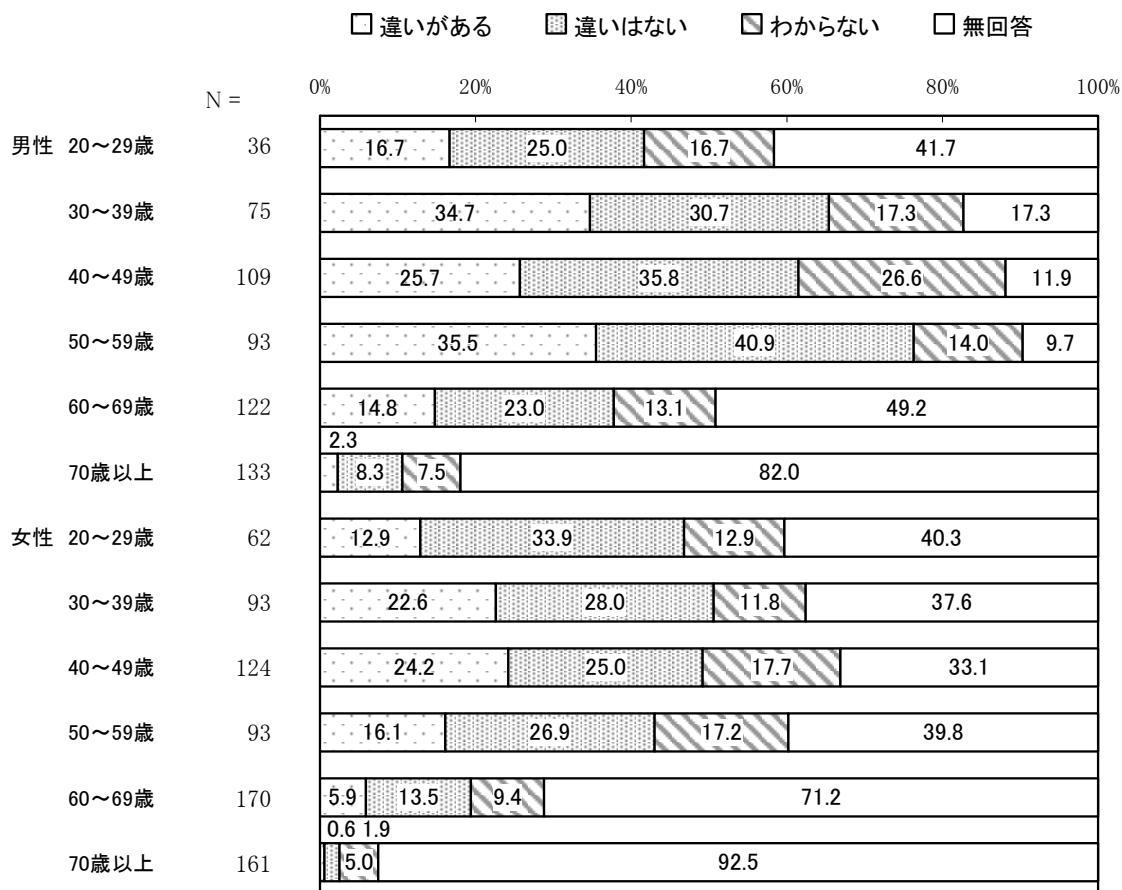
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「違いがある」「違いはない」の割合が高くなっています。



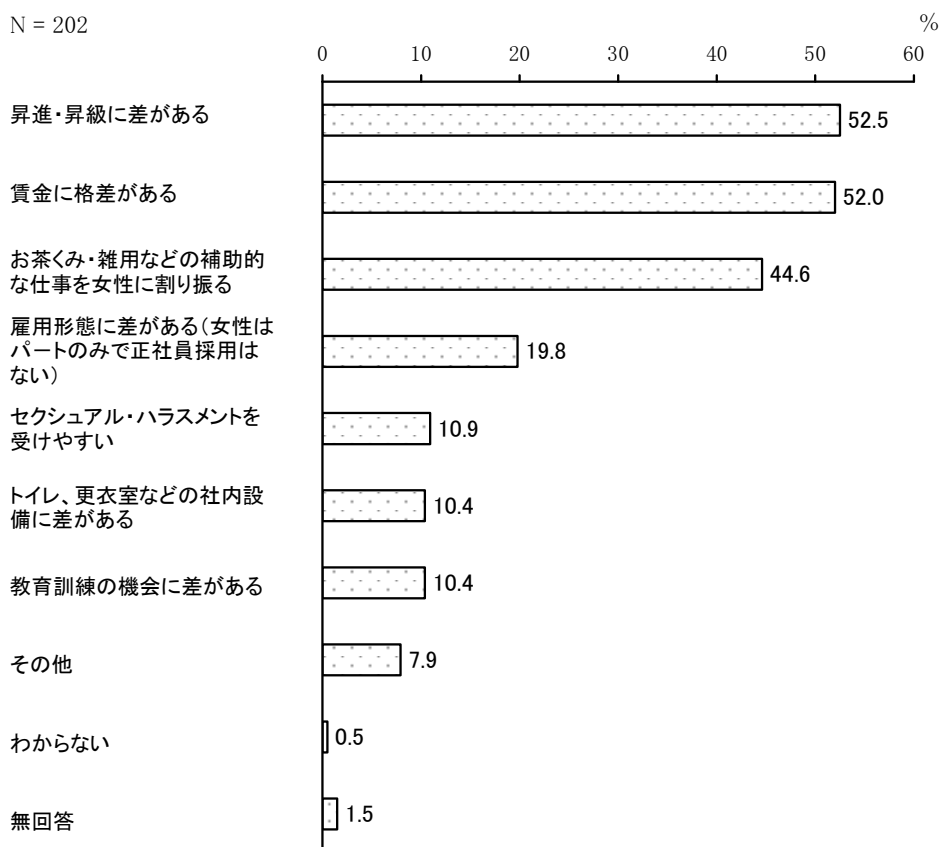
## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の30～59歳、女性の30～49歳で「違いがある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～39歳、50～59歳で「違いはない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「わからない」の割合が高くなっています。



問 13. (問 12 で「1. 違いがある」と回答した方に)  
 どのような違いがあると思いますか。(〇印いくつでも)

「昇進・昇級に差がある」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「賃金に格差がある」の割合が 52.0%、「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」の割合が 44.6%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「賃金に格差がある」「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「トイレ、更衣室などの社内設備に差がある」「セクシュアル・ハラスメントを受けやすい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用はない)	その他	わからない	無回答
男性	114	46.5	52.6	45.6	15.8	14.0	9.6	15.8	7.9	—	0.9
女性	85	57.6	52.9	42.4	3.5	7.1	11.8	24.7	8.2	1.2	2.4

## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の60～69歳、女性の40～59歳で「賃金に格差がある」の割合が高くなっています。女性の30～49歳で「昇進・昇級に差がある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の50～59歳で「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、60～69歳で「トイレ、更衣室などの社内設備に差がある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳で「セクシュアル・ハラスメントを受けやすい」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の40～49歳で「教育訓練の機会に差がある」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の30～49歳、60～69歳で「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が高くなっています。

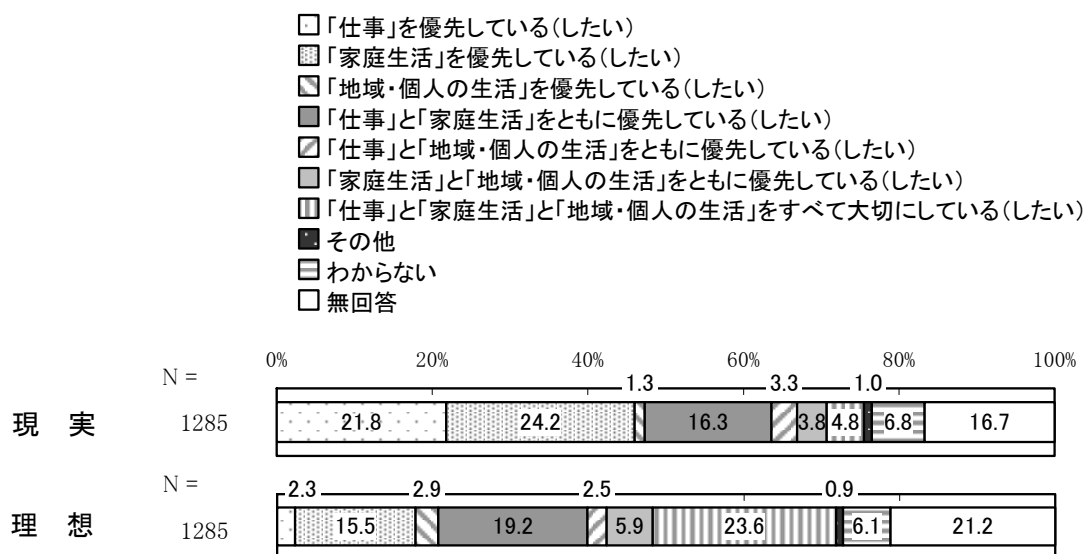
単位：％

区分	有効回答数(件)	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用はない)	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	6	66.7	50.0	66.7	16.7	16.7	—	33.3	—	—	—
30～39歳	26	34.6	46.2	53.8	23.1	23.1	3.8	15.4	11.5	—	—
40～49歳	28	46.4	53.6	46.4	7.1	10.7	10.7	3.6	7.1	—	—
50～59歳	33	39.4	54.5	36.4	15.2	6.1	9.1	12.1	9.1	—	3.0
60～69歳	18	66.7	50.0	44.4	16.7	16.7	16.7	33.3	5.6	—	—
70歳以上	3	66.7	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	—	—	—
女性 20～29歳	8	37.5	37.5	37.5	12.5	25.0	—	12.5	25.0	—	—
30～39歳	21	47.6	66.7	42.9	—	4.8	9.5	28.6	14.3	—	—
40～49歳	30	63.3	60.0	40.0	3.3	6.7	20.0	26.7	6.7	—	—
50～59歳	15	73.3	33.3	53.3	—	6.7	6.7	13.3	—	6.7	—
60～69歳	10	50.0	50.0	40.0	10.0	—	10.0	40.0	—	—	20.0
70歳以上	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 14. 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。  
 (○印①～②の項目ごとに1つずつ)

現実では、「家庭生活」を優先している(したい)の割合が24.2%と最も高く、次いで「仕事」を優先している(したい)の割合が21.8%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(したい)の割合が16.3%となっています。

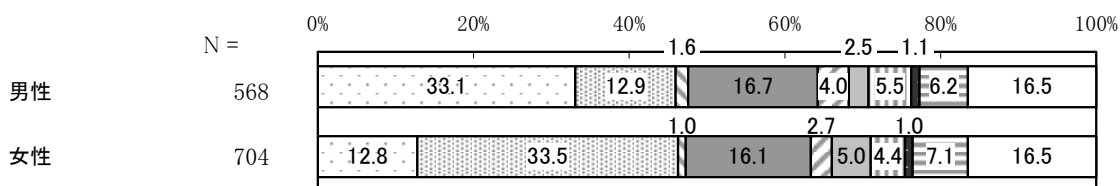
理想では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている(したい)の割合が23.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(したい)の割合が19.2%、「家庭生活」を優先している(したい)の割合が15.5%となっています。



① 現実

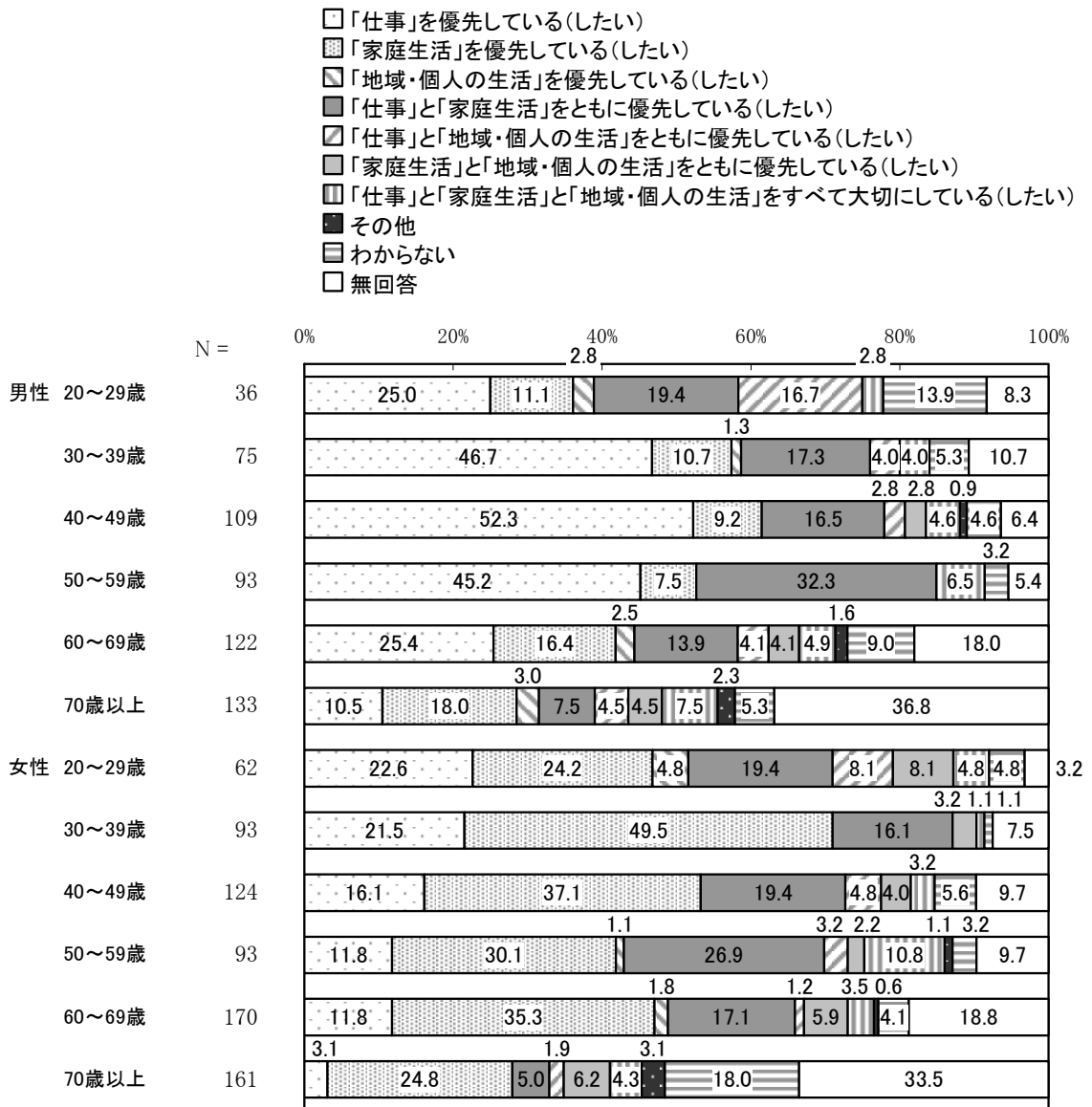
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「女性に比べ男性で「仕事」を優先している(したい)の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家庭生活」を優先している(したい)の割合が高くなっています。」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

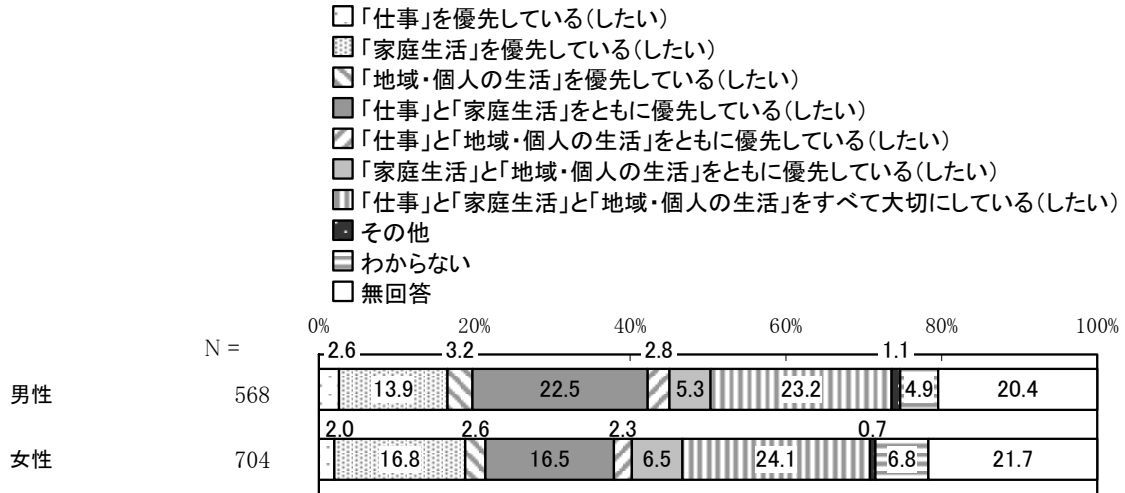
性・年齢別で見ると、男性の30～59歳で「仕事」を優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の30～69歳で「家庭生活」を優先している（したい）の割合が高くなっています。男性の50～59歳、女性の50～59歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている（したい）の割合が高くなっています。



② 理想

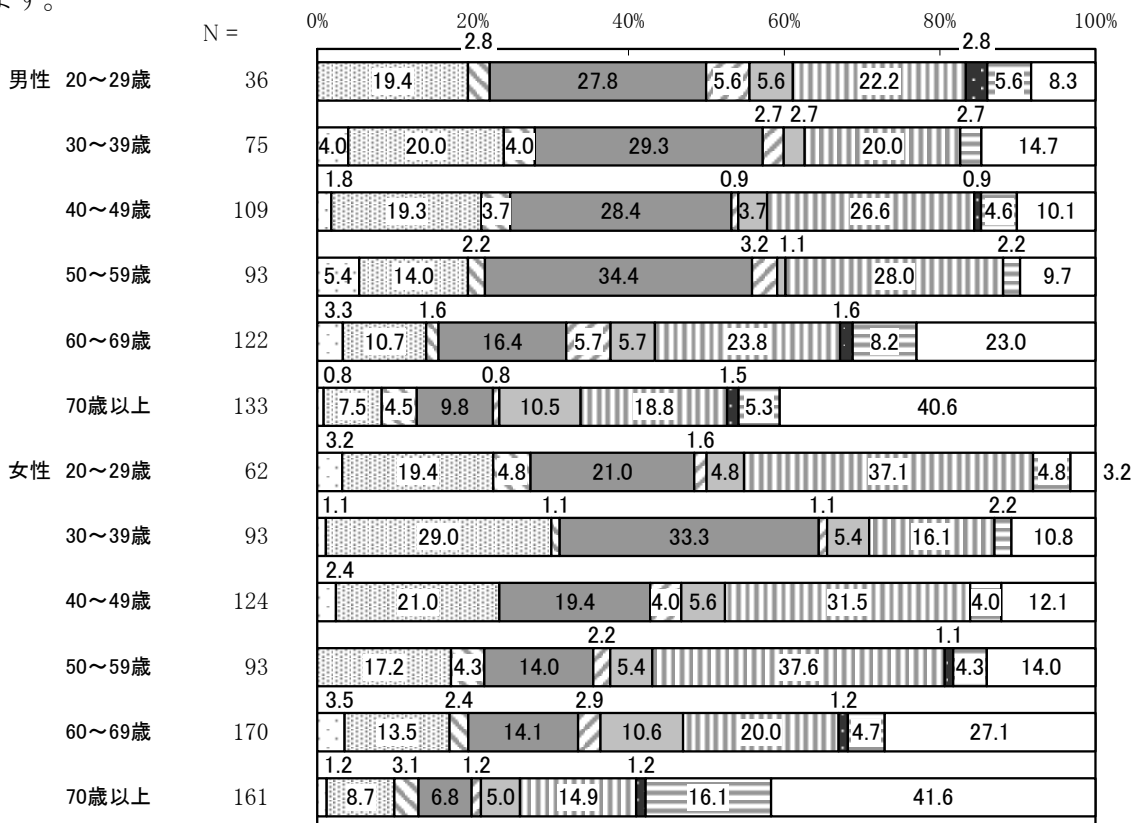
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 30～49 歳で「家庭生活」を優先している（したい）の割合が高くなっています。男性の 20～59 歳、女性の 30～39 歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の 20～29 歳、40～59 歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている（したい）の割合が高くなっています。

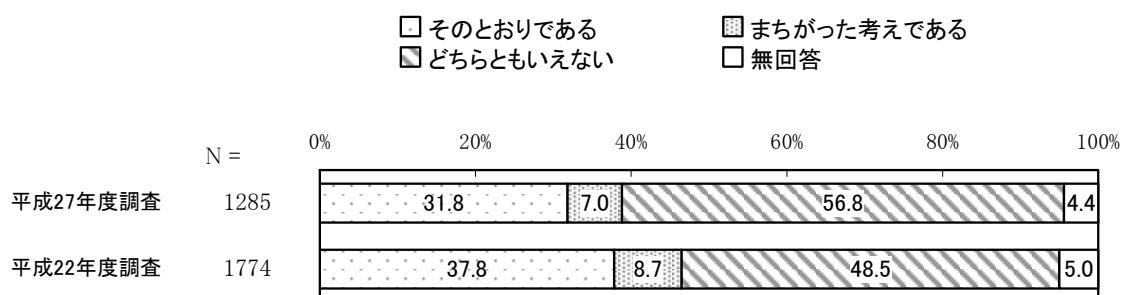


## (5) 子育て・子どもの教育について

問 15. 子どもの育て方については「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」とお考えですか。(〇印1つ)

「どちらともいえない」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「そのとおりである」の割合が 31.8%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が 8.3 ポイント増加しています。一方、「そのとおりである」の割合が 6.0 ポイント減少しています。



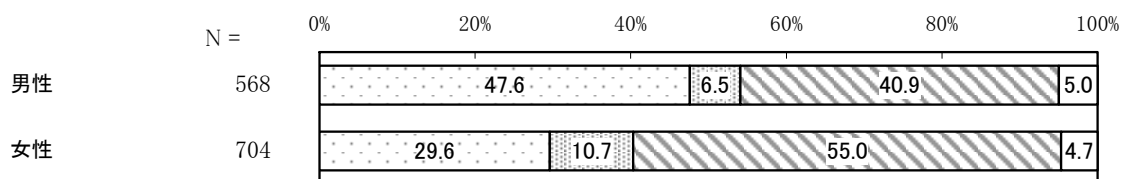
### 【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「そのとおりである」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、男性で「そのとおりである」の割合が 7.6 ポイント減少しています。一方、「どちらともいえない」の割合が男性で 7.7 ポイント、女性で 8.4 ポイント増加しています。



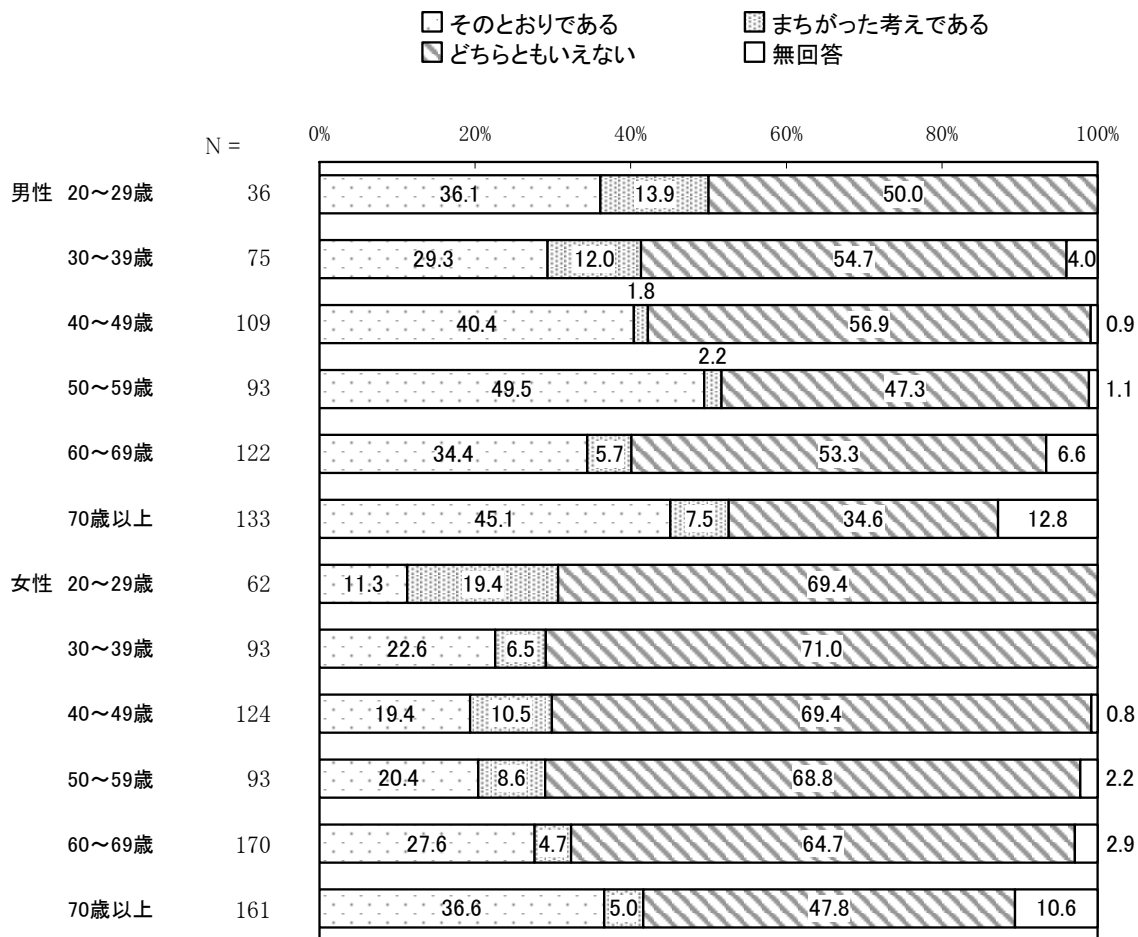
### 【性別（平成 22 年度調査）】





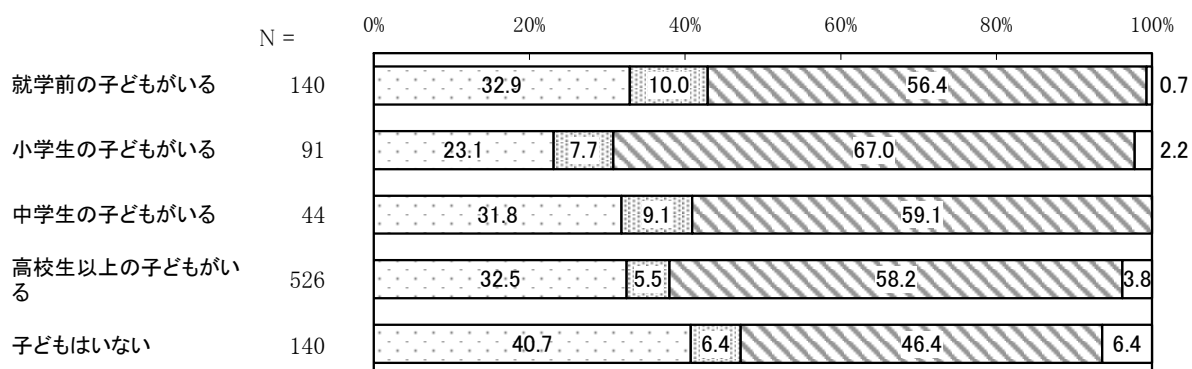
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の40～59歳、70歳以上で「そのとおりである」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、女性の20～29歳で「まちがった考えである」の割合が高くなっています。女性の20～69歳で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



### 【末子学齢別】

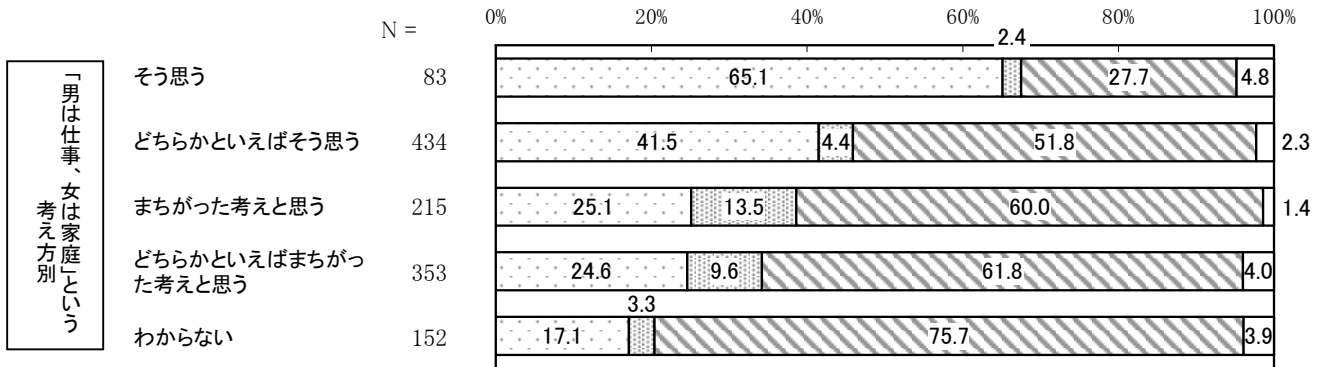
末子学齢別で見ると、小学生の子どもがいるで「どちらともいえない」の割合が高くなっています。また、子どもはいないで「そのとおりである」の割合が高くなっています。



### 【性別役割分担意識別】

性別役割分担意識別でみると、そう思うで「そのとおりである」の割合が高くなっています。

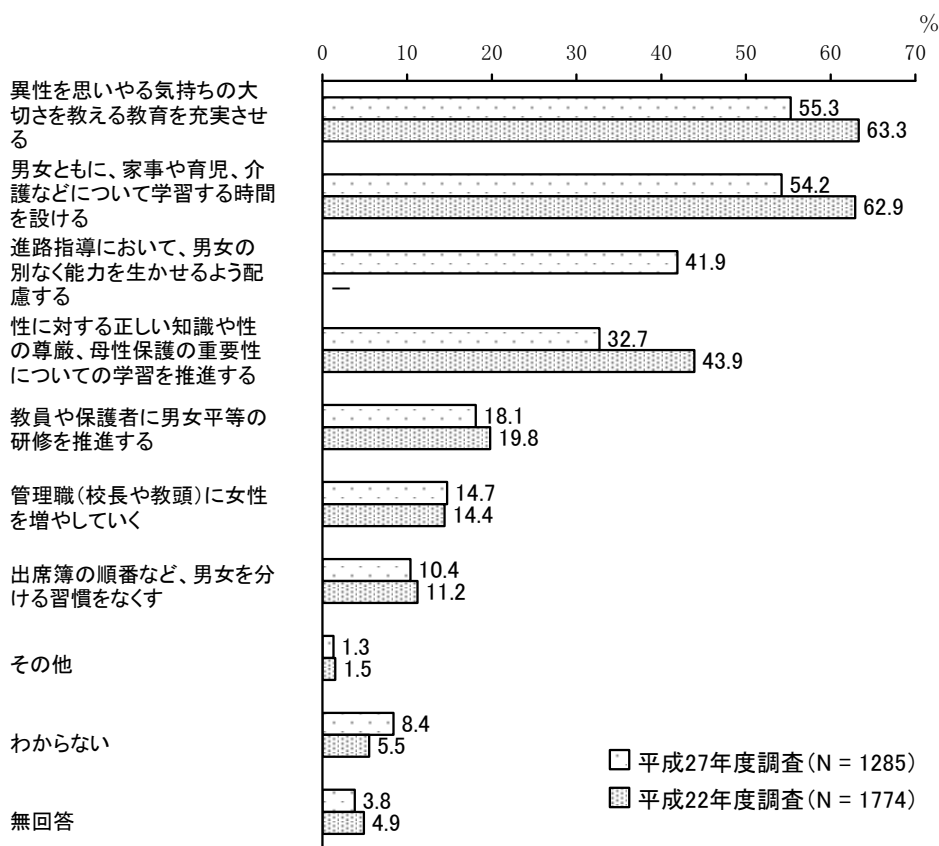
- そのとおりである
- まちがった考えである
- ▨ どちらともいえない
- 無回答



問 16. 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印いくつでも)

「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 54.2%、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が 41.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が 8.0 ポイント、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 8.7 ポイント、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が 11.2 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
男性	568	57.9	48.8	38.9	31.9	19.0	14.8	10.7	1.4	7.9	3.3
女性	704	53.4	58.7	44.3	33.5	17.6	14.9	10.2	1.3	8.8	4.1

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、50～59歳で「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」「教員や保護者に男女平等の研修を推進する」の割合が高くなっています。男女ともに30～39歳で「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～29歳で「出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	63.9	38.9	36.1	33.3	11.1	8.3	13.9	2.8	8.3	—	
30～39歳	75	50.7	44.0	30.7	36.0	16.0	24.0	16.0	2.7	8.0	4.0	
40～49歳	109	54.1	45.9	25.7	24.8	10.1	11.9	8.3	2.8	11.0	—	
50～59歳	93	69.9	52.7	30.1	24.7	15.1	9.7	14.0	—	9.7	1.1	
60～69歳	122	54.9	46.7	41.8	31.1	21.3	13.9	8.2	1.6	7.4	4.1	
70歳以上	133	57.9	55.6	58.6	40.6	30.8	18.0	9.0	—	4.5	7.5	
女性 20～29歳	62	50.0	54.8	37.1	29.0	21.0	12.9	22.6	4.8	9.7	1.6	
30～39歳	93	50.5	64.5	38.7	33.3	10.8	21.5	10.8	2.2	8.6	2.2	
40～49歳	124	56.5	58.1	42.7	33.1	21.0	18.5	6.5	—	8.9	2.4	
50～59歳	93	53.8	55.9	41.9	26.9	11.8	7.5	9.7	1.1	10.8	2.2	
60～69歳	170	58.8	64.1	54.1	41.8	24.1	17.1	11.2	1.2	4.7	2.9	
70歳以上	161	47.8	53.4	42.2	30.4	14.3	11.2	7.5	0.6	11.8	9.9	

【末子学齢別】

末子学齢別で見ると、高校生以上の子どもがいるで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高くなっています。

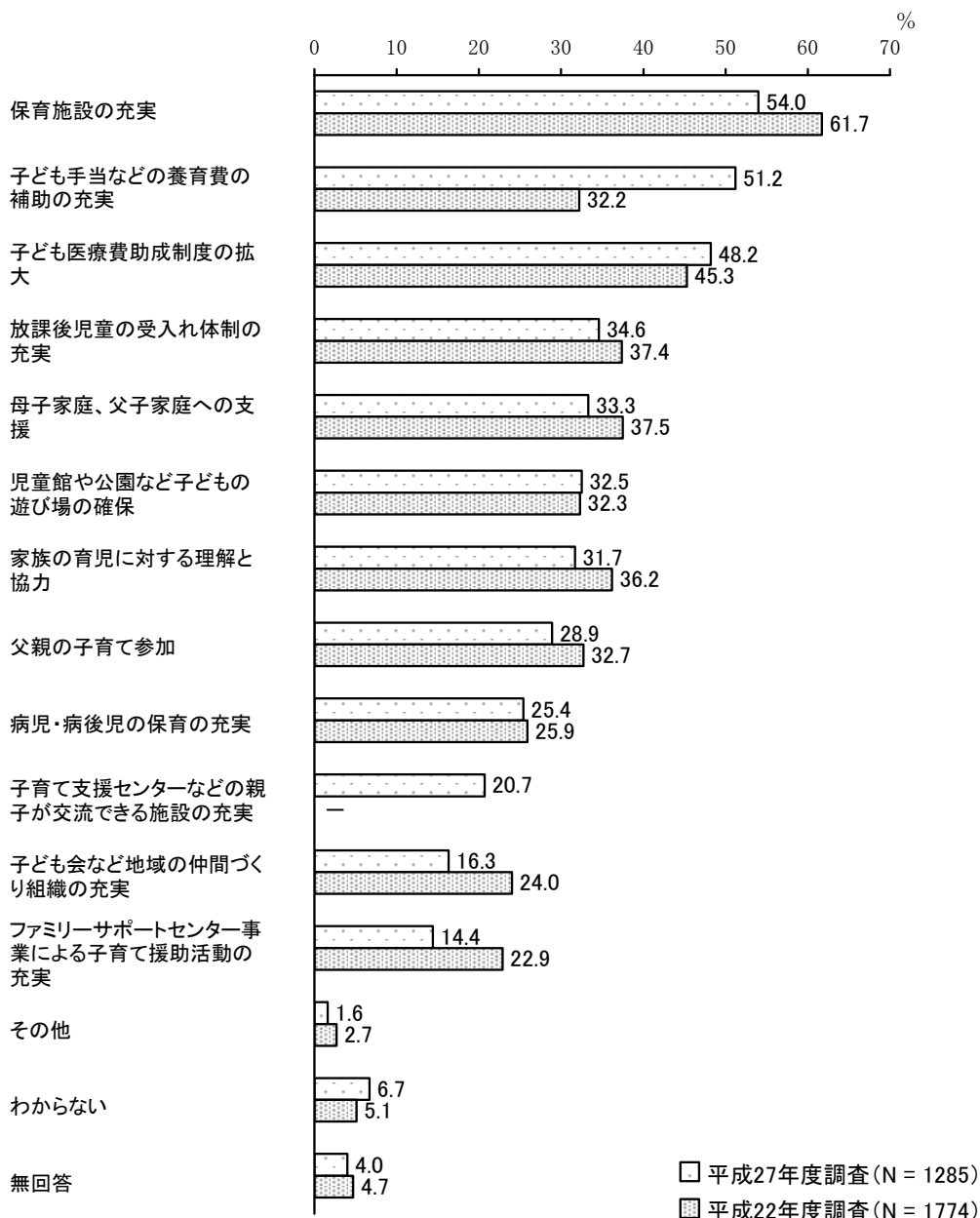
単位：%

区分	有効回答数(件)	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	55.7	54.3	35.7	38.6	15.0	17.1	12.9	1.4	5.7	2.1
小学生の子どもがいる	91	57.1	53.8	39.6	27.5	15.4	19.8	9.9	1.1	6.6	1.1
中学生の子どもがいる	44	59.1	54.5	25.0	25.0	11.4	11.4	6.8	2.3	9.1	2.3
高校生以上の子どもがいる	526	57.2	59.7	49.2	36.3	20.7	13.1	8.7	1.0	6.5	3.0
子どもはいない	140	52.1	53.6	44.3	33.6	18.6	17.1	7.9	3.6	9.3	5.7

問 17. 安心して子どもを生み育てるためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
(○印いくつでも)

「保育施設の充実」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が 51.2%、「子ども医療費助成制度の拡大」の割合が 48.2%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が 19.0 ポイント増加しています。一方、「保育施設の充実」の割合が 7.7 ポイント、「子ども会など地域の仲間づくり組織の充実」の割合が 7.7 ポイント、「ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実」の割合が 8.5 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「家族の育児に対する理解と協力」「放課後児童の受入れ体制の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
男性	568	53.9	47.9	53.9	28.9	17.8	12.5	20.2	20.4	28.0	31.3	30.8	20.8	1.2	6.9	3.9
女性	704	49.1	48.6	54.4	35.4	15.2	16.2	21.2	36.1	34.5	34.7	37.5	29.3	1.8	6.4	4.1



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～49歳、70歳以上、女性の20～29歳で「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「子ども医療費助成制度の拡大」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の20～29歳、50～59歳で「保育施設の充実」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～39歳で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、70歳以上で「子ども会など地域の仲間づくり組織の充実」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の20～29歳で「ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳、60～69歳で「父親の子育て参加」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～29歳で「家族の育児に対する理解と協力」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、60～69歳で「母子家庭、父子家庭への支援」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「放課後児童の受入れ体制の充実」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～59歳で「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	55.6	47.2	47.2	47.2	22.2	11.1	25.0	41.7	41.7	27.8	27.8	22.2	—	11.1	—
30～39歳	75	58.7	53.3	50.7	30.7	21.3	13.3	24.0	30.7	32.0	37.3	29.3	32.0	1.3	6.7	4.0
40～49歳	109	61.5	44.0	52.3	32.1	14.7	5.5	10.1	21.1	23.9	27.5	33.0	19.3	2.8	5.5	0.9
50～59歳	93	45.2	52.7	48.4	22.6	14.0	10.8	10.8	17.2	25.8	26.9	29.0	22.6	—	10.8	1.1
60～69歳	122	46.7	47.5	56.6	25.4	15.6	12.3	21.3	14.8	24.6	32.8	30.3	18.9	1.6	7.4	5.7
70歳以上	133	57.1	45.1	60.2	27.8	21.8	19.5	30.8	15.8	30.1	33.8	32.3	15.8	0.8	3.8	7.5
女性 20～29歳	62	77.4	62.9	62.9	38.7	12.9	22.6	24.2	59.7	58.1	43.5	37.1	38.7	1.6	3.2	—
30～39歳	93	54.8	52.7	49.5	46.2	14.0	18.3	23.7	38.7	33.3	36.6	48.4	37.6	4.3	5.4	3.2
40～49歳	124	53.2	50.8	57.3	35.5	11.3	12.1	20.2	37.1	39.5	33.9	37.9	37.1	2.4	4.8	2.4
50～59歳	93	48.4	48.4	61.3	28.0	10.8	18.3	16.1	30.1	31.2	29.0	36.6	33.3	2.2	5.4	2.2
60～69歳	170	45.9	52.9	57.6	36.5	18.2	18.2	25.9	34.7	37.6	39.4	43.5	27.6	1.2	4.7	2.4
70歳以上	161	36.0	34.8	44.7	31.1	18.6	12.4	17.4	29.8	20.5	29.2	25.5	13.7	0.6	11.8	10.6

## 【末子学齢別】

末子学齢別でみると、就学前の子どもがいるで「子ども手当などの養育費の補助の充実」「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。また、小学生の子どもがいるで「子ども手当などの養育費の補助の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

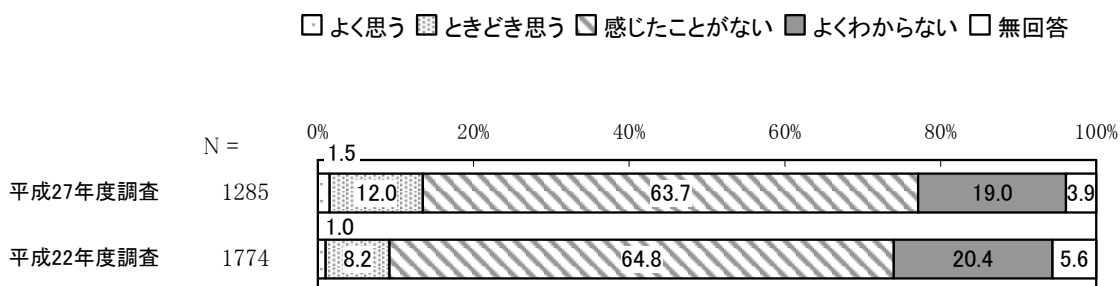
単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	子育て援助活動の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	66.4	57.9	55.7	50.0	20.0	18.6	24.3	40.0	36.4	35.0	42.1	36.4	3.6	3.6	1.4
小学生の子どもがいる	91	62.6	61.5	53.8	33.0	15.4	5.5	14.3	33.0	36.3	30.8	35.2	35.2	1.1	1.1	1.1
中学生の子どもがいる	44	45.5	52.3	47.7	27.3	15.9	6.8	11.4	25.0	18.2	31.8	34.1	20.5	—	—	4.5
高校生以上の子どもがいる	526	49.6	52.1	57.8	32.9	16.2	17.1	24.5	27.0	32.5	34.0	36.1	26.2	1.3	5.1	3.0
子どもはいない	140	43.6	33.6	55.7	28.6	16.4	15.7	17.9	20.7	29.3	29.3	33.6	17.9	2.1	13.6	7.1

問 18. 自分の周りで子どもが虐待されているのではないかと思ったことがありますか。  
(○印1つ)

「感じたことがない」の割合が 63.7%と最も高く、次いで「よくわからない」の割合が 19.0%、「ときどき思う」の割合が 12.0%となっています。

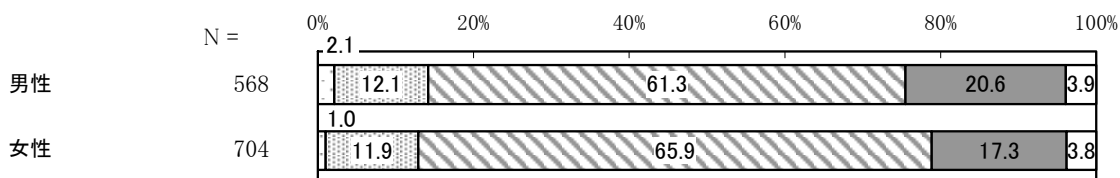
平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



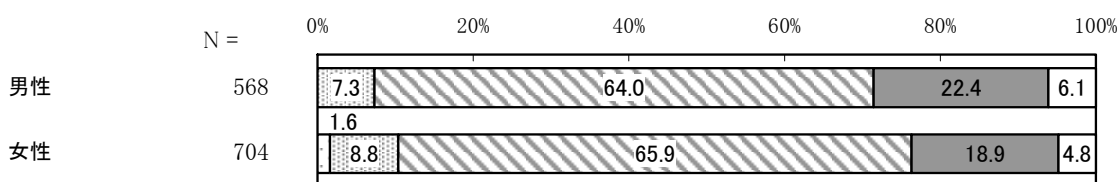
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



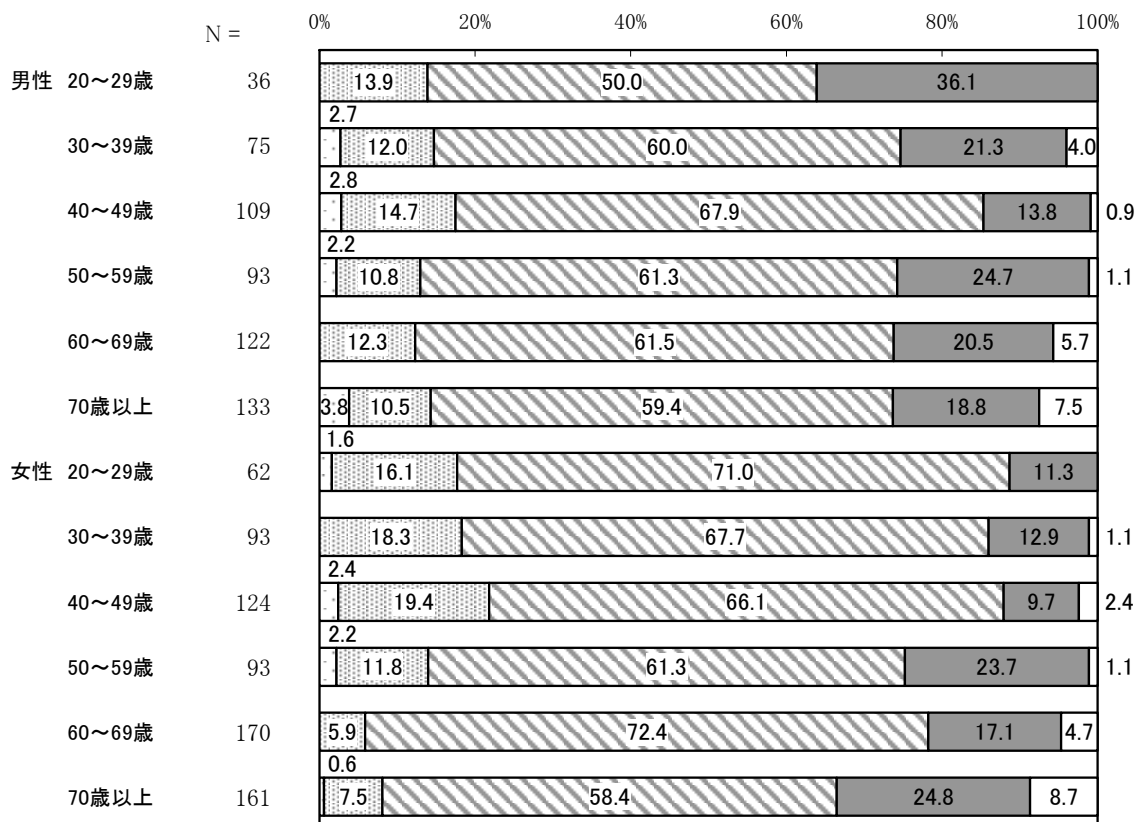
【性別（平成 22 年度調査）】



### 【性・年齢別】

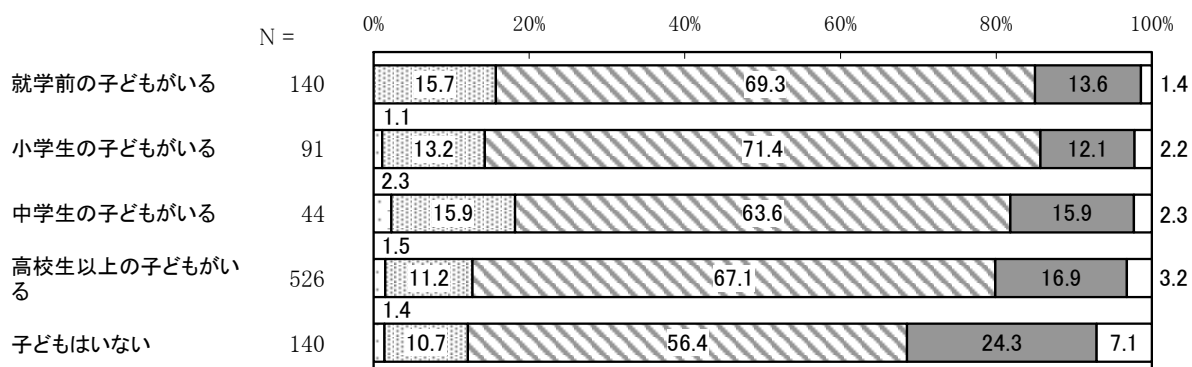
性・年齢別で見ると、女性の30～49歳で「ときどき思う」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、60～69歳で「感じたことがない」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、50～59歳、女性の70歳以上で「よくわからない」の割合が高くなっています。

□ よく思う □ ときどき思う □ 感じたことがない □ よくわからない □ 無回答



### 【末子学齢別】

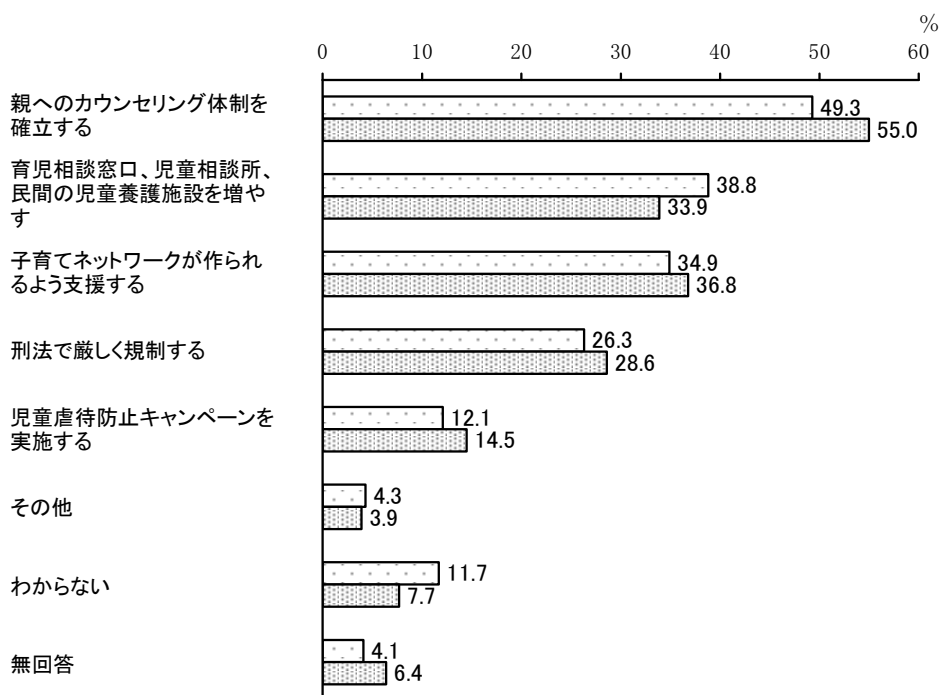
末子学齢別で見ると、大きな差異はみられません。



**問 19. 子どもへの虐待を起こさないためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
(○印いくつでも)**

「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす」の割合が 38.8%、「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が 34.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が 5.7 ポイント減少しています。



**【性別】**

性別で見ると、男性に比べ女性で「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
男性	568	45.4	33.1	38.9	29.9	12.9	3.5	10.7	3.7
女性	704	52.7	36.4	38.9	23.7	11.8	5.0	11.9	4.4

## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、女性の20～39歳で「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が高くなっています。女性の20～39歳、50～69歳で「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の20～29歳で「育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、50～59歳で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「児童虐待防止キャンペーンを実施する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	66.7	38.9	38.9	44.4	13.9	2.8	8.3	—
30～39歳	75	34.7	37.3	30.7	37.3	6.7	4.0	12.0	4.0
40～49歳	109	49.5	33.9	34.9	31.2	8.3	6.4	11.9	1.8
50～59歳	93	38.7	32.3	35.5	33.3	9.7	6.5	11.8	1.1
60～69歳	122	48.4	32.8	38.5	24.6	13.1	1.6	10.7	4.9
70歳以上	133	44.4	29.3	49.6	23.3	21.8	0.8	9.0	6.8
女性 20～29歳	62	69.4	43.5	48.4	29.0	14.5	4.8	8.1	—
30～39歳	93	60.2	41.9	37.6	25.8	4.3	7.5	11.8	1.1
40～49歳	124	53.2	37.1	35.5	25.0	2.4	10.5	9.7	1.6
50～59歳	93	52.7	41.9	36.6	17.2	9.7	7.5	12.9	2.2
60～69歳	170	49.4	40.6	41.2	29.4	18.2	1.8	9.4	4.7
70歳以上	161	44.7	22.4	37.9	16.8	16.1	1.2	17.4	11.2

### 【未子学齡別】

未子学齡別で見ると、就学前の子どもがいるで「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。

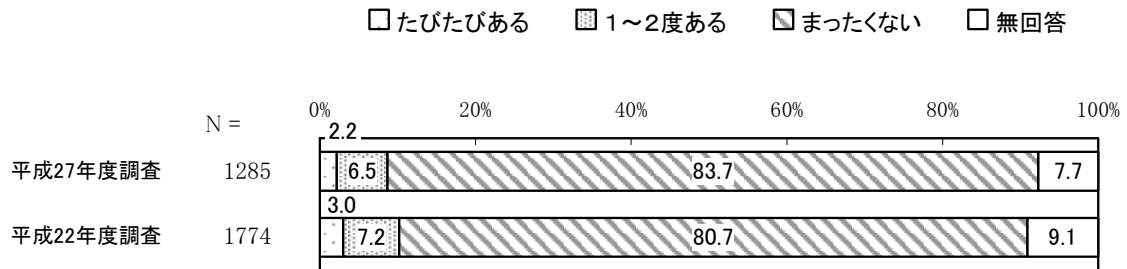
単位：％

区分	有効回答数(件)	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	55.7	42.9	38.6	30.0	9.3	8.6	9.3	1.4
小学生の子どもがいる	91	51.6	28.6	40.7	20.9	5.5	7.7	8.8	1.1
中学生の子どもがいる	44	47.7	40.9	25.0	25.0	11.4	6.8	13.6	2.3
高校生以上の子どもがいる	526	50.2	37.6	41.1	27.4	13.9	3.0	10.6	3.4
子どもはいない	140	43.6	30.7	37.9	22.9	15.0	3.6	12.1	6.4

## (6) 配偶者等からの暴力について

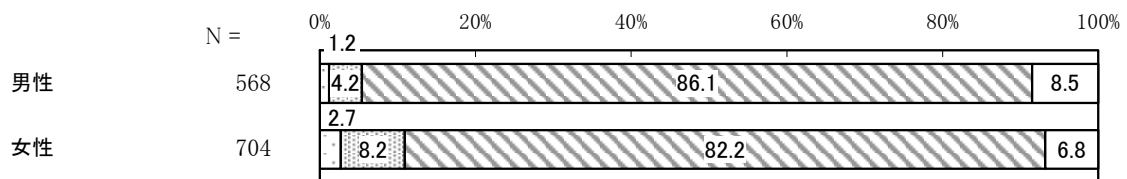
問 20. あなたはこれまでに、DVを受けたことがありますか。(○印1つ)

「たびたびある」と「1～2度ある」をあわせた“ある”の割合が8.7%となっています。  
平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



### 【性別】

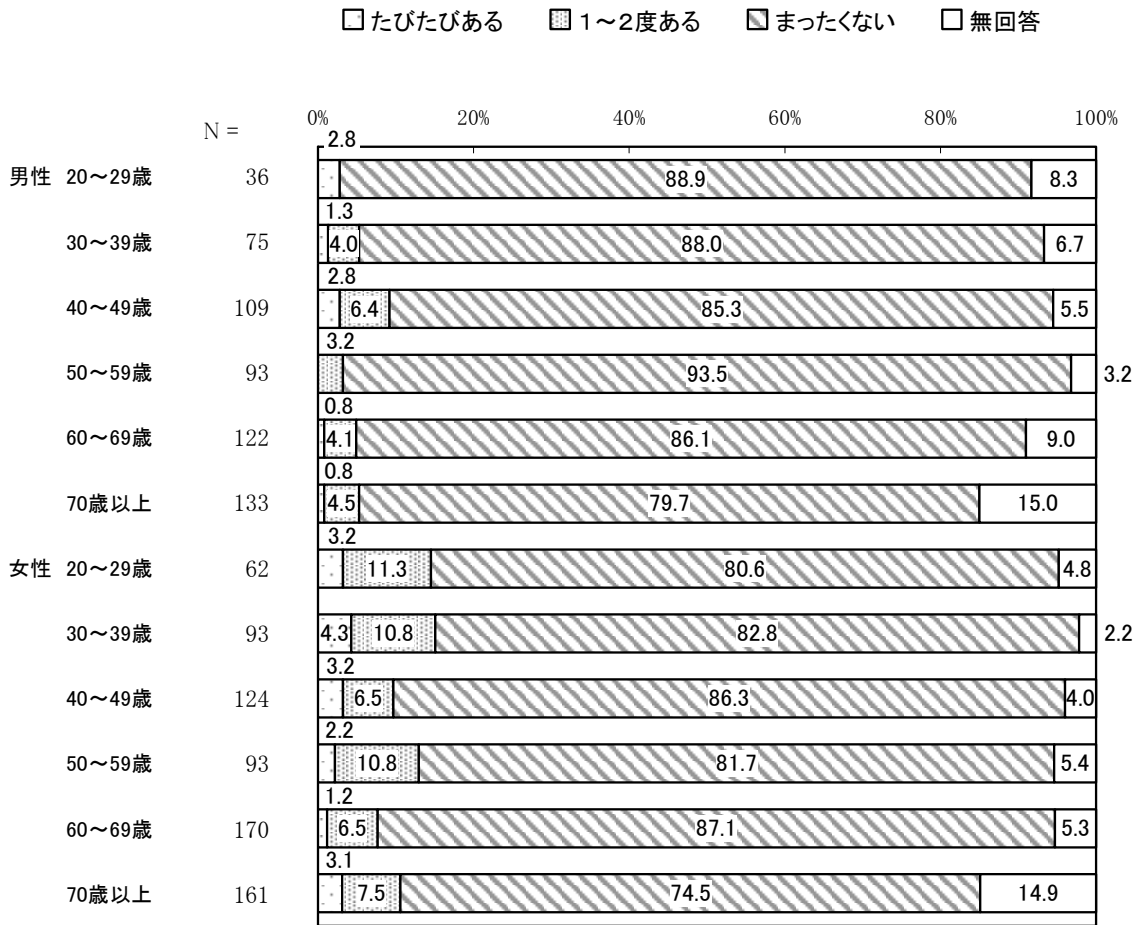
性別でみると、男性に比べ女性で“ある”の割合が高くなっています。





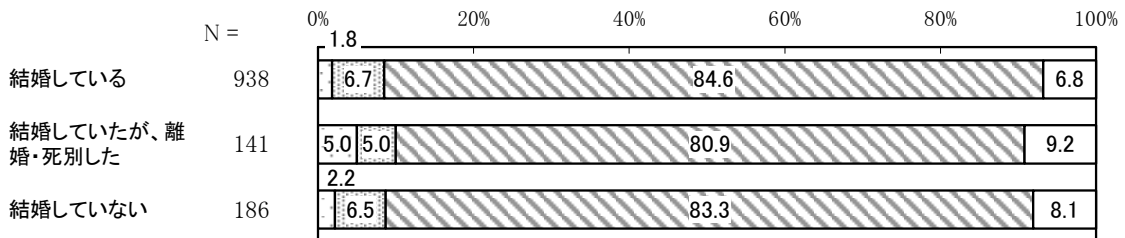
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の20～39歳、50～59歳で“ある”の割合が高くなっています。



【婚姻の有無別】

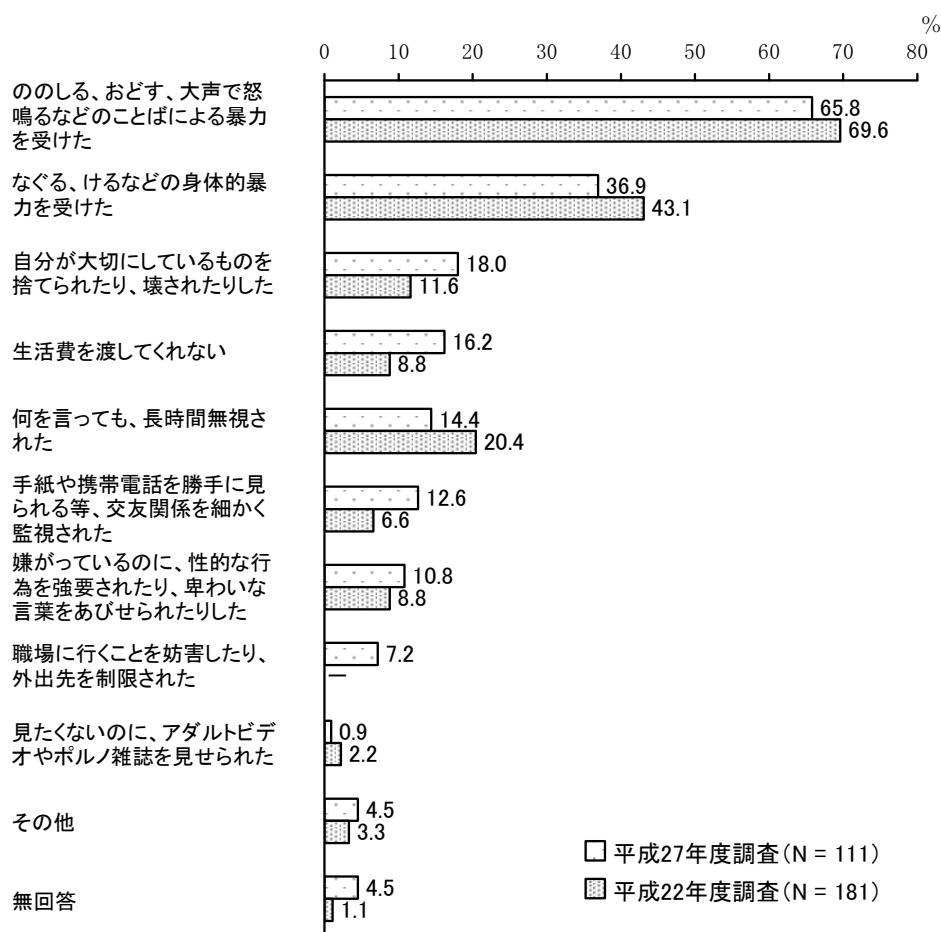
婚姻の有無別で見ると、大きな差異はみられません。



問 21. (問 20 で「1. たびたびある」「2. 1～2度ある」と回答した方に)  
 どのようなDVを受けましたか。(〇印いくつでも)

「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が 65.8%と最も高く、次いで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が 36.9%、「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が 18.0%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が 6.4 ポイント、「生活費を渡してくれない」の割合が 7.4 ポイント、「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」の割合が 6.0 ポイント増加しています。一方、「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が 6.2 ポイント、「何を言っても、長時間無視された」の割合が 6.0 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」「生活費を渡してくれない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
男性	31	25.8	74.2	12.9	12.9	6.5	—	3.2	19.4	6.5	—	3.2
女性	77	42.9	63.6	15.6	11.7	11.7	1.3	22.1	16.9	7.8	5.2	5.2

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の20～29歳、60歳以上で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の30～39歳で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の40～59歳で「何を言っても、長時間無視された」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の40～49歳で「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、50歳以上で「生活費を渡してくれない」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
男性 20～29歳	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	—	—	—	25.0	—	—
40～49歳	10	40.0	90.0	20.0	30.0	10.0	—	10.0	10.0	10.0	—	—
50～59歳	3	33.3	66.7	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—
60～69歳	6	33.3	83.3	16.7	—	—	—	—	33.3	—	—	—
70歳以上	7	—	71.4	—	—	—	—	—	28.6	—	—	14.3
女性 20～29歳	9	55.6	55.6	22.2	22.2	—	—	22.2	11.1	—	11.1	—
30～39歳	14	35.7	85.7	—	21.4	7.1	—	28.6	35.7	14.3	—	—
40～49歳	12	33.3	58.3	33.3	25.0	41.7	—	8.3	8.3	—	8.3	8.3
50～59歳	12	33.3	33.3	25.0	—	—	8.3	25.0	8.3	16.7	16.7	8.3
60～69歳	13	46.2	76.9	7.7	7.7	7.7	—	23.1	30.8	7.7	—	7.7
70歳以上	17	52.9	64.7	11.8	—	11.8	—	23.5	5.9	5.9	—	5.9

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると、結婚していたが、離婚・死別したで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」「嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした」「生活費を渡してくれない」「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された」の割合が高くなっています。

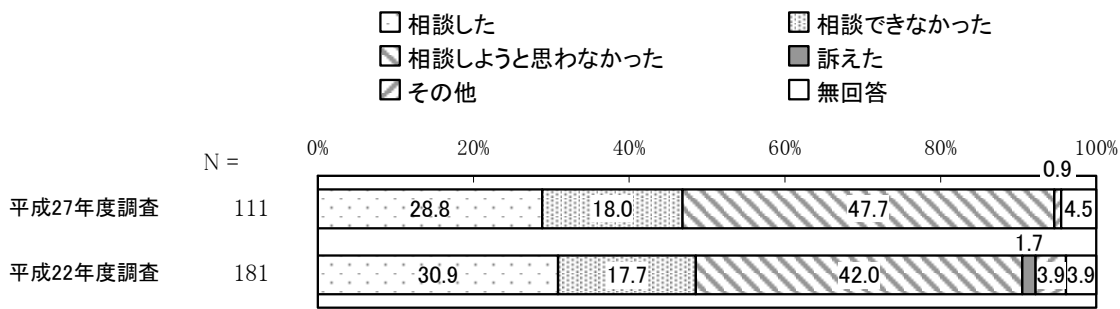
単位：％

区分	有効回答数(件)	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
結婚している	80	37.5	65.0	12.5	10.0	7.5	1.3	15.0	15.0	5.0	2.5	5.0
結婚していたが、離婚・死別した	14	57.1	85.7	7.1	28.6	28.6	—	35.7	42.9	21.4	7.1	7.1
結婚していない	16	18.8	56.3	25.0	12.5	12.5	—	6.3	12.5	6.3	12.5	—

問 22. (問 20 で「1. たびたびある」「2. 1～2度ある」と回答した方に)  
DVを受けた場合に誰かに打ち明けたりしましたか。(○印1つ)

「相談しようと思わなかった」の割合が47.7%と最も高く、次いで「相談した」の割合が28.8%、「相談できなかった」の割合が18.0%となっています。

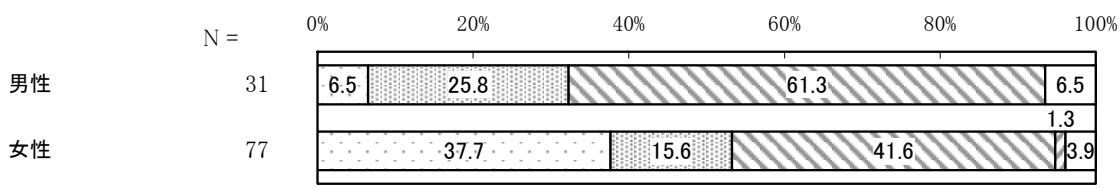
平成22年度調査と比較すると、「相談しようと思わなかった」の割合が5.7ポイント増加しています。



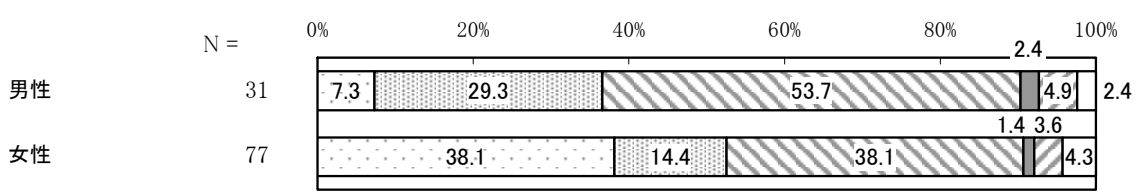
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「相談できなかった」「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「相談した」の割合が高くなっています。

平成22年度調査と比較すると、男性で「相談しようと思わなかった」の割合が7.6ポイント増加しています。

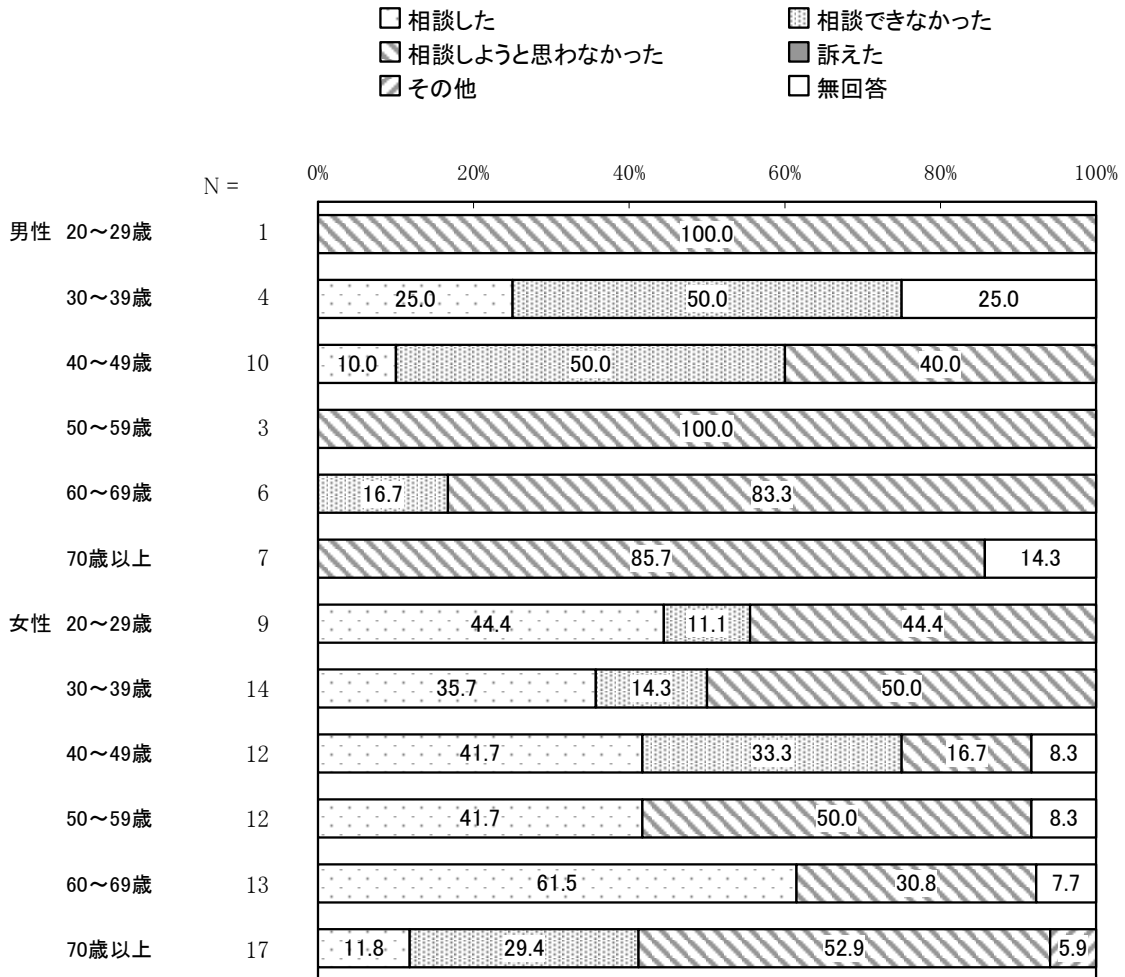


【性別（平成22年度調査）】



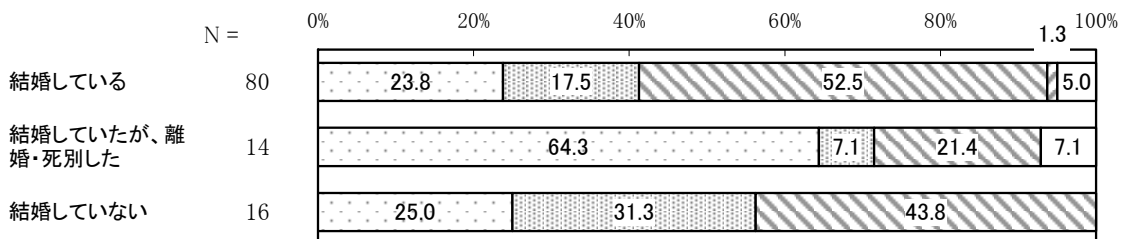
**【性・年齢別】**

性・年齢別で見ると、女性の60～69歳で「相談した」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の40～49歳、70歳以上で「相談できなかった」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、50～59歳、70歳以上で「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。



**【婚姻の有無別】**

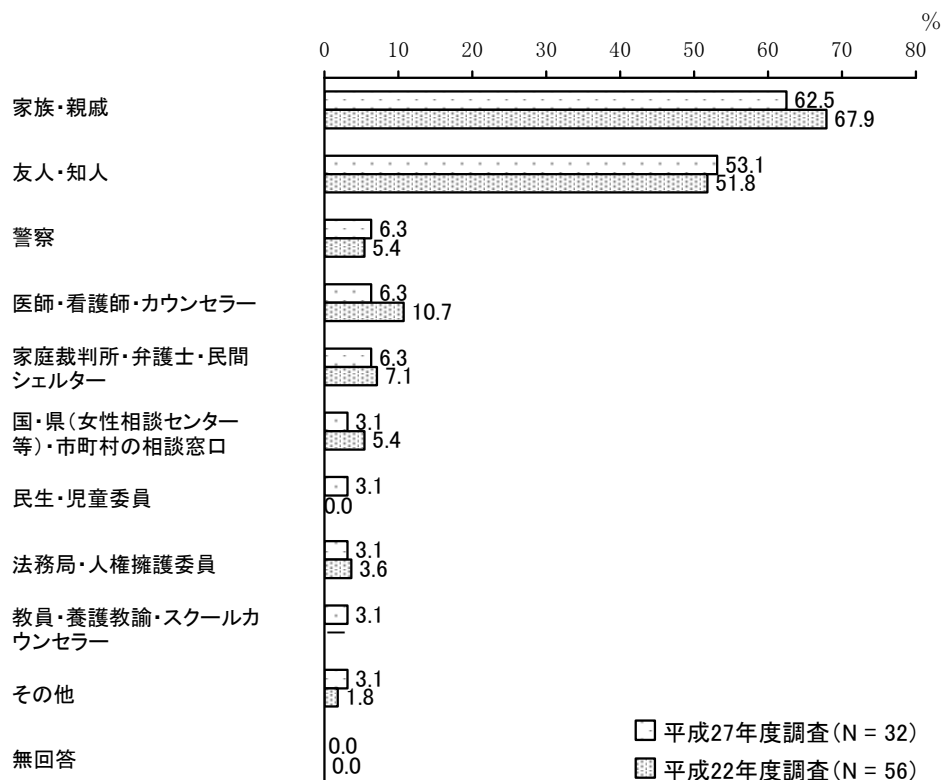
婚姻の有無別で見ると、結婚していたが、離婚・死別したで「相談した」の割合が高くなっています。一方、結婚している、結婚していないで「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。



問 23. (問 22 で「1. 相談した」と回答した方に)  
誰(どこ)に相談しましたか。(〇印いくつでも)

「家族・親戚」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 53.1%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「家族・親戚」の割合が 5.4 ポイント減少しています。「民生・児童委員」が 0%から 3.1%に増加しています。

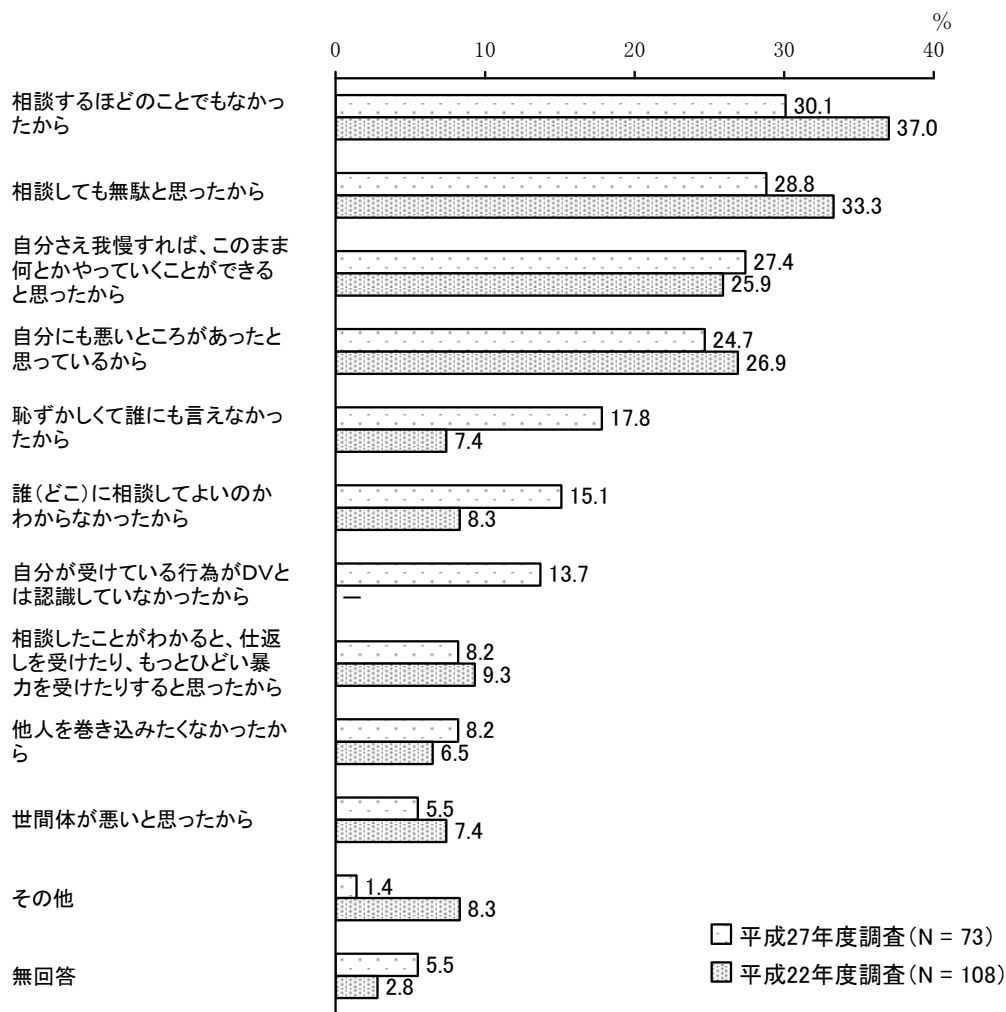




問 24. (問 21 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようと思わなかった」と回答した方に) その理由はなぜですか。(〇印いくつでも)

「相談するほどのことでもなかったから」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「相談しても無駄と思ったから」の割合が 28.8%、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」の割合が 27.4%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」の割合が 10.4 ポイント、「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」の割合が 6.8 ポイント増加しています。一方、「相談するほどのことでもなかったから」の割合が 6.9 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「相談しても無駄と思ったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」「相談するほどのことでもなかったから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあったと思っているから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相談するほどのことでもなかったから	その他	無回答
男性	27	11.1	18.5	33.3	11.1	25.9	3.7	11.1	25.9	18.5	33.3	—	7.4
女性	44	18.2	18.2	27.3	6.8	29.5	6.8	6.8	25.0	11.4	27.3	—	4.5

### 【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると、結婚しているで「相談するほどのことでもなかったから」の割合が高くなっています。また、結婚していないで「相談しても無駄と思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから」「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」「世間体が悪いと思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

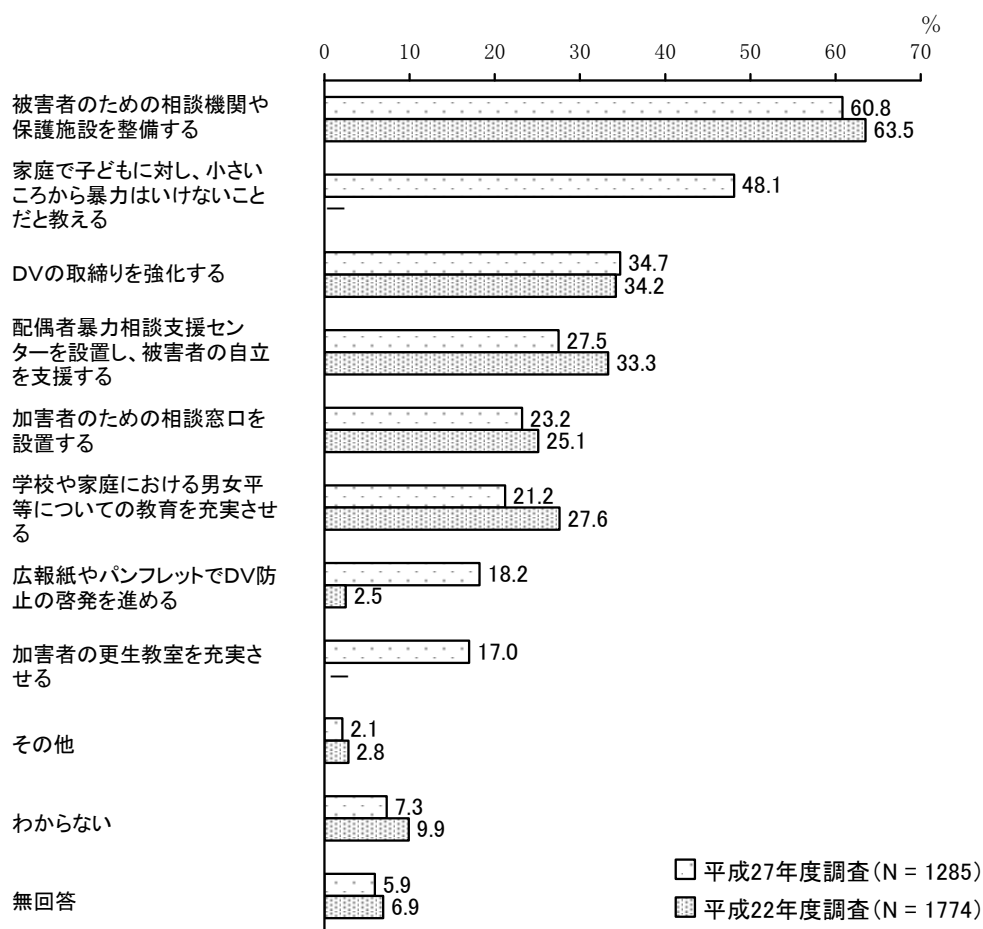
区分	有効回答数(件)	誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあったと思っているから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相談するほどのことでもなかったから	その他	無回答
結婚している	56	14.3	17.9	23.2	3.6	25.0	1.8	3.6	28.6	10.7	33.9	—	5.4
結婚していたが、離婚・死別した	4	—	—	50.0	—	25.0	—	—	—	—	25.0	—	25.0
結婚していない	12	25.0	25.0	41.7	33.3	41.7	25.0	33.3	16.7	33.3	16.7	8.3	—

問 25. すべての方にお聞きします。

DVを防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が60.8%と最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が48.1%、「DVの取締りを強化する」の割合が34.7%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」の割合が15.7ポイント増加しています。一方、「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」の割合が5.8ポイント、「学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる」の割合が6.4ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	広報紙やパンフレットの啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
男性	568	21.7	37.5	59.5	22.2	25.0	20.6	44.0	14.6	2.5	5.6	6.7
女性	704	15.2	32.5	62.1	24.1	29.8	21.6	51.1	18.9	1.8	8.7	5.1

## 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の70歳以上で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」の割合が高くなっています。男性の20～49歳、女性の20～29歳で「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～59歳で「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で「加害者のための相談窓口を設置する」の割合が高くなっています。女性の40～49歳、60～69歳で「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳で「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	22.2	55.6	58.3	27.8	19.4	33.3	41.7	27.8	—	8.3	5.6
30～39歳	75	12.0	45.3	57.3	18.7	17.3	17.3	32.0	18.7	2.7	4.0	5.3
40～49歳	109	22.9	40.4	63.3	25.7	26.6	17.4	35.8	12.8	4.6	7.3	3.7
50～59歳	93	17.2	37.6	63.4	24.7	19.4	12.9	48.4	17.2	2.2	5.4	4.3
60～69歳	122	22.1	31.1	65.6	22.1	27.9	21.3	45.9	9.8	3.3	4.9	6.6
70歳以上	133	28.6	31.6	49.6	18.0	30.8	26.3	53.4	12.8	0.8	5.3	12.0
女性 20～29歳	62	12.9	43.5	71.0	29.0	24.2	25.8	46.8	33.9	8.1	11.3	—
30～39歳	93	8.6	38.7	54.8	19.4	29.0	18.3	52.7	26.9	2.2	9.7	—
40～49歳	124	7.3	39.5	78.2	29.0	35.5	21.8	46.0	26.6	1.6	6.5	1.6
50～59歳	93	12.9	30.1	67.7	26.9	22.6	20.4	48.4	17.2	1.1	6.5	2.2
60～69歳	170	20.6	29.4	65.3	24.7	34.7	22.4	57.6	12.9	0.6	5.9	4.1
70歳以上	161	21.7	23.6	44.1	19.3	27.3	21.7	50.3	9.9	1.2	13.0	15.5

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別で見ると、結婚していないで「DVの取締りを強化する」「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：%

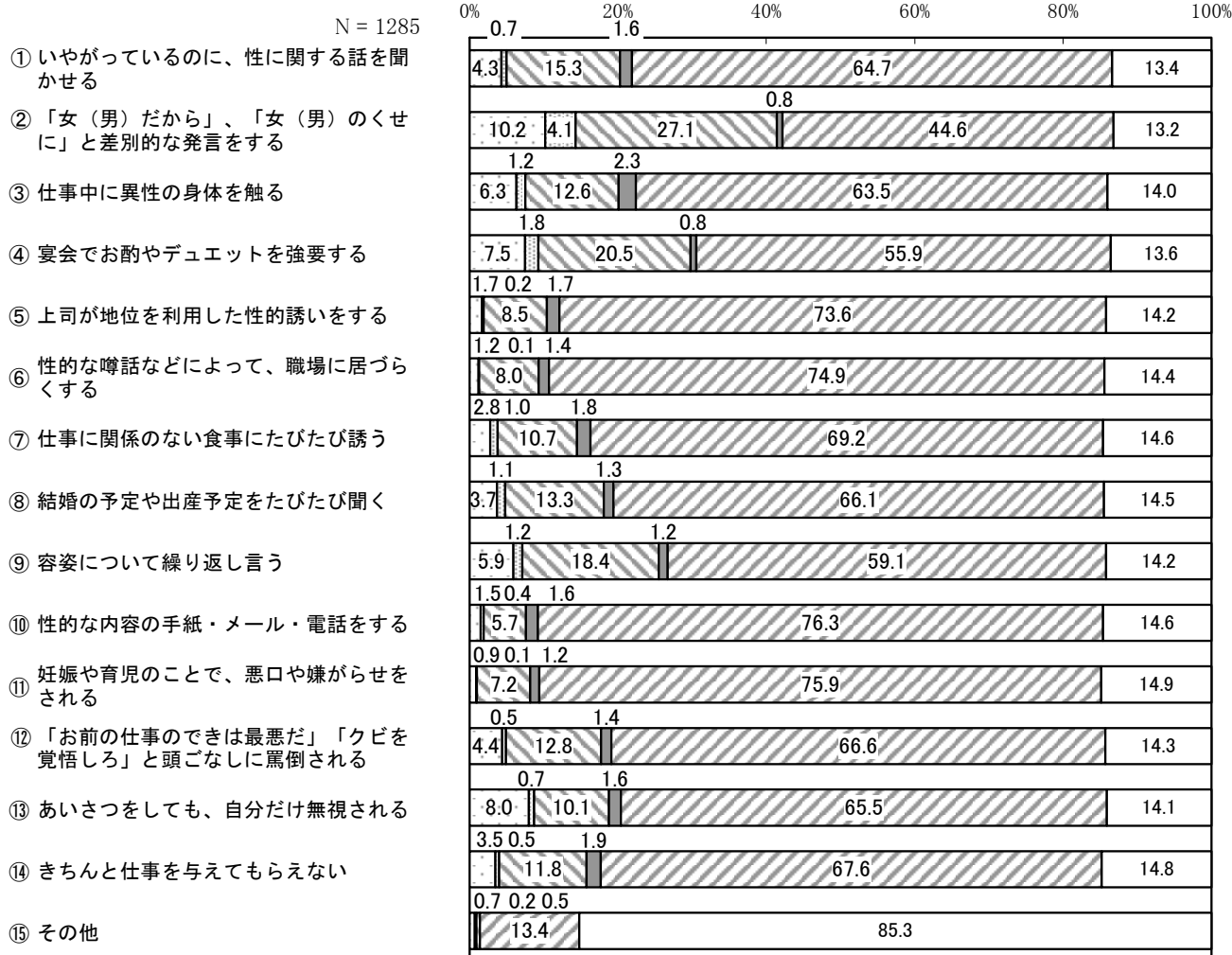
区分	有効回答数(件)	広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
結婚している	938	18.9	33.3	62.4	23.0	29.5	21.7	50.1	17.3	1.9	6.4	5.2
結婚していたが、離婚・死別した	141	17.0	34.8	55.3	21.3	27.7	17.7	53.9	9.2	2.1	10.6	7.8
結婚していない	186	16.7	41.9	58.6	24.7	17.7	21.5	36.0	22.6	3.2	9.7	5.9

## (7) セクシュアル・ハラスメントについて

問 26. あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。  
(○印①～⑮の項目ごとに1つずつ)

「受けたことがある」で「② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」の割合が1割を超えています。「見聞きしたことがある」で「② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」「④ 宴会でお酌やデュエットを強要する」の割合が2割を超えています。

受けたことがある  
 見聞きしたことがある  
 周りにはいないと思う  
 したことがある  
 相談を受けたことがある  
 無回答

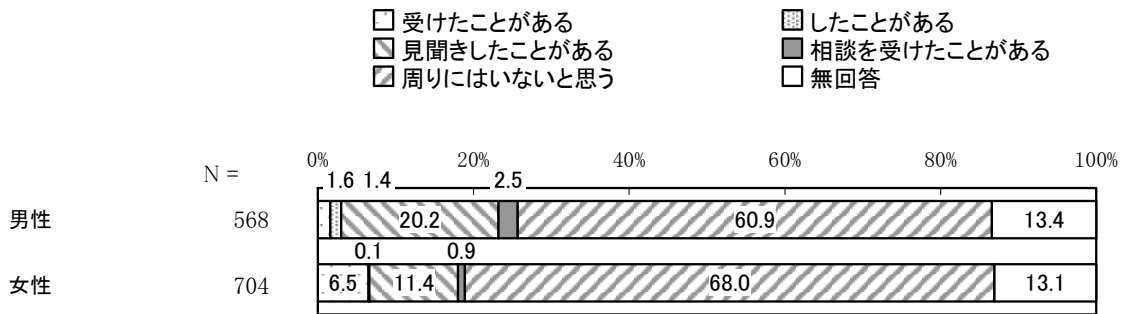




① いやがっているのに、性に関する話を聞かせる

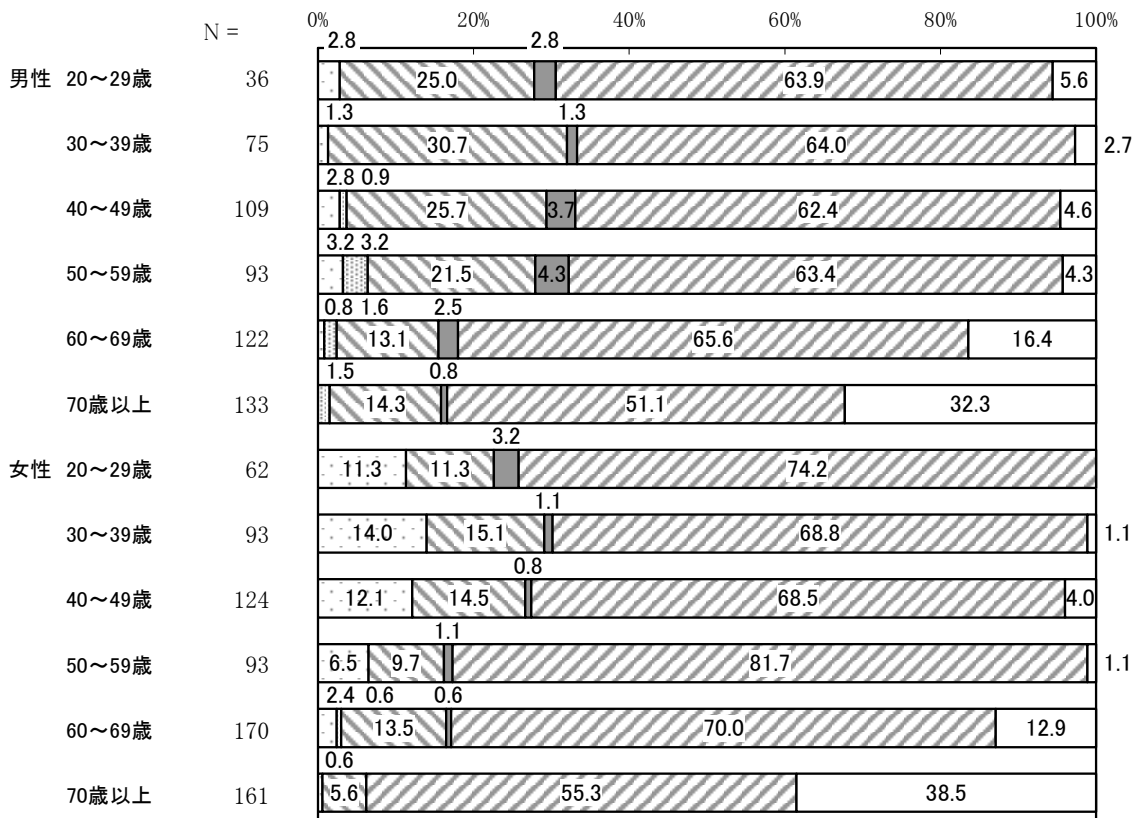
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

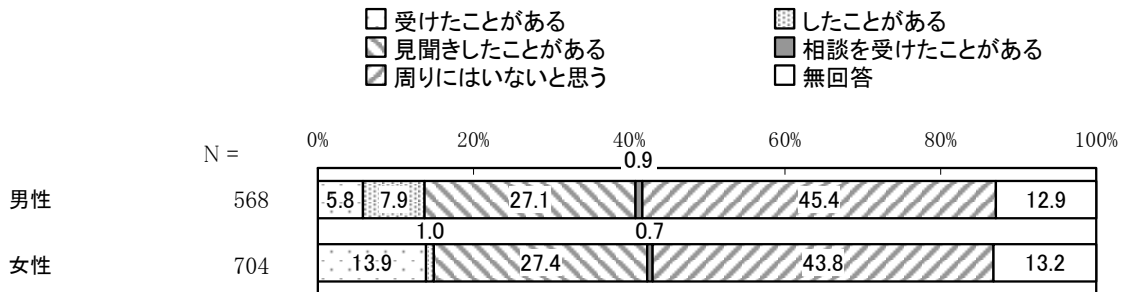
性・年齢別でみると、女性の20～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、50～59歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする

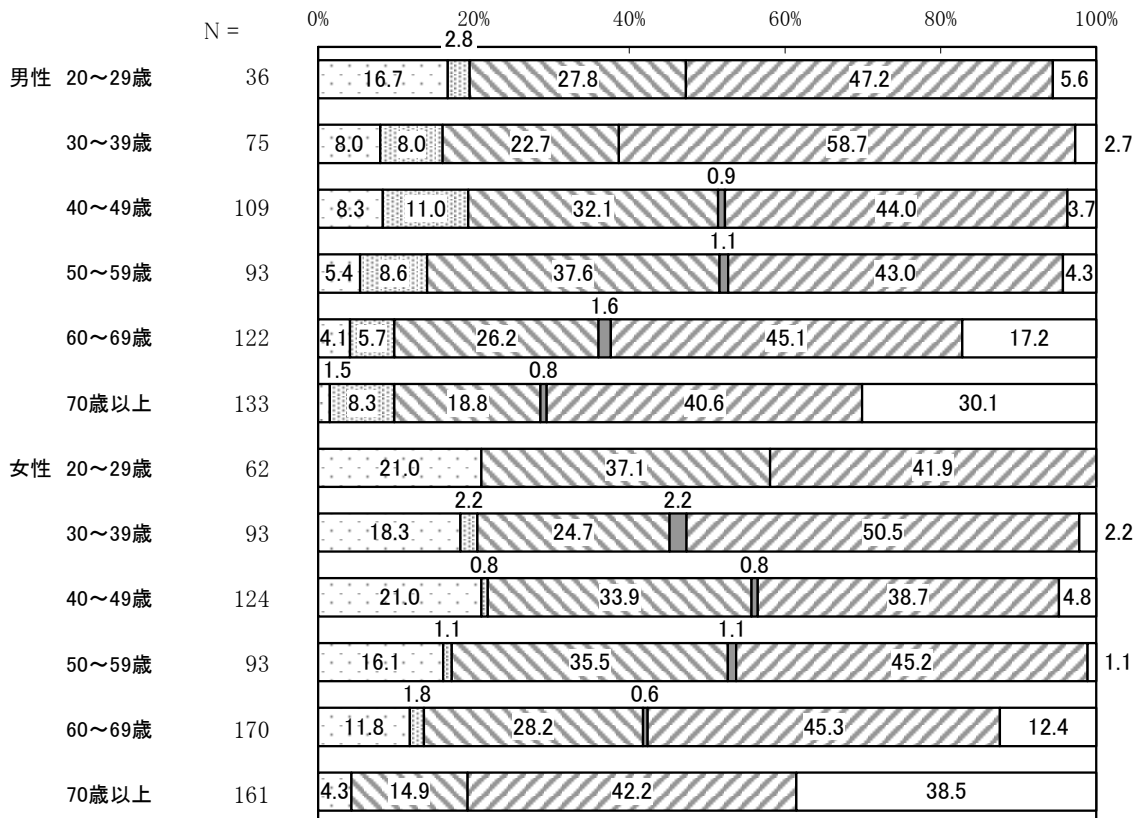
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

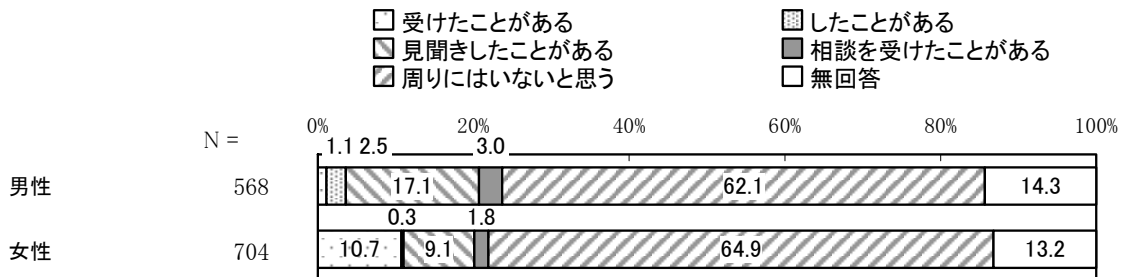
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「したことがある」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の20～29歳、40～59歳で「聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の30～39歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



### ③ 仕事中に異性の身体を触る

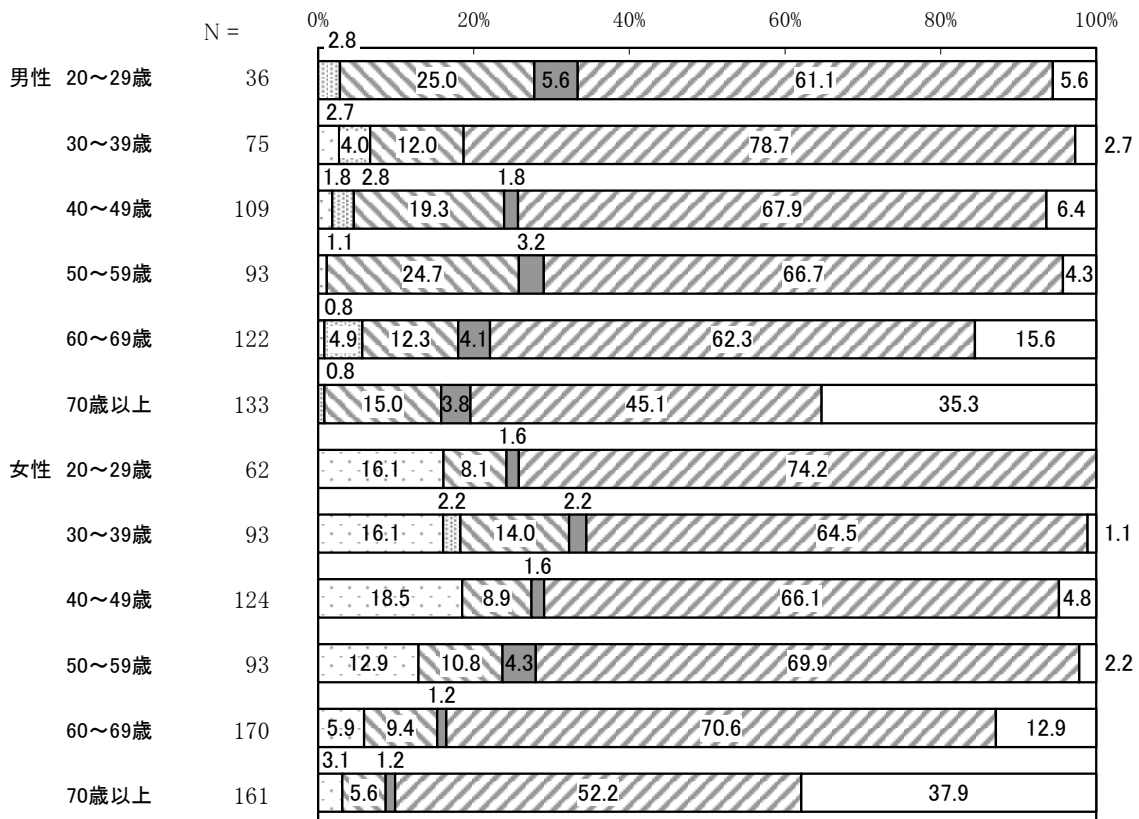
#### 【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



#### 【性・年齢別】

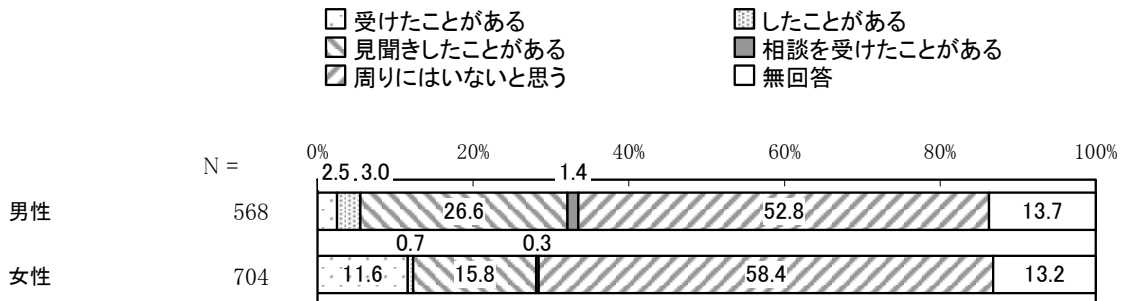
性・年齢別でみると、女性の20～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～29歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



④ 宴会でお酌やデュエットを強要する

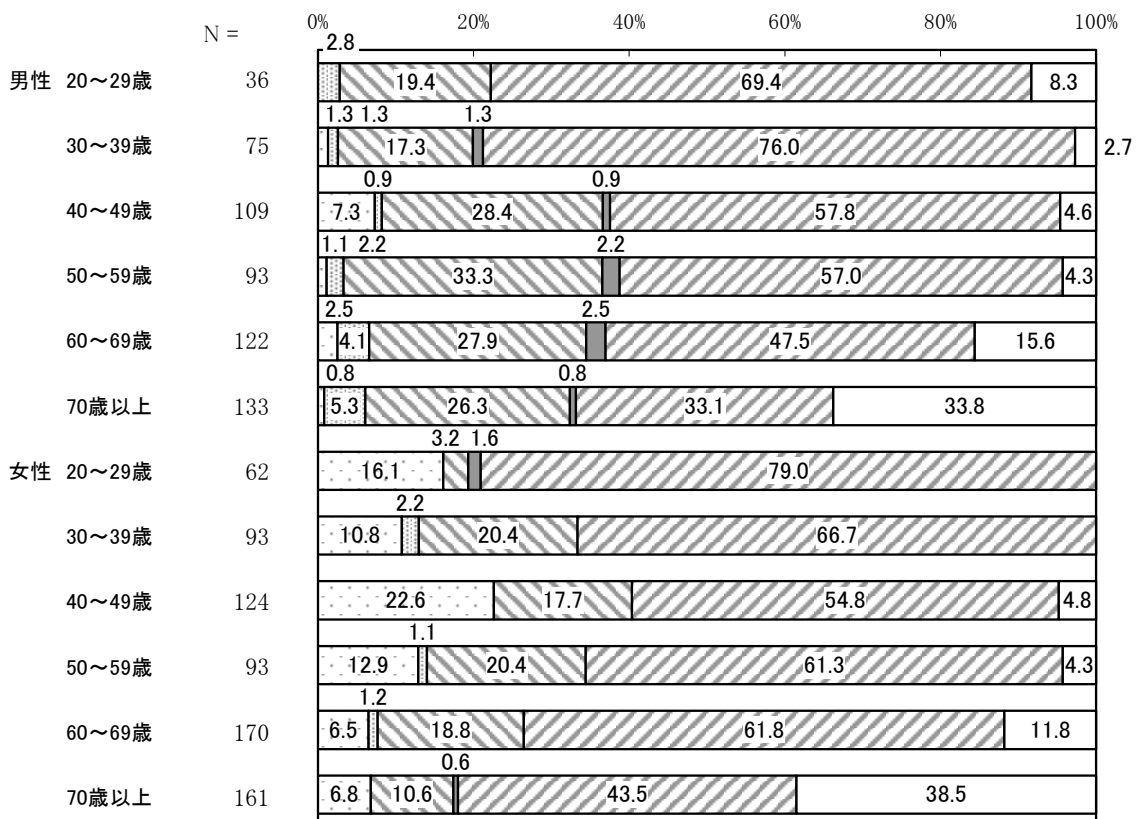
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

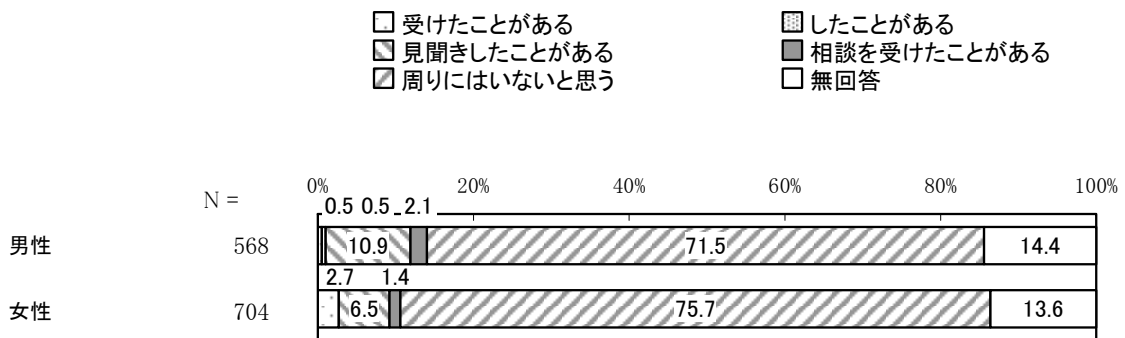
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の40歳以上で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、女性の20～39歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑤ 上司が地位を利用した性的誘いをする

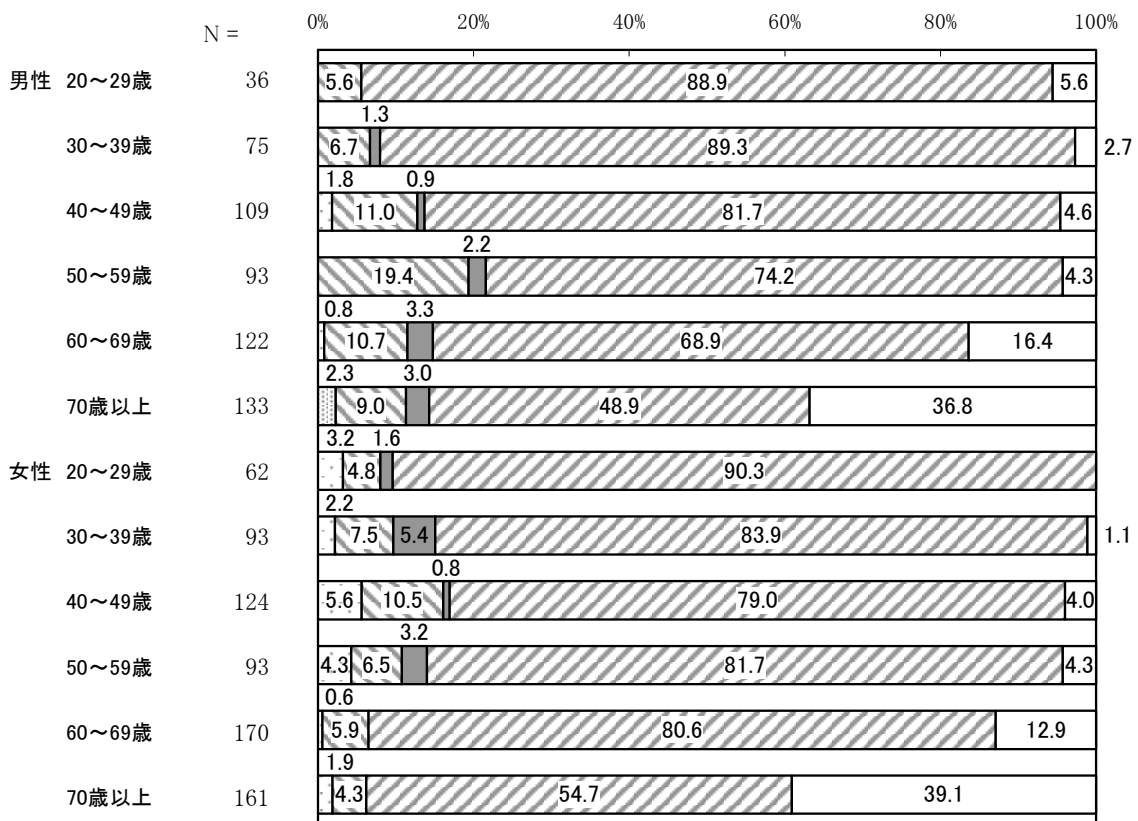
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

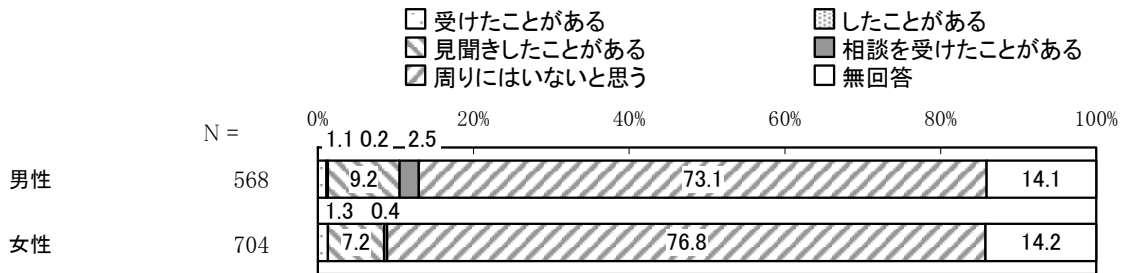
性・年齢別でみると、男性の 50～59 歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の 20～49 歳、女性の 20～69 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑥ 性的な噂話などによって、職場に居づらくする

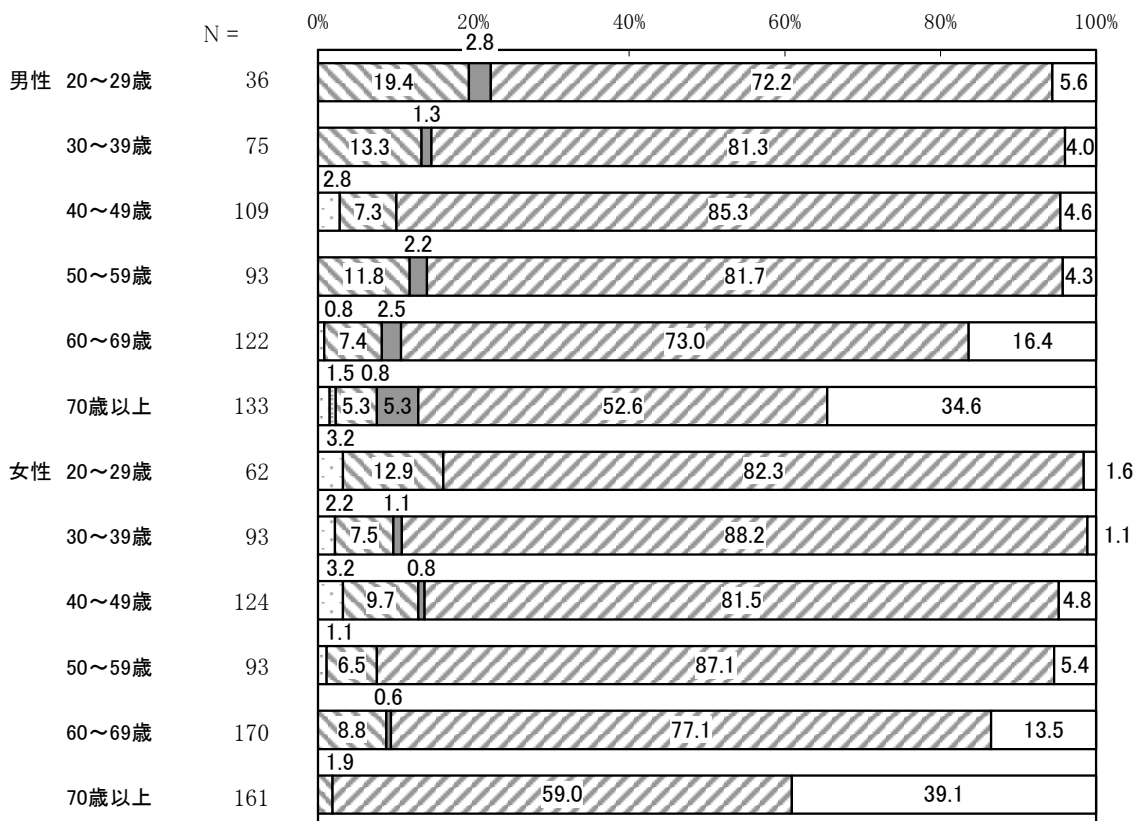
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

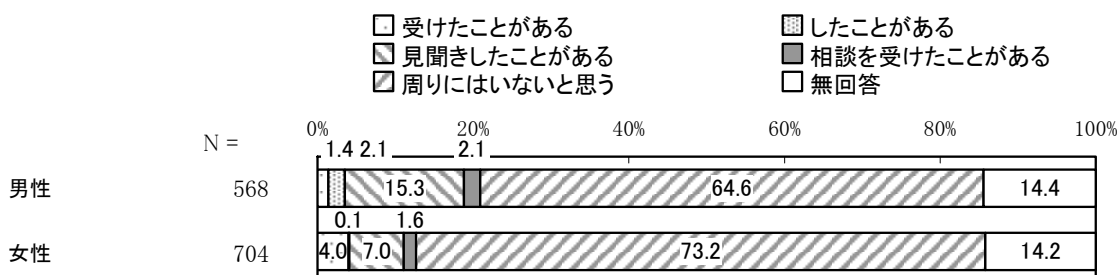
性・年齢別でみると、男性の20～39歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～59歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑦ 仕事に関係のない食事にたびたび誘う

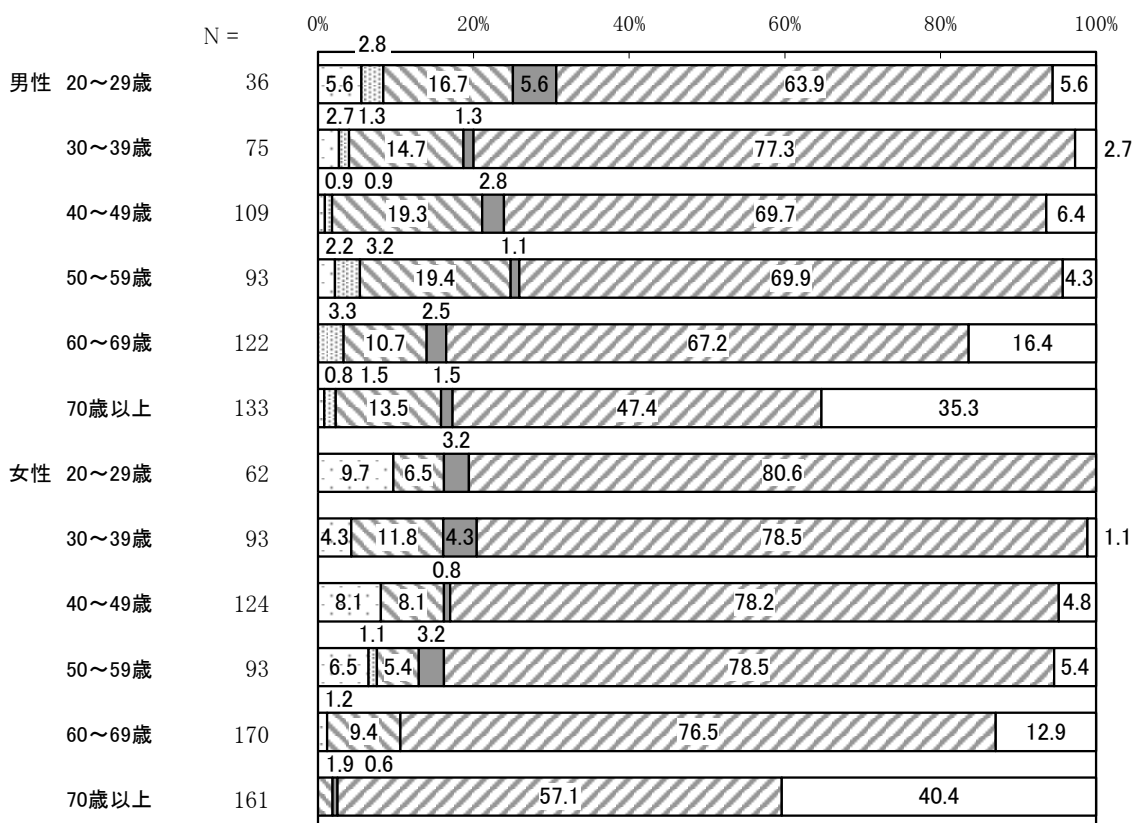
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

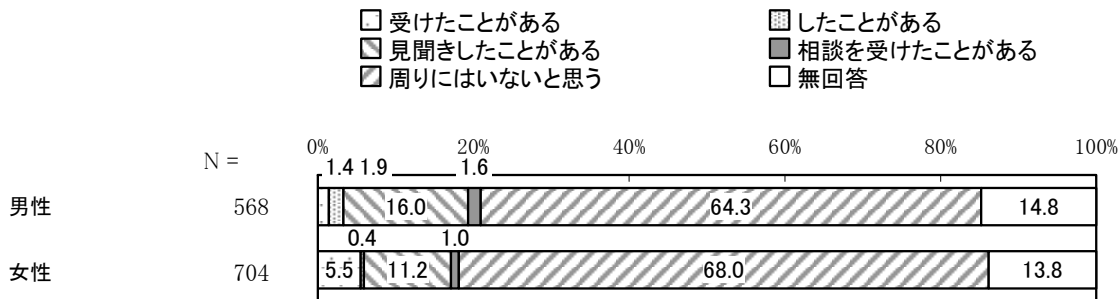
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑧ 結婚の予定や出産予定をたびたび聞く

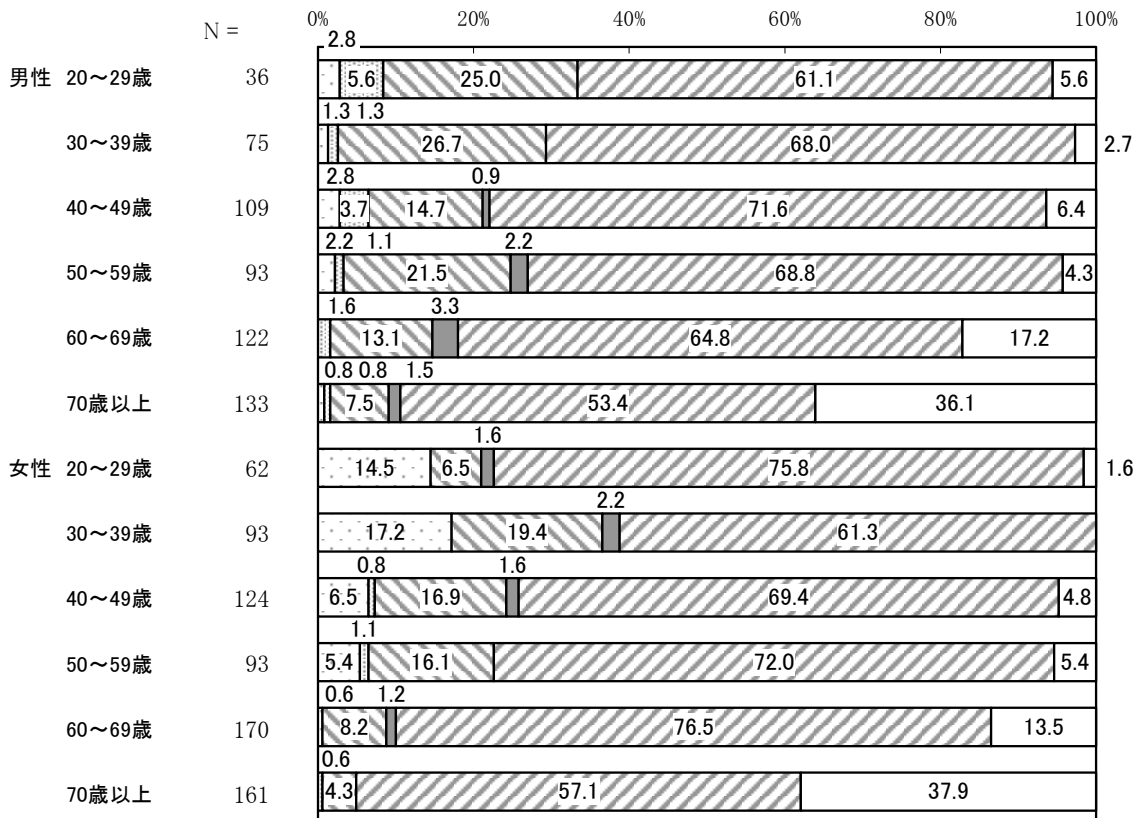
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～39歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、50～59歳、女性の30～39歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の20～29歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。

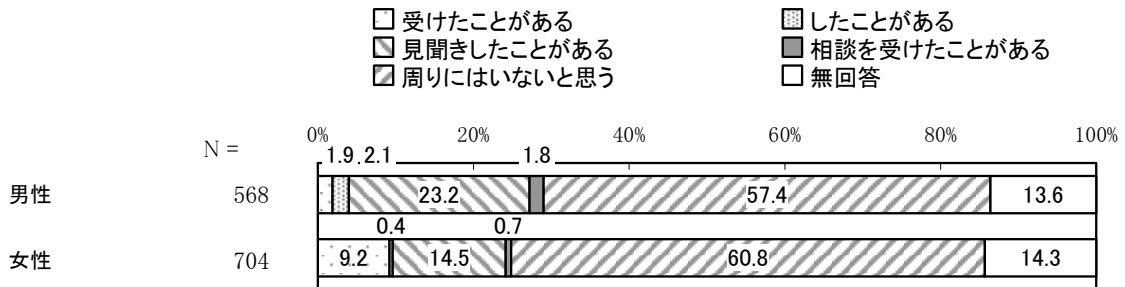




⑨ 容姿について繰り返し言う

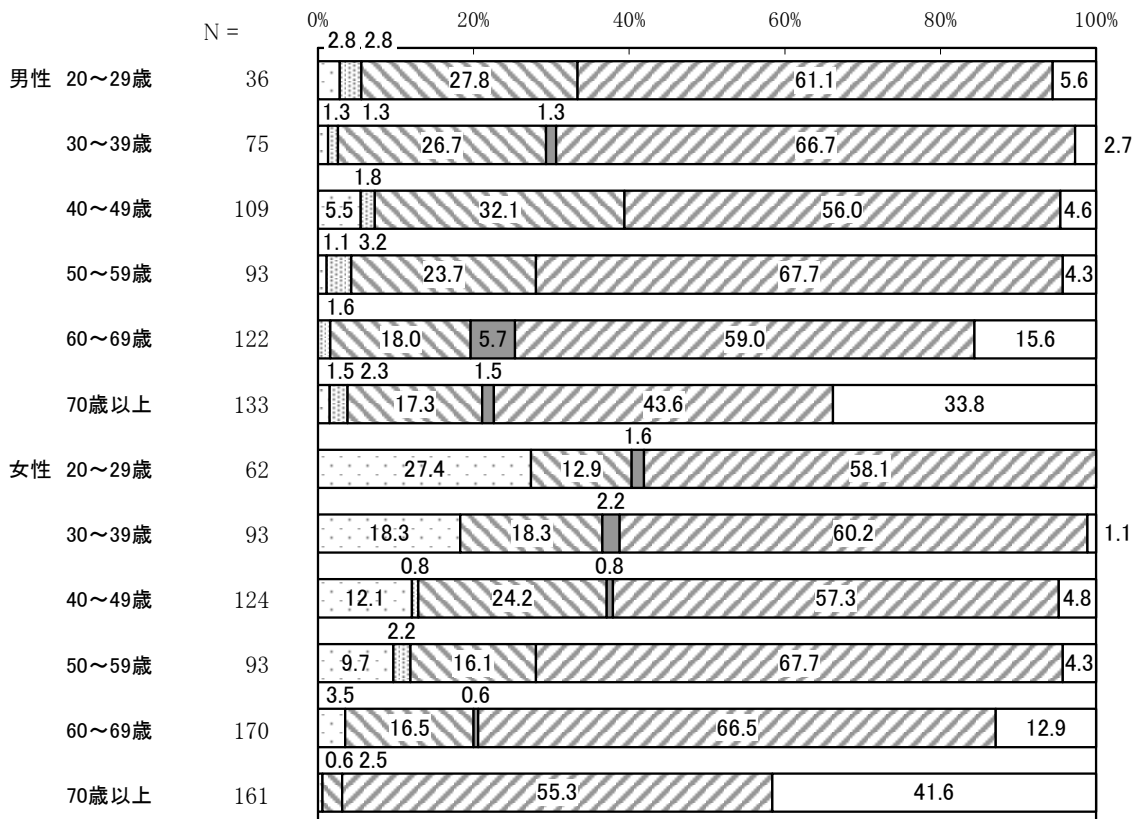
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

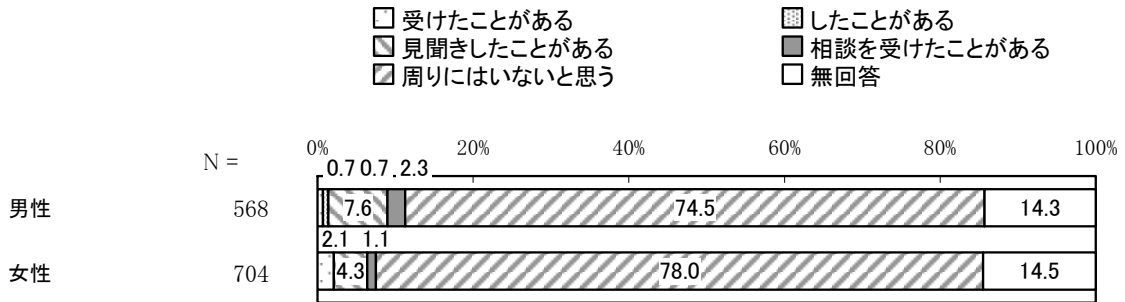
性・年齢別でみると、女性の20～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の40～49歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、50～59歳、女性の50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑩ 性的な内容の手紙・メール・電話をする

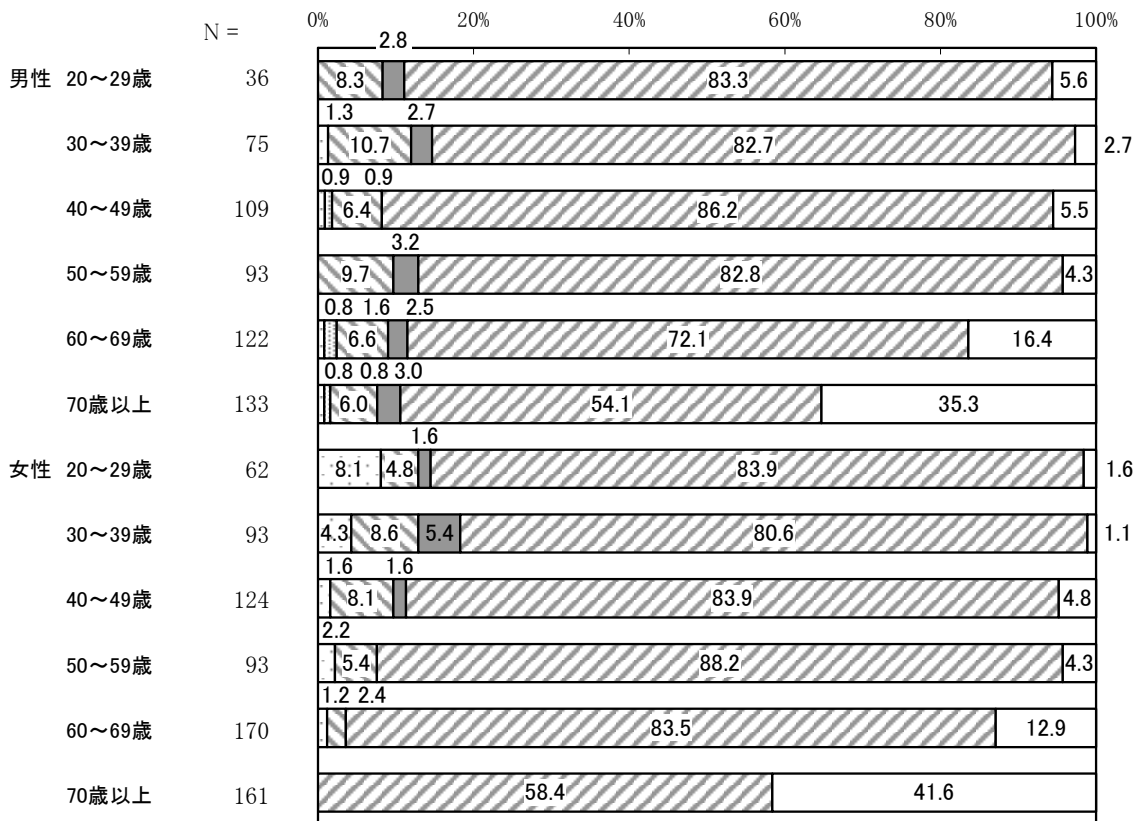
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

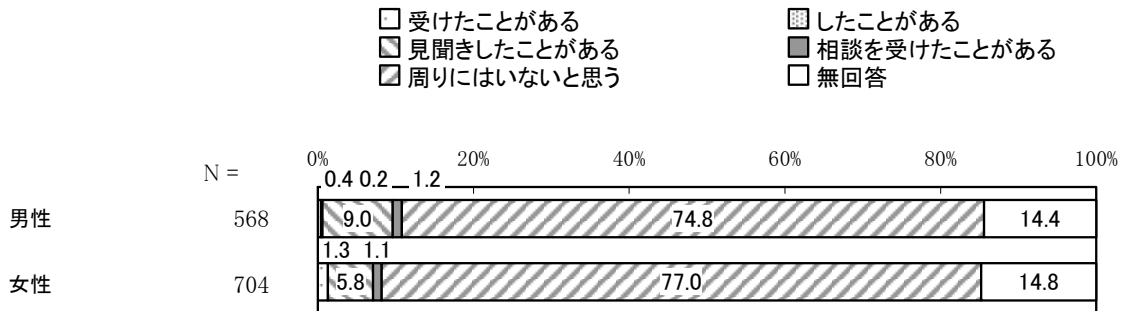
性・年齢別でみると、女性の20～29歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の20～29歳、40～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑪ 妊娠や育児のことで、悪口や嫌がらせをされる

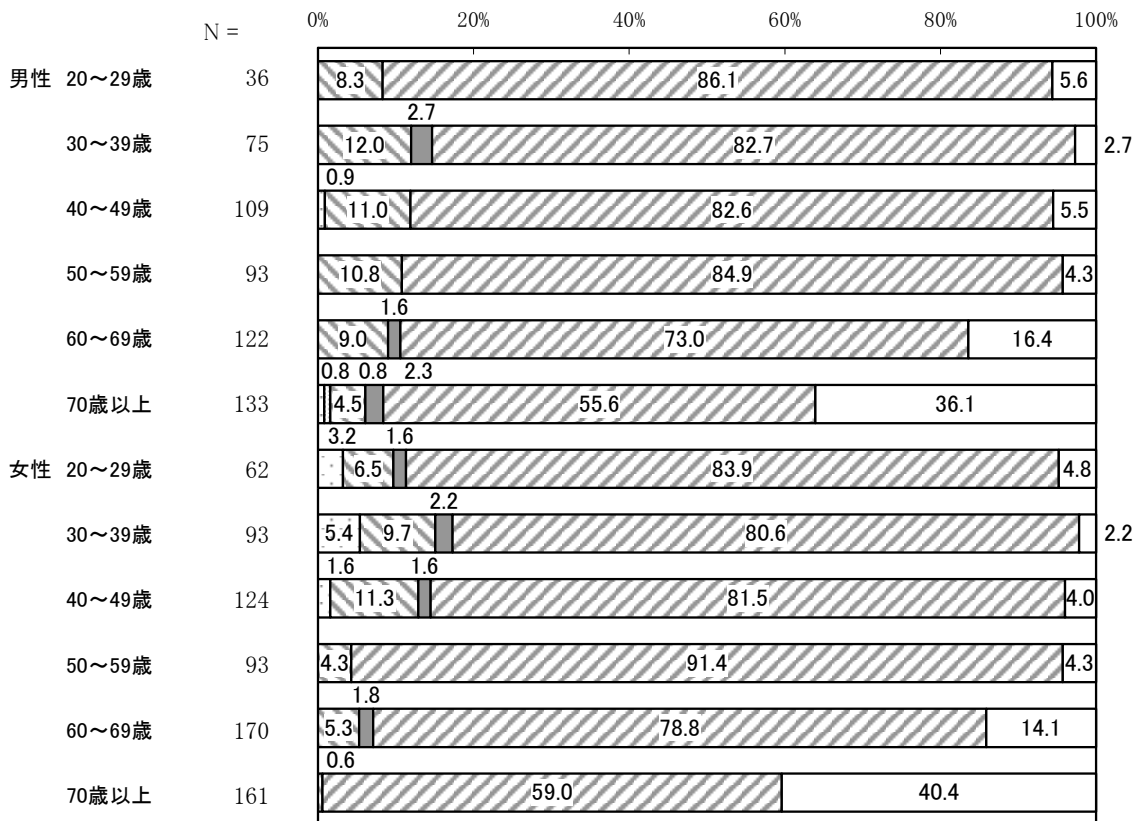
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

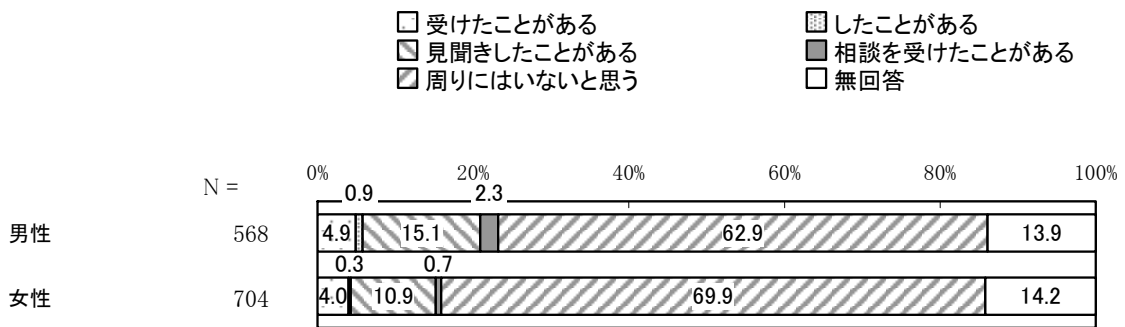
性・年齢別でみると、男性の20～59歳、女性の20～29歳、40～59歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑫ 「お前の仕事のできは最悪だ」「クビを覚悟しろ」と頭ごなしに罵倒される

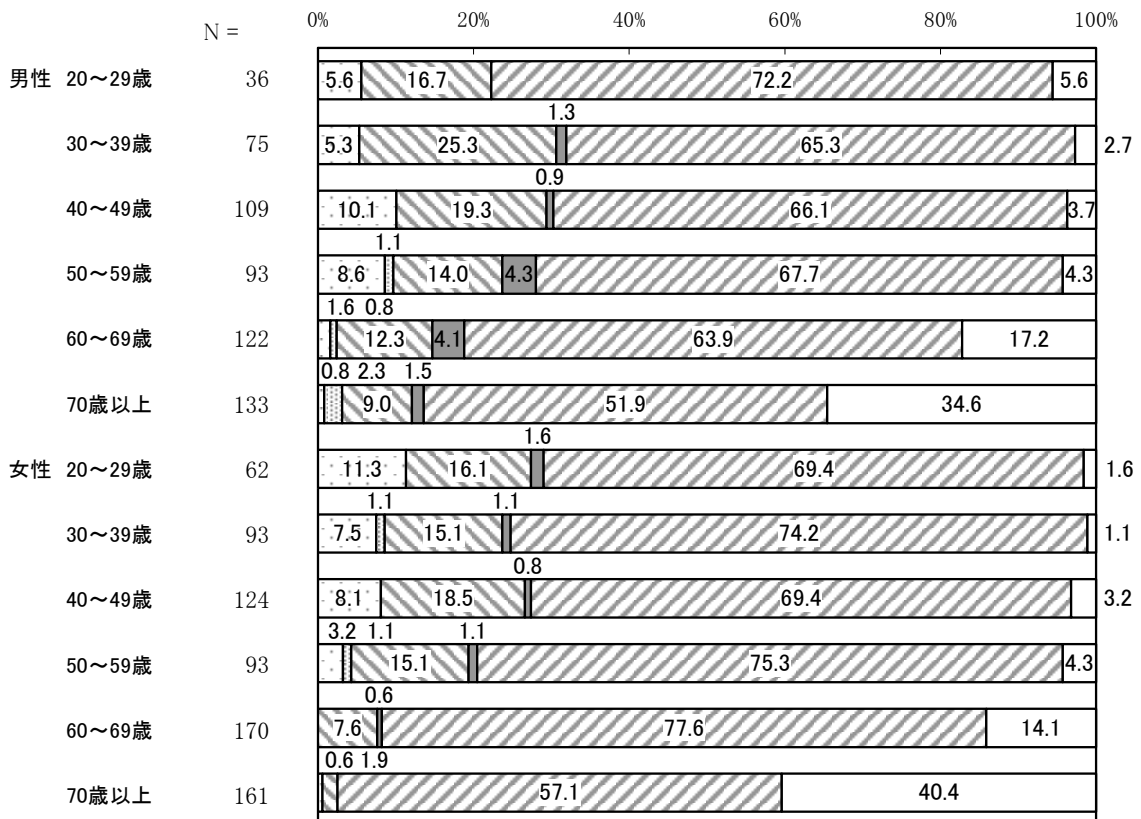
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

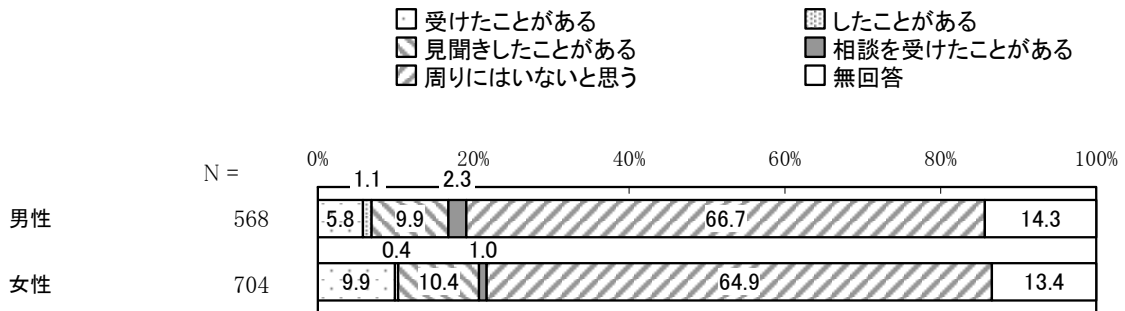
性・年齢別でみると、男性の40～49歳、女性の20～29歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、女性の40～49歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の30～39歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑬ あいさつをしても、自分だけ無視される

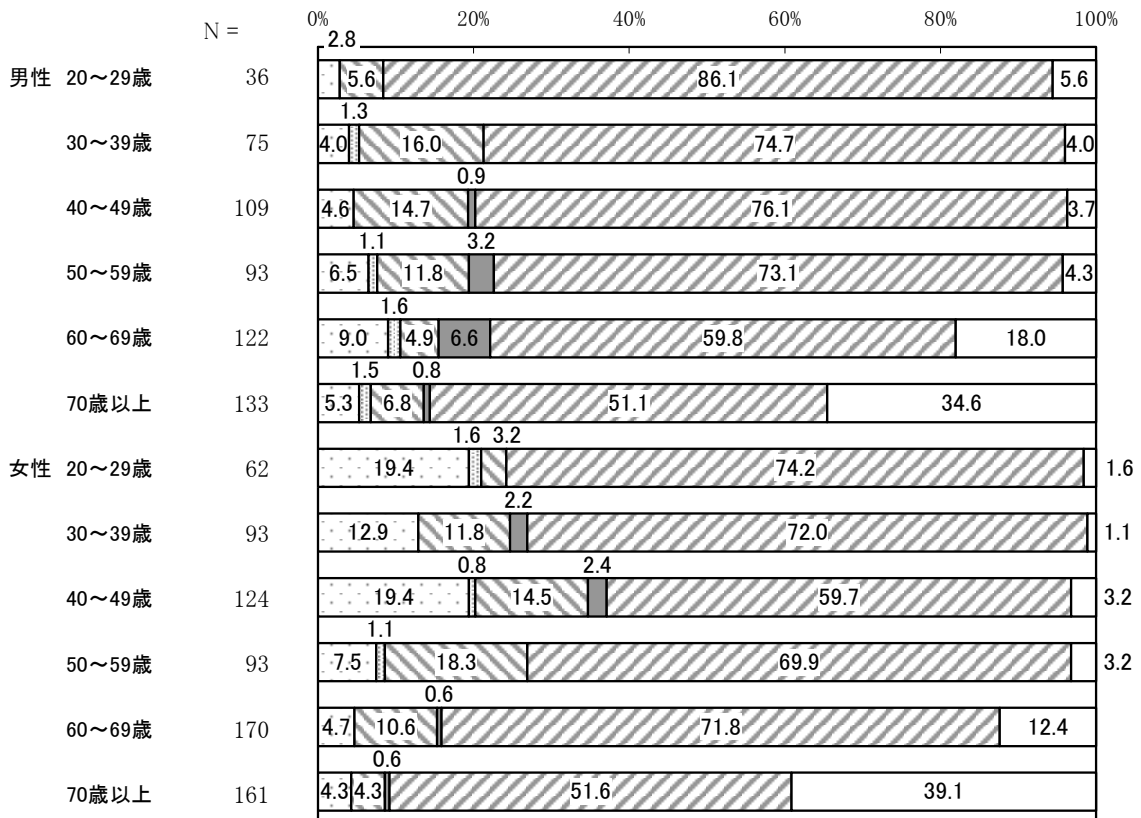
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

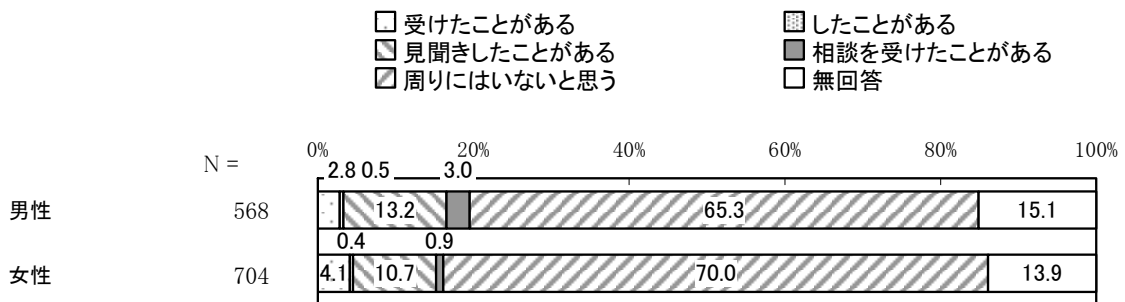
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の50～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「相談を受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の20～39歳、60～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑭ きちんと仕事を与えてもらえない

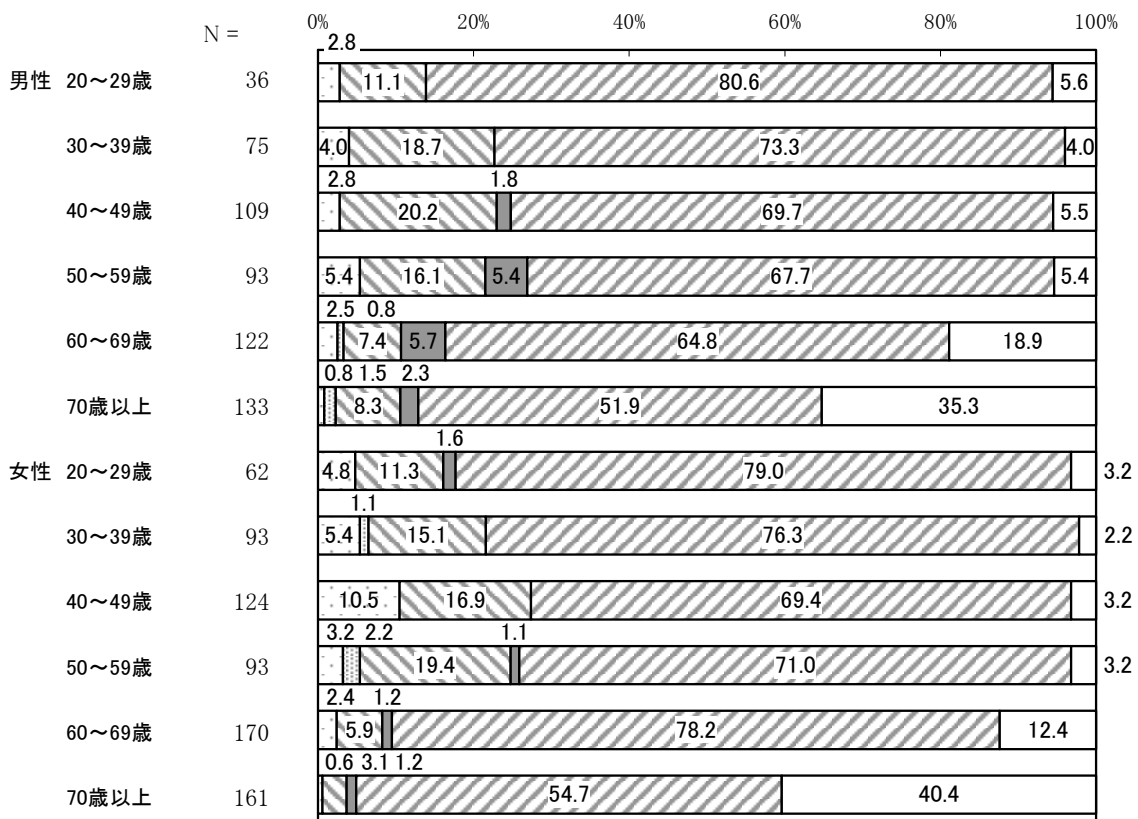
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

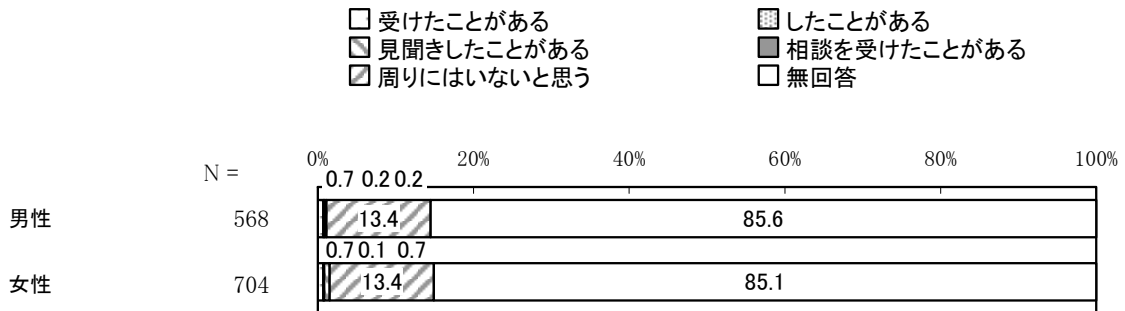
性・年齢別でみると、女性の 40～49 歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の 30～49 歳、女性の 40～59 歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の 20～39 歳、女性の 20～39 歳、60～69 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑮ その他

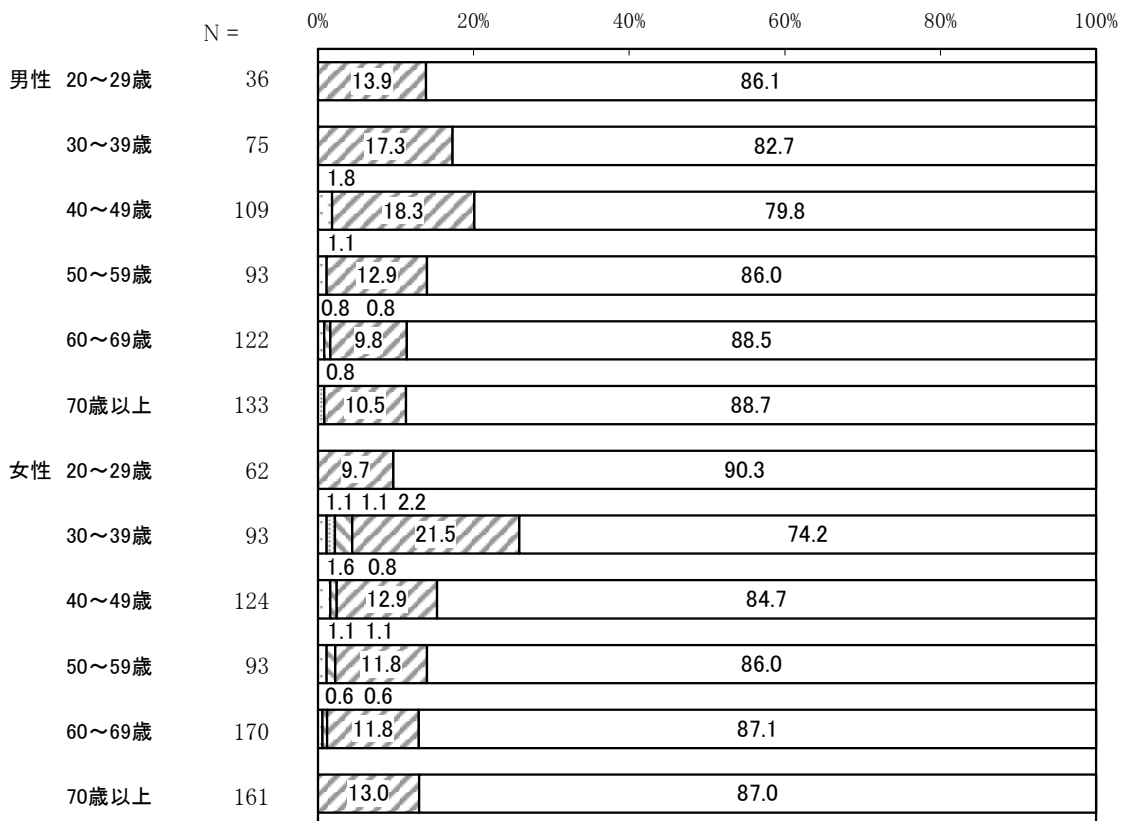
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

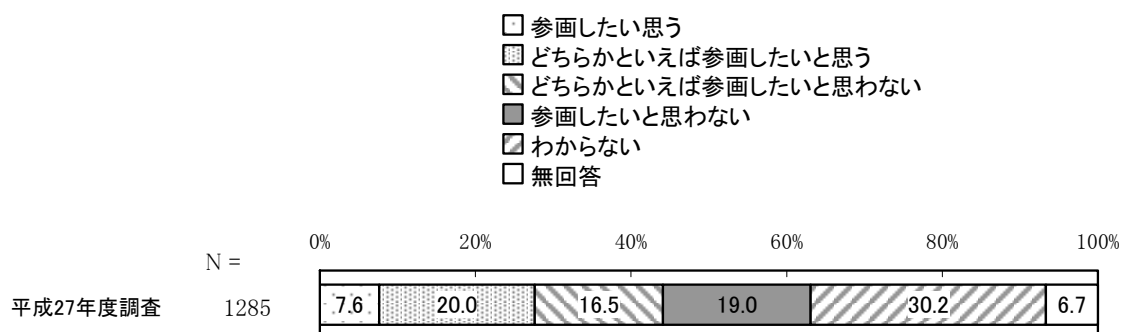
性・年齢別で見ると、女性の 30～39 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



## (8) 社会参画について

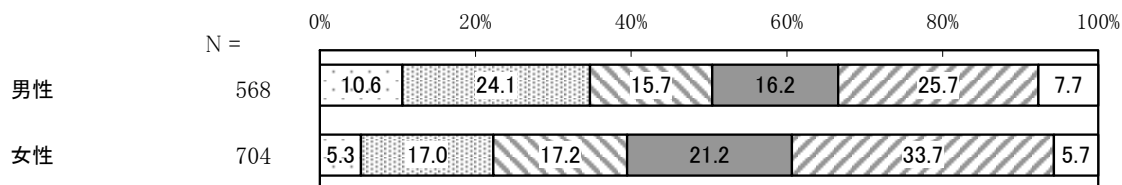
問 27. あなたは、地域・職場などにおいて、方針決定の場へ参画したいと思いますか。  
(○印は1つ)

「わからない」の割合が30.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が20.0%、「参画したいと思わない」の割合が19.0%となっています。



### 【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「参画したいと思う」「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「参画したいと思わない」「わからない」の割合が高くなっています。

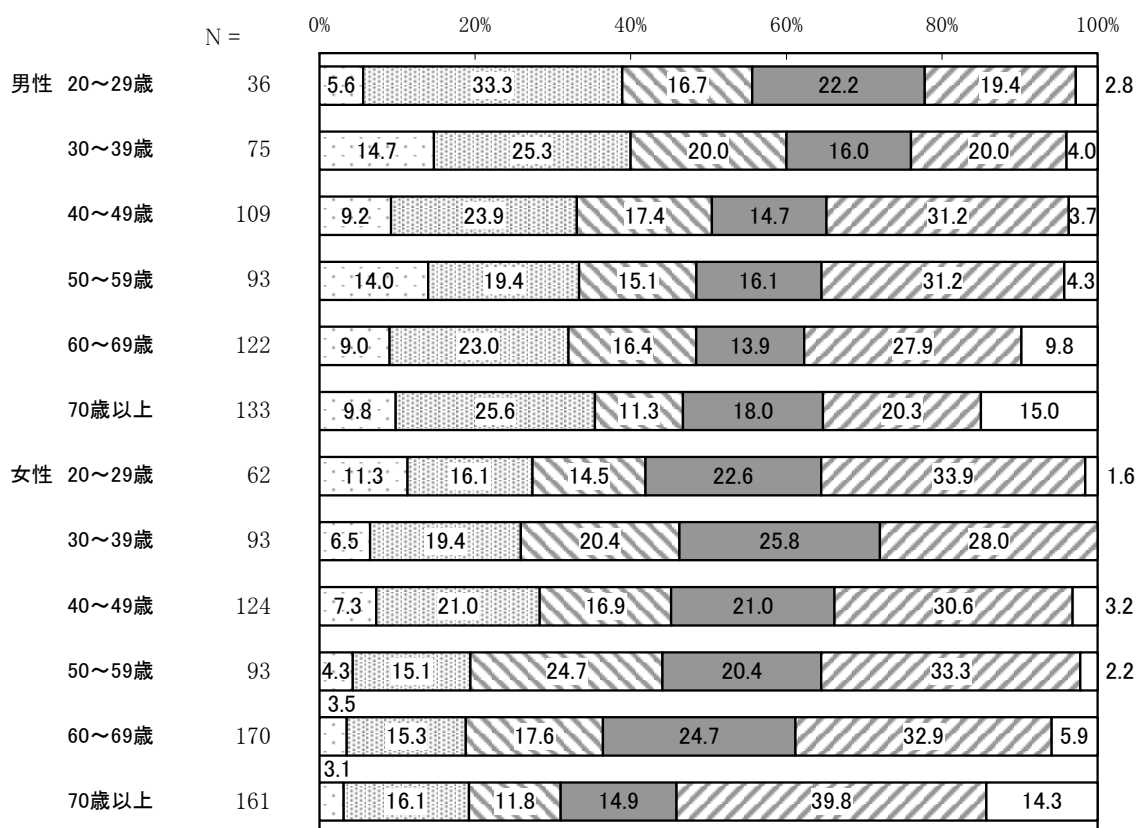




【性・年齢別】

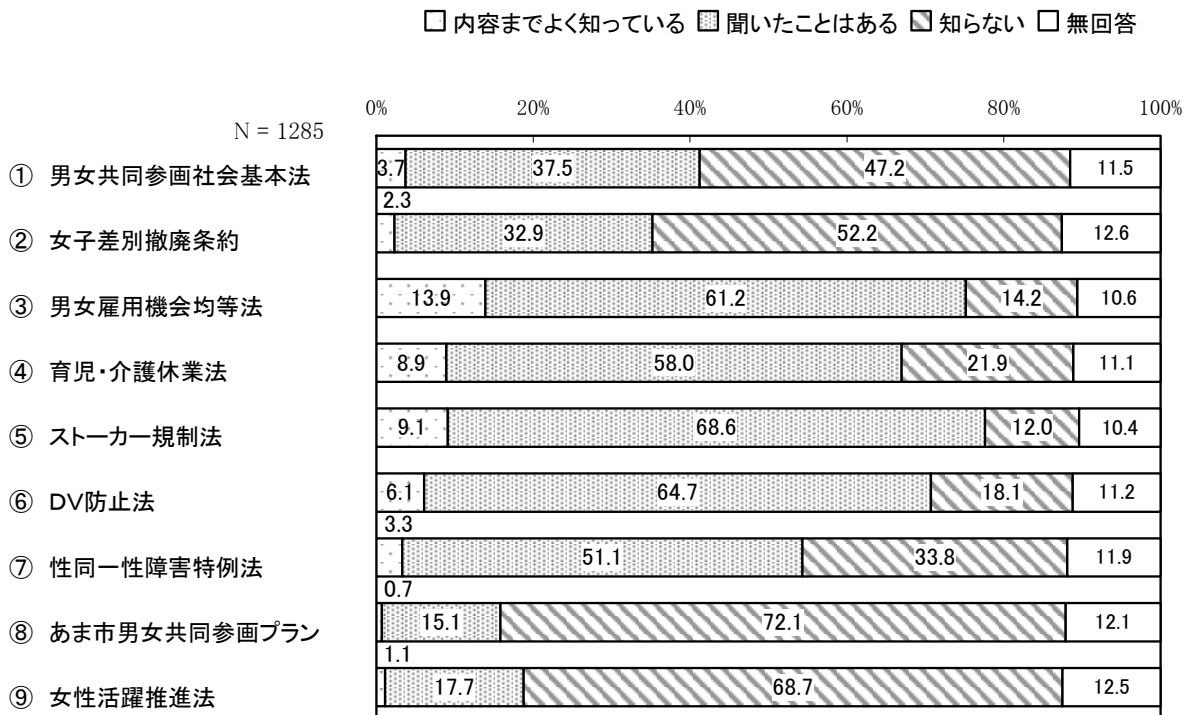
性・年齢別で見ると、男性の30～39歳、50～59歳で「参画したい思う」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、70歳以上で「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「どちらかといえば参画したいと思わない」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「参画したいと思わない」の割合が高くなっています。

- 参画したい思う
- ▨ どちらかといえば参画したいと思う
- ▩ どちらかといえば参画したいと思わない
- 参画したいと思わない
- ▧ わからない
- 無回答



問 28. 現在、男女平等参画社会の実現に向けて、法律や制度等の整備が進んでいます。  
 あなたは、次のような法律等についてご存じですか。  
 (○印①～⑨の項目ごとに1つずつ)

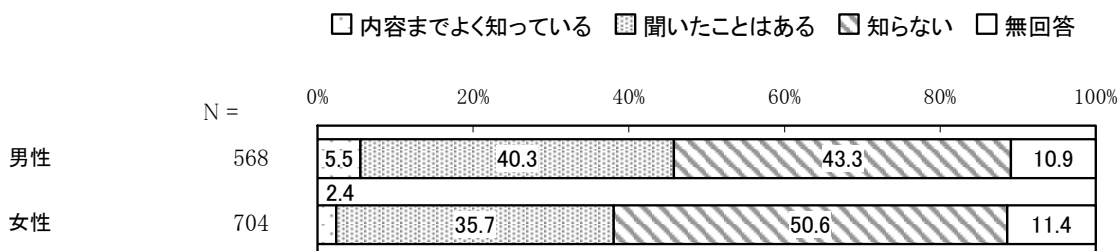
「知らない」の割合が、①男女共同参画社会基本法で47.2%、②女子差別撤廃条約で52.2%、  
 ⑧あま市男女共同参画プランで72.1%、⑨女性活躍推進法で68.7%となっています。



① 男女共同参画社会基本法

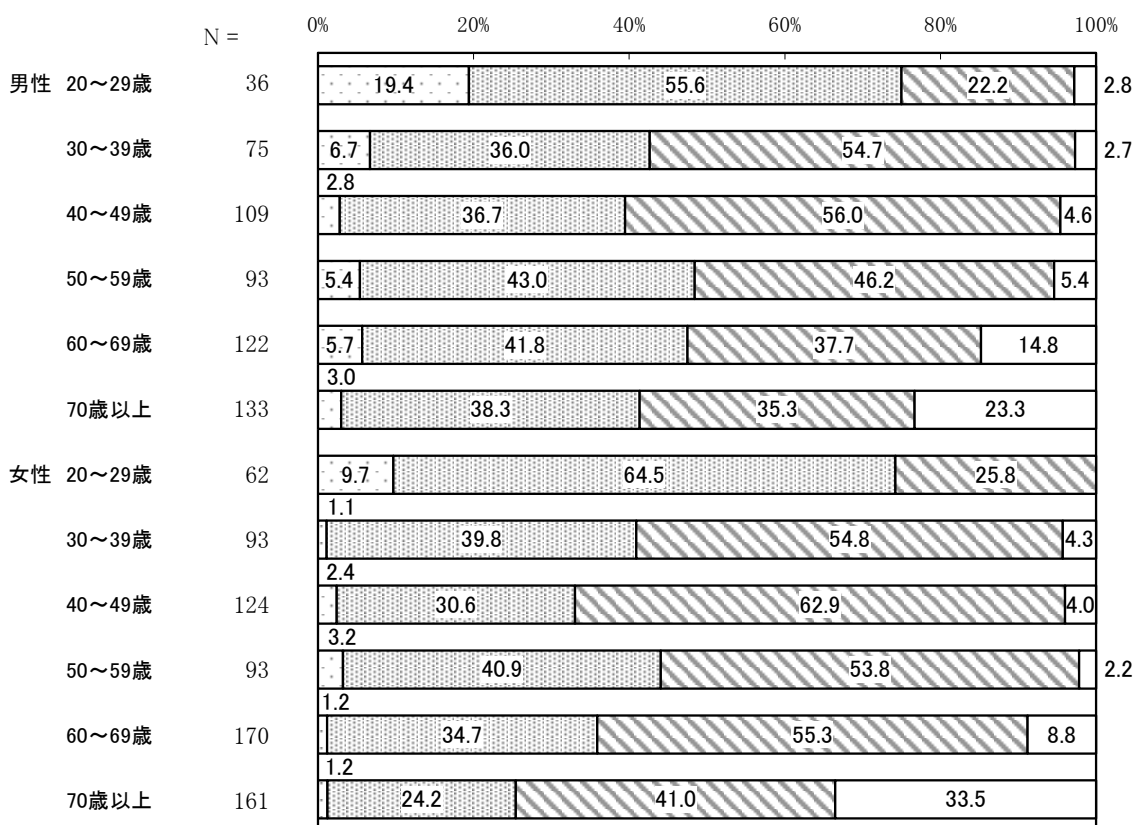
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

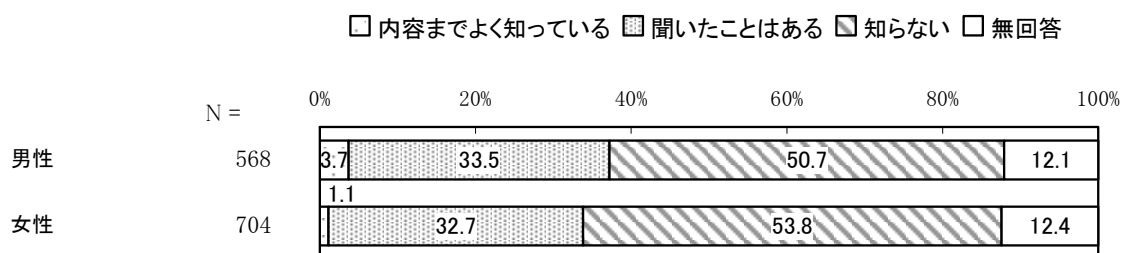
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～29歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、女性の30～69歳で「知らない」の割合が高くなっています。



## ② 女子差別撤廃条約

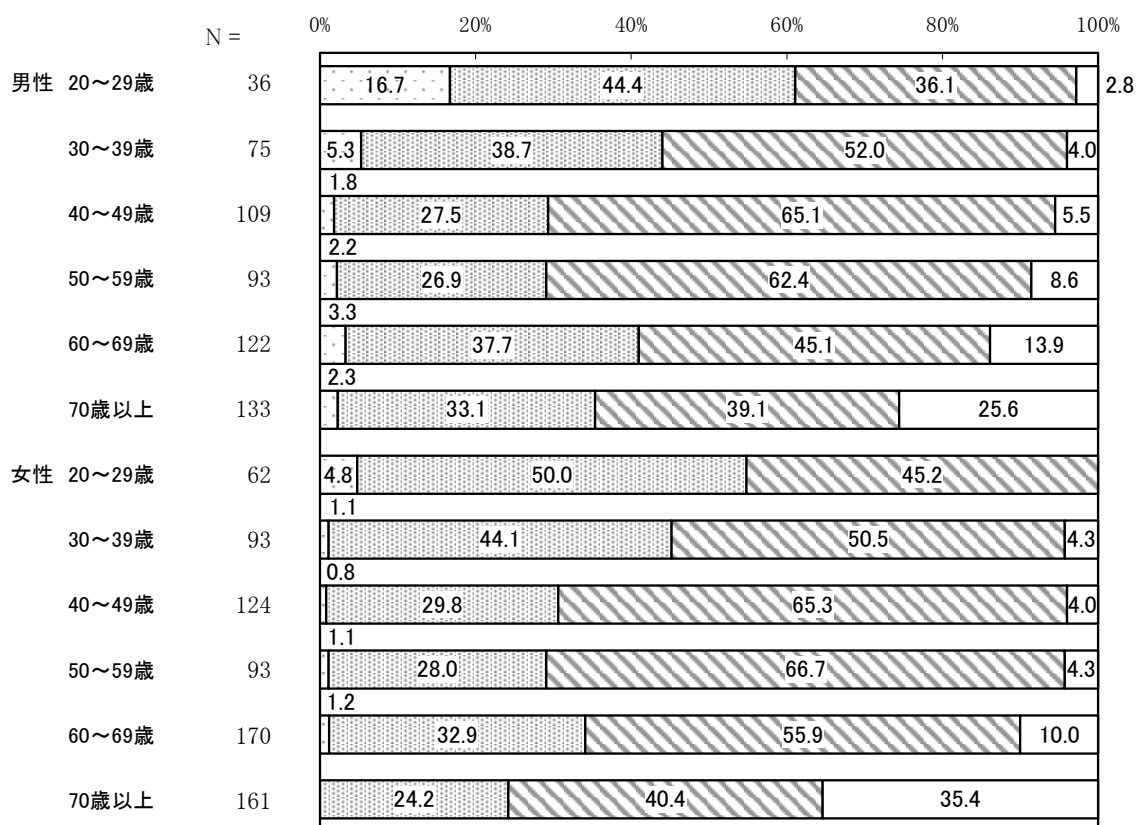
### 【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【性・年齢別】

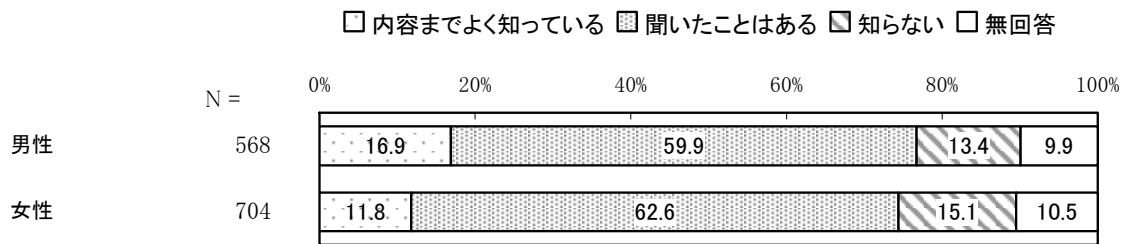
性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、女性の20～39歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の40～59歳で「知らない」の割合が高くなっています。



### ③ 男女雇用機会均等法

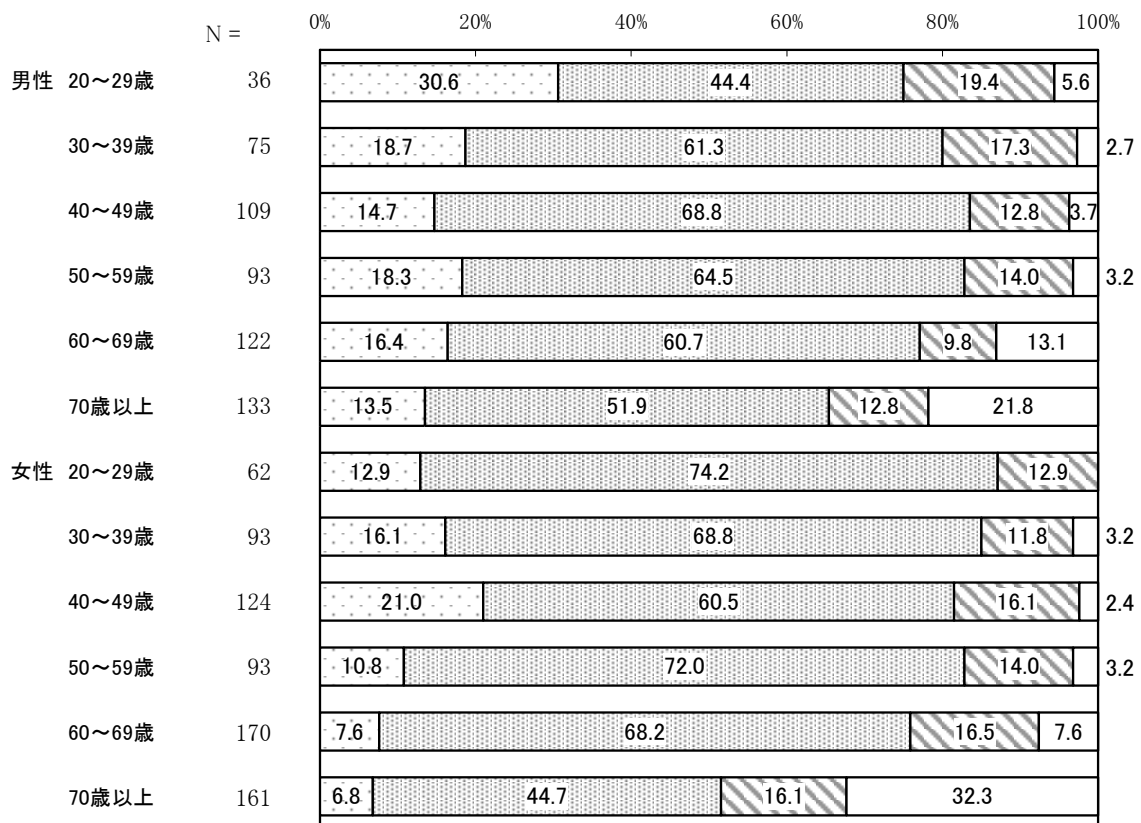
#### 【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。



#### 【性・年齢別】

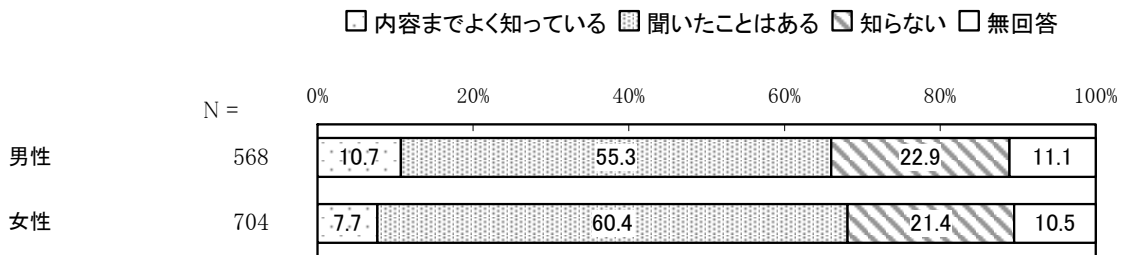
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の40～49歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の20～39歳、50～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



#### ④ 育児・介護休業法

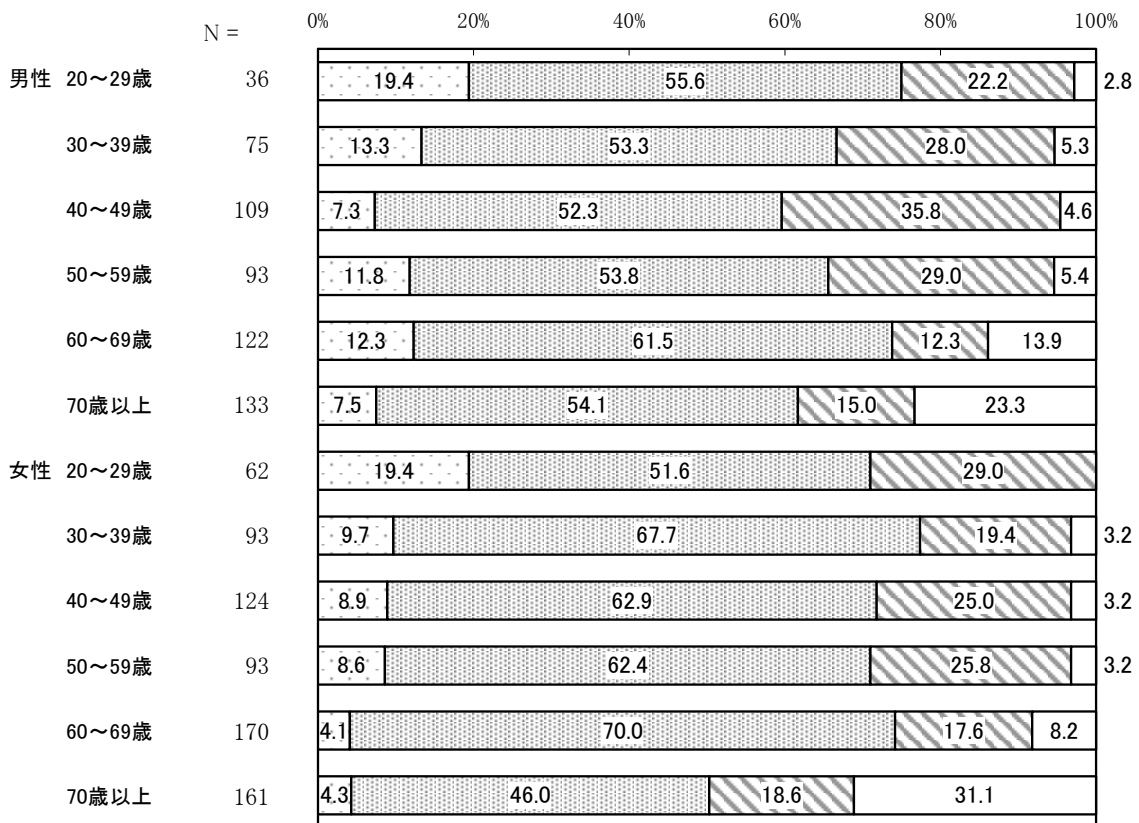
##### 【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。



##### 【性・年齢別】

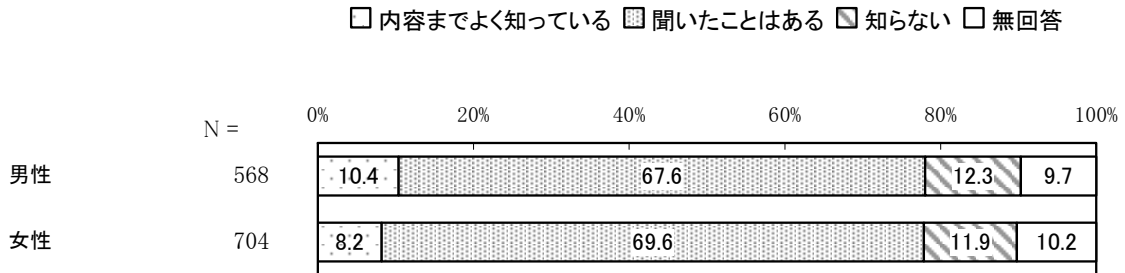
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。女性の60～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑤ ストーカー規制法

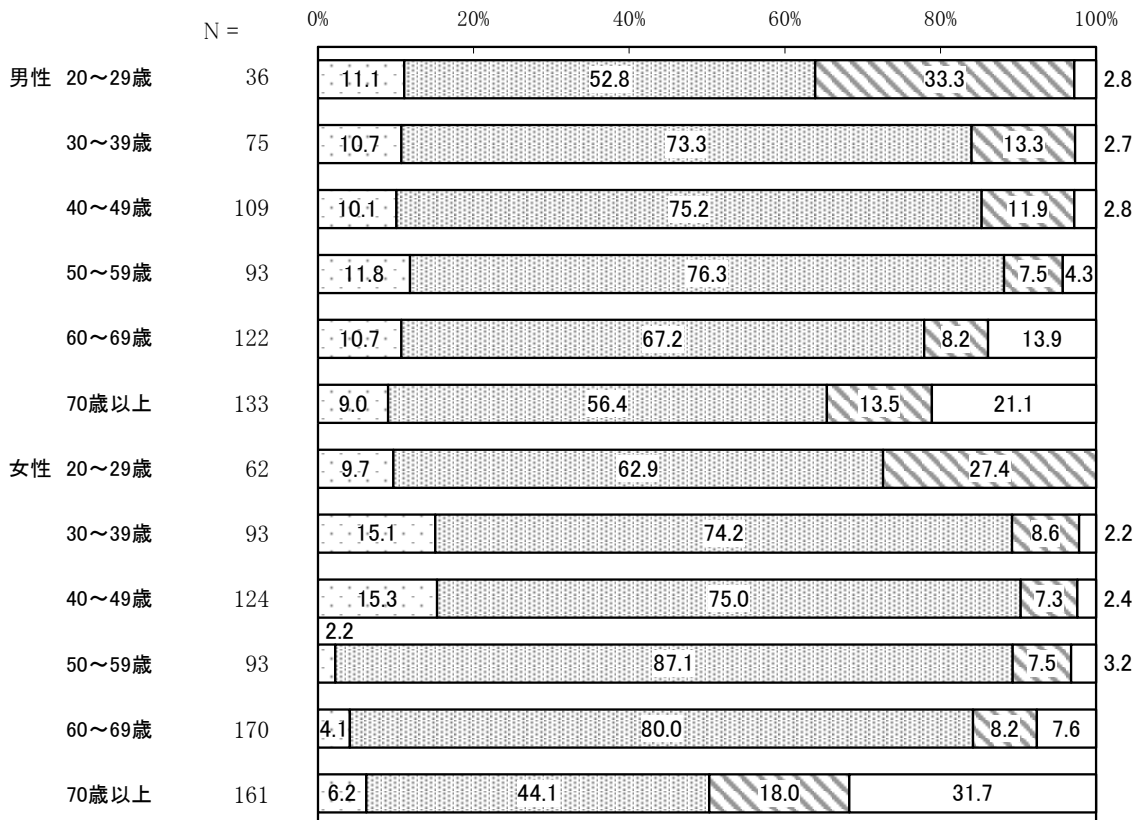
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

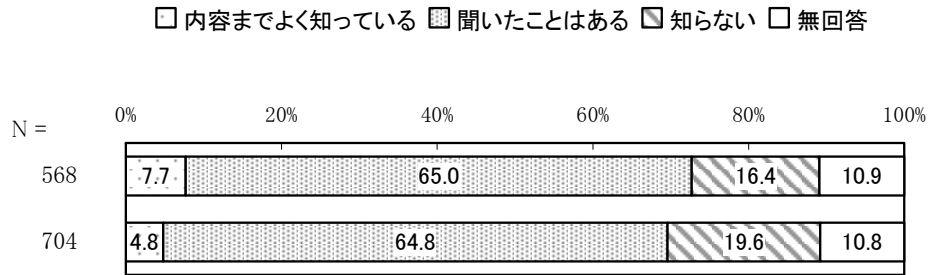
性・年齢別でみると、女性の 30～49 歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の 30～59 歳、女性の 30～69 歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の 20～29 歳、女性の 20～29 歳、70 歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



⑥ DV防止法

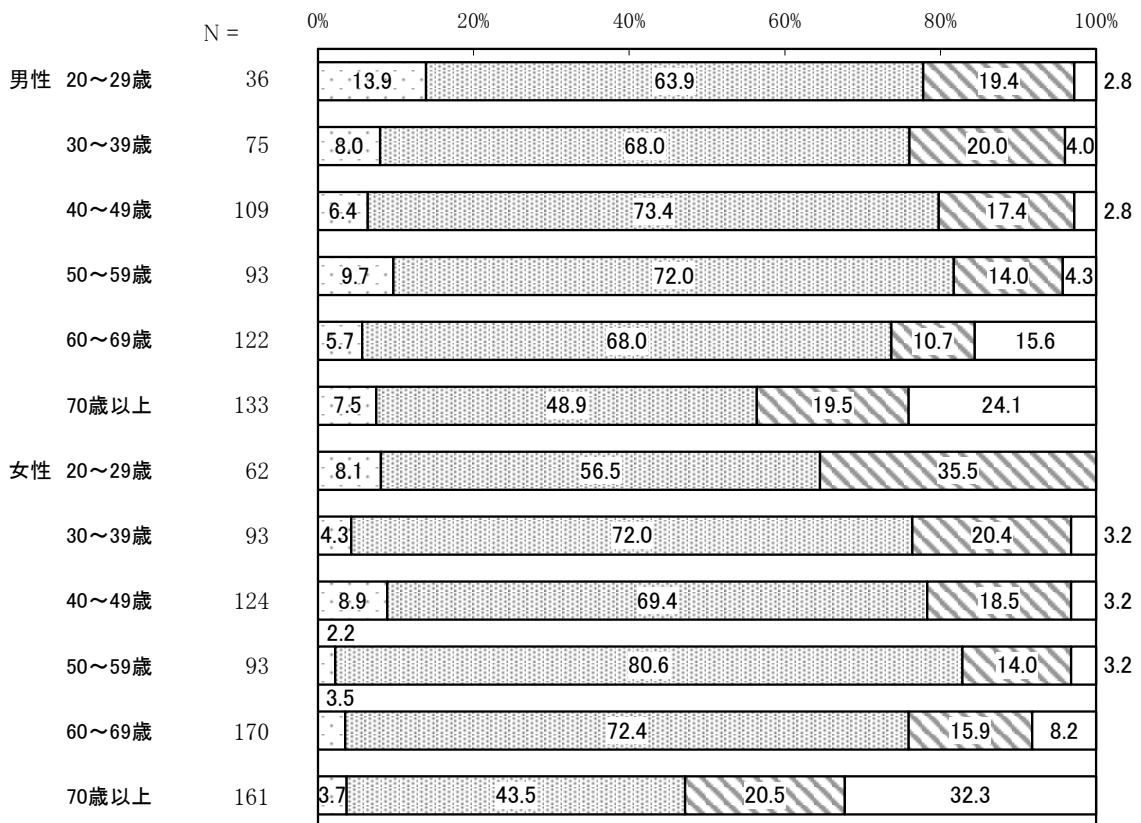
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の30～39歳、50～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。

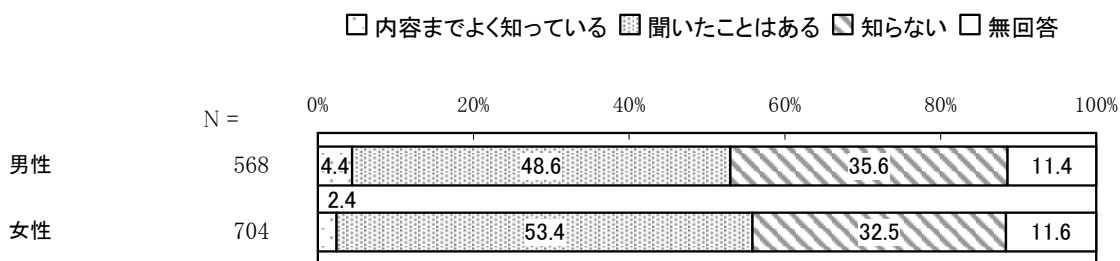




⑦ 性同一性障害特例法

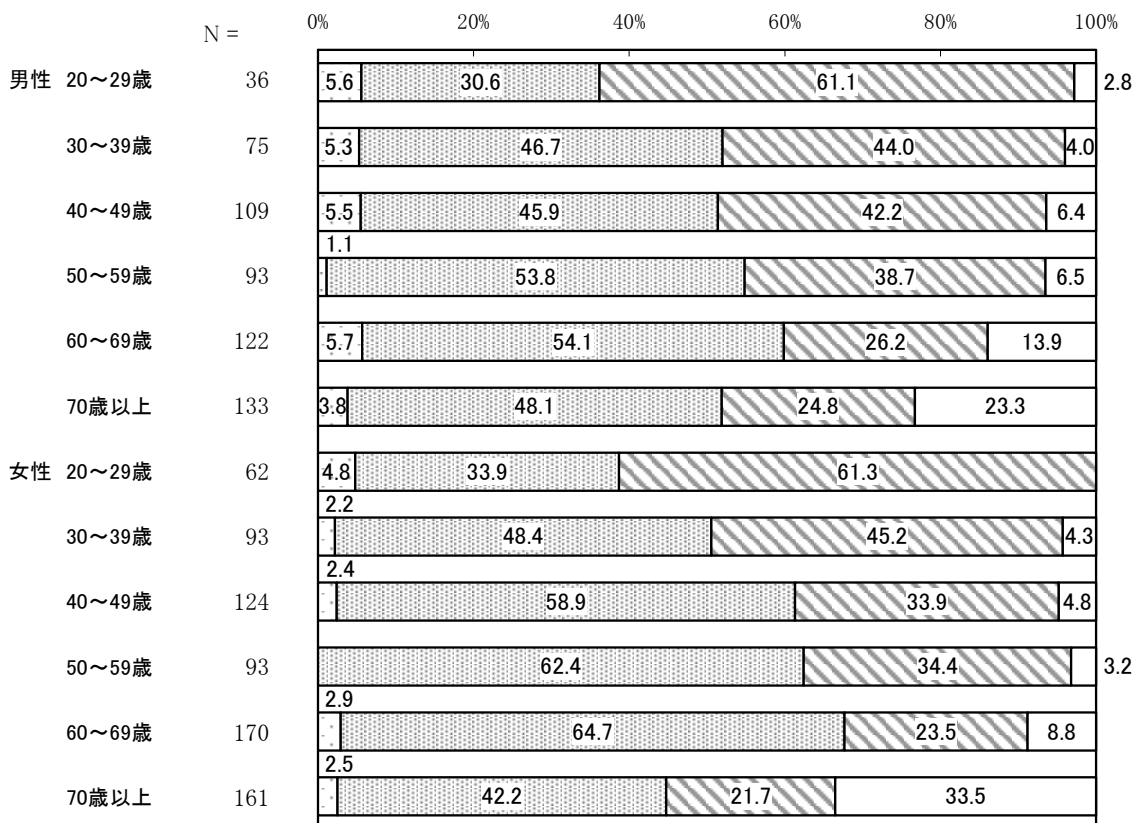
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

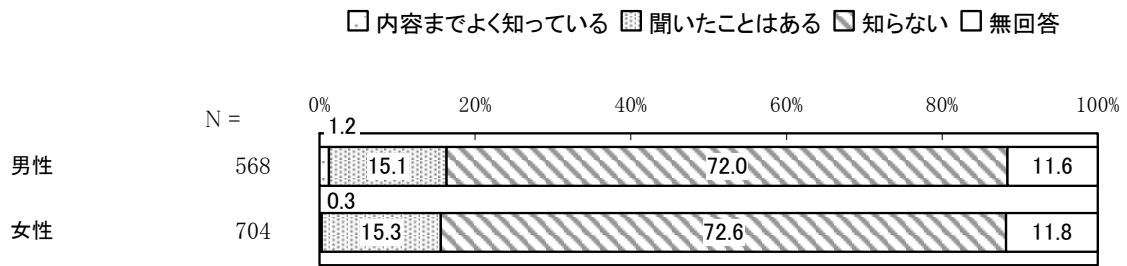
性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の20～49歳、女性の20～39歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑧ あま市男女共同参画プラン

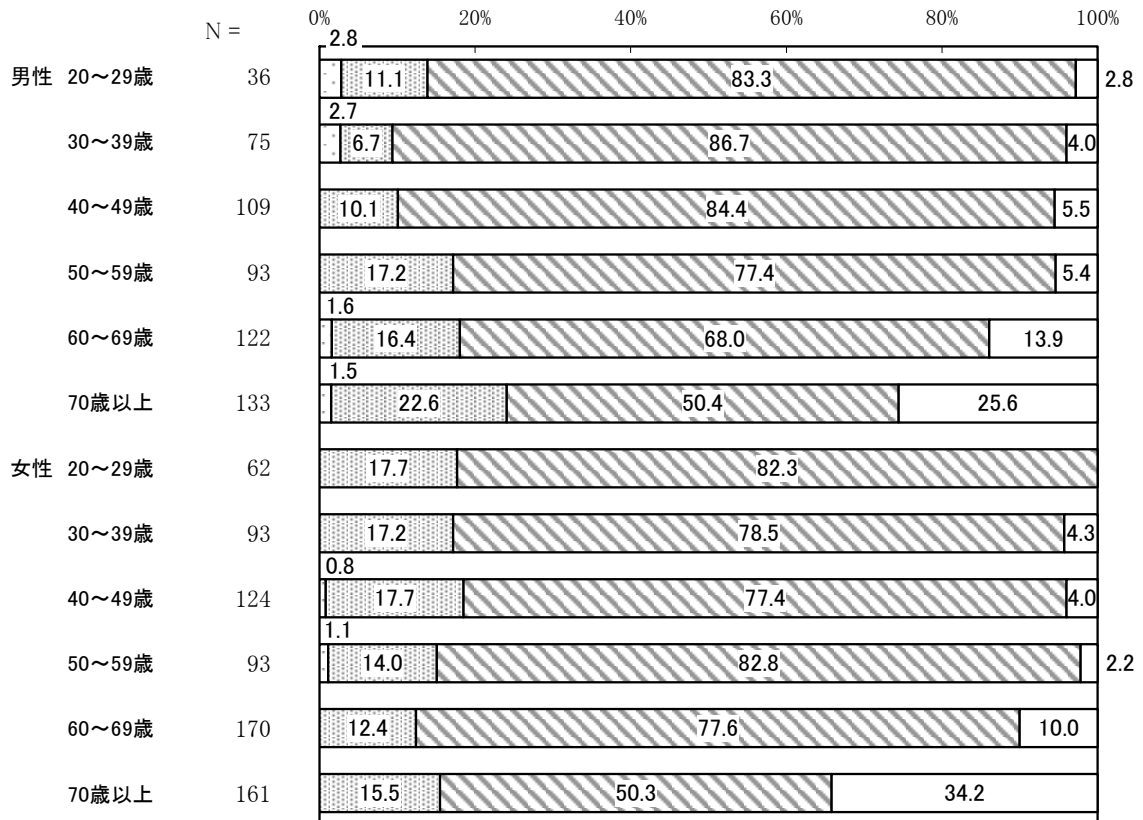
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

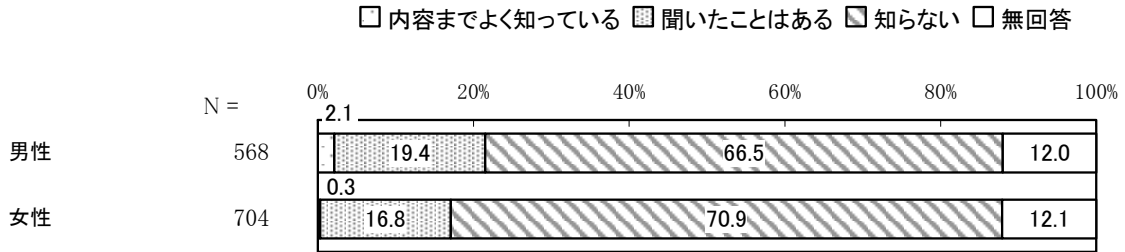
性・年齢別でみると、男性の70歳以上で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の20～69歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑨ 女性活躍推進法

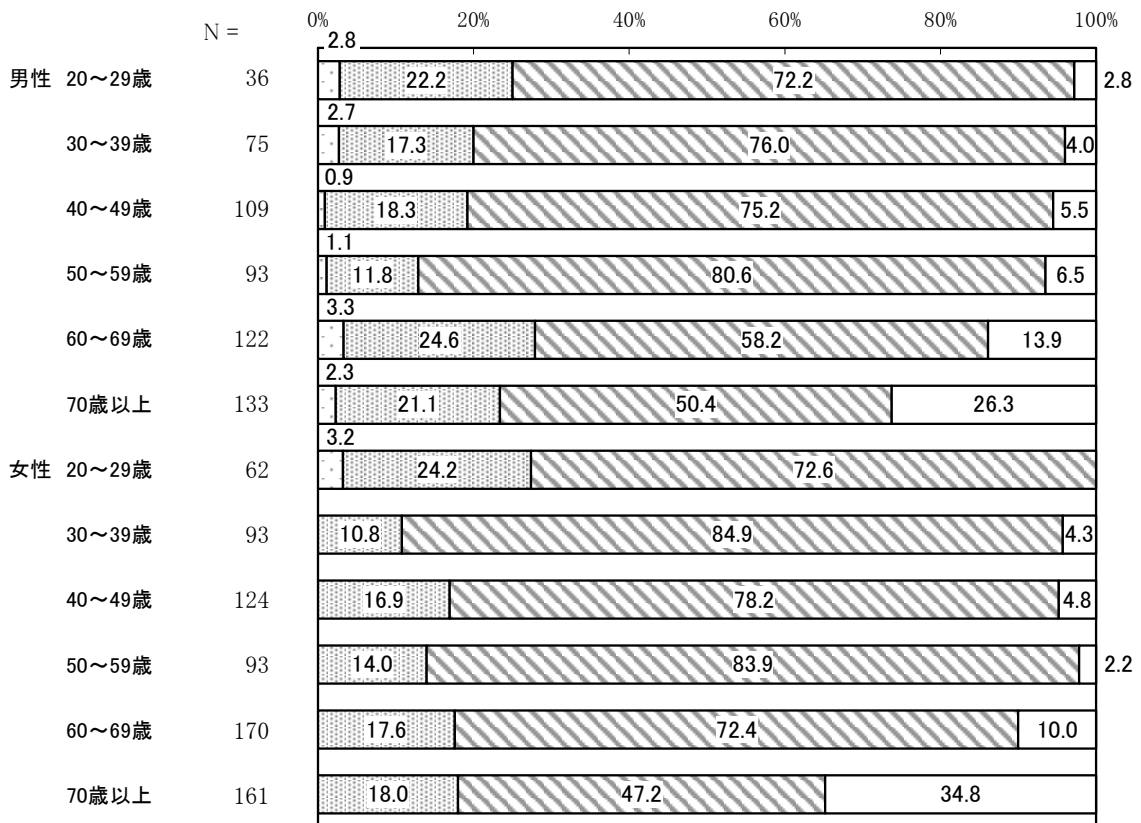
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



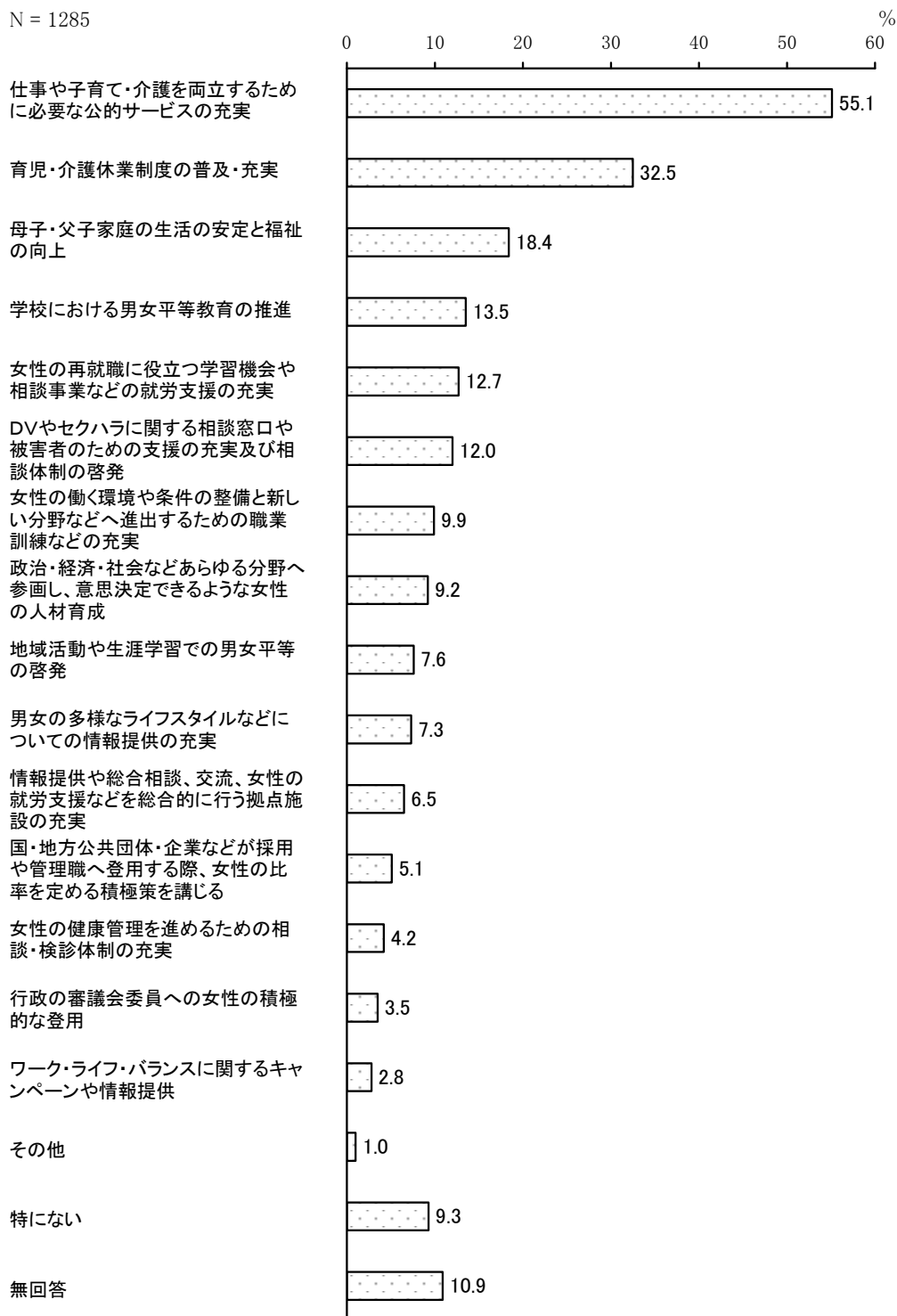
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の60～69歳、女性の20～29歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の30～59歳で「知らない」の割合が高くなっています。



問 29. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が 32.5%、「母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上」の割合が 18.4%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実」「女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	育児・介護休業制度の普及・充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発	母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上	地域活動や生涯学習での男女平等の啓発	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実	や情報提供	進出するための職業訓練などの充実	ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーン	国・地方公共団体・企業などが採用や管理職へ登用する際、女性の比率を定める積極策を講じる	政治・経済・社会などあらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成	行政の審議会委員への女性の積極的な登用	学校における男女平等教育の推進	女性の健康管理を進めるための相談・検診体制の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報を総合的に行う拠点施設の充実	情報提供や総合相談、交流、女性の就労支援などを総論的に行う拠点施設の充実	その他	特になし	無回答
男性	568	53.5	30.5	14.8	19.2	9.2	9.5	4.2	6.5	5.6	9.5	3.7	16.0	2.8	8.1	7.0	1.6	8.5	10.9		
女性	704	56.8	34.4	9.8	17.8	6.5	15.2	1.7	12.6	4.8	9.1	3.4	11.6	5.3	6.5	6.3	0.6	9.8	10.4		

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～29歳、50～59歳で「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「地域活動や生涯学習での男女平等の啓発」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実」の割合が高くなっています。女性の40～49歳、60～69歳で「女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「学校における男女平等教育の推進」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	育児・介護休業制度の普及・充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発	母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上	地域活動や生涯学習での男女平等の啓発	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実	や情報提供	ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーン	女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実	国・地方公共団体・企業などが採用や管理職へ登用する際、女性の比率を定める積極策を講じる	政治・経済・社会などあらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成	行政の審議会委員への女性の積極的な登用	学校における男女平等教育の推進	女性の健康管理を進めるための相談・検診体制の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実	情報提供や総合相談、交流、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の充実	その他	特になし	無回答
男性 20～29歳	36	55.6	36.1	19.4	25.0	2.8	5.6	8.3	5.6	5.6	16.7	2.8	13.9	5.6	8.3	—	—	11.1	11.1	
30～39歳	75	49.3	30.7	16.0	26.7	2.7	9.3	4.0	10.7	8.0	9.3	5.3	13.3	4.0	10.7	4.0	2.7	6.7	4.0	
40～49歳	109	56.9	37.6	15.6	20.2	8.3	11.0	3.7	10.1	3.7	5.5	0.9	22.9	—	6.4	1.8	4.6	7.3	5.5	
50～59歳	93	53.8	26.9	15.1	16.1	9.7	8.6	6.5	3.2	5.4	9.7	3.2	17.2	2.2	9.7	9.7	2.2	10.8	9.7	
60～69歳	122	52.5	27.9	12.3	23.0	8.2	9.0	4.1	4.9	6.6	9.0	3.3	18.9	2.5	9.0	10.7	—	9.8	11.5	
70歳以上	133	53.4	27.8	14.3	11.3	15.8	10.5	2.3	5.3	5.3	11.3	6.0	9.0	4.5	6.0	9.8	—	6.8	19.5	
女性 20～29歳	62	71.0	53.2	12.9	16.1	4.8	19.4	1.6	14.5	4.8	6.5	—	11.3	4.8	9.7	6.5	—	8.1	1.6	
30～39歳	93	57.0	39.8	14.0	11.8	—	18.3	4.3	12.9	5.4	3.2	4.3	4.3	6.5	7.5	5.4	—	11.8	8.6	
40～49歳	124	58.1	37.9	12.1	13.7	7.3	19.4	2.4	15.3	5.6	11.3	3.2	13.7	4.0	6.5	10.5	0.8	7.3	5.6	
50～59歳	93	65.6	29.0	8.6	11.8	6.5	17.2	4.3	7.5	4.3	11.8	2.2	15.1	5.4	14.0	6.5	—	9.7	4.3	
60～69歳	170	58.2	37.6	10.6	23.5	7.1	14.1	—	16.5	6.5	11.8	2.4	17.1	2.4	5.3	3.5	0.6	7.1	10.0	
70歳以上	161	44.1	21.1	4.3	22.4	9.9	8.7	—	8.7	2.5	7.5	6.2	6.8	8.7	1.9	6.2	1.2	13.7	22.4	

あま市人権に関する市民意識調査  
調査結果報告書

平成28年3月

発行：あま市 企画財政部 人権推進課  
〒490-1292

愛知県 あま市木田戌亥 18 番地 1

TEL 052-444-0398

FAX 052-441-8330

URL <http://www.city.ama.aichi.jp/>